女子美術專門學校裁縫研究會編纂

現代和服裁縫書

第五巻

東京　倉持出版部藏版

序

裁縫を單なる技術として見ることは今は許されない。

女子必須の實科たると同時にあらゆる婦德を涵養する一の科學である。されば智能の修養が足りなくては,いくら手の修練を積んでも十分の効果を收めることはできない。此の書は我が校に於ける裁縫研究部で多年攻究の結果として生れたもので,高等女學校以上の修養あるものが一層深く斯道に造詣せんとするには,斯くあらねばならぬと信ずる所を實地について詳述したものである。文檢に應ぜんとするものも,專門學校に學ぶものも,將た高女を卒りて家庭にあるものも,苟も教育ある女子にして向上進步の志あるものにとりては,此の書は實

に渡頭の舟筏とも見るべく,迷路の指鍼とも見るべきものであらう。冀くは才華餘りありと自信せらるゝ幾多の教育ある女子が,此の書に據りて實力を高め,以て華あり實ある完全の婦女たる修養を積まれんことを,書成るを聞き喜んで序す。

大正十三年九月

女子美術專門學校主監

濱　幸次郎

改訂の趣意

曩きに公にして已に三版を重ねた「メートル法による高等裁縫書」を改めて,「現代和服裁縫書」として再び世に問ふに當り,その改訂の要旨を玆に明かにしやうと思ふ。先づ著るしく眼に着くことは,前には竪書きであつたものを横書きに直したことであるが,その外材料の重複を省き,挿畫を正確にし,說明を平明にし,平常着の裁縫は簡易にし,晴着の裁縫は美を目標にし,全編に亘つて勉めて合理的能率的ならしめたことである。

「メートル法による高等裁縫書」が尺度法からメートル法への過渡期に於て,斯の道の實際家に愛重せられて,相當に効果を擧げ得たと信ぜられるが,メートル法の普及した今日であるから,

時勢に適應するやうに直して更にその愛重を新にせんことを希ふものである。

昭和九年四月

著者識す

現代和服裁縫書

第五巻目次

第一章　夜具蒲團類……1
第一節　敷蒲團……7
第一項　三布蒲團……9
第二項　二布半……32
第三項　鏡蒲團……35
第二節　掛蒲團……41
附第一夏蒲團……55
第二　炬燵蒲團……57
第三　カバー……58
第三節　夜着……60
第四節　丹前(温袍)……107
第五節　子供物夜具……111
附　寢衣……123
第六節　座蒲團……126
附　カバー……135
第七節　枕及び肩蒲團……137

第一項　枕 ……………………………………137
第二項　肩蒲團 ……………………………………140
第八節　蚊帳 ……………………………………141
第一項　釣蚊帳 ……………………………………153
第二項　幌蚊帳 ……………………………………153
第二章　油箪鏡掛 ……………………………………155
第一節　油箪 ……………………………………157
第一項　箪笥油箪 ……………………………………157
第二項　長持油箪 ……………………………………161
第二節　鏡掛 ……………………………………165
第一項　鏡掛 ……………………………………165
第二項　風呂敷 ……………………………………167
第三章　半物及小物 ……………………………………169
第一節　印半纒 ……………………………………171
第二節　腹掛 ……………………………………176
第三節　股引 ……………………………………189
第四節　脚胖 ……………………………………200
第五節　手甲 ……………………………………210
第六節　足袋 ……………………………………216
第七節　仕事着 ……………………………………227

第一項　輕袴(モンペ) ……………………………………227
第二項　事務服 ……………………………………232
第八節　前掛及紐類 ……………………………………236
第一項　前掛 ……………………………………236
第二項　紐類 ……………………………………244
第四章　衣類の調和 ……………………………………245
1　着用者との關係 ……………………………………247
2　着用の時と場合 ……………………………………250
3　衣類相互の調和 ……………………………………252
4　附屬品 ……………………………………258
5　流行に就て ……………………………………259
附夜具蒲團類 ……………………………………260

現代和服裁縫書第五卷目次終

第一章

夜具、蒲團類



夜具は普通敷蒲團二枚、掛蒲團一枚、夜着一枚を一揃としてゐるが地方によつては敷蒲團二枚掛蒲團二枚を一揃と云つてゐる。

地質

1. 表地

綿織………久留米縞、遠州縞、瓦斯縞、紡績、染絣、紺絣、型附、更紗、繻子、ナフトール染

リンネット、縮(夏季用)

絹織………銘仙、紬、富士絹、繭紬、八端、羽二重類、縮緬類、綸子、緞子

毛織………モスリン

麻織(夏季用)…… 平麻、縮麻類の型附、更紗等

レーヨン、交織類

2. 裏地

綿織………木綿裏地、金巾、瓦斯、新モス、ポプリン

リンネット(夏季用)

絹織………銘仙、秩父絹、繭紬、富士絹、平絹、羽二重

毛織………モスリン

麻織(夏季用)…… 平麻、絹麻類の無地もの

レーヨン交織

3. 掛衿

ビロード(唐天、絹天)モスリン、綿ネル、タオル、天竺、表と共布

綿に就きて

綿には白綿、赤綿、打直ほし等があり各々上中下の別がある。

白綿はよく熟した棉花から取つたもので純にして、纎維長く彈力あり、從つて引きが強く空氣を含むことが多いから温い。

赤綿は半開の棉の實から採つたもので、白綿に比して稍々彈力も少く、從つて引きが弱く空氣を含むことも少い。

打直しは不純物を含むこと最も多い。纎維も打直す毎に短かくなり、彈力も少く從つて引きが弱く、空氣を含む事も少い。

一枚の目方及び幅、丈

目方………300g 附

幅…………85cm

丈…………170cm

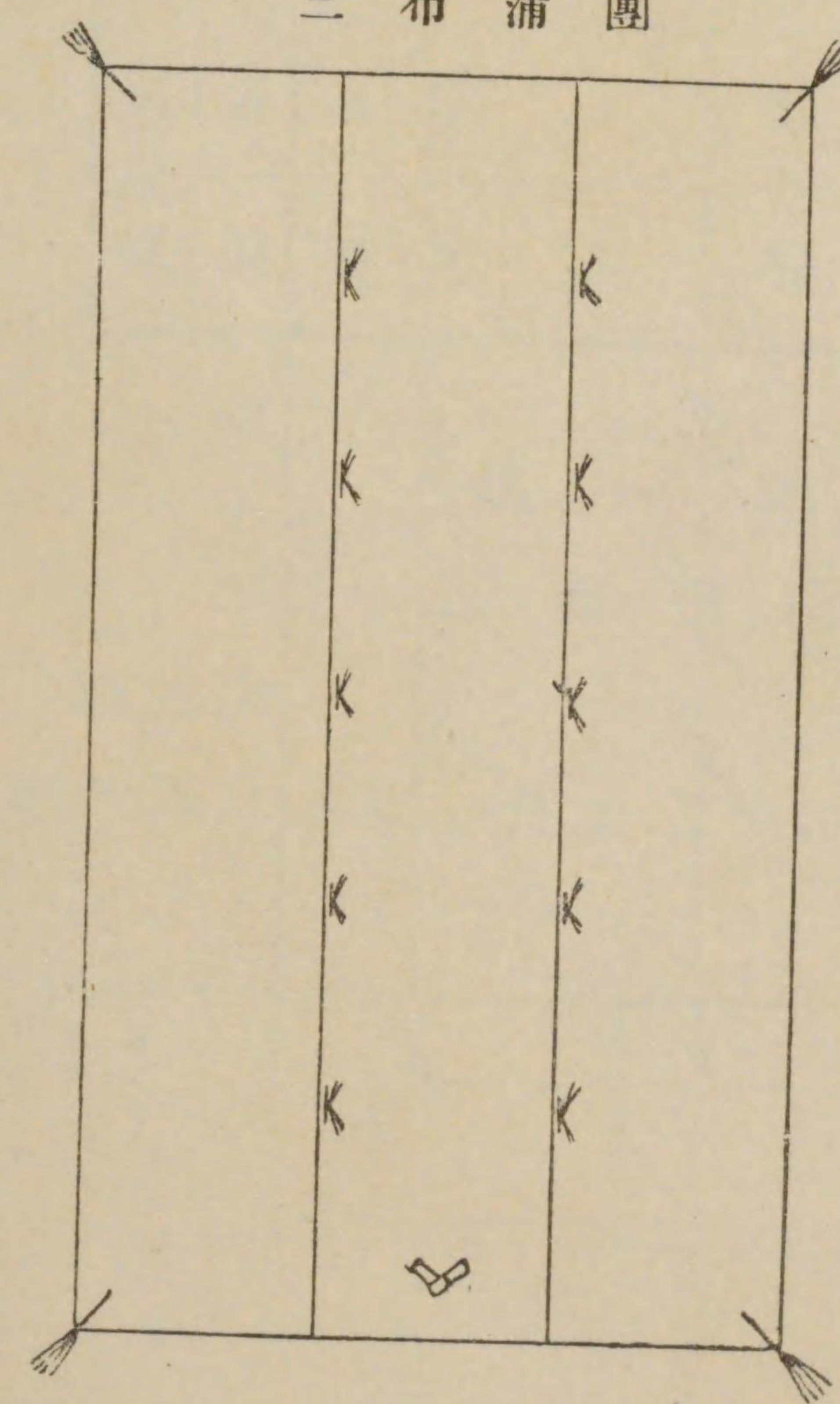
第一節

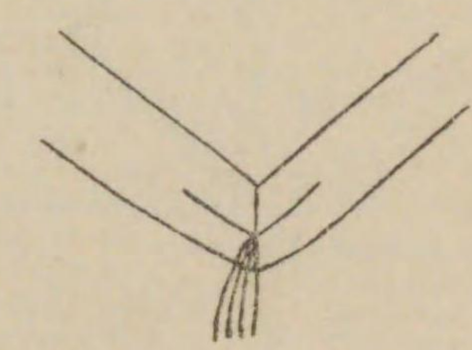
敷蒲團

(1) 種類

敷蒲團には表裏同じ布を用ひるものと、表裏異るものを用ひて周圍に裏を袘のやうに出すものとがある。後者を鏡蒲團又は額緣蒲團と云ふ。

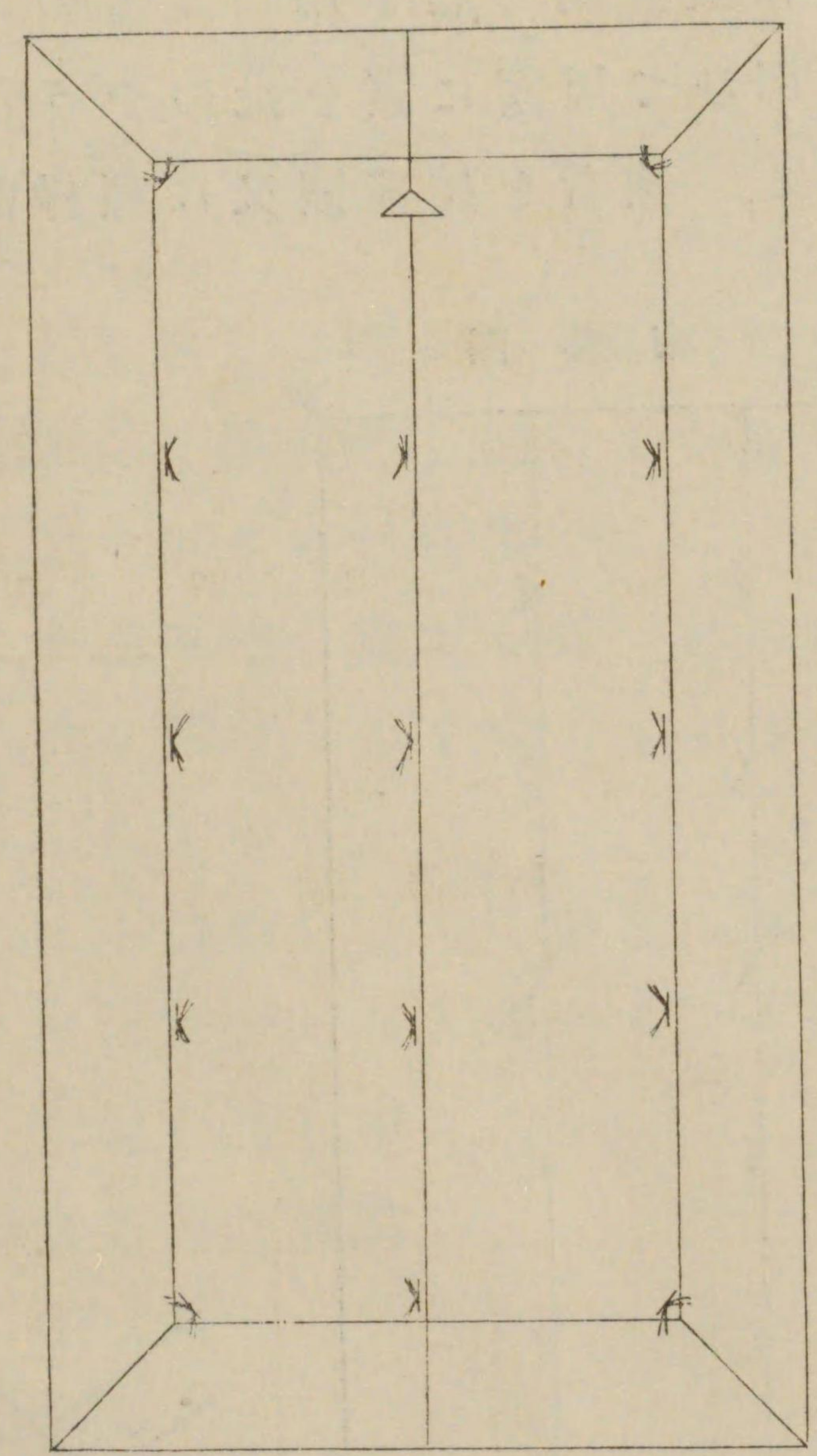
三布蒲團





（1） 仕立上り圖

鏡　蒲　團



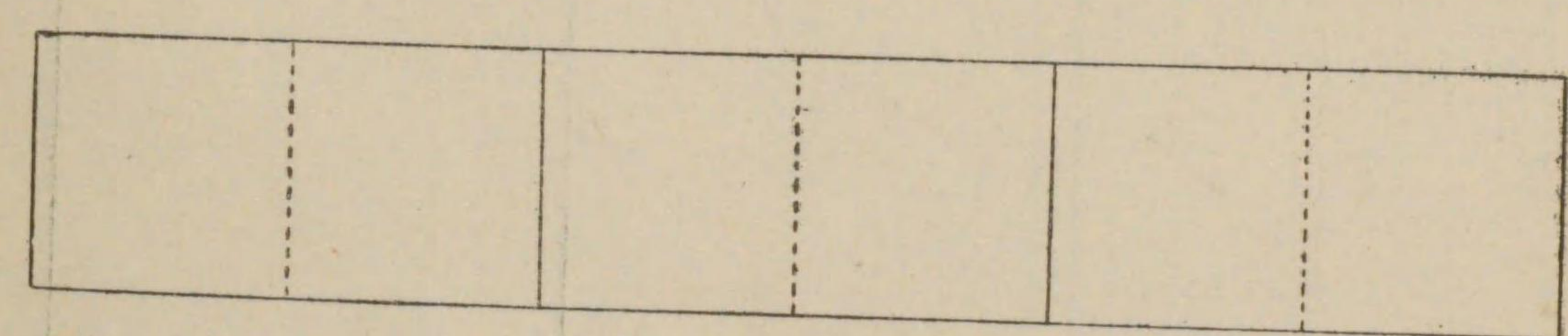
（2） 仕上げ寸法及び綿の目方

大サ		小	並
幅　（布數）		二　布　半	三　　布
丈		180cm	190cm
綿の目方		4kg－4.5kg（13枚）（15枚）	6kg－7kg（20枚）（23枚）
鏡蒲團	表布數	二　　布	二　　布
	裏布數	三　　布	四　　布

第　一　項
三　布　蒲　團

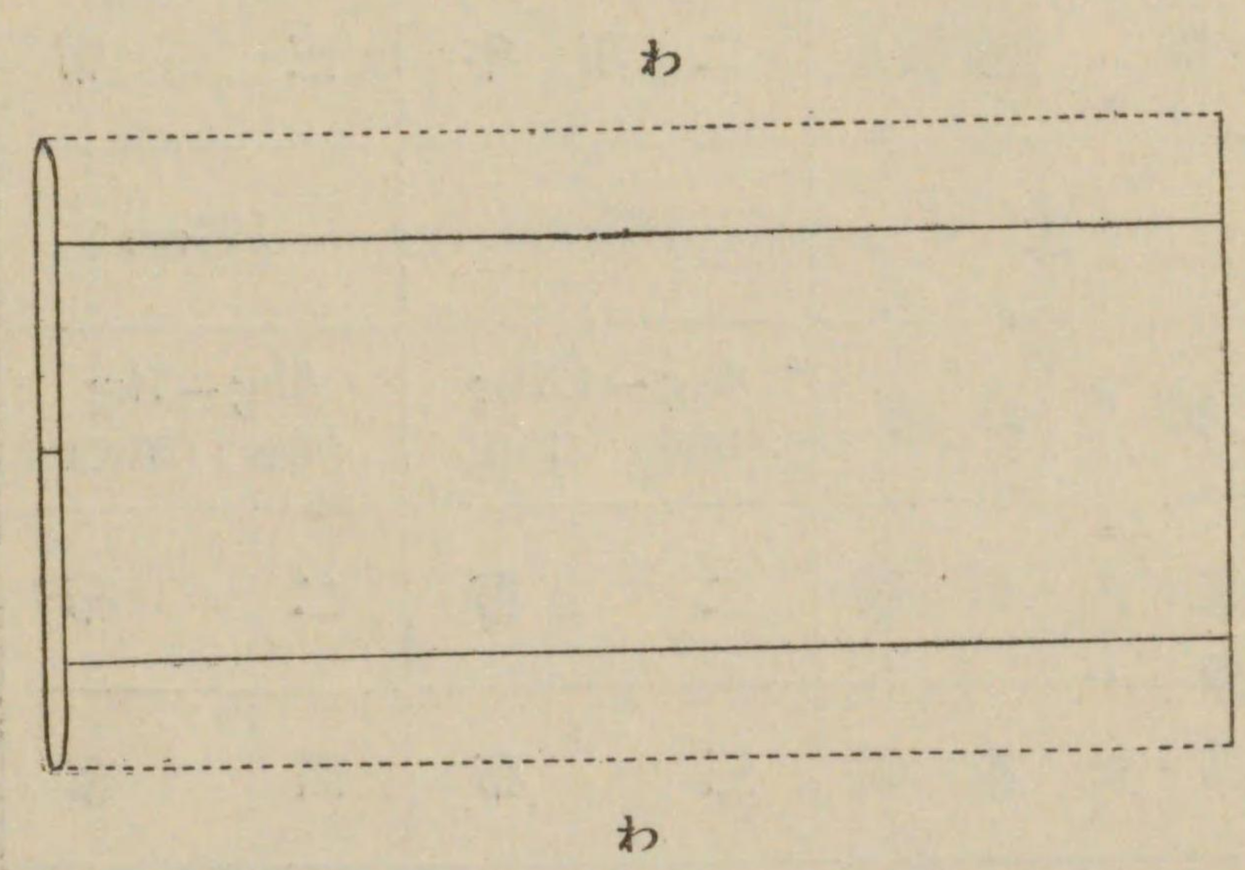
裁ち方

三布蒲團は並幅一反を三つに裁ち切る。



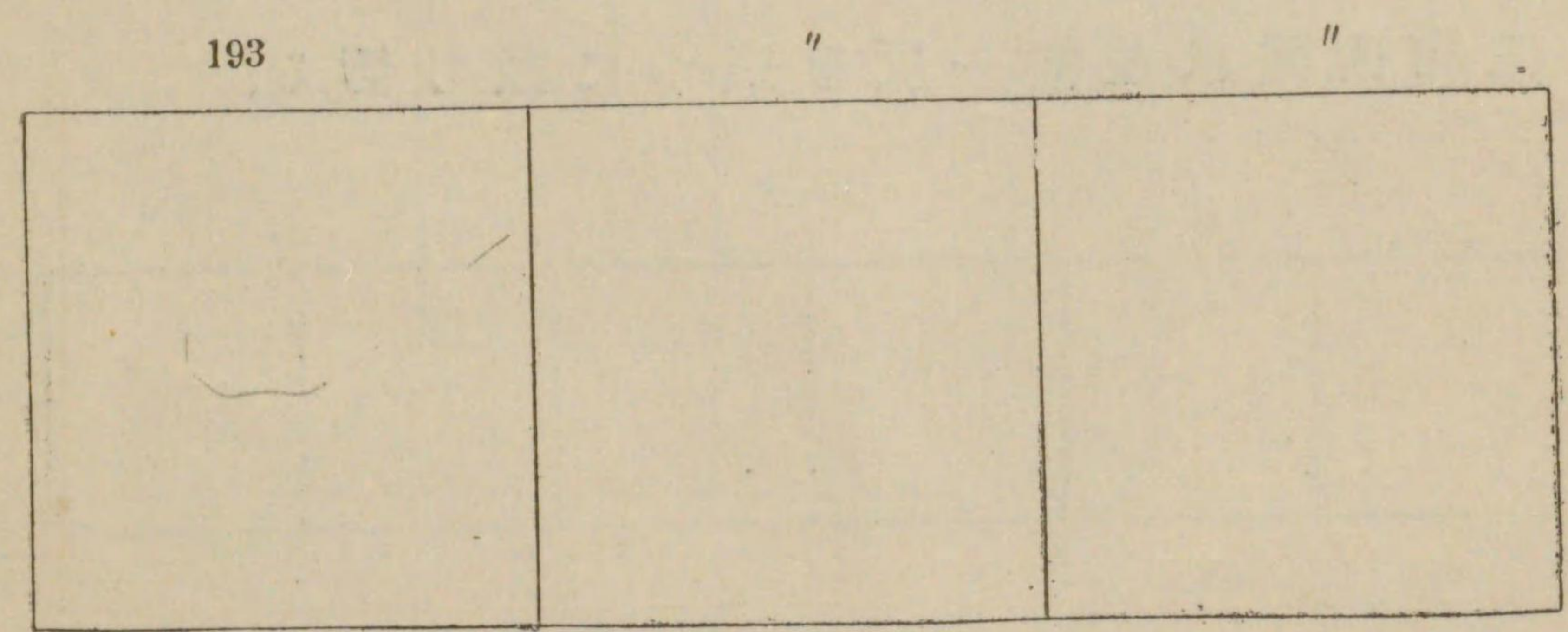
（イ） 72cm 幅

縫ひあはせ方



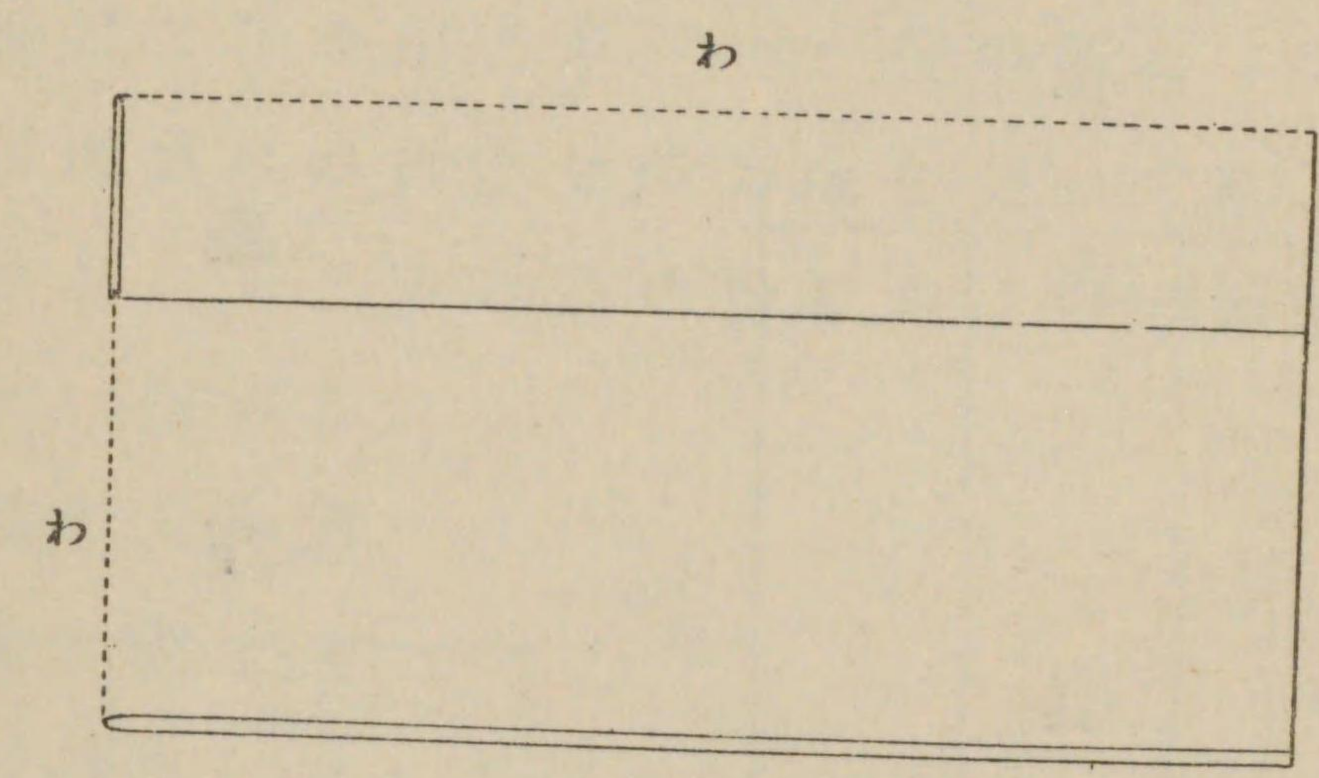
579cm

裁　ち　方



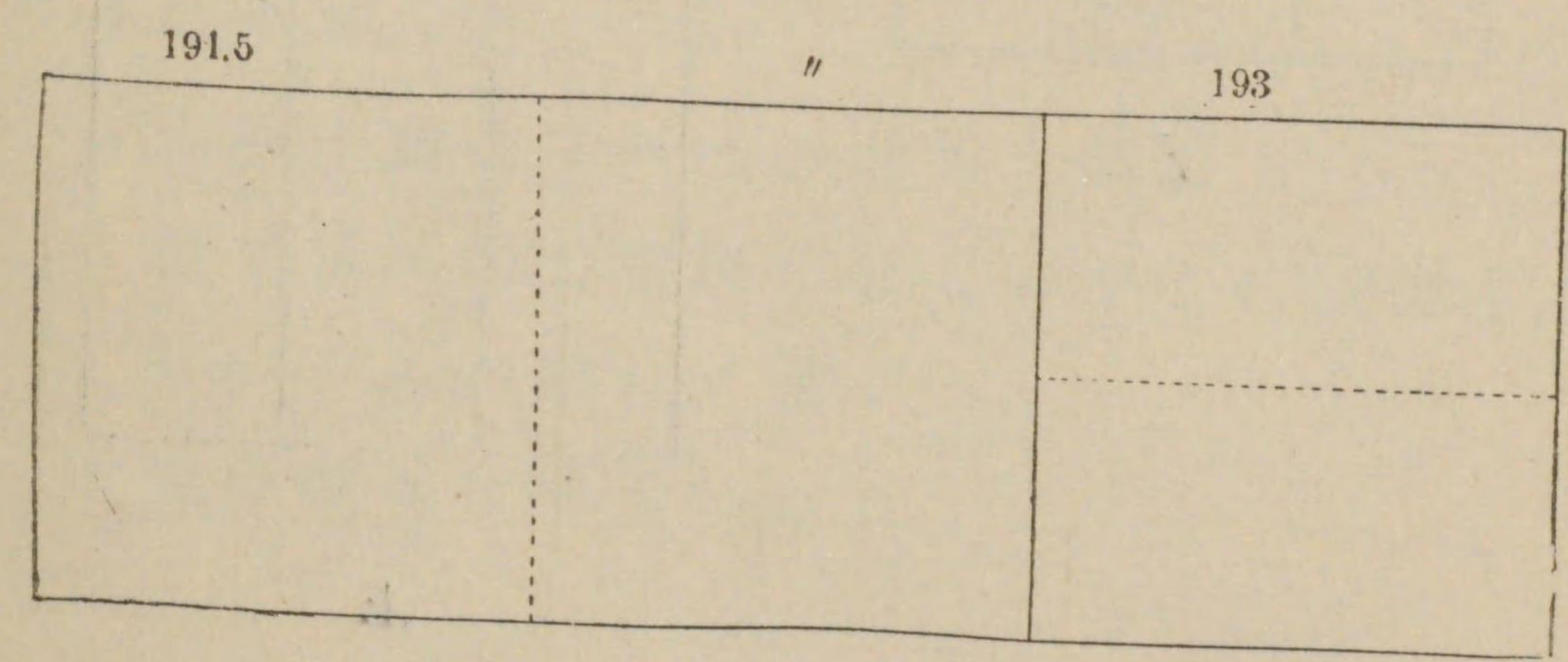
（ロ） 72cm 幅　576cm

縫ひあはせ方



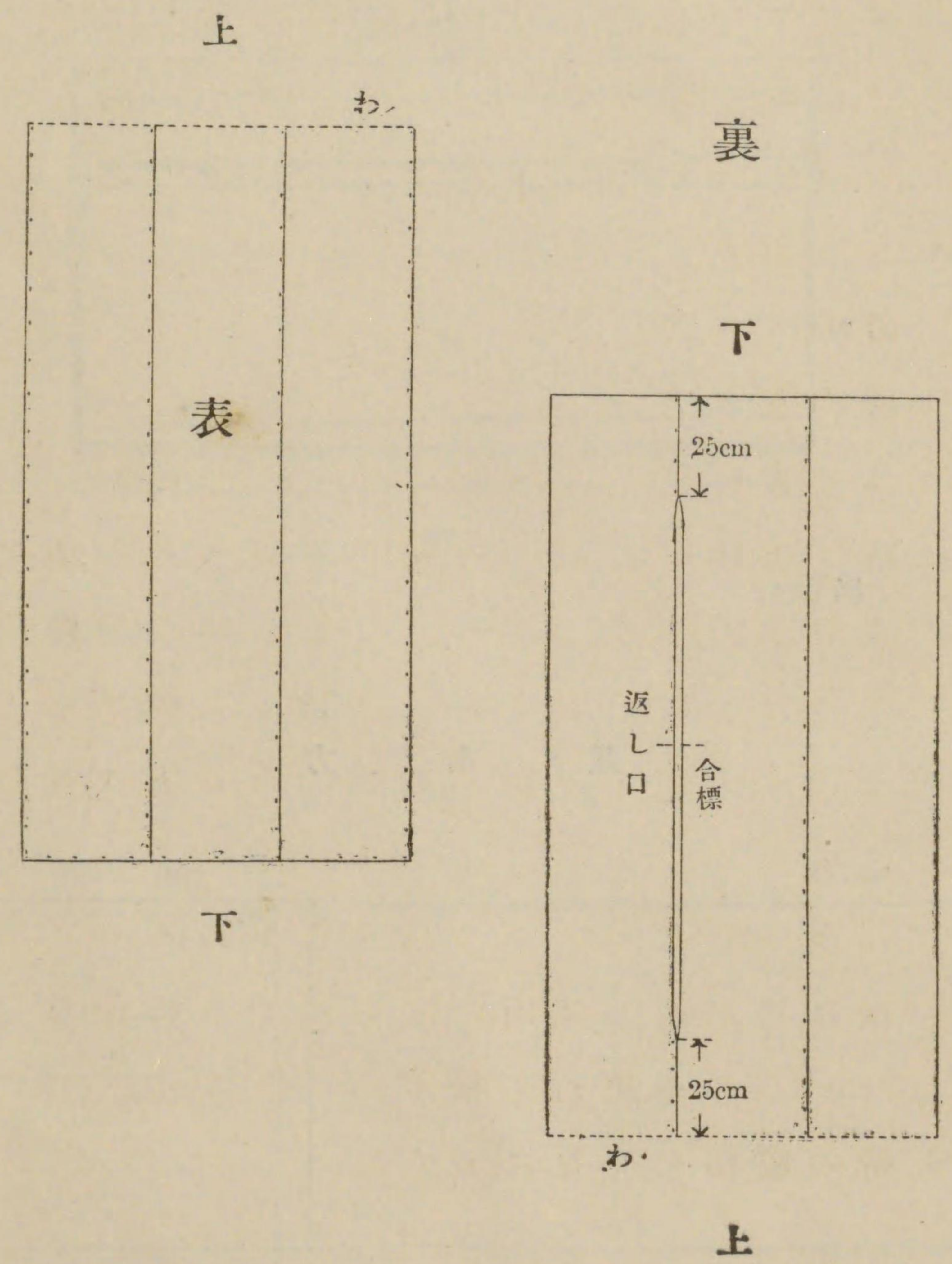
579cm

裁　ち　方



縫ひ方

下圖のやうに返し口をあけて各布を縫ひ合せる。



各布の接ぎ目の折きせは表から見て脊縫と同じ方向に折り、周圍の縫目は表の方に折つて抑へ縫ひをする。抑へ縫ひは縫ひ糸を用ひ 2cm 位の針目できせ山より 0.5cm 位の所にする。返し口は縫目の折きせの方向を考へて綿入の後くけ易い方にあけ糸の留め方は帶の返し口のやうに留める。

綿の入れ方

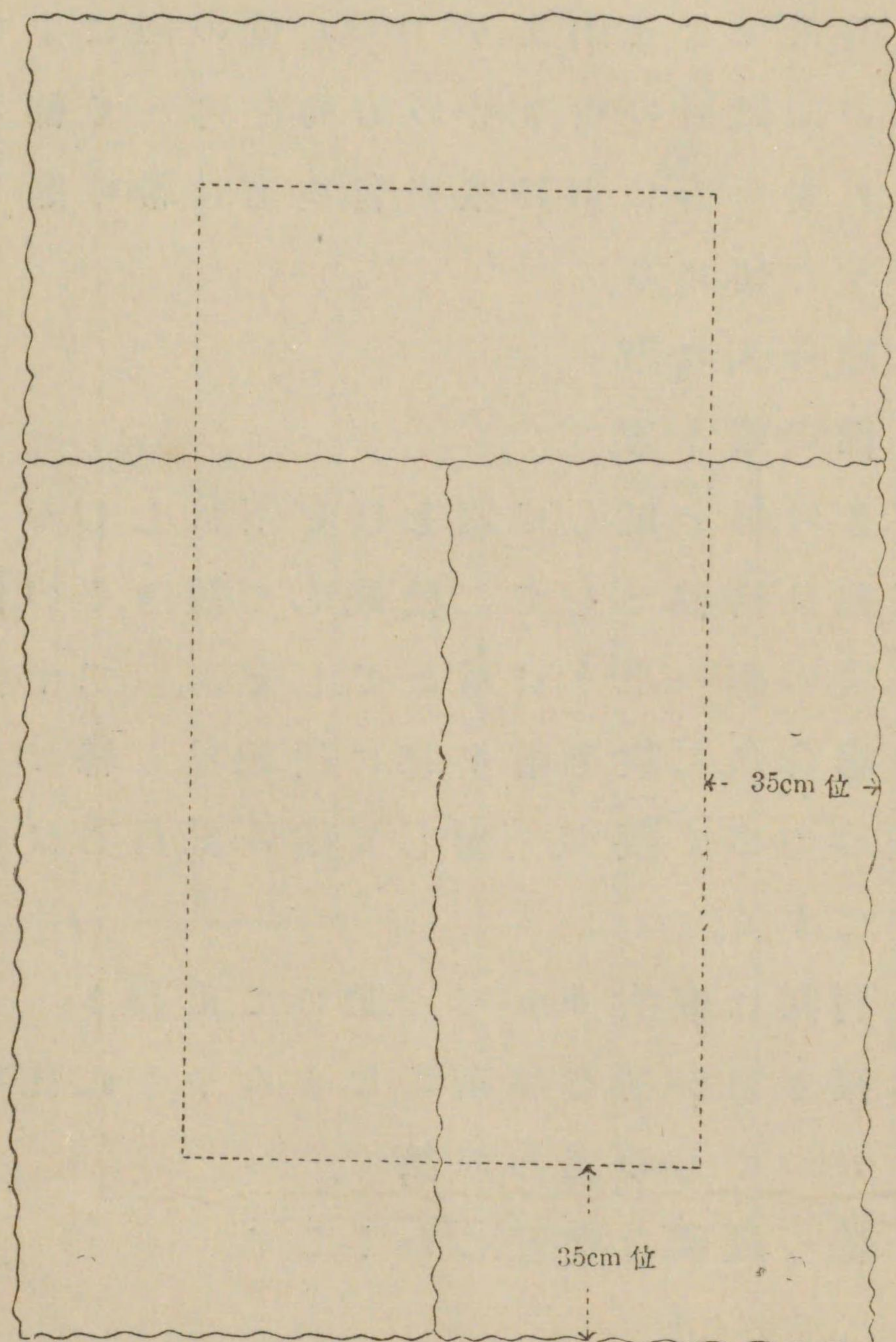
⑴綿の置き方

先づ布の裏を出して返し口を下にしておく。次に綿は掛綿として二枚殘して置き、その他を全部次の圖のやうに重ねてしまふ。二十枚以上の場合は二枚を增す每に掛綿足し綿として一枚づつ多く殘す。而して綿の重ね方は次のやうにする。

1. 周圍は漸次 5cm づつ詰めて重ねる。
2. 接ぎ目が同じ場所にならぬやうに注意し、4cm くらゐ重ねて接ぐ。
3. 綿の縱橫を交互におくこと。

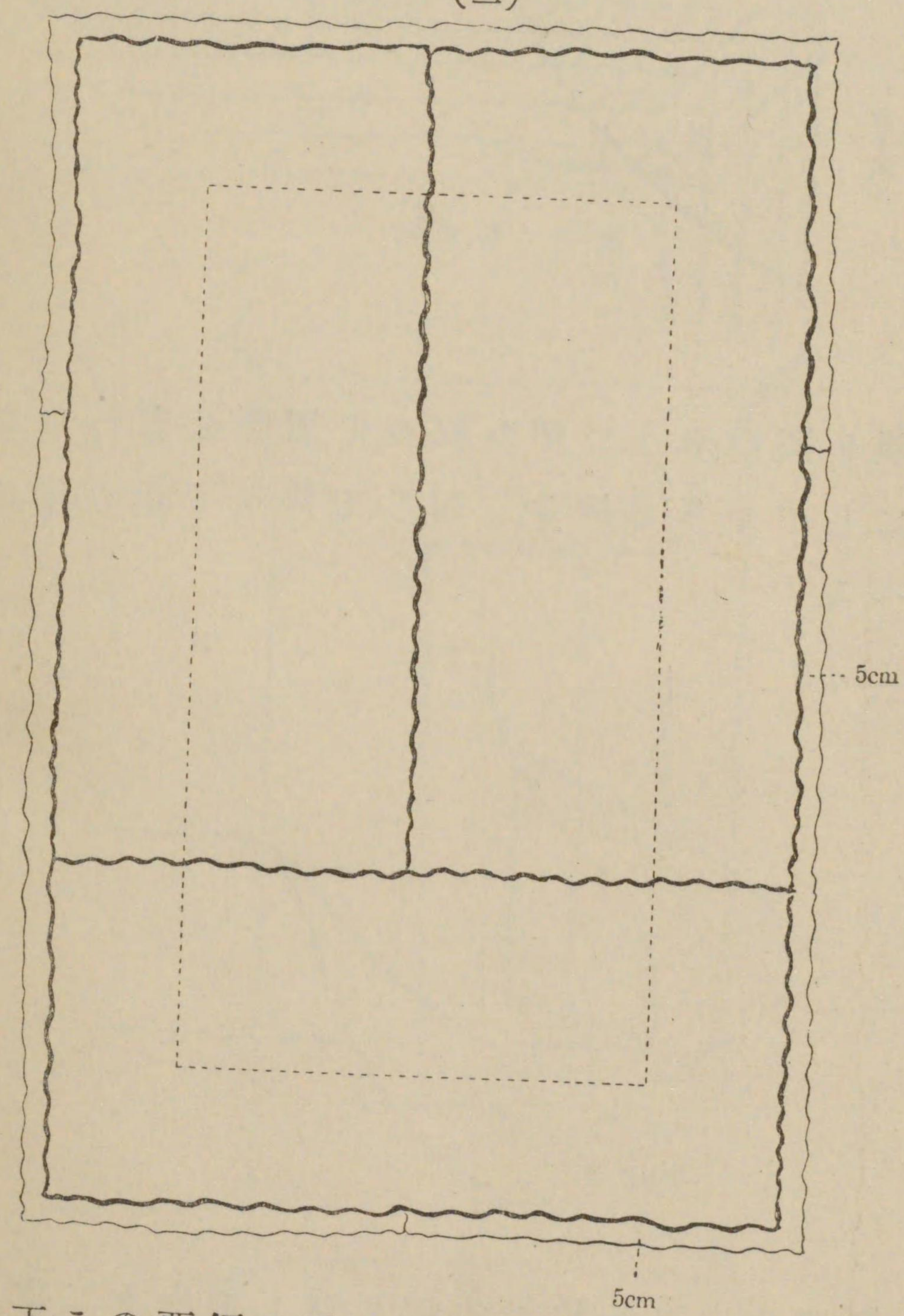
一枚目の綿のおき方

(一)



二枚目の綿のおき方

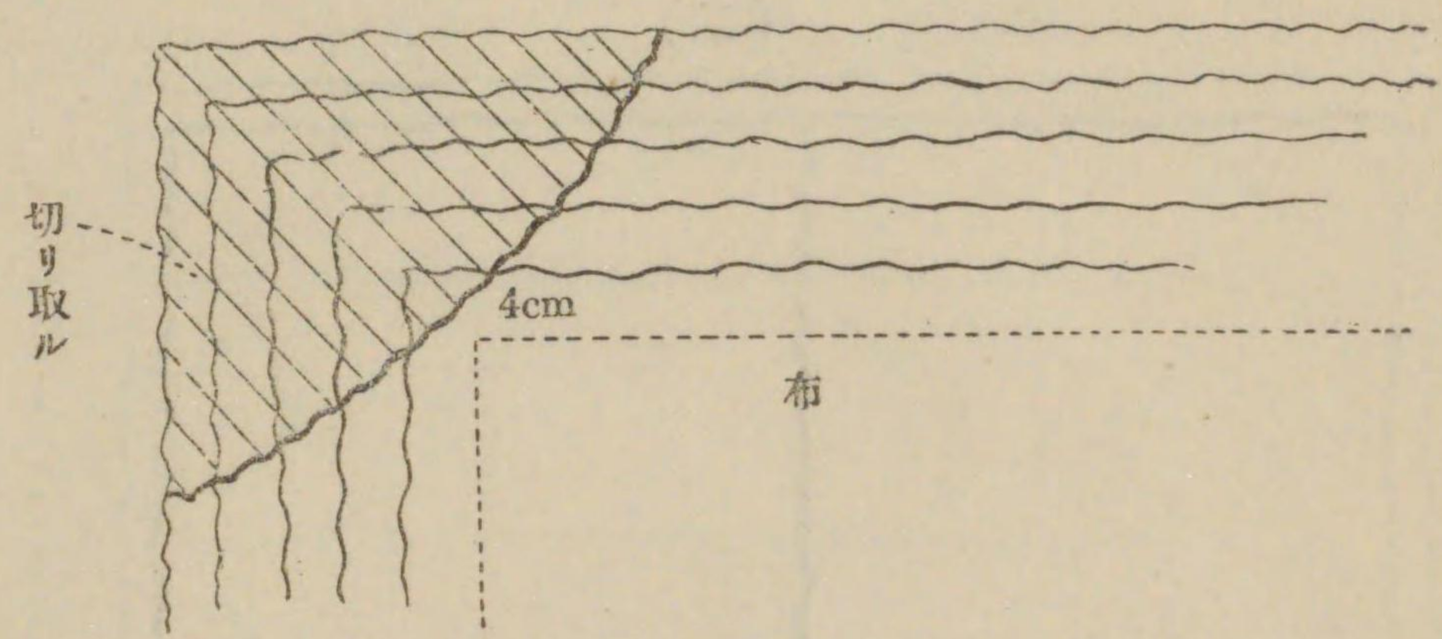
(二)



以下この要領で重ねてゆく。

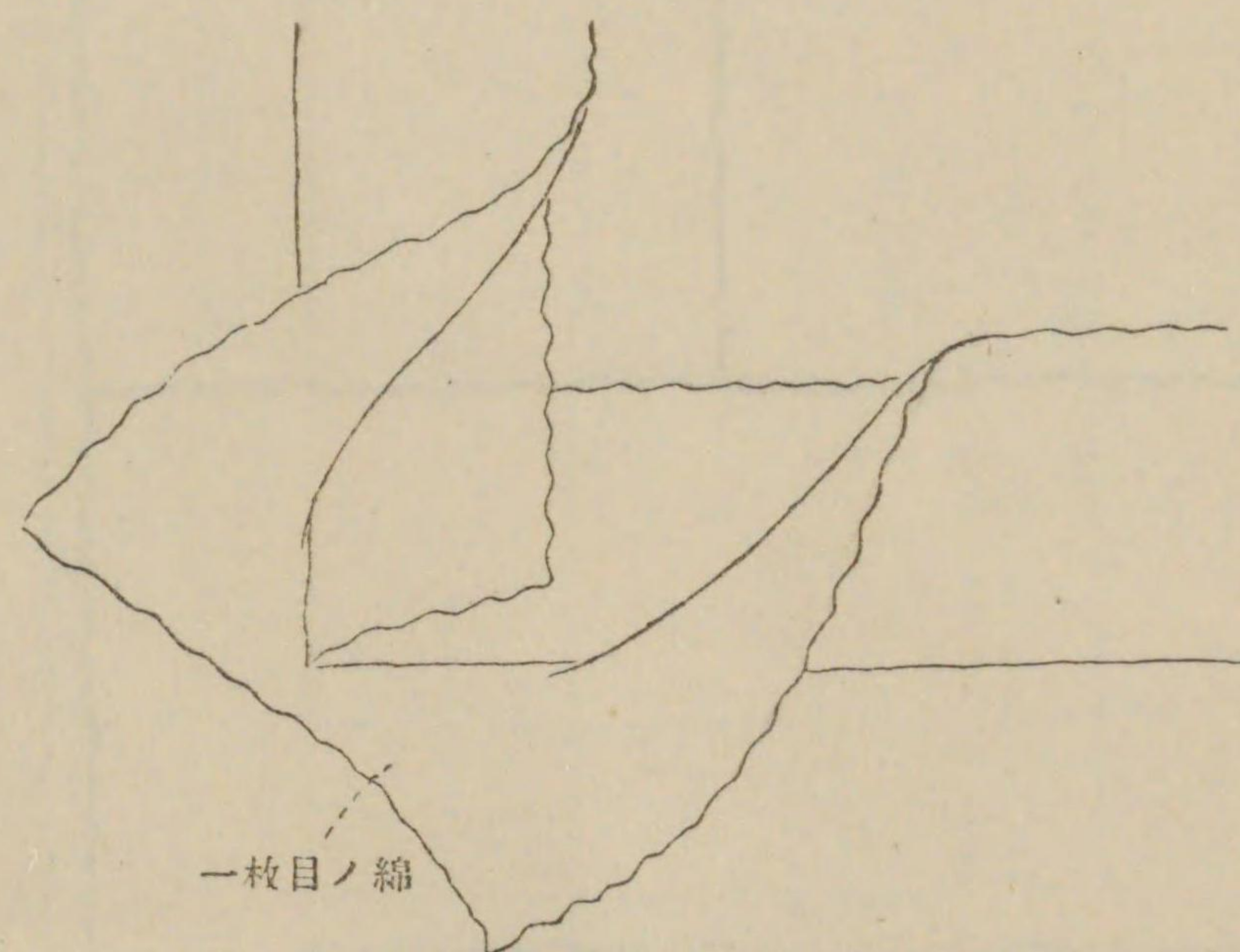
周圍及び角の折り方

(一)



四隅を圖のやうに切り取つて周圍を布いつぱいに、しつかりこ折る。而して角は下圖の樣に揃へる。

(二)

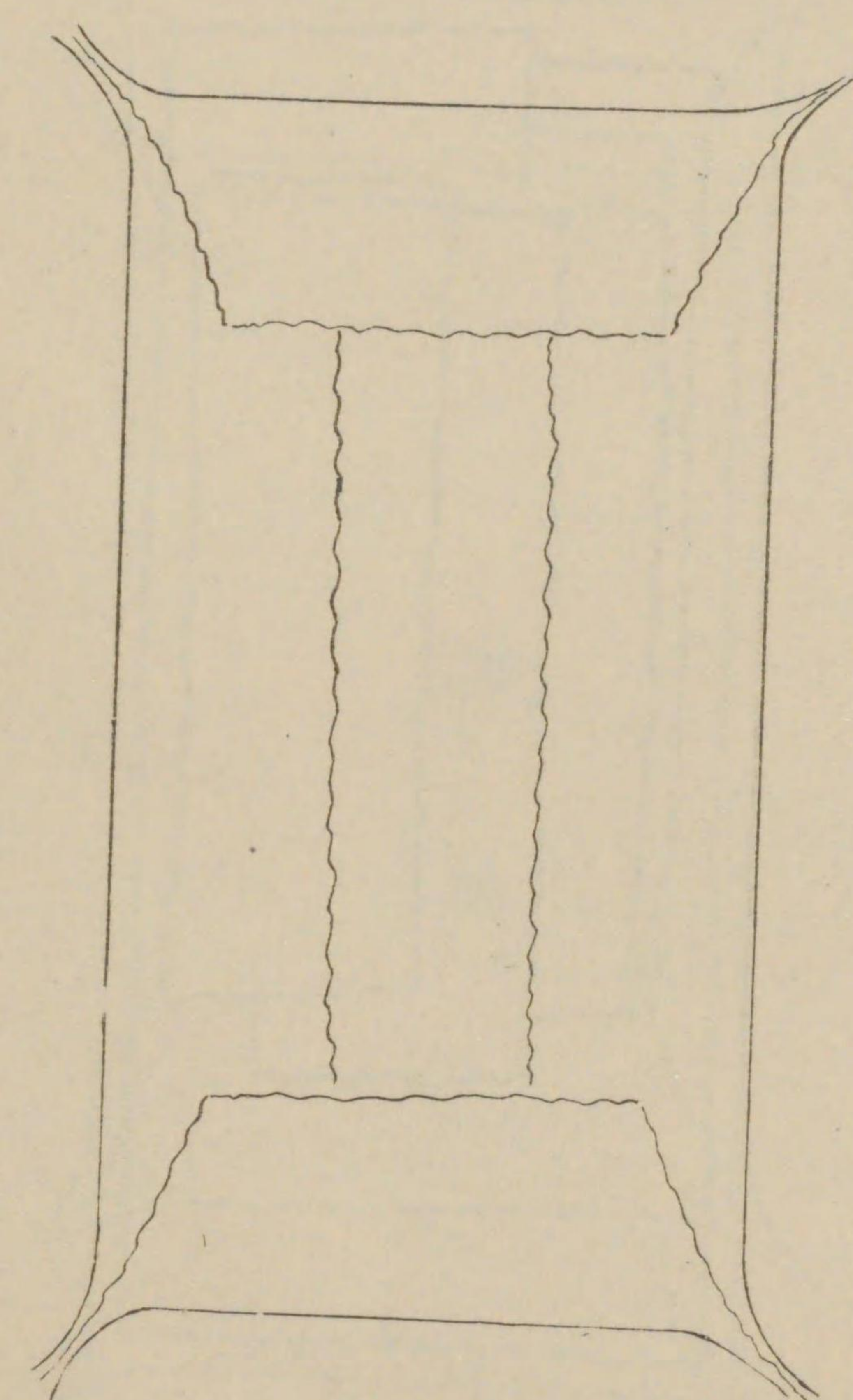


上圖のやうに一枚目の綿を殘して中を二度に

角を互違に折り、最後に一枚目の綿で同樣に三圖のやうに包む。

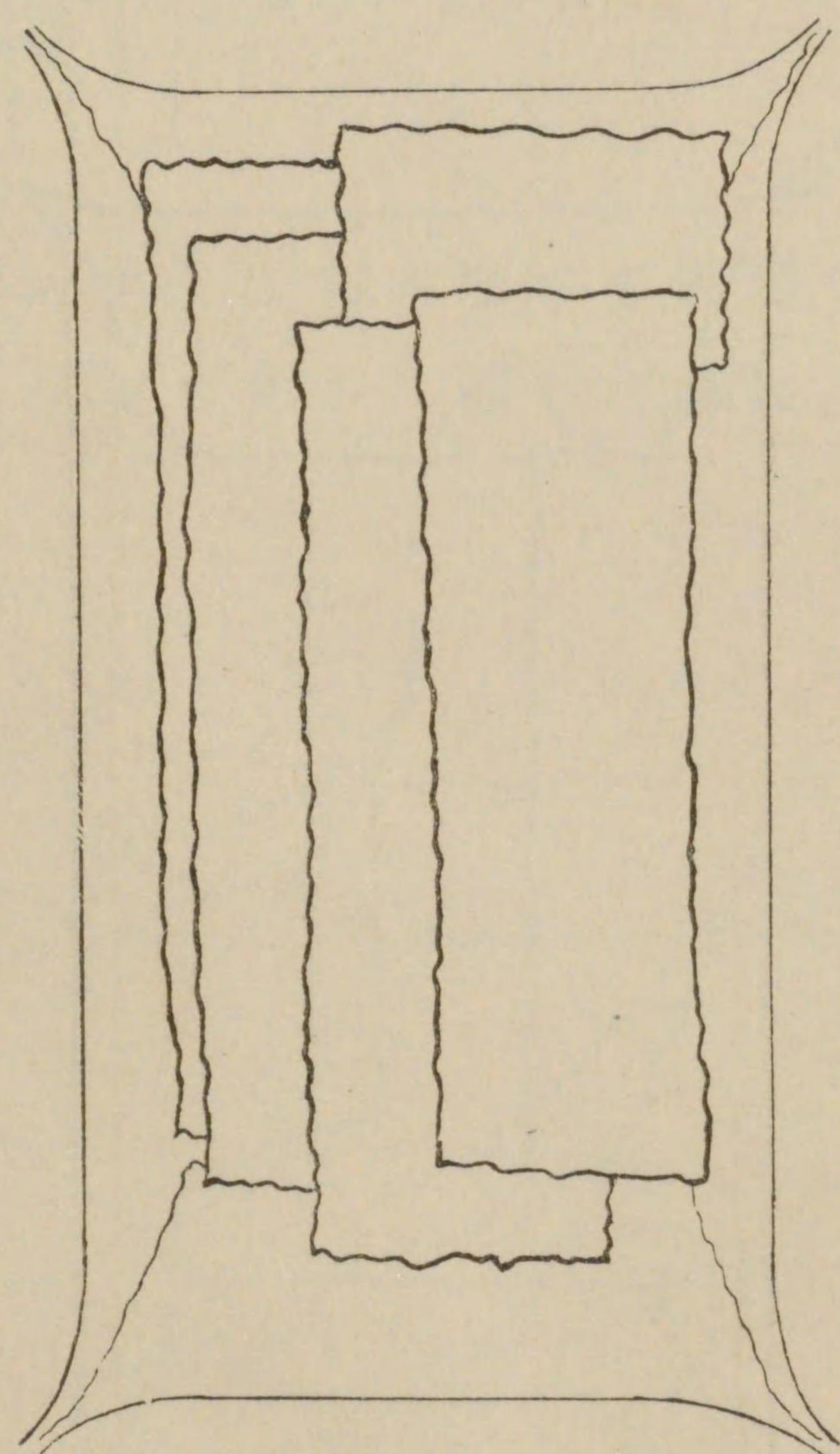
(三)

角を揃へた圖



次に中の方の薄い所へ(四)圖のやうに足し綿を適宜に入れる。

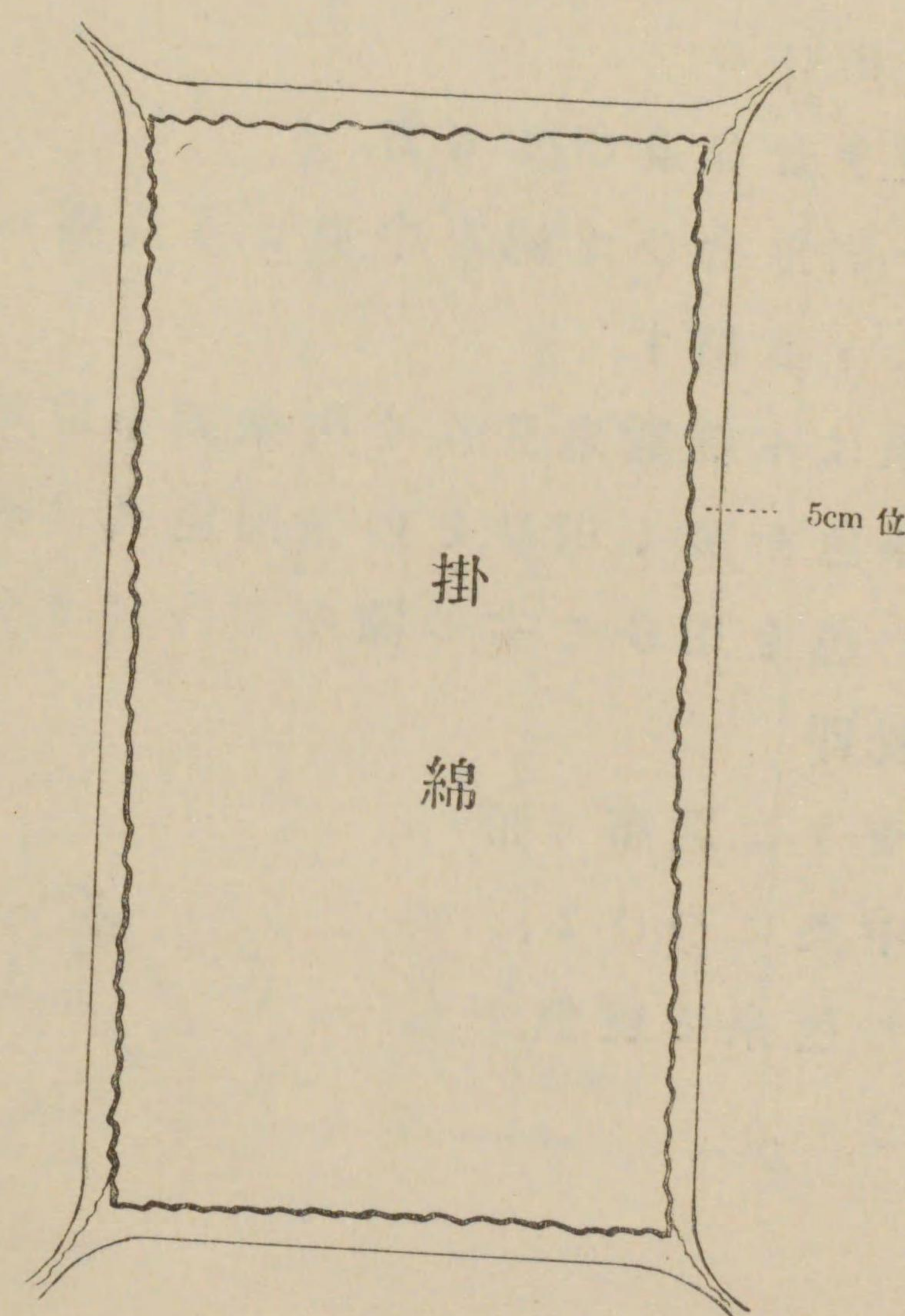
(四)



掛綿

別に一枚殘しおきたる綿を(五)圖のやうに上から掛ける。

(五)



引き返へし方

四隅を中央に集めて持ち、返し口から引き返へす。尚ほ四隅には指先にてよく先き迄綿を入れる。

絎け方

返し口は合標を合せて縫ふか又は表に針目を出して絎ける。

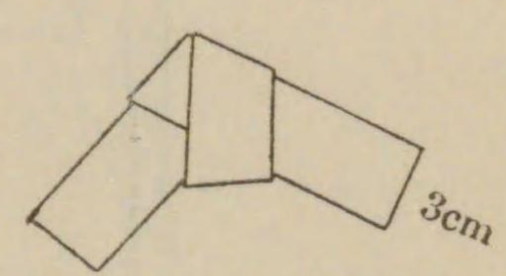
引き合ひ及びとぢ方

丈、幅を引き合ひて綿を中央より周圍へ向けてよくたゝき出す。

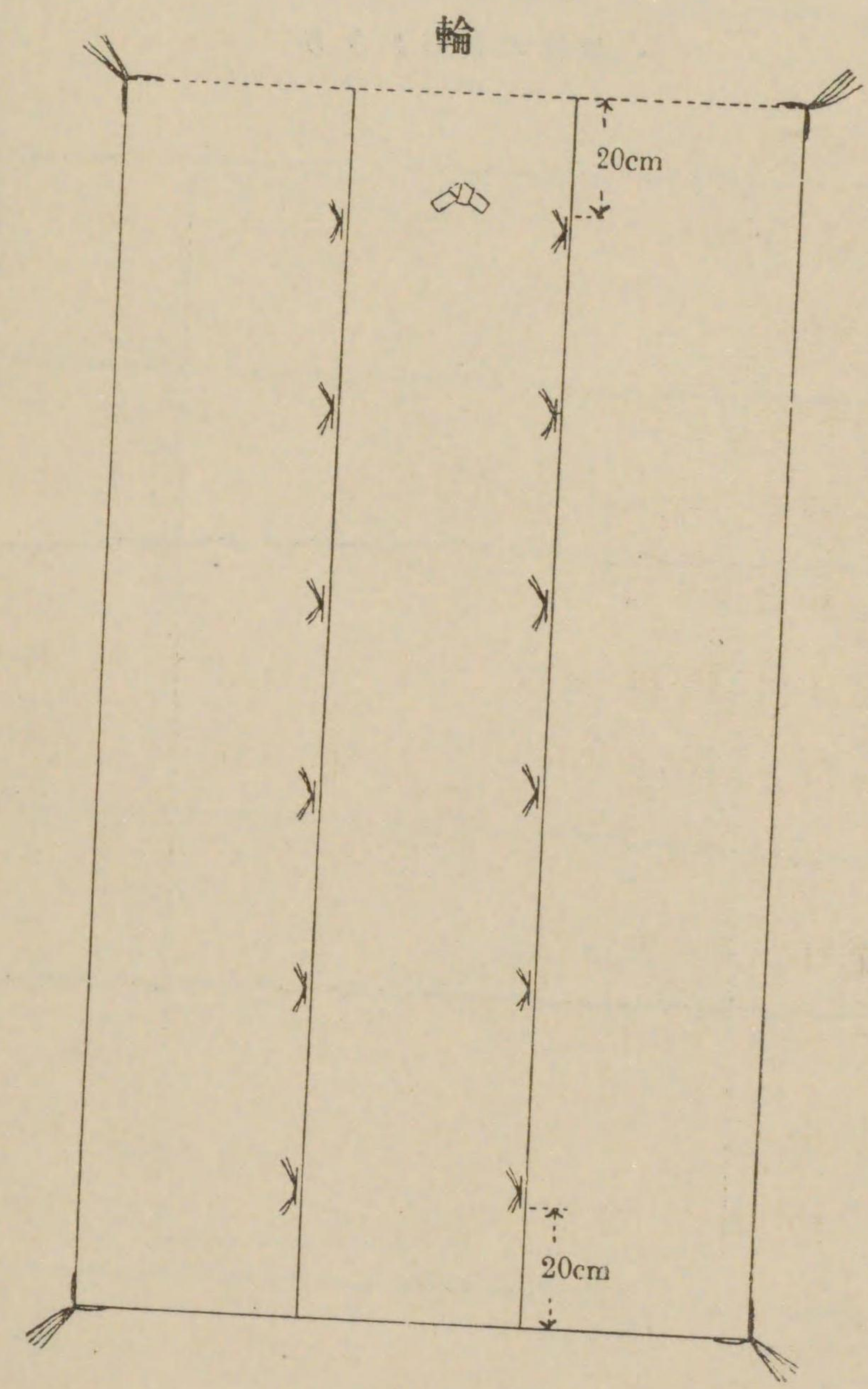
とぢ糸は木綿縫糸又は小町糸、絹小町、絹糸の色は金茶色を多く用ひ、その他同色又は表と配合のよい色を用ひて次の圖のやうにとぢる。

枕印

圖のやうに別布で拵へ上の中央につける。又目立つ色糸で縫標をしてもよい。



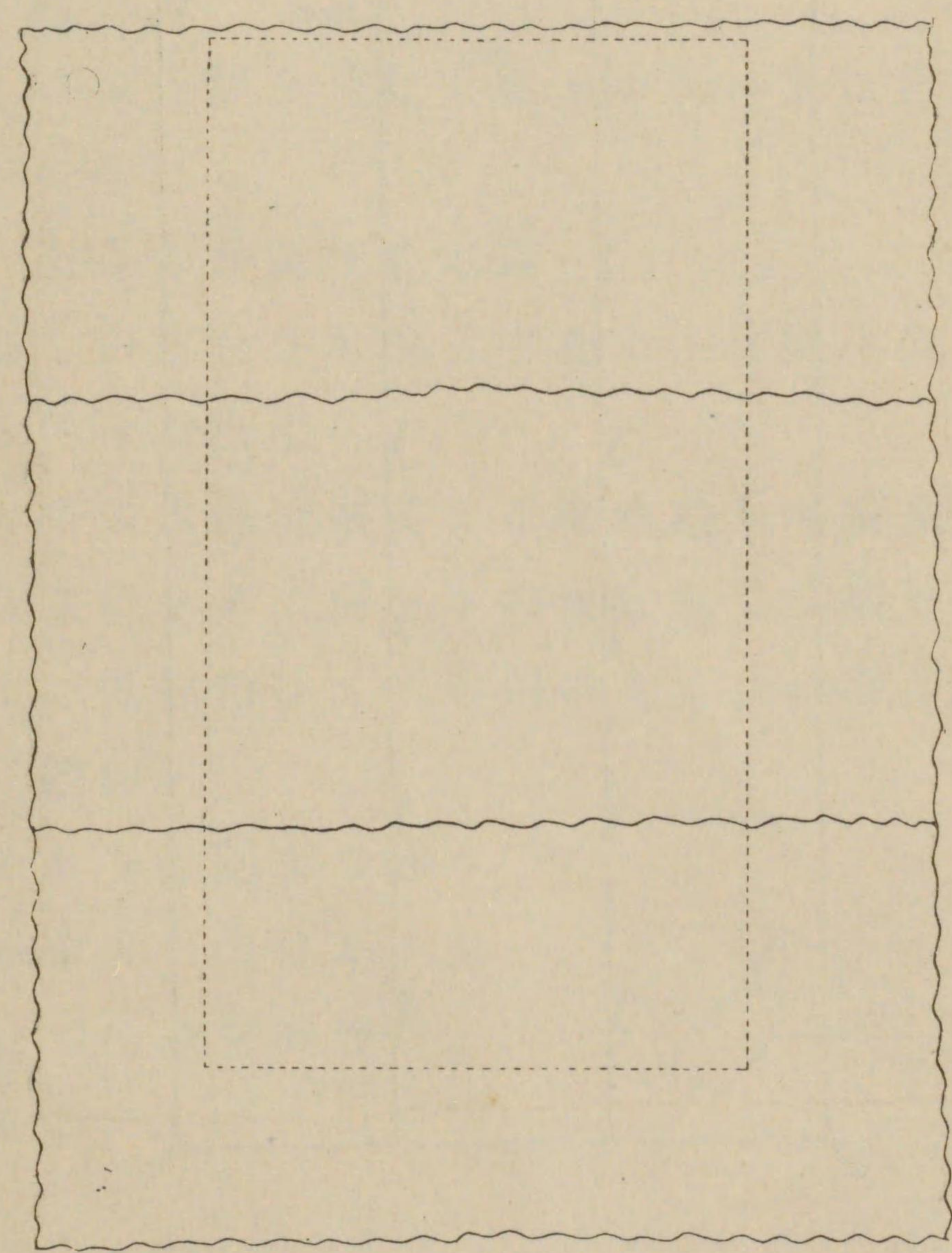
仕立上り圖



敷蒲團綿入れ方別法

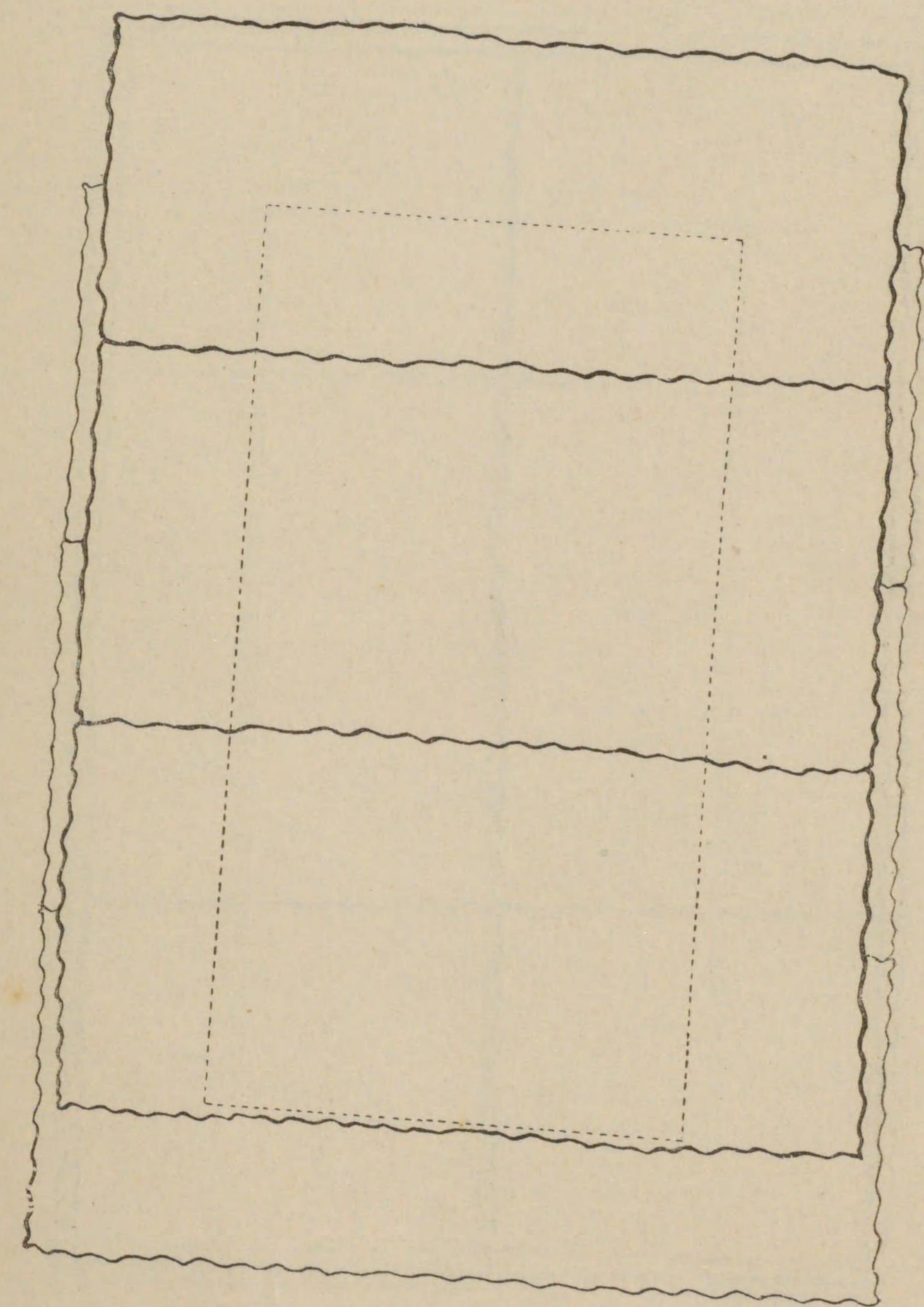
(一)

一枚目の綿のおき方



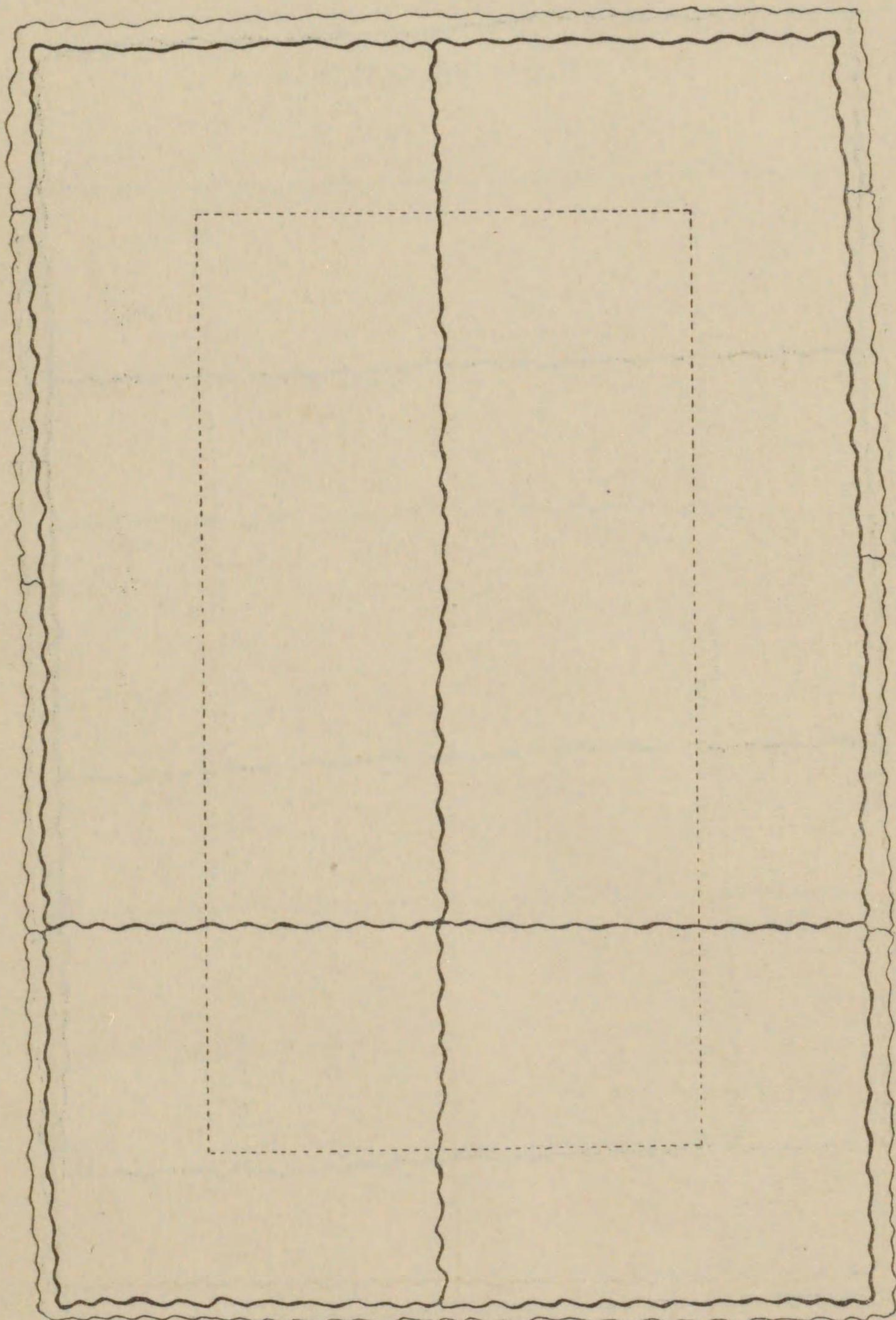
(二)

二枚目の綿のおき方



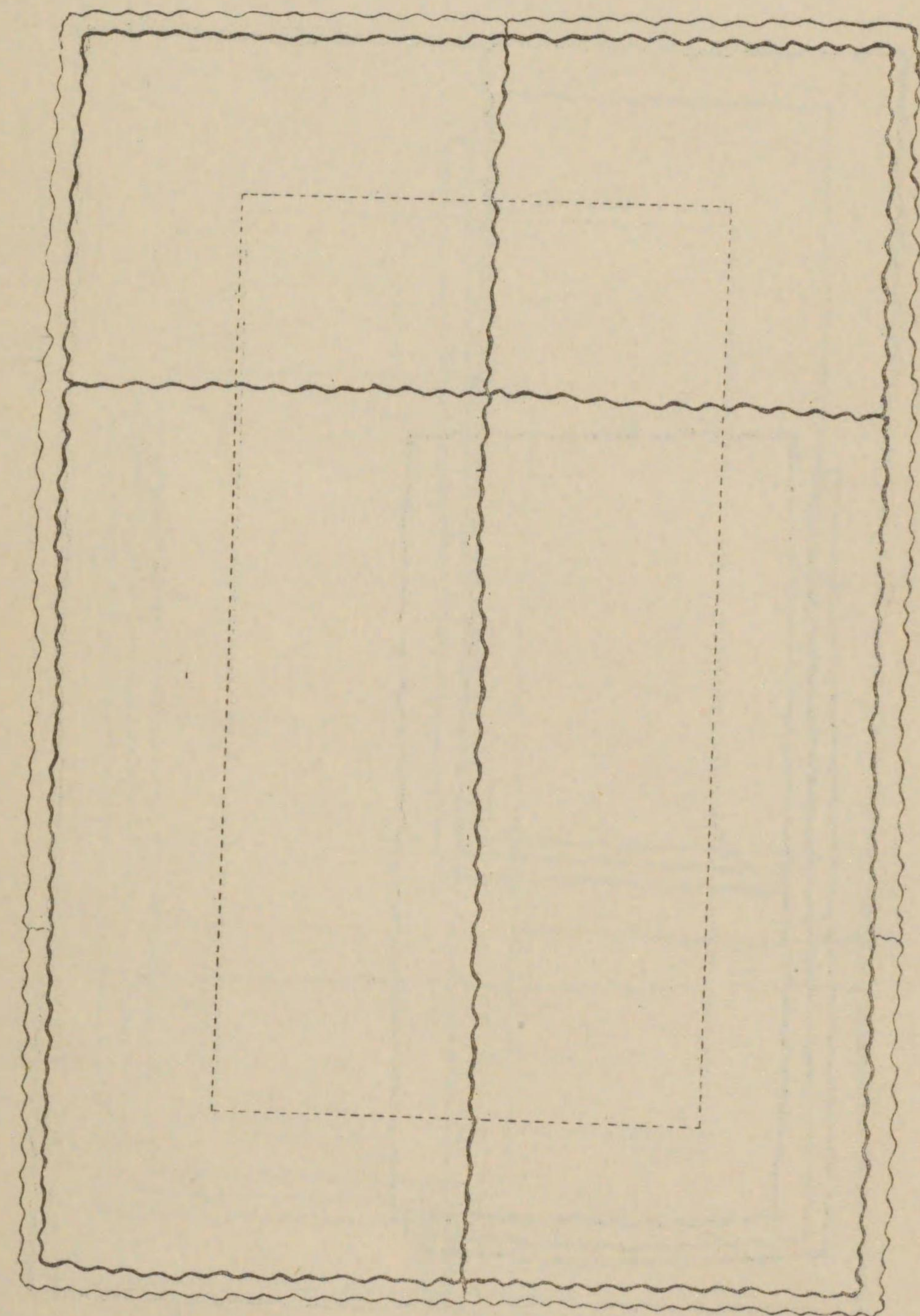
（三）

三枚目の綿のおき方

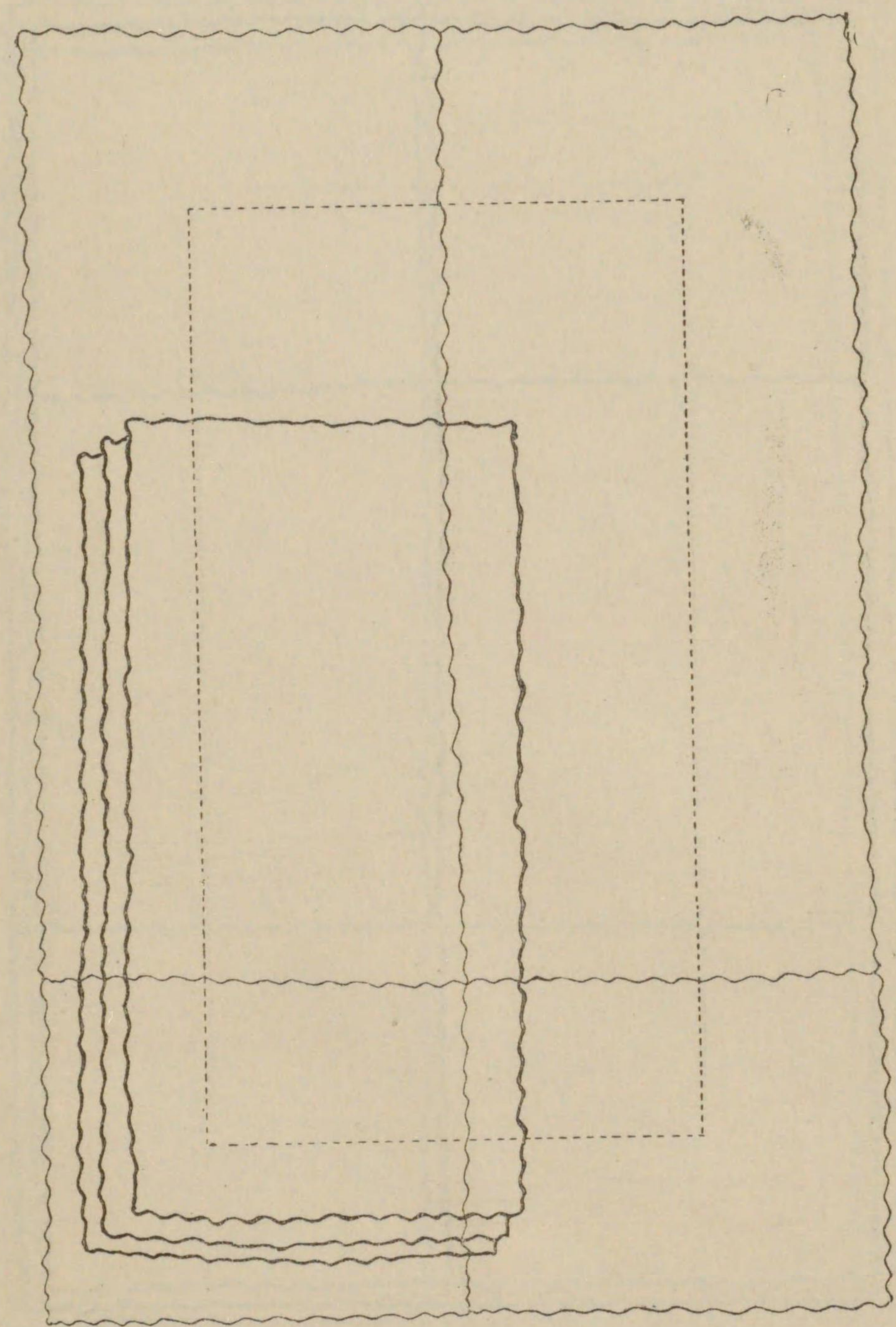


（四）

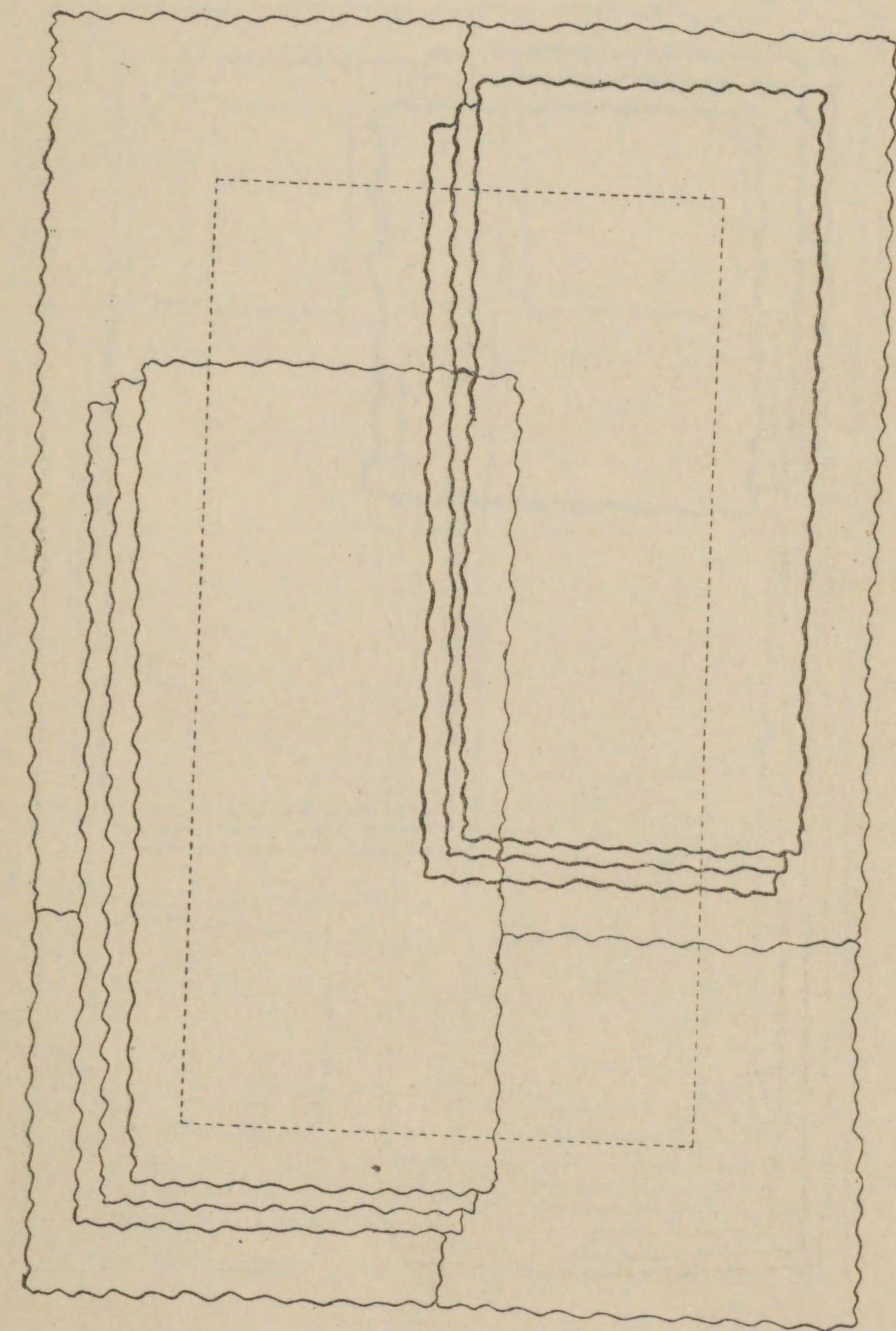
四枚目の綿のおき方



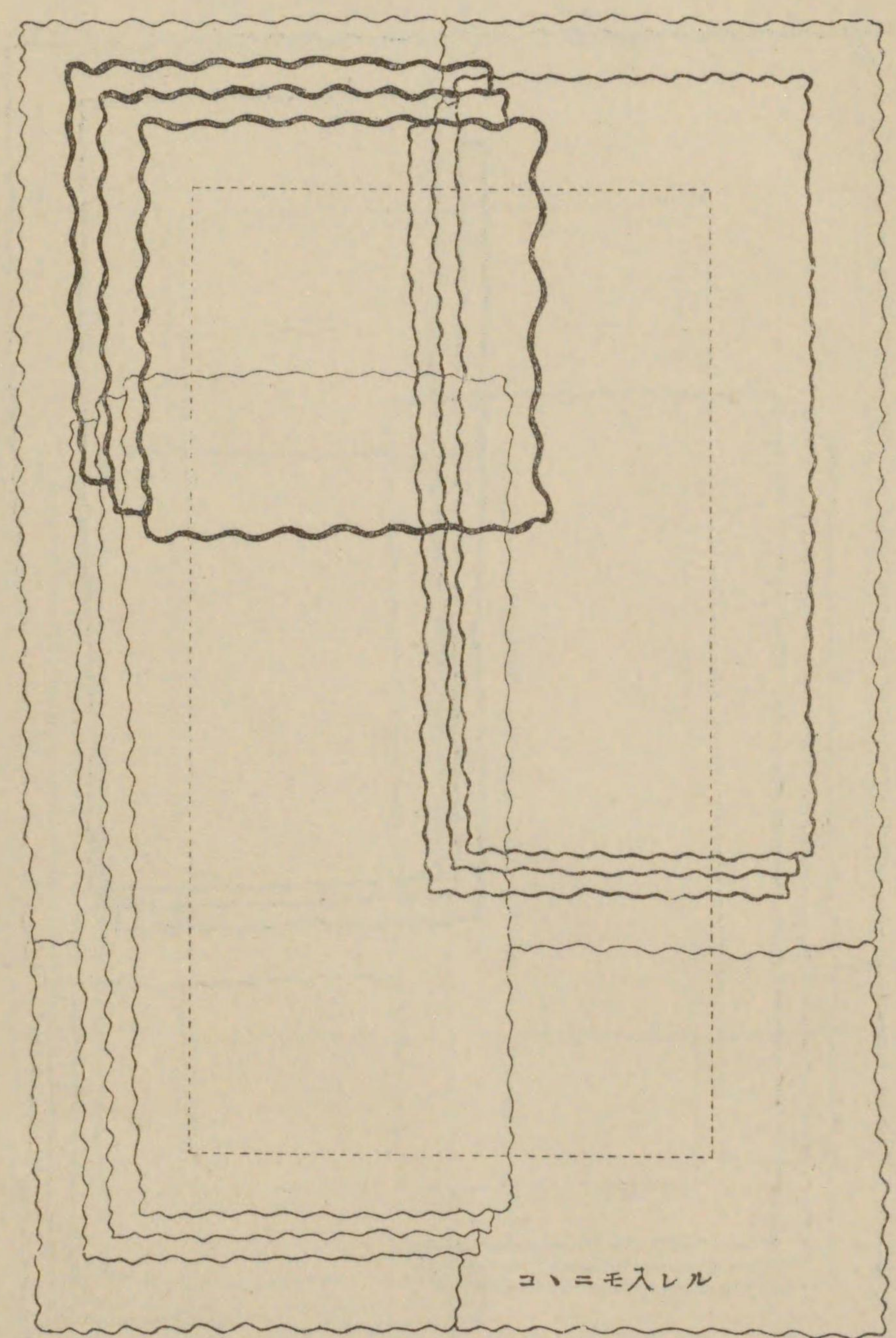
(五)



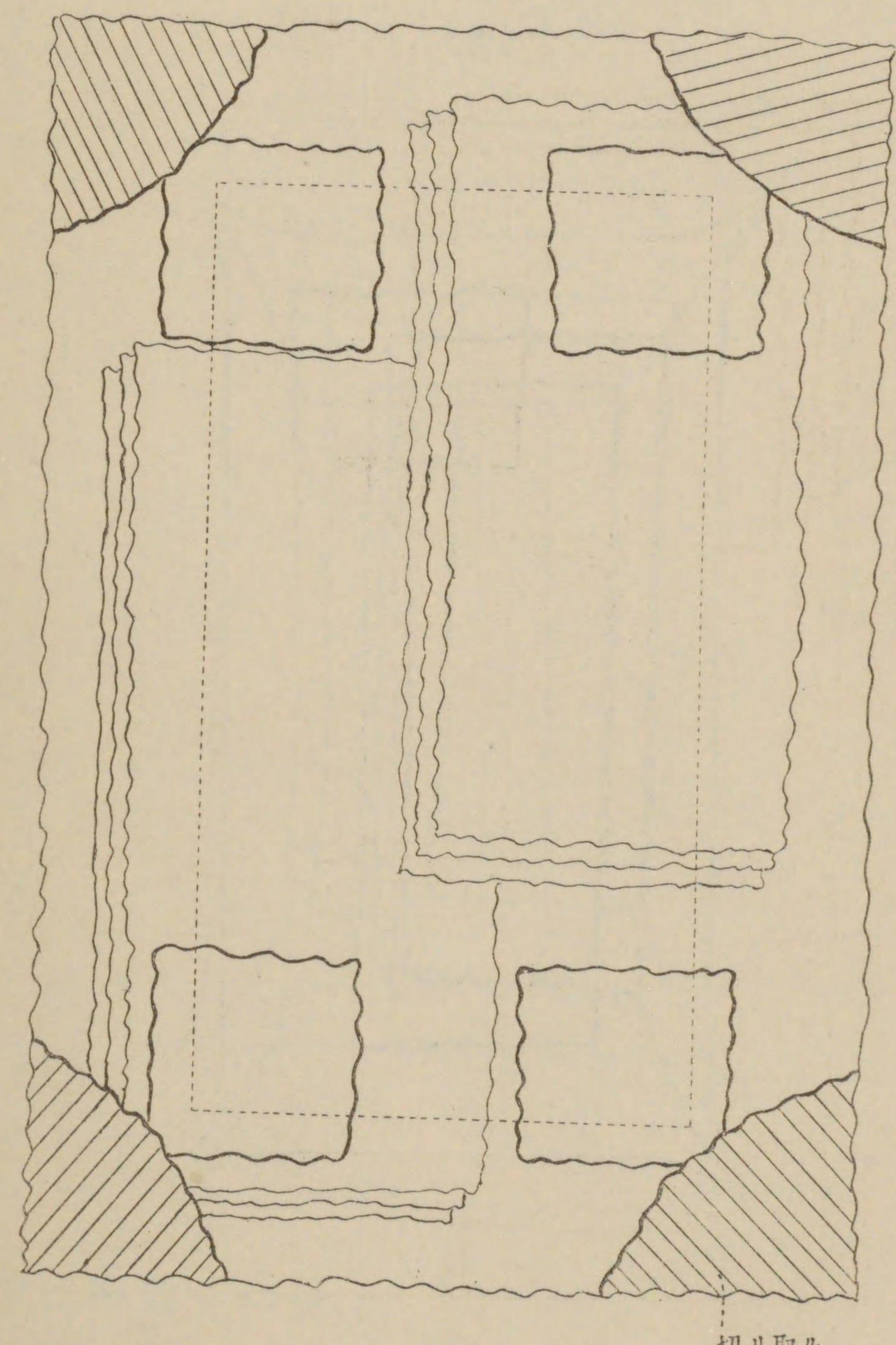
(六)



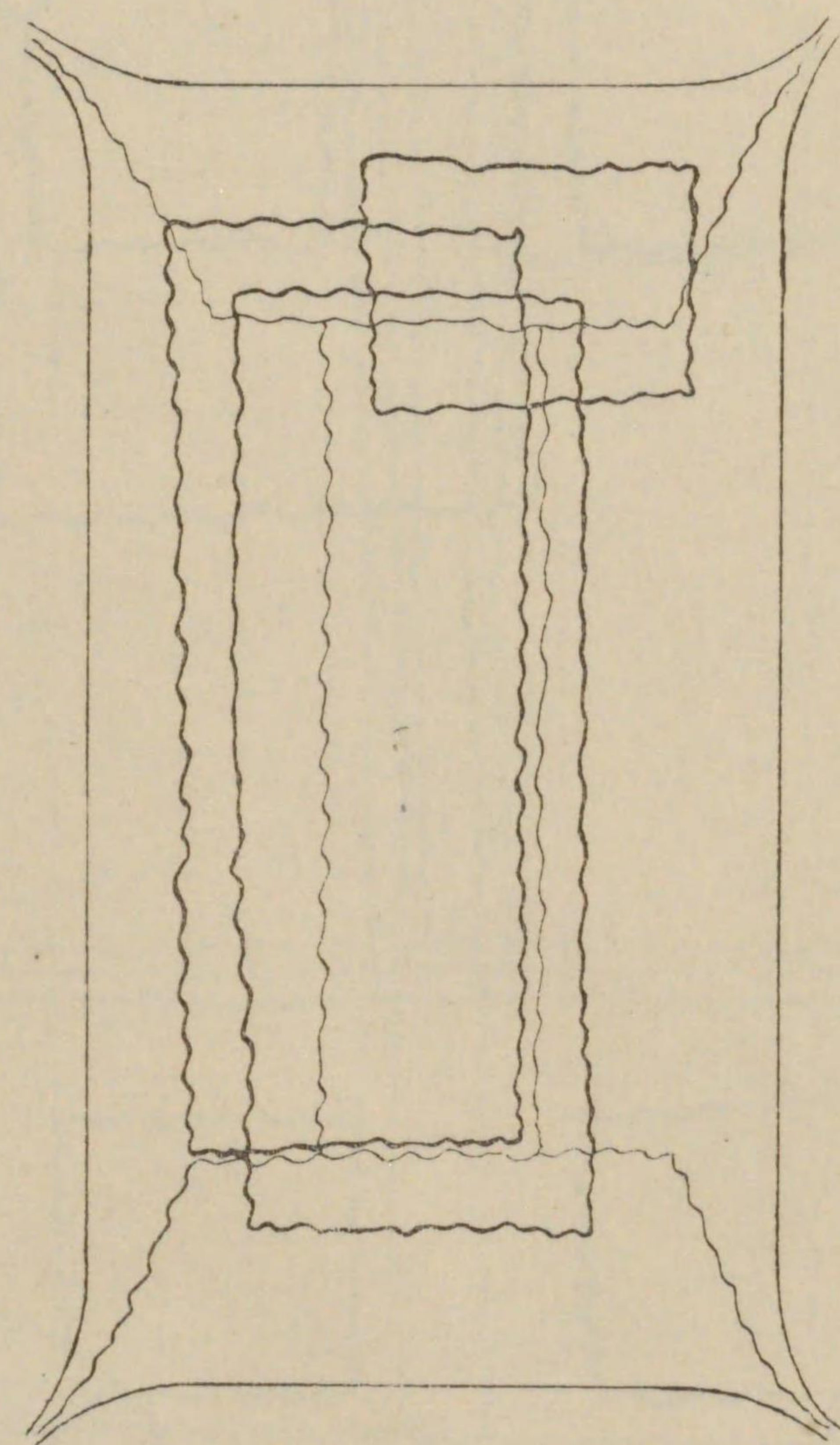
（七）



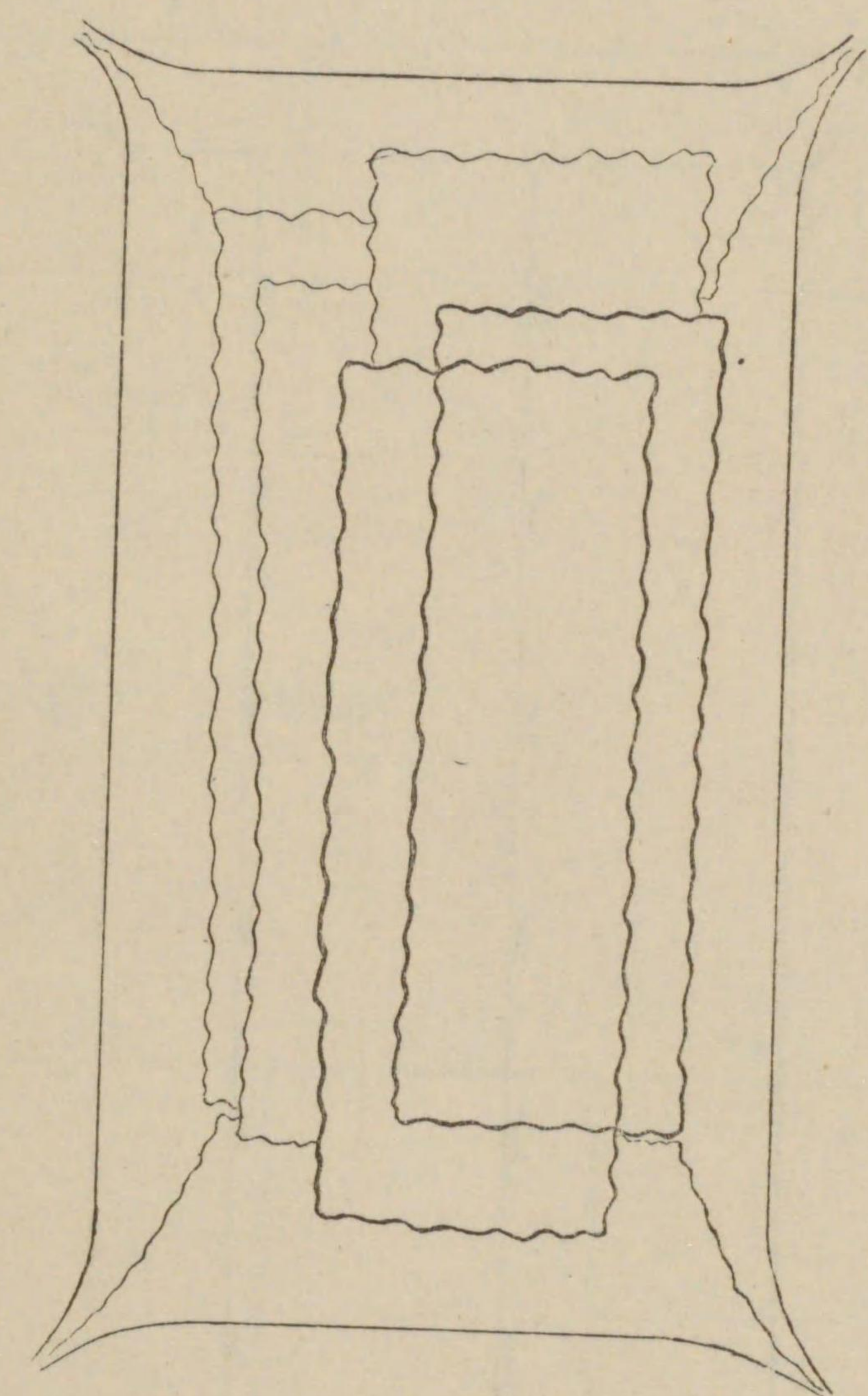
（八）



（九）



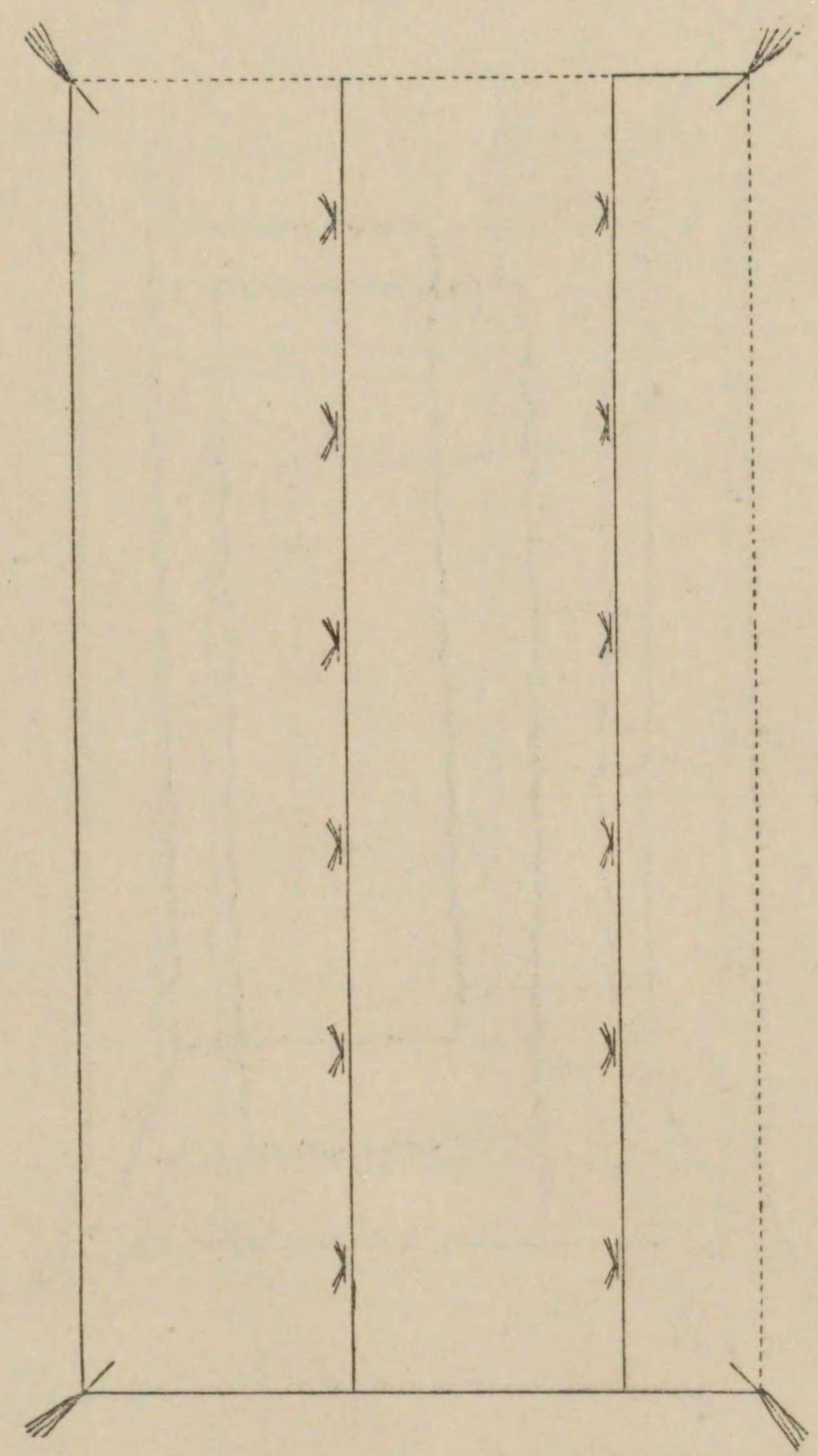
（十）



最後に掛綿をのせる。

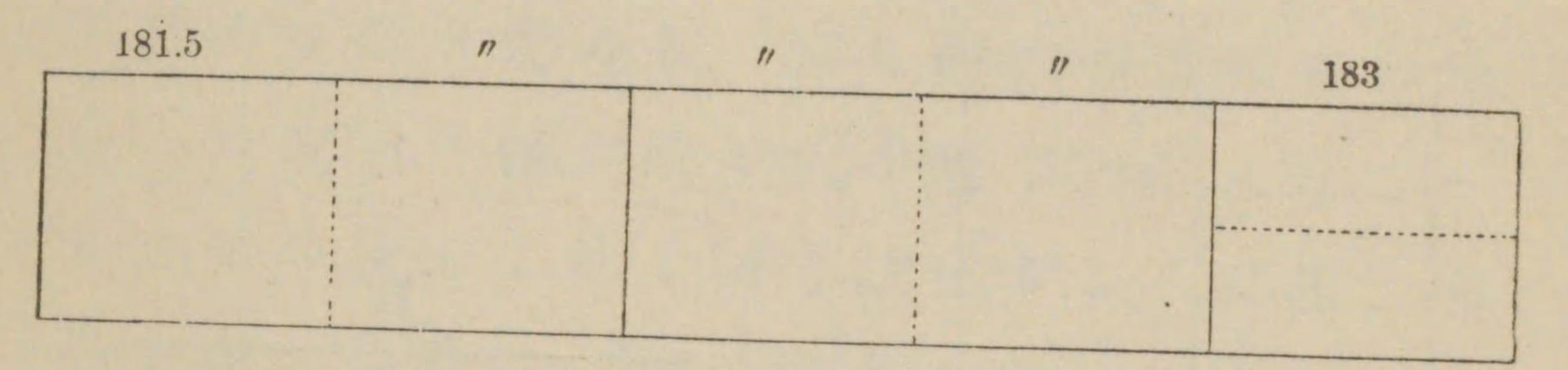
第二項　　二布半

(1)仕上り圖

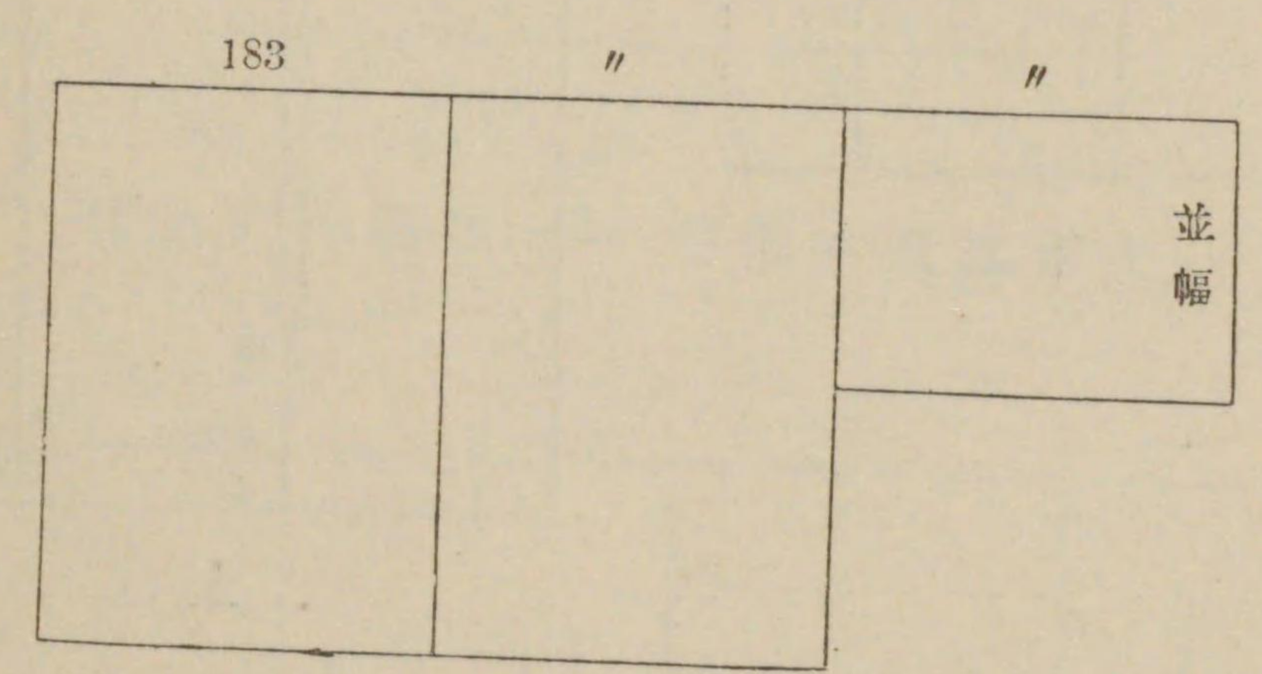


(2)裁ち方　　積り方

並幅　　909cm

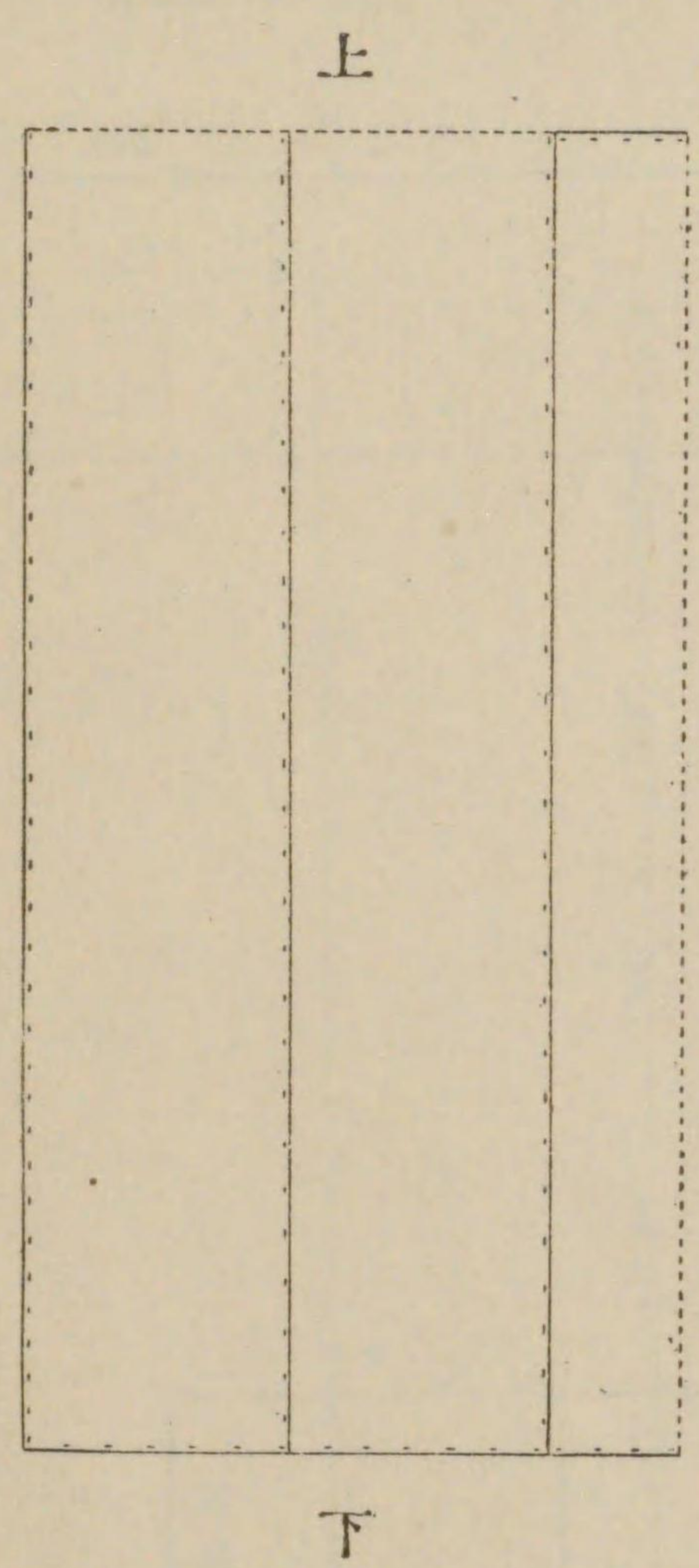


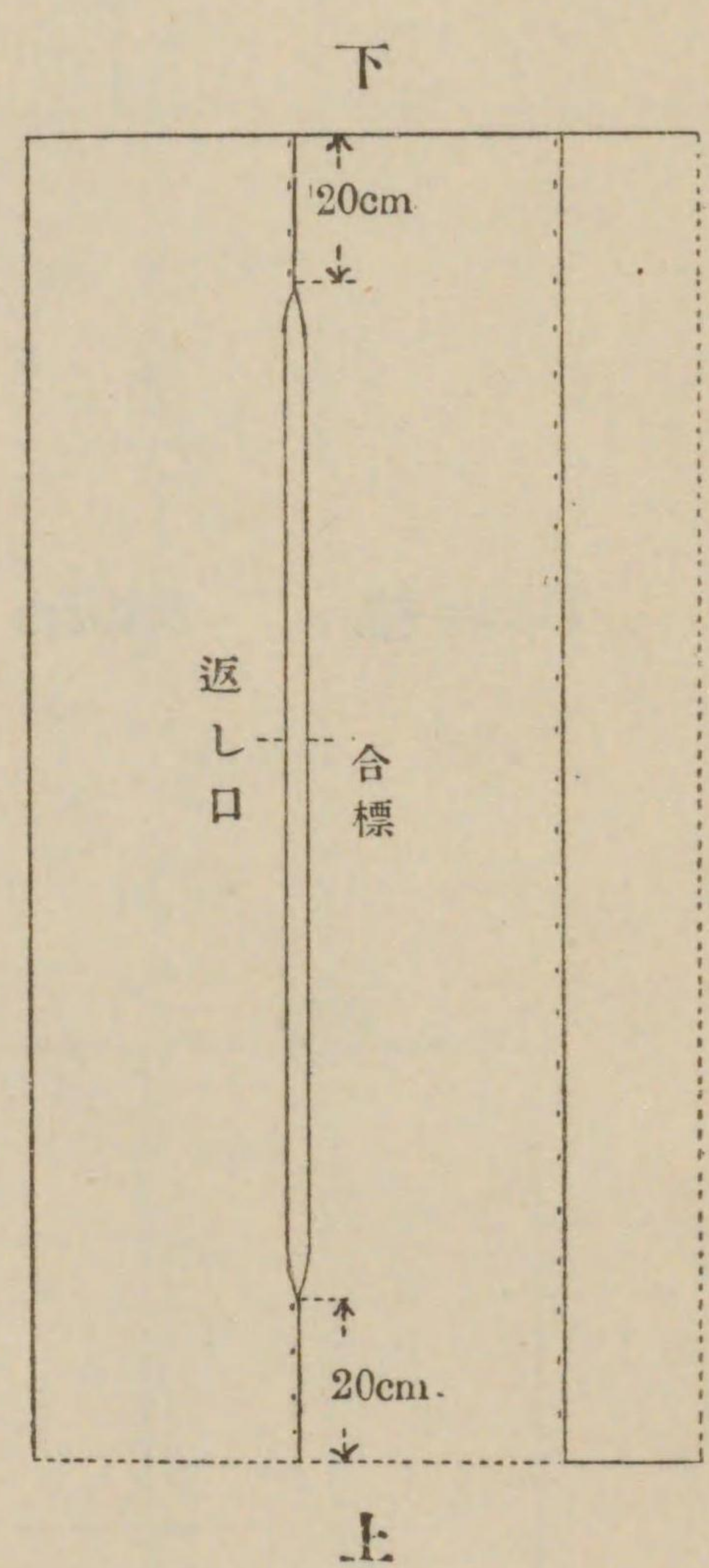
72cm 幅　　549cm



(3)縫ひ方

下圖のやうに縫ふ。





(4)綿の入れ方及びとぢ方

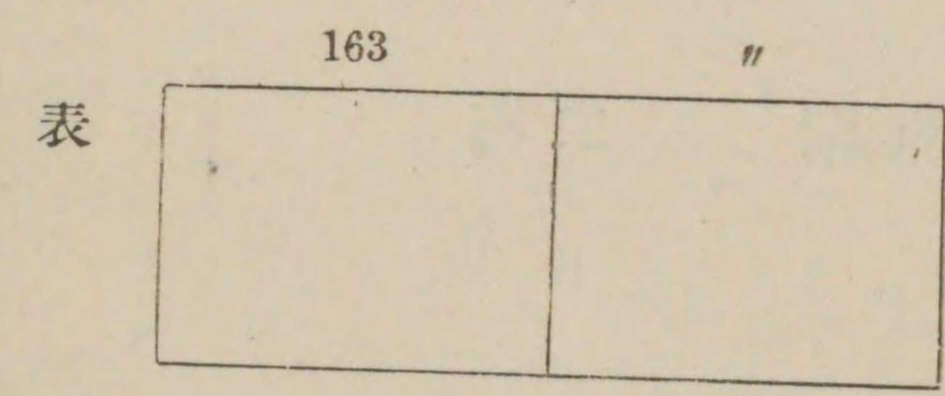
三布蒲團の要領でよい。

第三項　鏡蒲團

鏡蒲團は先づ表裏の布數を定め、これによつて縁の寸法を定める。即ち表二布裏四布の場合には左右の縁が各々約半幅 (15cm) になるから上下の縁もこれと同寸法にする。又表二布裏三布の場合には横の縁が布幅の約$\frac{1}{4}$(8cm) になるから上下の縁もこれと同寸法にする。

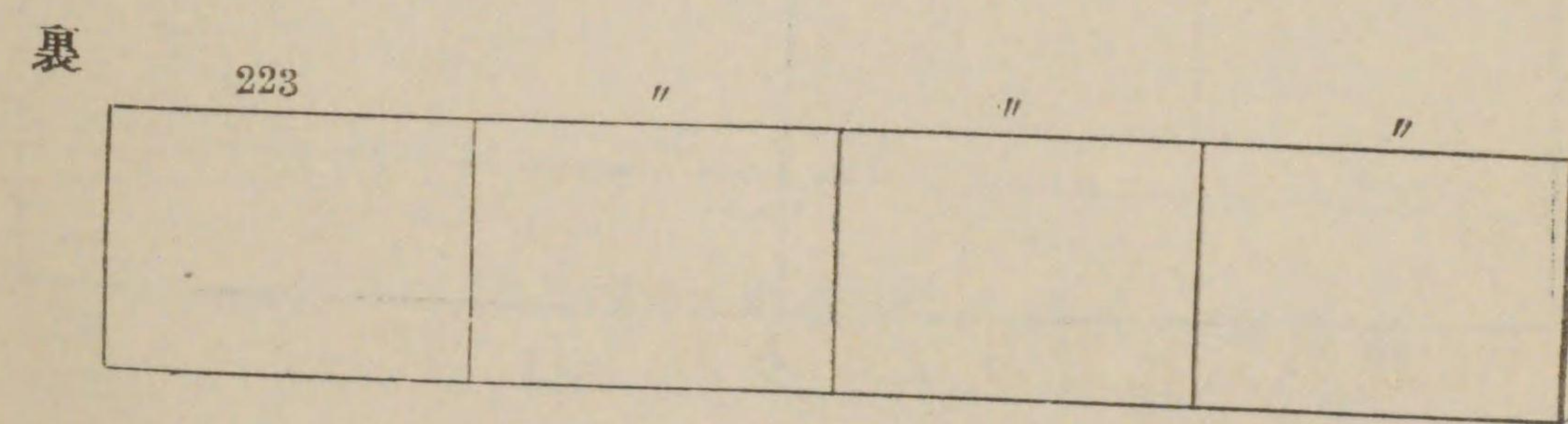
(1)裁ち方　積り方

(イ) 表並幅二布　裏並幅四布



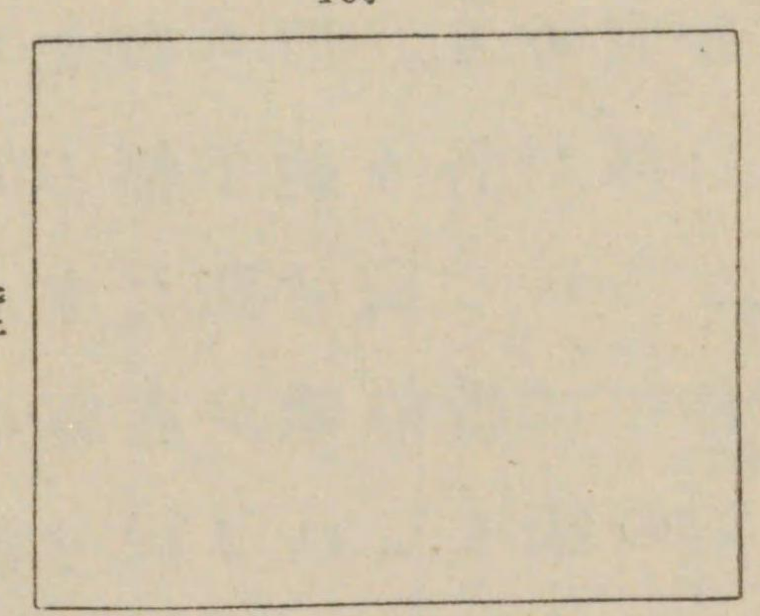
190 － 15 ×2＋ 3 ＝ 163

仕上丈－出袘×2＋縫代＝表裁切丈

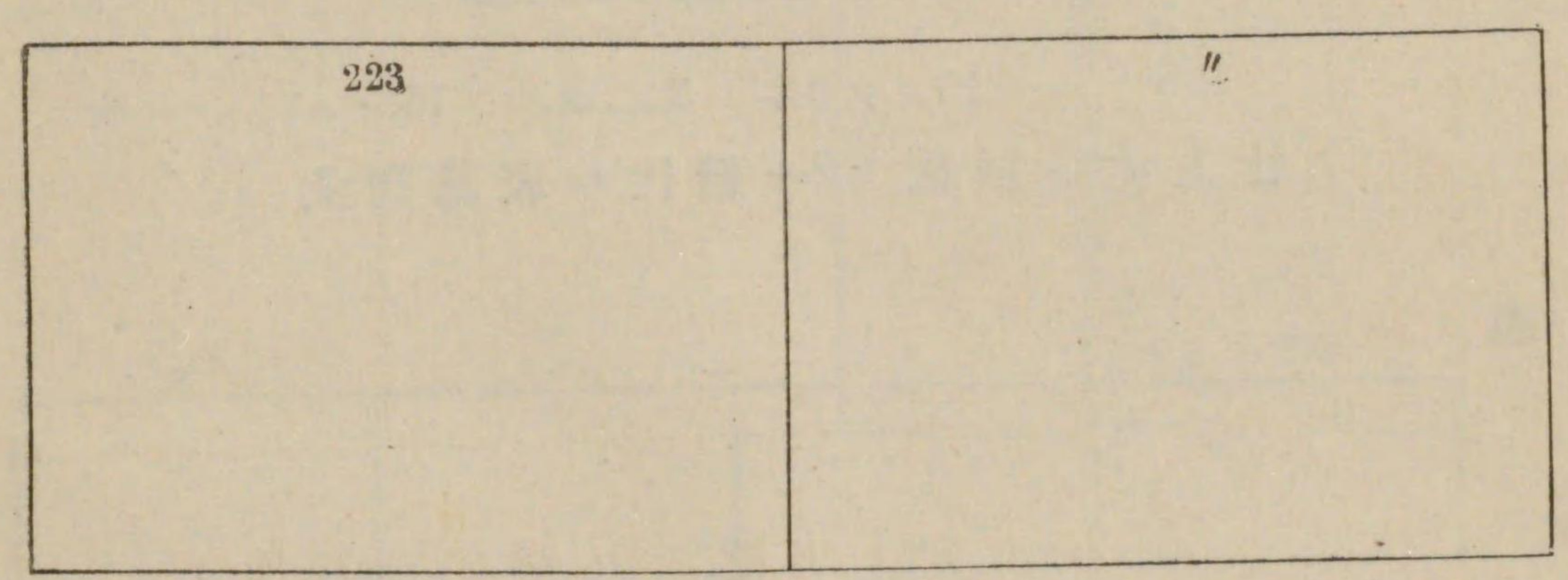


190＋15×2＋3＝223

(ロ) 表　72cm 幅　一布

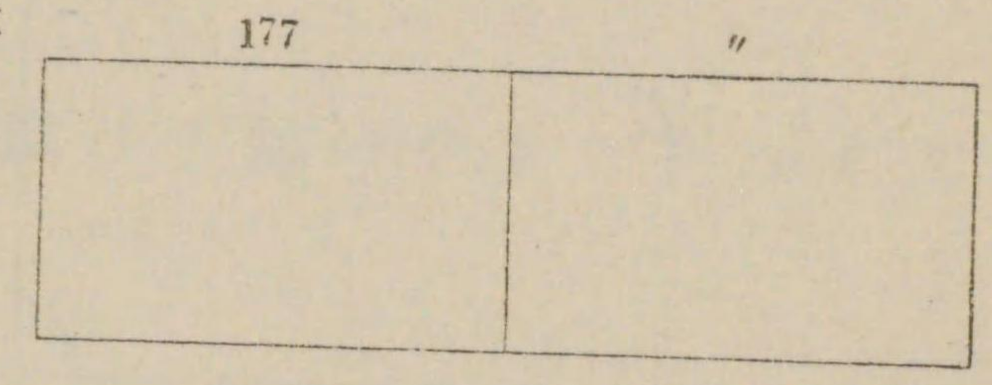


裏　72cm 幅　二布



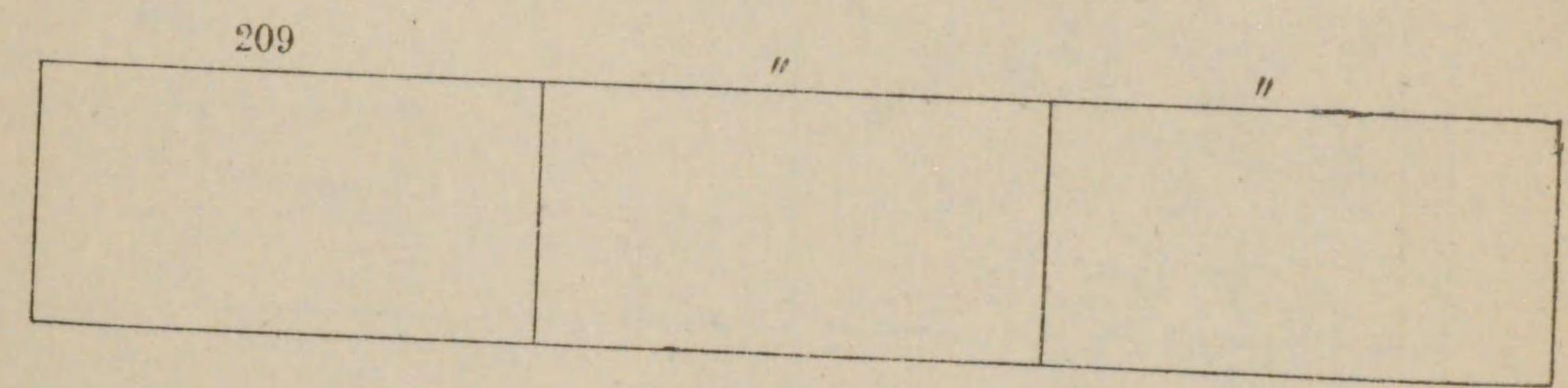
(ハ) 表　並幅　二布
裏　並幅　三布

表



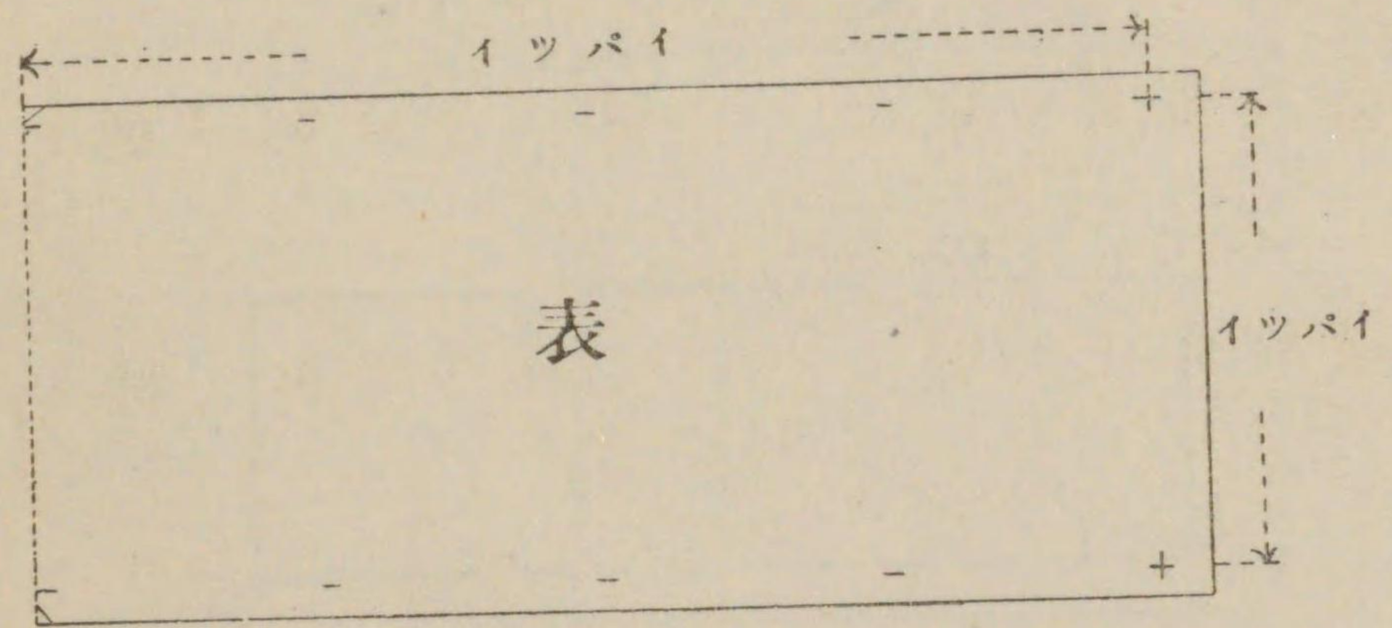
仕上丈－出袘×縫代＝裁切丈
190　－　8　×　2　＝　177

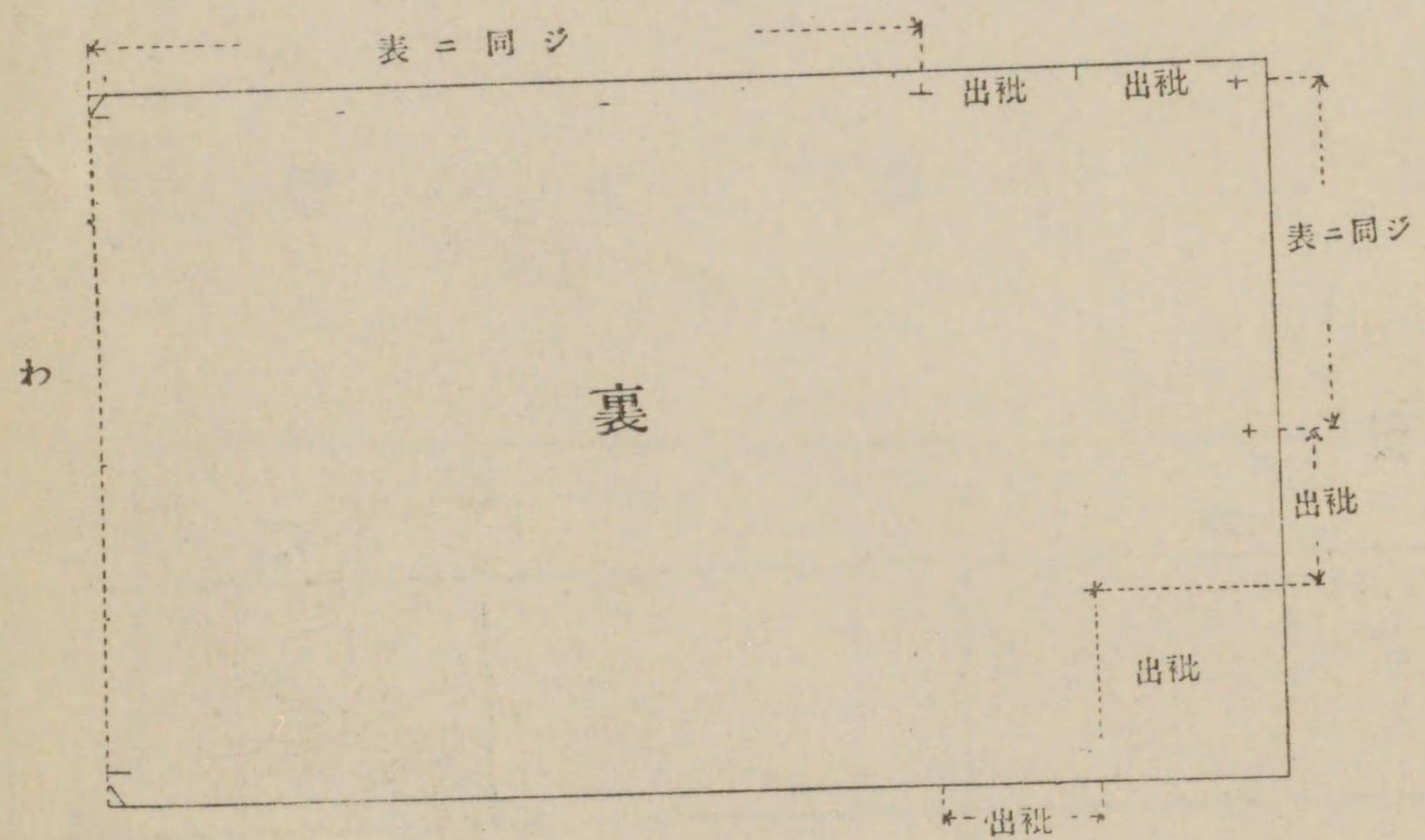
裏



仕上丈＋出袘×2＋縫代＝裁切丈
190　＋　8　×2＋　3　＝　209

(2) 標附け方



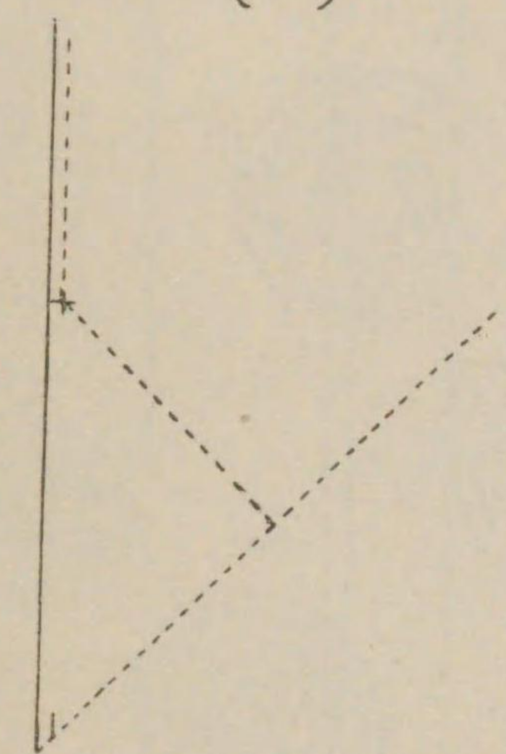


裏が並幅物の場合には上圖のやうに接ぎ合せてから標をする。

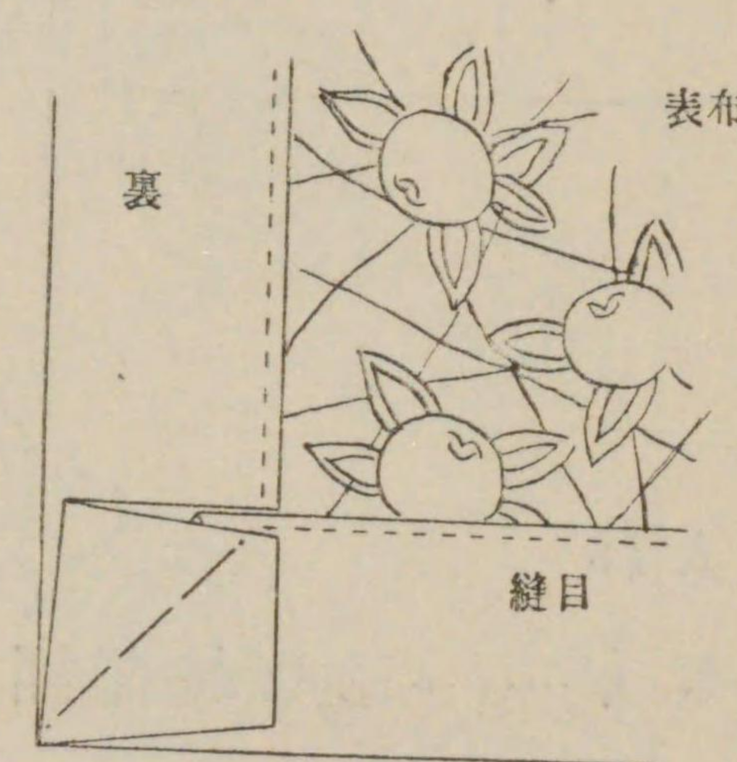
(3) 縫ひ方

1. 表布縫合せ、及び抑へ縫
2. 裏布縫合せ………返し口を殘しおく
3. 表裏の周圍を標通りに縫ひ合せ抑へ縫をなす。
4. 額緣を縫ひ下圖のやうに折つて抑へ縫をなす。

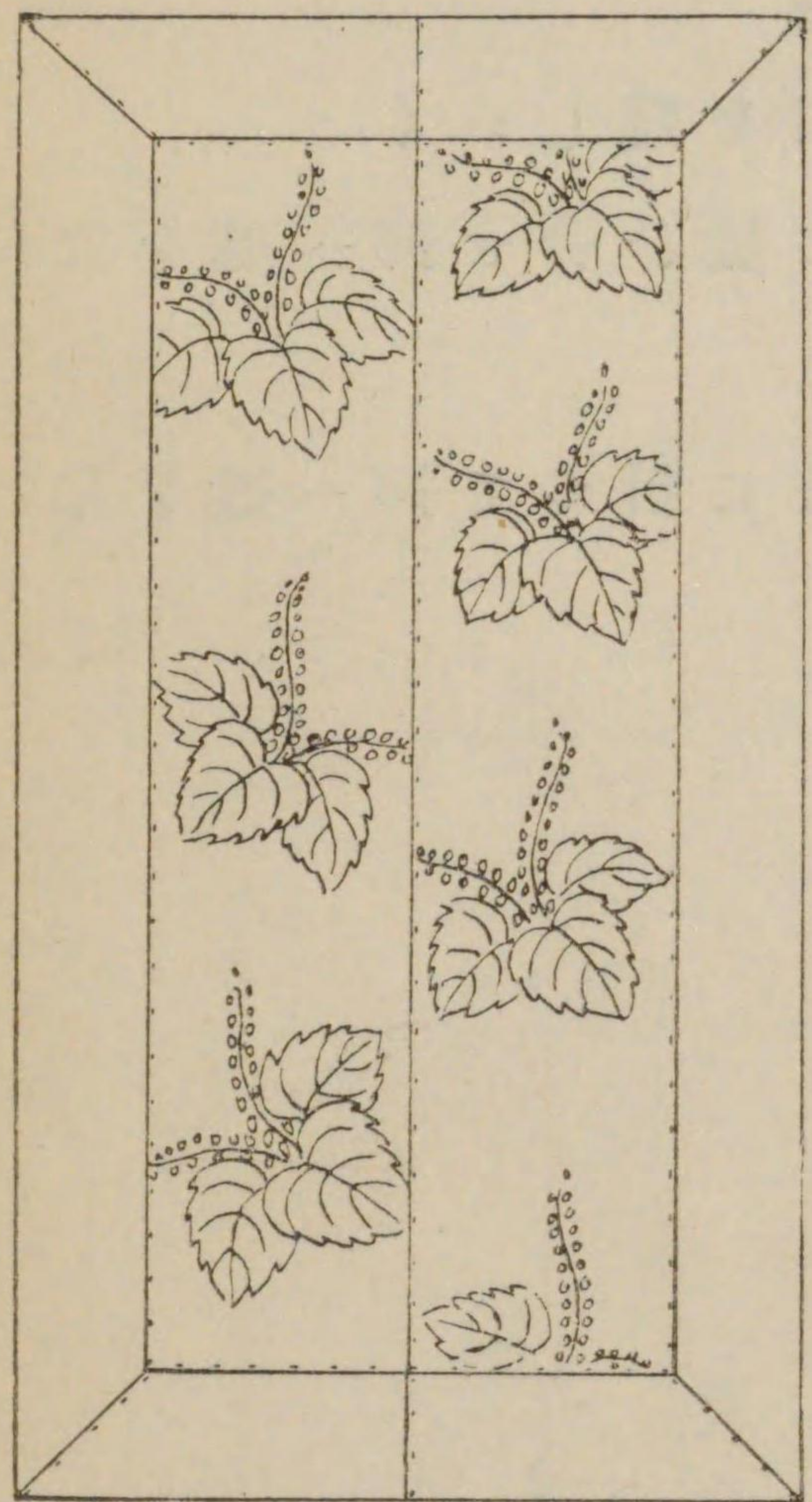
(一)



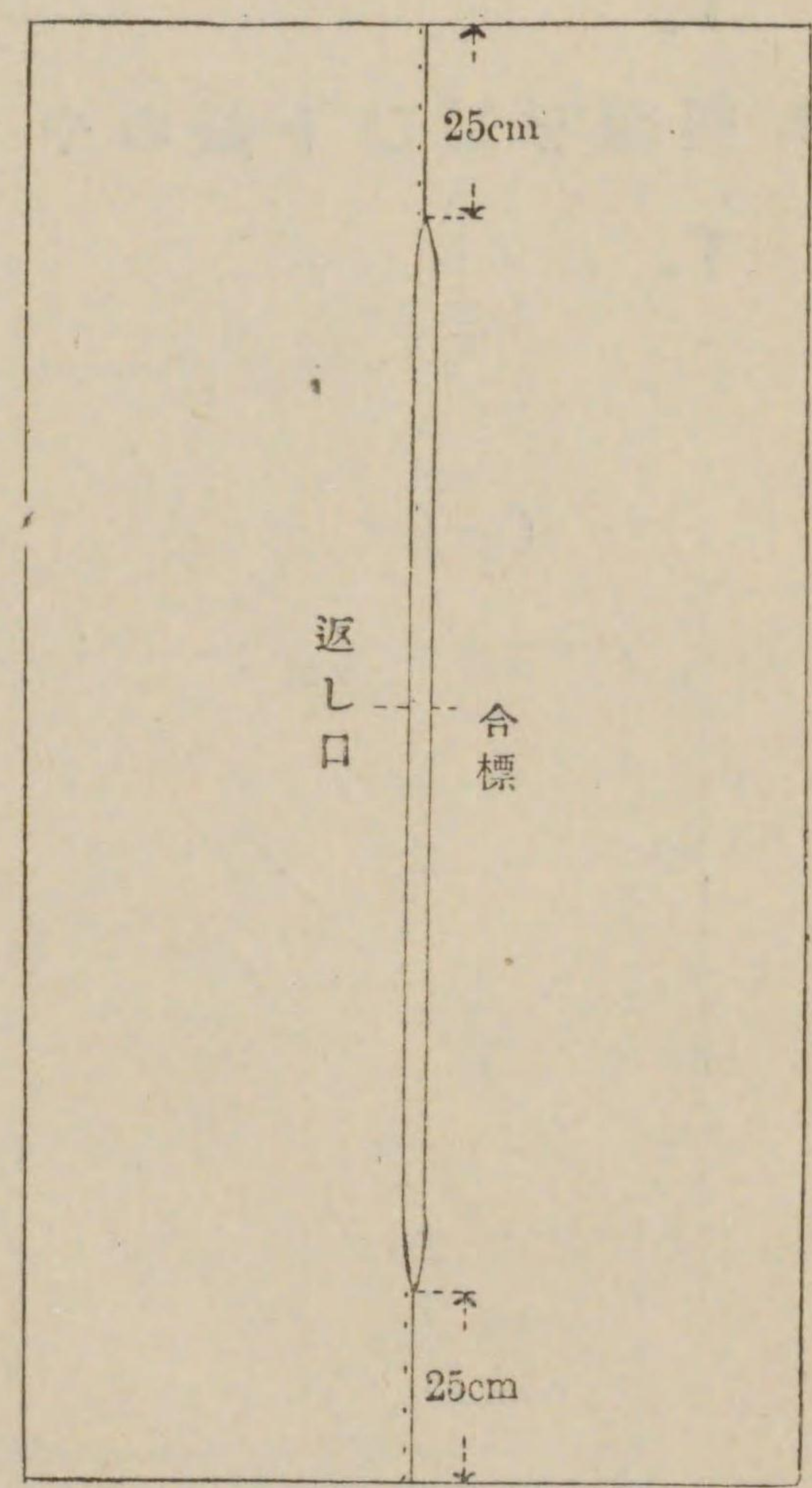
(二)



表



裏



5. 綿入れ

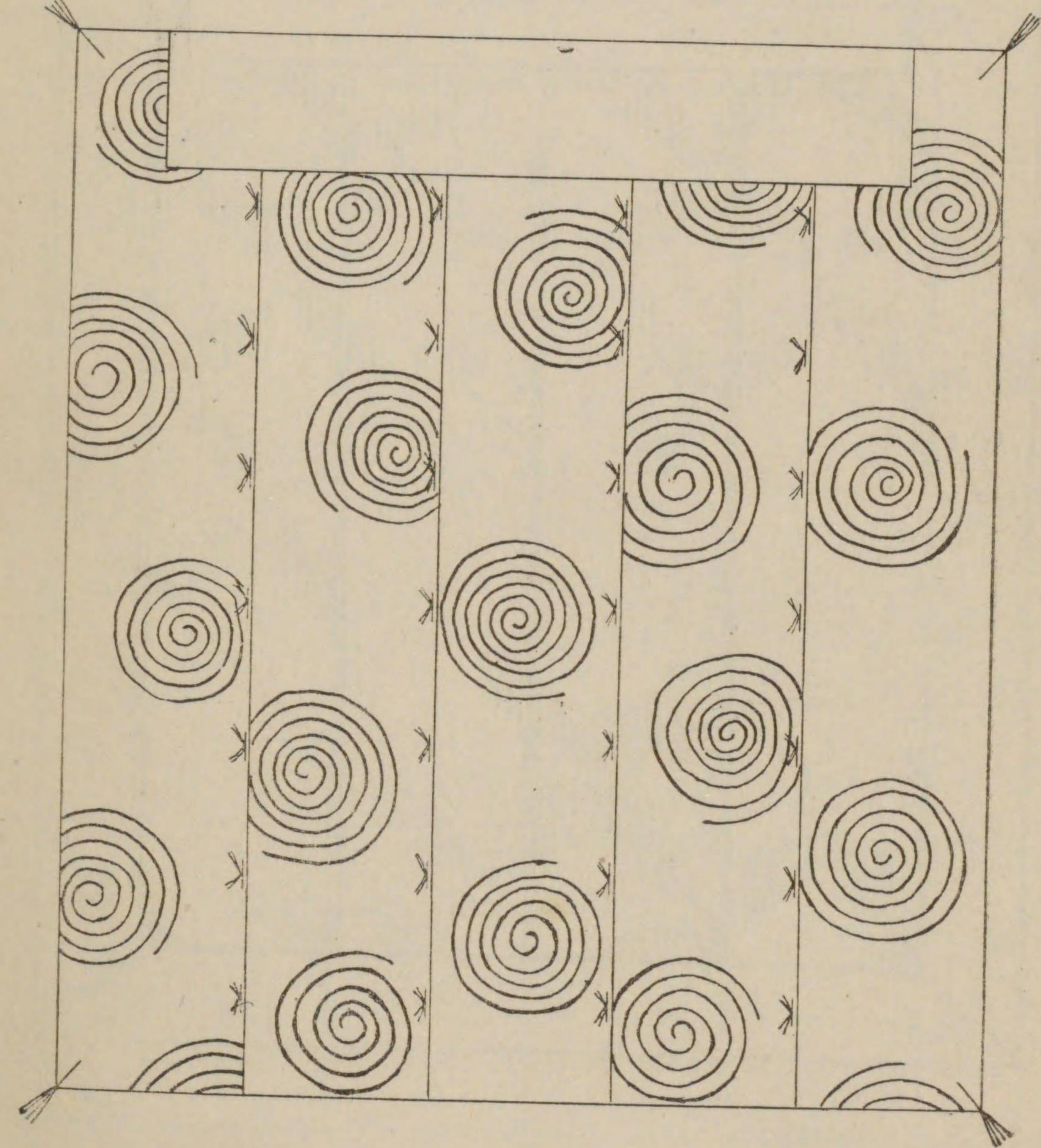
6. とぢ方………三布鏡蒲團仕立上り圖のやうにとぢる。(8頁)

第二節

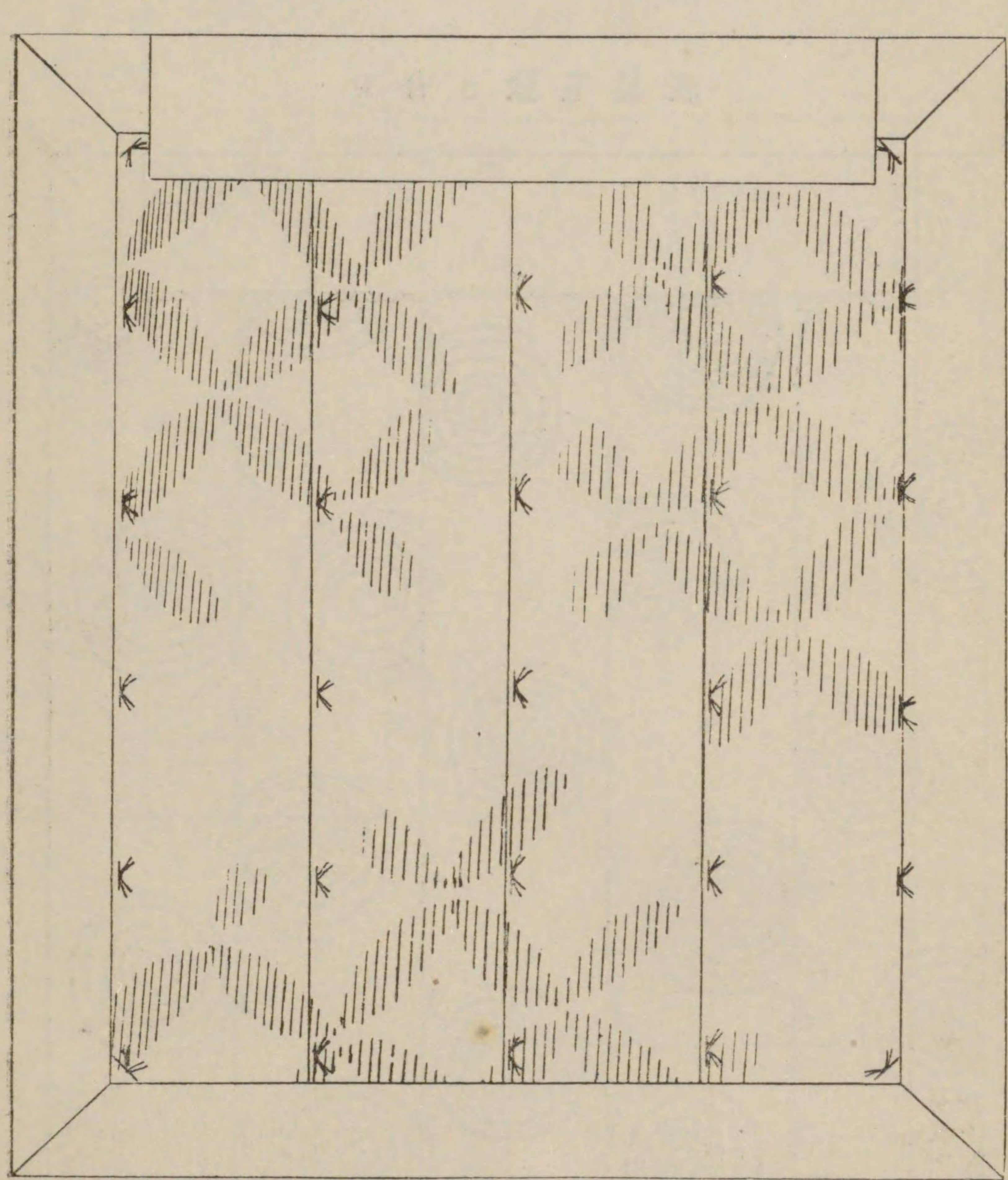
掛蒲團

仕立上り圖

表裏毛抜き合せ

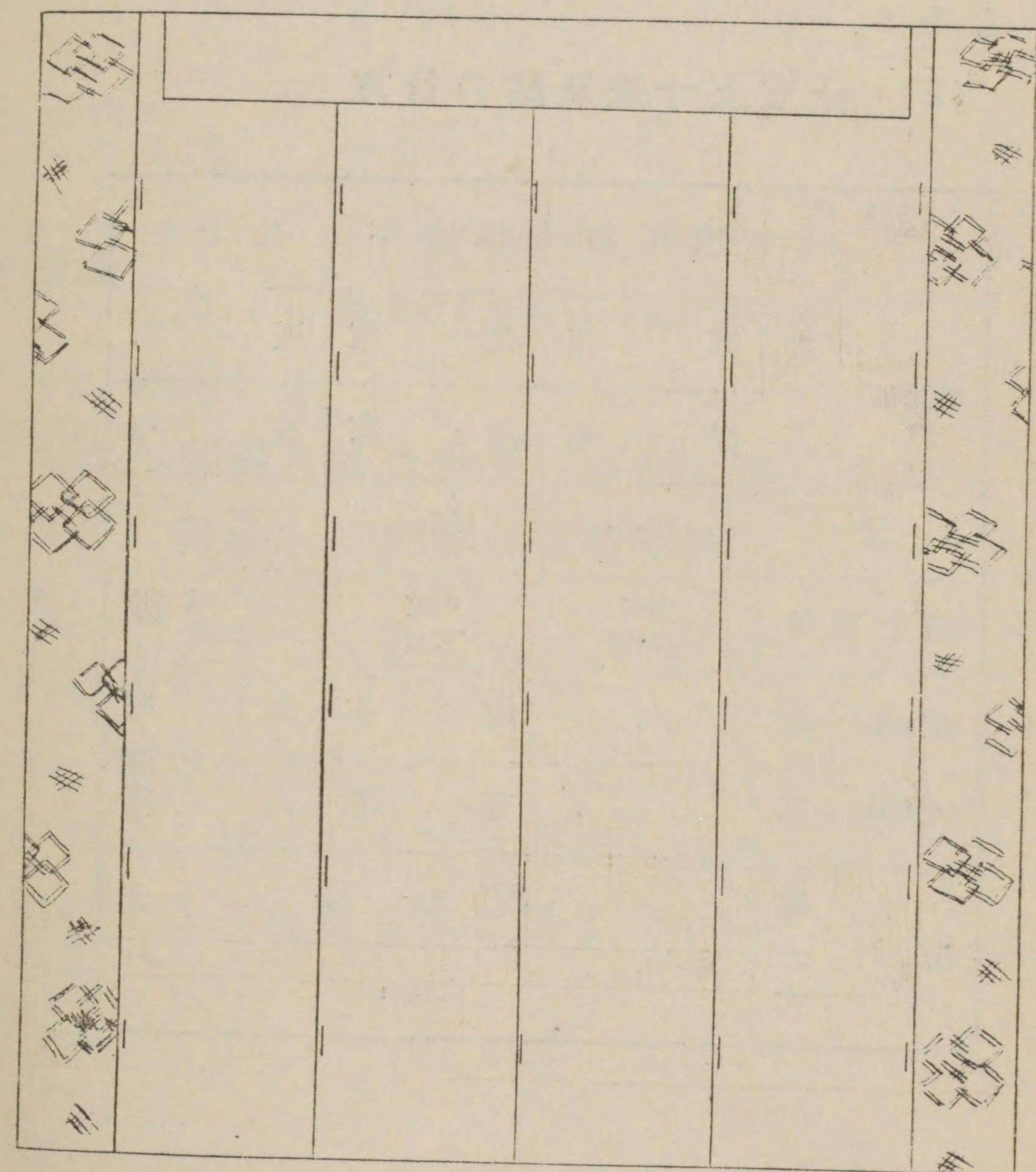


鏡蒲團



表五布　裏四布

裏



(1) 種類

掛蒲團には、表裏別布で毛拔き合せに仕立たものと、鏡蒲團、又稀には表裏同布を用ふるものもあり、又四布半等の樣に表が裏に折り返へるものもある。

(2) 仕立上寸法及綿の目方

大サ		四布	四布半	五布
幅(布數)	表	四布	五布	五布
	裏	四布	四布	五布
丈		180cm	199cm	190cm
綿の目方		4kg (13枚)	5kg (17枚)	6kg (20枚)
鏡(蒲團)幅(布數)	表	…………	四布	四布
	裏	…………	五布	六布
掛衿	幅	並幅位		
	丈	135cm		

(3) 裁ち方　積り方

イ、四布　表………丈×4　裏………丈×4

ロ、四布半　表………丈×5　裏………丈×4

ハ、五布　表………丈×5　裏………丈×5

鏡蒲團　表………(仕上丈－出袘×2＋縫代3cm)×4　裏………(仕上丈＋出袘×2＋縫代3cm)×5

(4) 標附け方

四布及五布蒲團の場合表裏の布幅に差のある時は縫代で加減して表裏の布幅を揃へる。

(5) 縫ひ方

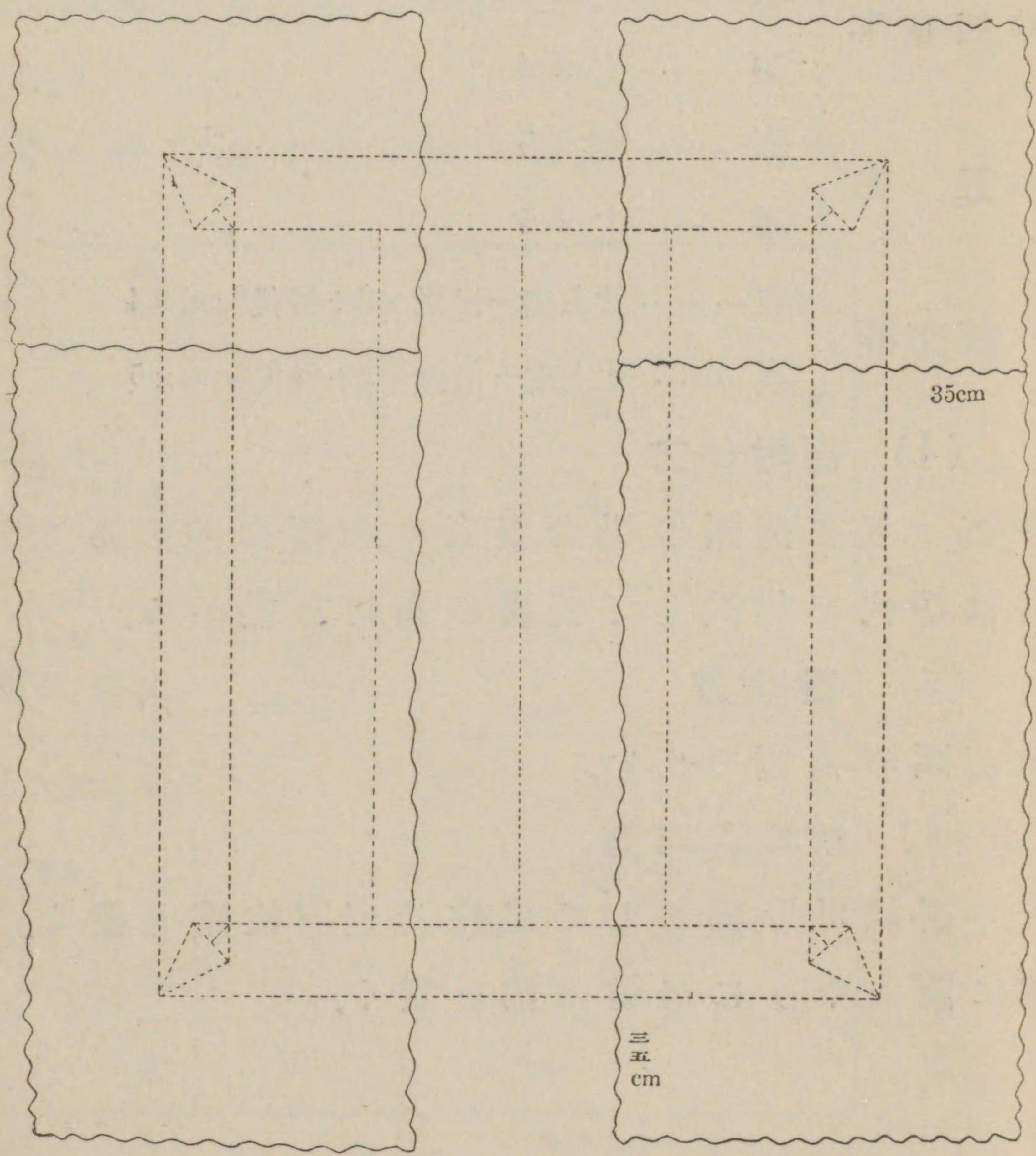
敷蒲團の要領でよい。

(6) 綿の入れ方

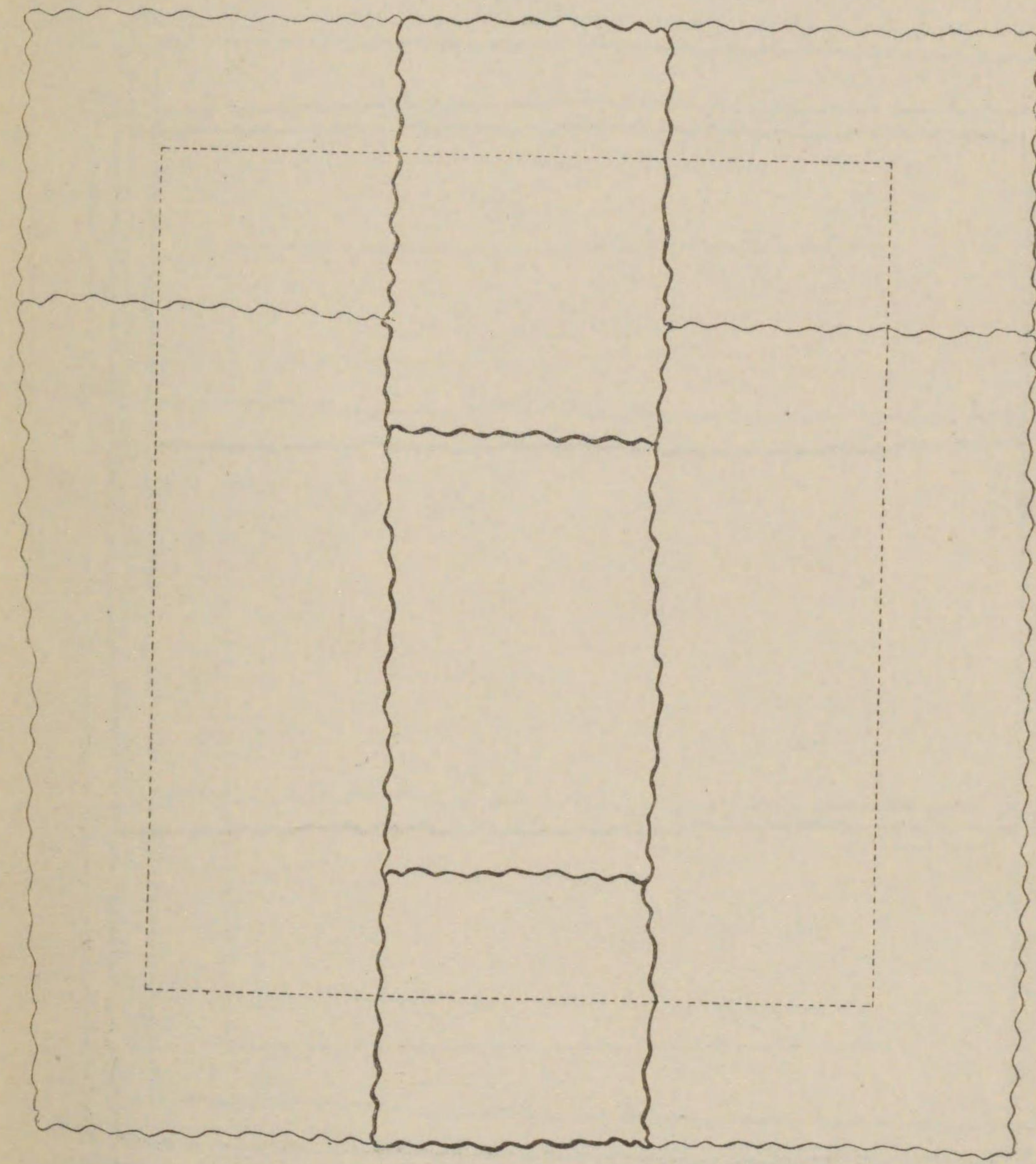
先づ掛綿足し綿として三枚乃至四枚殘し置く。次に圖のやうに最初の綿を置く。

(一)

一枚目の綿のおき方　其の一

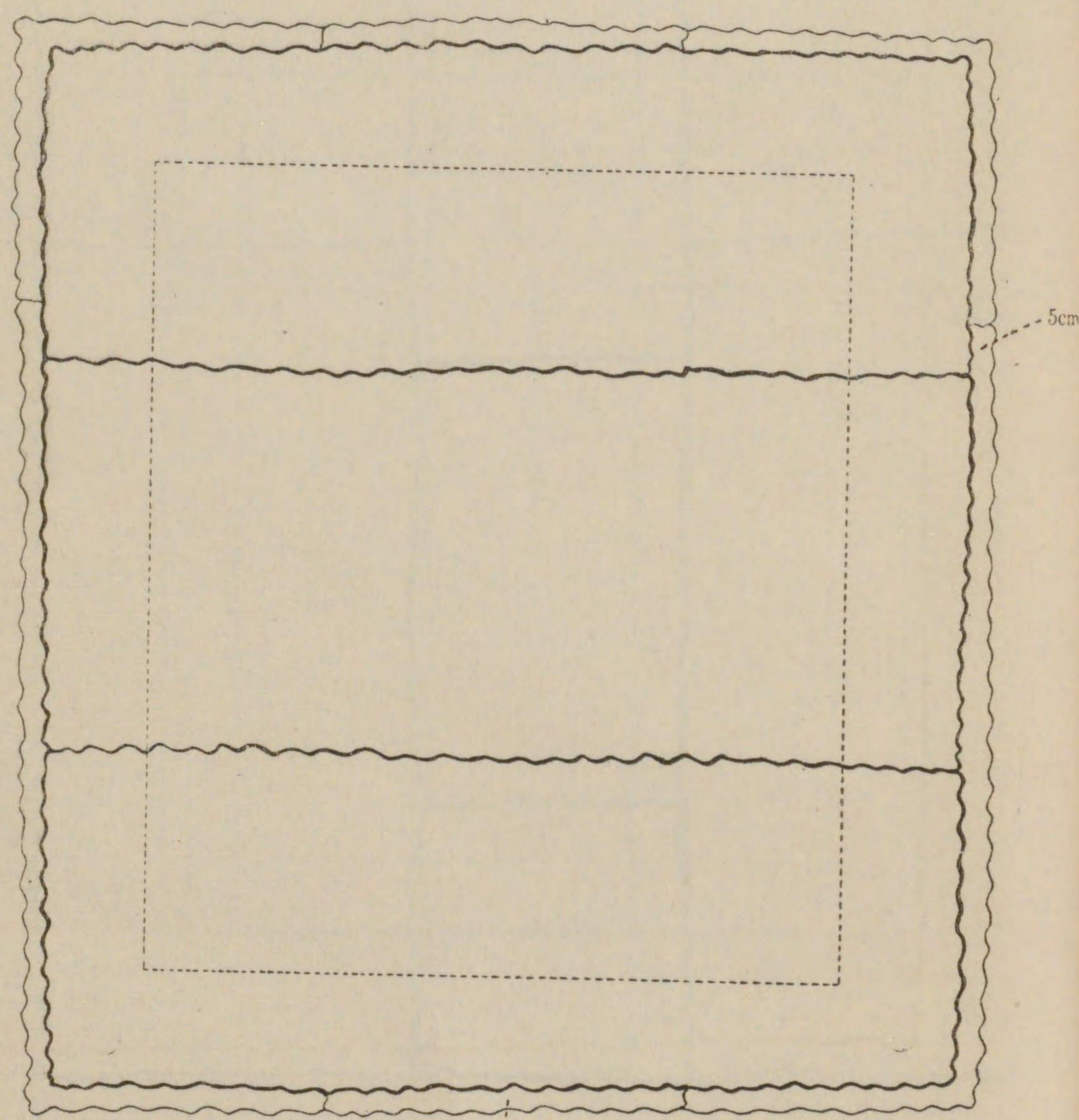


其の二

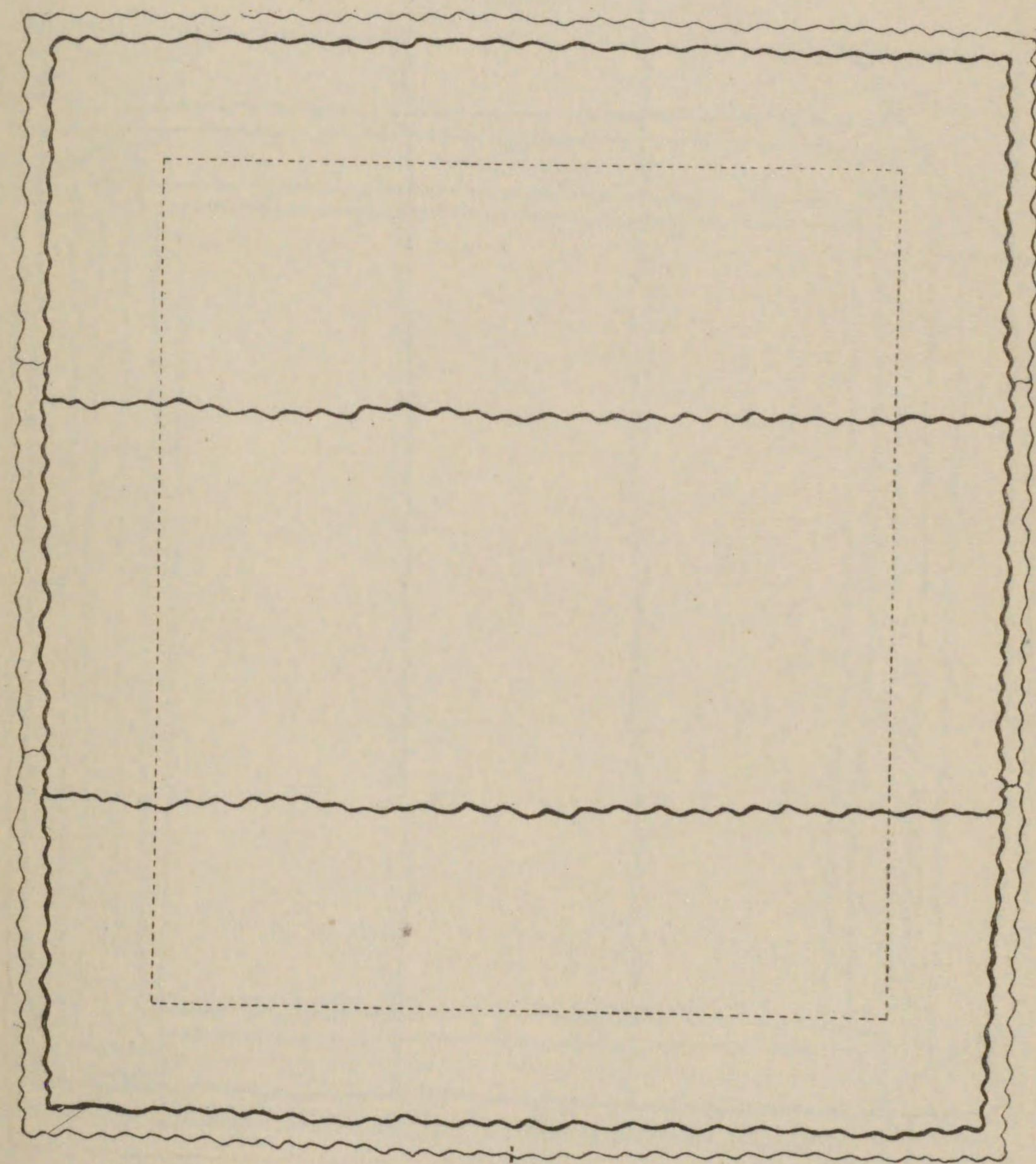


以下綿の重ね方は二、三、四、五圖のやうに敷蒲團の要領で重ねる。

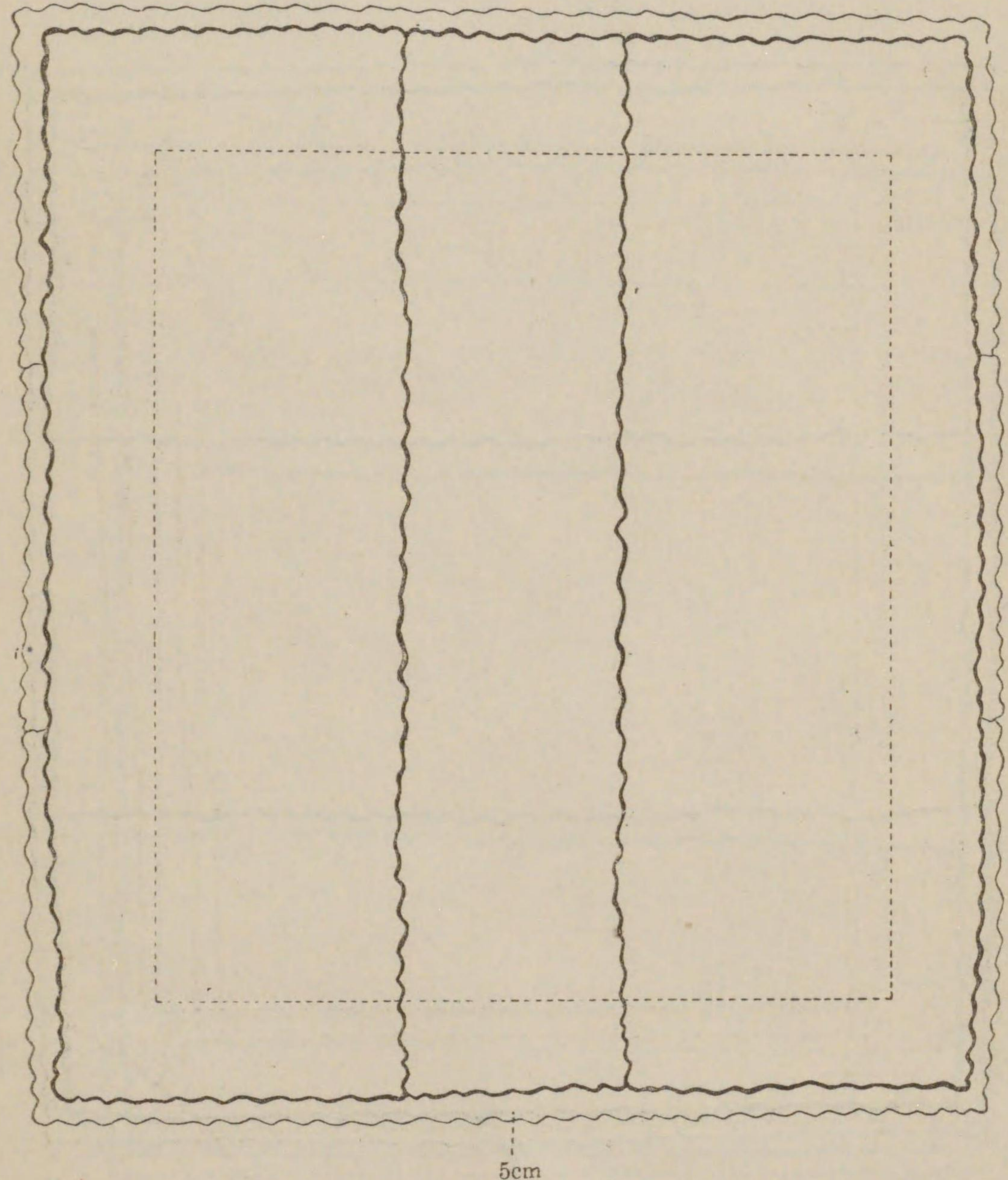
(二)



(三)



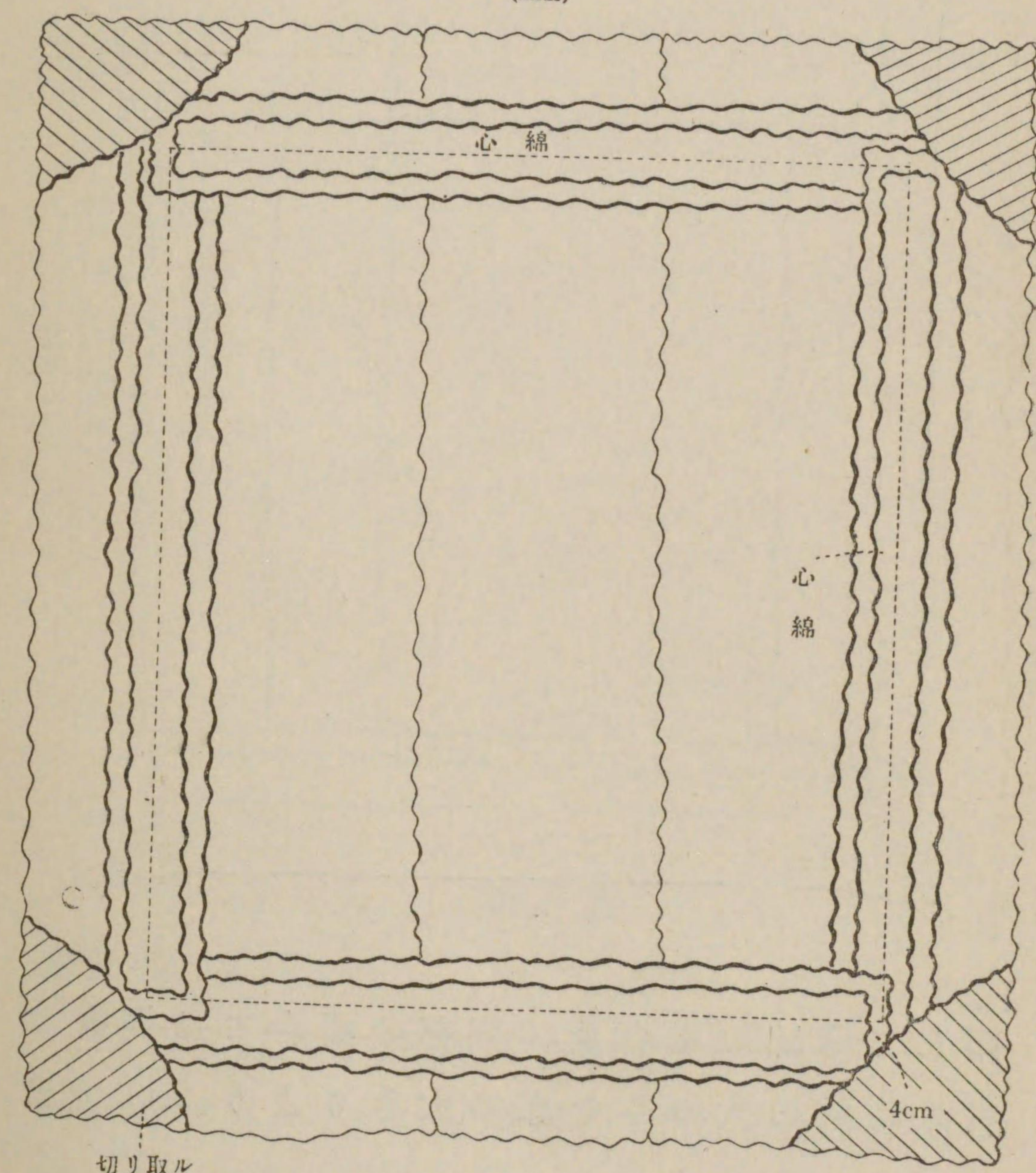
(四)



心綿

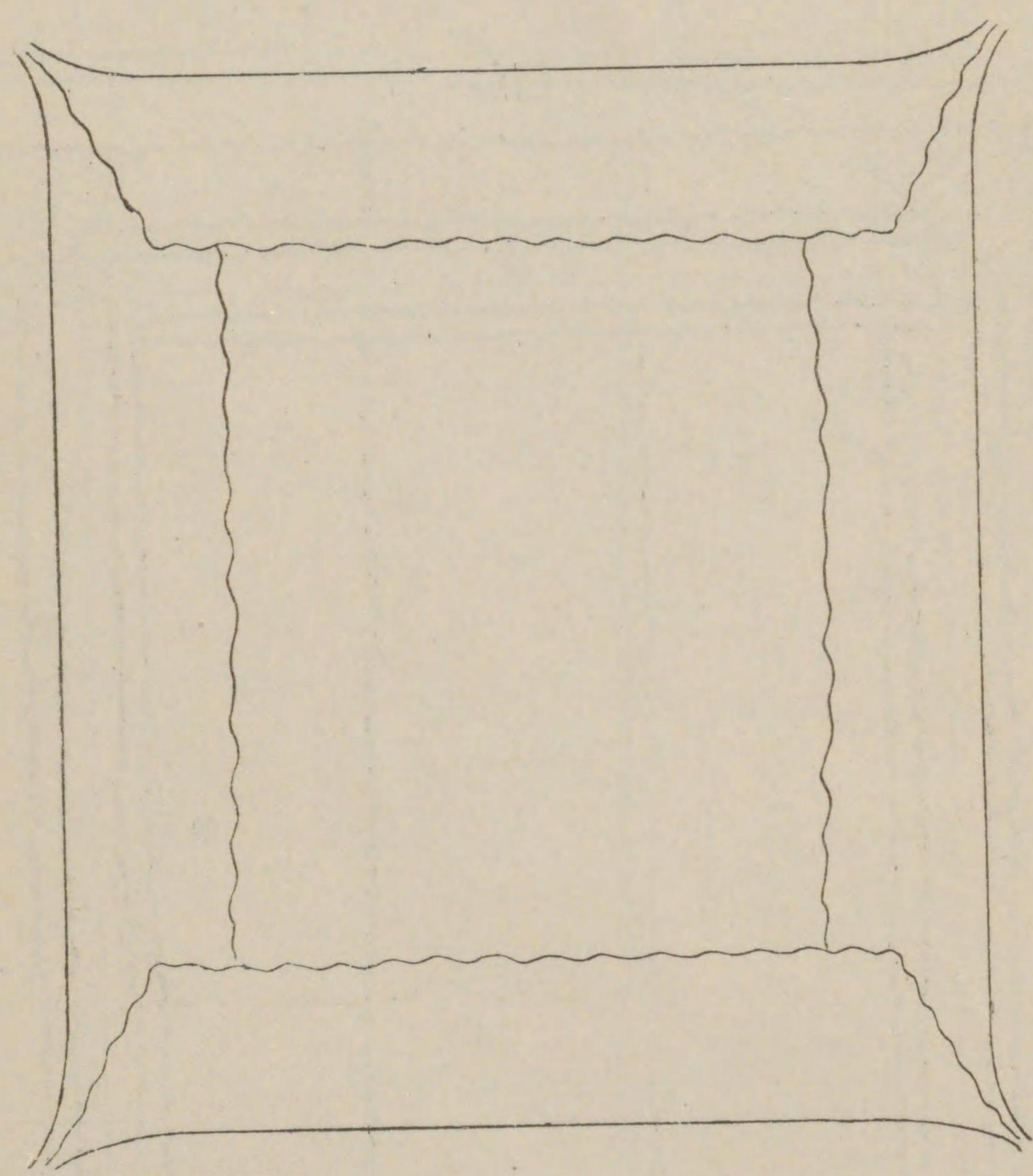
周圍に 15cm 幅と 10cm 幅位の心を圖のやうに入れる。

(五)



周圍の綿の折り方

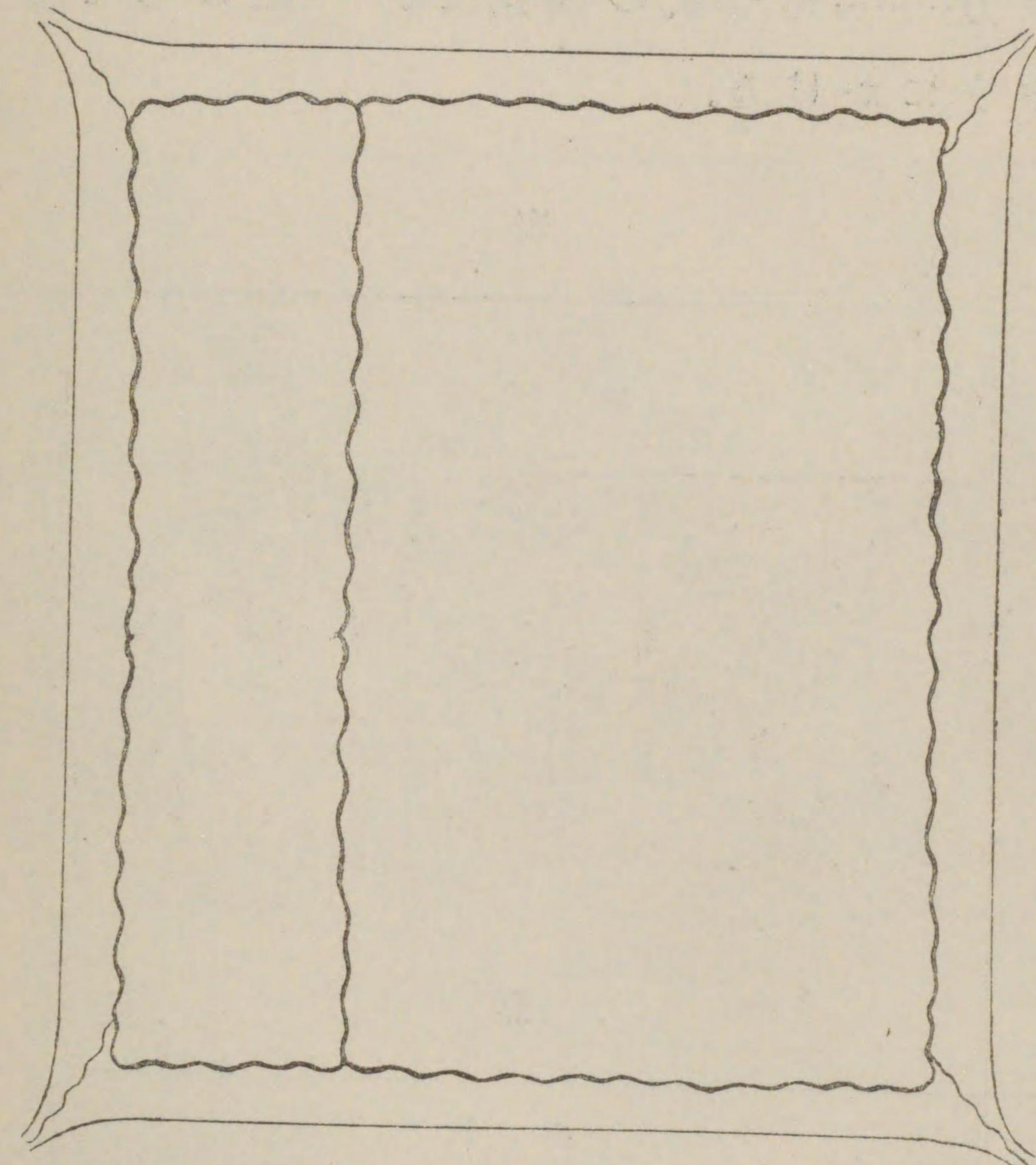
（六）



而して薄綿の場合及び絹布の場合には周圍を折る時綿の大きさを布の大きさより 2cm 位出るやうに大きくする。

掛け綿のおき方

（七）



(6) 返し方　絎け方

敷蒲團に同じ。

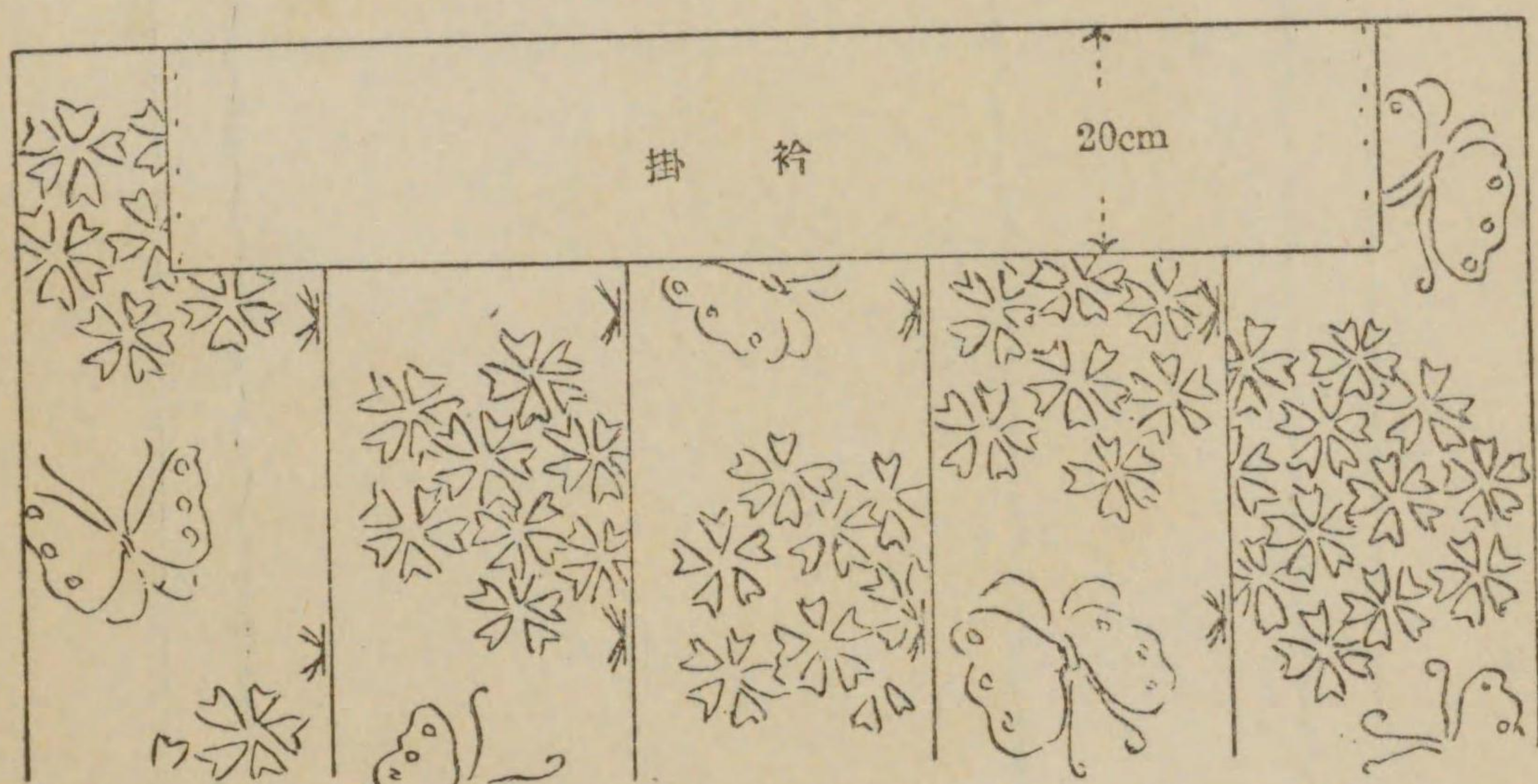
(7) 引き合ひ及びとぢ方

引き合たゝき方は敷蒲團の要領でよい。とぢ方は仕上げ圖參照。(41頁より43頁まで)

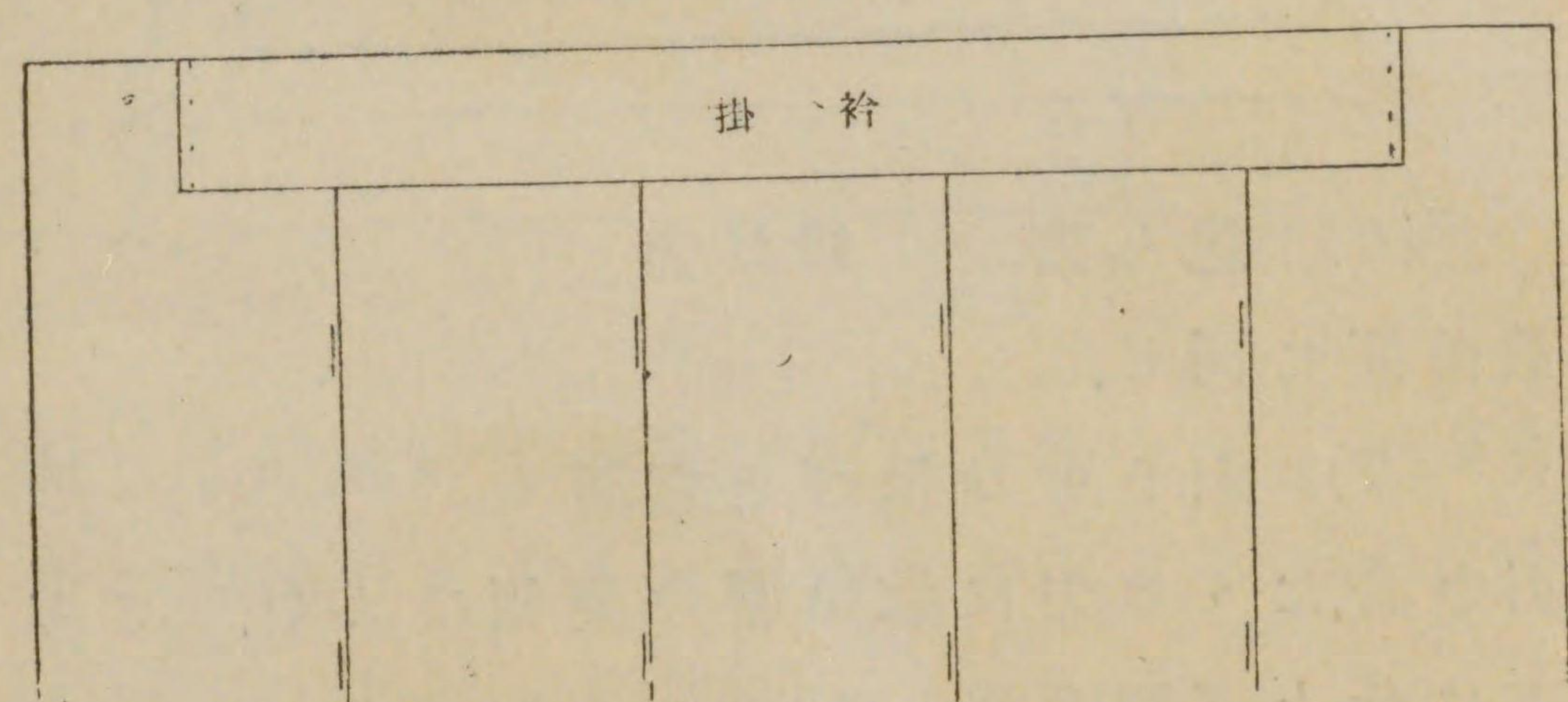
（8） **掛衿**

掛け方………先づ丈の周圍を抑へ縫にして下圖のやうにかける。

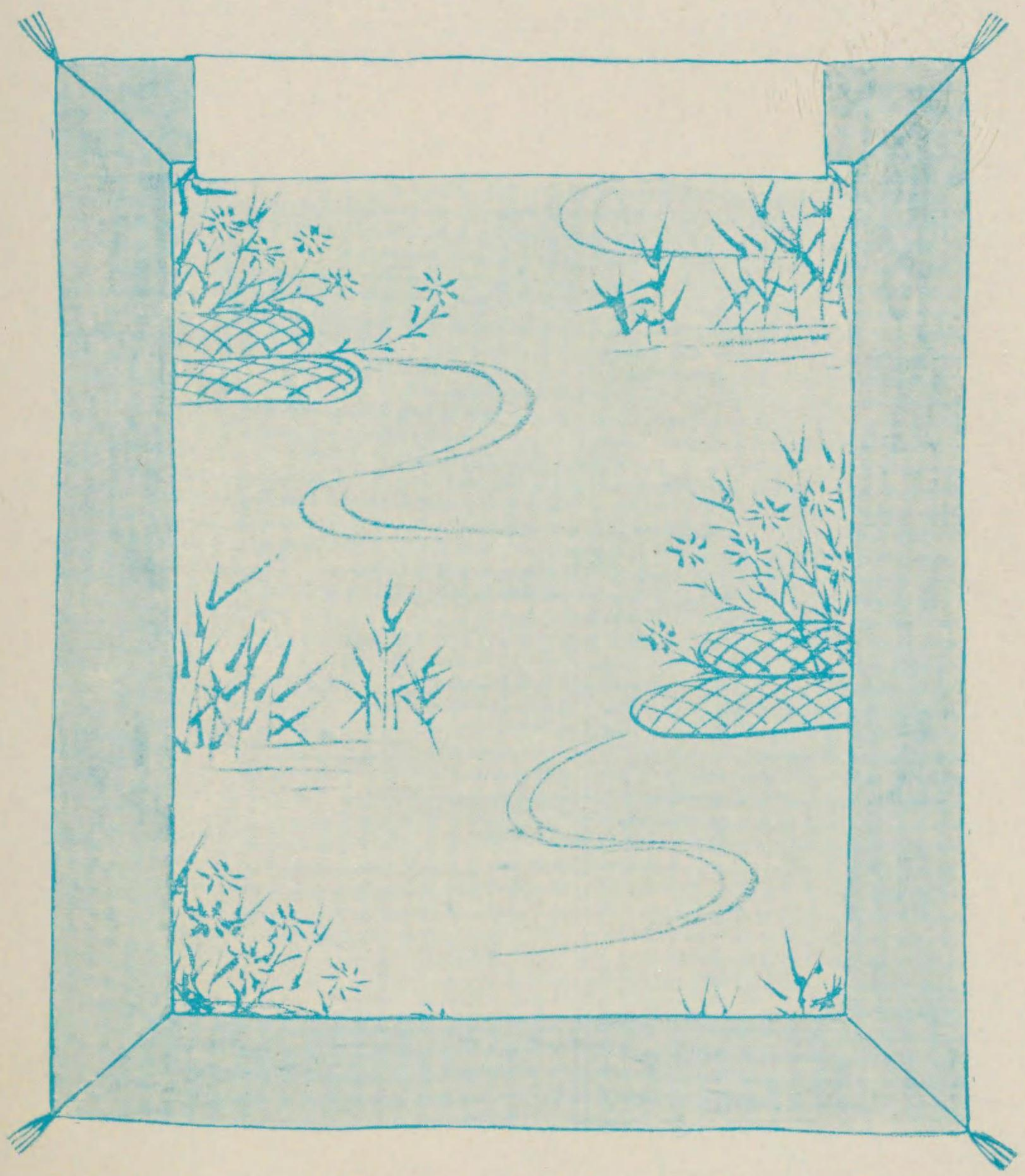
表



裏



附第一
夏蒲團



(1) 地質

主として麻が用ひられるがリンネット手拭地、絽、タオル等も使用される、但しタオルは二枚縫ひ合せ、綿を入れない。

裏地は麻又はリンネットが多く色は水色の如き涼しい色を用ひる。

(2) 仕立上寸法及び綿の目方裁ち方

大サ		四布	三布半	三布
幅（布數）	表	四布	三布半	三布
	裏	四布	三布半	三布
丈		160	155	150
綿の目方		150g附 8枚內外	150g附 6枚內外	150g附 5枚內外
鏡蒲團布數	表	…………	三布	…………
	裏	…………	四布	…………
掛衿	幅	並幅位		
	丈	100cm		

（3） 裁ち方　縫ひ方

裁ち方、縫ひ方は冬物の蒲團の要領でよい。

（4） 綿の置き方

薄綿であるから最初の綿を置く場合に、布の周圍より出す分を20cm位とし、又折り返す時には布より1cm位大きく折る。

その他は前述の要領でよい。

とぢ糸は白又は水色がよい。

附第二
炬燵蒲團

（1） 仕立上寸法及び綿の目方

幅　（布數）	四　布　半	四　　布
丈	幅＋10cm	
綿　の　目　方	300g附 9 枚	300g附 8 枚

（2） 綿の入れ方

掛綿、足し綿の分として二枚殘しおく、次に最初の綿を置く場合に布の周圍より30cm位出しておく。又中央に一枚多く入れる。

その他前述の要領でよい。

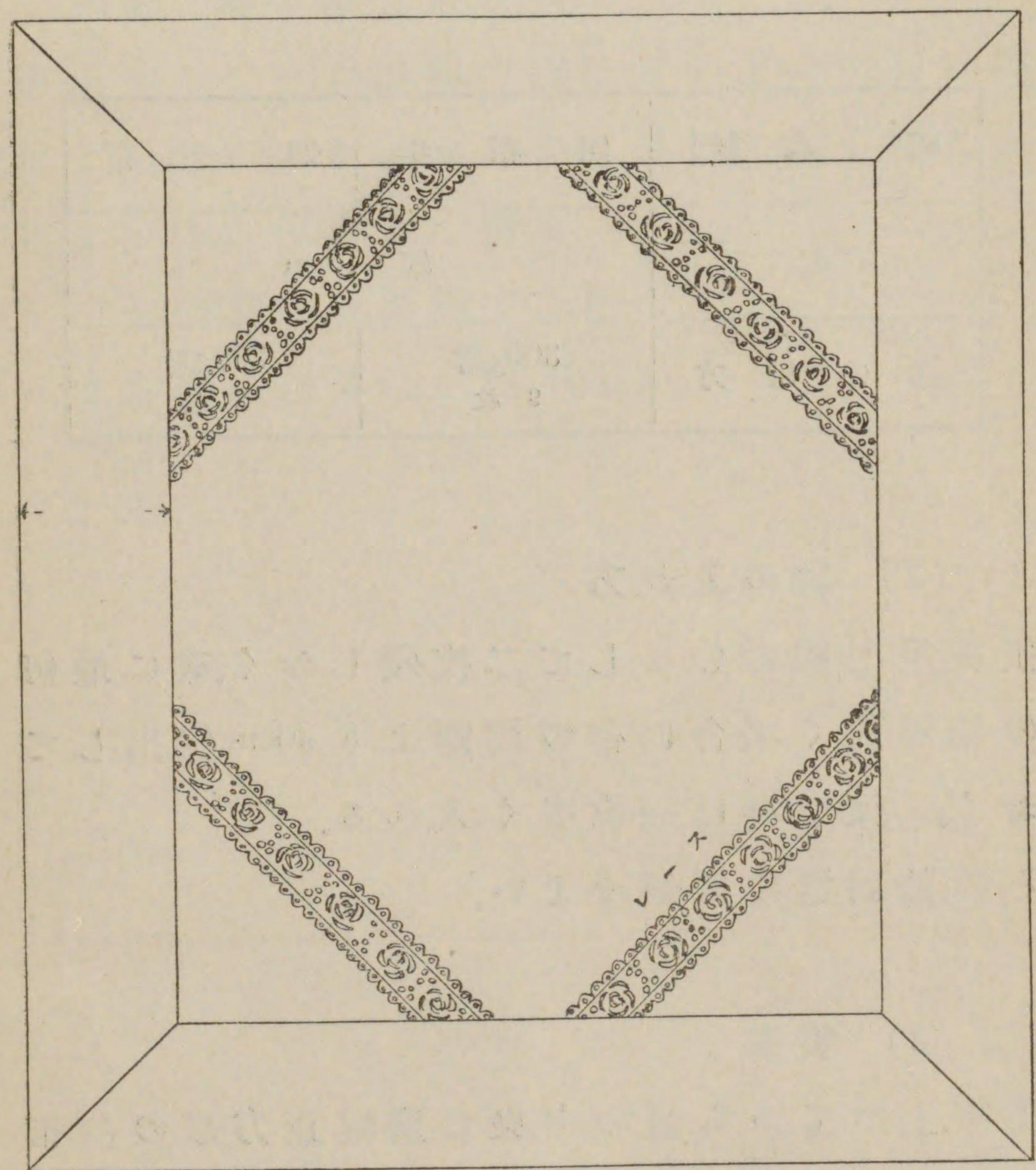
（3） 當布

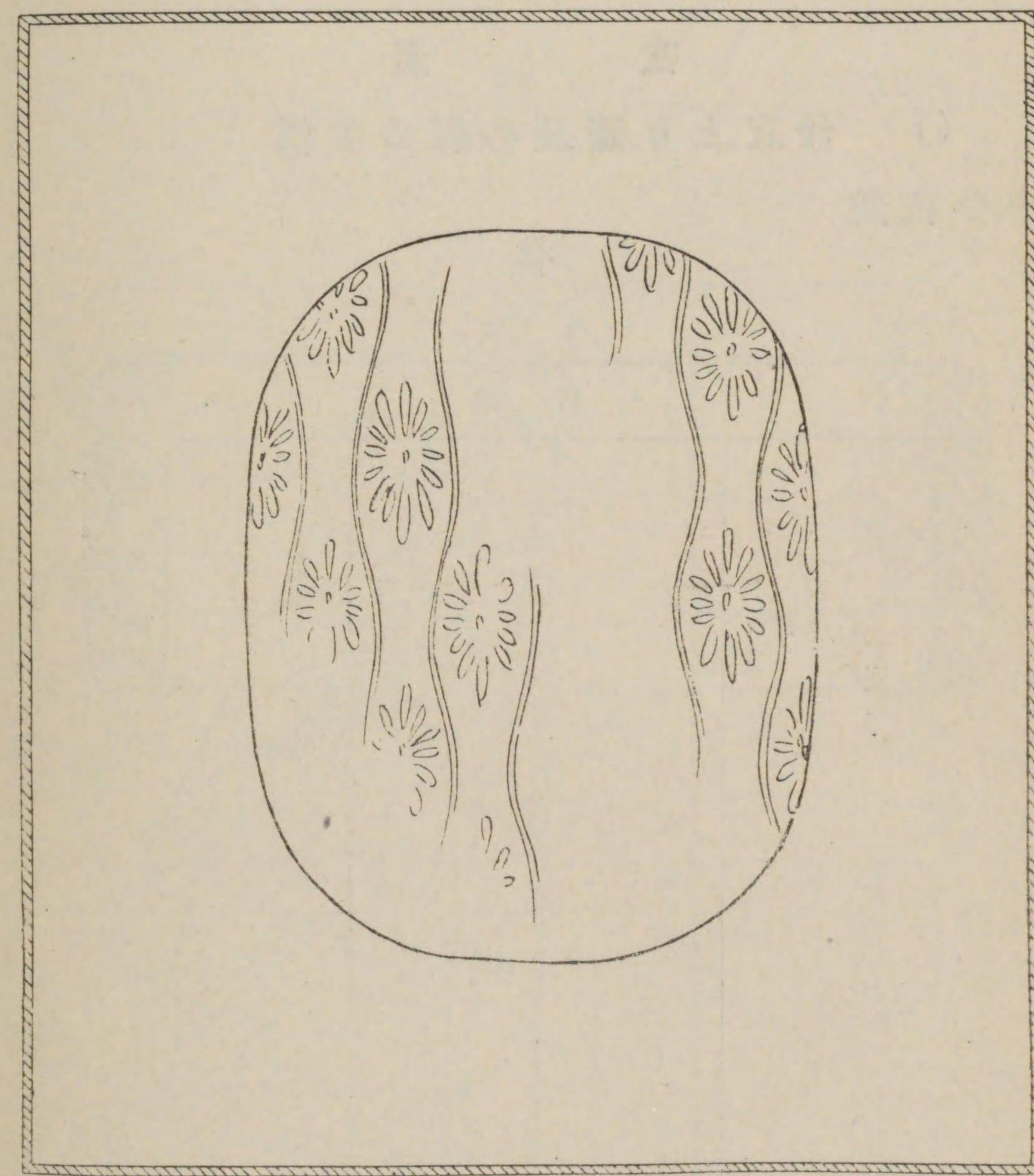
出來上つてから裏の中央に廣幅正方形の白布の當布をつけておく。

附第三

カバー

(1) 仕立上り圖





緣　　布

(2) 地質

キヤラコ

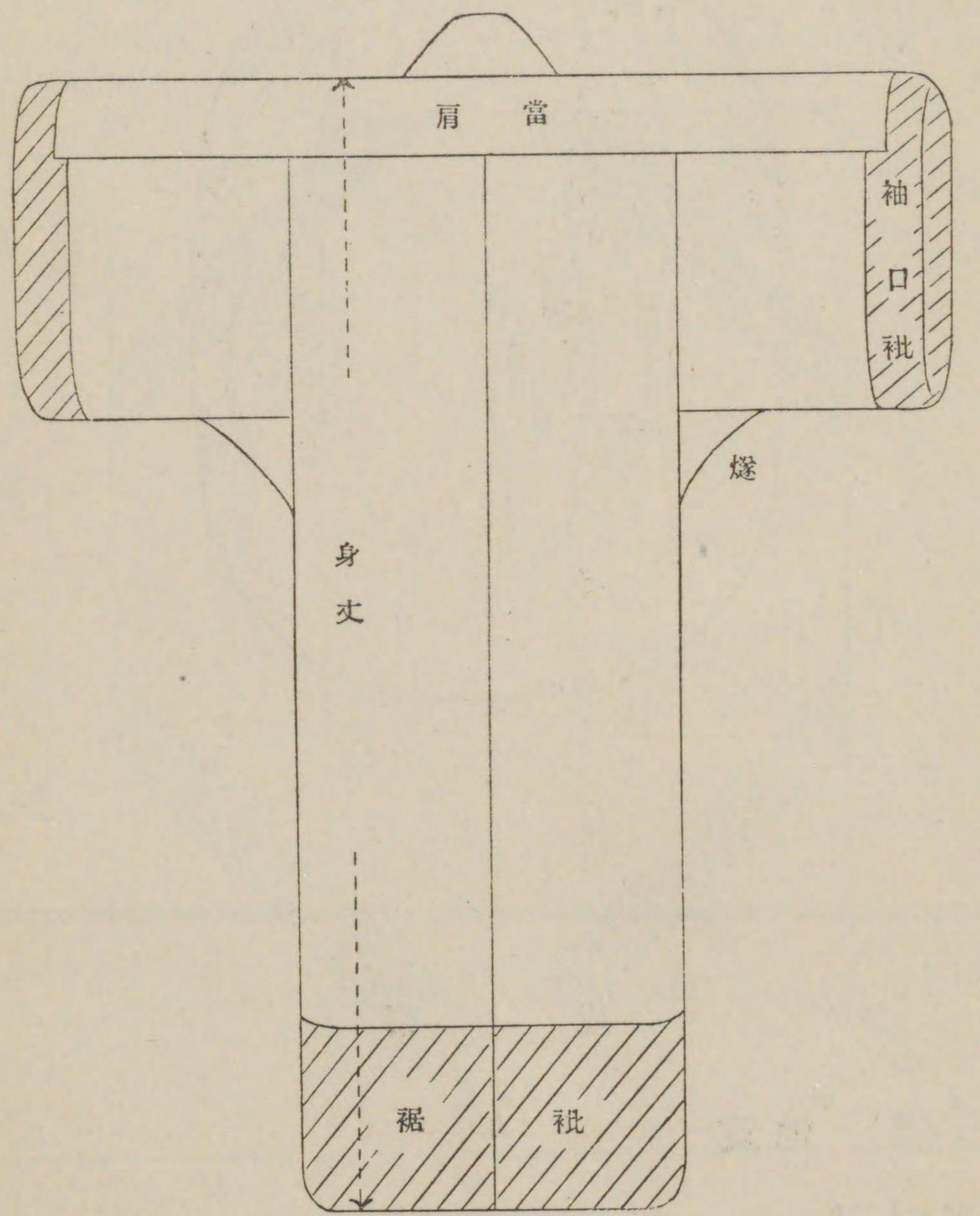
第三節

夜着

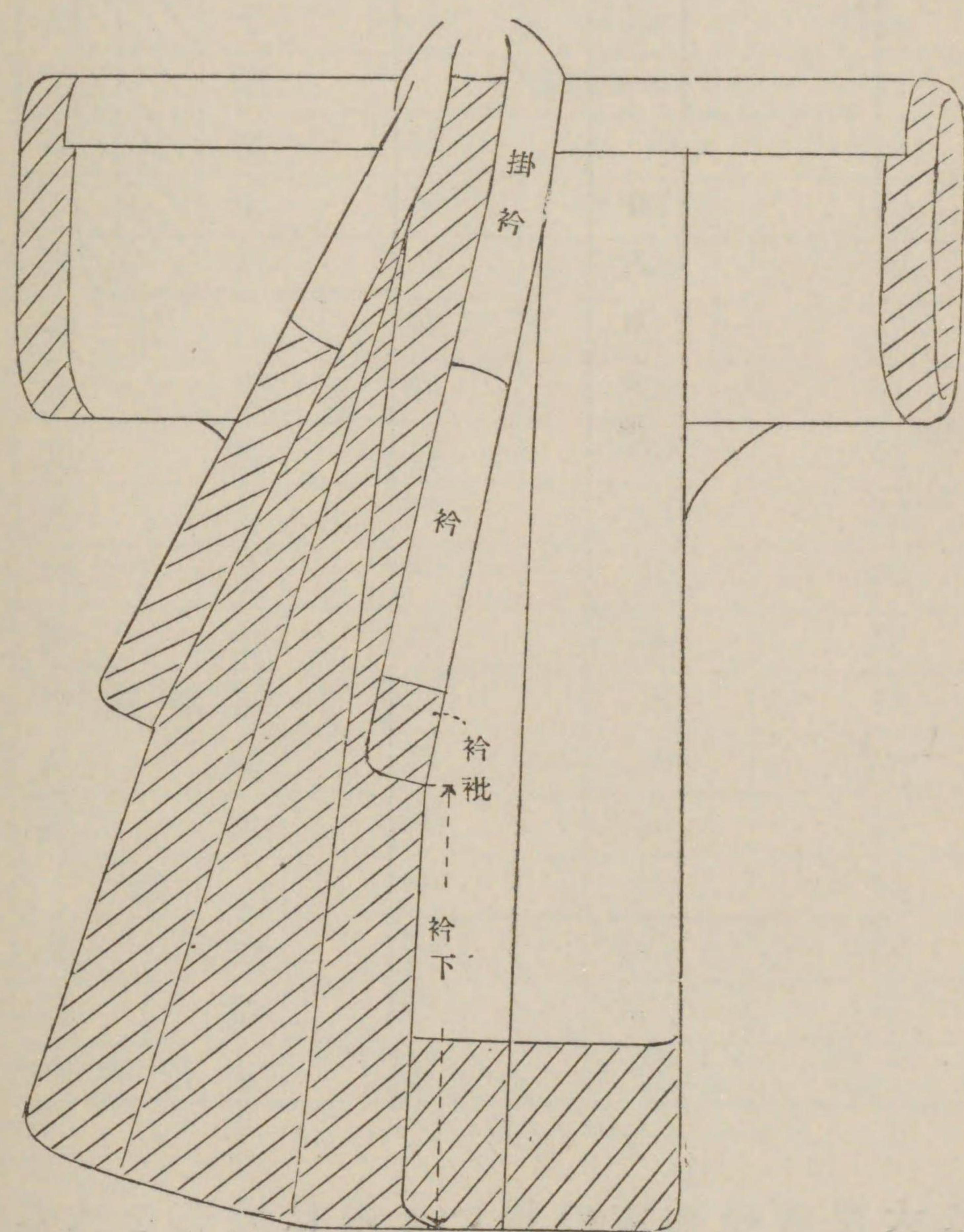
(1) 仕立上り圖及各部の名稱

中、小夜着

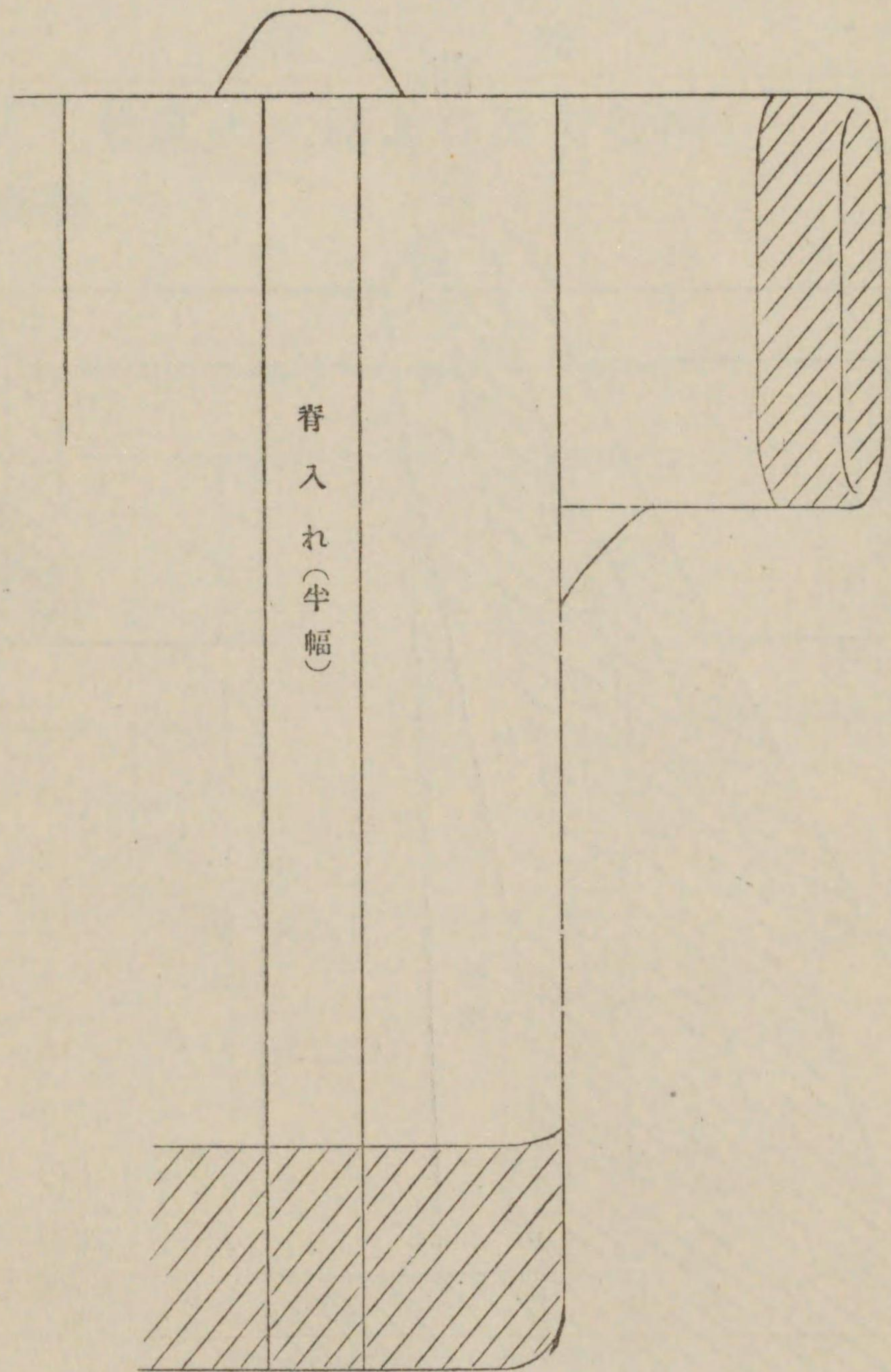
後



前



大夜着



なほ大夜着の袖丈の長いものは燧布を入れないこともある。

(2) 普通仕立上寸法及び綿の目方

種類 / 各部	大	中	小
袖丈	65cm	55cm	53cm
袖幅	並幅イツパイ		
袖口袘	15	9	8
身丈	200	180～190	170
後幅	32	32	32
脊入れ	15	……	……
前幅	32	29	27
衽幅	18	16	15
衽下り	25	23	23
衿下	80	70	65
衿袘	20	15	12
衿肩明(裁切)	脊入れ 10 身頃 6 } 14	13	12
衿幅	13	10	9
裾袘	35	30	25
燧	15	15	15
掛衿	130	130	130
肩當	150	130	130
綿の目方	300g附 25枚	300g附 13～15枚	300 附 9枚

夜着には大、中、小あり。なほ衽を省いて衿を下までつけたもの、又は袖をつけないものもある。

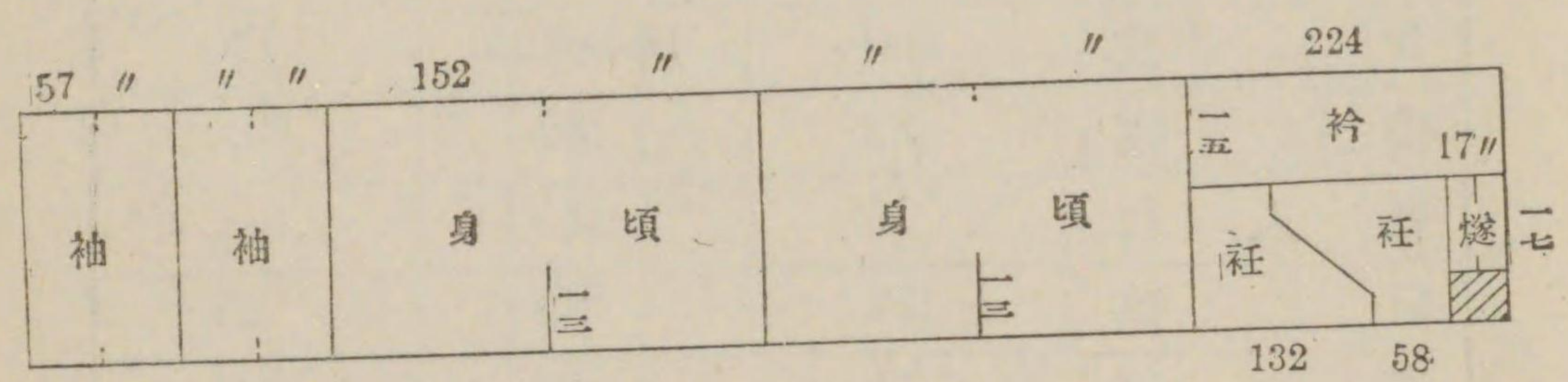
(3) 裁ち方　積り方

1. 中夜着

表

(イ)仕立上寸法の割合に用布の短いもの。

並幅　　1060cm　(約一反)

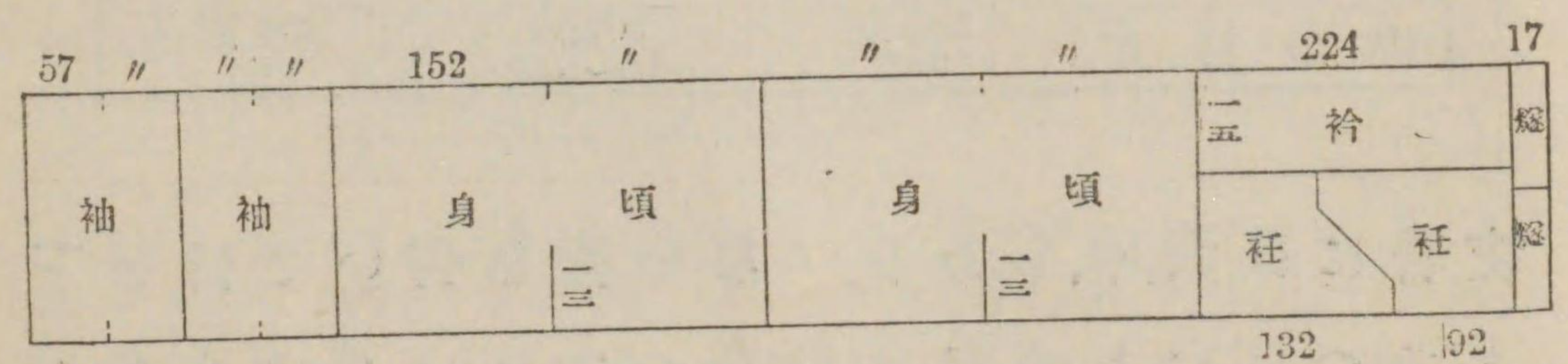


仕上身丈－衴＋縫代＝裁切身丈
180　－30＋　2　＝　152

(仕上身丈－衿下－衿衴＋衿肩明及びゆるみ＋接代)×2＝裁切衿丈
(　180　－70－15＋　　15　　＋2)×2－　224

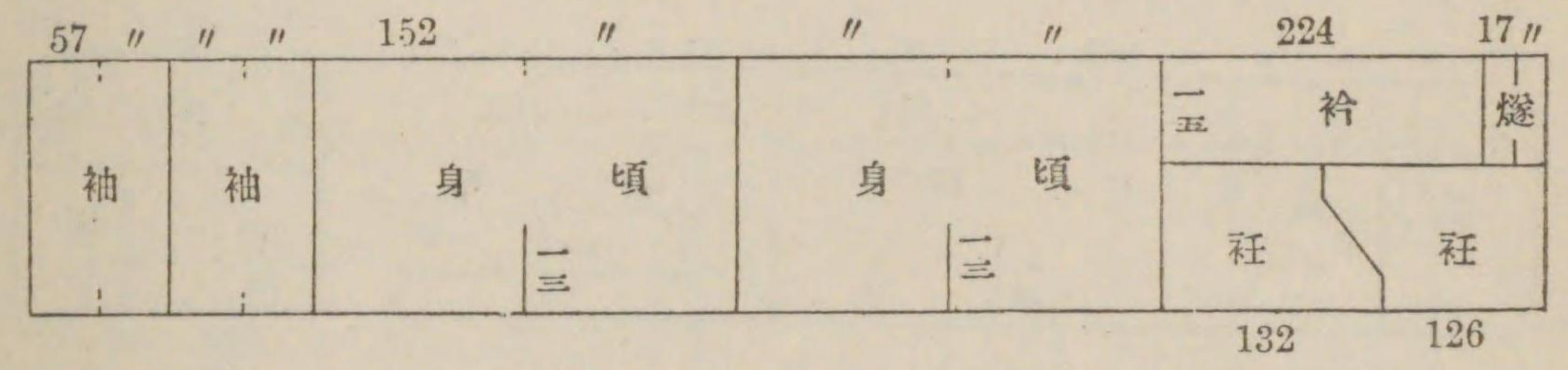
裁切袖丈×4＋裁切身丈×4＋裁切衿丈＝總用布
57　×4＋　152　×4＋　224　＝　1060

(ロ)用布充分の時　並幅　　1077cm



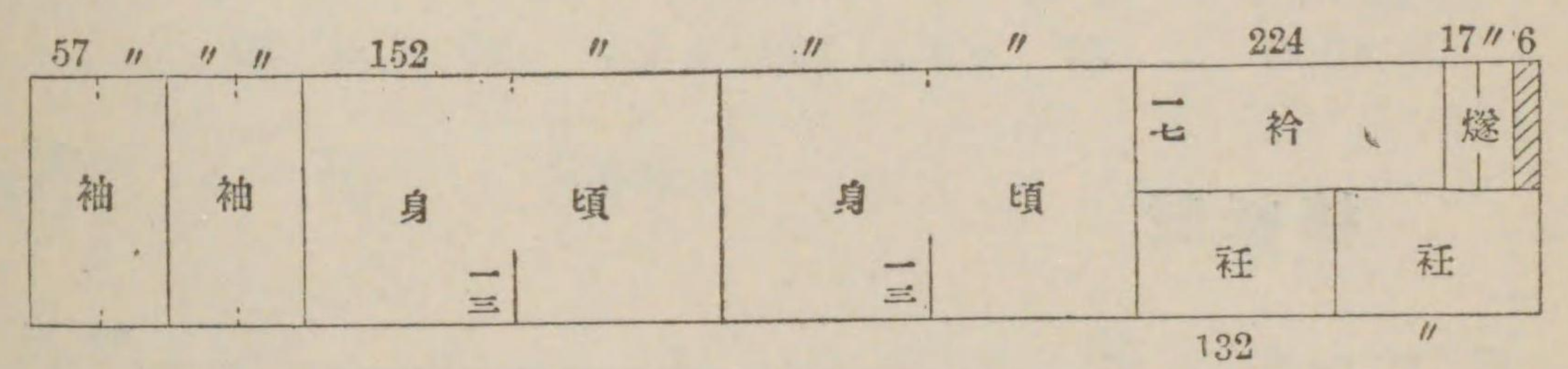
(ハ)用布充分の時

並幅　　1094cm

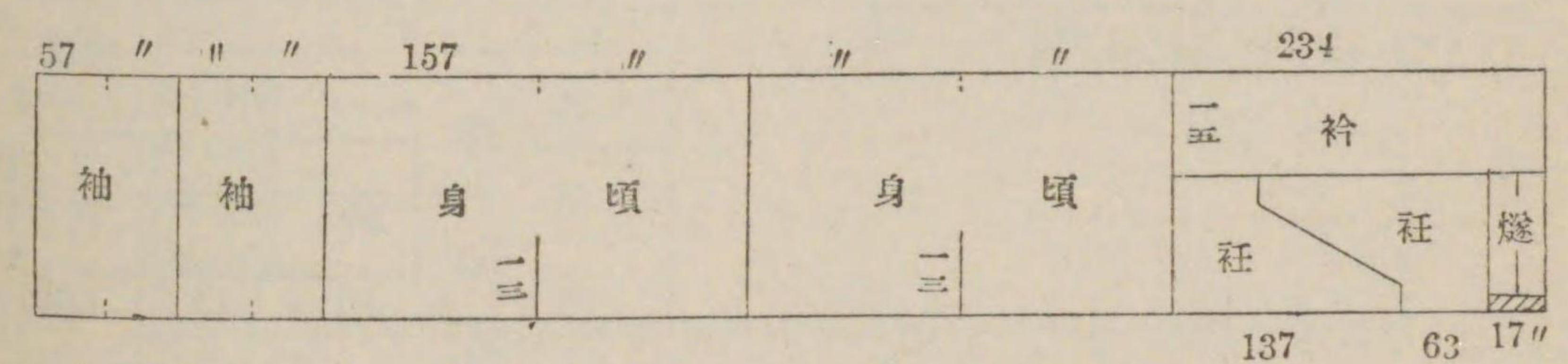


(ニ)棒衽　　並幅　　1100cm

夜着は衿の中の縫代が少い方がよいから多く鈎衽に裁つ稀には棒衽に裁つこともある。



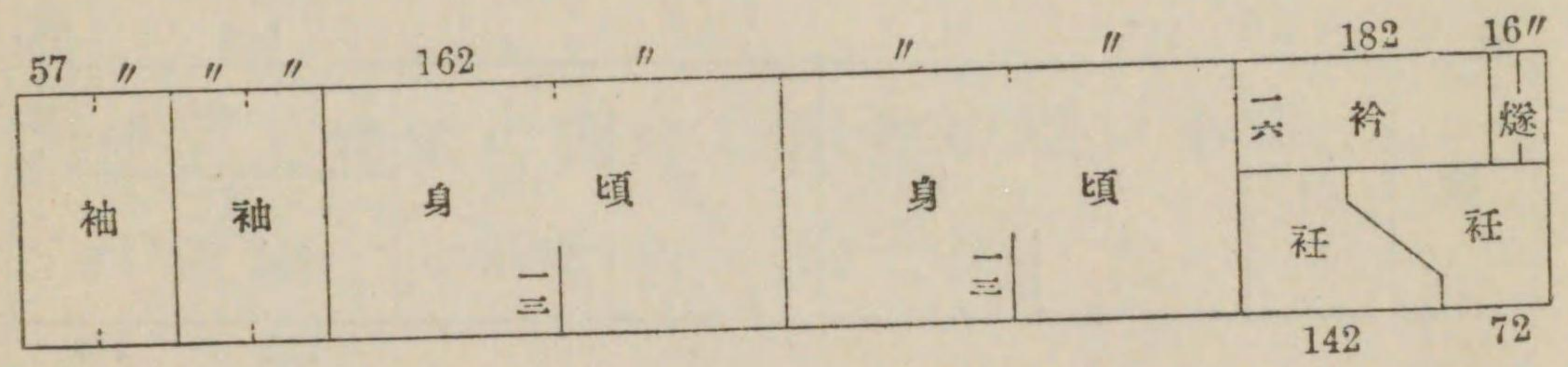
(ホ)いつぱいに裁つ場合



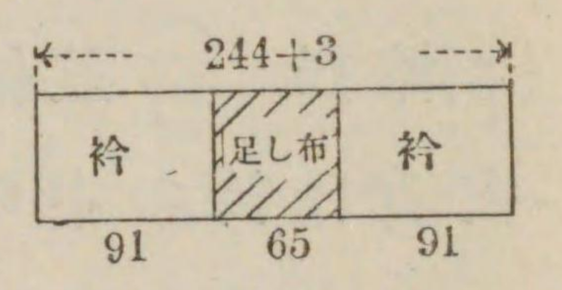
〔總用布－(袖丈×4＋衿肩明及びゆるみ×2)＋{衿衴＋(衿下－裾衴)}×2〕÷6＝身丈
〔1090　－(57　×4＋　　15　　×2)＋{15　＋(70　－　30)}×2〕÷6＝159

(ヘ)用布不充分の場合

鈎衽

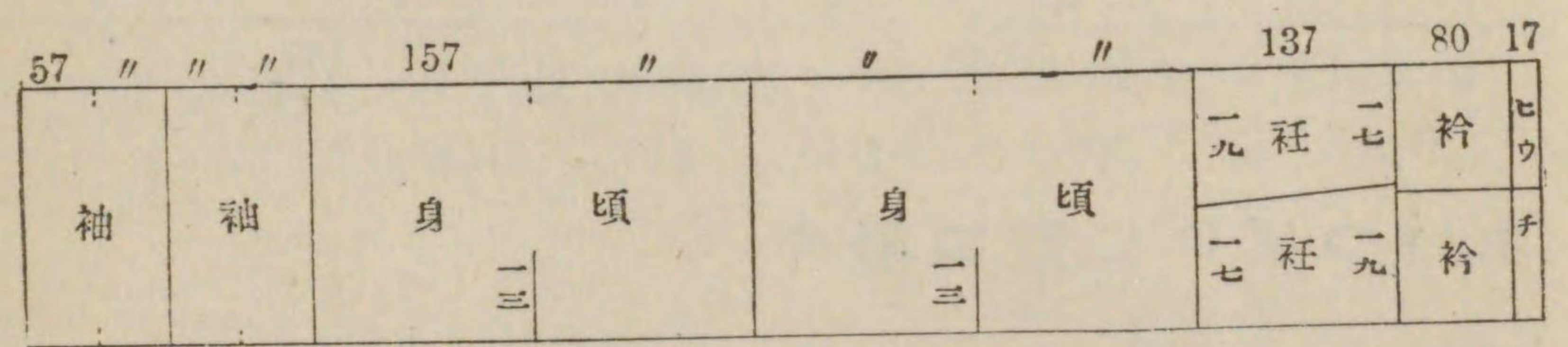


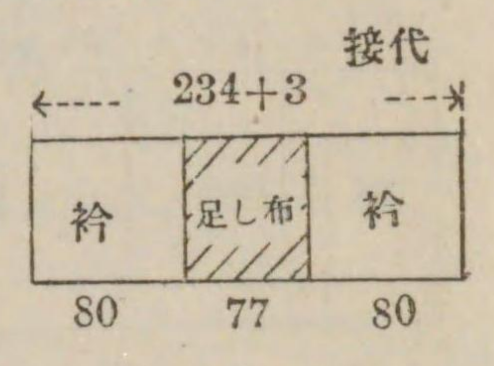
右圖のやうに衿丈の中央に別布を足す。



總用布－袖丈×4－身丈×5－衽下リ＝鈎下
1090 － 57 ×4－ 162 ×5－ 20 ＝ 70

棒衽裁

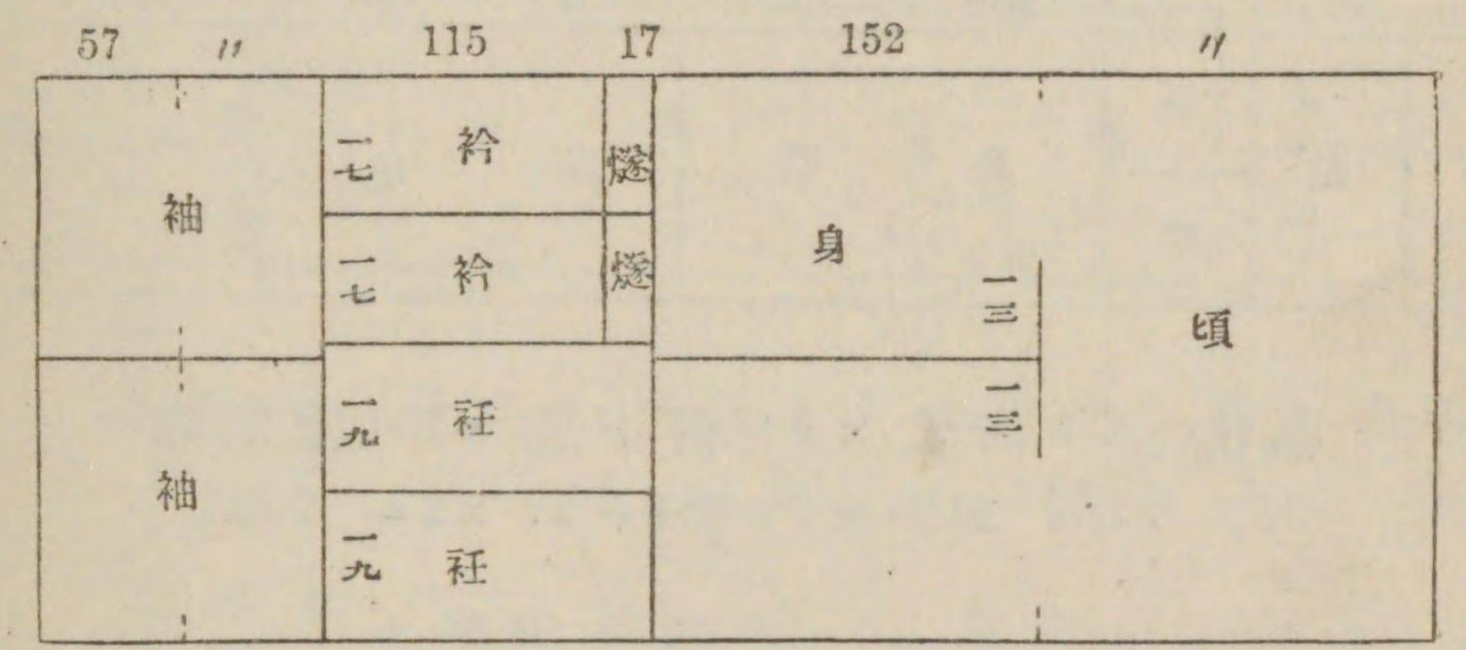




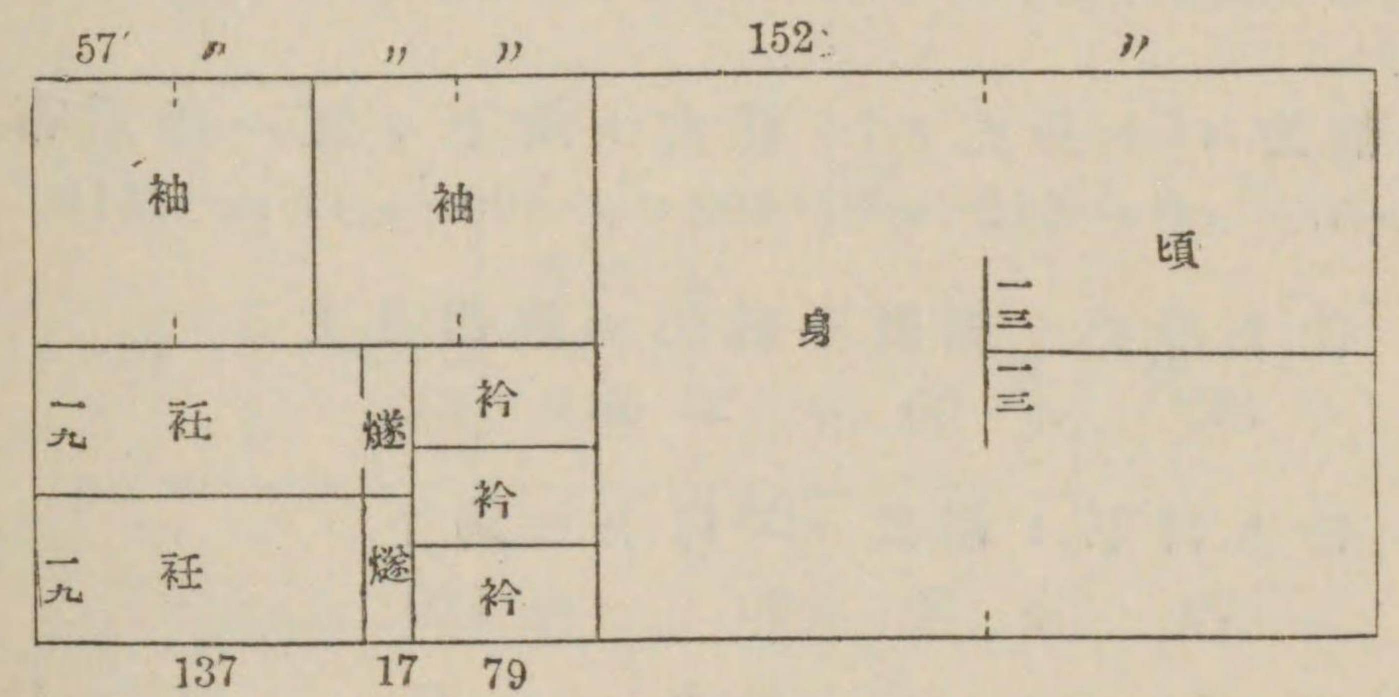
總用布－袖丈×4－身丈×5－衽下リ－燧＝衿
1090 － 57 ×4－ 157 ×5－ 20 －17＝80

廣幅物の裁ち方

(ト) 72cm 幅　550cm

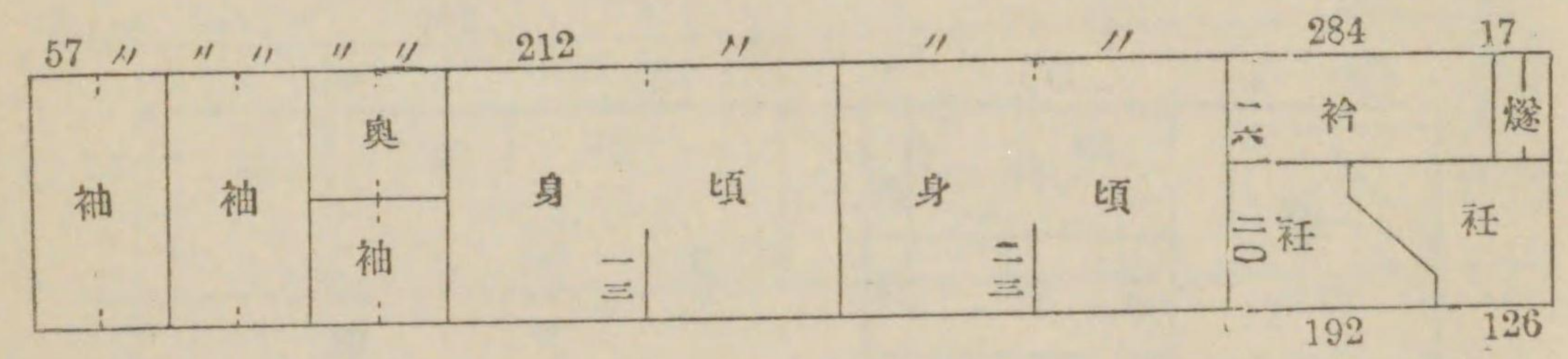


(チ) 72cm 幅　532cm



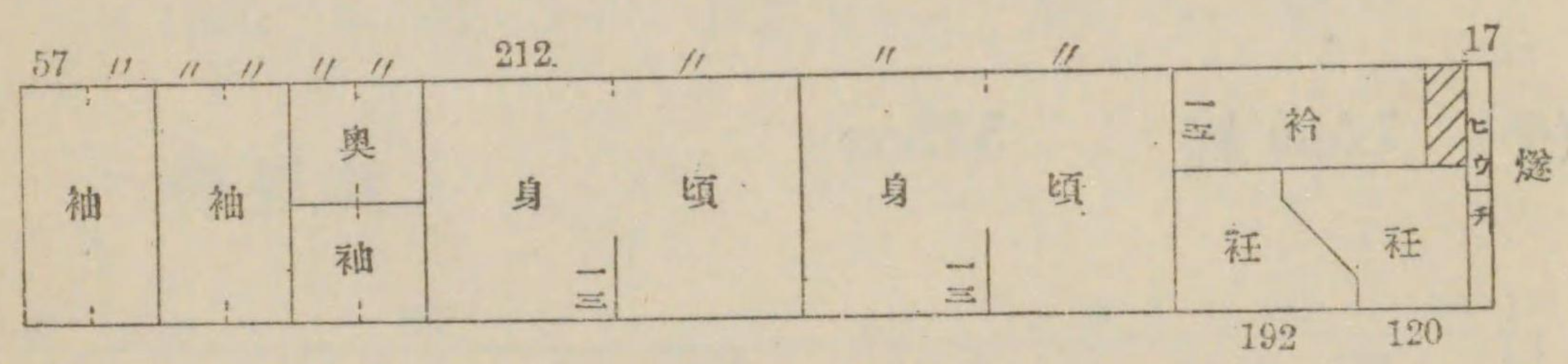
裏

(イ) 並幅　1525cm



袖丈×6＋身丈×4＋衿＋燧×2＝總用布
57　×6＋ 212　×4＋284＋ 17 ×2＝ 1525

(ロ) 並幅　1519cm



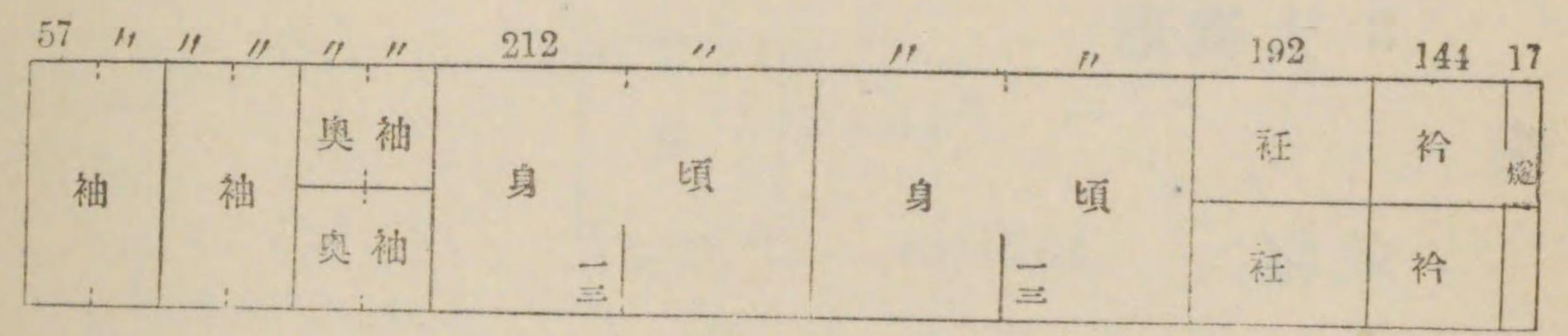
袖丈×6＋身丈×4＋衽丈＋鈎下＋燧＝總用布
57　×6＋ 212　×4＋ 192　＋ 120　＋17 ＝ 1519

仕上身丈＋裾袘＋縫代＝裁切身丈
180　＋ 30 ＋ 2 ＝　212

仕上衿下＋裾袘＋20以上＝鈎下
70　＋ 30 ＋20　＝ 120

表衿丈＋衿袘×4＝裁切裏衿丈
224　＋ 15 ×4＝　284

(ハ) 並幅　1543cm



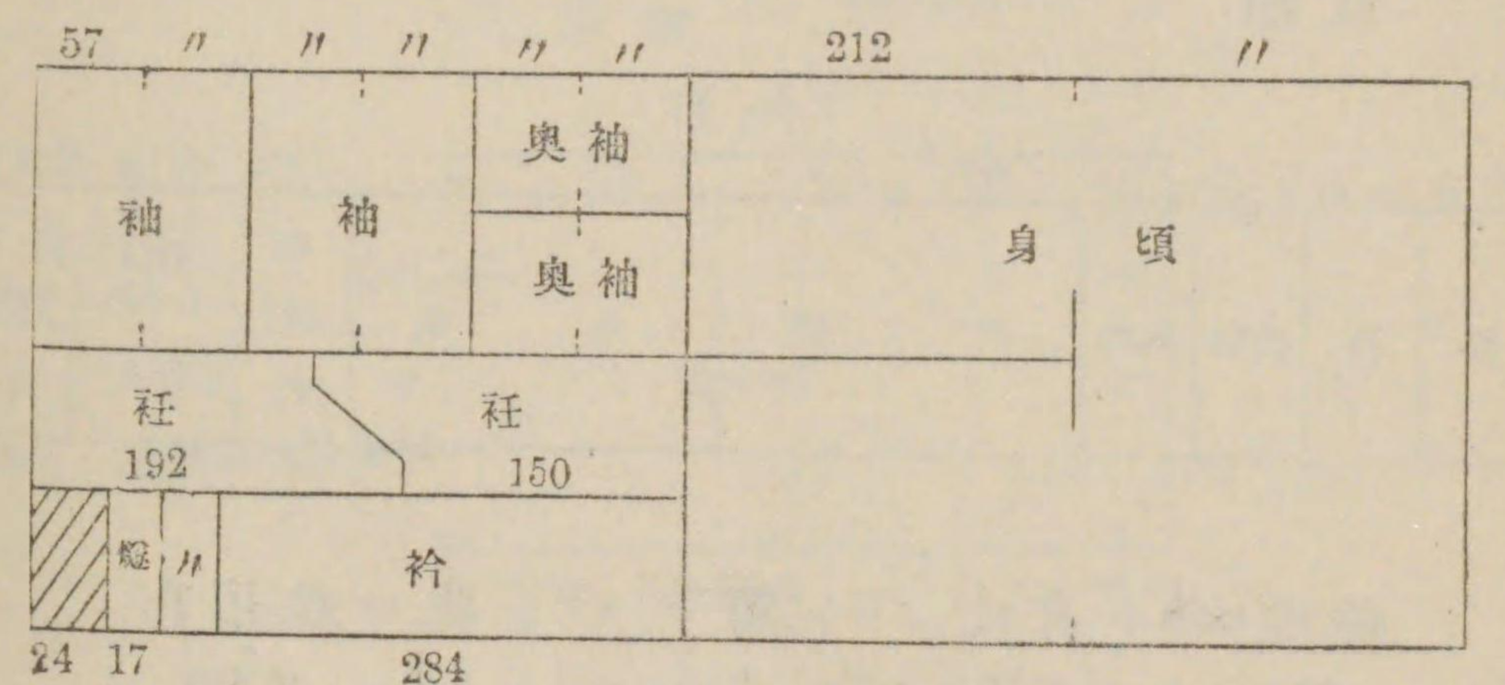
袖丈×6＋身丈×5－衽下リ＋衿丈＋燧＝總用布
57　×6＋ 212 ×5－　20　＋ 144 ＋17＝ 1543

$\frac{\text{表衿丈}}{2}$ ＋接代＋衿袘×2＝裏衿丈

$\frac{224}{2}$ ＋ 2 ＋ 15 ×2＝ 144

廣幅物にて中夜着裏裁ち方

72cm幅　　766cm



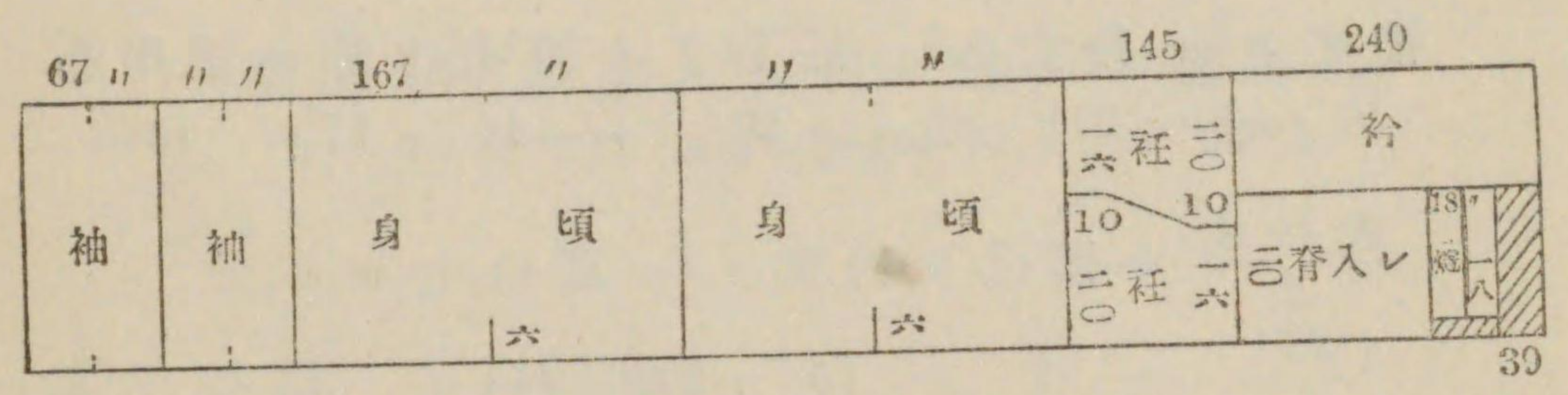
2. 小夜着

中夜着に倣ふ。

3. 大夜着

表

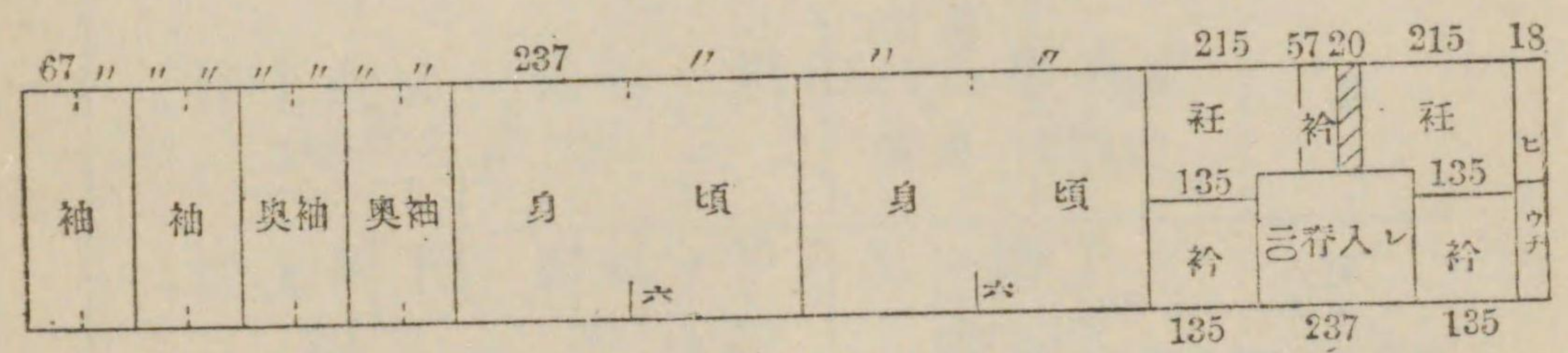
並幅　　1321cm



袖丈 ×4＋ 身丈 ×5－ 衽下リ ＋ 衿丈 ＝ 總用布
67　×4＋ 167　×5－　22　＋ 240 ＝　1321

裏

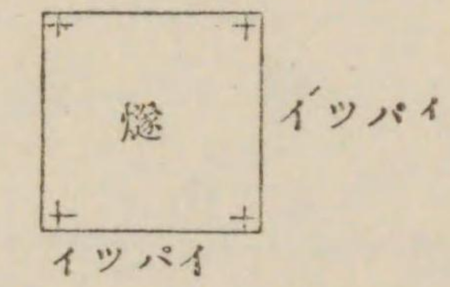
並幅　　2009cm

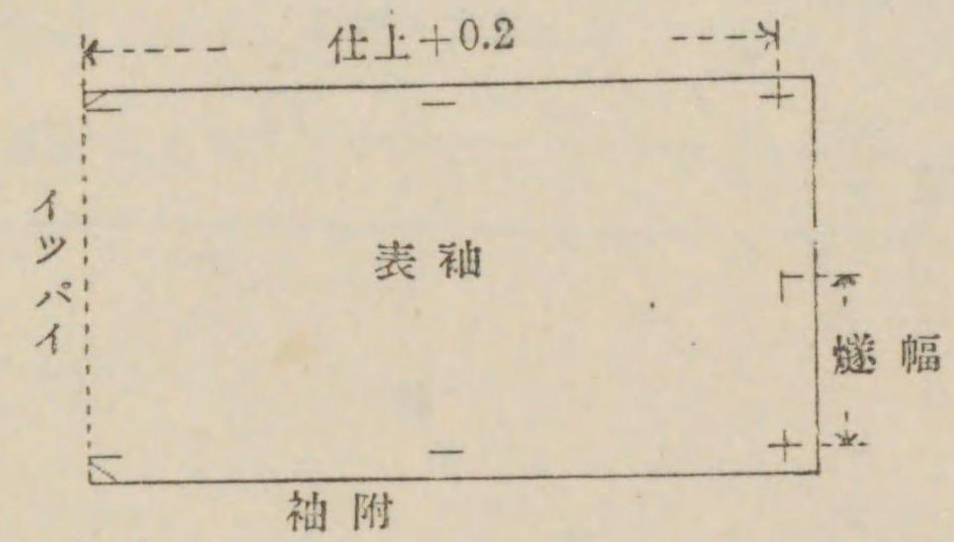


袖丈 ×8＋ 身丈 ×5＋ 鈎下 ×2＋ 燧 ＝ 總用布
67　×8＋ 237　×5＋ 135　×2＋ 18 ＝　2009

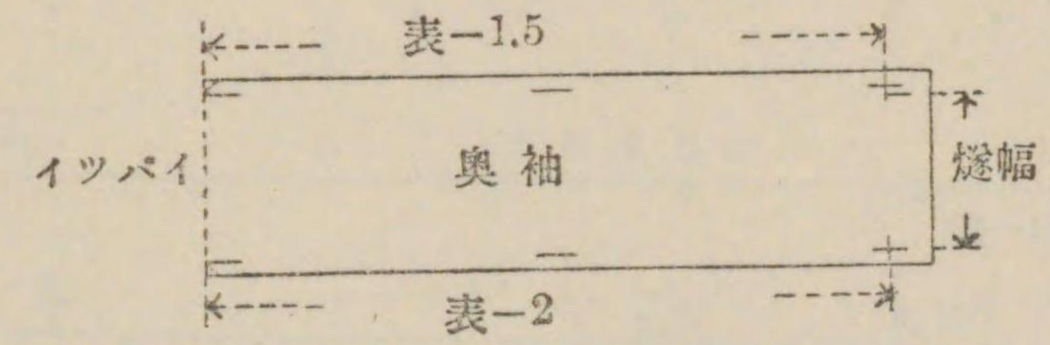
(4) 標附け方

表二枚　裏二枚

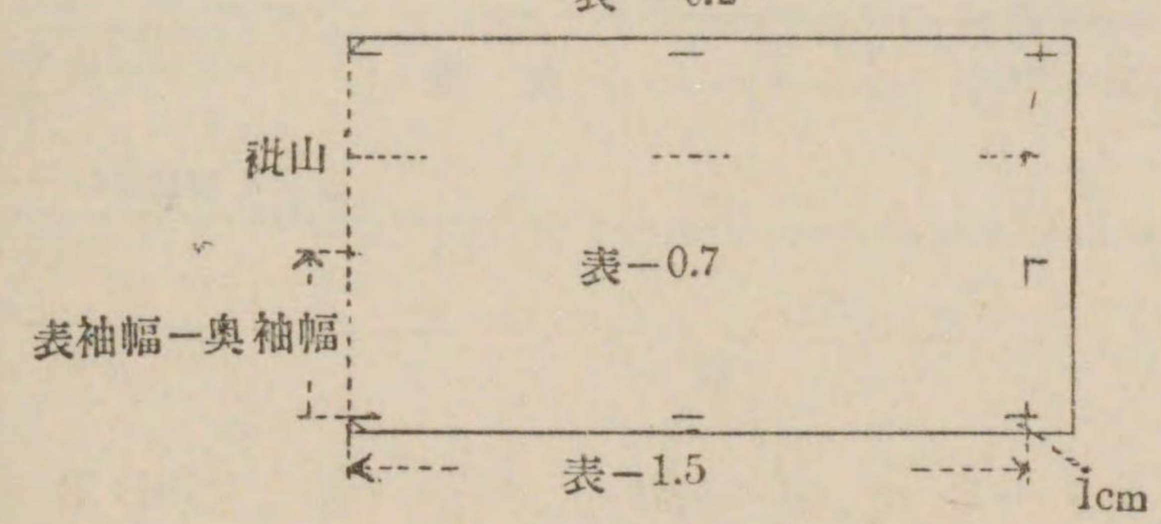




奥袖

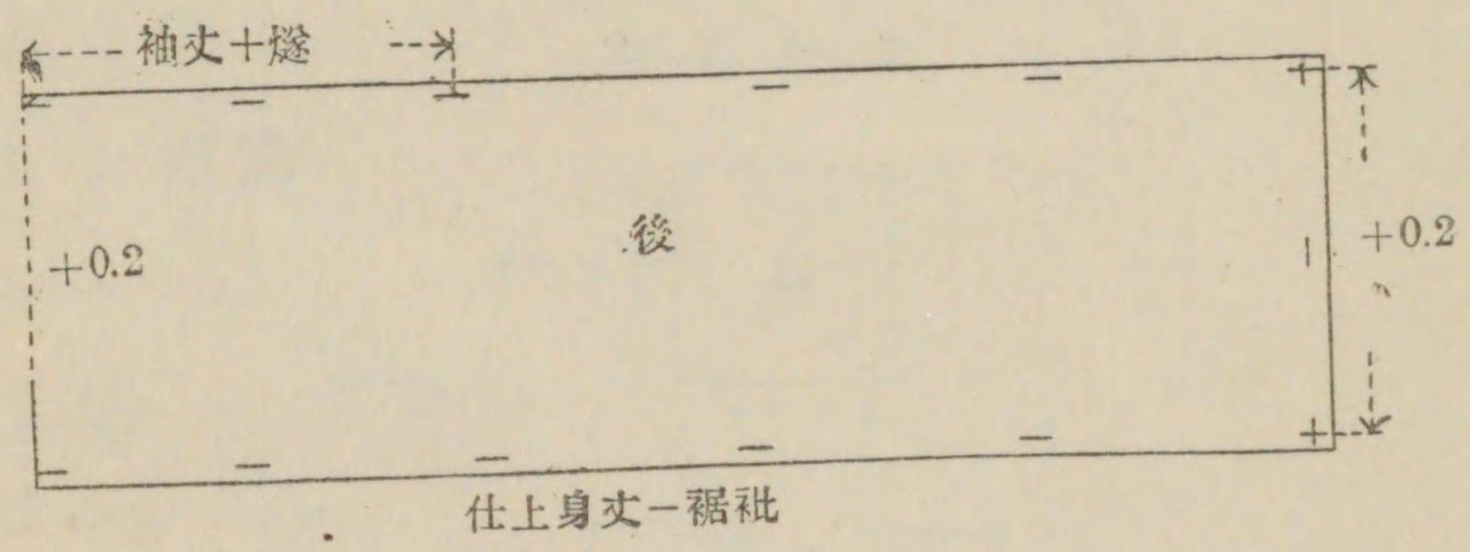


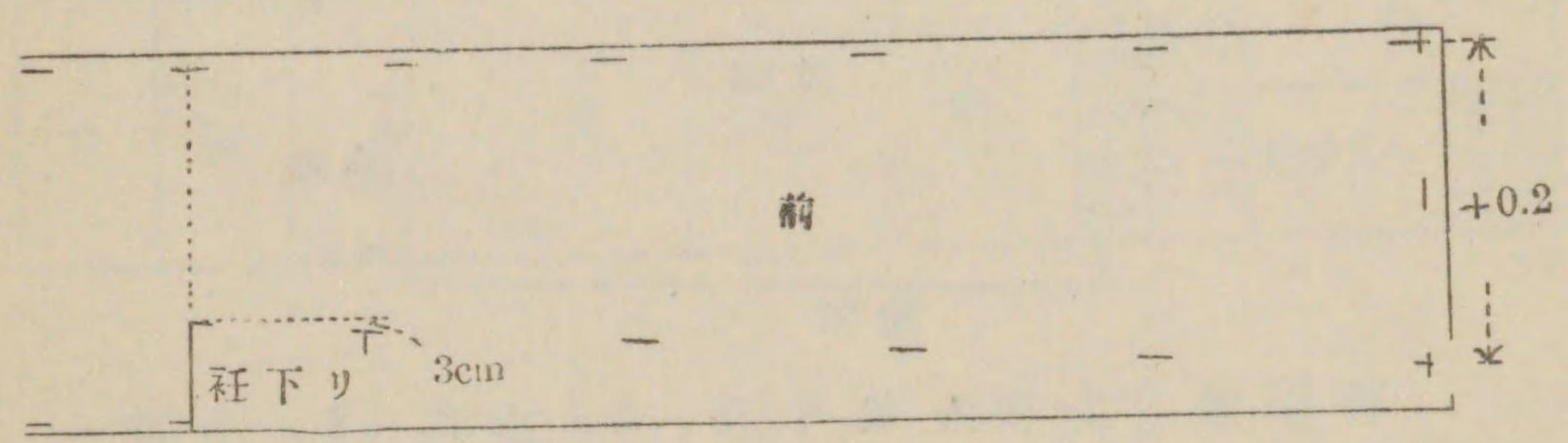
裏袖

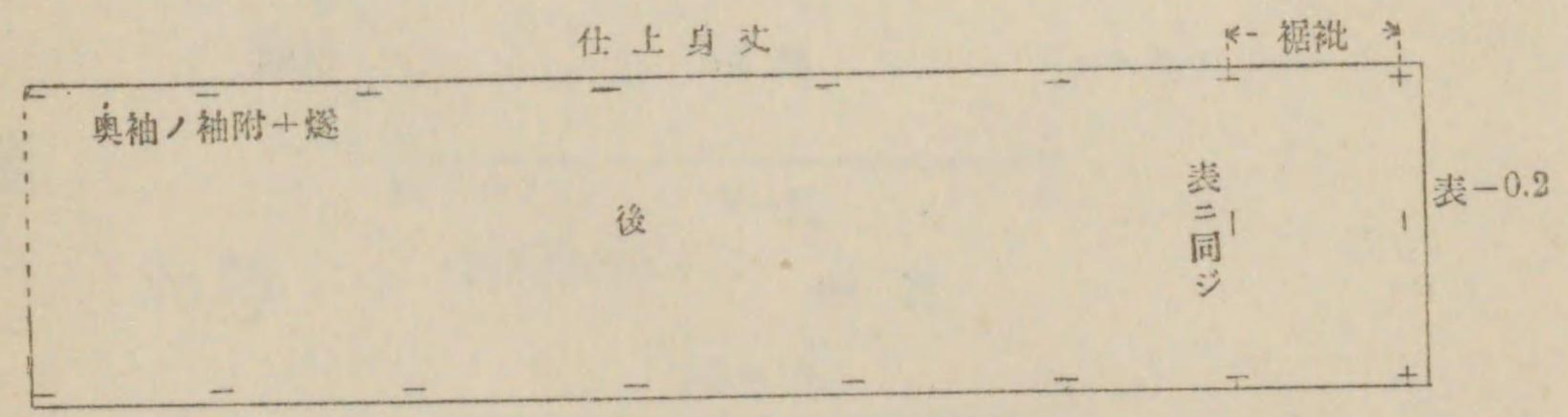


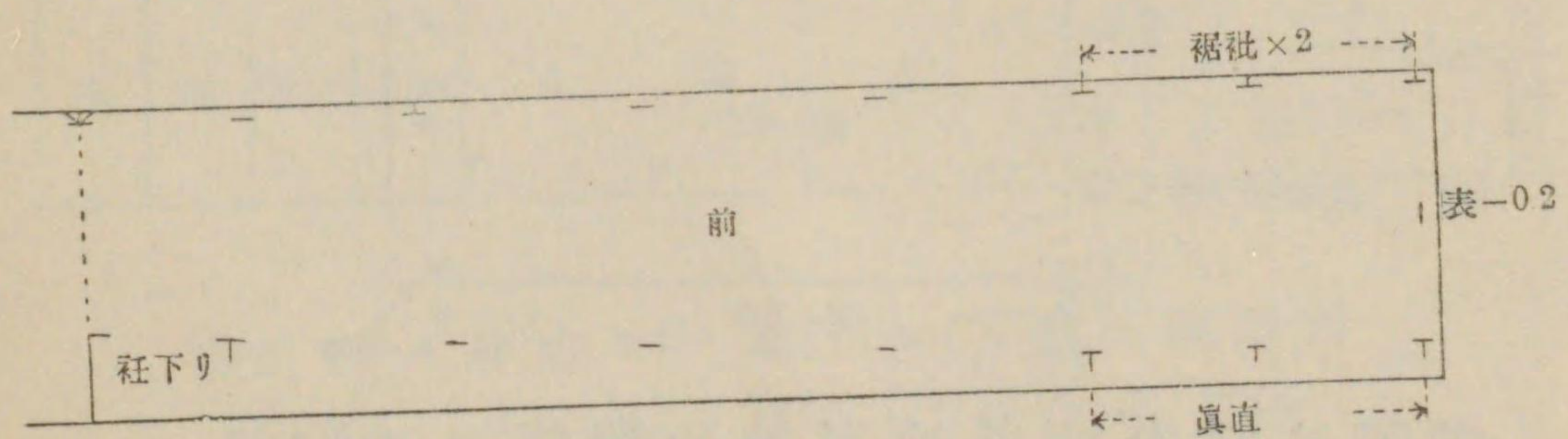
標附は燧､表袖､奥袖､裏袖の順序につける。

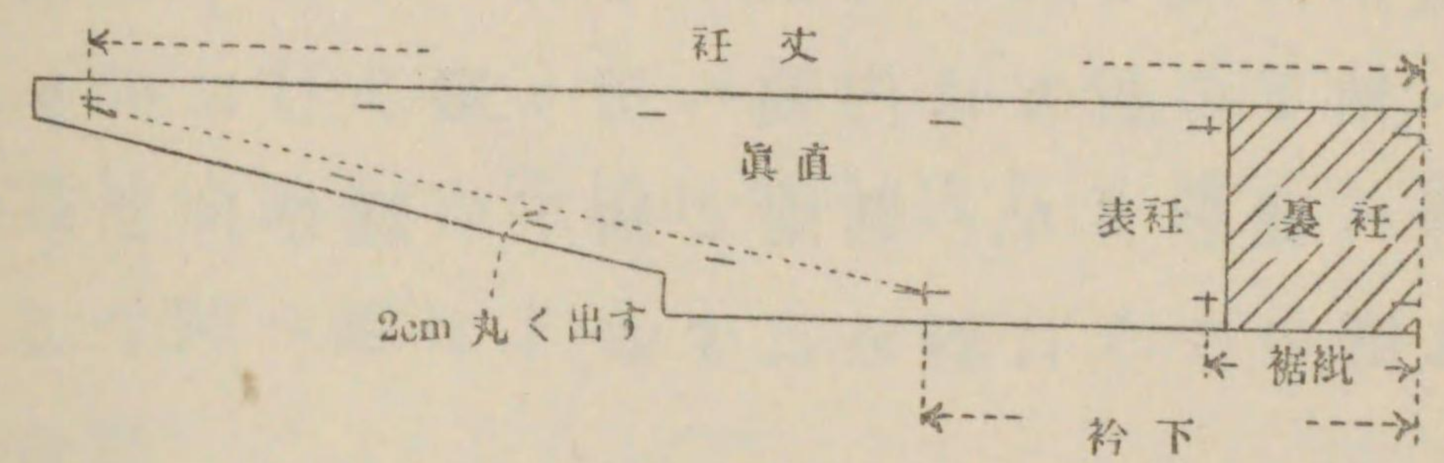
身頃

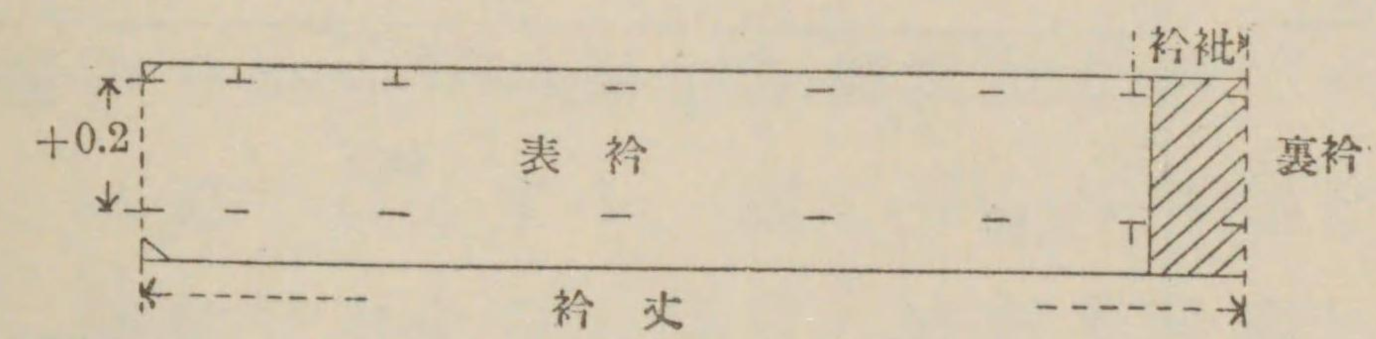

袖丈＋縫
後
+0.2
+0.2
仕上身丈−裾袘


前
+0.2
衽下リ
3cm


仕上身丈
裾袘
奥袖ノ袖附＋縫
後
表ニ同ジ
表−0.2


裾袘×2
前
表−0.2
衽下リ
眞直


衽丈
眞直
表衽
裏衽
2cm 丸く出す
裾袘
衿下

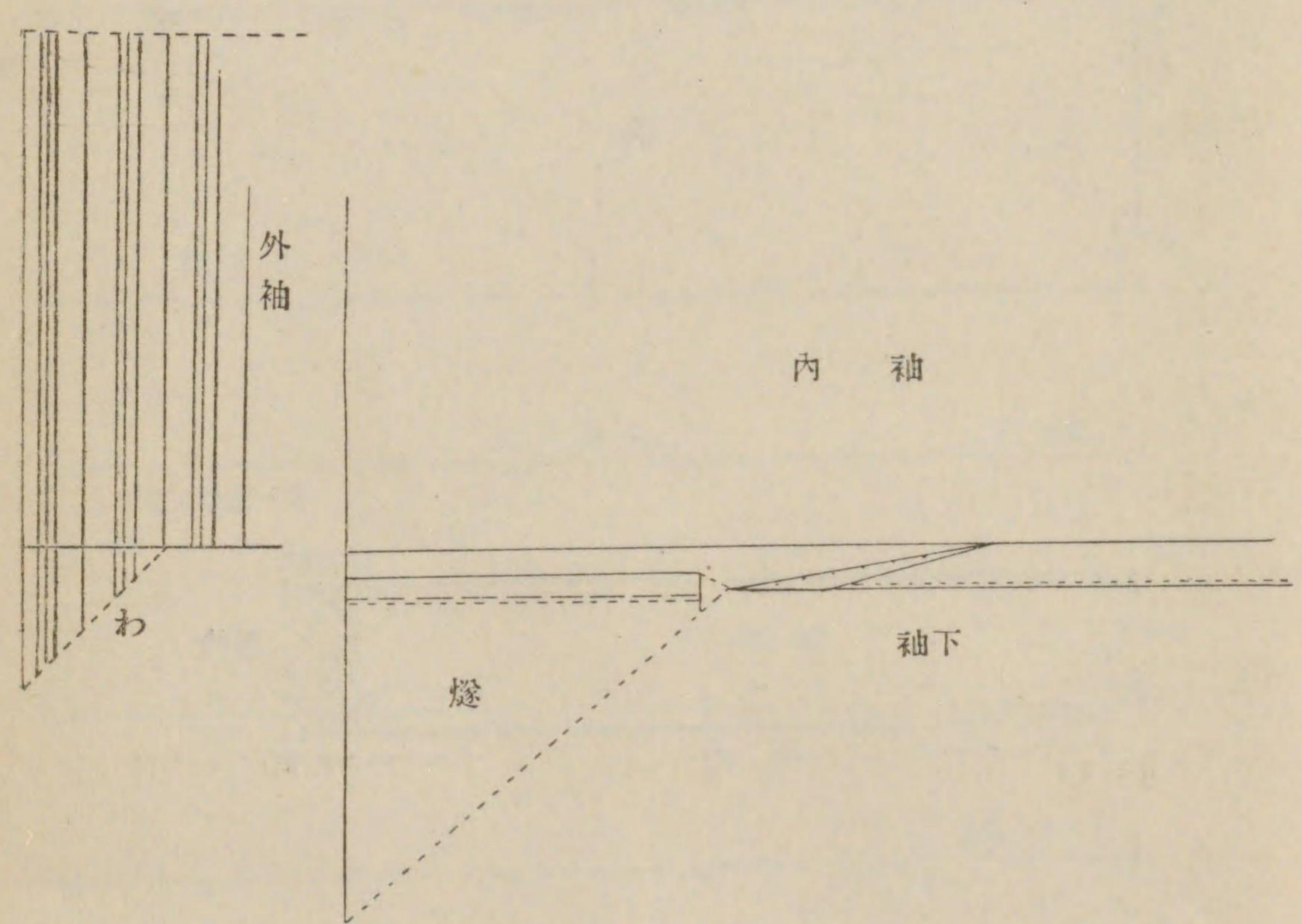

衿袘
+0.2
表衿
裏衿
衿丈

(5) 縫ひ方

背返しの場合

袖

(イ)表袖に燧を入れて袖下を縫ふ。折りは袖の方へ、袖下の折りは内袖へ折り、縫ひ目に折りきせ抑へ縫をする。燧附と袖下の縫ひ目との境目は圖のやうに斜めにする。



(ロ)裏袖の袖下を縫ひ折きせ抑へ縫ひをする。

(ハ)袖口合せ

表裏の袖口を縫ひ合せて表の方へ折り、折きせ抑へ縫をする。次に袘山に四ケ所位糸標をなす。

(ニ)奥袖は表袖と同様に燧を入れて袖下を縫ひ折きせ抑へ縫をする。

(ホ)合標

裏袖と奥袖とに合標をなす。

身頃

(イ)表

脊、脇、衽附を縫ふ。

(ロ)裏

脊縫は上から20cm、裾から裾袘の二倍だけ縫ひ殘りは返し口とする。返し口には合標をなす。次に脇縫、衽附をなし縫目には折きせ抑へ縫ひをなす。

(ハ)裾合せ

表裏の裾合せをなし、表に折つて折きせ抑へ縫をする。

(ニ)衿下

衿下を縫ひ表に折り、衿先の方は一針手前まで折きせ抑へ縫をする。

(ホ)衿附

表裏衿を接ぎ合せ表に折をかへして折きせ抑へ縫をする。表裏續けて衿を附ける、但し衿先の所は少し衿をゆるめにして、少しの間半返へし縫にする。折りは衿の方へ返へし、裏布の所だけ折きせ抑へ縫ひにする

(ヘ)袖附

表裏の袖をつけ表は袖の方に折り、裏は身頃の方に折つて、折きせ抑へ縫をする。

(ト)表裏衿縫ひ合せ

表裏の衿幅の標を合せて縫ひ、裏衿の方へ折りをつけて折きせ抑へ縫をする。

綿の入れ方

(1) 疊み方　布の置き方

裏返しにして裏身頃を表身頃の中に入れ夜具疊みにし、後を出して絹布綿入れのやうに下に

置く。

(2) 綿の入れ方 (中夜着の場合)

後身頃の綿入れ

十三枚を入れるには、前の足し綿として三枚殘して十枚を次のやうに入れてしまふ。

先づ(一圖)のやうに一枚通りの綿を置き、次に二枚目の綿は裾、袖口の所で端より 5cm ひかへ、上は綿の端が一回目の綿と揃はぬやうにし、又接ぎ目も同じ場所にならないやうにする。

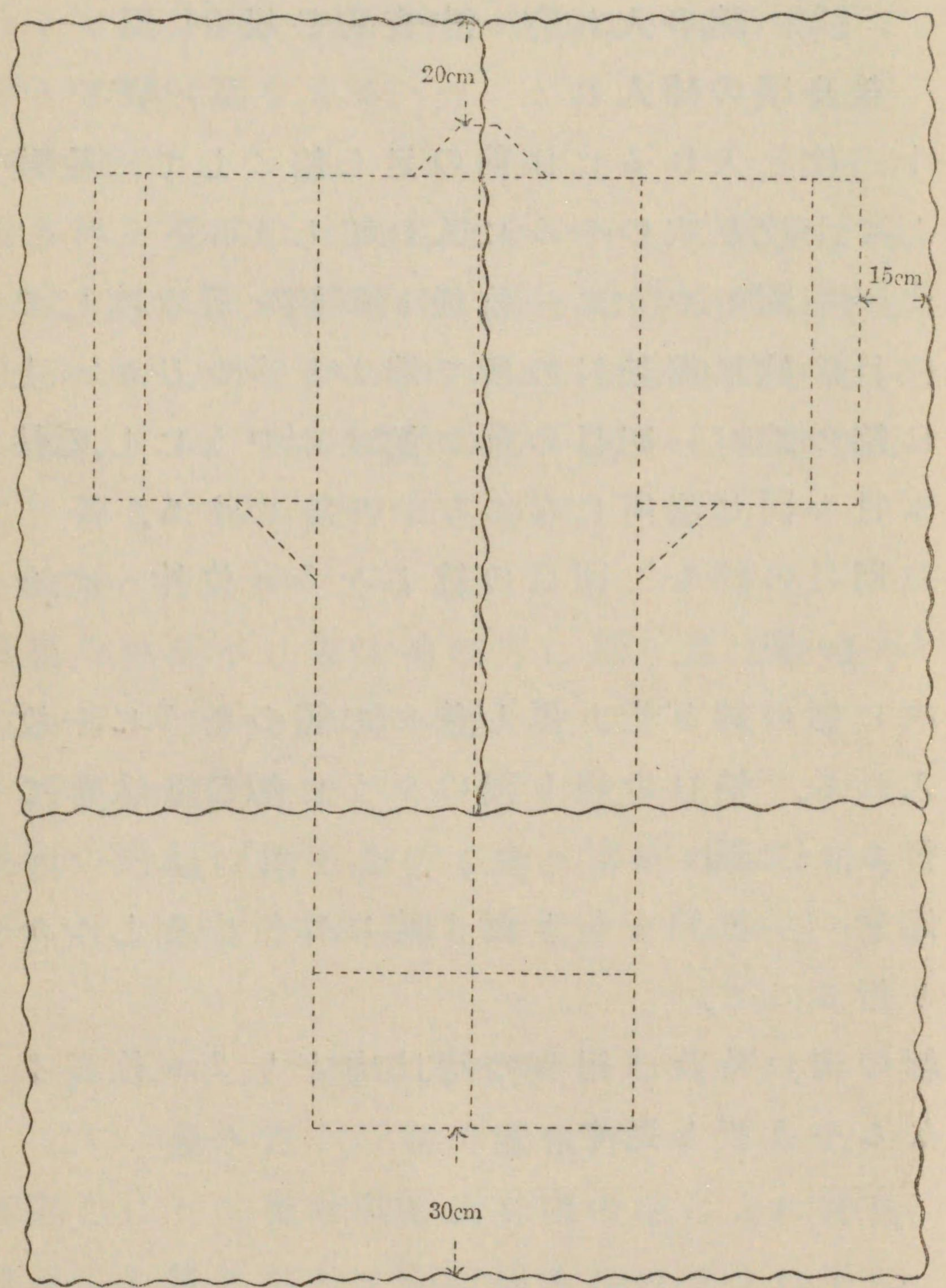
三回目の綿も二回目の綿より 5cm 位控へておく。(一圖)

次に裾の綿を折り返し、後に(二)圖のやうに一枚入れる。袖口の綿も圖のやうに切目を入れて折る。(二圖)

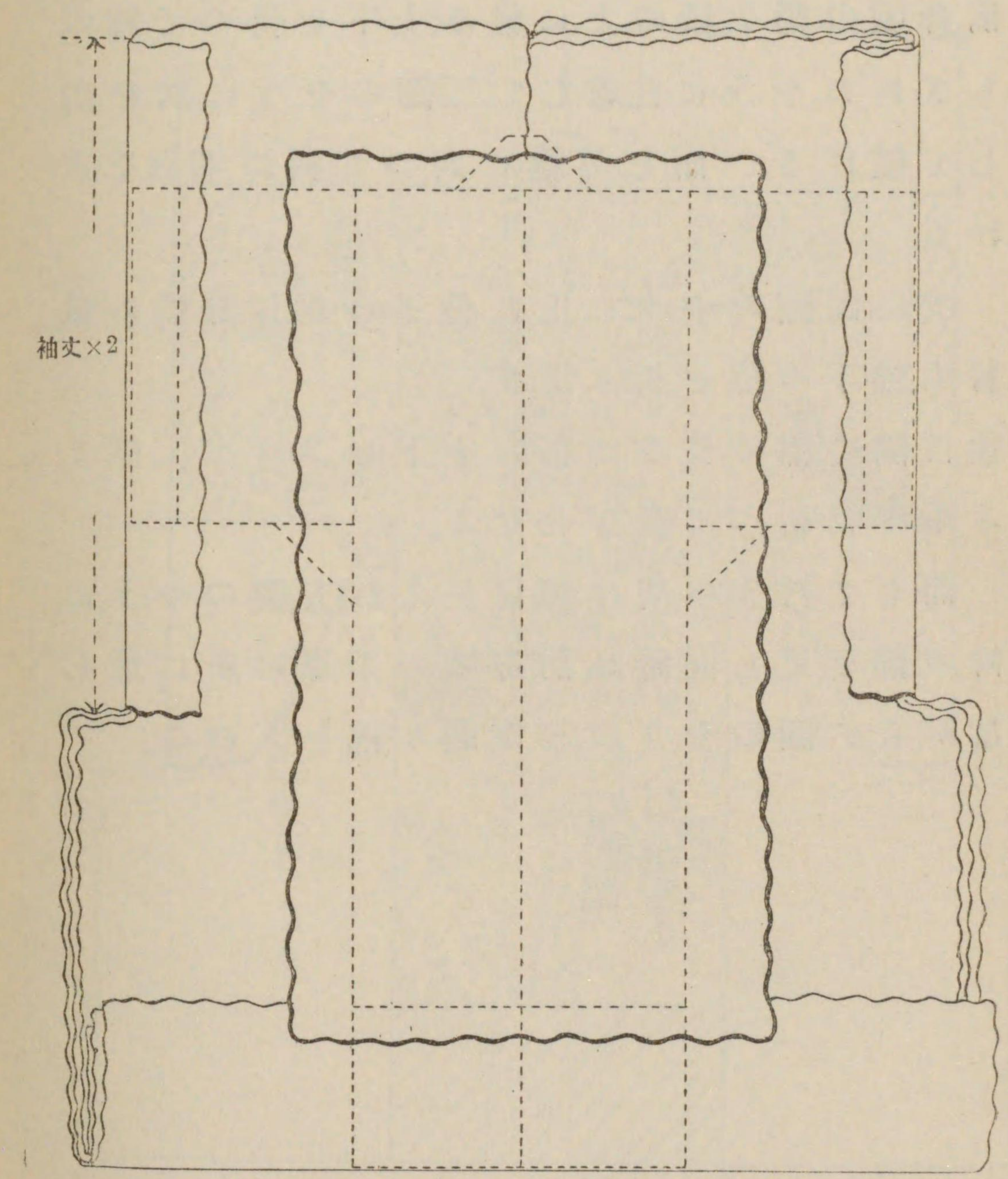
注意………袘綿を折り返す時には折山をしつかり折ること。

綿の薄い時及び絹布の時は山より 2cm 位長くなるやう折り返す。

(一)



(二)



前の綿入れ

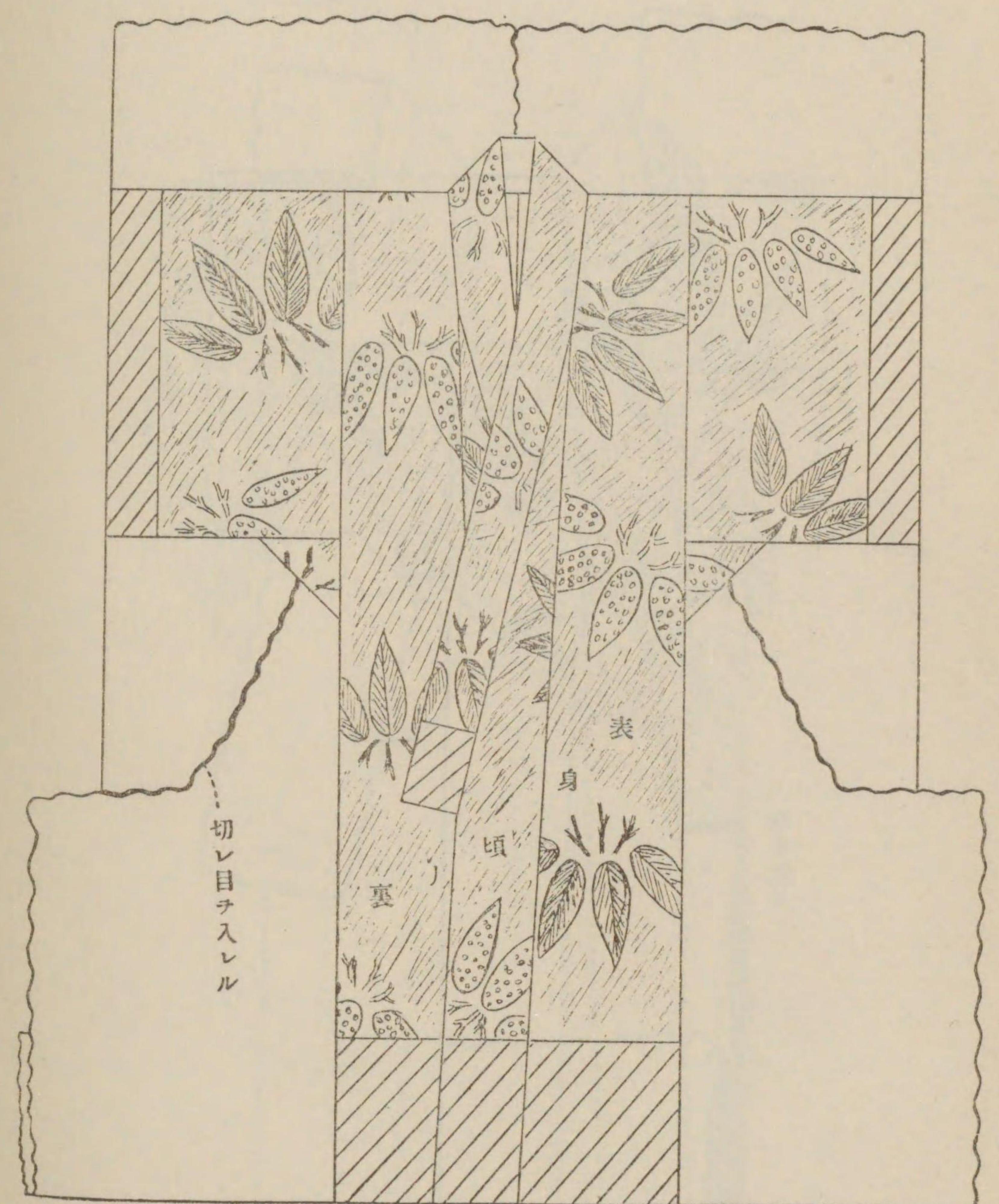
後の綿の上に新聞紙又はハトロン紙等を載せ、前身頃の綿を紙の上に疊み、上下を持つて綿のちぎれぬやうに注意して(三)圖のやうに前を出して擴げる。而して燧に向つて斜に切目を入れる。

次に(四)圖のやうに上に疊まれた片身頃の脇肩山、袖下の綿を折り返す。

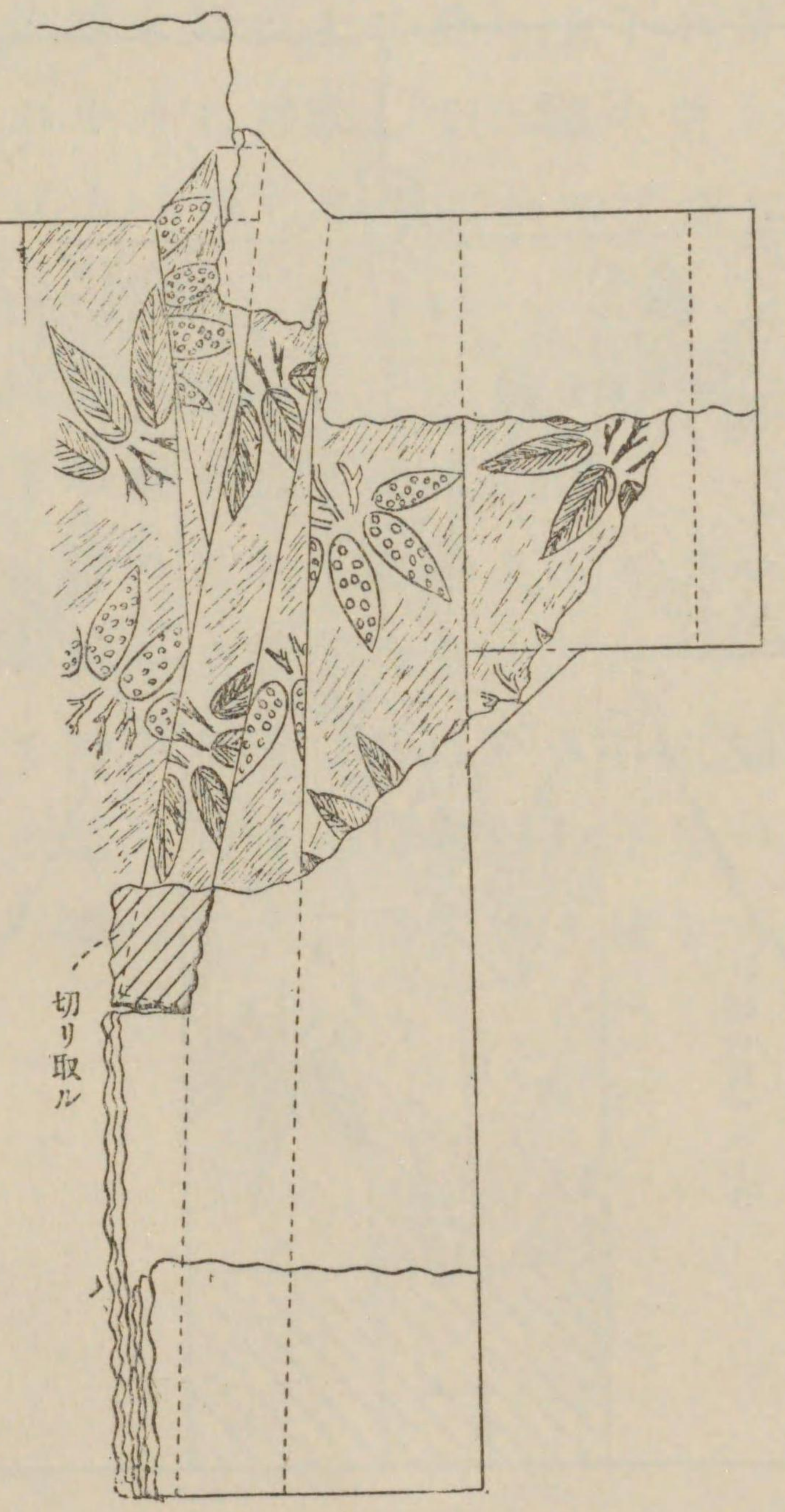
袖口袘の綿の長さは布の上、下で 2cm づゝ詰まるやうに折つて接ぎ合せる。

而して衿先の所に切目を入れ(五)圖のやうに衿の綿を足し同時に前身頃の不足の所に足しながら(六)圖のやうに三枚通り綿を入れる。

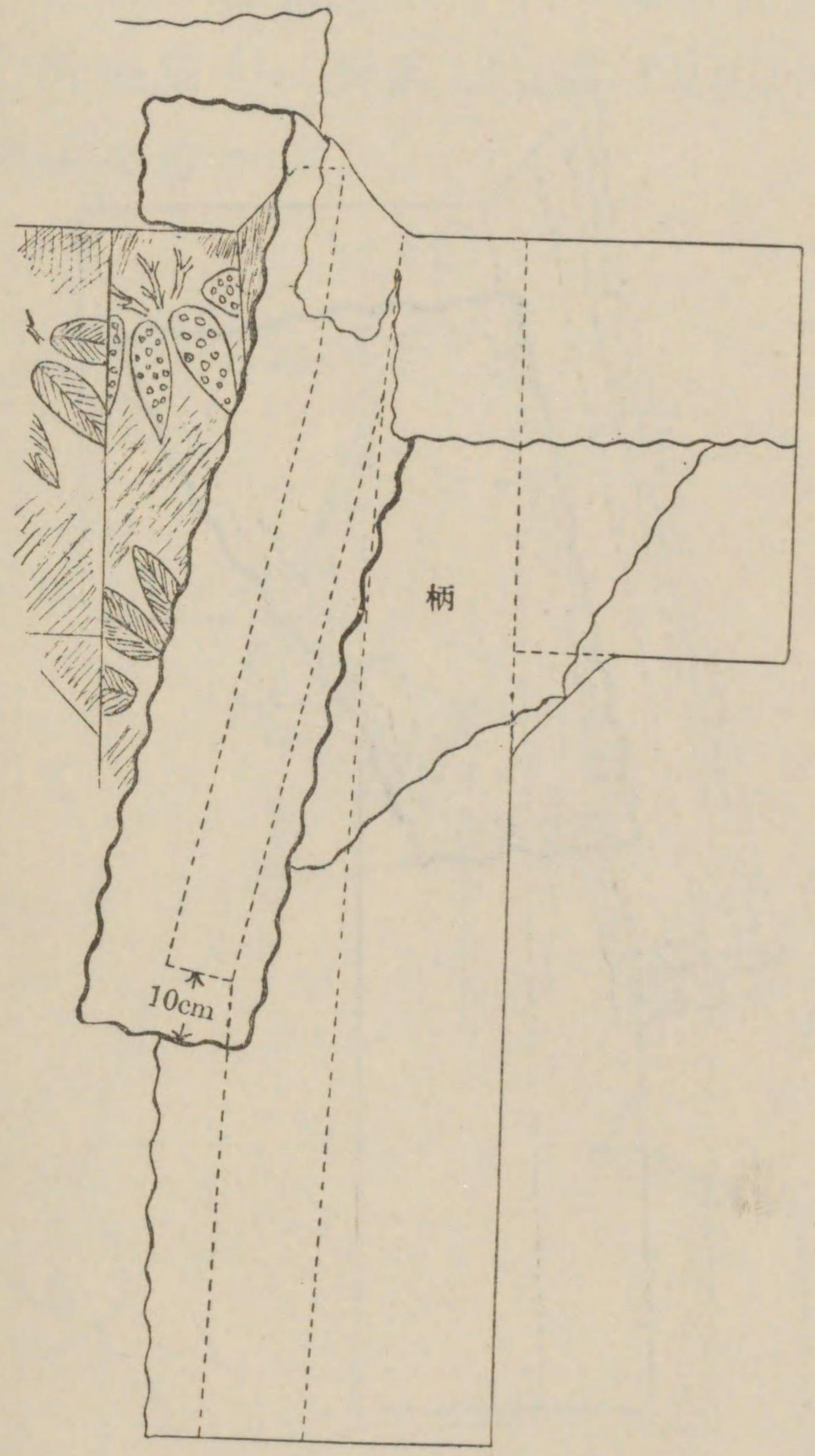
(三)



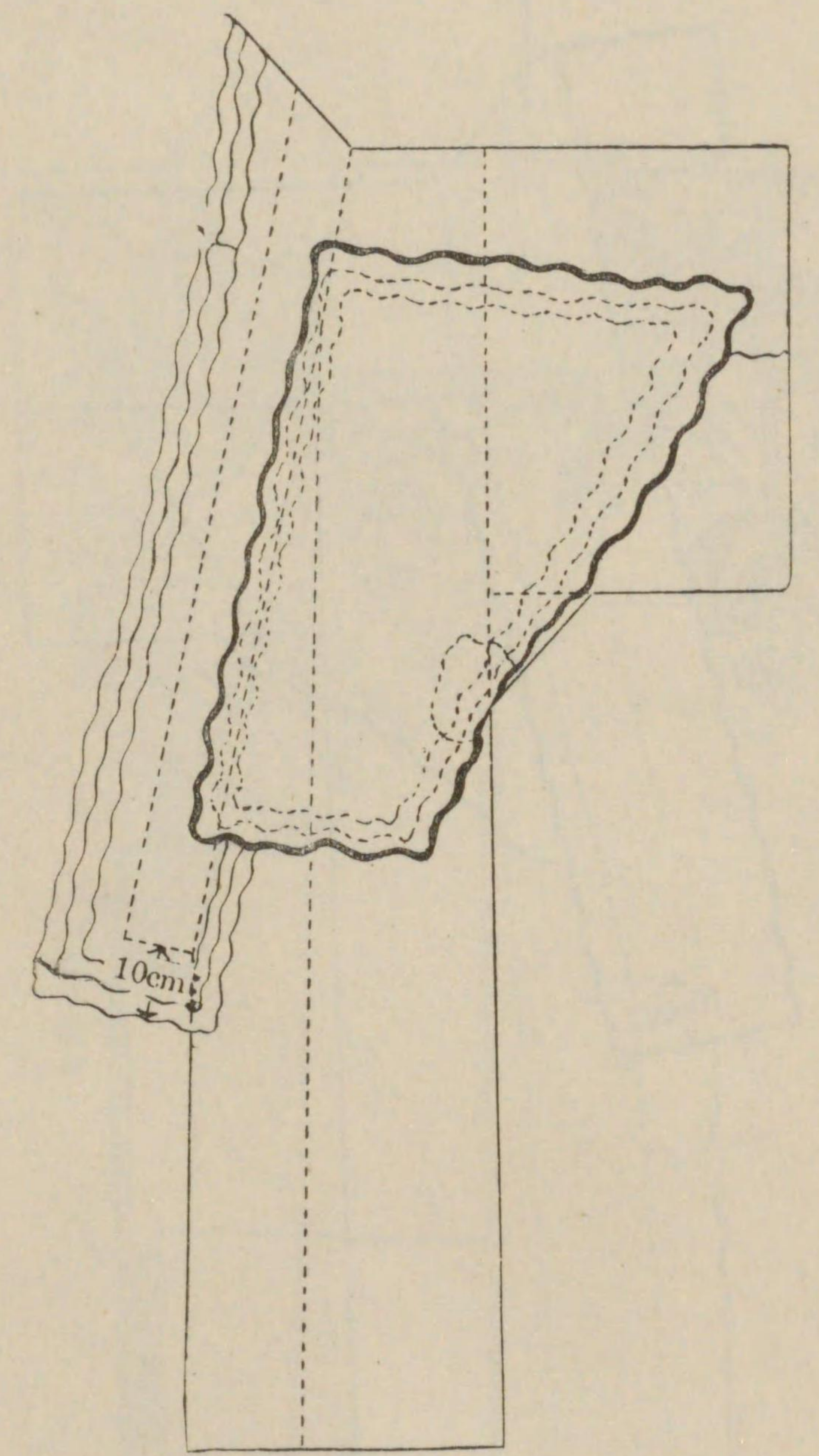
(四)



(五)



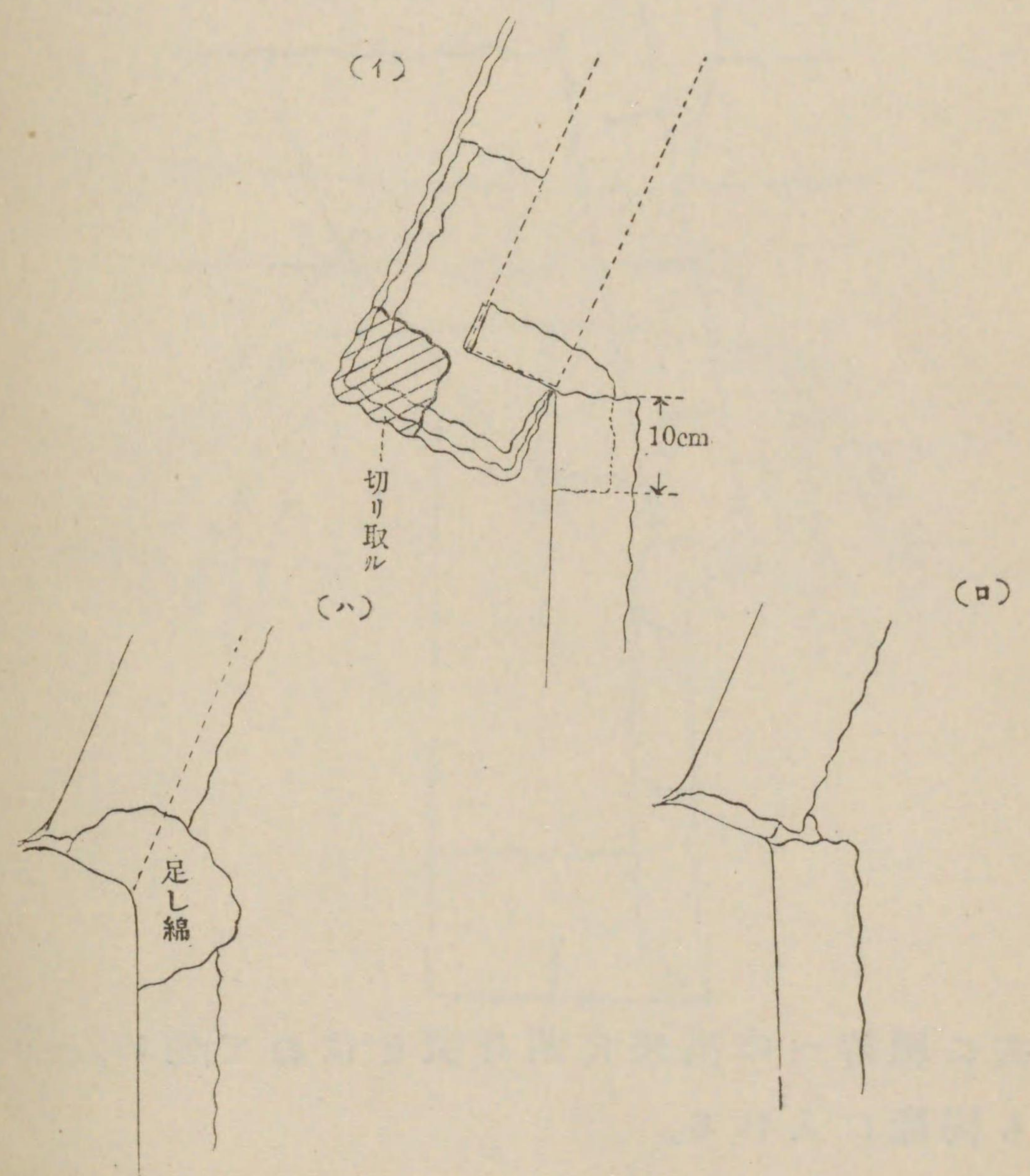
(六)



衿先及衿下

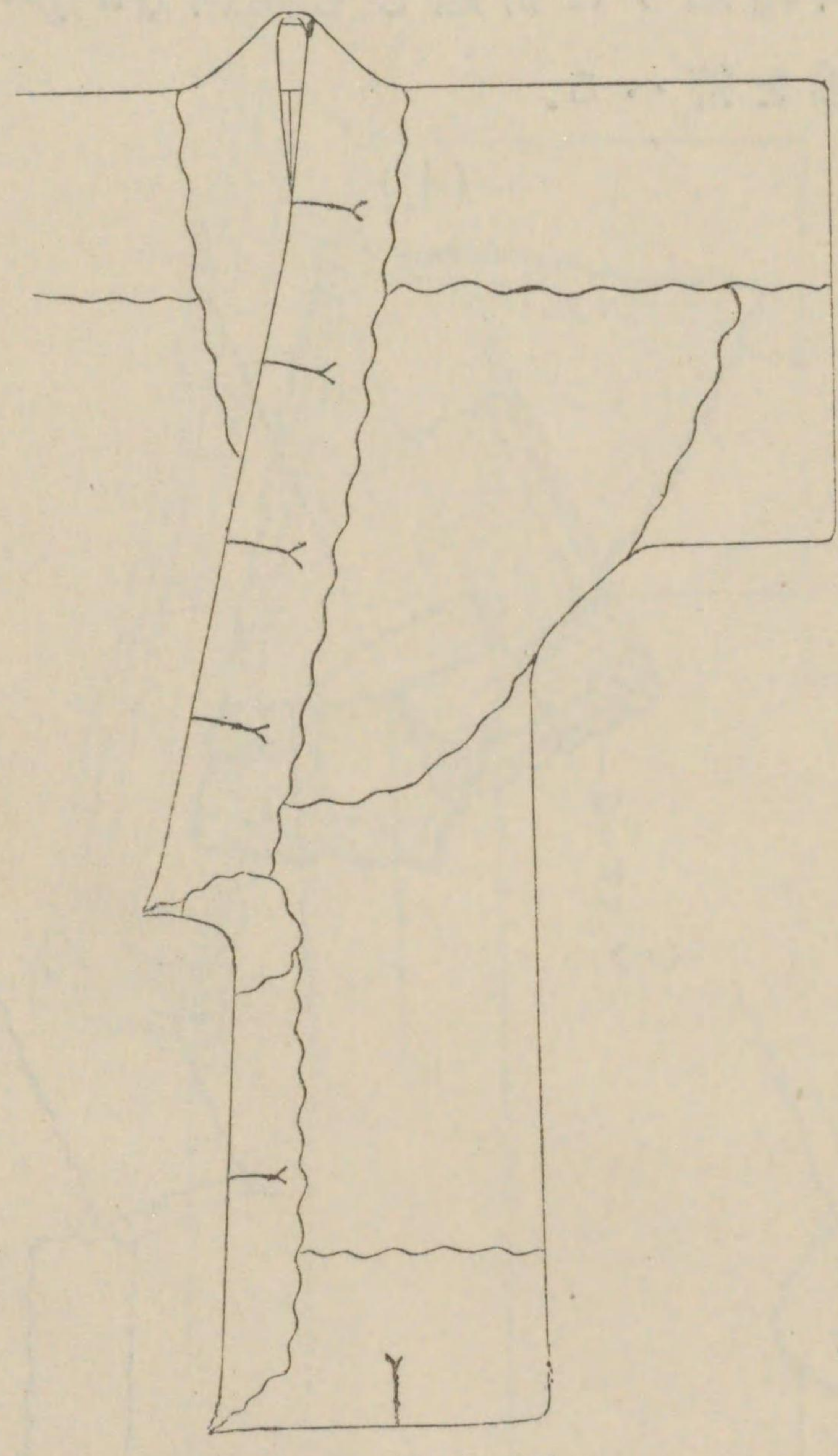
蒲團の要領で褄先及び衿下の綿を折り、次に衿の綿を衿幅通りに折返し(七)圖(イ)、(ロ)、(ハ)の順に衿先の綿を拵へる。

(七)



下圖のやうに廻りをとぢる。

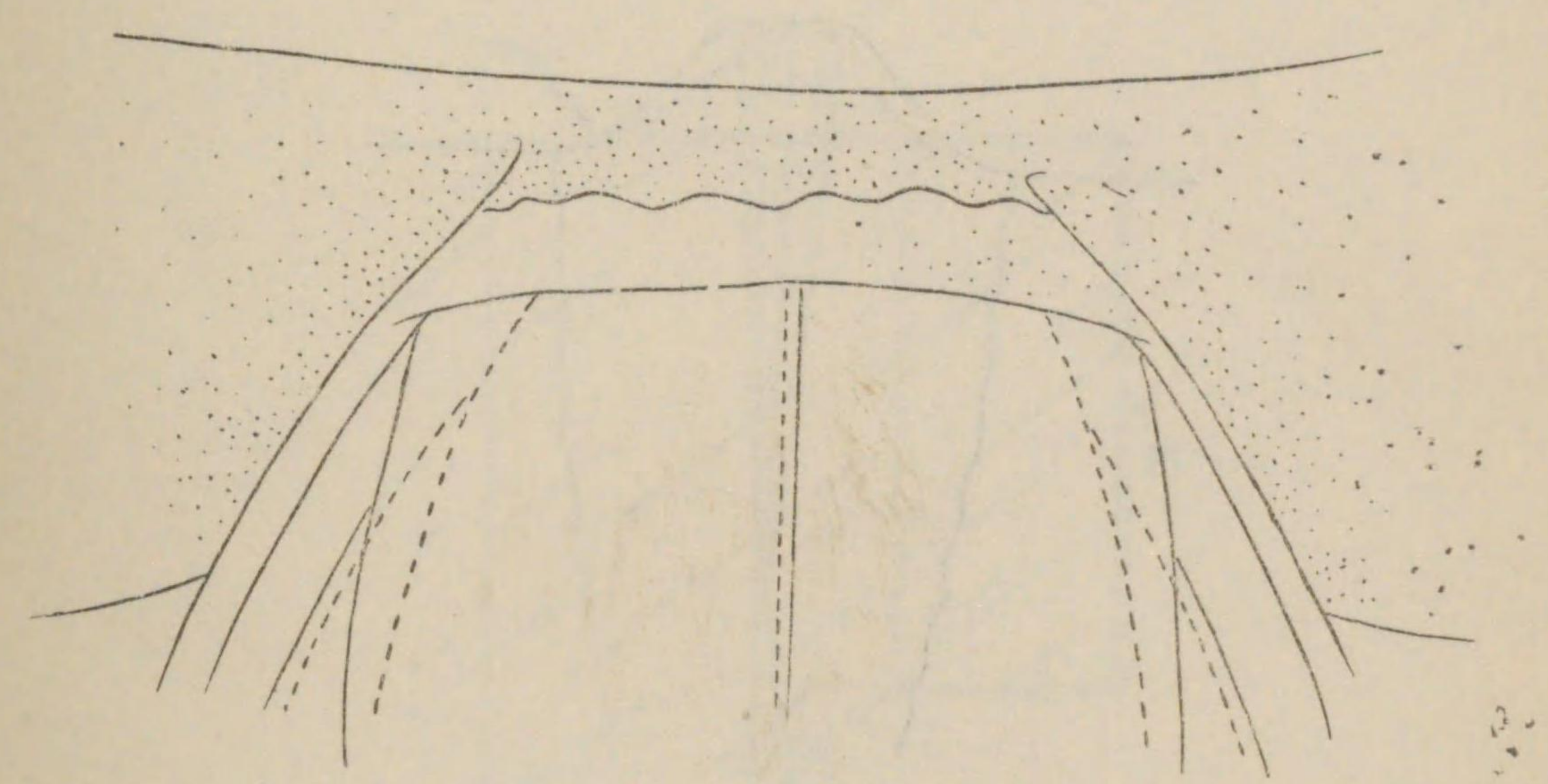
(八)



次に綿拵への出來た前身頃をはねて,他の一方も同樣に入れる。

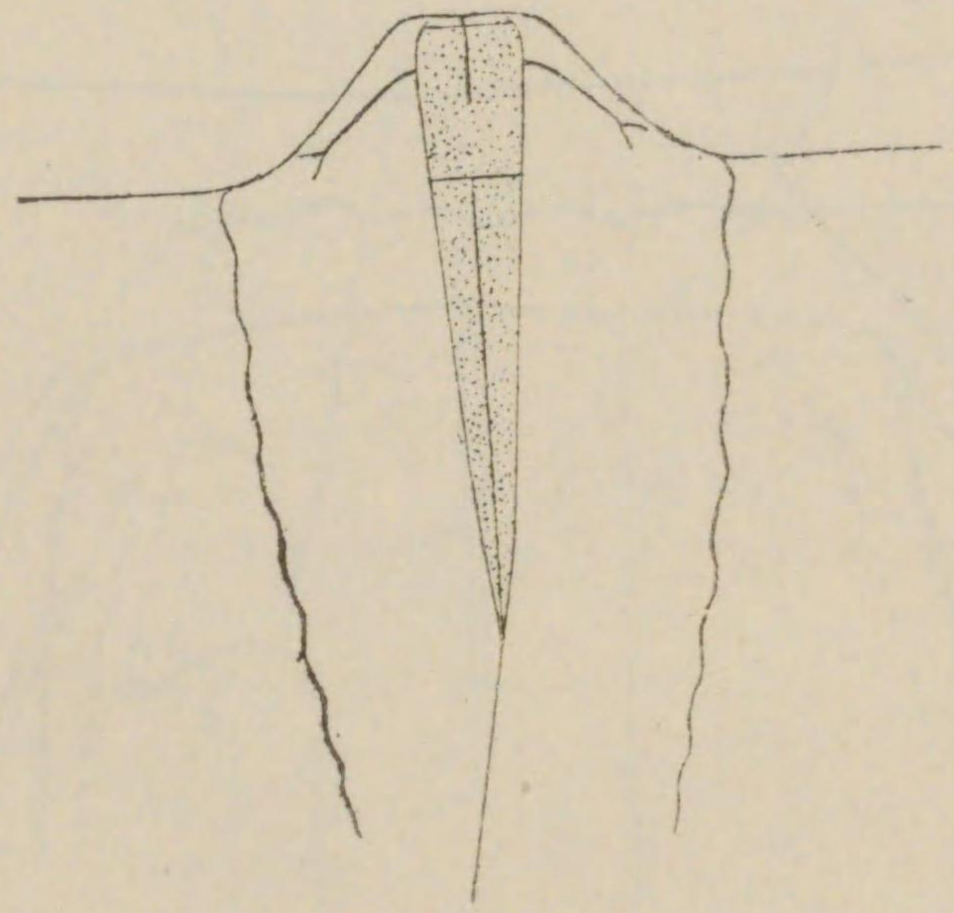
但し衿の綿は衿肩廻しに沿ふて廻し片身頃の衿の綿に續ける。

(九)



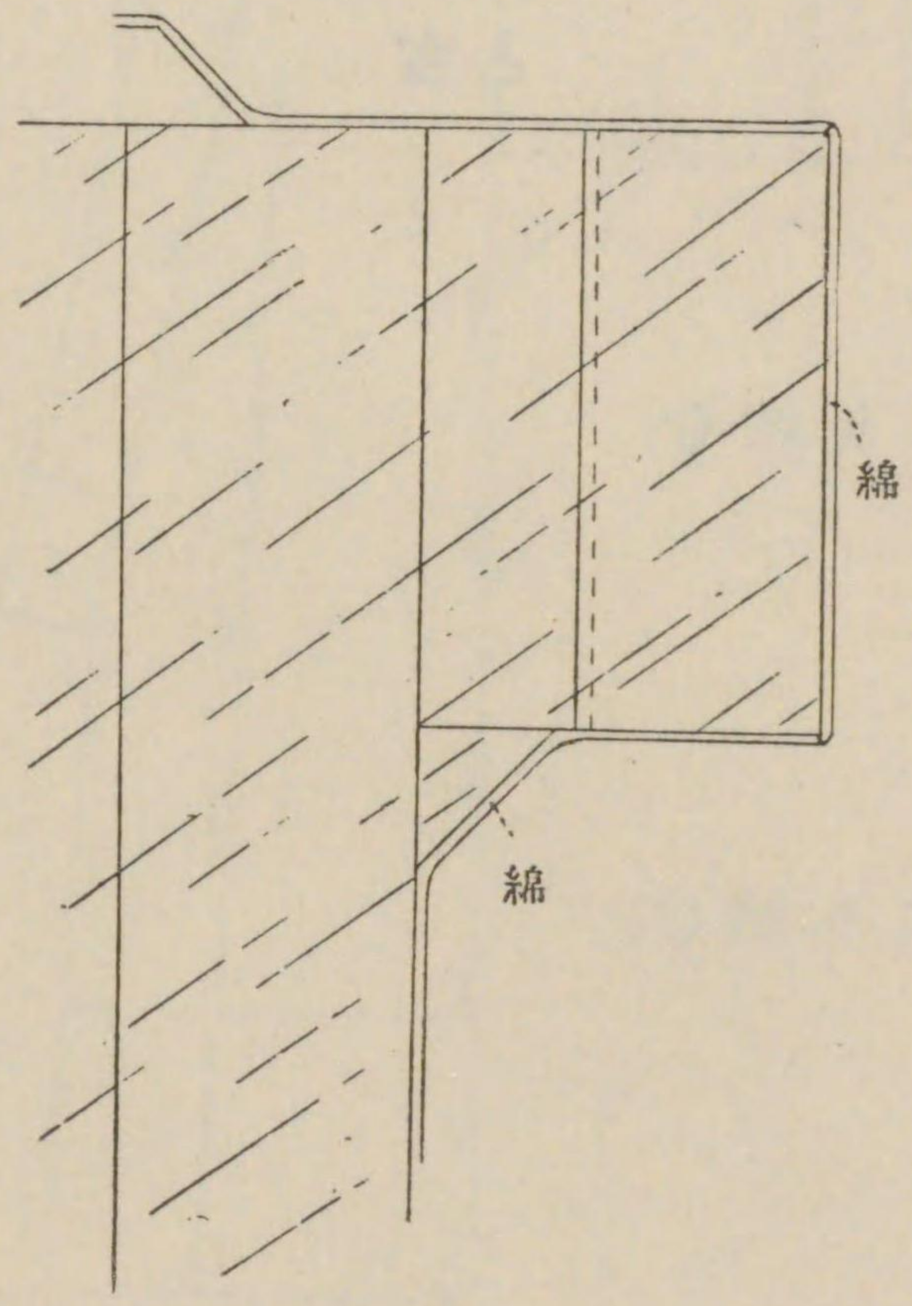
下圖のやうに脊の中央こ兩肩廻しこ都合三ヶ所にこぢをなす。

(十)



尙脊縫の所の裾にこぢをする。こぢは糸の結び目が綿いつぱいになるやうに注意する。

次に袖口の方から裏袖を引き出し、衿の方から奥袖を引き出し、兩者の合標を合せて縫ひ合せ、奥袖の方へ折りかへす。此の時周圍の綿のちぎれぬやう充分注意する。



裏の返し口より表布の方へ手を入れて直ちに表身頃が外になる様に引き返へす。而して蒲團と同様に周圍によく綿を含め綿入れの様に引き合ひをなす。それより返し口の合標を合せて、上下より縫はれるだけ縫ひ殘りを絎ける。而して蒲團の要領でたゝいて綿を落ちつける。

とぢ

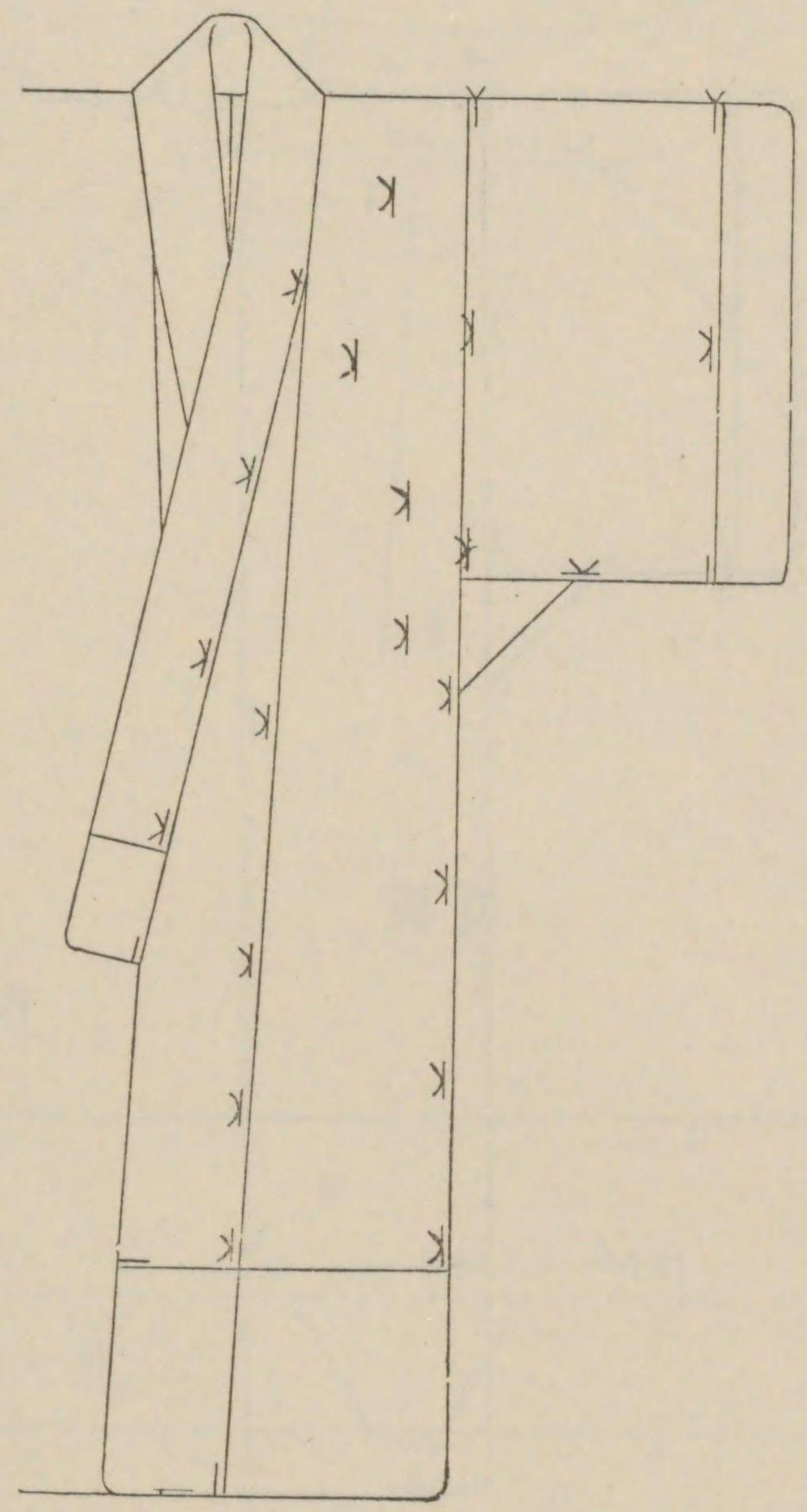
順序

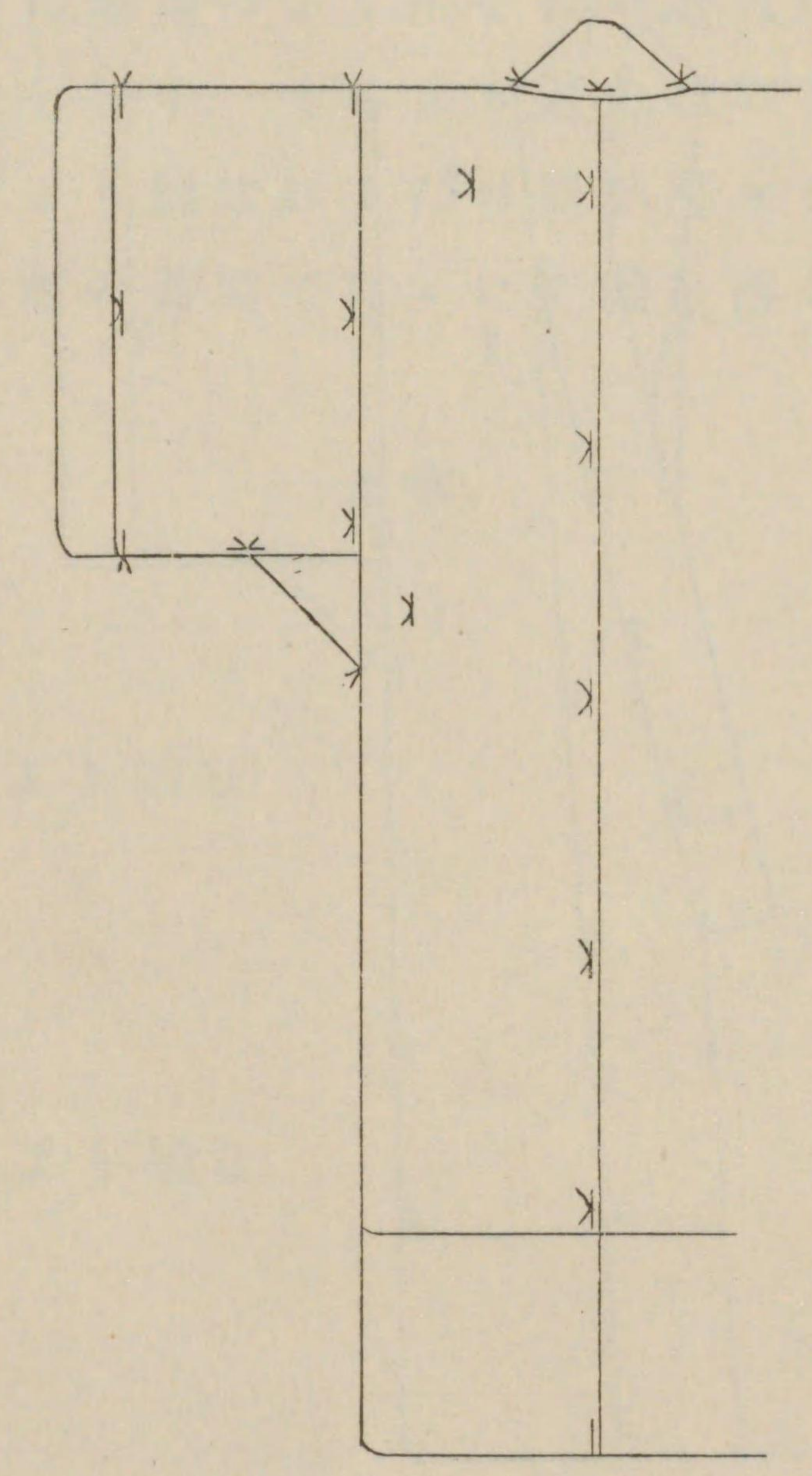
前

1. 衿(衿肩より始む)
2. 衽
3. 裾合せ
4. 脇
5. 袖(袖口より始む)
6. 袖附

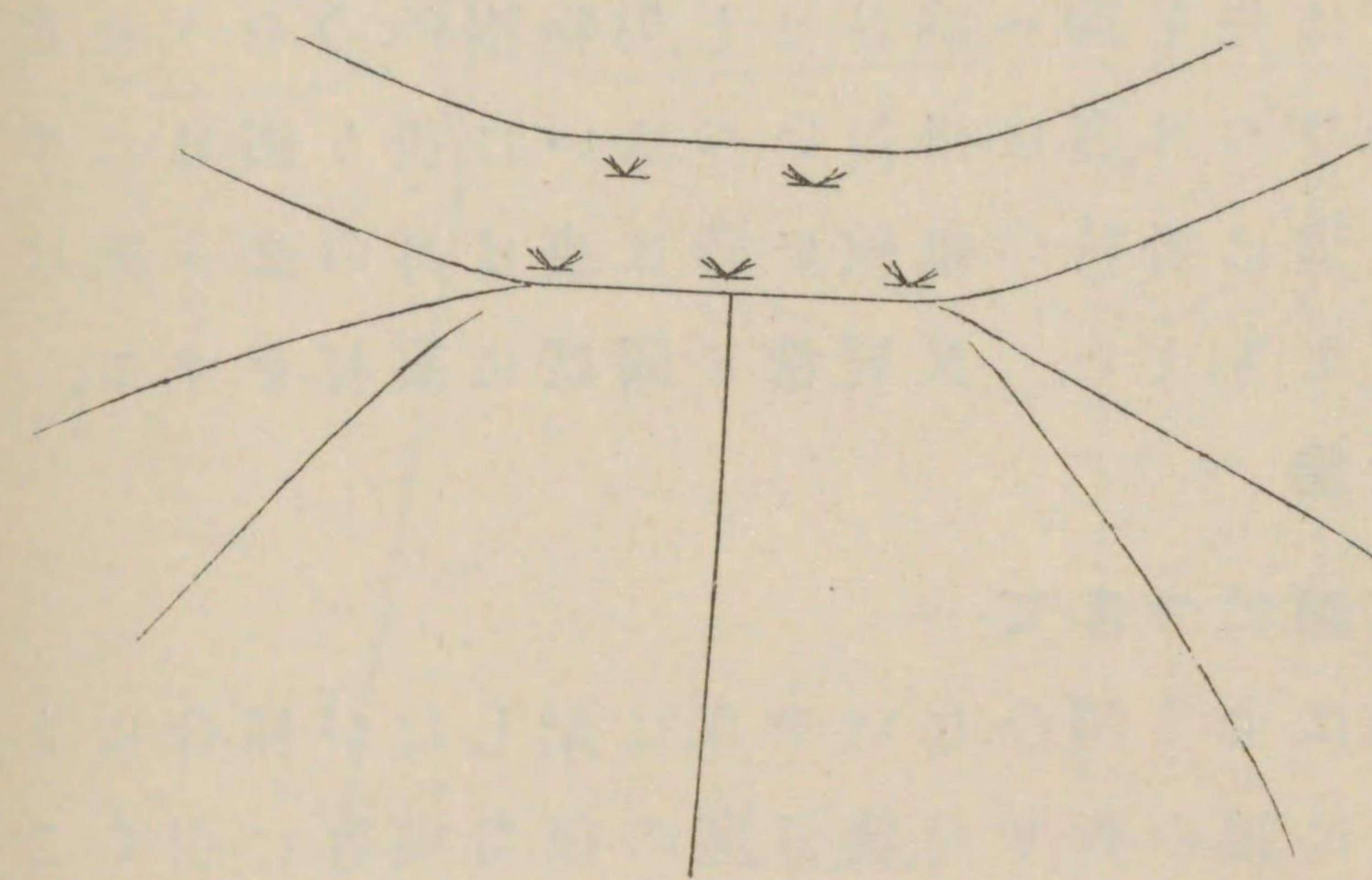
後

1. 裾合せ
2. 脊



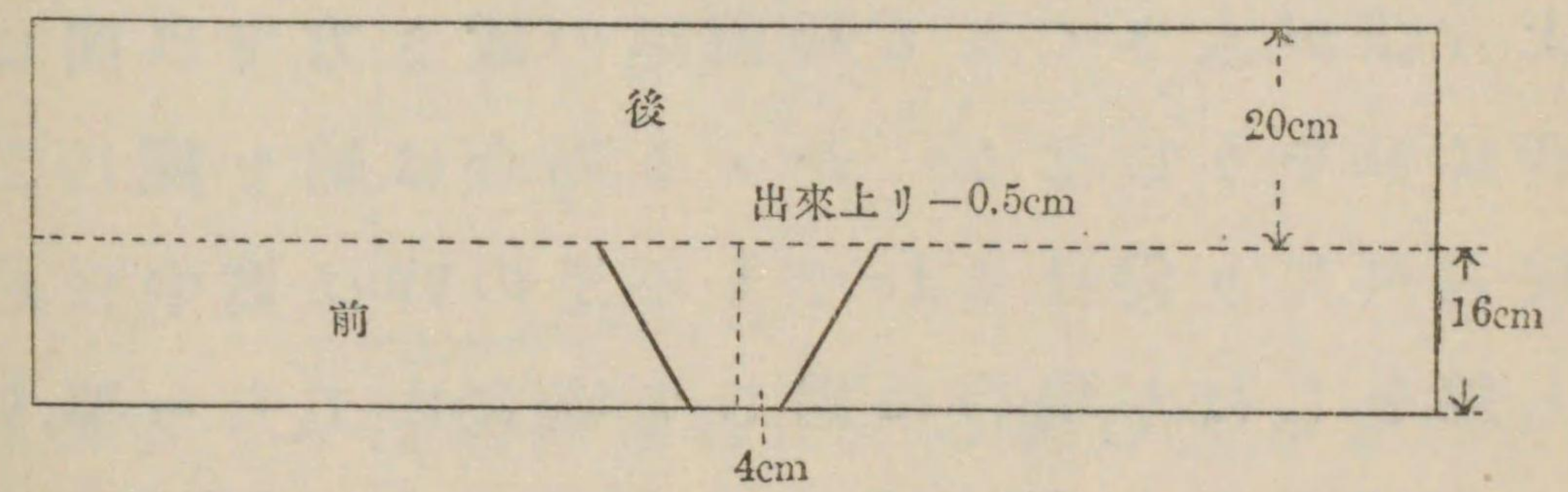


ぢとの衿



肩當

裁ち方



新モス等の裏打をして周圍を抑へ縫ひをし、前後を仕立上り圖のやうに綄けつける。

掛衿

掛衿は先を抑へ縫ひとし、男物掛衿のやうに表を絎けつけ、裏は掛衿いつぱいに折り絎けにする。尚ほ掛衿の幅狭い時は裏は耳のまゝ絎けつけてもよい。又肩當と同様に裏打をする。

注意

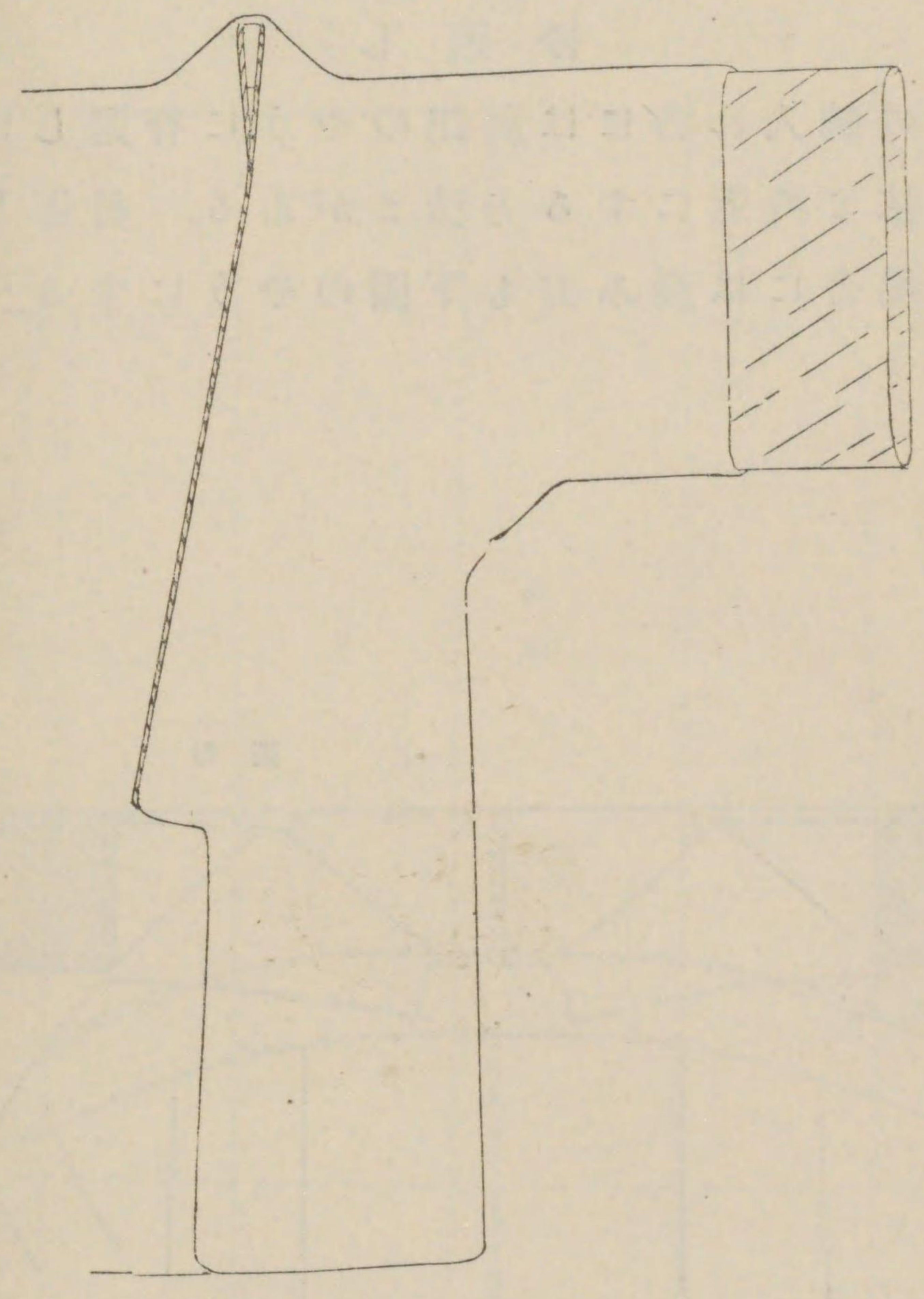
1. 眞綿につきて

眞綿は全く用ひないやうに記したが都合によつては綿の折り目、繼目、裏の後身頃等に引くこともある。この場合には約 15g 位の眞綿を用ふればよい。

2. 綿の置き方につきて

前述のやうに綿を置くのが普通であるが、仕立上寸法が大きくなる程前述の置き方では間に合はぬやうになる。かゝる場合は綿を縦に二枚並べたり尚ほそれでも不足の時は眞中に足し綿をしたり、場合に應じて適宜に工夫を要す。

3. 古綿の場合



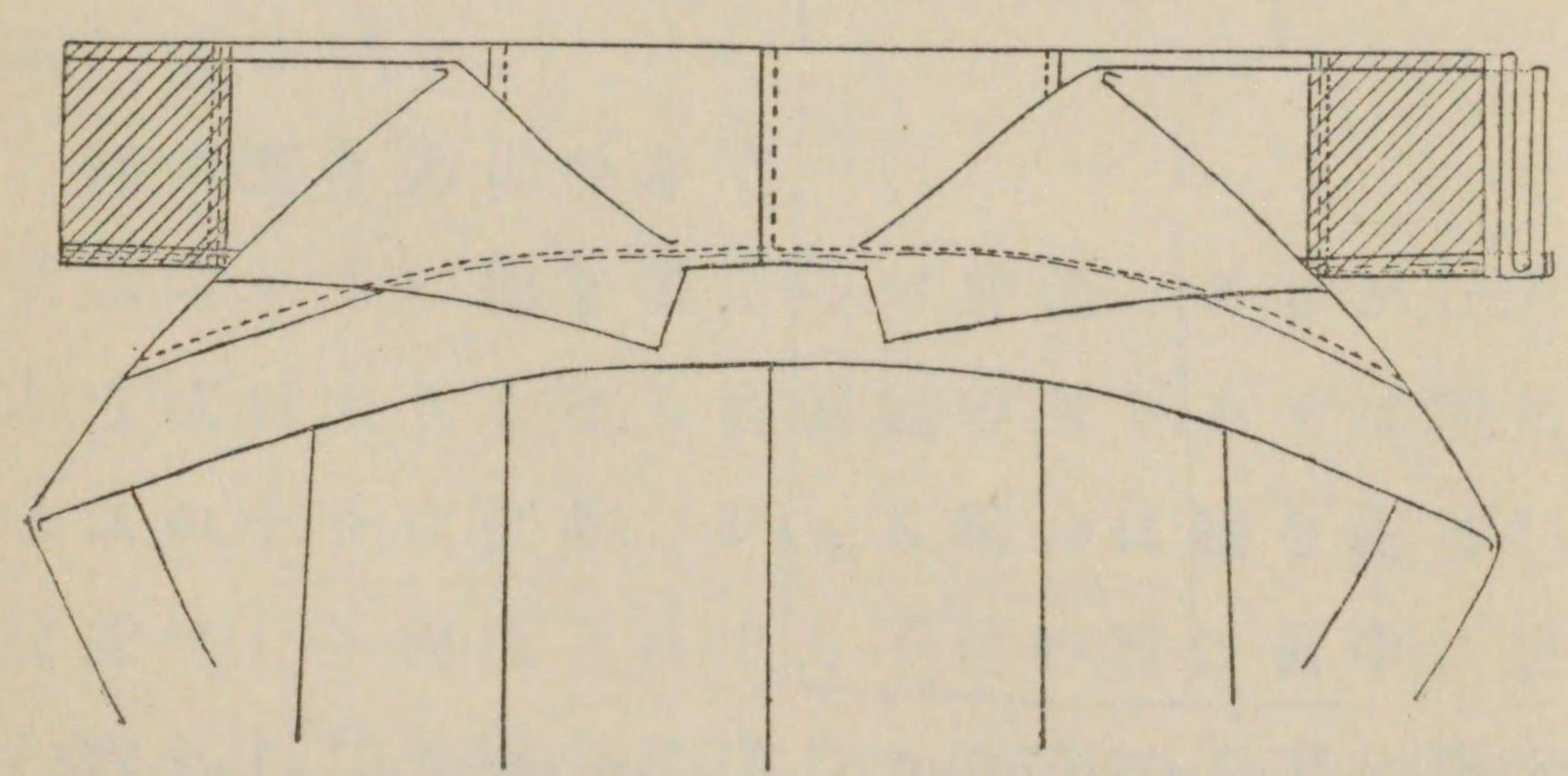
形のまゝの古綿の場合はその綿の大きさに合せて表裏を縫ひ、前述のやうに疊んだ布を綿の中に入れ奥袖と裏袖とを縫ひ合せ、以下前述の要領で引返へす。

附（1）

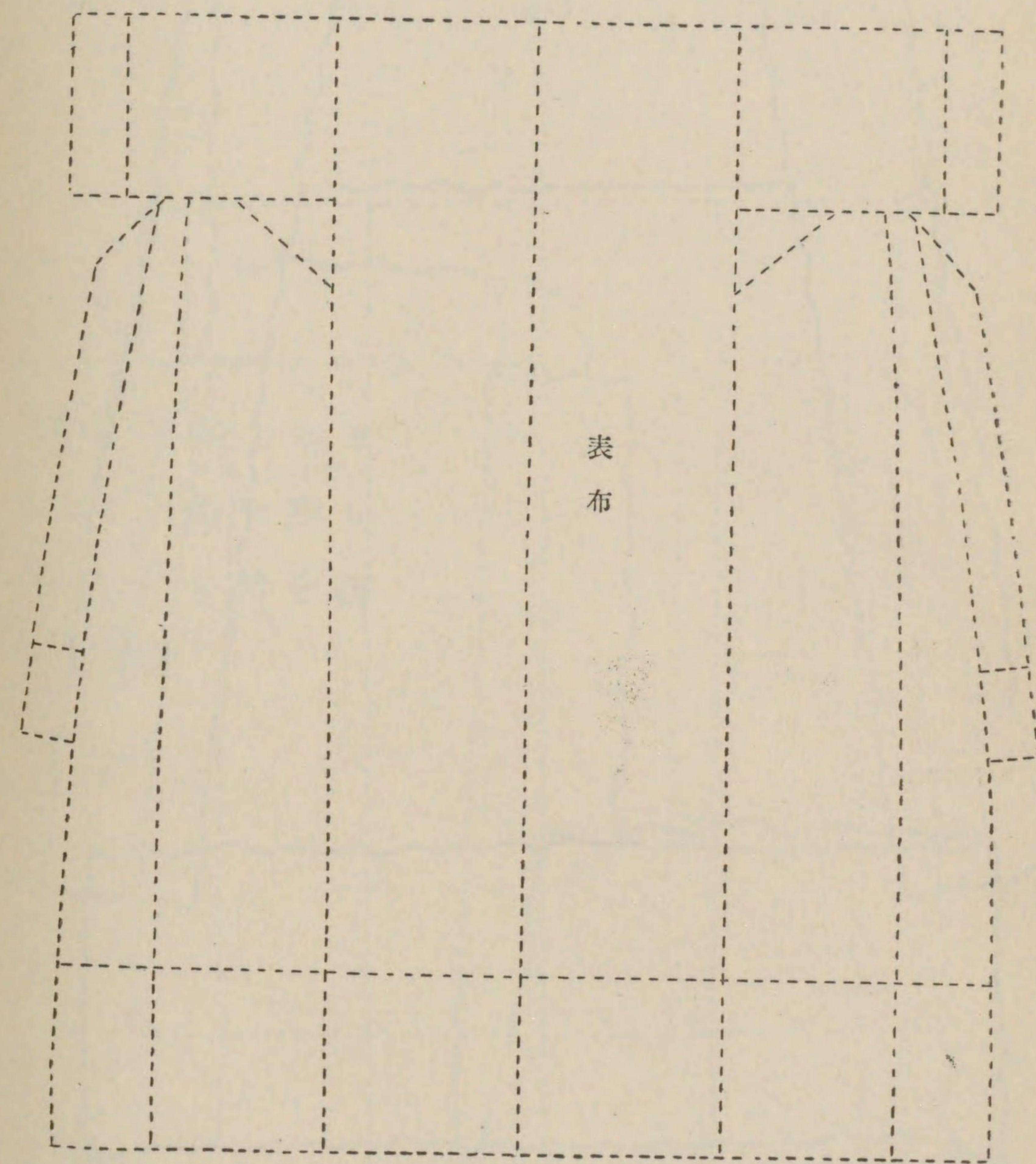
衿返し

夜着の綿入れ方には前記のやうに脊返しにする方法と衿返にする方法とがある。衿返しにする場合には疊み方も下圖のやうにする。

（一）　裏布



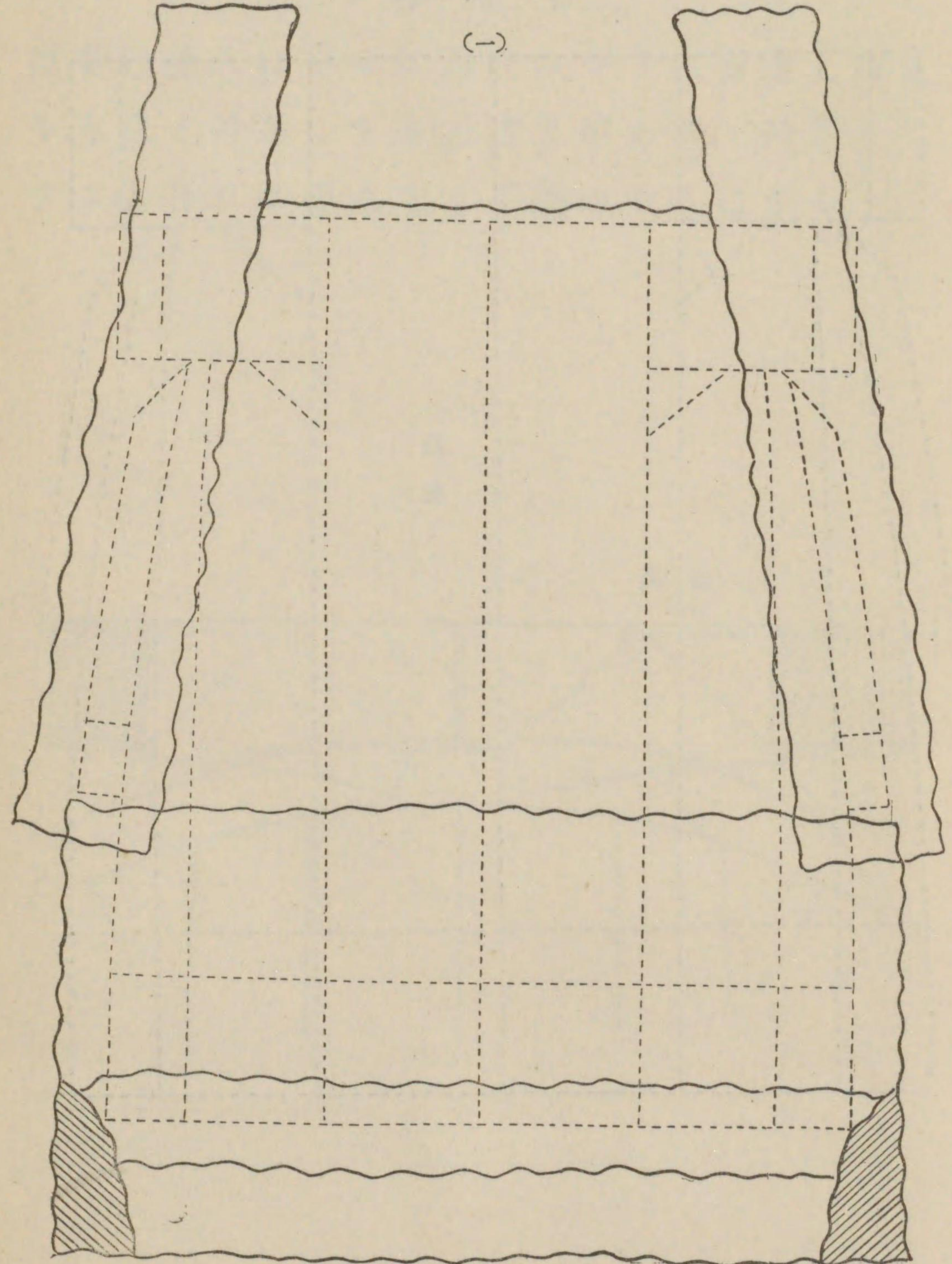
（二）



綿入れ

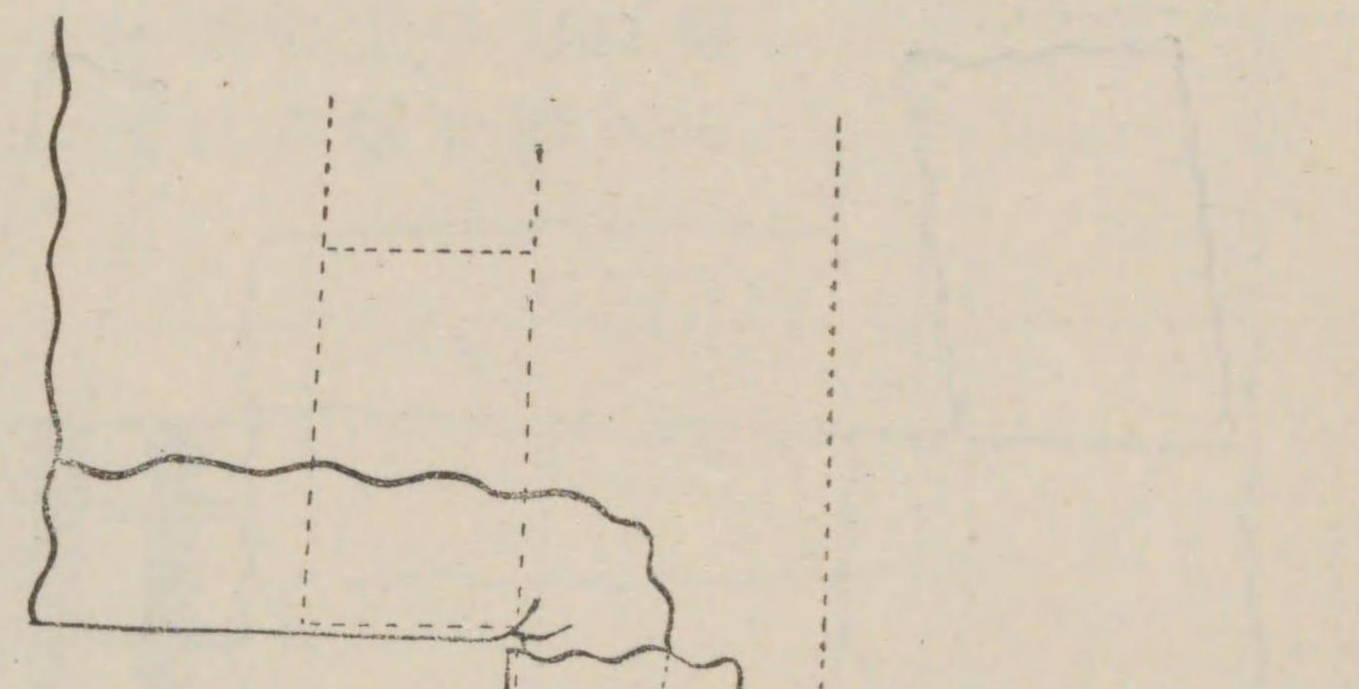
圖のやうに蒲團の要領で綿を重ねる。

(一)

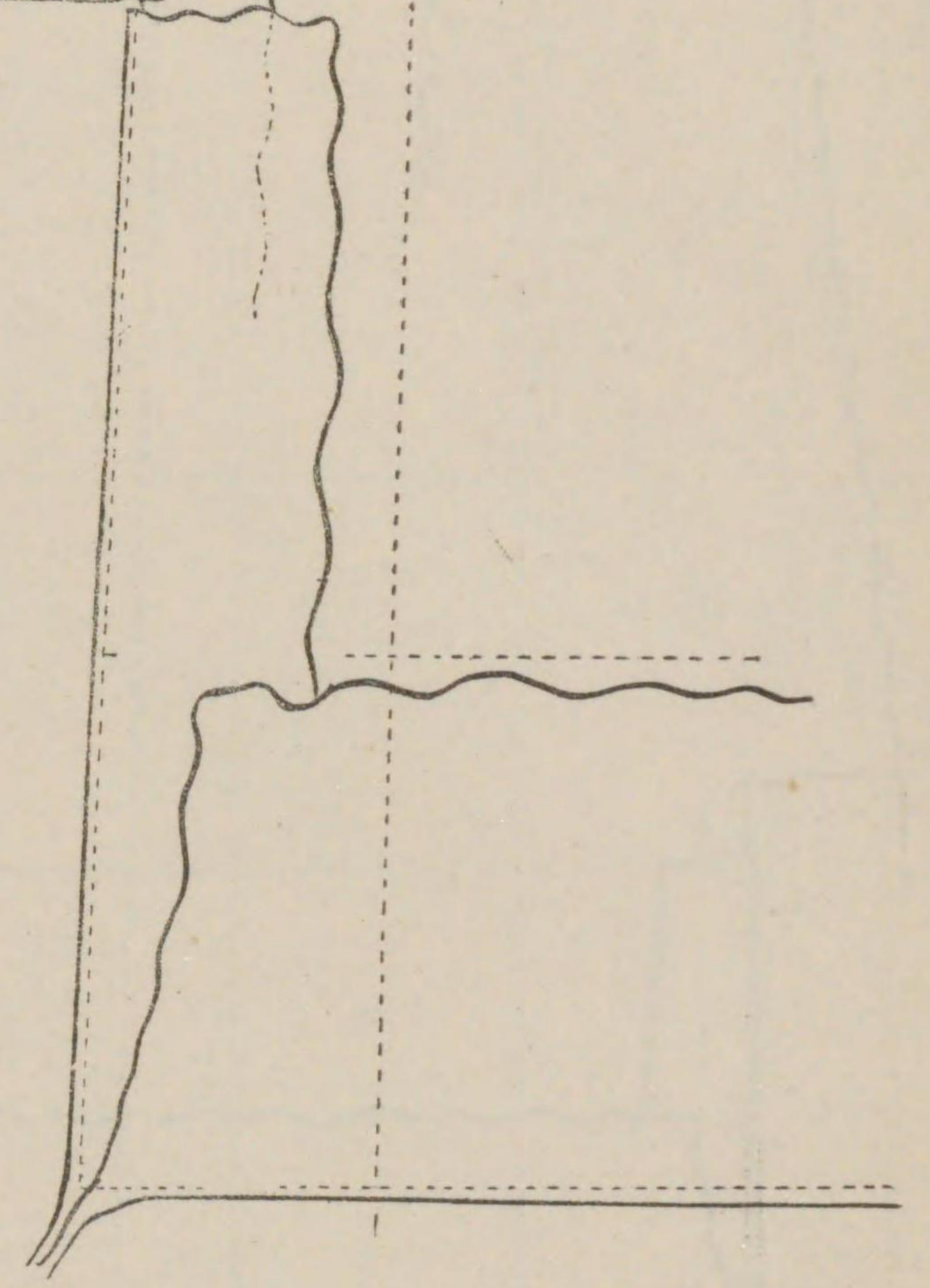


(二)

衿下及衿先の綿の拵へ方

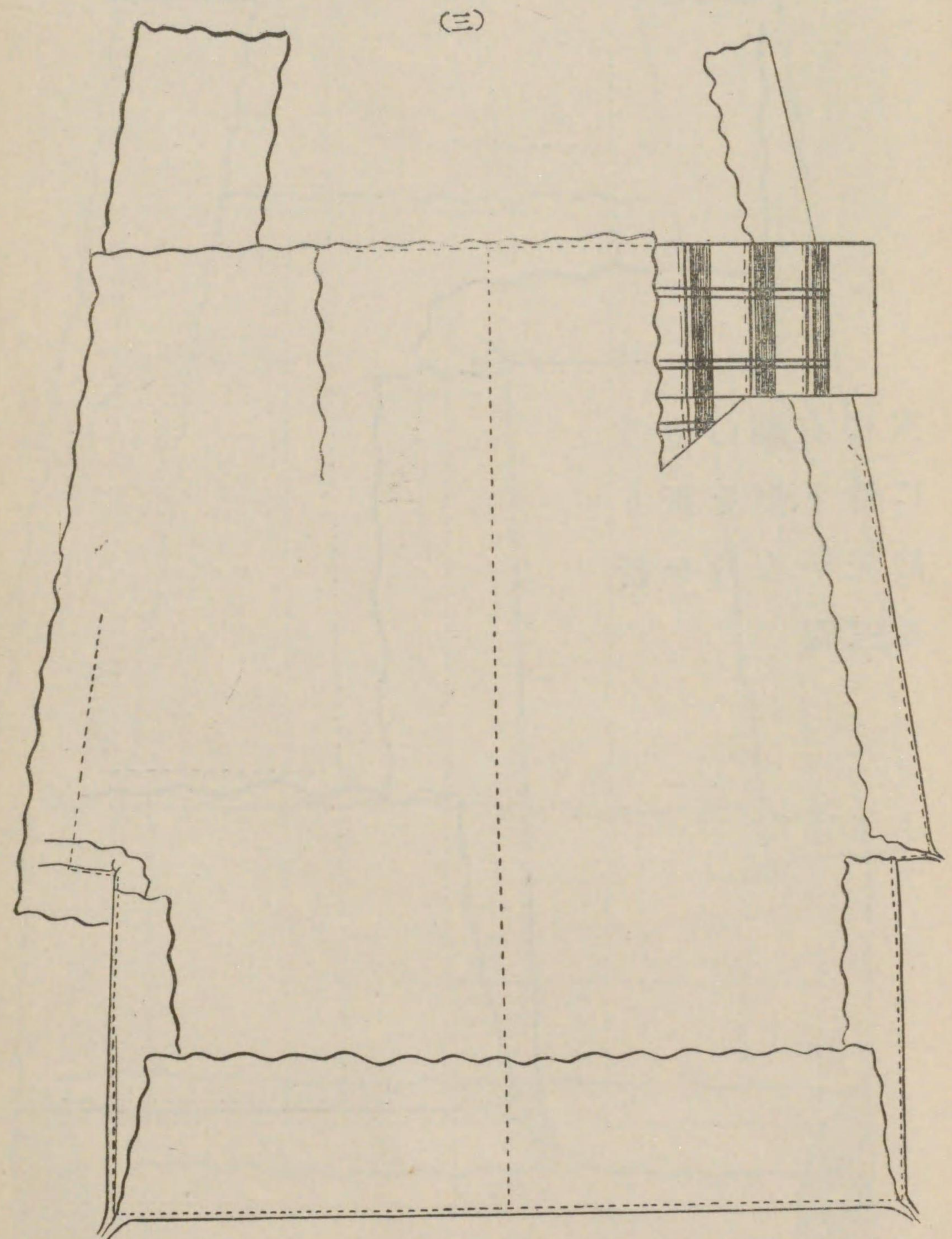


次に右圖のやうに衿下、裾を折り衿先から衿を折る(三)圖

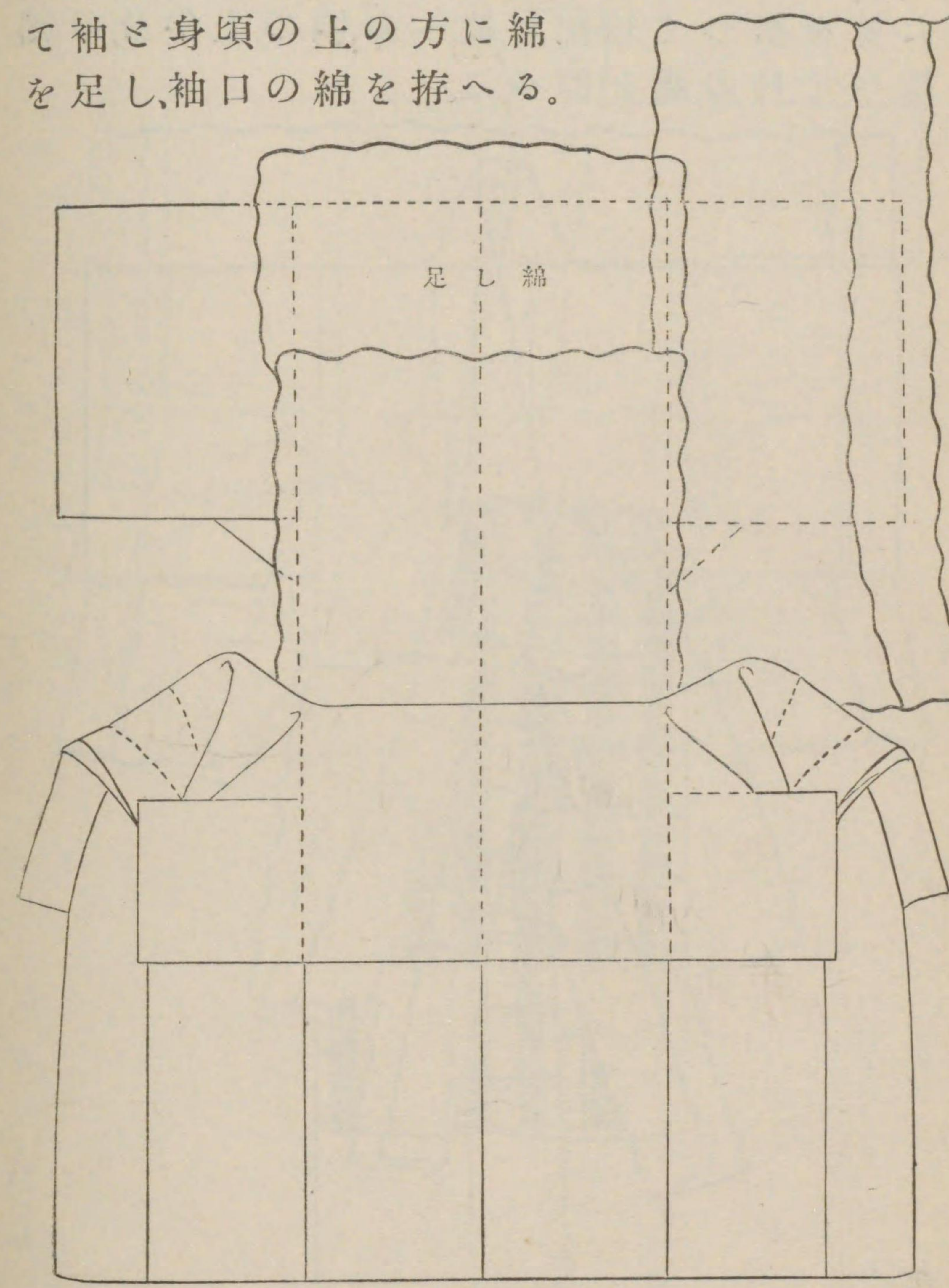


表布の袖附の所を燧の下まで綿に切目を入れて下半身を引き返す。

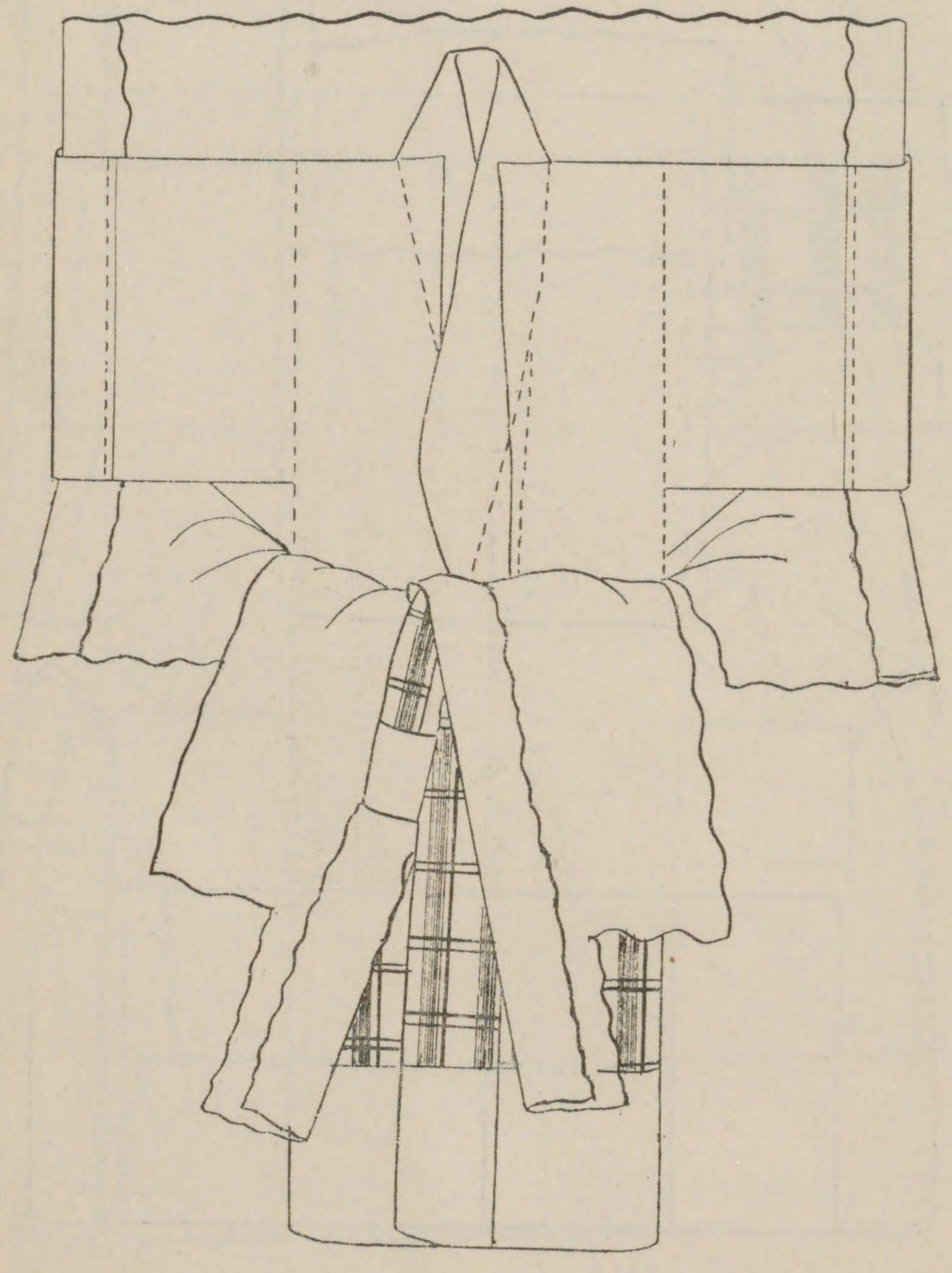
(三)

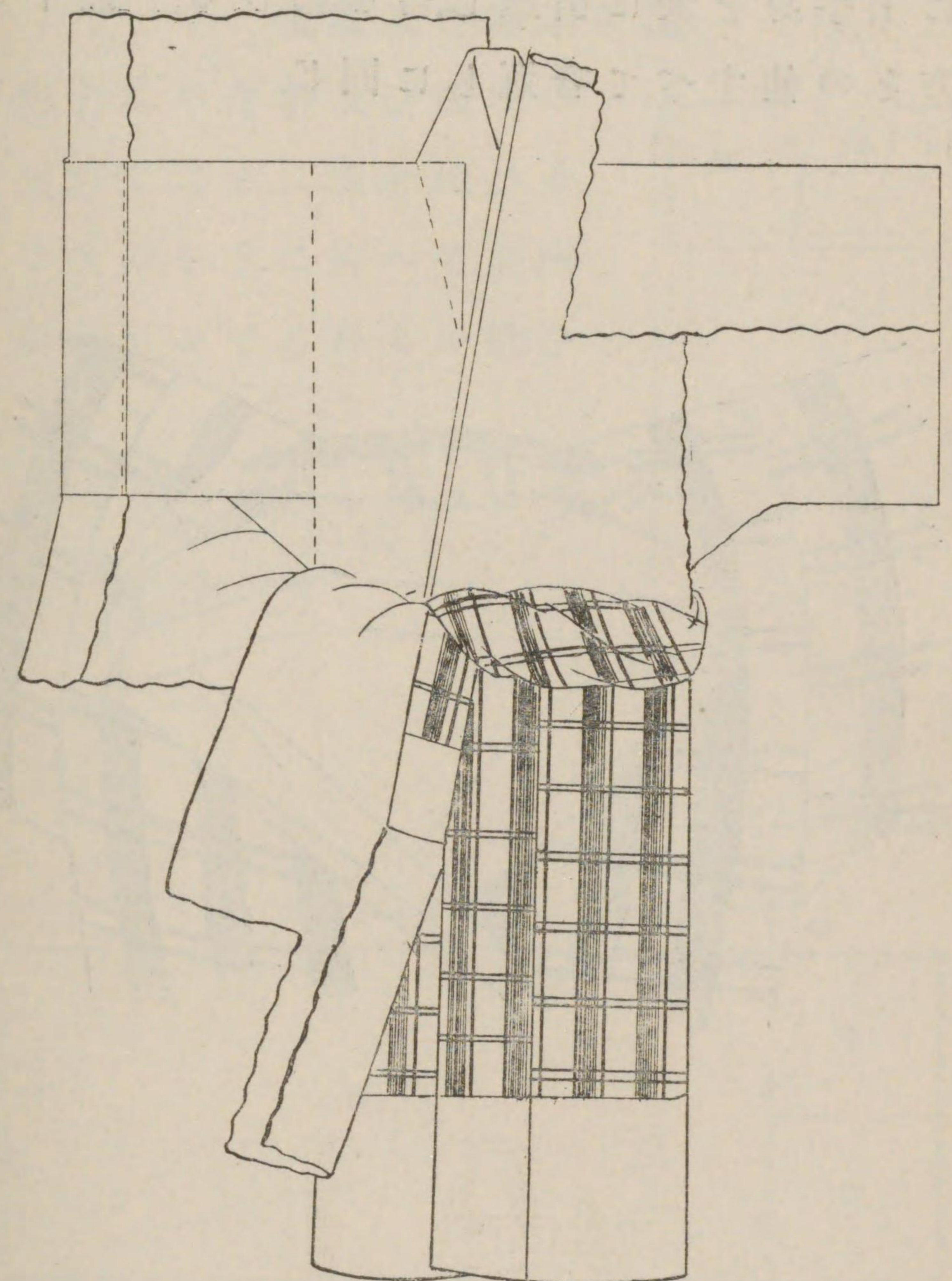


次に表布を上まで伸ばし、袖附の綿の切目の所から綿を前後に分けて、前は袖の下に置く。而して袖と身頃の上の方に綿を足し、袖口の綿を揃へる。

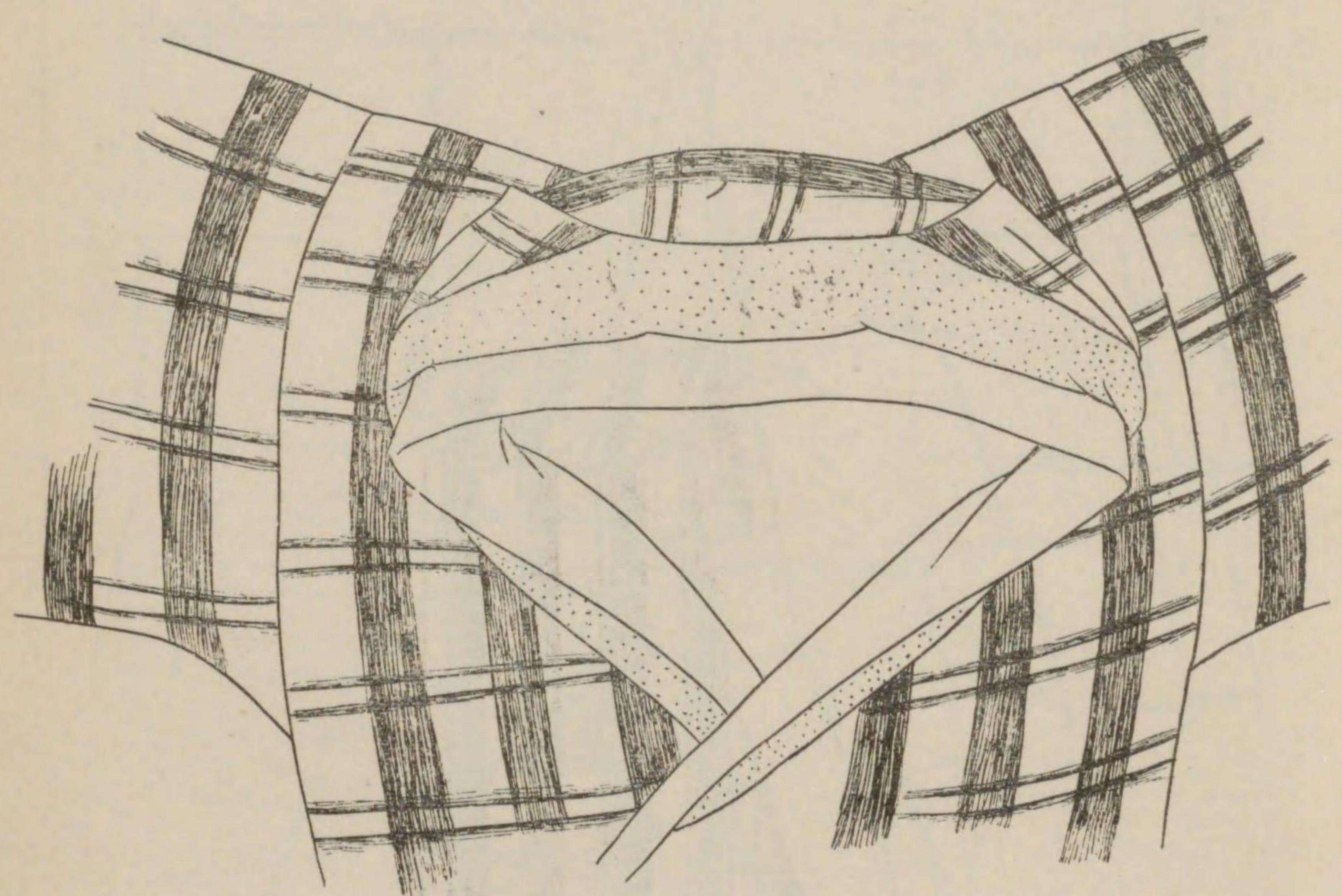


次に裏布の上半身を伸ばして綿の上に載せ袖奥と裏袖とを脊返しの要領で縫ひ合せ、周圍に出た綿を折つて袖綿を拵へ身頃の上半身の綿を拵へて、衿の綿を拵へる。





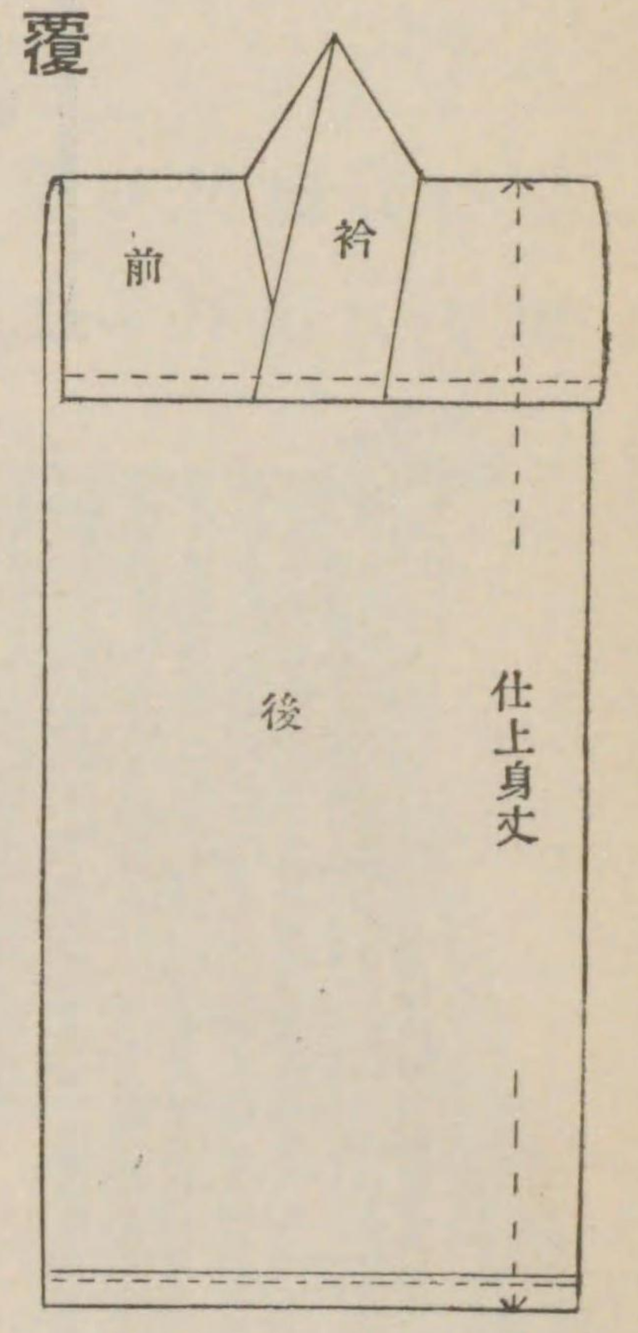
次に上半身を表に引返し,衿を絎ける。以下こぢ方その他すべて脊返しに同じ。



附 (2)

夜着及び搔巻の覆

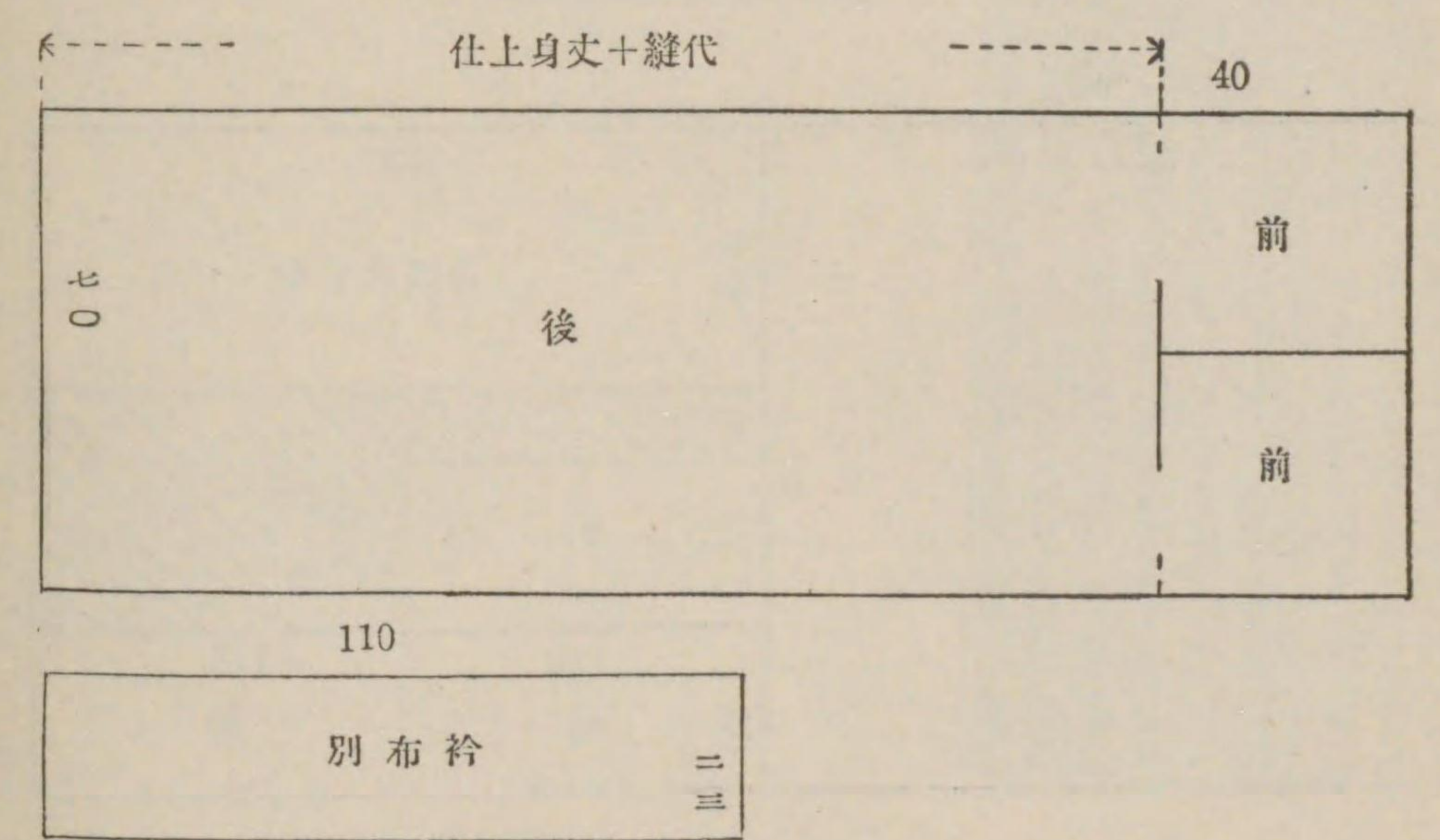
衛生上且つ夜着及び搔巻の汚を防ぐために覆を用ひる。覆は次のやうに拵へて周圍を安全ピンでとめるか縫ひつける。



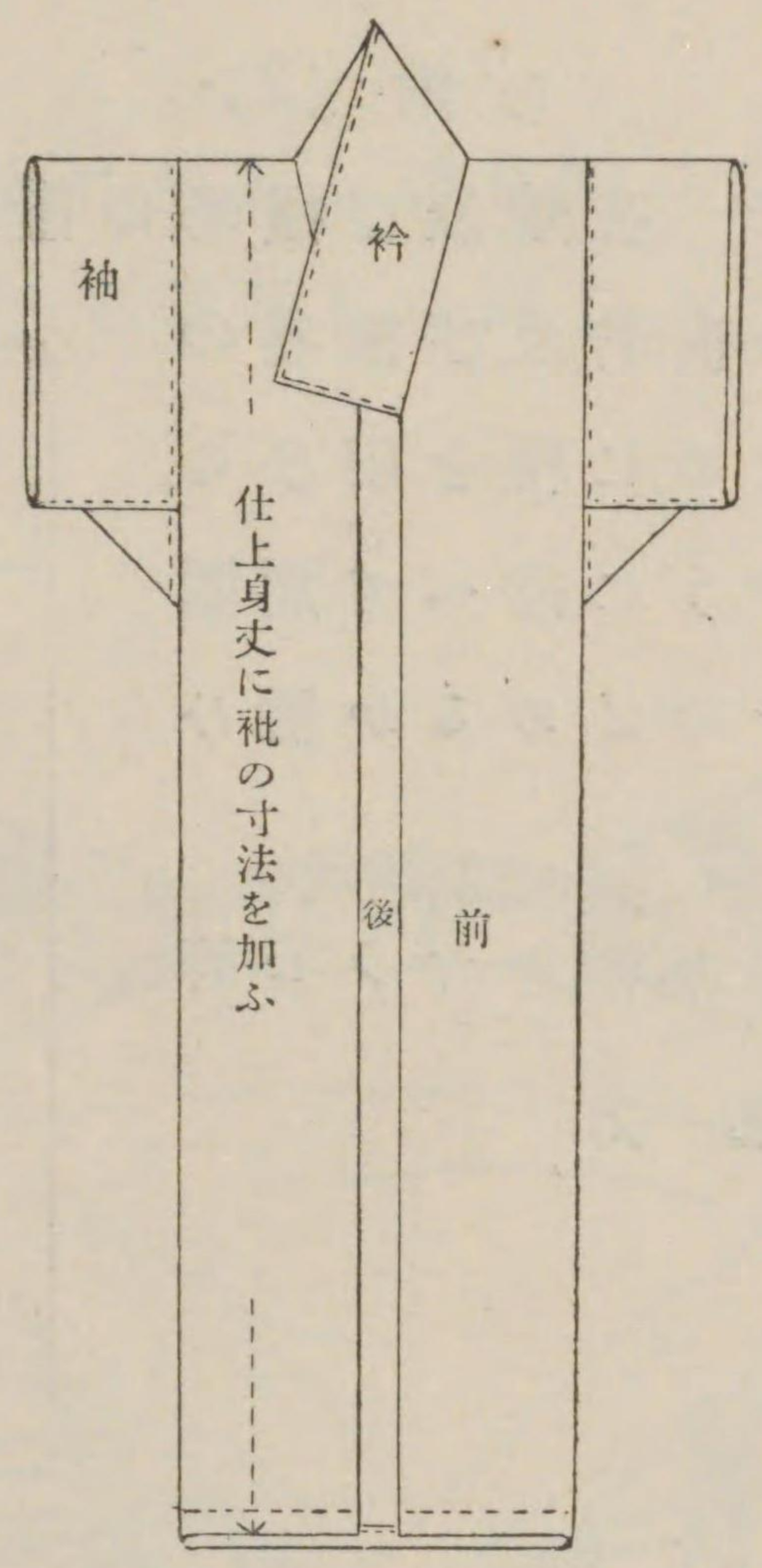
地質は天竺木綿,キヤラコ等

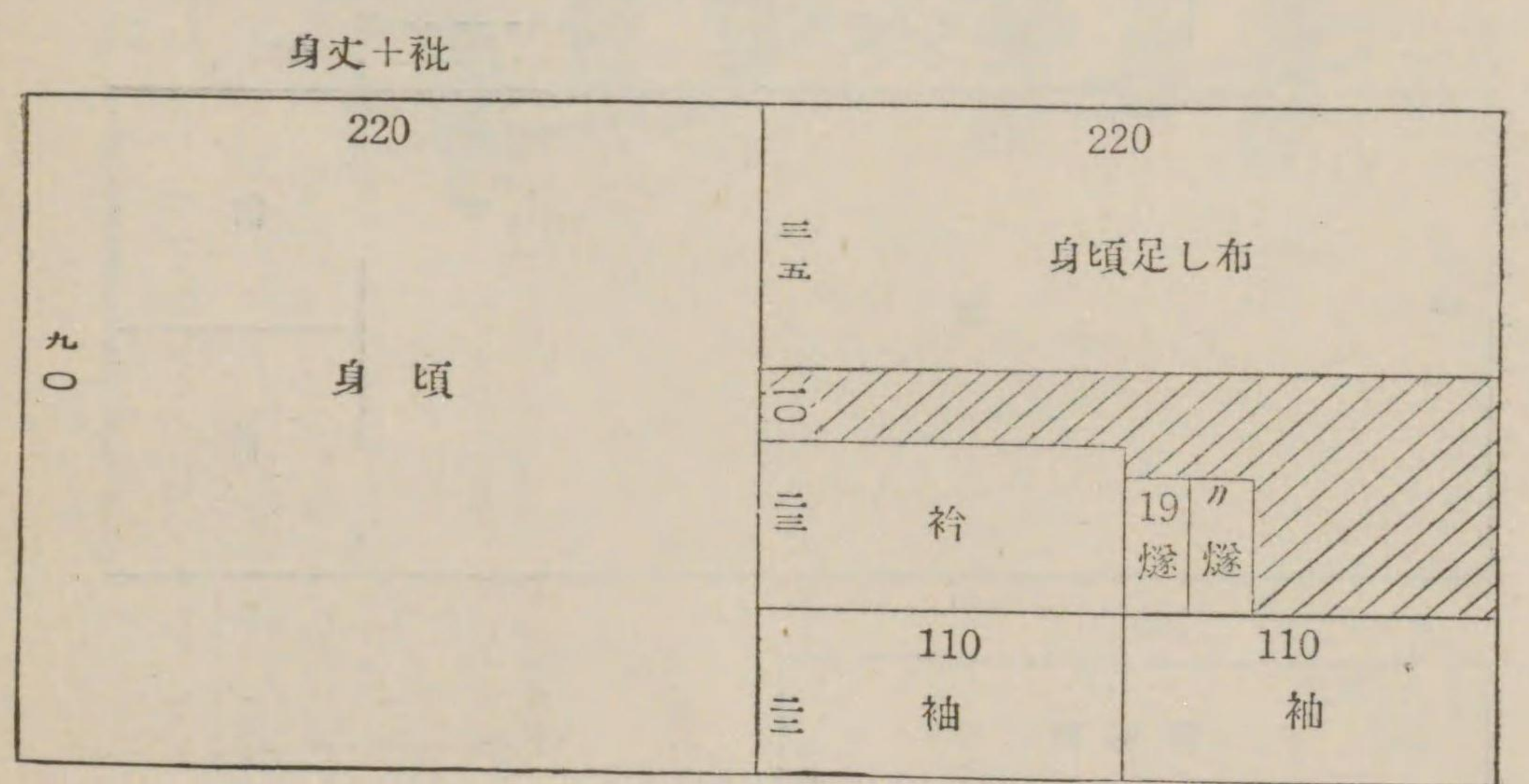
(2 裁ち方

(イ)



(ロ)



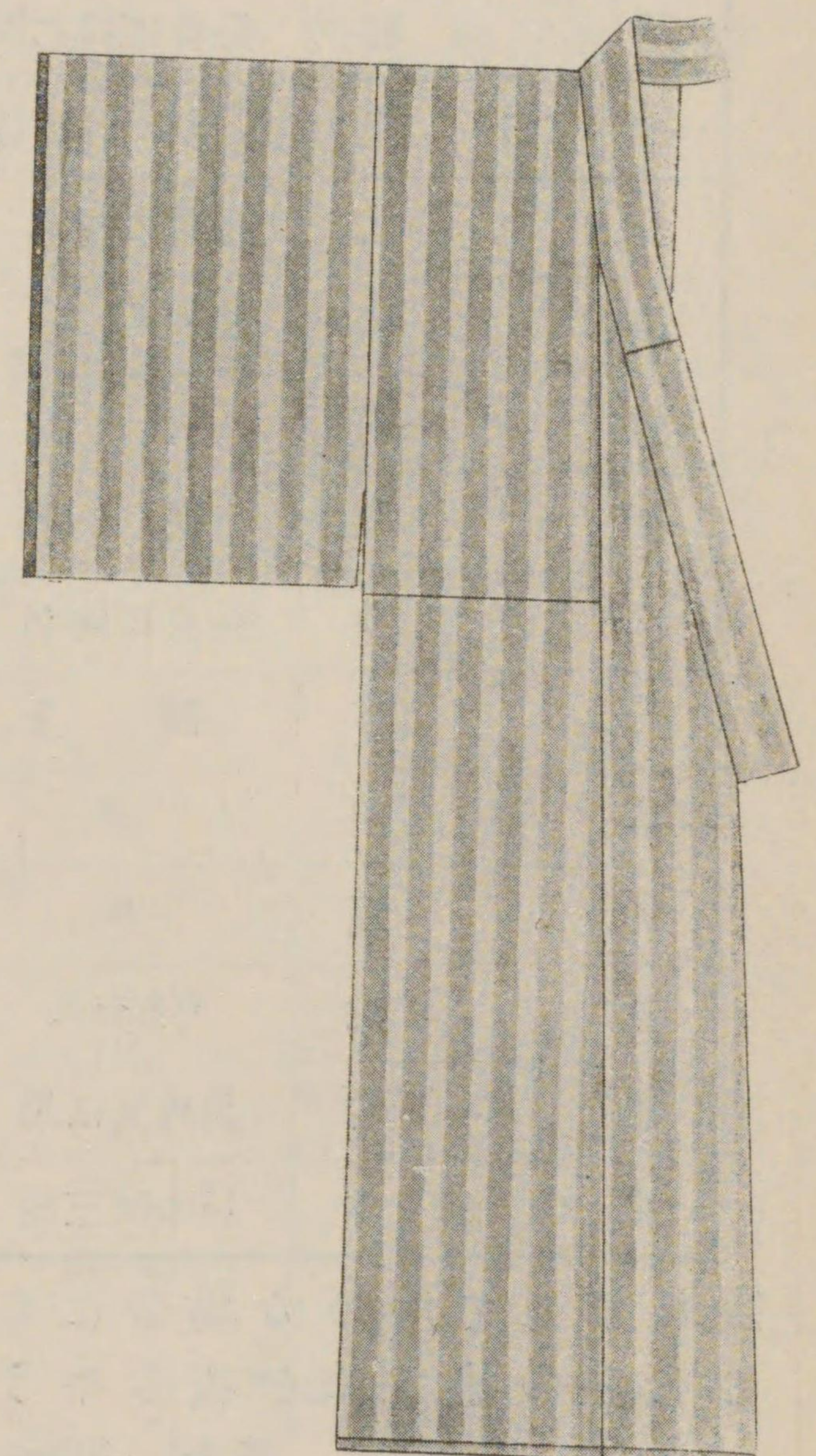


第四節

丹前(溫袍)

丹前は寒い時の部屋着として用ひ、又寢具に用ひることもある。地方によつては外出にも用ひる。

(1) 仕立上り圖



男物は人形又は附詰、女物は振、身八つ口をあける。

(2) **普通仕立上寸法**

	男　　物	女　　物
袖　　丈	長着に同じ	57cm
袖　　附	長着＋2cm 又は附詰	27
袖　　幅	長着に同じ	
袖　口　袘	0.7～1.	
身　　丈	長着に同じ	着丈
後　　幅	長着＋0.5	
前　　幅	同　上	
衽　　幅	同　上	
衽　下　り	長着に同じ	
衿　　下	同　上	65
衿　肩　明	10	10.5
衿　　幅	6	
裾　　袘	0.8～1.	
掛　　衿	共衿又は黒	
綿の目方	150g附三枚	

寝具として用ひる場合には袖は附詰褄は角褄とし其の他寸法を次のやうにする

身丈　150cm　　後幅　32cm　　袖口袘　2cm
前幅　27cm　　裾袘　3cm

(3) **地質及び柄**

表裏は略綿入長着に同じく、柄は稍大柄を用ひ、袖口布は黒八丈、洋八丈、綿八丈、レーヨン等。

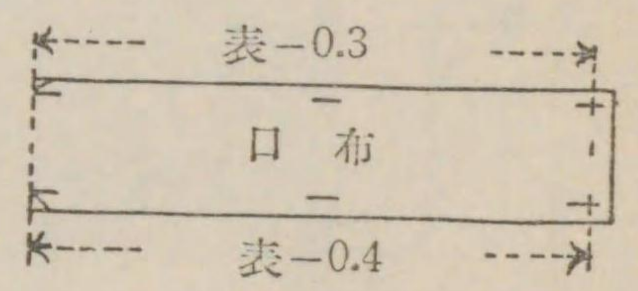
(4) **裁ち方　積り方**

表も裏も長着の要領でよい。但し袖口布の幅は12cm位で、丈は裁切袖丈に同じ。

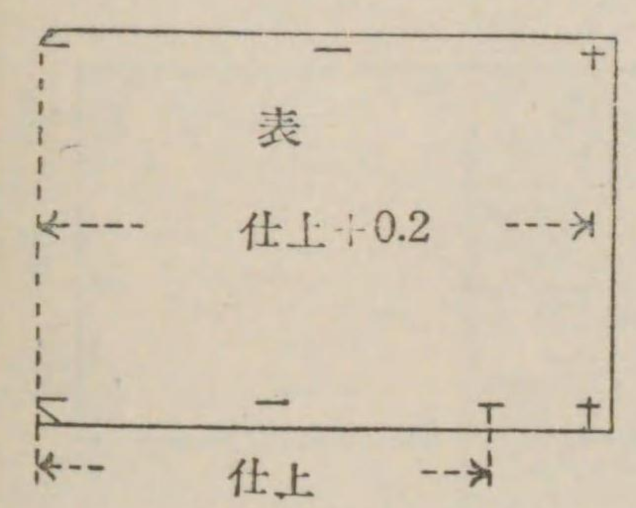
(5) **標附け方**

袖

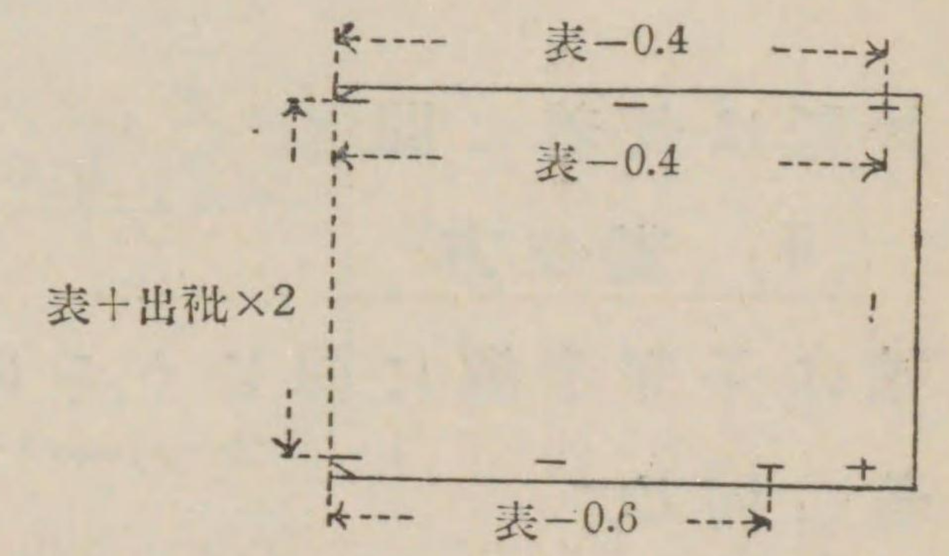
袖口布



表

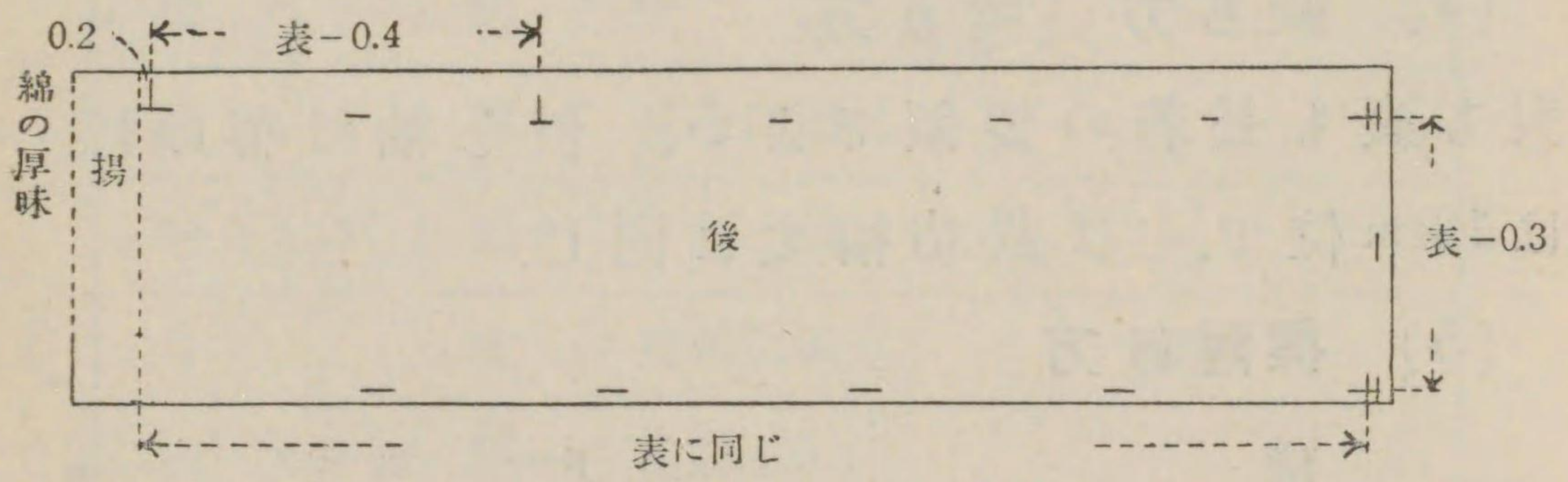


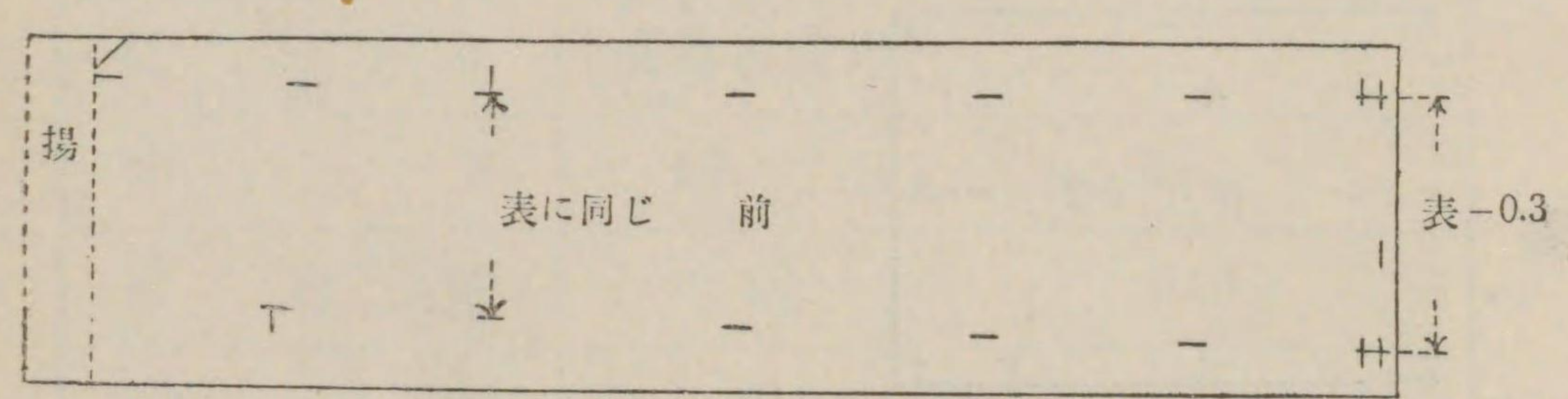
裏



表身頃は袷長着に同じ(第一巻参照)

裏





衿衽は長着に同じ。

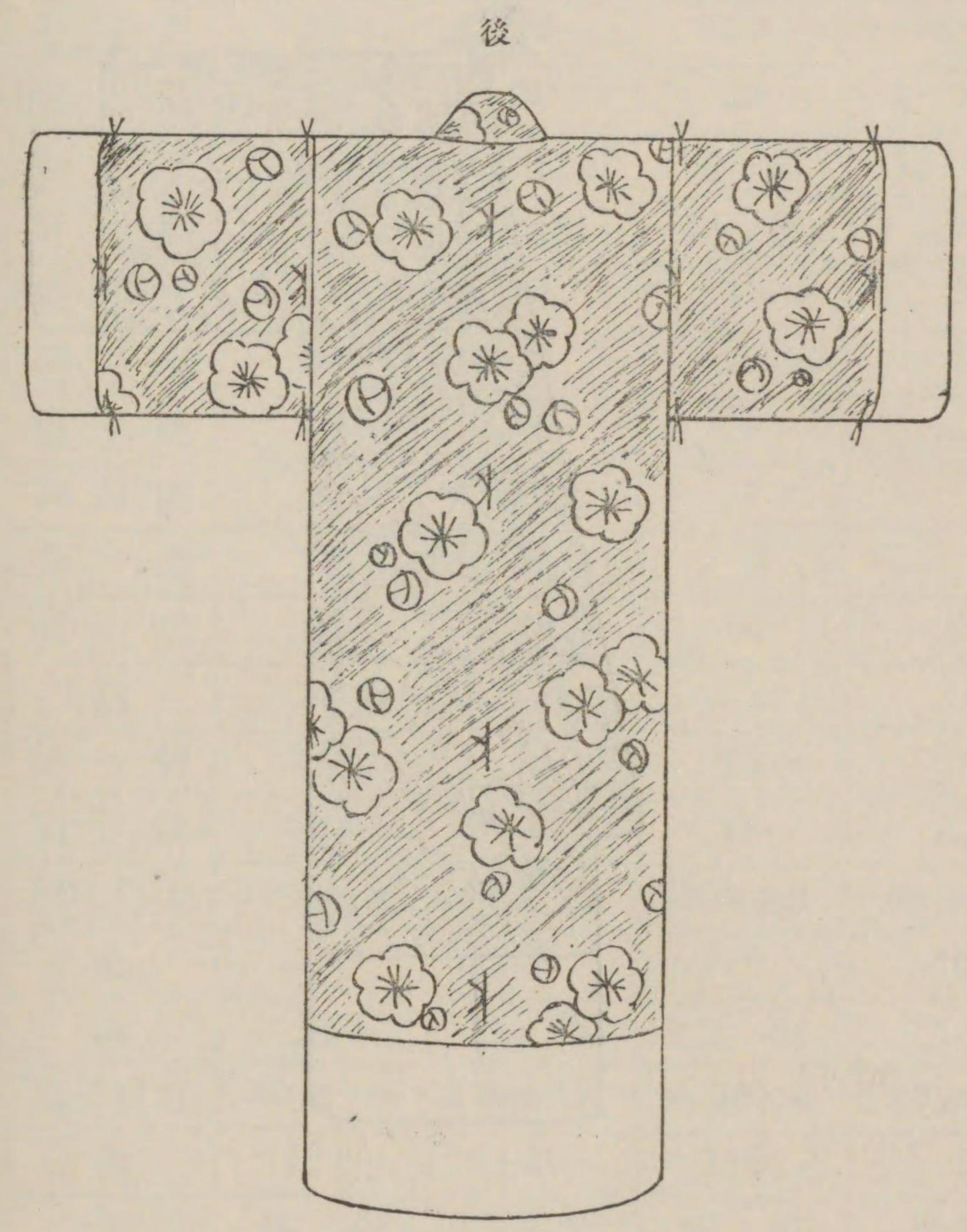
(6) 縫ひ方

袖は子守半纏に同じく、その他はすべて綿入長着に同じ。

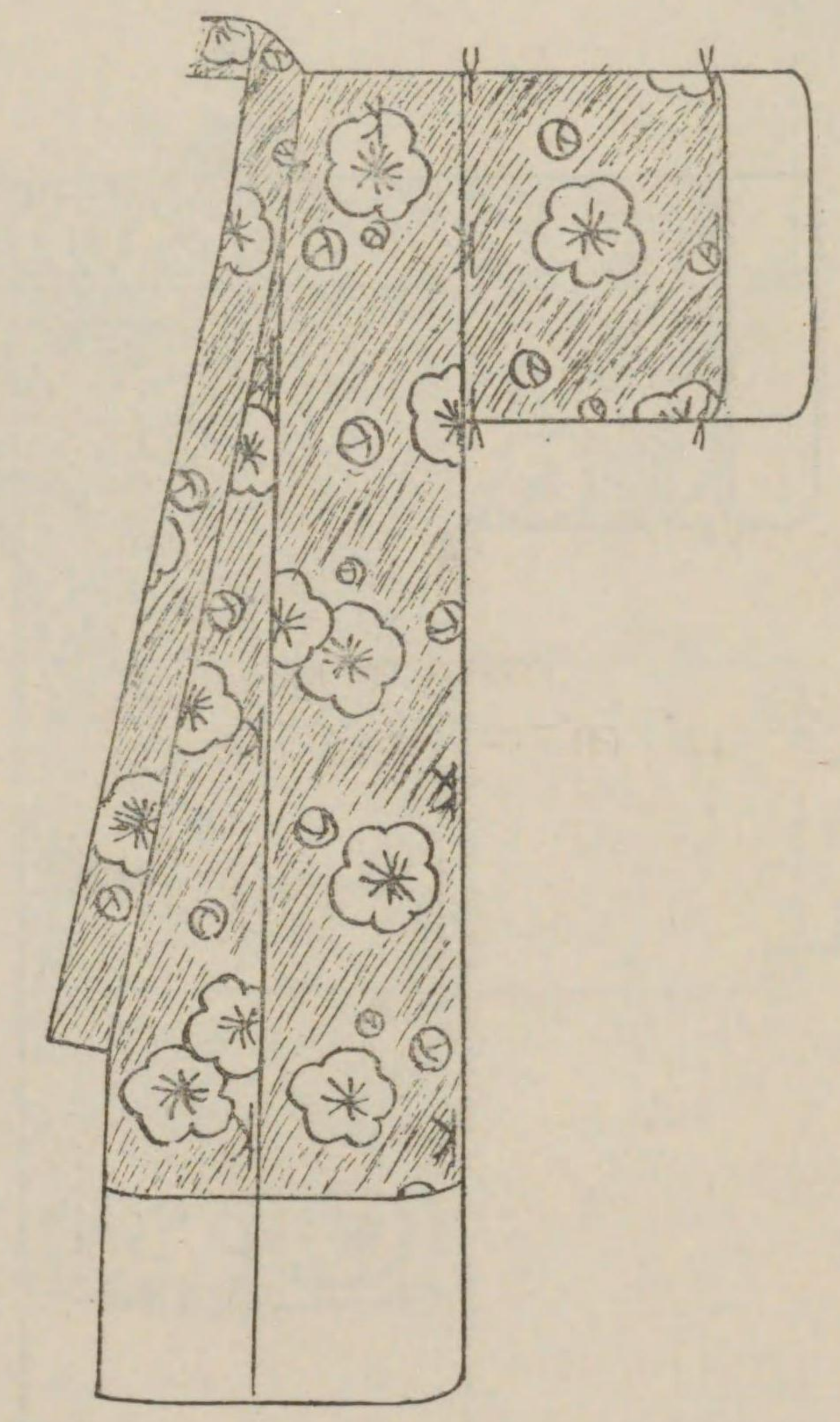
第五節

子供物夜具

(1) 仕立上り圖(搔巻)



前



(2) 普通仕立上寸法

各部名稱		十　歳	七八歳	五六歳	一歳～三歳
搔巻	袖丈	45	38	30	25
	袖巾	27	25	21	19
	袖口袘	7	7	6	6
	身丈	150	130	110	90~100
	後巾	28	26	20	いつぱい
	前巾	いつぱい	いつぱい	同前	同前
	衽巾	いつぱい	いつぱい	同前	11~13
	衽下り	15	13	11	10
	衿下	50	40	20	20
	衿袘	10	10	8	……
	衿肩明	10	8	7	5
	衿巾	7	6	5	4
	裾袘	23	20	15	15
	燧	8	7	……	……
	掛衿	90	75	75	75
	肩當	110	100	82	……
	綿の目方	300g附六枚	300g附五枚	300g附四枚	300g附三枚
敷蒲團	丈	150	130	110	100
	巾	二布半	二布	二布	二布
	綿の目方	300g附十枚	300g附八枚	300g附六枚	300g附五枚
掛蒲團	丈	150	130	110	100
	巾	四布	三布半	三布	二布半
	綿の目方	300g附八枚	300g附六枚	300g附四枚	300g附二枚半

（3） 蒲　團

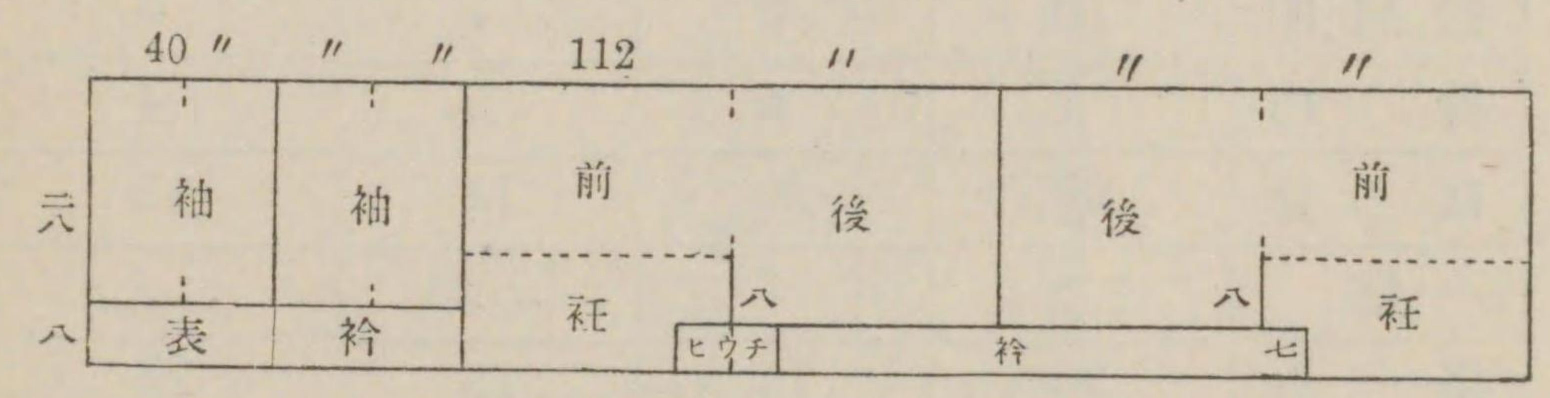
大人物と同じ様に敷蒲團は二布の垂孌とす。掛蒲團も表裏突き合せにし,或は鏡蒲團何れでもよい。縫ひ方,綿の入れ方,とぢ方等すべて大人物に倣ふ。

（4） 搔　卷

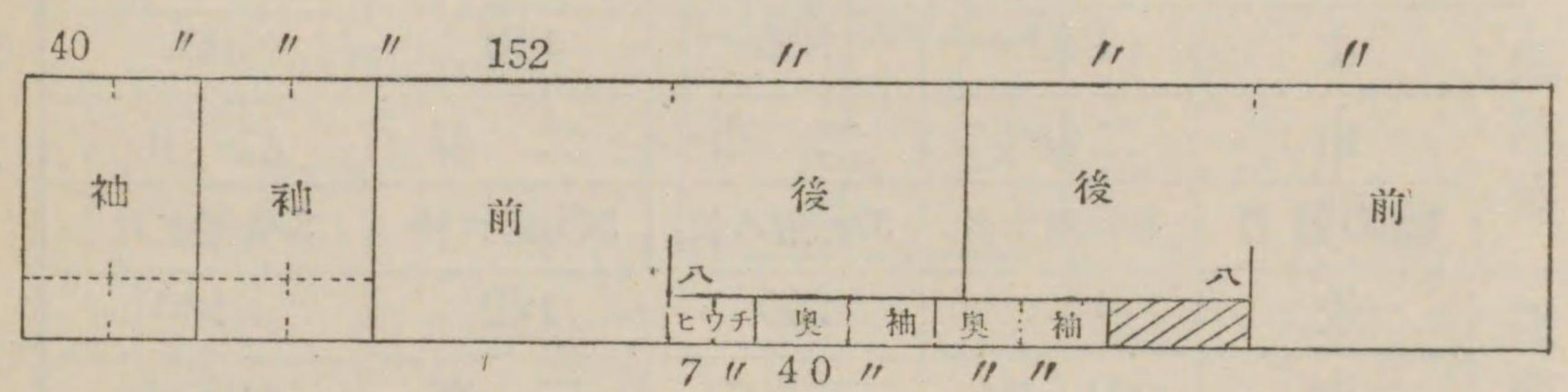
（イ） 裁ち方、積り方

（1） 七八歳用

表

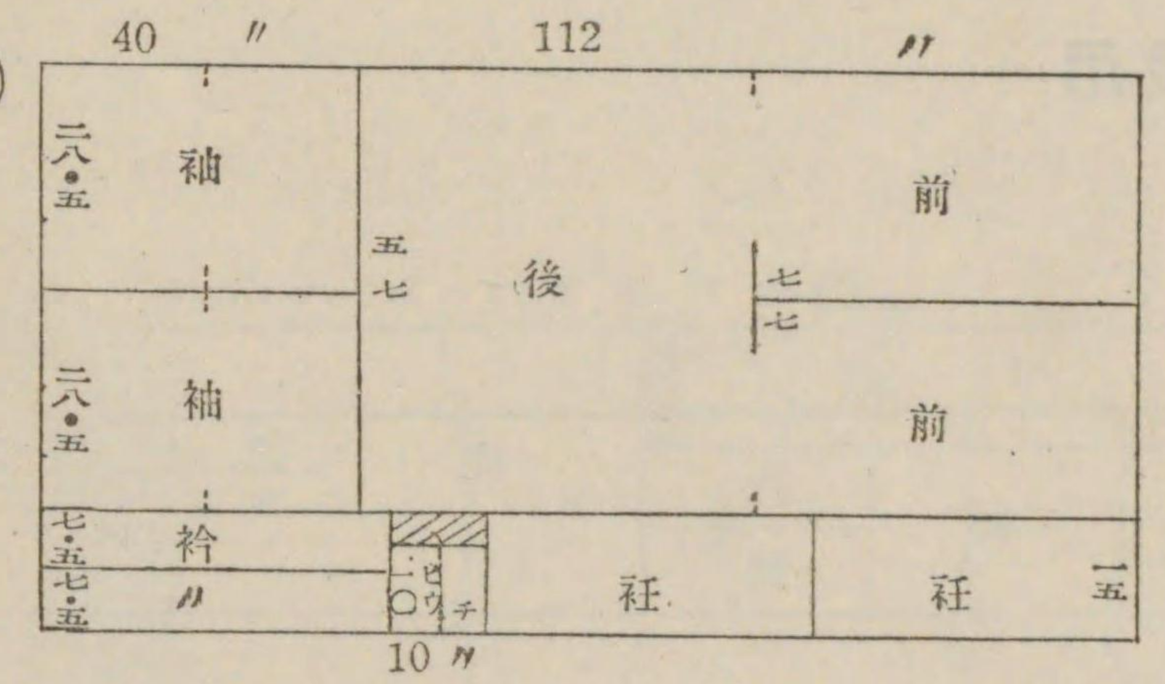


裏

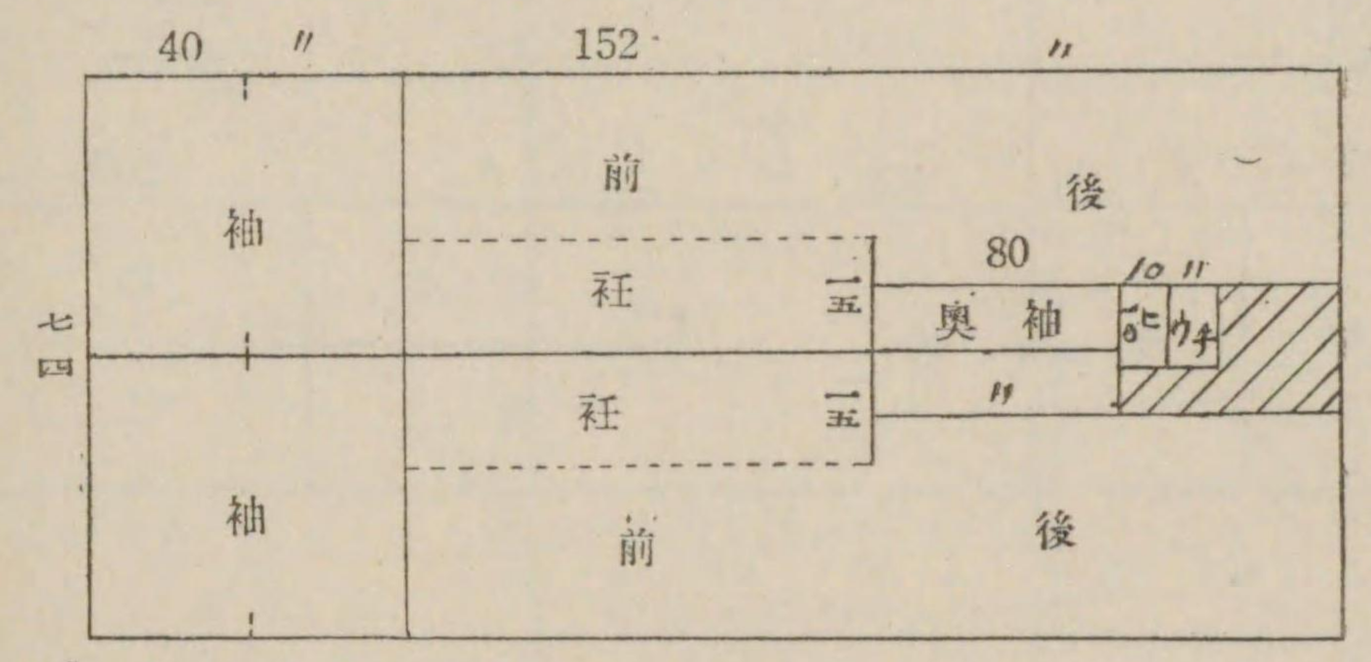


（2）

表

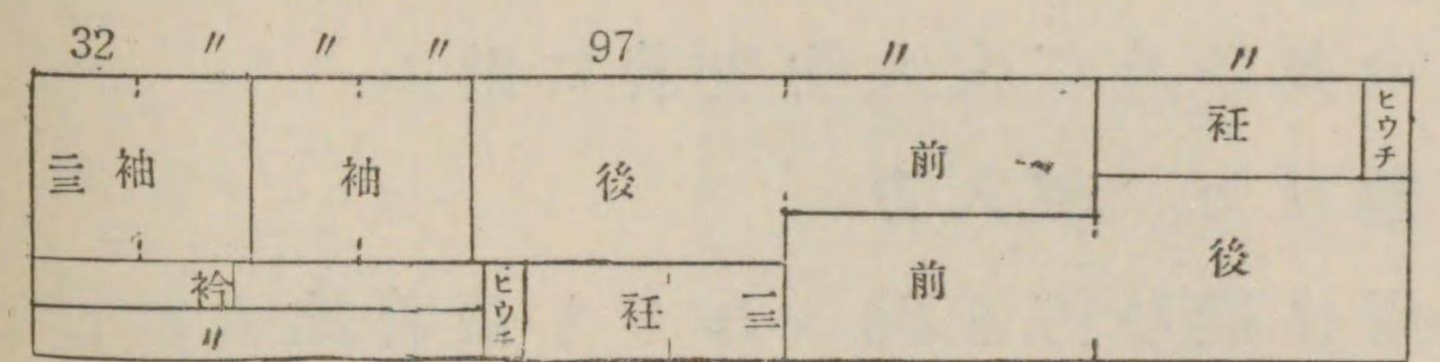


裏

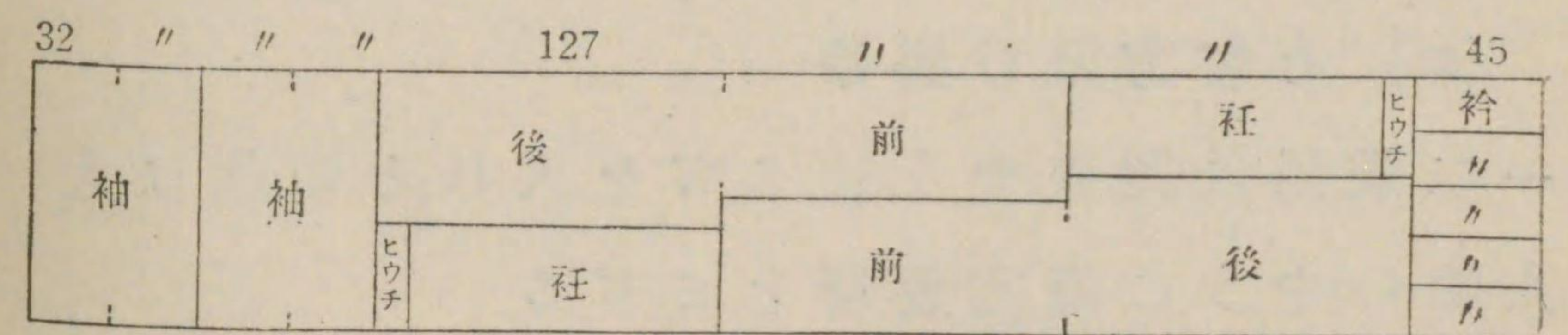


五六歳用

表

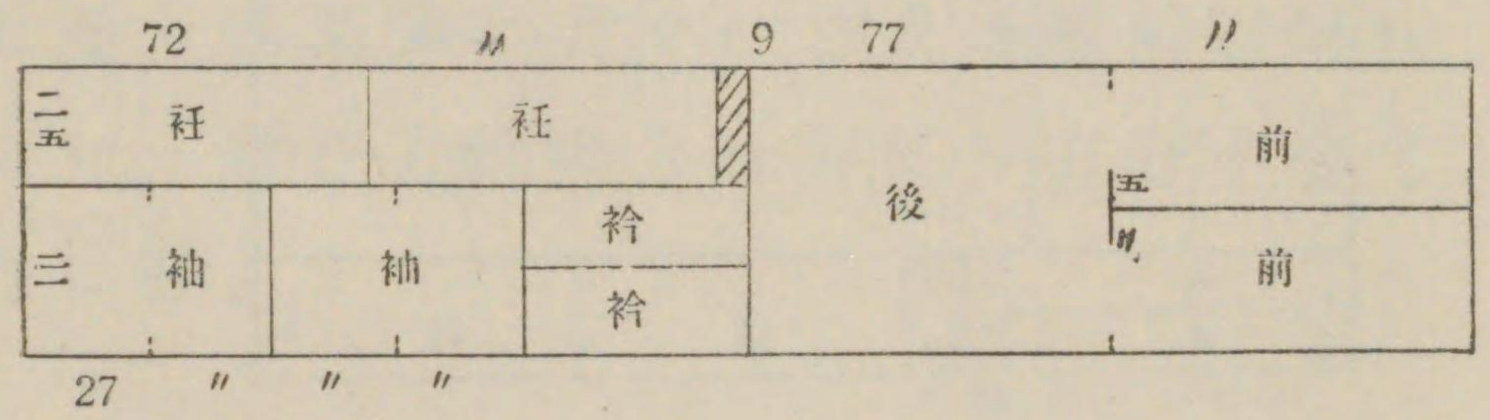


裏

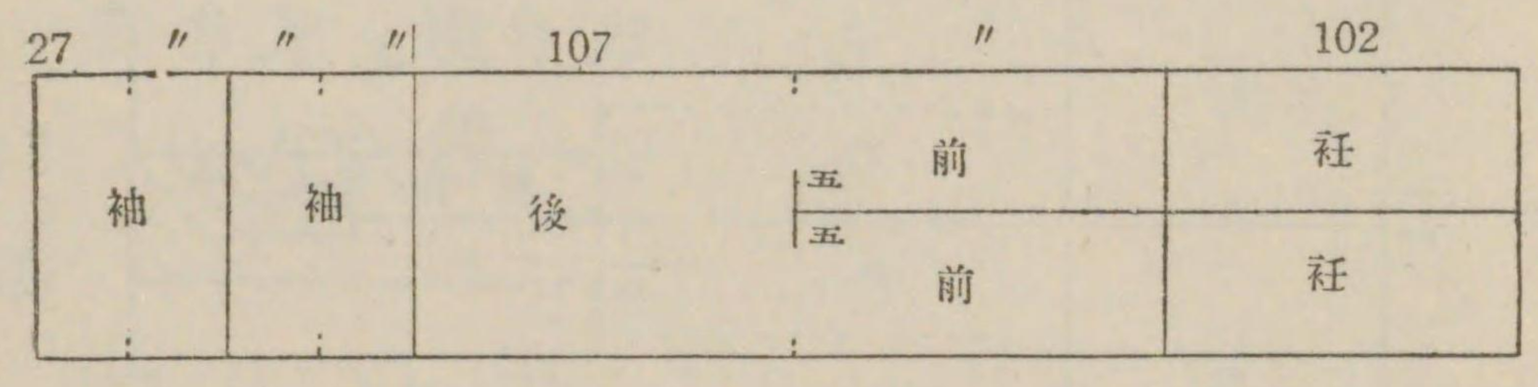


一二歳用

表



裏



(ロ) 標附け方

中小裁の長着及び大人物夜着に倣ふ。

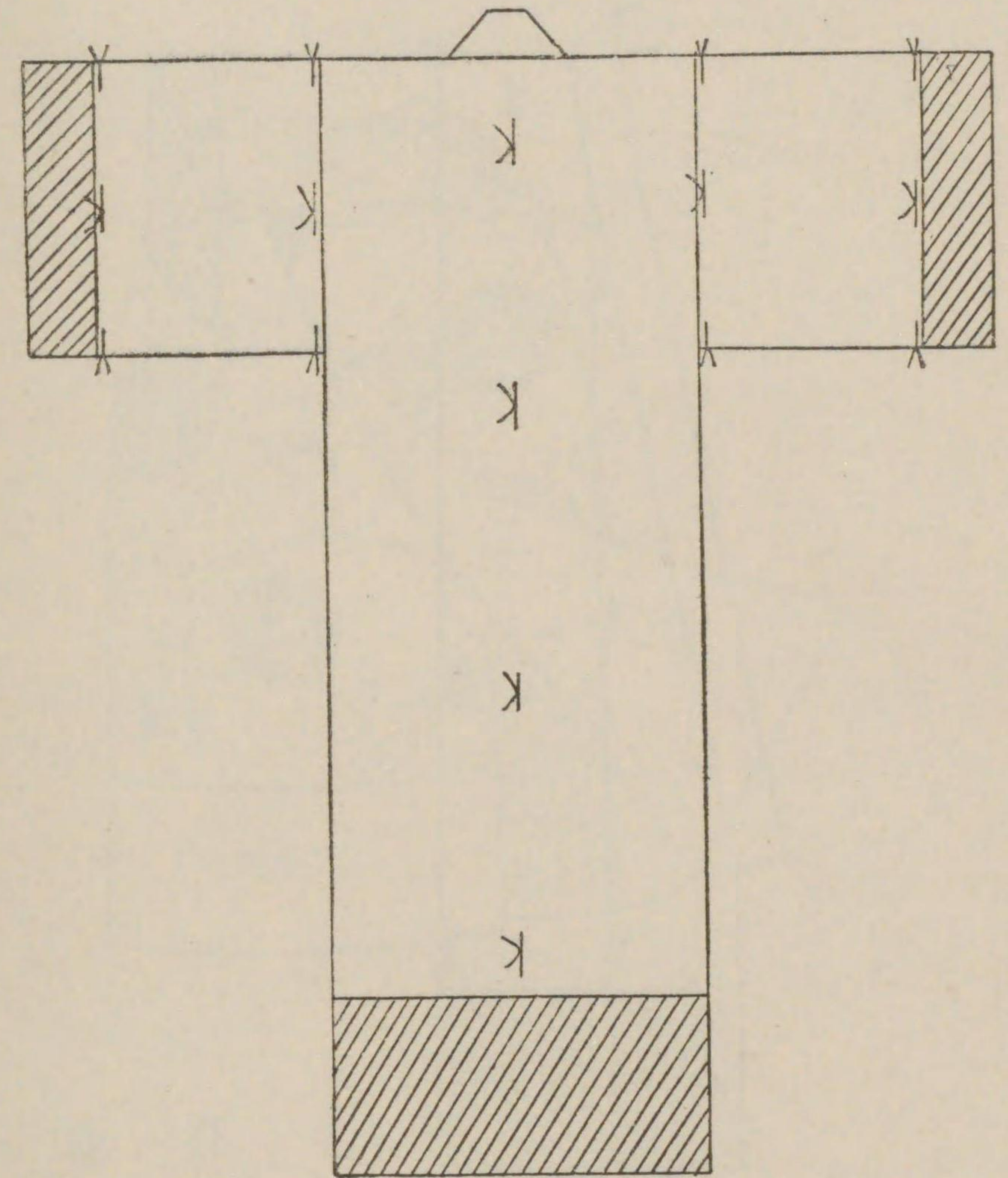
(ハ) 縫ひ方、綿入方

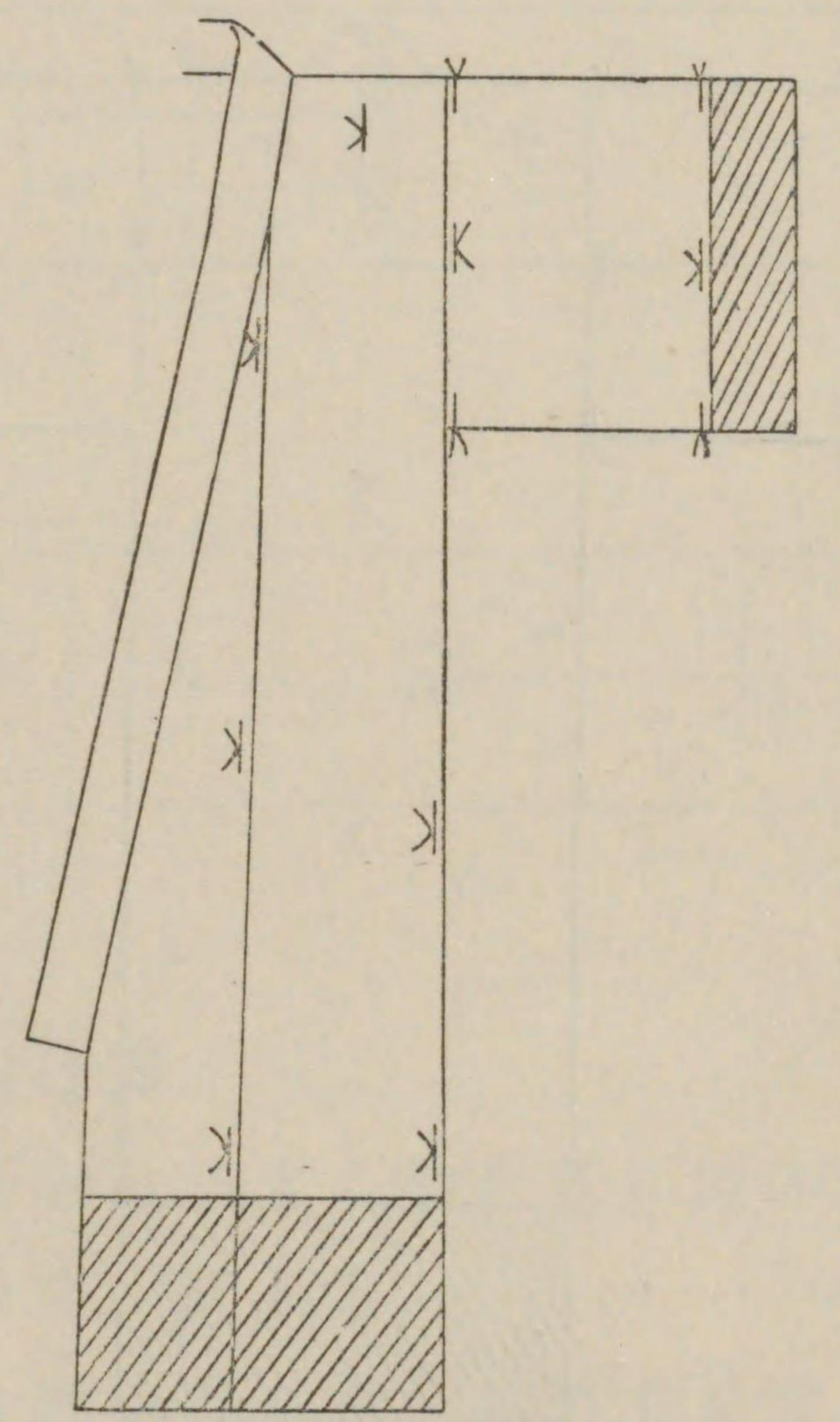
一二歳用は縫ひ方も綿入れ方も長着綿入れに同じ。その他は大人物夜着に倣ふ。

(ニ) とぢ方及び掛衿

一二歳用は圖のやうにとぢを入れ、その他は大人物のやうに適宜要所をとぢる。

とぢ方の圖

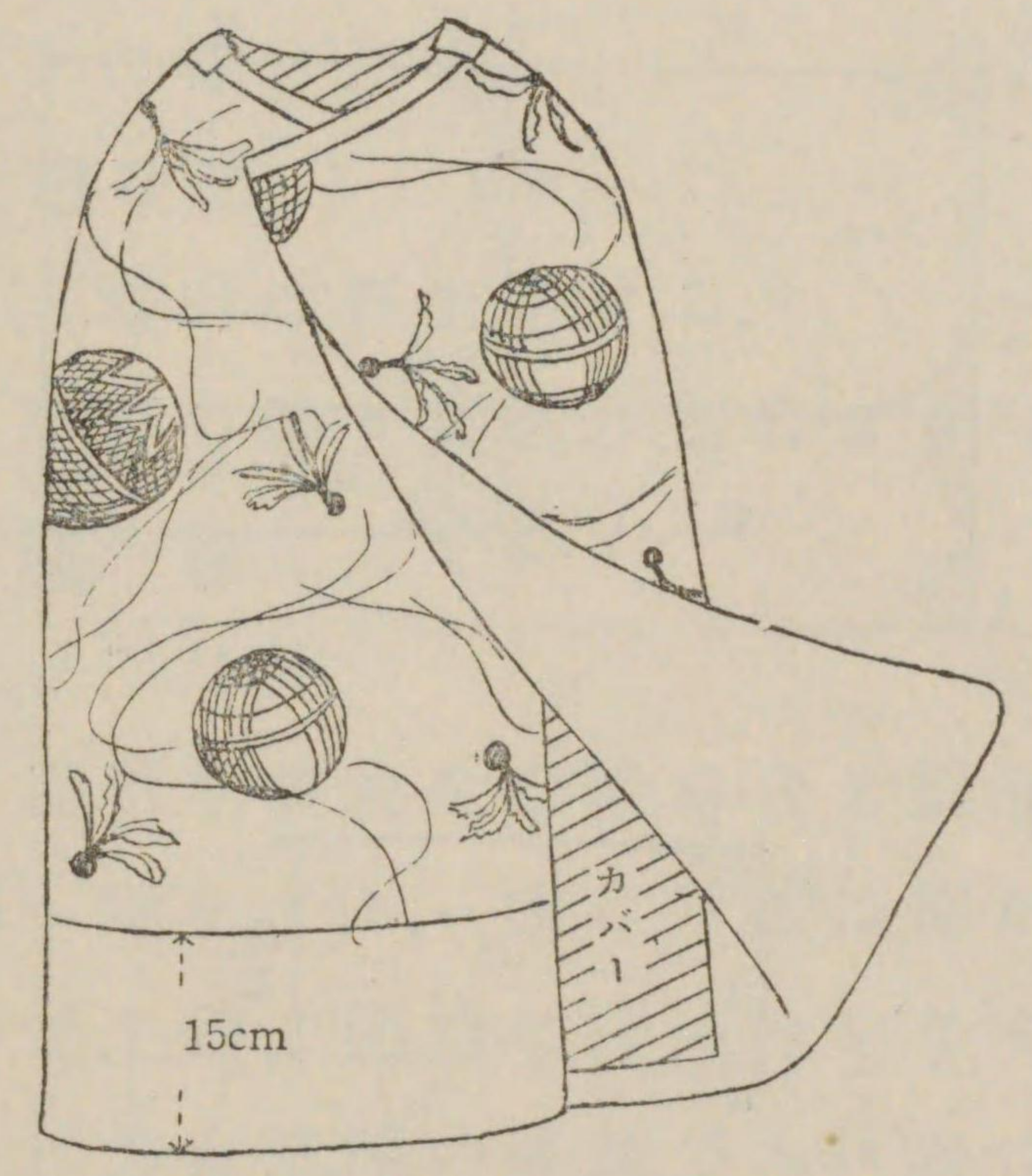




袖無おくるみ

(1) 仕立上り圖

(一)



(2) 地　質

モスリン,富士絹,羽二重等

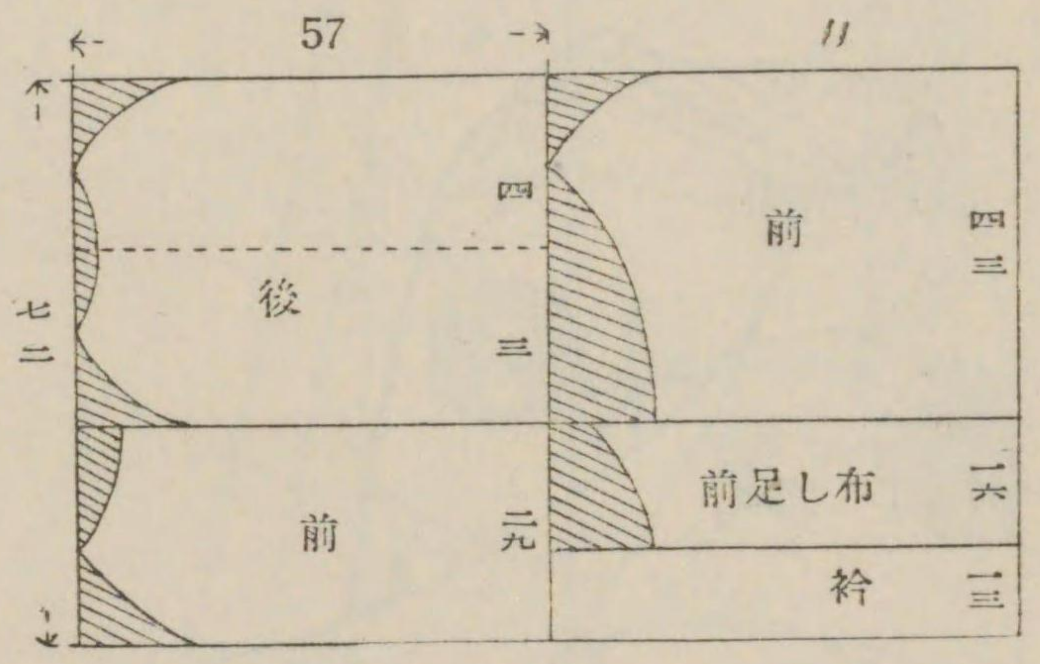
(3) 綿の分量

150g 附二枚(ドテラ綿二枚)

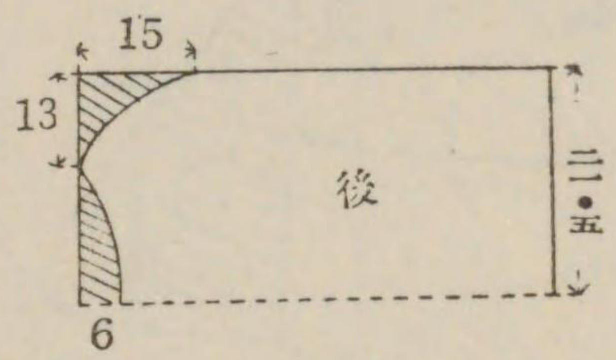
(4) 縫　方

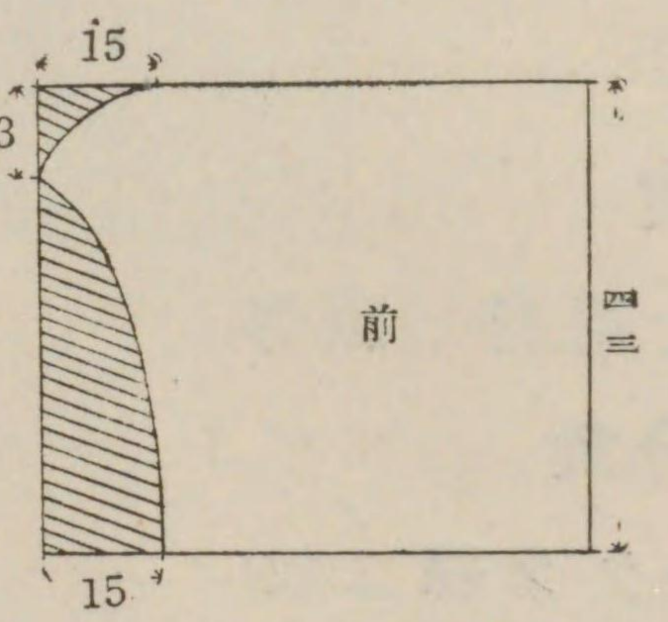
表

幅 72cm　　丈 114cm



衿肩の繰





裏の裁方は表より出袵の二倍 (15×2) 各布丈を長くし前後の繰りは表に合せて裁つ。

(5) 標附け方

表裏同じ幅にいつぱいにし丈は前述の夜着と同じやうに標をなす。

(6) 縫ひ方

袵のある場合は袵を附ける。

次に脇を形の通りに縫ひ,裾合せをなす。各縫目には抑へ縫をしておく。

表に衿をつける。

上前の前明を表裏全部縫ひ合せ折りは表に返して抑へ縫をする。次に下前は裾から 40cm 位縫ひ合せ上前と同様に抑へ縫をなす。

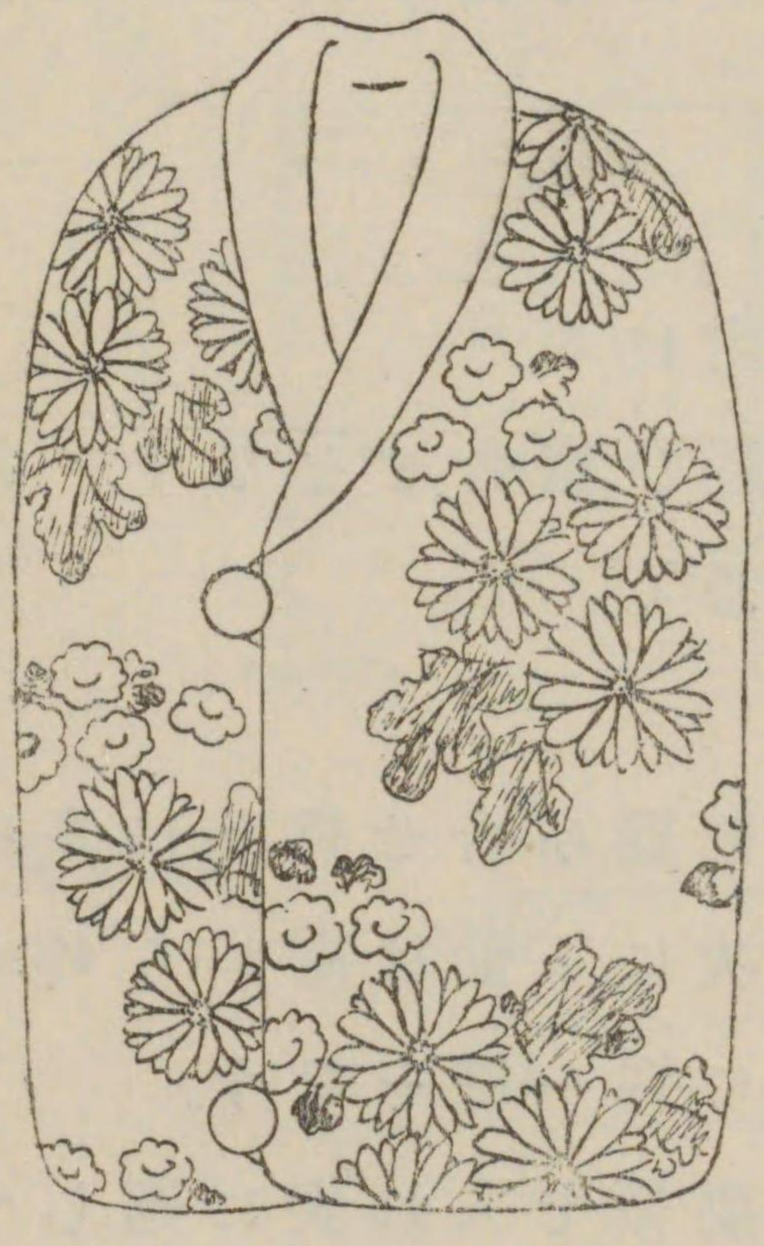
綿の入れ方は蒲團の要領で入れ表に返して引合をなし返し口及衿絎をなす。

とぢ方

脇は長着綿入と同様にとぢ周圍は 4cm 入つた所にゆるく隱しとぢをする。

次に仕立上り圖のやうにカバー及掛衿をかける。

仕立上り圖



仕立上寸法

後幅	40cm
前幅	25
前明	30
身丈	70
衿幅	5

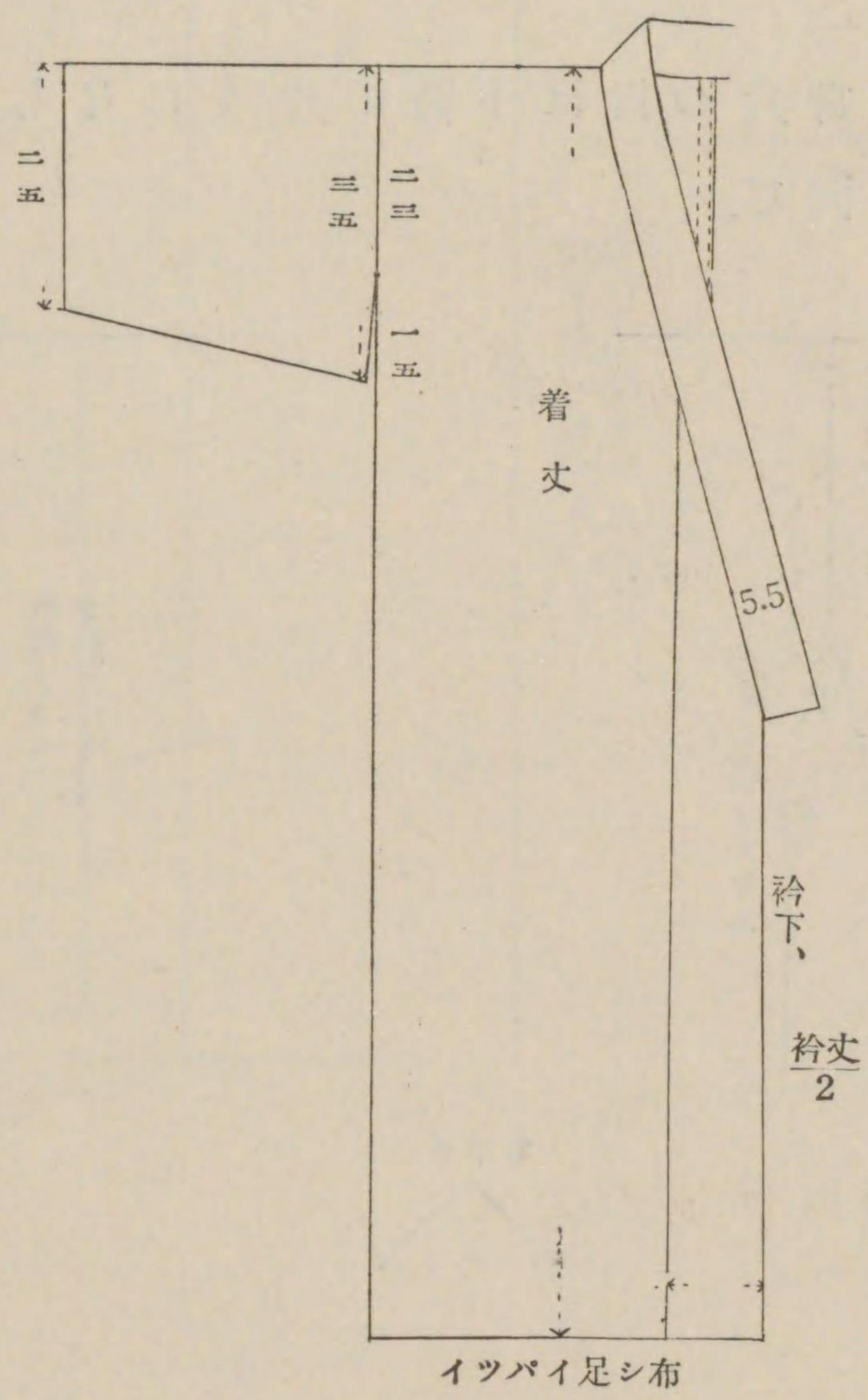
衿は瓢衿やうに裾は毛抜合せにして折りは裏に返す他は前述の要領でよい。

附

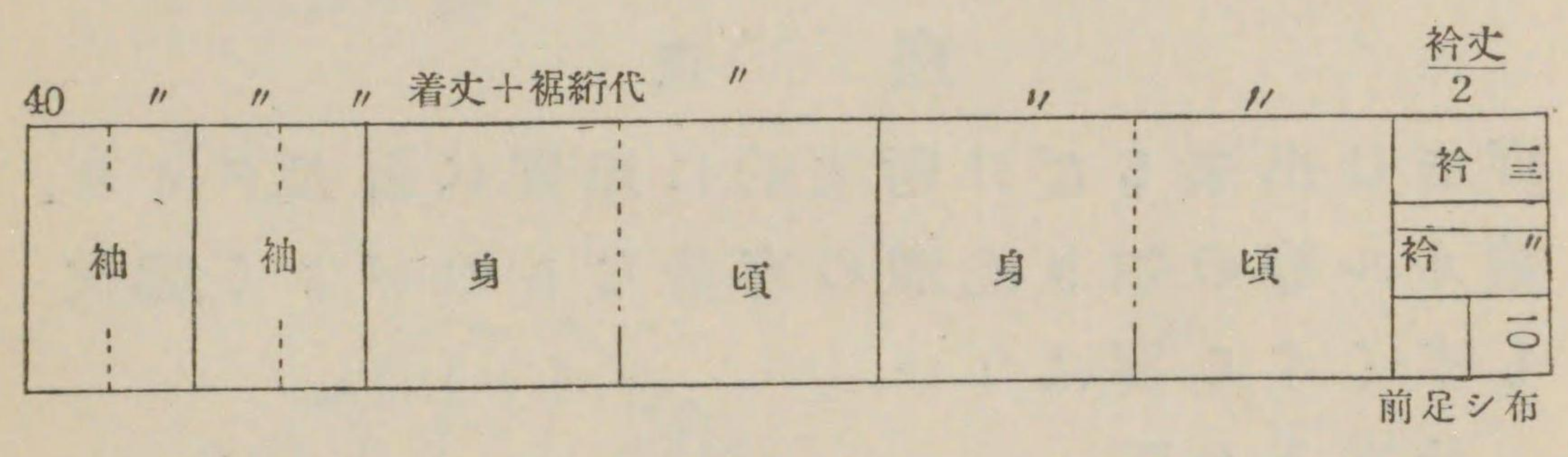
寢　　衣

寢衣は出來るだけ衛生的に地質は浴衣、タオル、綿ネル等の如き洗濯の容易なものがよく、縫代も多くする要はない。

仕立上り圖

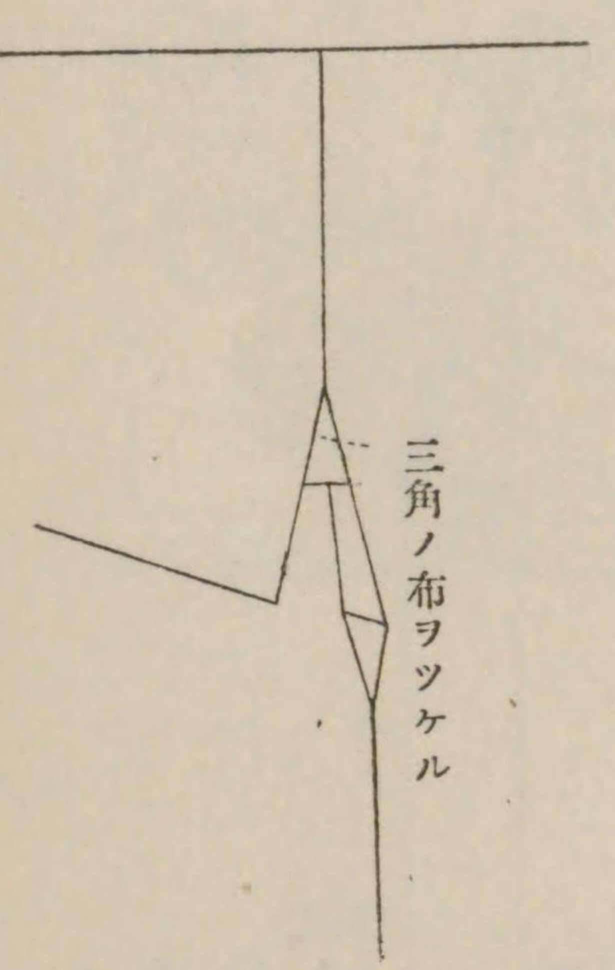


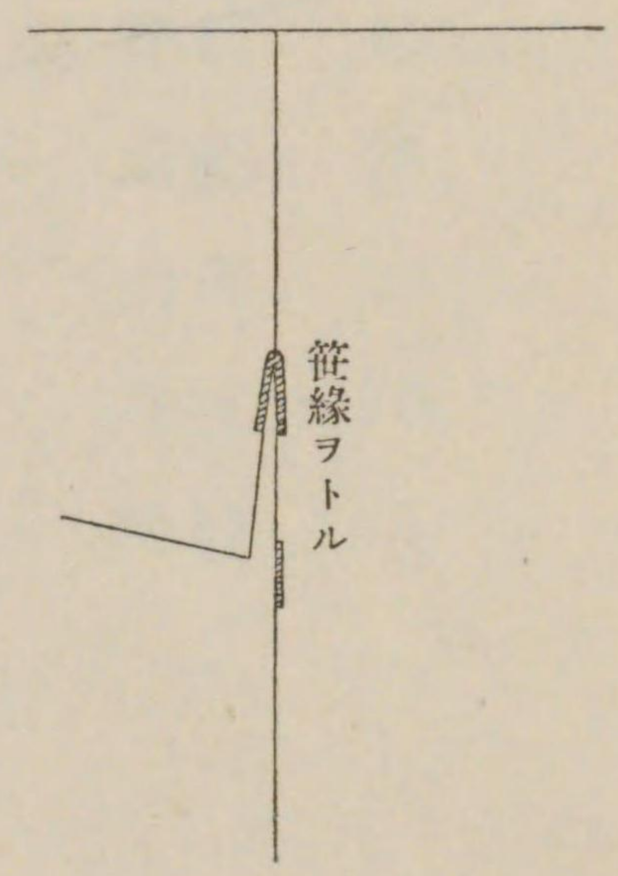
裁方



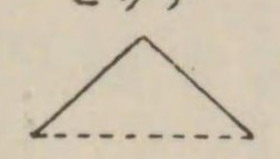
縫ひ方

袖附及び身八つ口は下圖のやうになしその他は長着に同じ。

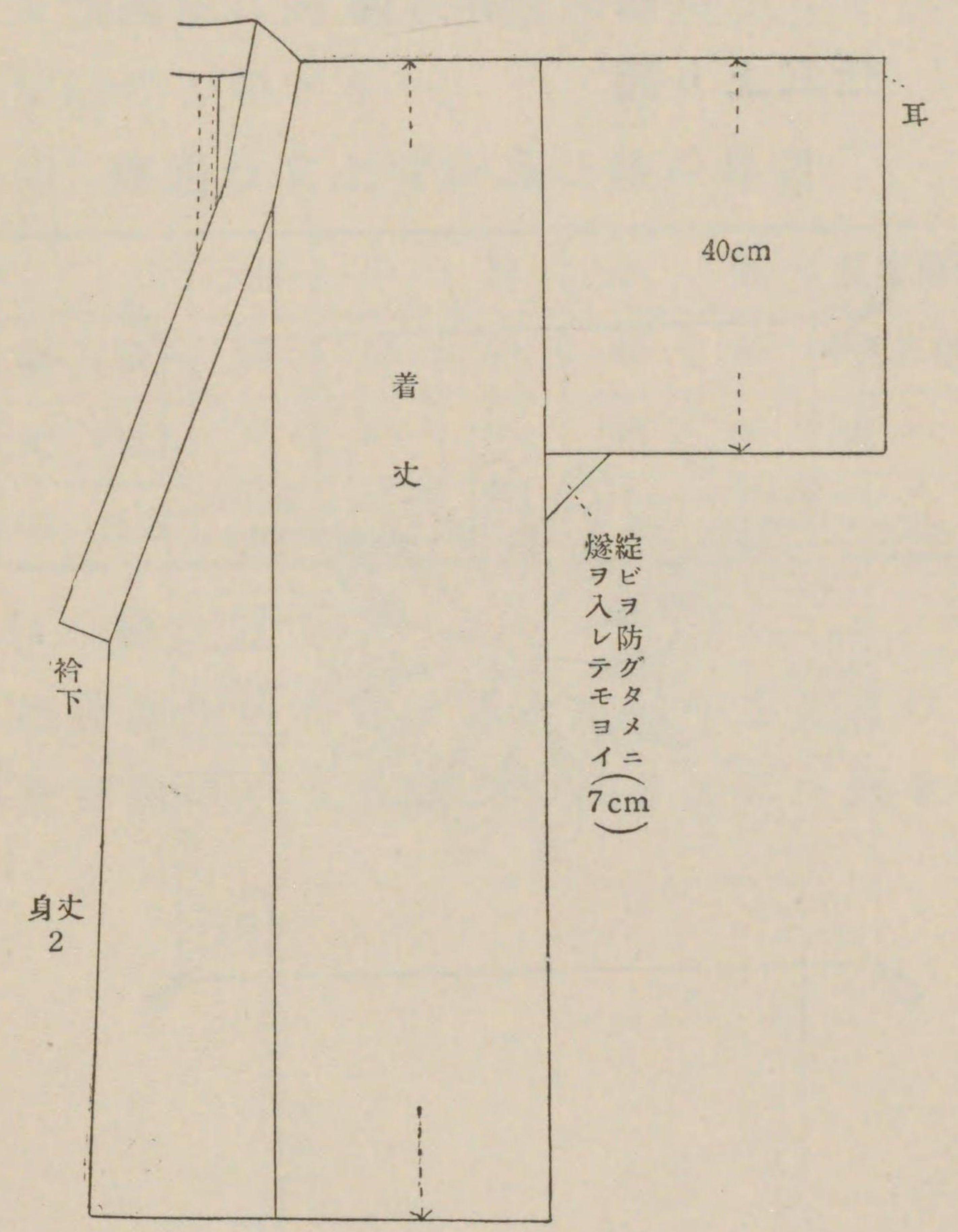




ヒウチ

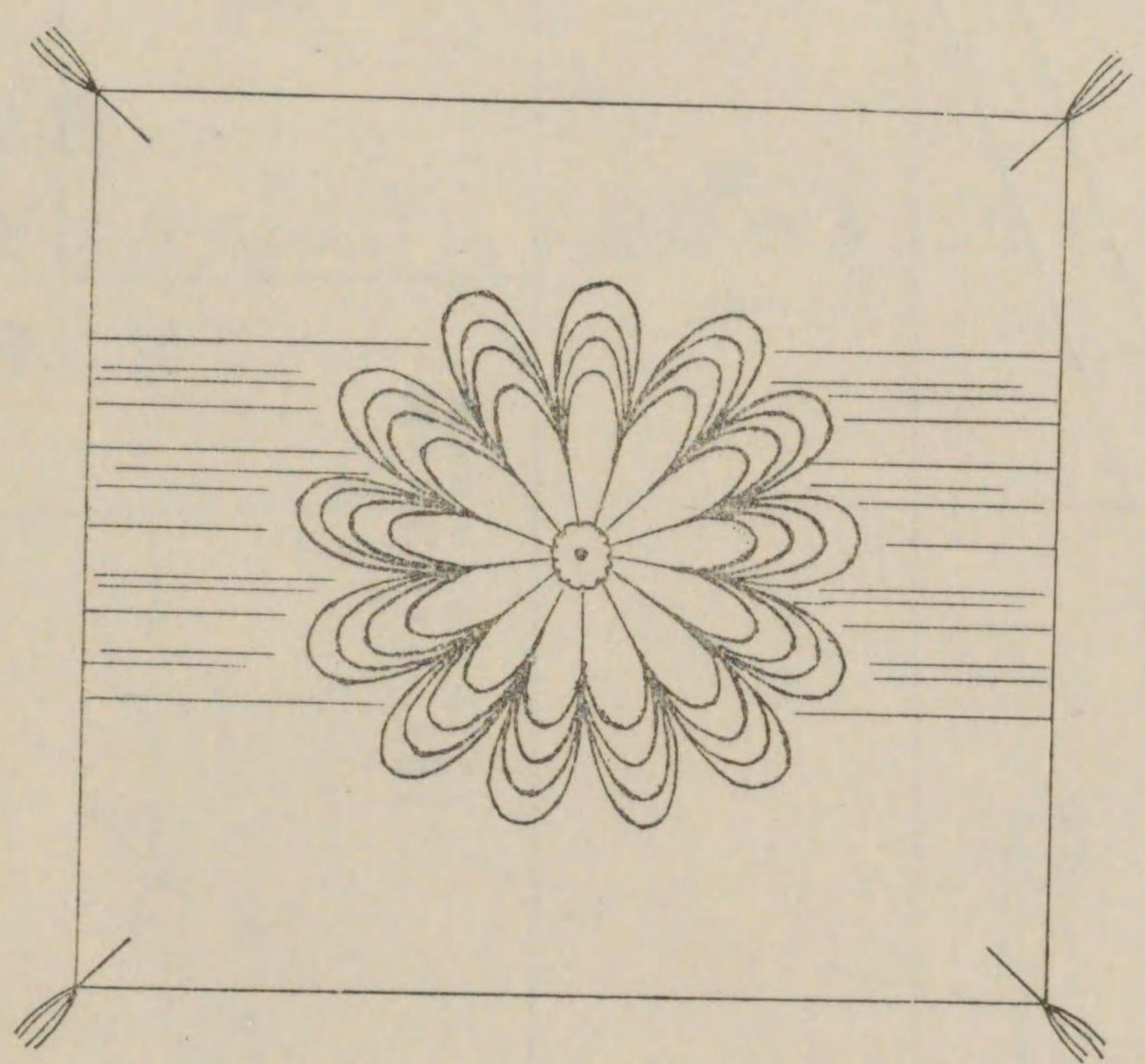


男物



第六節
座蒲團

(1) 仕立上り圖



(2) 地質

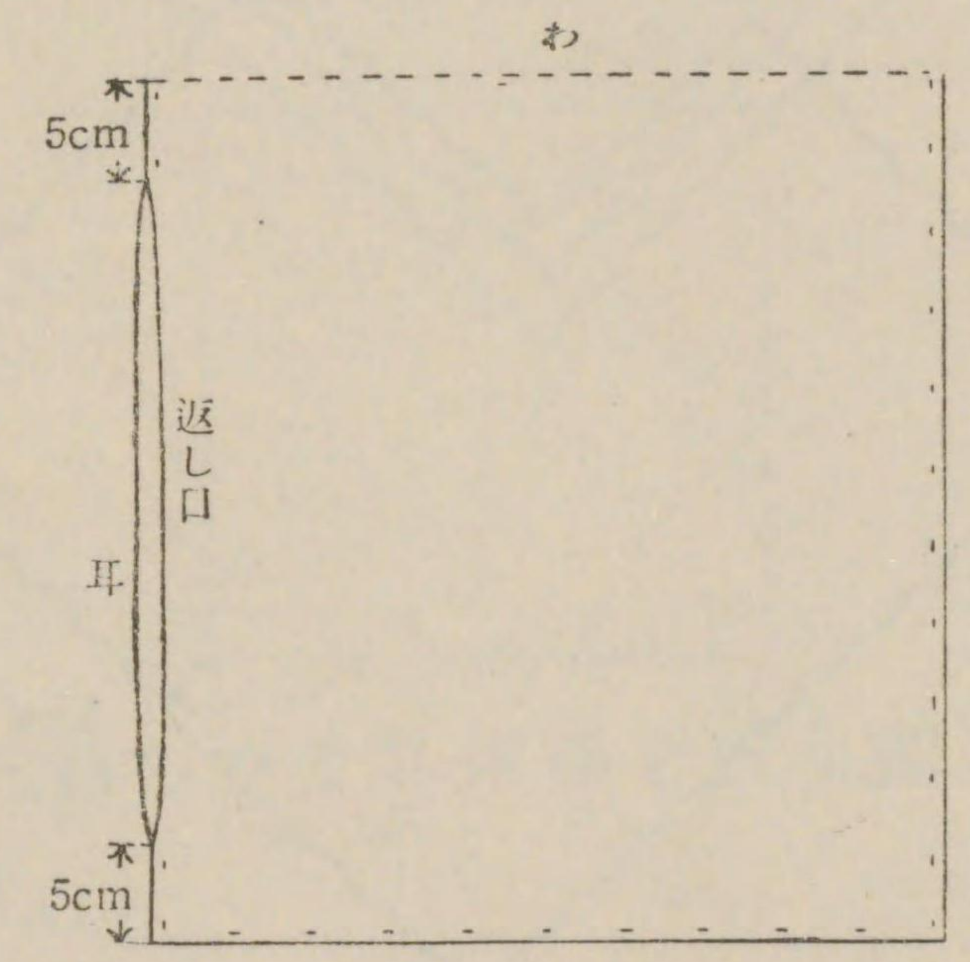
略々蒲團地に同じく,座蒲團專用として次のやうな幅のものが多い。

(3) 普通仕立上寸法及び綿の目方

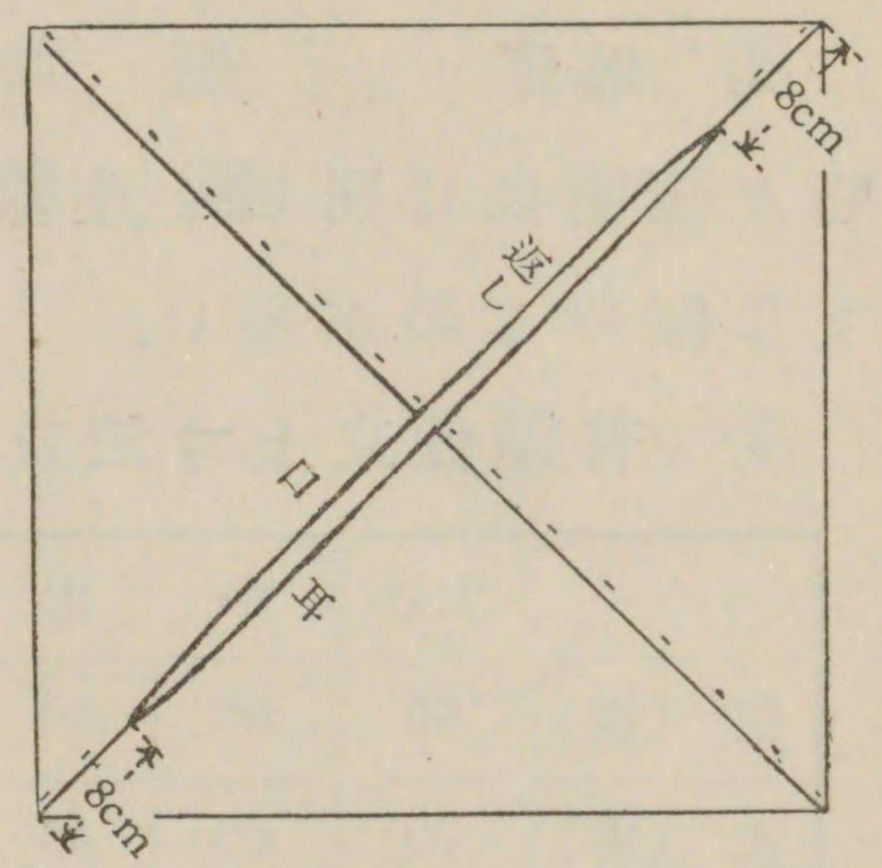
	大形	中形		小形		夏座蒲團
幅（横）	65	55	50	49	46	中形に倣ふ
丈（縦）	70	60	55	52	46	同上
綿の目方	300g附 6枚	〃 4枚	〃 3.5枚	〃 3枚	〃 2.5枚	〃 2.5枚

(4) 縫ひ方

(イ)座蒲團用の布地の場合は縦一方をあけて,其他全部圖のやうに縫つて,折きせ抑へ縫をする



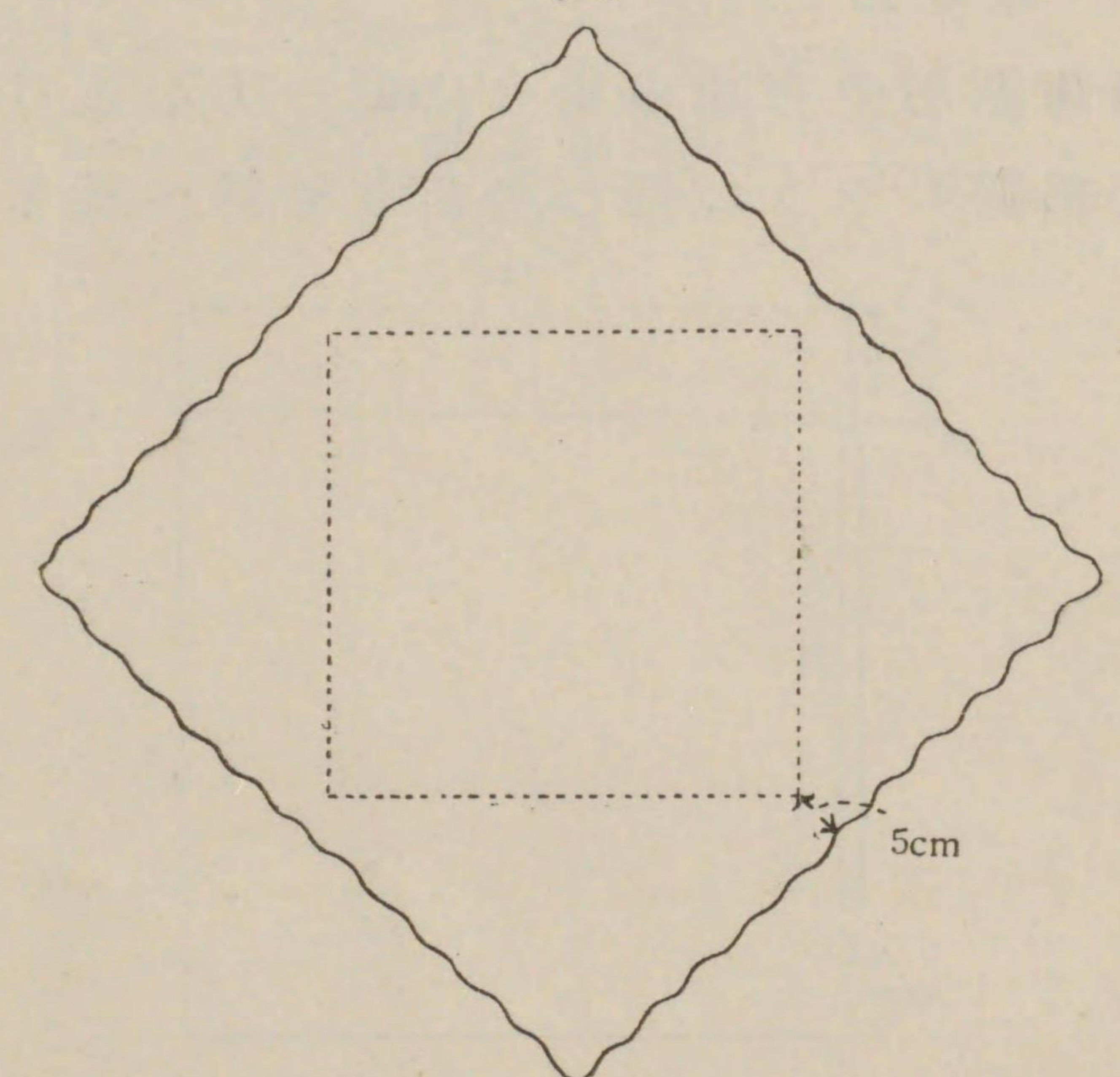
(ロ)正方形の布を折り合せて縫ふものは、圖のやうに返し口をあけておく。



(5) 綿の入れ方

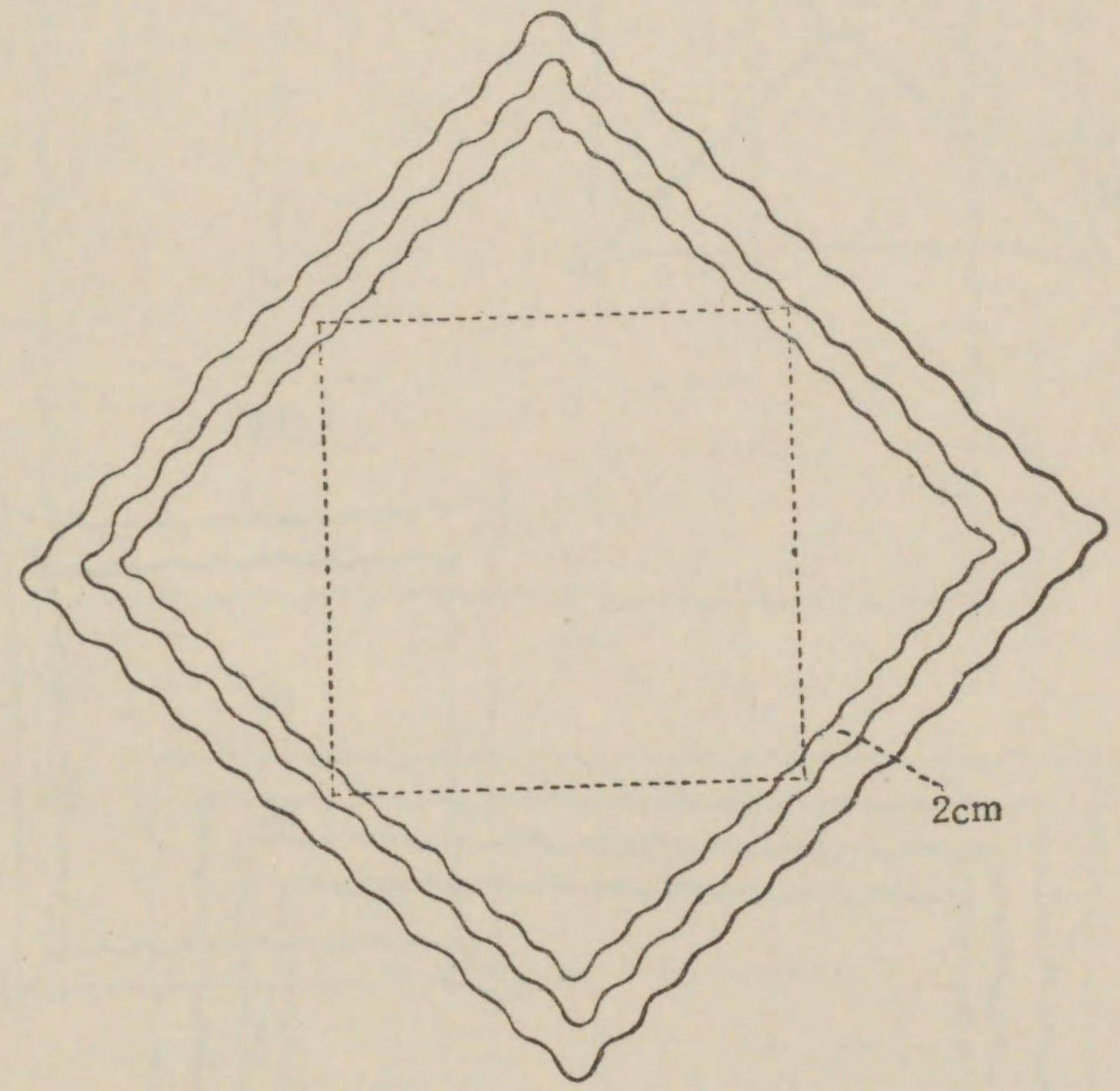
(一)圖のやうに最初の綿を置く。

(一)



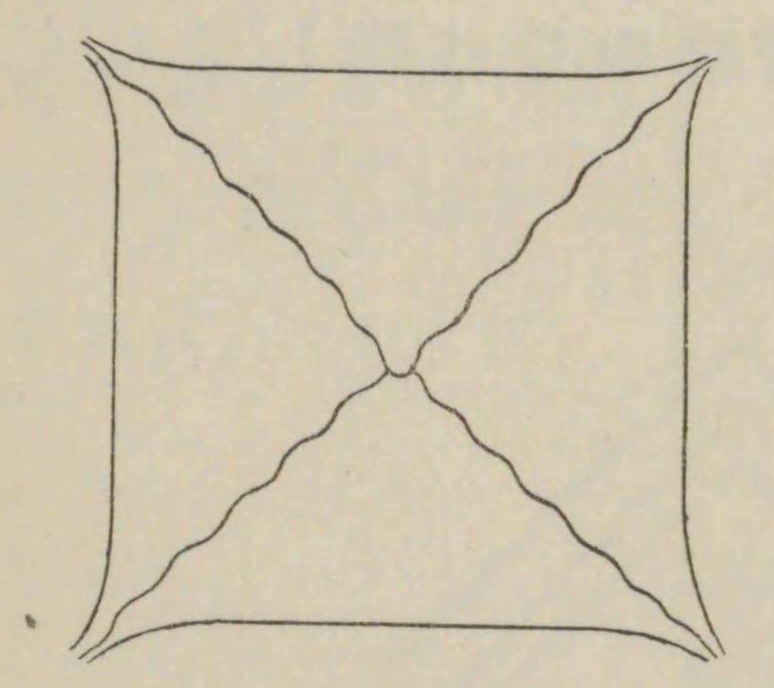
(二)圖のやうに蒲團の要領で2cm位づゝ周圍を控えて重ねる。但し掛綿の分は殘しておく。

(二)

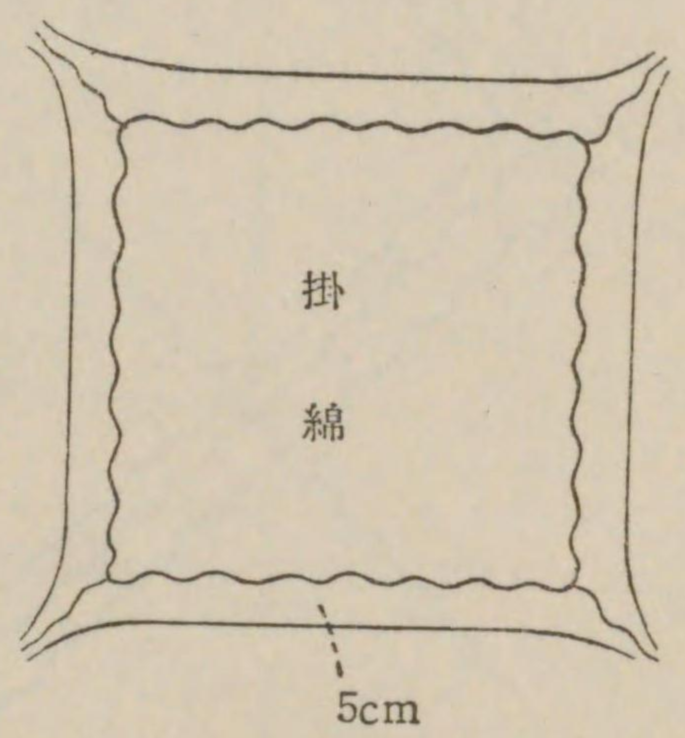


而して(三)圖のやうに四隅を折り、圖のやうに掛綿をなす。

（三）



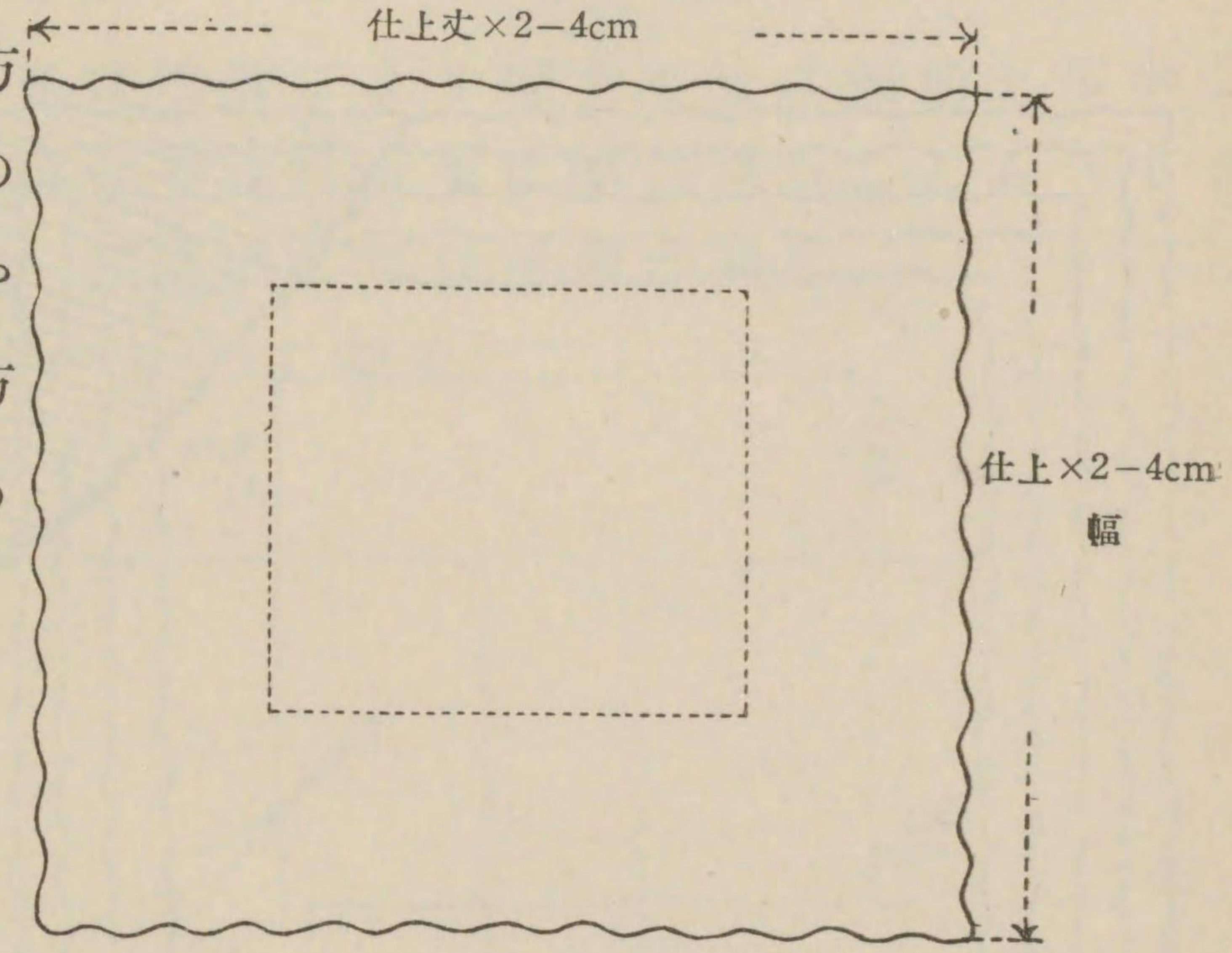
（四）



次に布を表に返へして、綿の向ひの兩隅を持ち向ふ側の角を布の隅に向つて入れ、布の中で持ちたる兩隅を擴げて、よく周圍に入れ、返し口を絎ける。

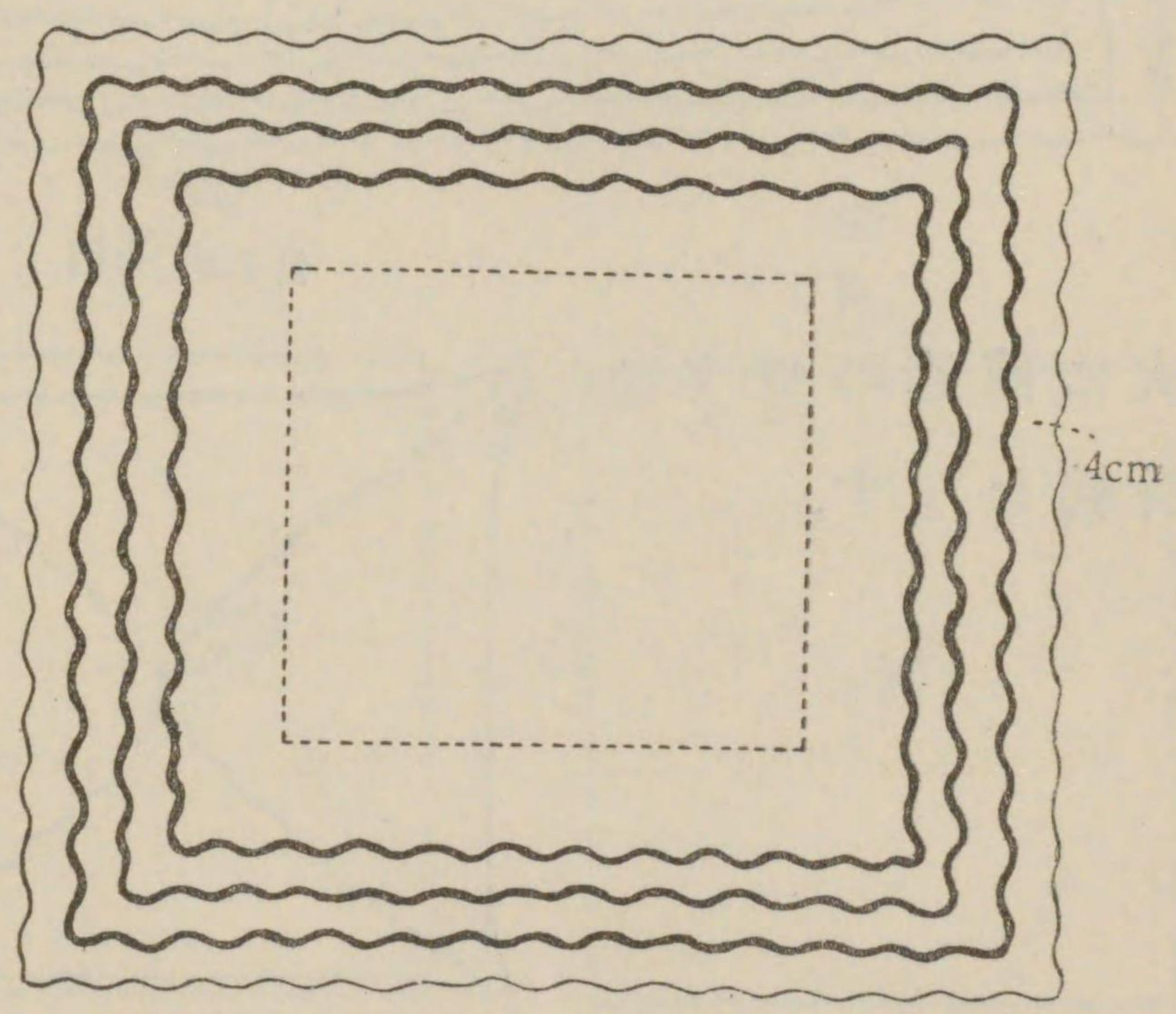
又綿の入れ方は次の圖のやうな方法もある。

（一）



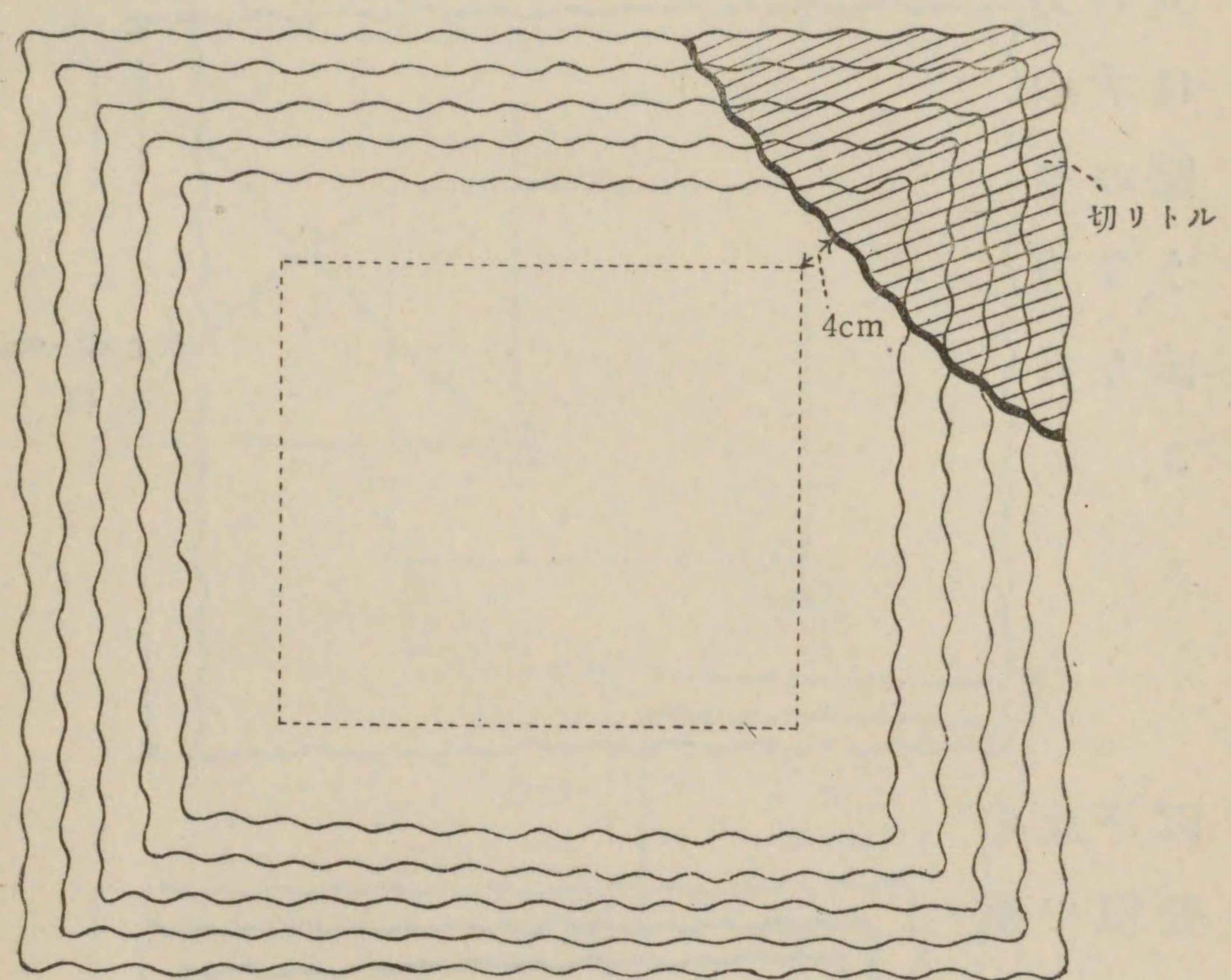
以下此の要領で重ねる。

（二）



下圖のやうに四隅を切りこる。

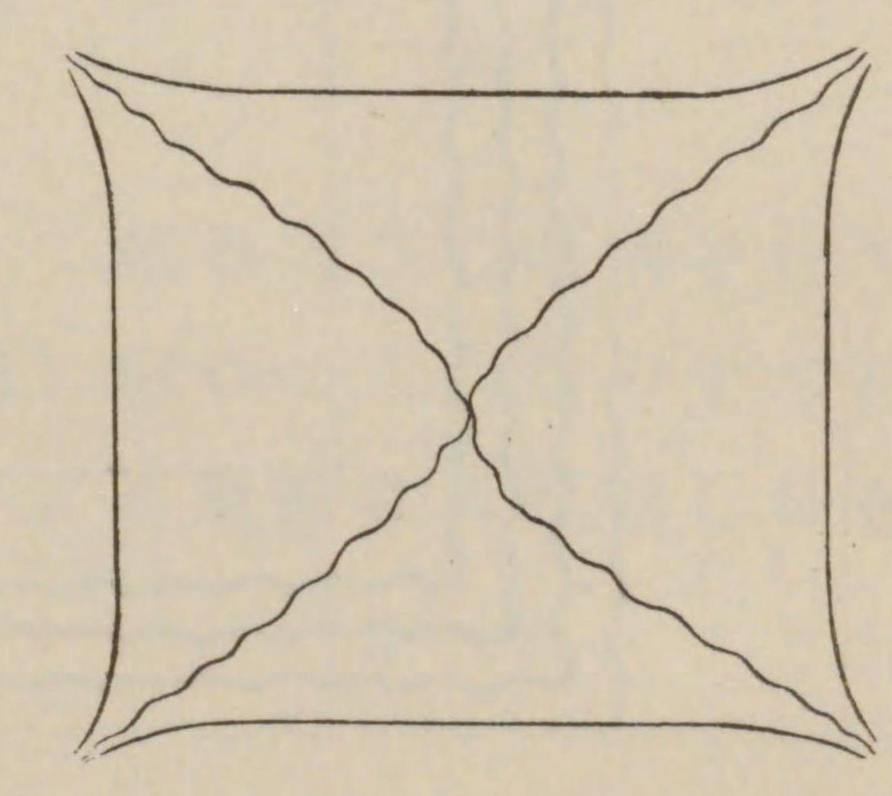
(三)



(四)

折り返した圖

次に前述のやうに掛綿をなす。



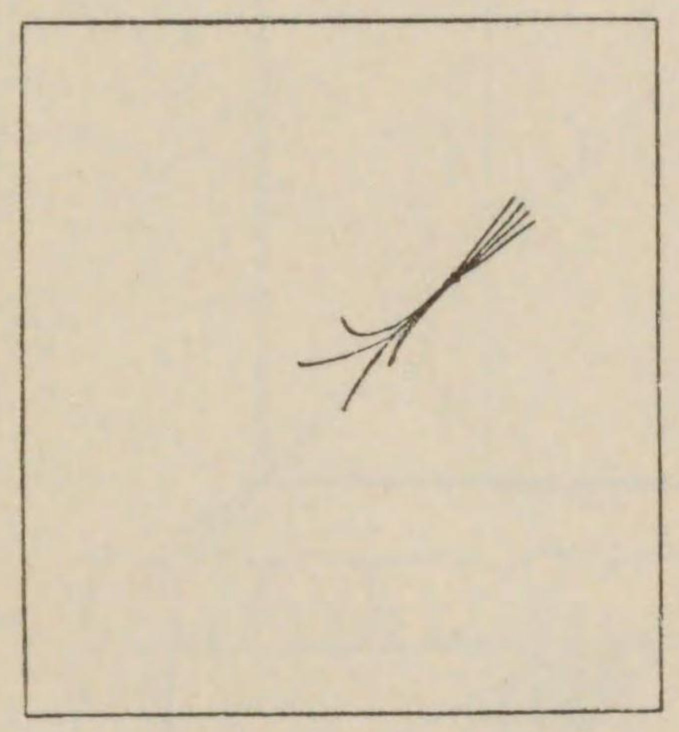
とぢ方

こぢ糸は地質により絹小町又は絹糸を四本にして圖のやうに表裏に結び目をこしらへてこぢる。四隅のこぢは蒲團こ同じ。

房は7cmにして切る。

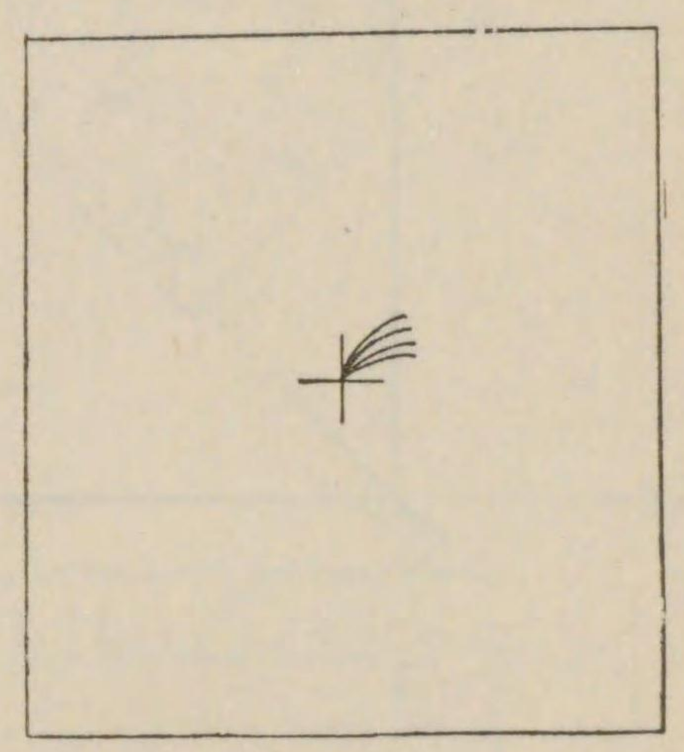
(一)

表



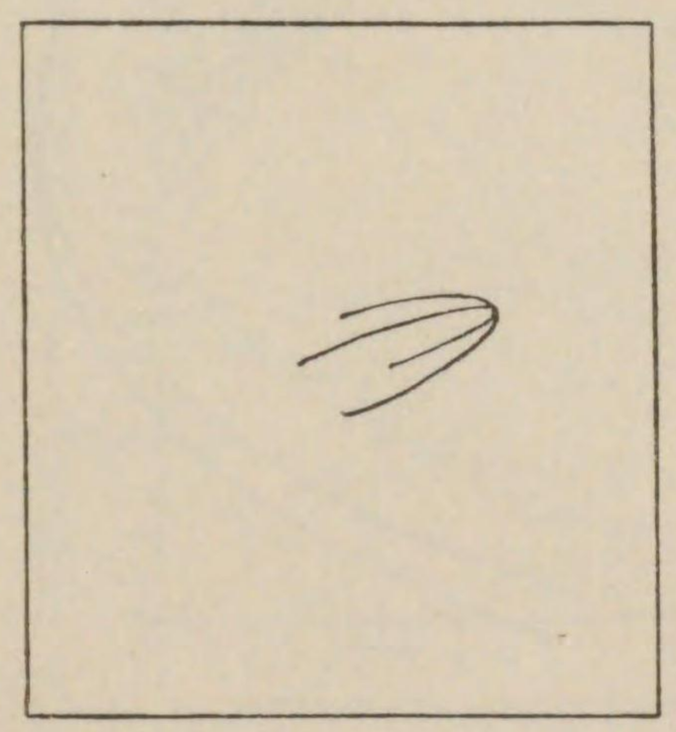
(二)

表



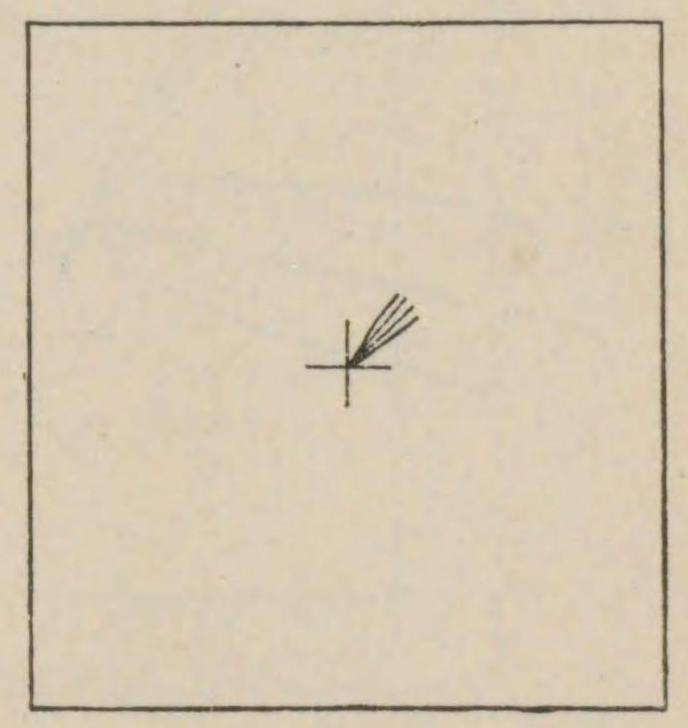
(三)

裏

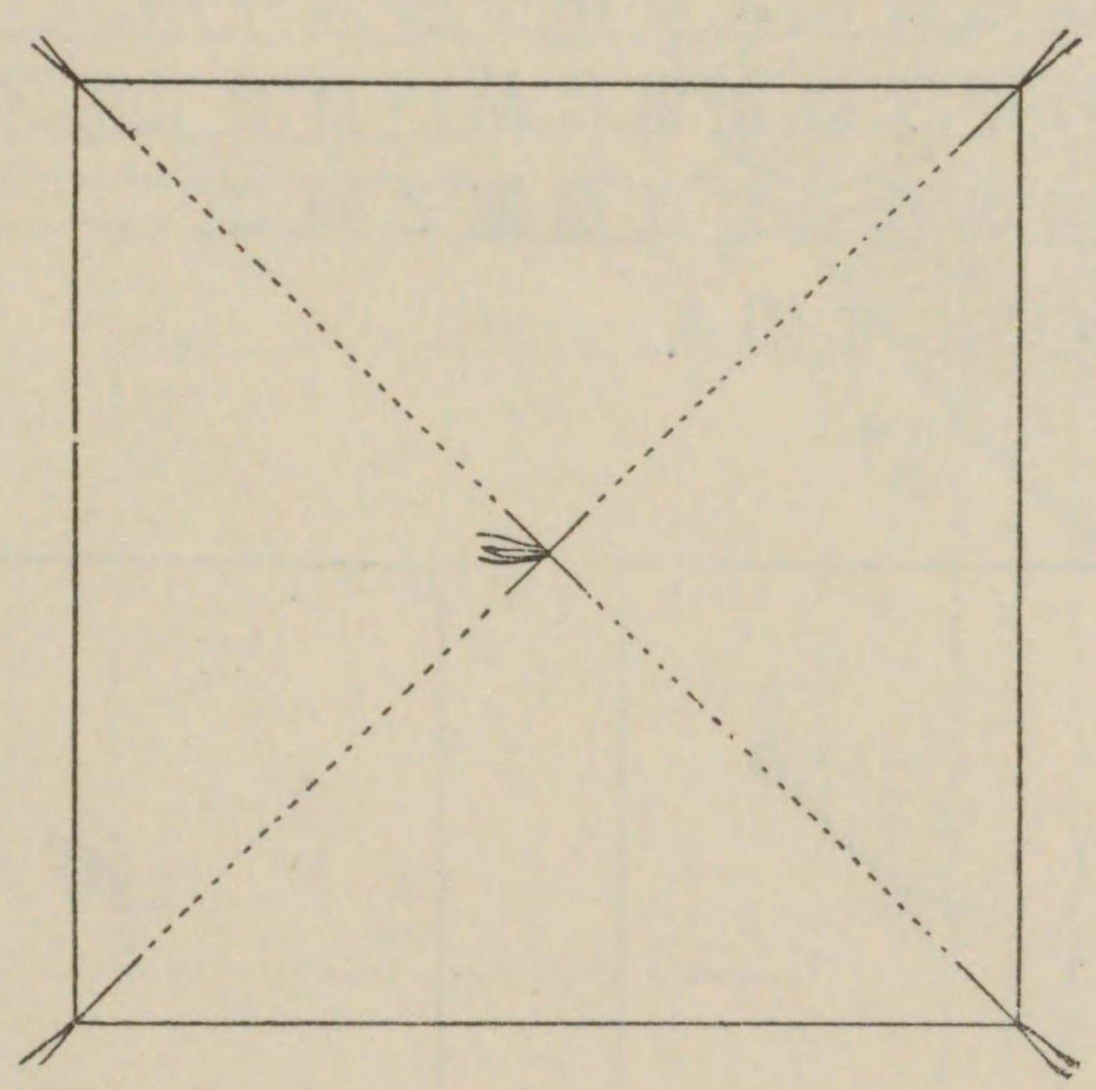


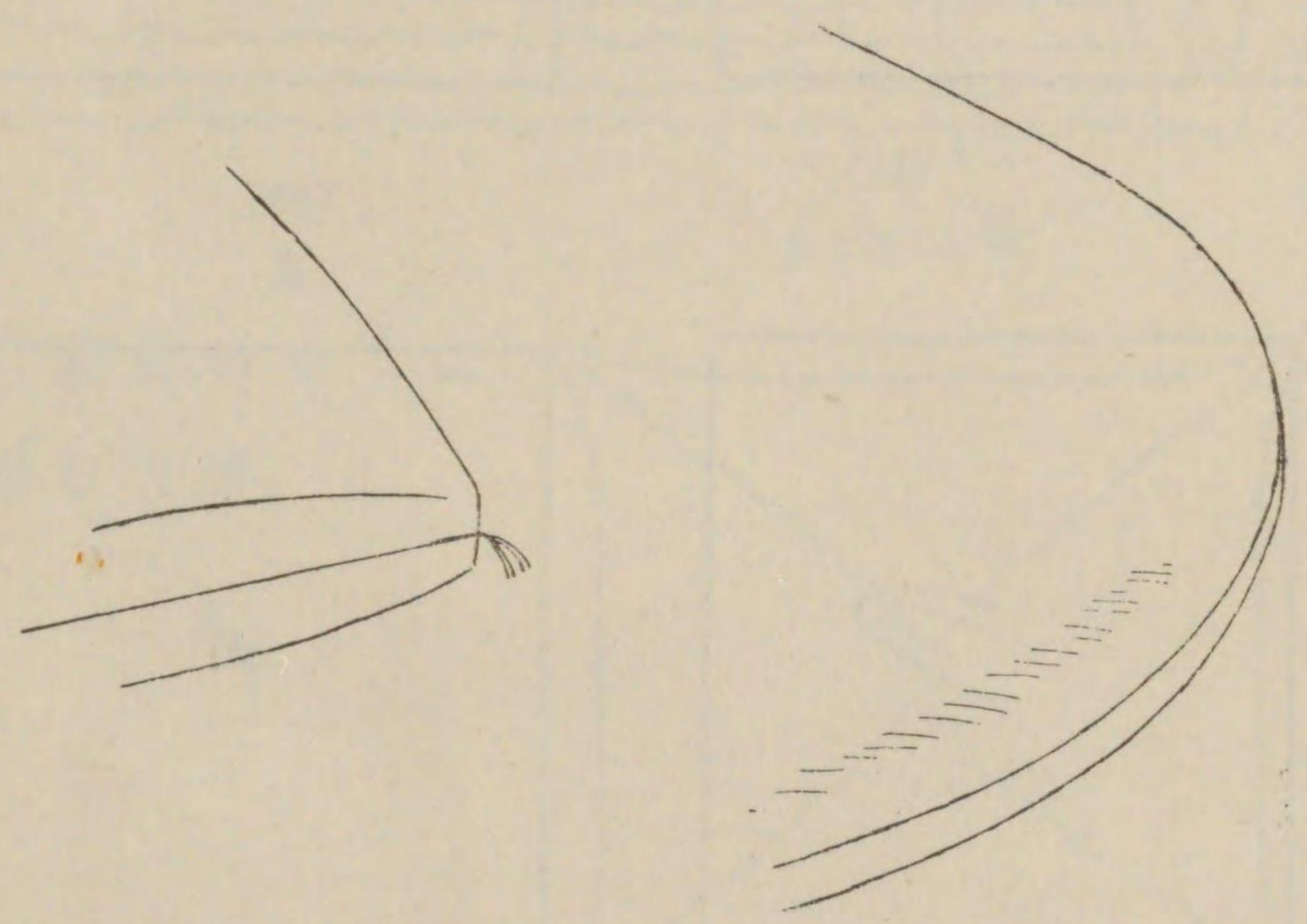
(四)

裏



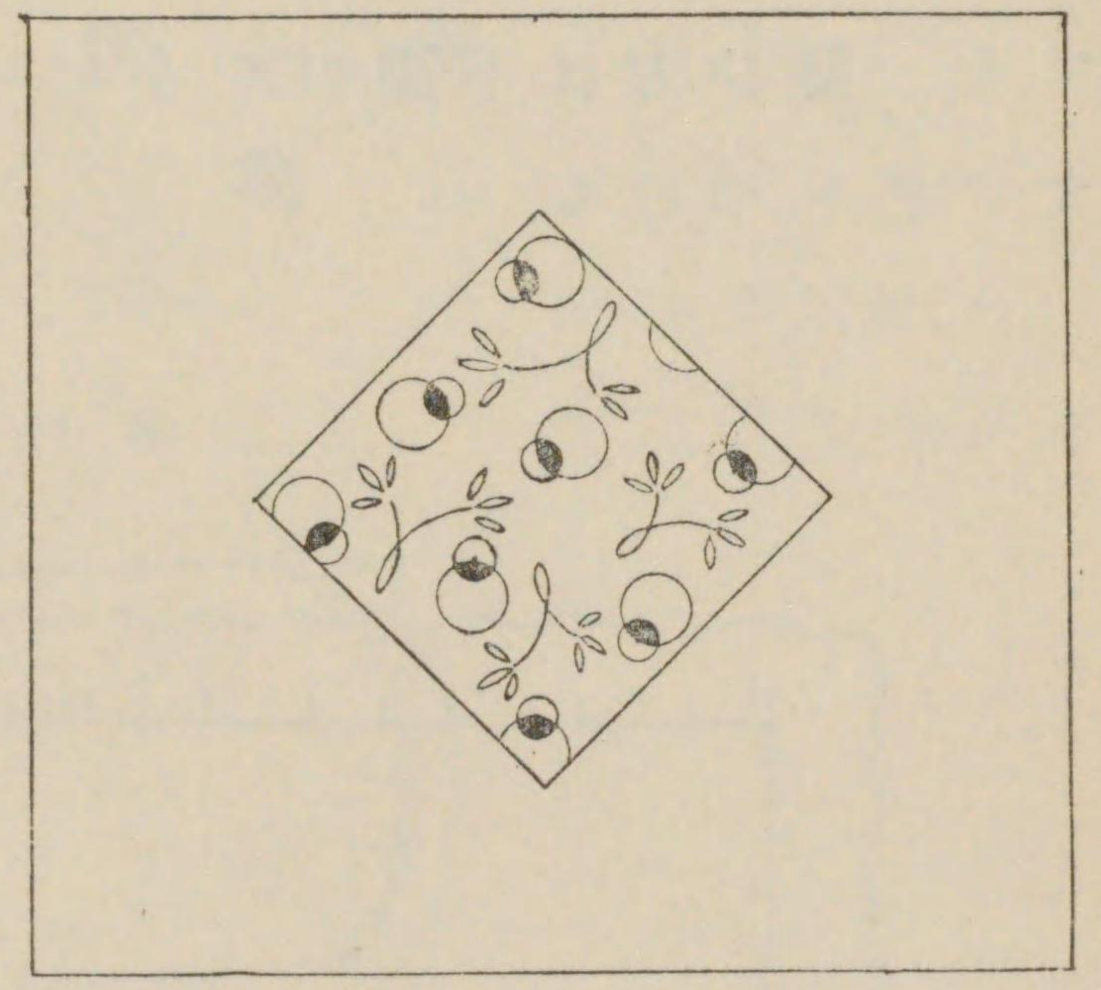
斜に縫目のある場合のさぢ方

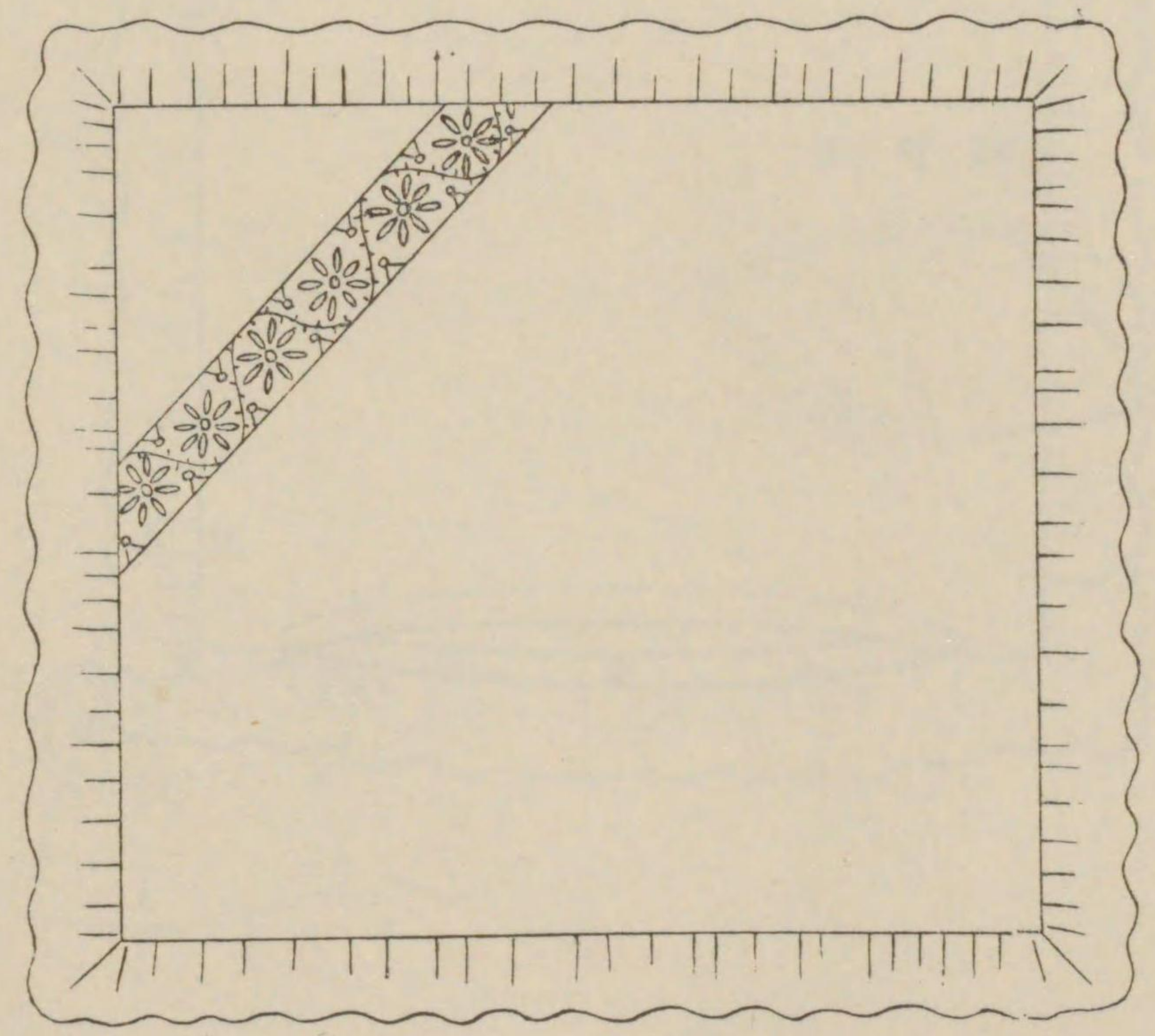




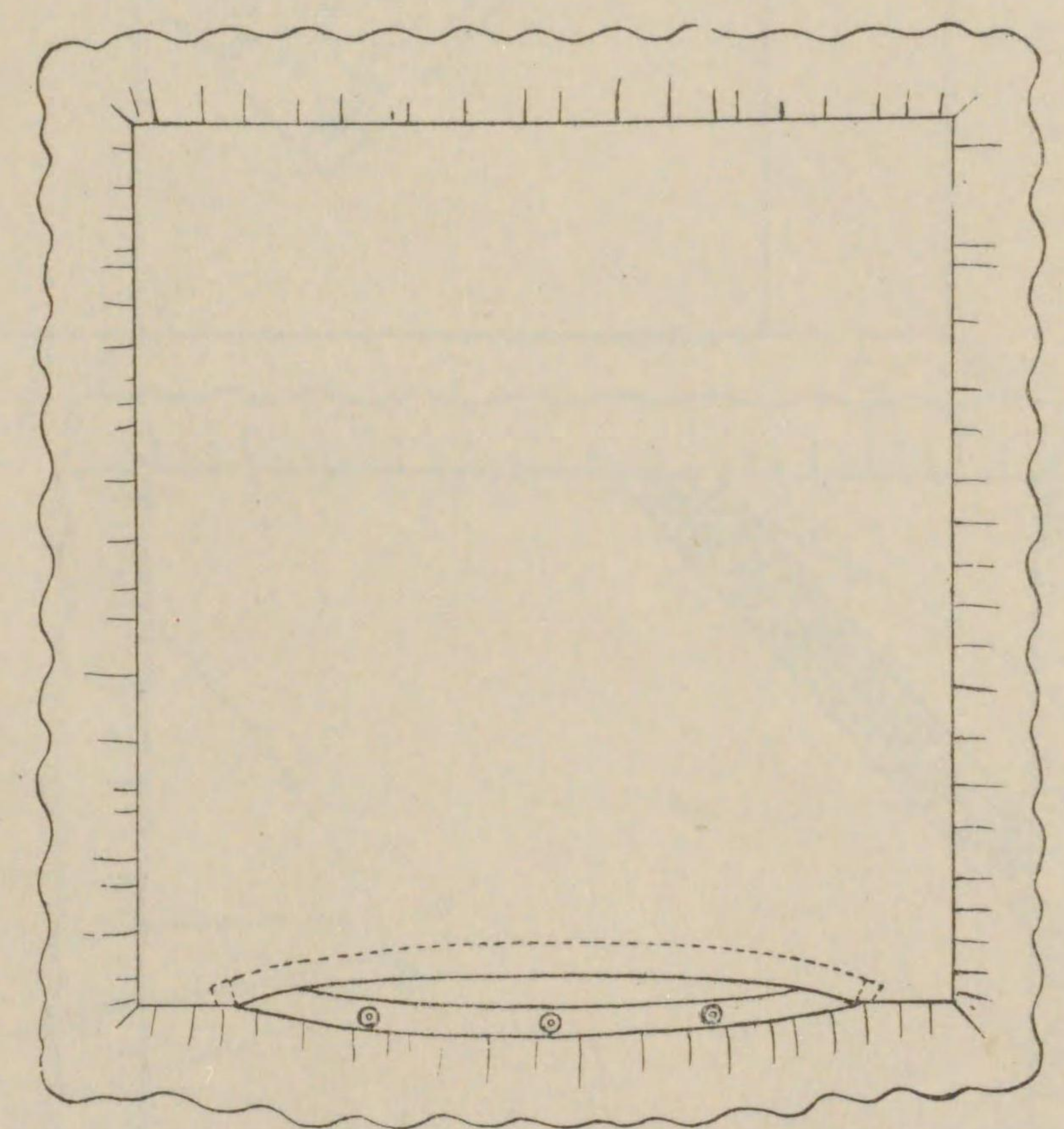
附
カバー

仕立上り圖





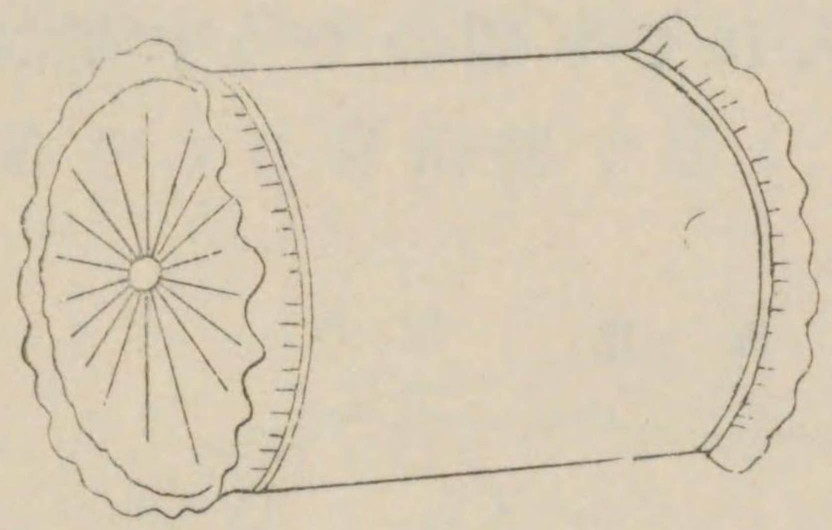
地質はキヤラコ、リンネツト、麻等を用ひる。
寸法は丈も幅も座蒲團の寸法より 2cm 大きくする。縫ひ方は下圖のやうに一方を明けてスナツプをつける。



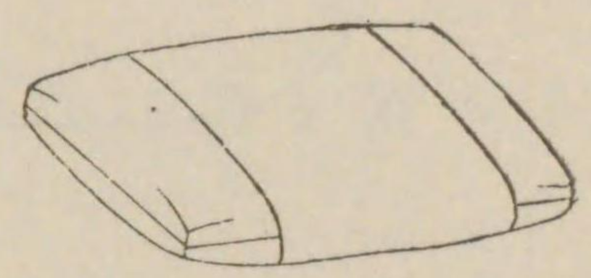
第七節
枕及び肩蒲團
第一項
枕

仕立上り圖

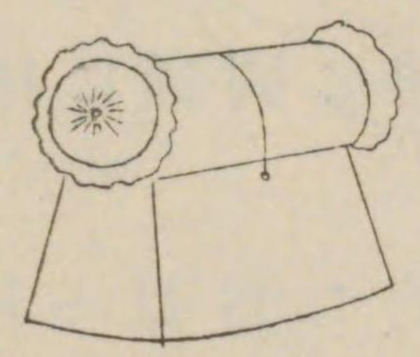
括り枕



嬰兒用



小枕

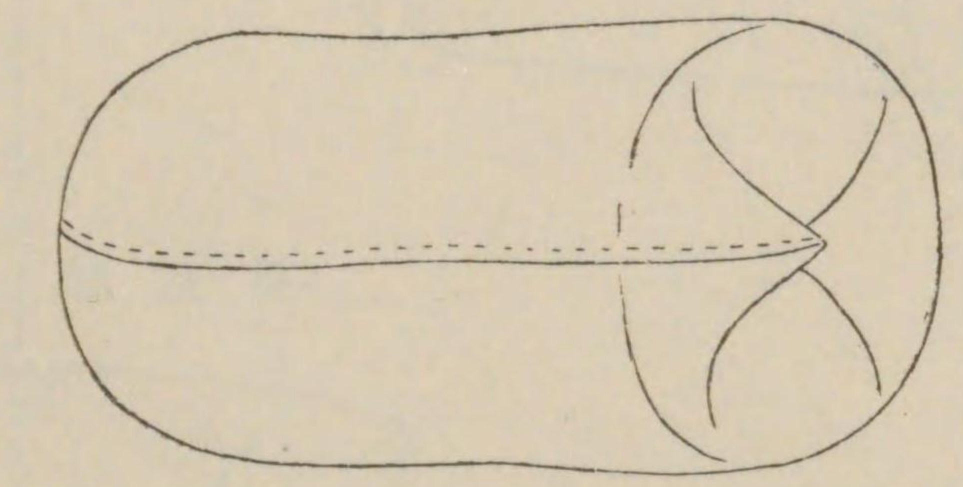


地質はビロード、別珍、レーヨン、モスリン、繻子、ナフトール染キヤラコ等を用ひ、中には蕎麥穀を入れるのが最もよい。

括り枕

大人用は幅65cm丈57cmの裁切とする。

先づ晒木綿又は新モスにて內袋を拵へ蕎麥穀を15リツトル(8升)入れて下圖のやうに縫ふ。



次に表の縦をいつぱいに縫ひ一方を六行留に括り、內袋を入れて他の一方を前と同樣に括る。

小枕

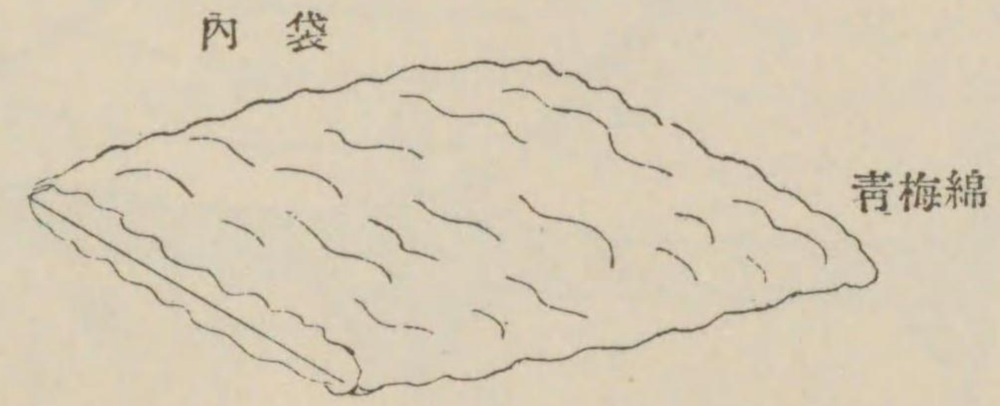
28cmの正方形に裁切り括り枕の要領で縫ふ。

蕎麥穀は4リツトル位入れる。

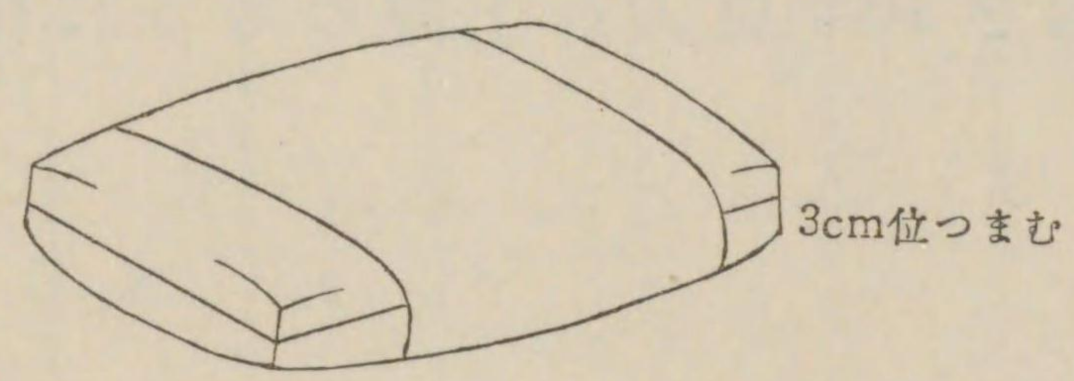
嬰兒用枕

用布幅40cm丈35cmの裁切　蕎麥穀3リツトル

先づ內袋を3cm位丈幅共につめて四角に縫ひ下圖のやうに青梅綿で卷く。



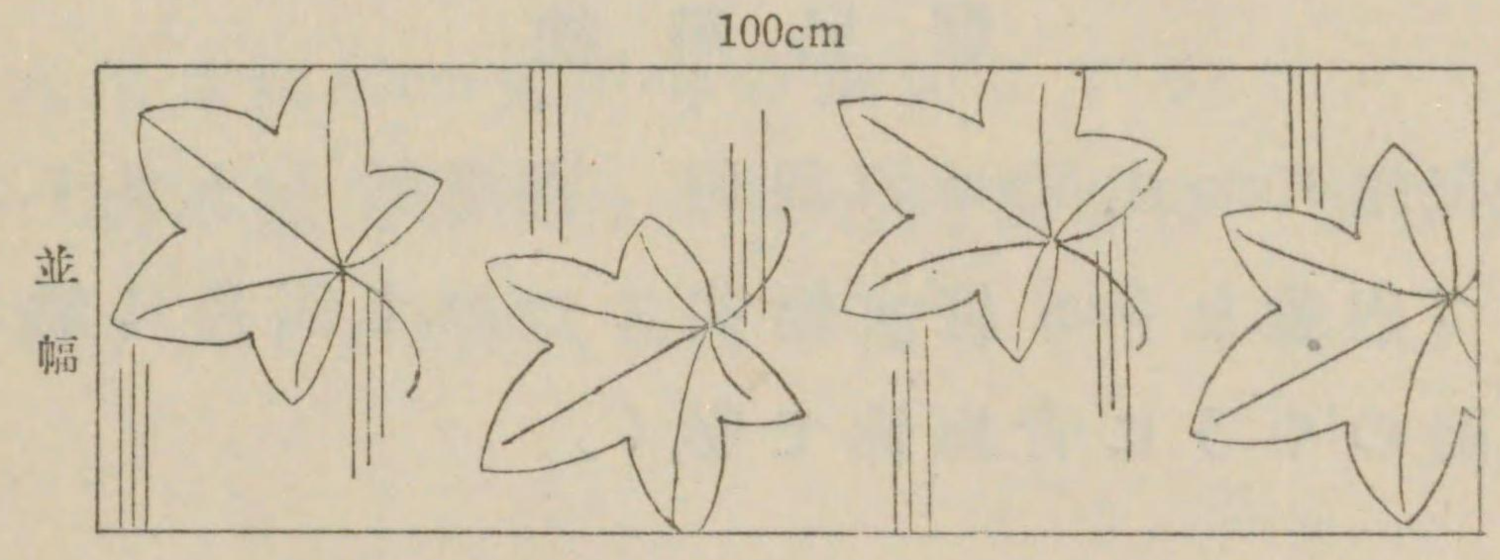
次に表布を縫ひ下圖のやうに角を拵へる。



カバーは枕に合せてキヤラコ、タオル等適宜に拵へて使用する。

第二項
肩蒲團

仕立上り圖



モスリン輸出羽二重等の柔い地質を用ひ絹綿又は眞綿を100g位入れ上圖のやうに仕立てる。

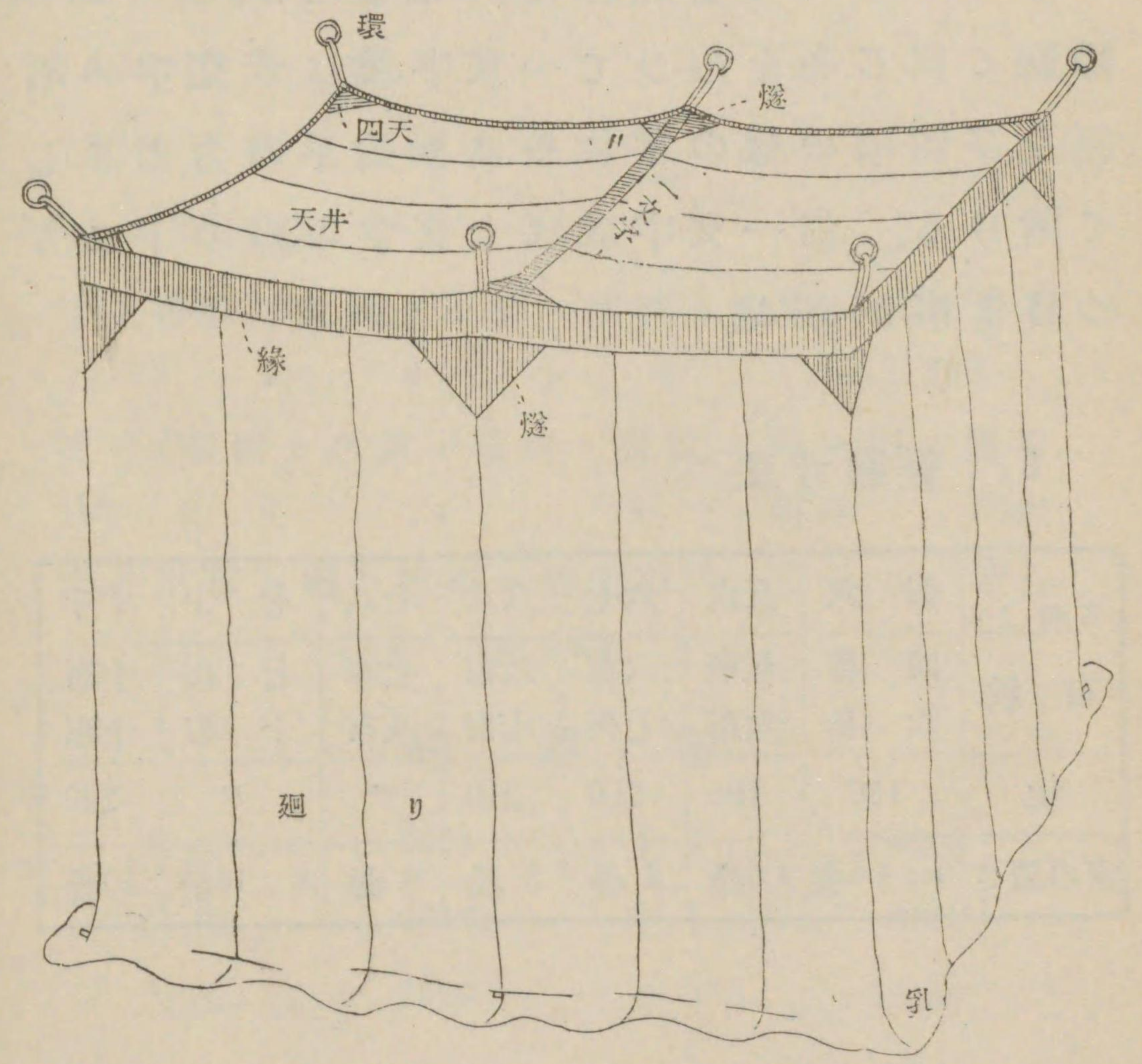
第八節
蚊帳

種類

釣蚊帳　幌蚊帳がある。

第一項
釣蚊帳

(1)　仕立上り圖



裾　幕

重みをつけるため、又は丈を補ふ場合につける一文字及び十文字

縁と同じ布を用ひ釣手の力とす。

四　天

四天とは天井の四隅に釣手の力布にするために附けるもので普通縁と同布を用ふ。

縁燧と同じ布を用ひて一文字或は十文字の兩側及び四隅の縁の下にやはり釣手の力布として附ける。尙一文字或は十文字の縁の下にもつける事がある。

(2) 普遍寸法

名稱＼寸法	四　六	五六	六七	六八	七八	七　十	十十
布　數	四　布 六　布	五布 六布	六布 七布	六布 八布	七布 八布	七　布 十　布	十布 十布
丈	180	190	200	210	〃	〃	220
室の廣さ	3…4.5疊	4.5疊	6 疊	8 疊	8 疊	8…10疊	10疊

(3) 地質

麻　半麻　木綿　絽　紗　透綾　龜甲紗、

色は萠黄、水色、白にて模様入又はぼかし等あり

縁布は紅麻、紅木綿　緋金巾　更紗木綿　紅絹　縮緬類

裾幕をつける場合は次のやうな地質を用ふ。

縮緬　紅絹　緋金巾等

(4) 裁方　積り方

(1) 天井及び廻りの用布

四六の積り方

仕上布幅 × 縦廻り布數 × 横廻り布數 ＝ 天井用布

33 × 6 × 4 ＝ 792

丈 × {(縦廻り布數 ＋ 横廻り布數) × 2} ＝ 廻り用布

182 × {(6 ＋ 4) × 2} ＝ 3640

天井用布 ＋ 廻り用布 ＝ 總用布

792 ＋ 3640 ＝ 4432

總　用　布

五六	5214	七八	8208
六七	6638	七十	9518
六八	7520	十十	12180

（2） 附屬品

(イ) 縁

幅………並幅三つ割

丈………廻りだけあればよい。

例(四六の場合)

仕上布幅×{(縦廻り布數＋横廻り布數)×2}＝廻り
33　×{(6　＋　4　)×2}＝660

(ロ) 一文字及び十文字

幅………四つ割

丈………次のやうにして積る。

一文字(四六の蚊帳)

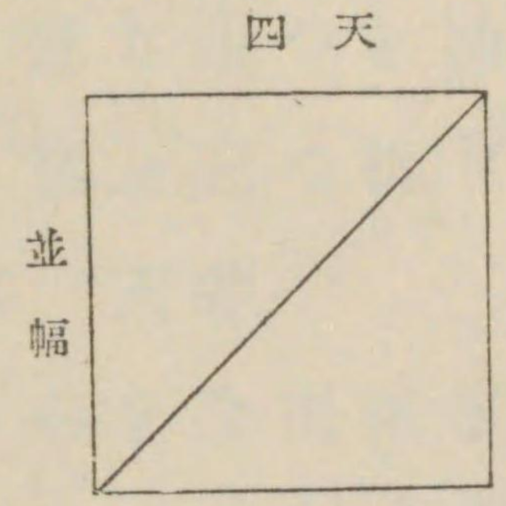
仕上布幅×横廻り布數＋縫代＝長さ
33　×　4　＋　4　＝136

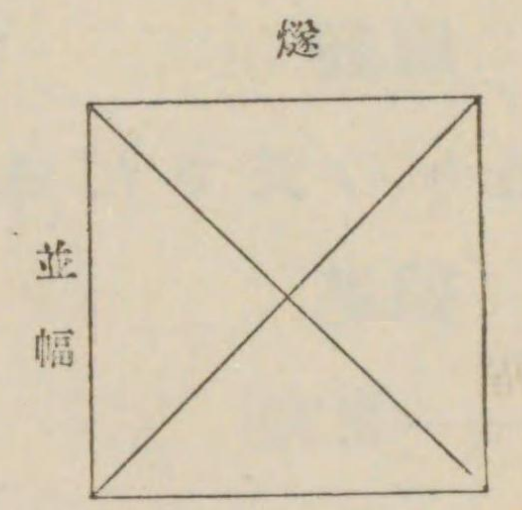
十文字(七十の場合)

仕上布幅×横廻り布數＋縫代＝横の長さ
33　×　7　＋　4　＝235
仕上布幅×縦廻り布數＋縫代＝縦の長さ
33　×　10　＋　4　＝334

(ハ) 四天

並幅又は半幅の正方形を本式とするが略しては次の圖のやうにする。



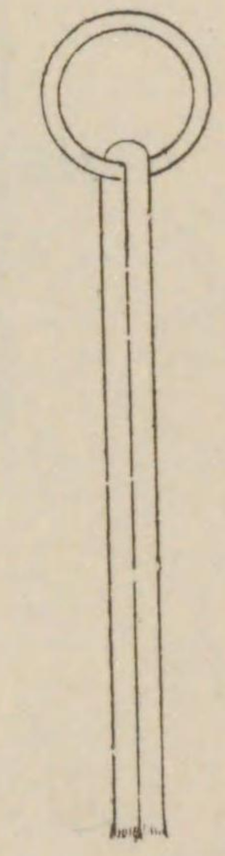


(ニ) 燧

並幅正方形のものを上圖のやうに裁つ

(ホ) 釣手及び環

四六から六七位までの蚊帳は四隅と縦廻りの中央と都合六つの釣手をつける。從つてこの場合には天井に一文字をつける。



六八以上の蚊帳には八つの釣手をつける。從つて天井は十文字にする。環は釣手の數だけを要す。

(ヘ) **麻紐**

縁廻りの長さだけあればよい.

(ト) **裾幕**

幅………並幅

丈………廻りだけの長さあればよい。

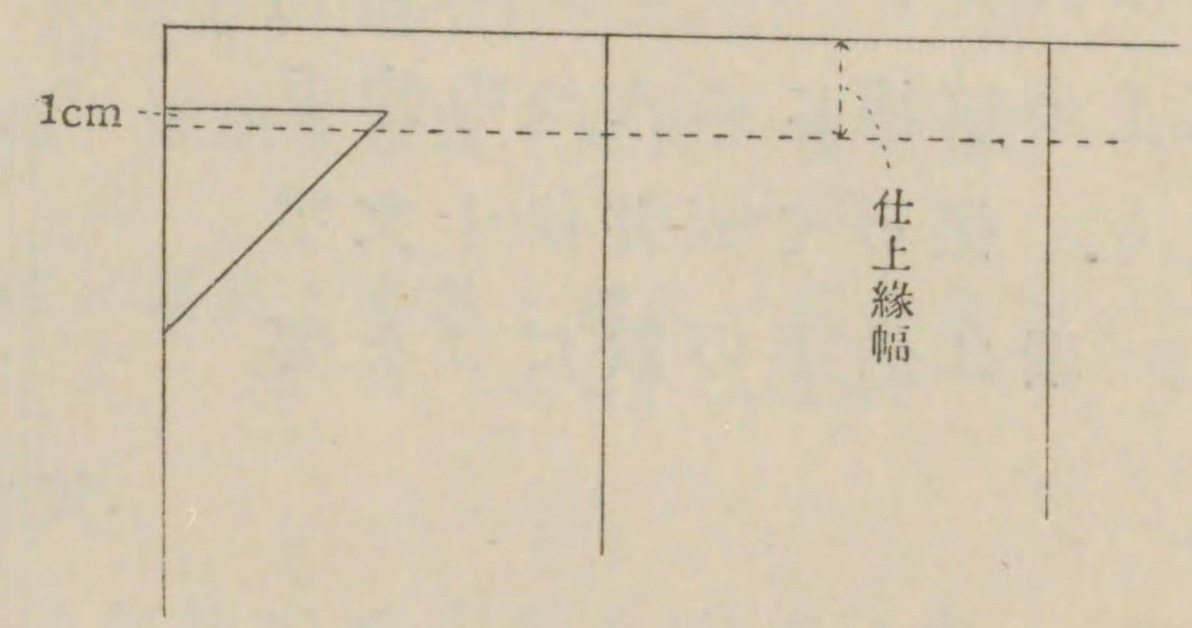
(5) **刺し方**(蚊帳は縫ふことを刺すといふ)

1 **廻り**

(イ) 縦横各々四つに接ぎ合せる。折りは脊縫のやうに返す。

(ロ) 四隅に燧を圖のやうにつける。

縁布は裁切幅から兩方の縫代を減じ其の $\frac{2}{3}$ を廻り幅とする。



(ハ) 廻り四つを接ぎ合せる。

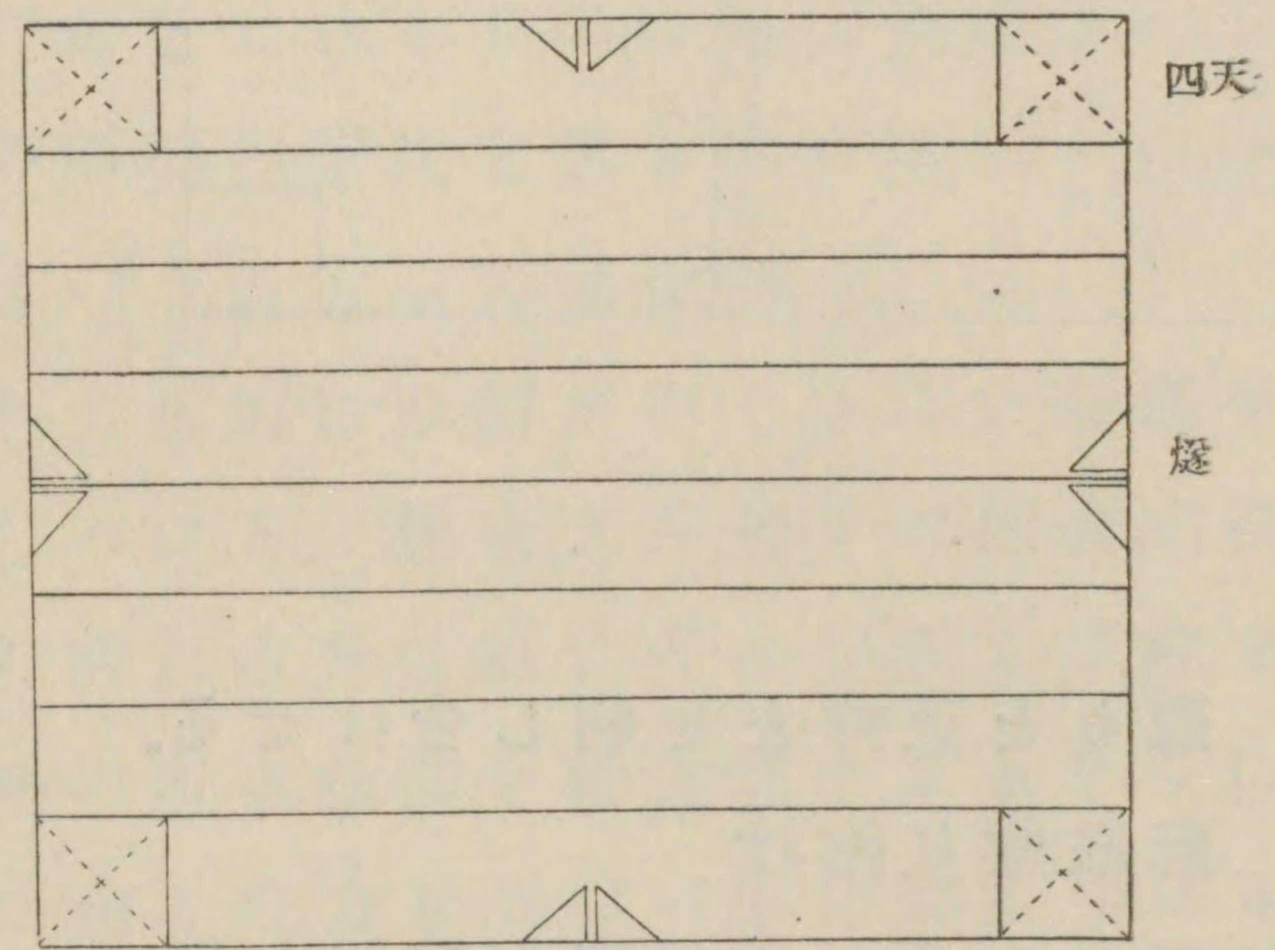
(ニ) 裾を三つ折りにして刺す。

2 **天井**

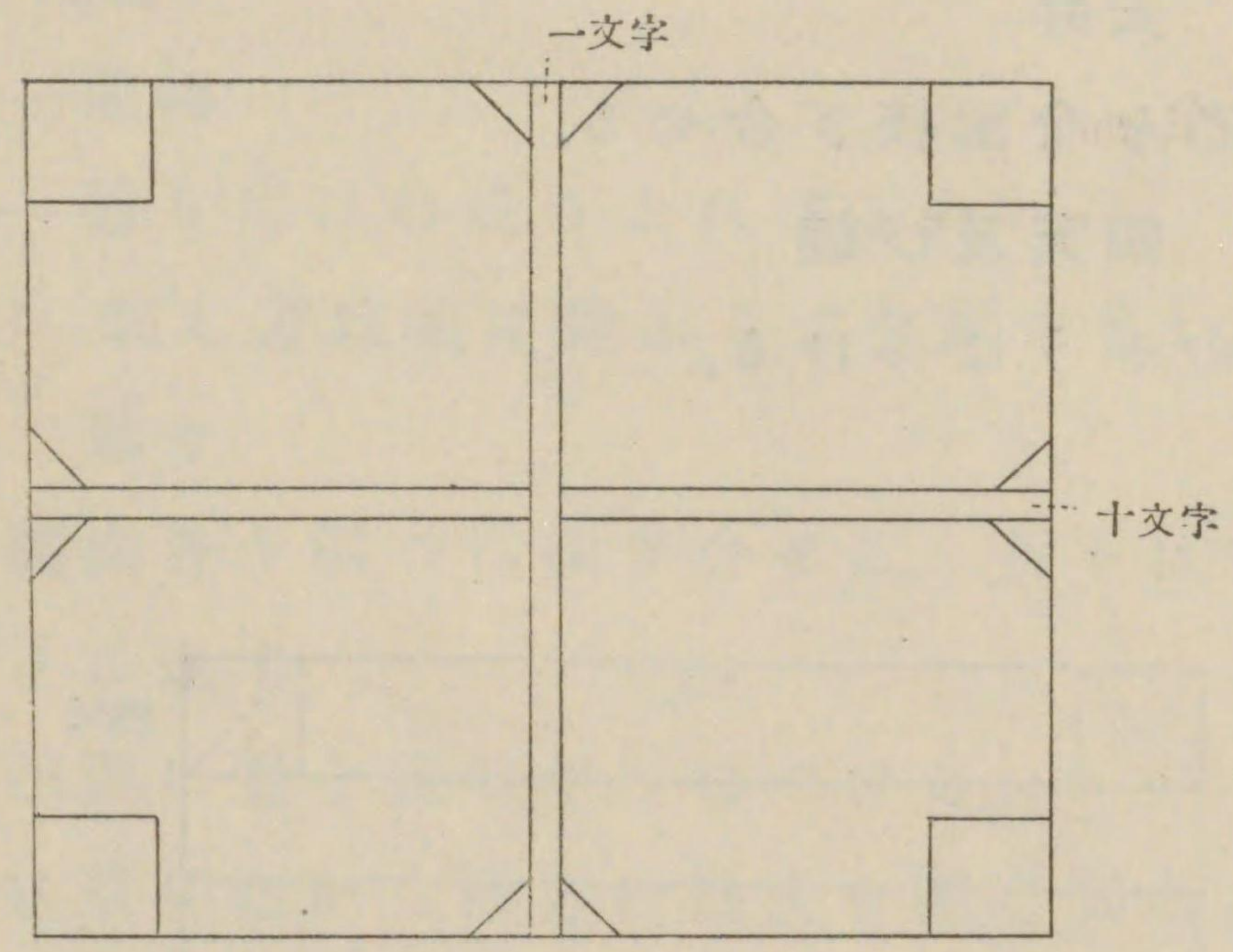
天井布を全部接ぎ合せる。

3 **四天及び燧**

下圖のやうにつける。



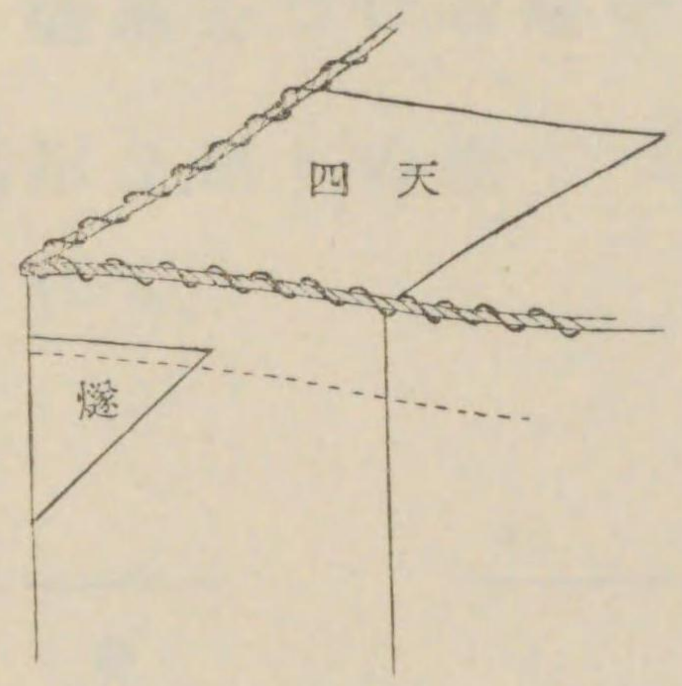
4　一文字十文字



5　廻りと天井とを刺し合はせる。

6　麻紐縢り附け

天井と廻りを合はせた端に麻紐を縢のつける。注意四隅より中央になるほど縢る時に布を深く巻きつける。



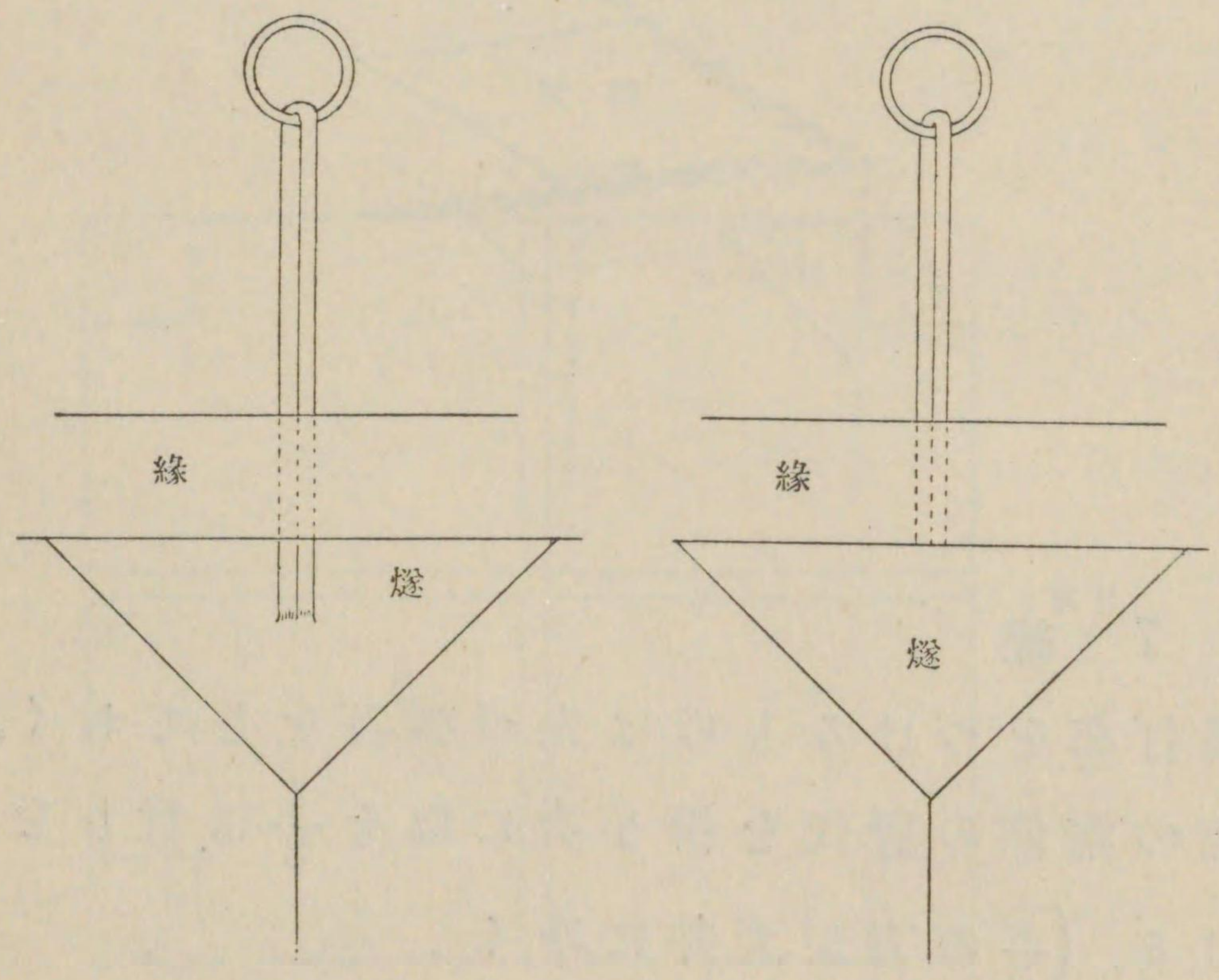
7　縁

裏打布をつけるものは先づ裏打をしておく。幅の兩側の縫代を折り次に幅を$\frac{1}{3}$に折りをつける。($\frac{1}{3}$の方が天井にゆく)。而して折山に麻紐がゆくやうに縁布をあらく刺しつける。(縁布、天井、廻りの都合三枚一束に)但し四天の所は縁と天井の布と二枚で刺す。又角の所で縁布を自然襞をとるやうになる。次に廻りの方を三枚一束に刺しつける。但し四天の所は縁と廻りと二枚刺す。

8　釣手

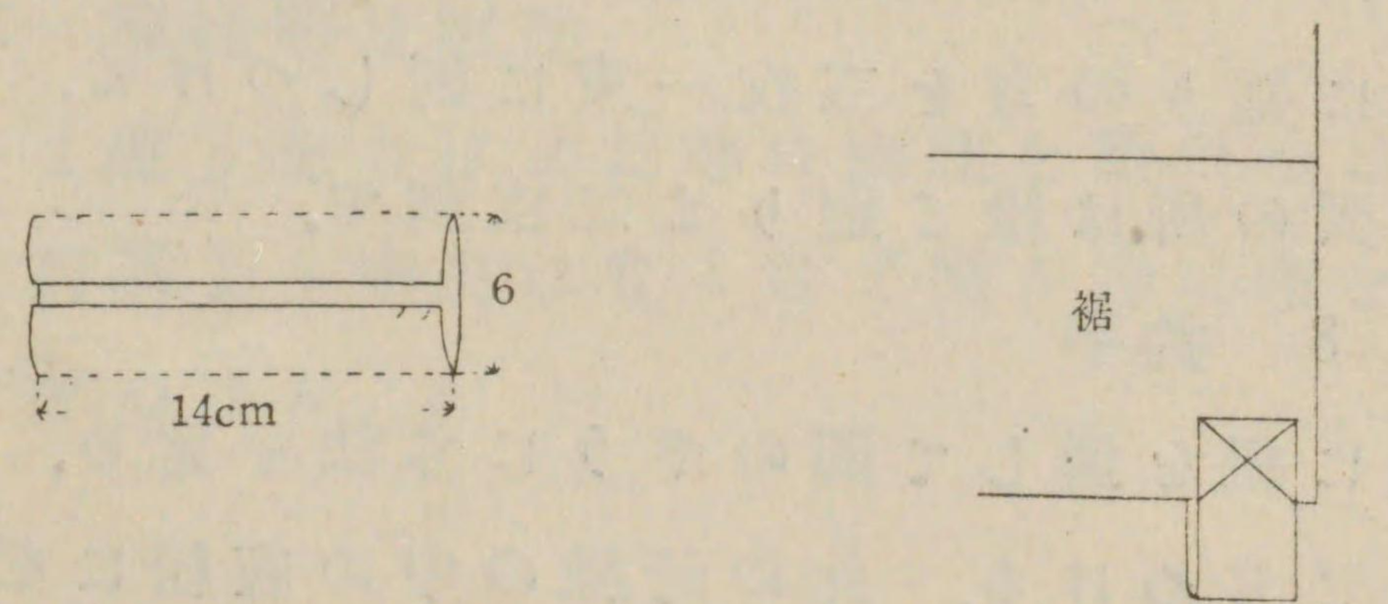
環に紐を通して圖のやうに寸法を定め、縁布にとぢつける。此の時縁の中の麻紐に必ずか

ゞりつける。



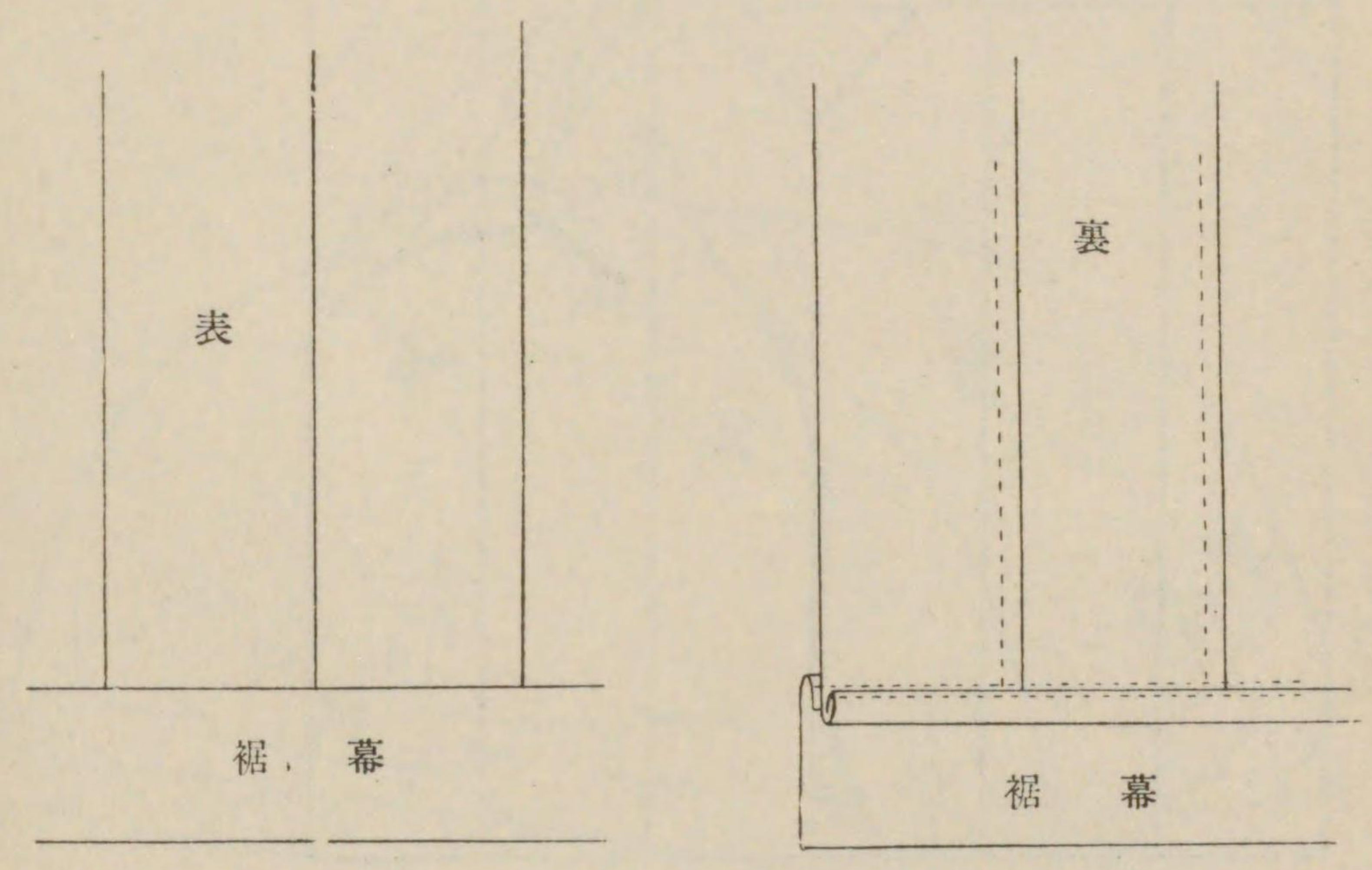
9 裾の乳

疊む時の折目を見るために裾に四隅と其の中央と都合八つ乳をつける。又廻りの布合はせの時に乳布を挾んでつけてもよい。

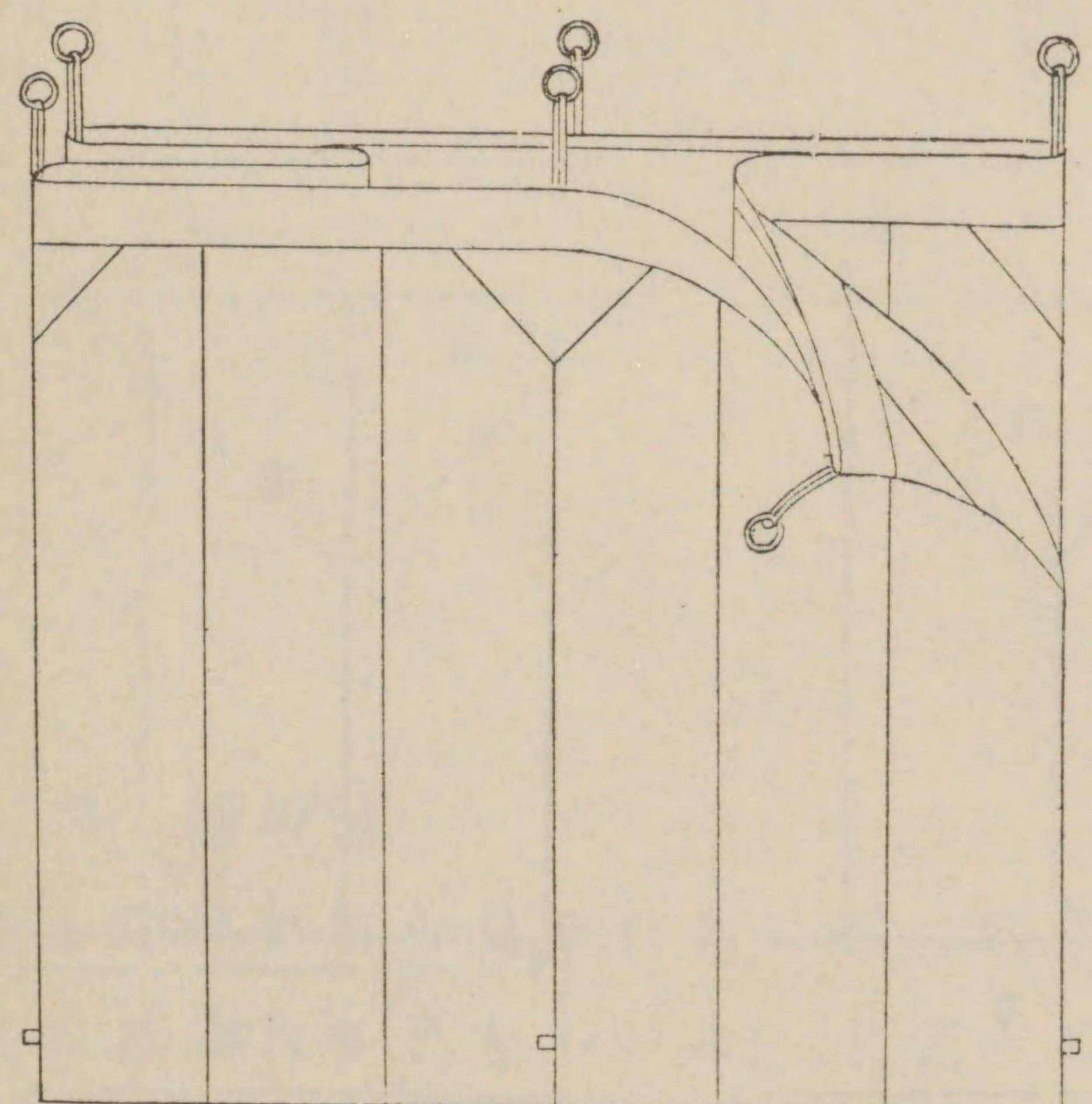


裾幕をつける場合

耳の方を裾に用ひ、廻りの裾三つ折り縫の上に載せて刺しつける。

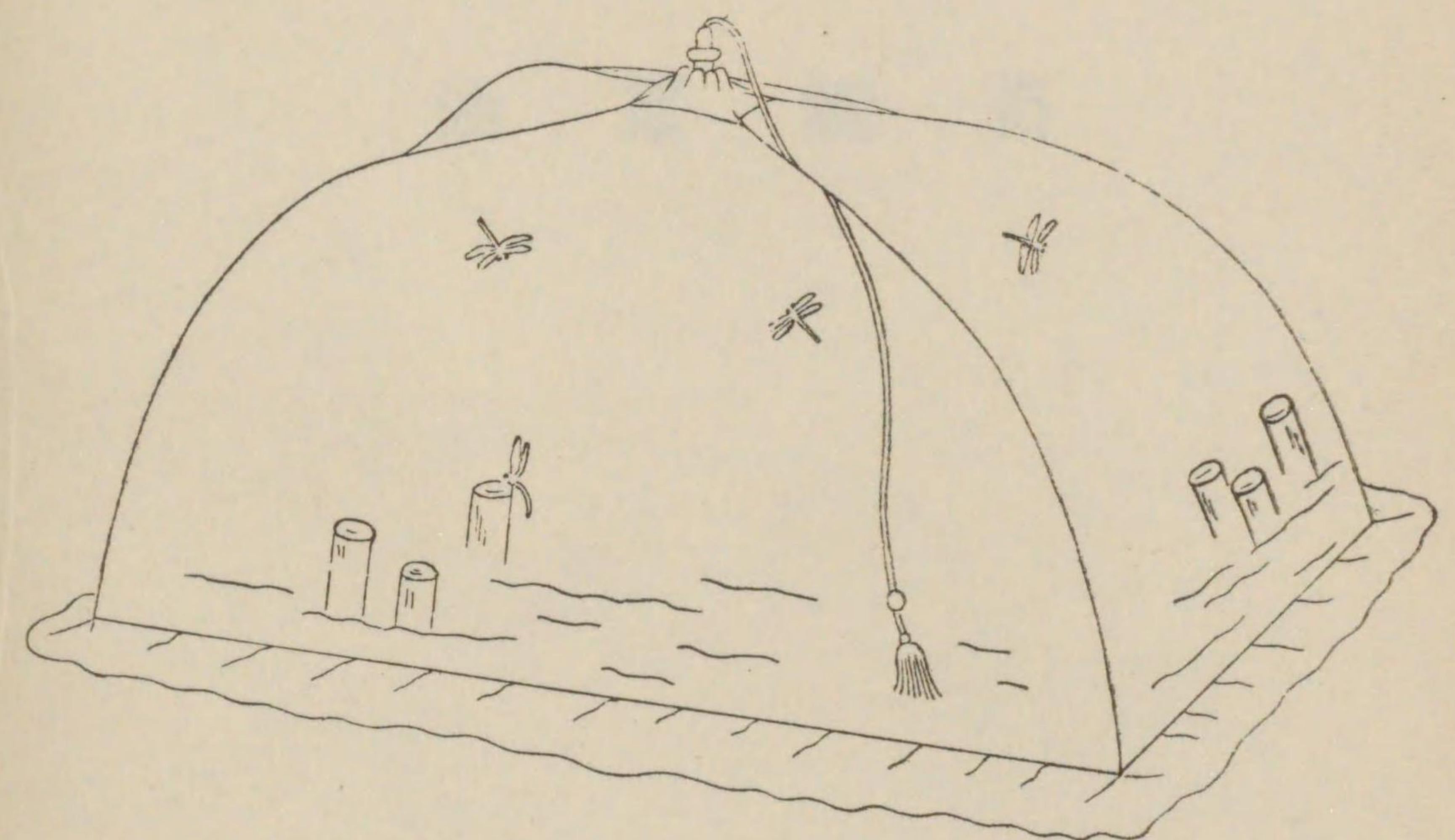


(6) 疊み方



第二項
幌蚊帳

子供用に用ひる



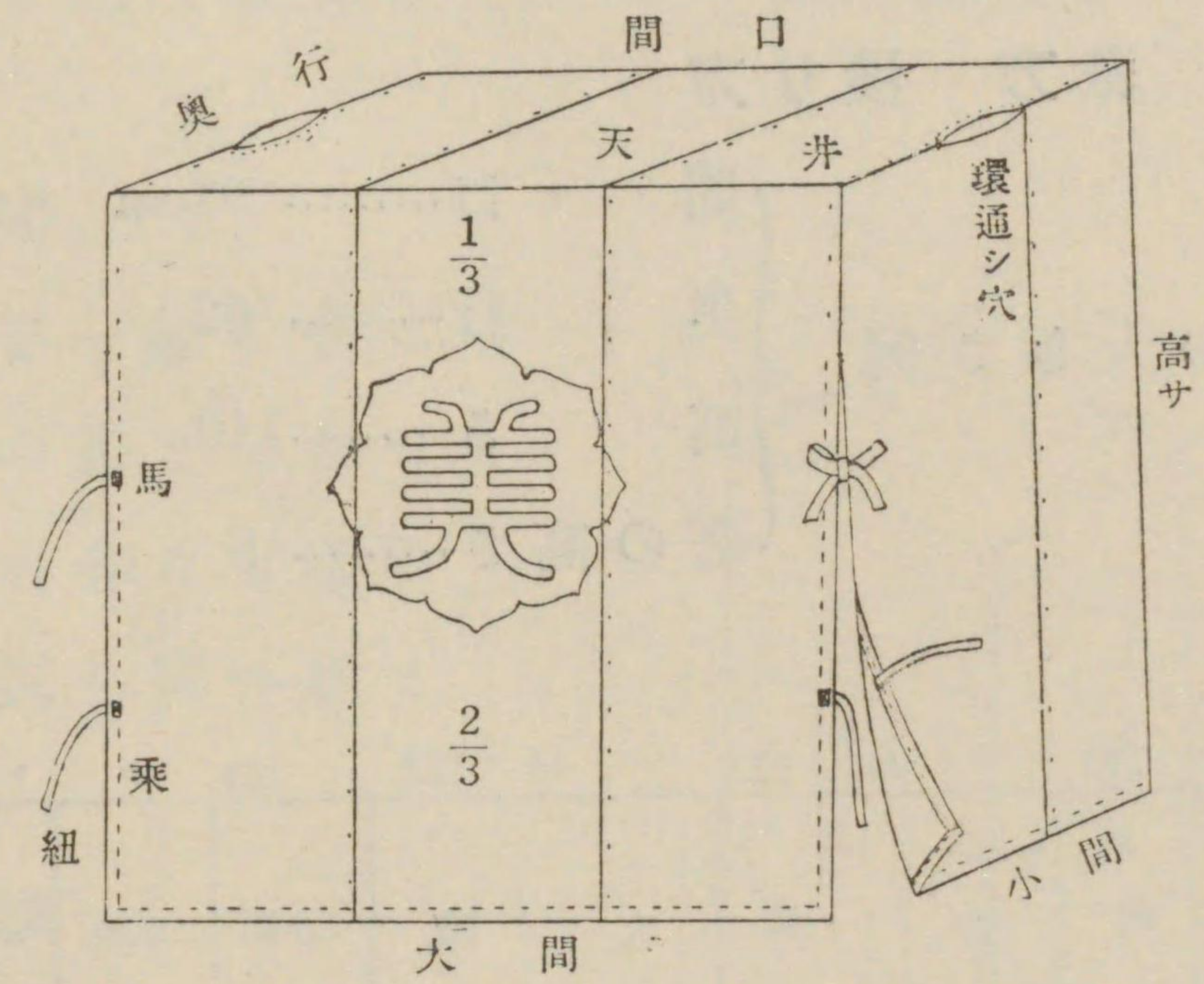
第　二　章

油　簞　鏡　掛

第　一　節
油　　簞

第　一　項
簞 笥 油 簞

(1)　仕立上り圖及び各部の名稱



(2) 普通仕立上寸法

簞笥の寸法を計りこれに合せて仕立る。

紋の{大さ………38cm 乃至 53cm
　　{位置………前幅の中央

仕上高さ………簞笥の高さ＋臺の高さ＋弛(2cm)

仕上間口………簞笥の間口＋弛(2cm)

仕上奥行………簞笥の奥行＋弛(2cm)

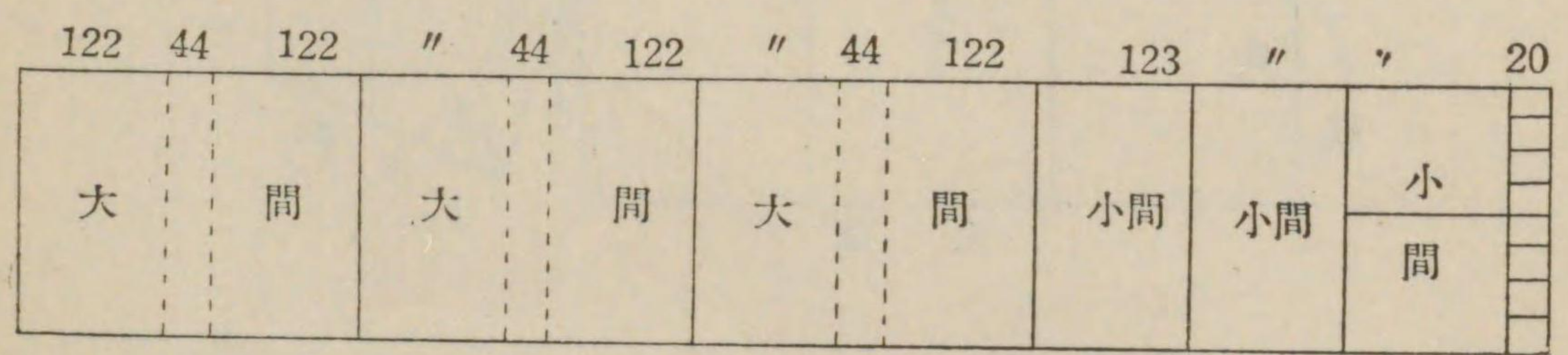
(3) 地質

木綿、金巾、紬、羽二重

(4) 裁方　積り方

簞笥の大きさ例 {間　口……… 91cm
　　　　　　　　{奥　行……… 42
　　　　　　　　{高　さ………110
　　　　　　　　{臺の高さ……… 8

並幅



紐

仕上高さ＋裾の縫代＝大間丈

120　＋　2　＝122

大間丈＋上の縫代＝小間丈

122　＋　1　＝123

奥行＋弛＝仕上奥行

42　＋2＝44

大間丈×6＋仕上奥行×3＋小間丈×3＋紐丈＝總用布

122　×6＋　44　×3＋　123　×3＋　20　＝1253

(5) 縫ひ方

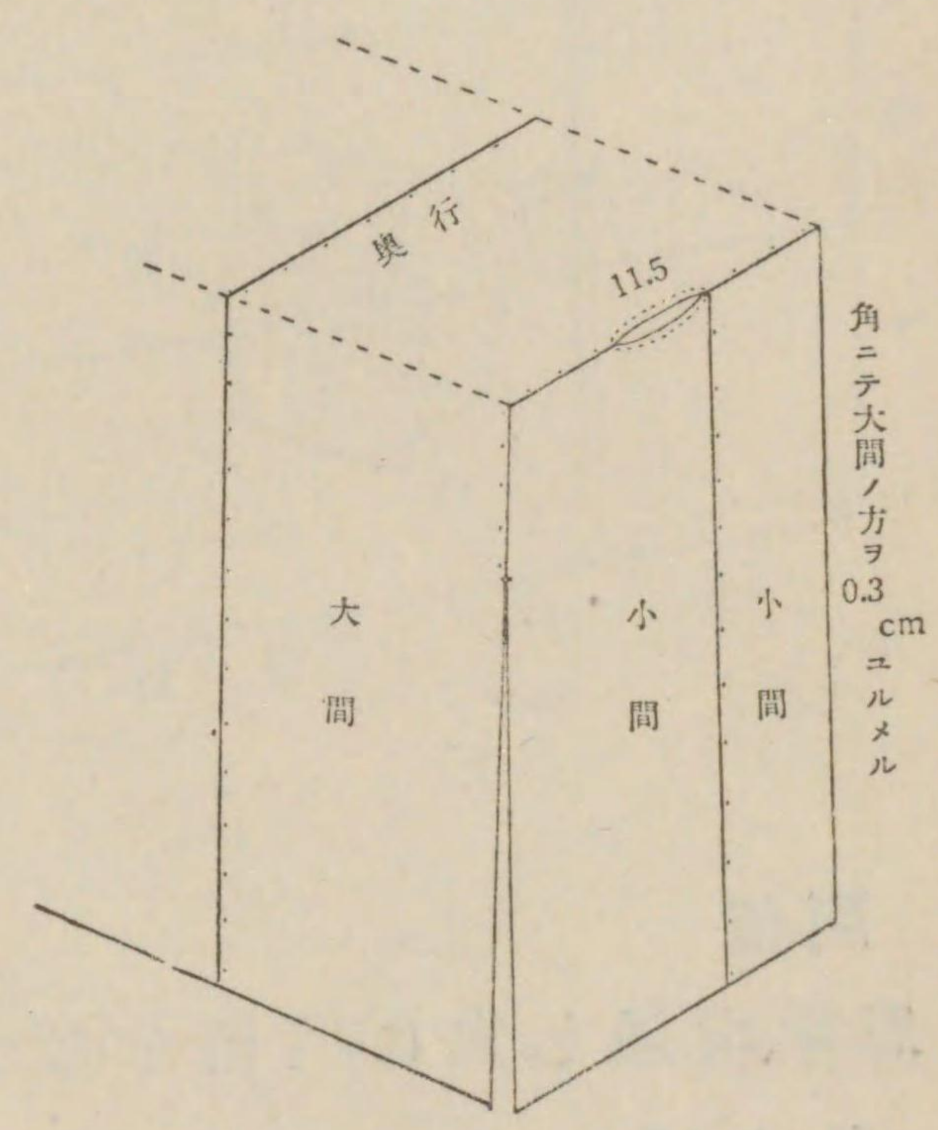
紐絎

大間

大間を三枚縫ひ合せ、折は外側に返し抑へ縫をなす。

小間

小間を一幅の布と半幅の布とを合せて左右各々半幅の方に返し抑へ縫となす。



兩横

奥行に合せて小間に幅標をつける次に右圖のやうに環

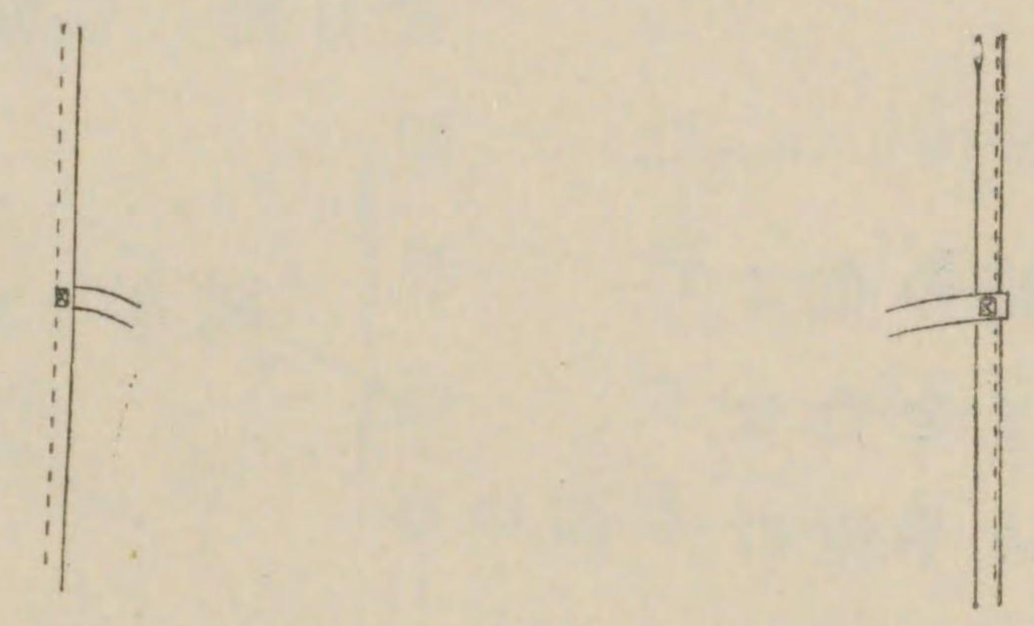
通し穴を殘して大間と小間とを縫合せ、大間の方に折返して抑へ縫をする。

馬乘及び裾

通し穴の縫代
馬乘及び裾口 } 三つ折縫にする。

紐附

馬乘の間を三等分して二ヶ所に紐の絎目を下に向けて裏側に下圖のやうにつける。



閂留

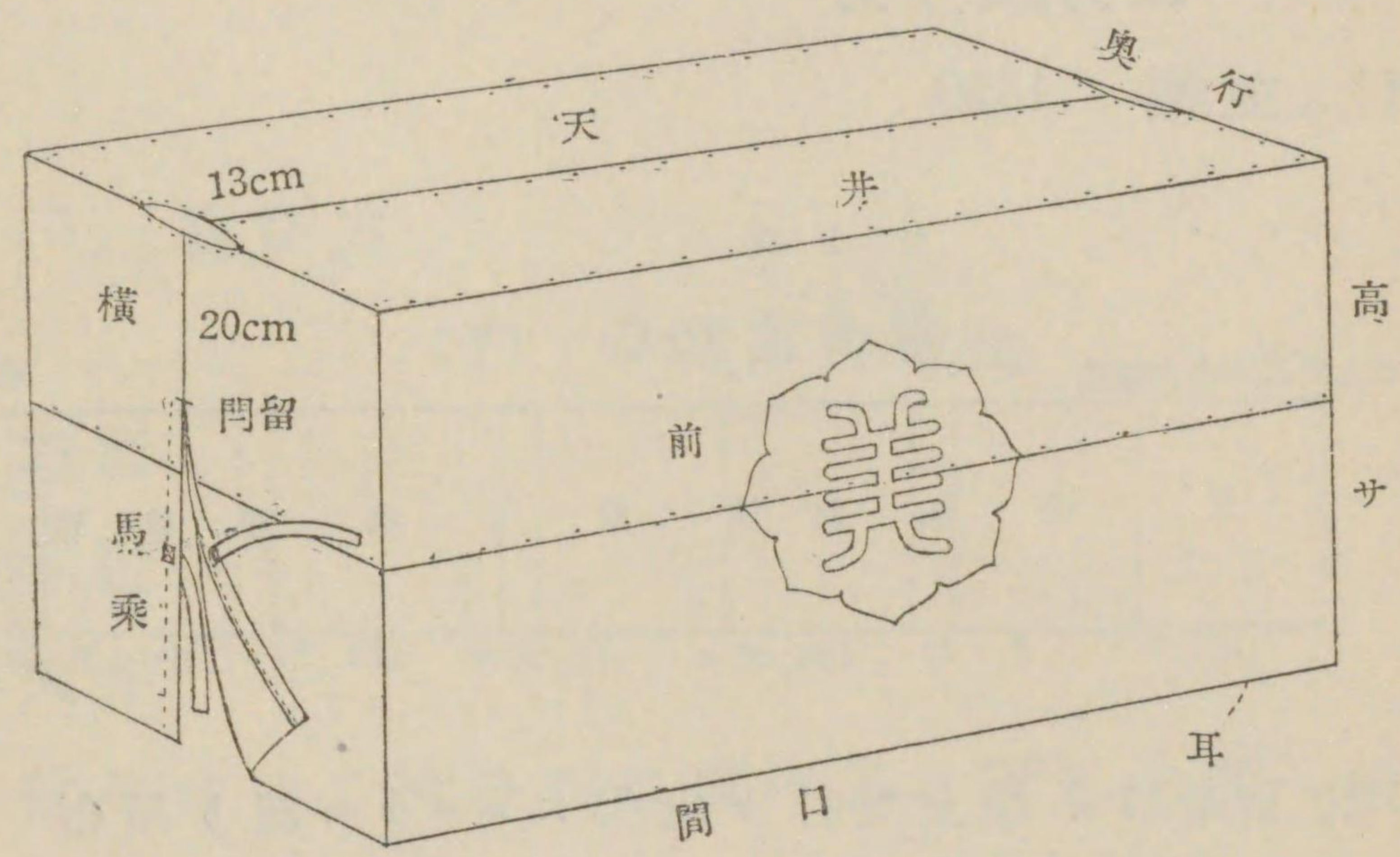
馬乘、環通し穴に閂留をなす。

仕上げ

第二項

長持油箪

(1　仕立上り圖



（2） 普通仕立上ヶ法

長持の寸法に合せて仕立る。

仕上高さ………並幅を二布(70cm位)

仕上間口………間口＋弛(2cm)

仕上奥行………長持の奥行＋弛(2cm)

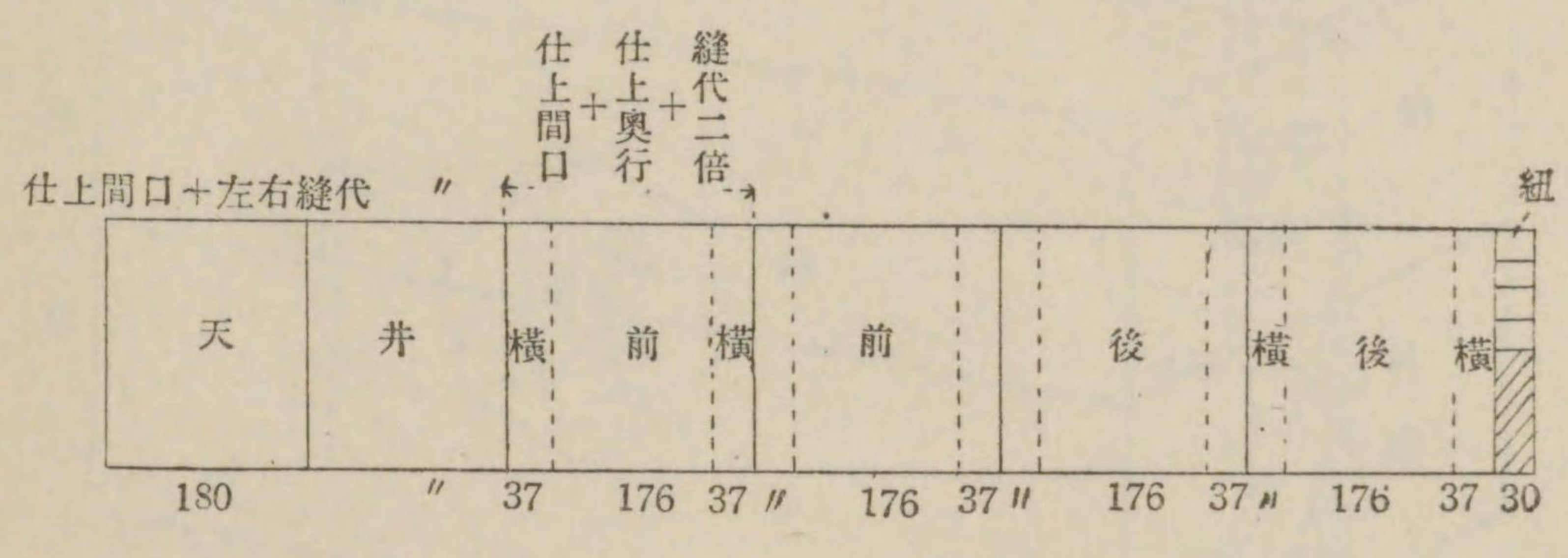
紋の大きさ………箪笥に同じ

（3） 地質

箪笥油箪に同じ。

（4） 裁方積り方

（イ） 並幅 1390



(仕上間口＋仕上奥行＋縫代×2)×4＝廻り用布

(176 ＋ 70 ＋ 2 ×2)×4＝1000

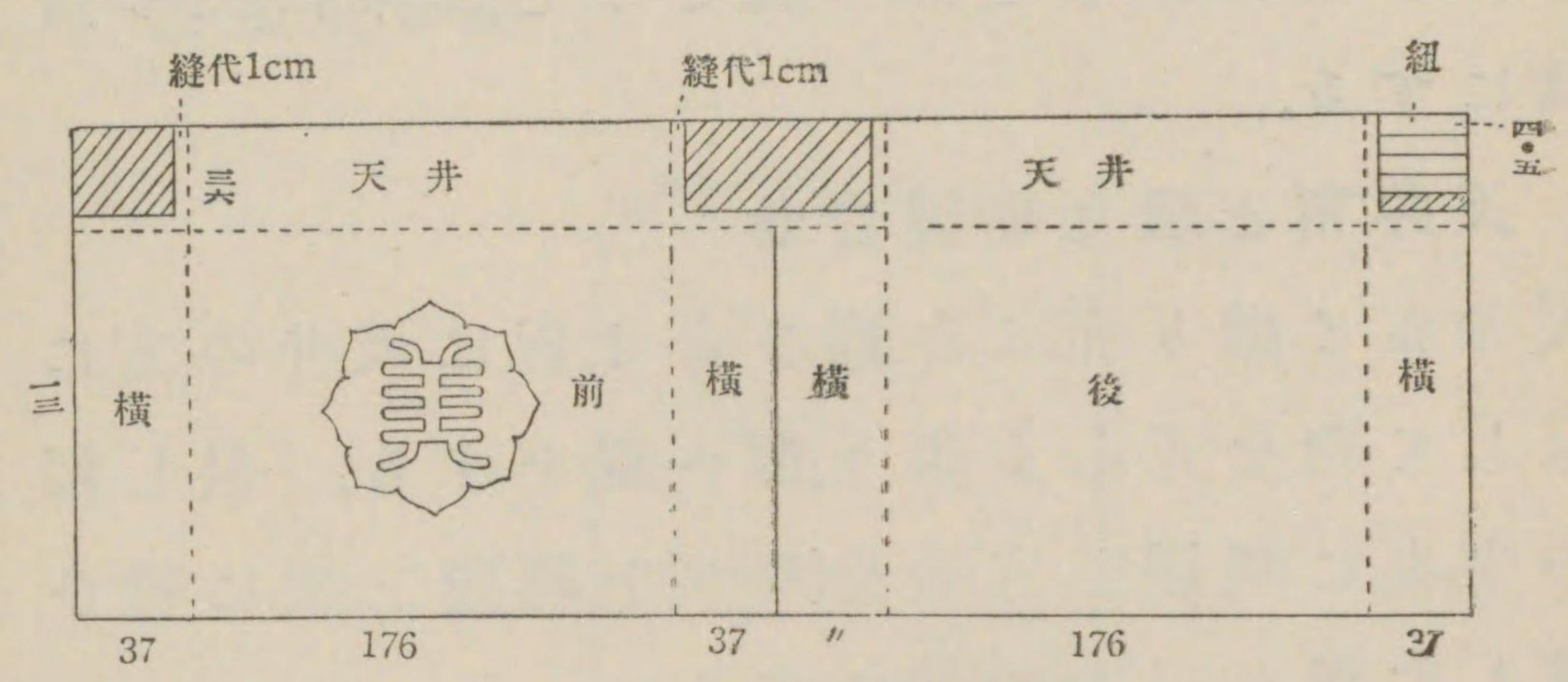
(仕上間口＋左右の縫代)×2＝天井用布

(176 ＋ 4)×2＝360

天井用布＋廻り用布＋紐＝總用布

360 ＋ 1000 ＋30＝1390

（ロ） 廣幅 113cm幅



（5） 縫ひ方

（イ） の裁方の場合

紐絎

四本絎ける。

天井

二枚を合せて縫ひ,折は前の方に返して抑へ縫をする。

廻り布

前後共二枚づゝ合せて縫ひ,折は上に返し抑へ縫をする。

兩横縫

兩横二枚づゝを合せて､上より20cmだけ縫ひ折は前の方に返して抑へ縫をなし､馬乘は三つ折縫にする。

天井布と廻り布縫合せ

天井布と廻り布とを縫ひ合せ折は天井の方に返して角を正しく折り､抑へ縫をする。但し幅の中央に環通し穴の分(13cm)を縫殘し､次に縫ひ殘した所を三つ折縫にする。

紐附

馬乘の寸法を二等分し､箪笥と同じ要領で紐を附ける。

閂留

環通し穴の兩側及び馬乘に閂留をなす。

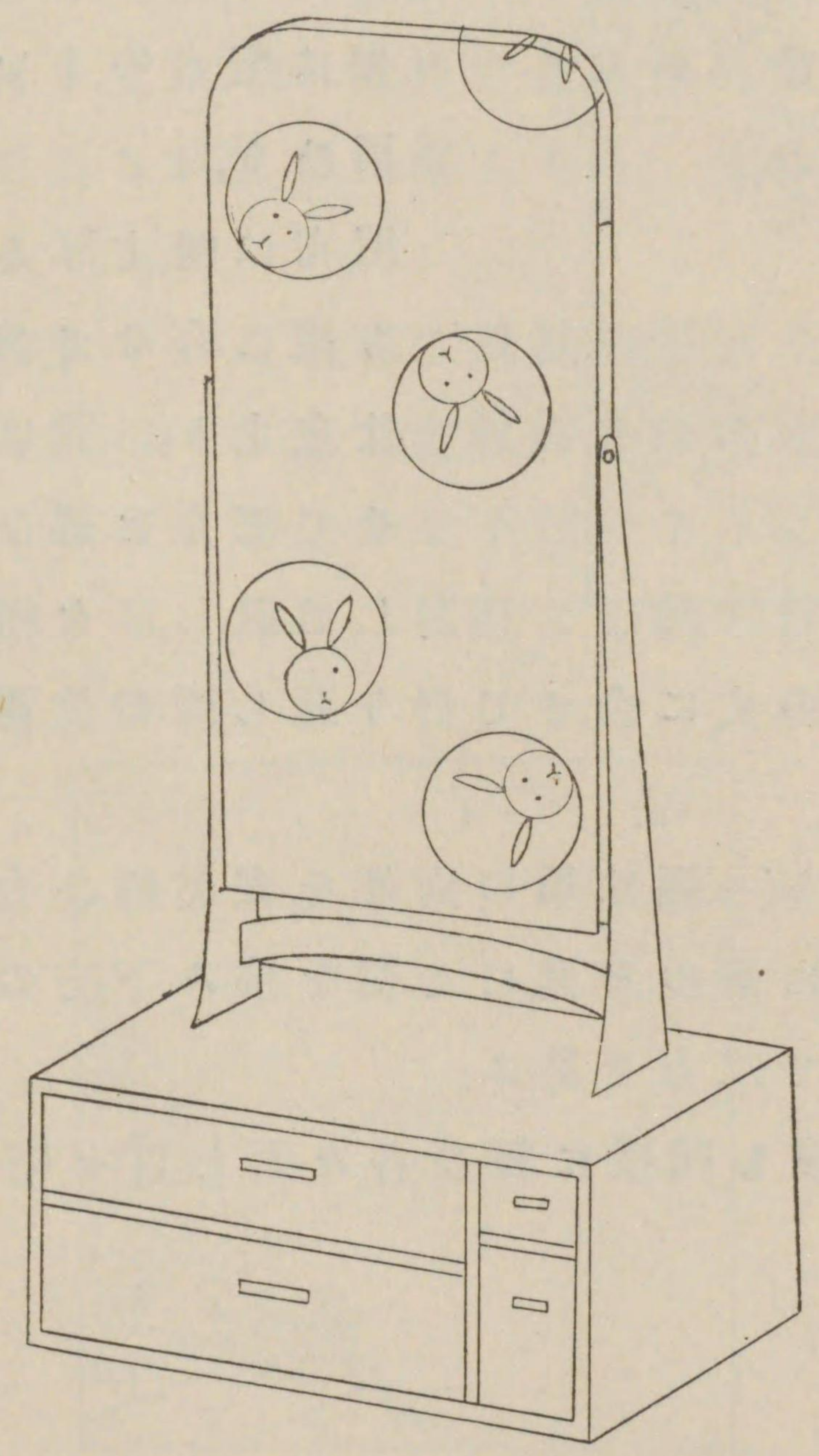
仕上げ

第二節

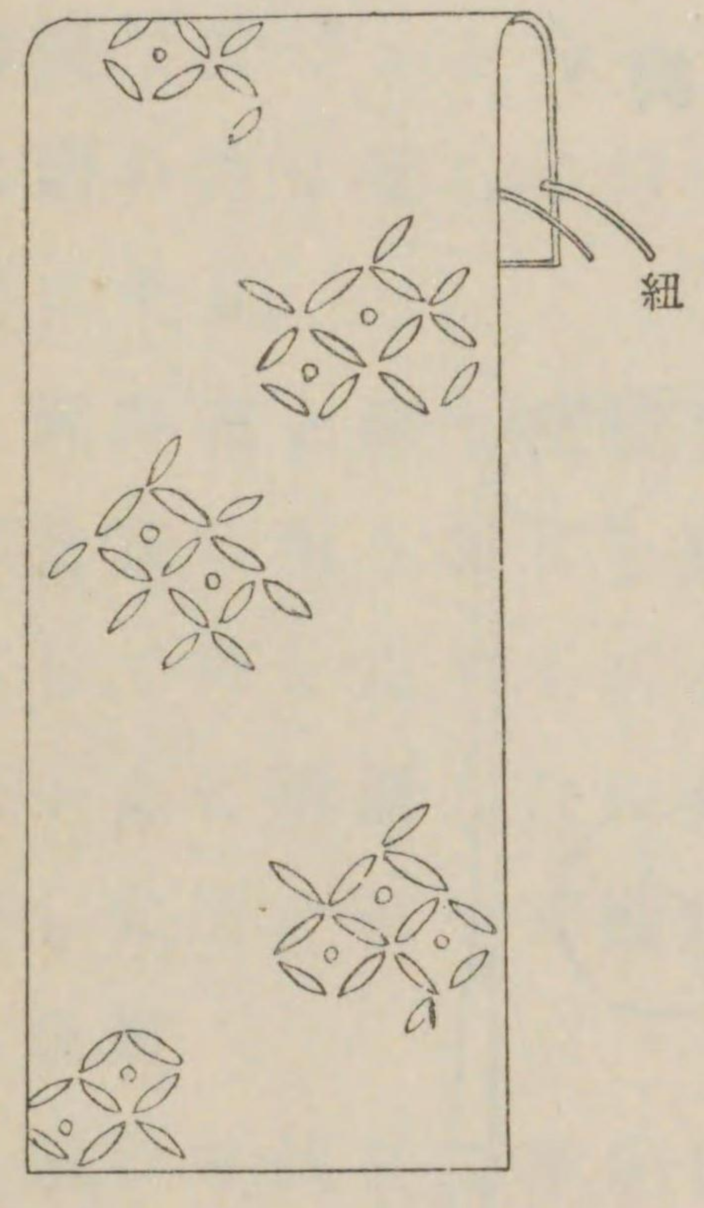
鏡掛

仕立上り圖

(一)



(二)



表はモスリンレーヨン、富士絹、羽二重、縮緬等の友禪又は定紋をつけることもある。

裏は配合のよい無地を用ひる。

用布は幅、丈、厚みいづれも鏡に合せて裁つ。

仕立上り(二)圖は表裏合せて三方を縫ひ表に返して返し口を絎ける。

次に鏡の丈に合せて折り返し圖の位置に紐をつける。

仕立上り(一)圖は襠の兩端を表裏縫ひ合せ表に返し、次に前の表裏にて襠を挾み下方の返し口を殘して三方を縫ふ。

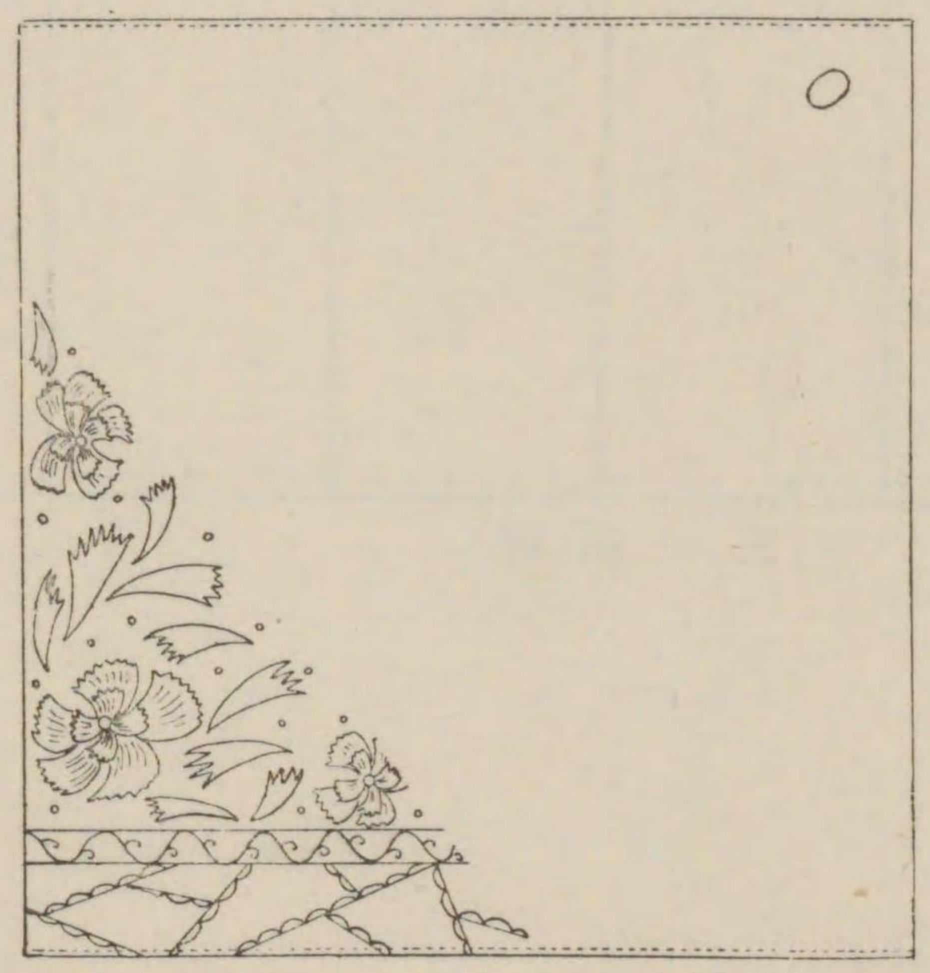
而して後も同様に縫ひ各々返し口を絎ける。

第二項
風呂敷

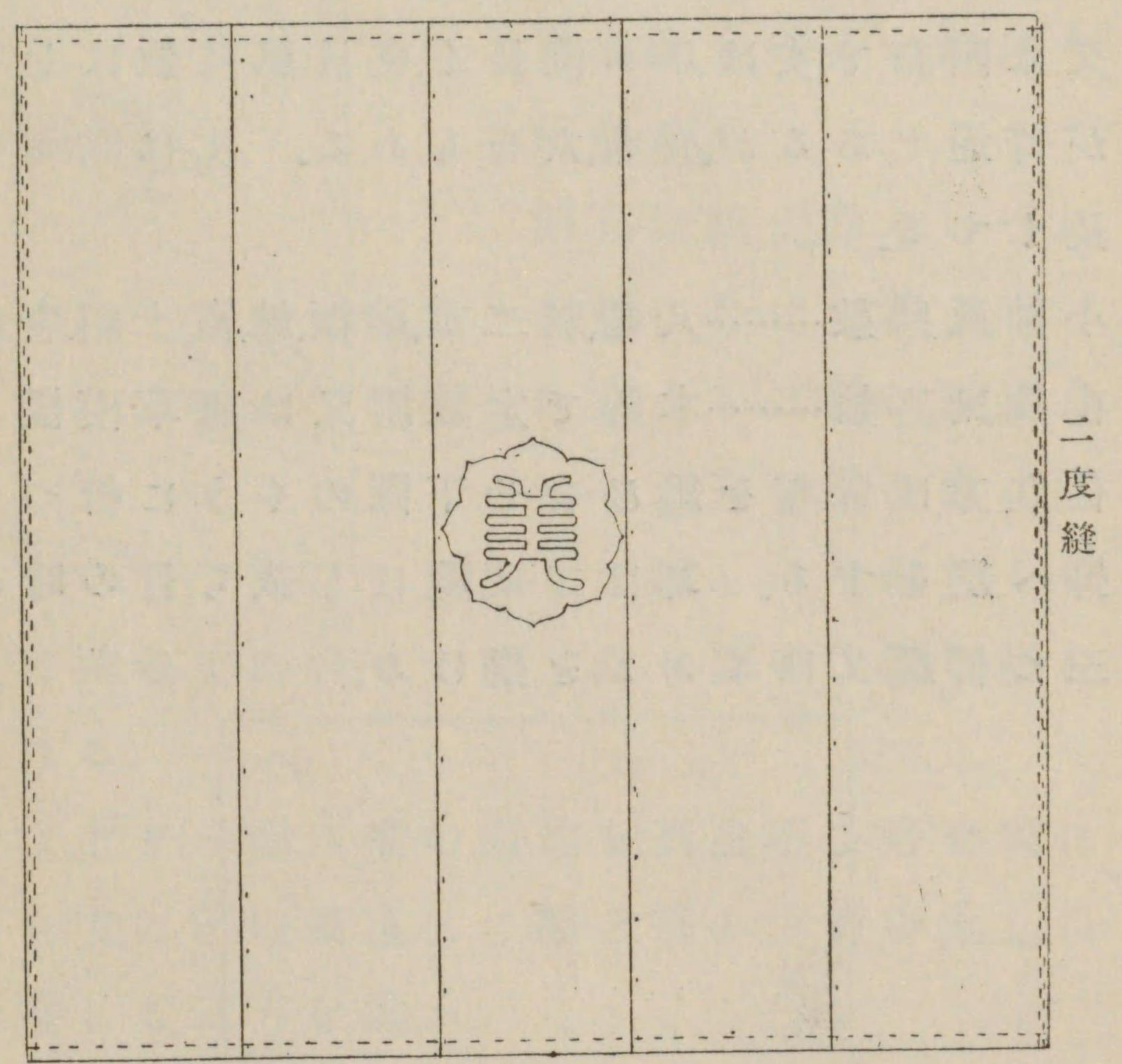
風呂敷は用途に應じて大小種々ある。手風呂敷は二布で丈は 5cm 位長く、小袖風呂敷は三布又は四布で、丈は 10cm 位長く、夜具風呂敷は七布が普通であるが、五布、六布もある。丈は 20cm 位長くする。

小袖風呂敷………八端、羽二重、縮緬、紬、富士絹、唐桟
夜具風呂敷………木綿で定紋附又は唐草模樣

仕立方は各布を縫ひ合せ下圖のやうに折つて抑へ縫をする。耳は二度縫にし裁ち目の時は三つ折縫又はミシンを掛ける。



婚禮調度の時には下圖のやうに定紋を附けるのが普通である。



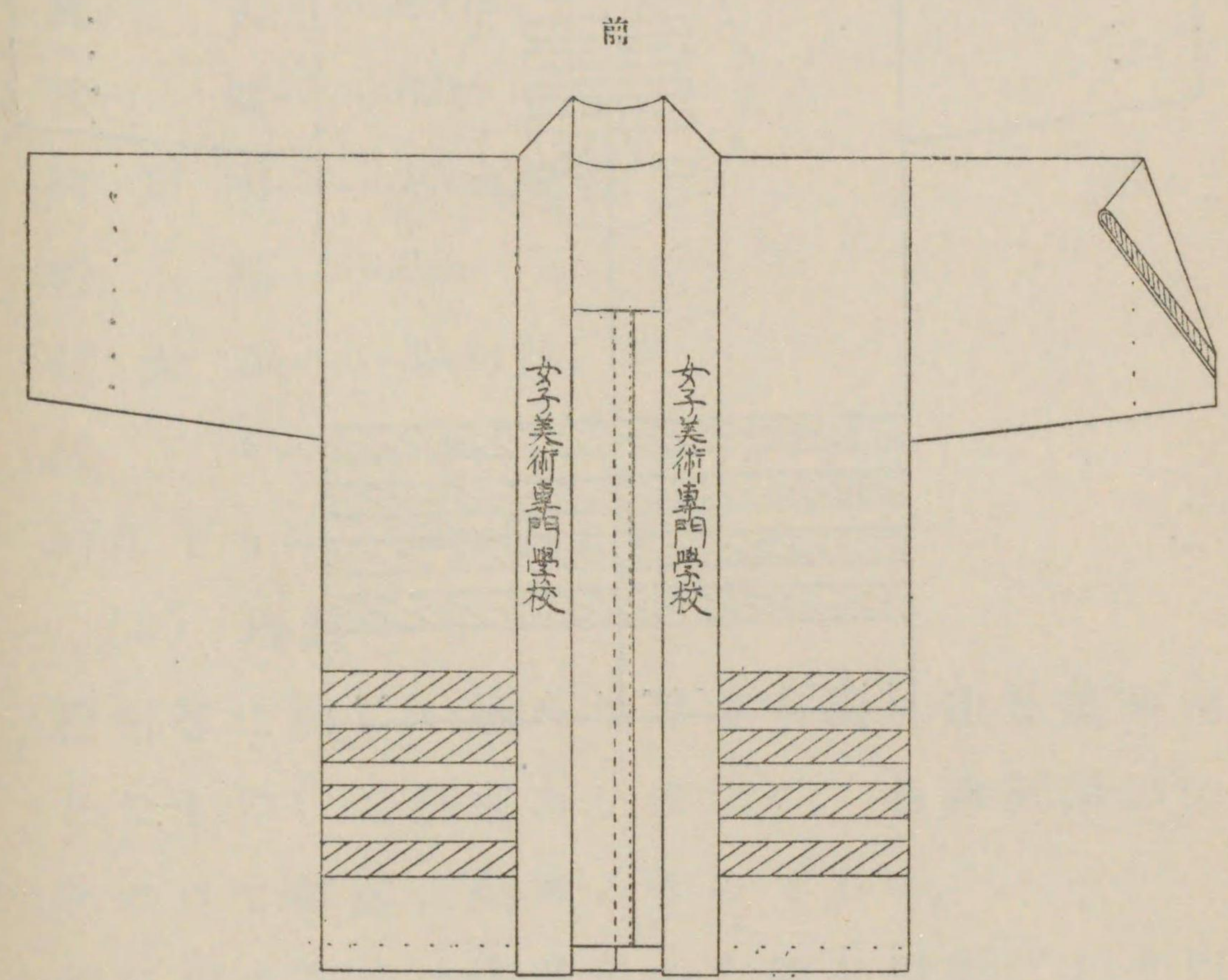
第三章

半物及小物

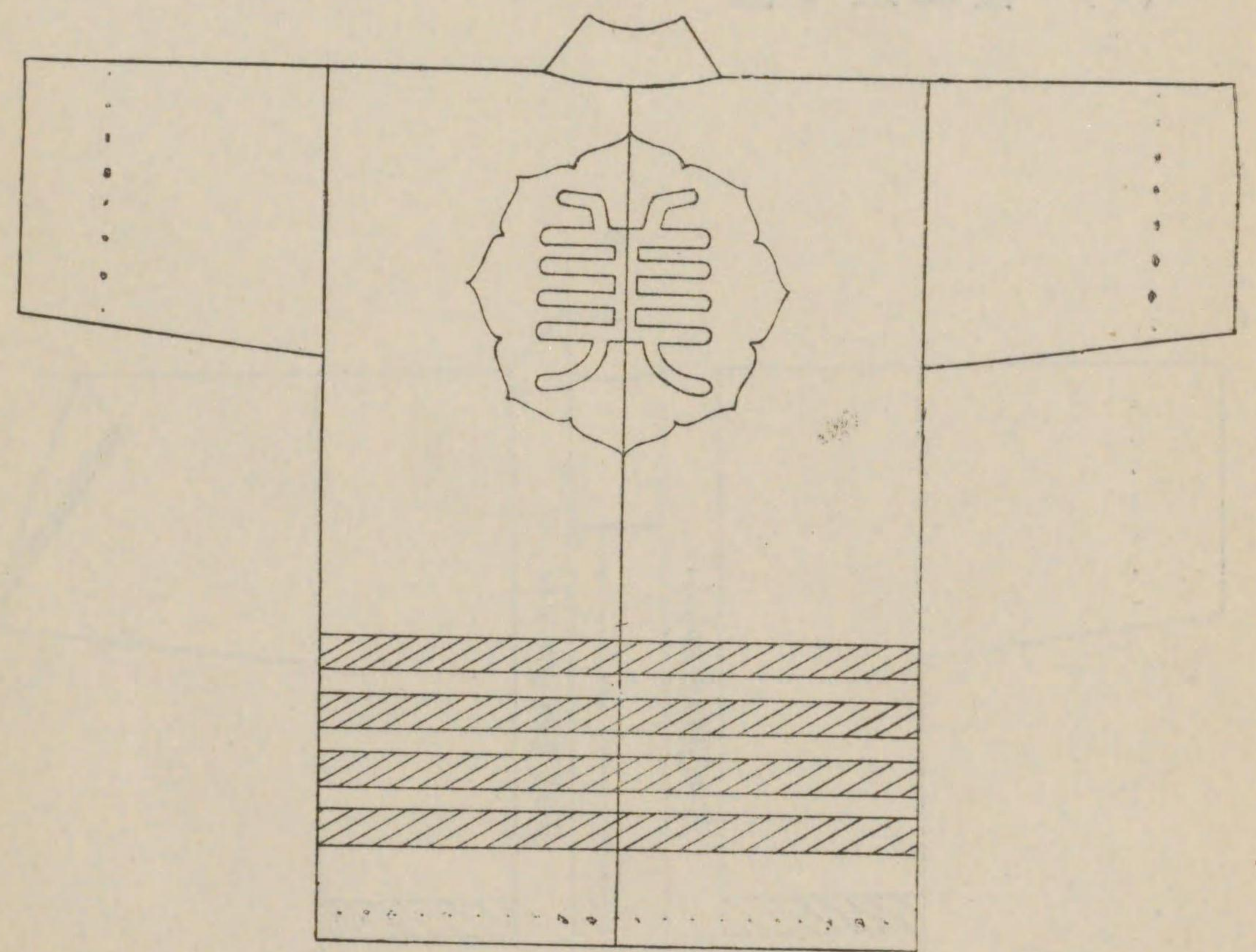
第一節

印半纒

(1) 仕立上り圖



後



(2) 普通仕立上寸法

袖　　丈………30cm
袖　　幅………32cm
袖　　口………25cm
袖　　附………附詰
身　　丈………90cm
後　　幅………32cm
衿肩明………10cm(裁切)
衿　　幅………6cm
紋大さ………32cm位
紋下り………3cm
衿印下り………13cm(肩より)

(3) 地質

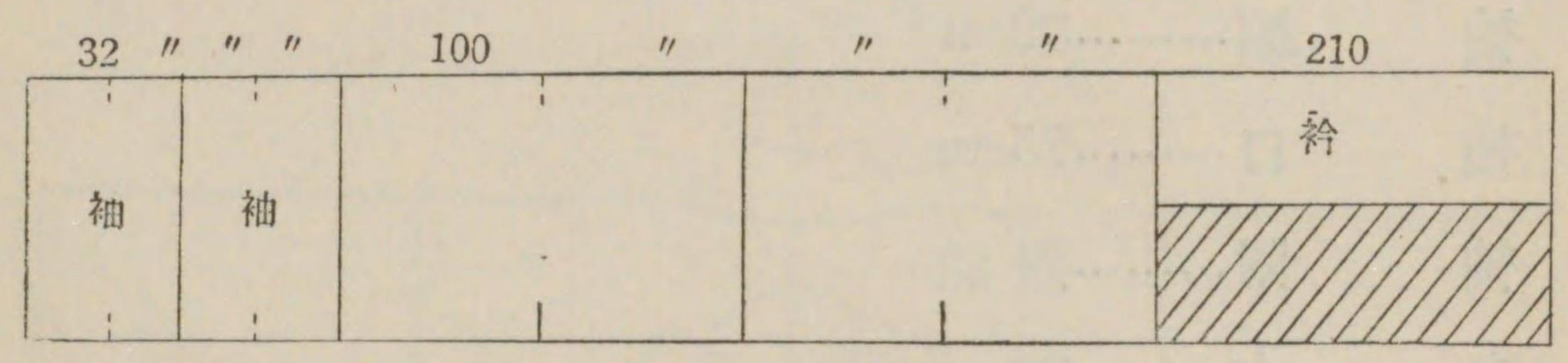
股引等に同じく極めて厚き木綿に印を染め出したものにて出來あひはない。各自所用の印をつけて特別に染めるものである。

袖口布は茶又は淺黄色の木綿を四割にして用ふ。

肩當布は淺黄木綿等を用ひ約100cm位でよい。

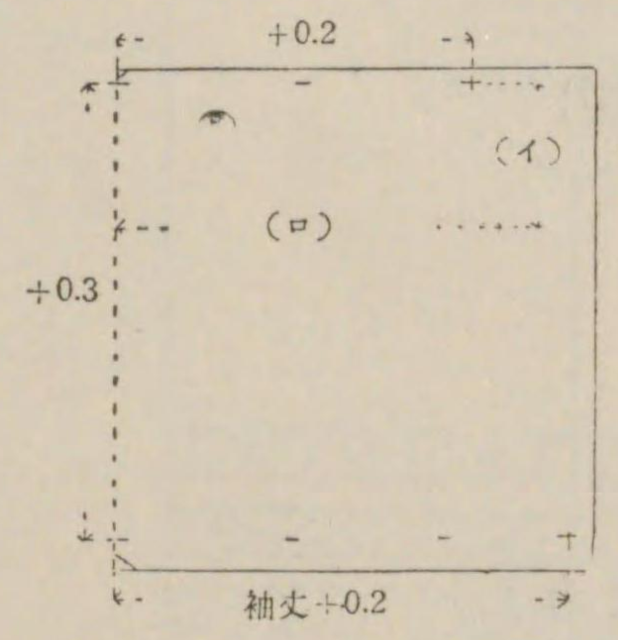
(4) 裁方

並幅 738cm

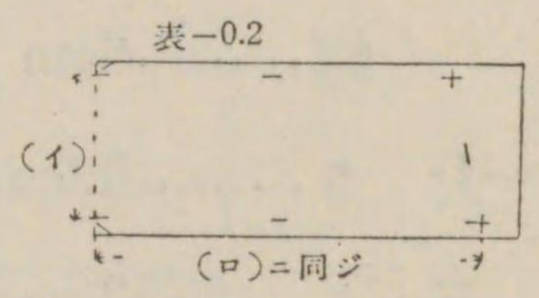


(5) 標附け方

袖

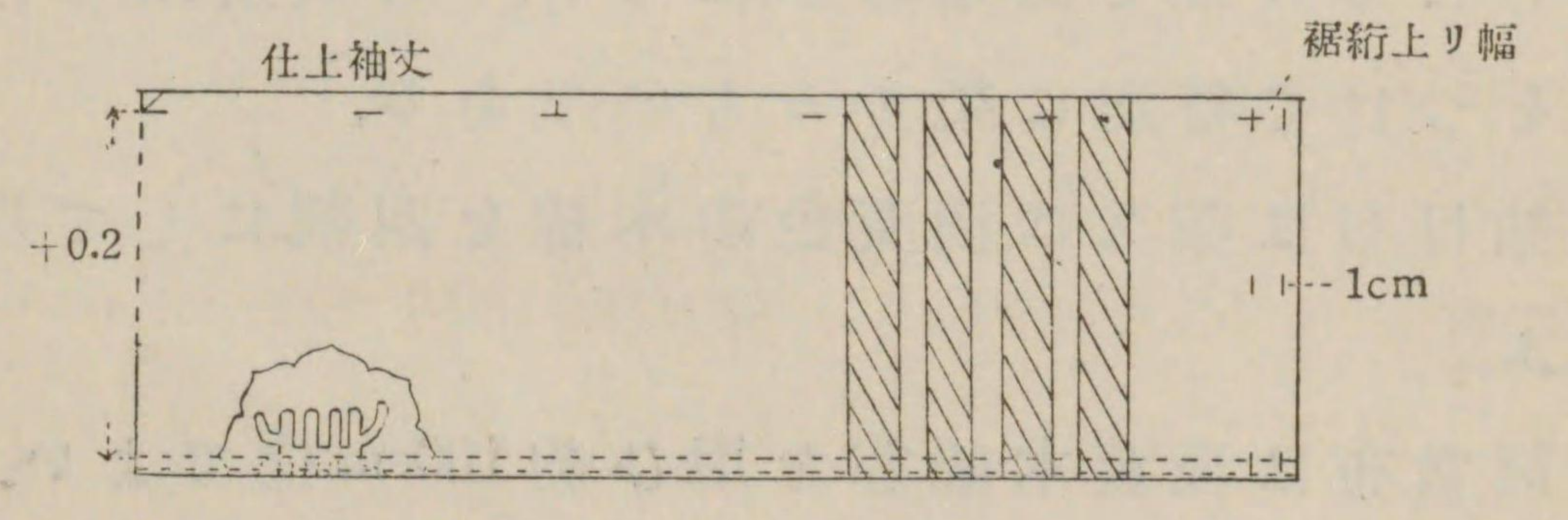


袖口布



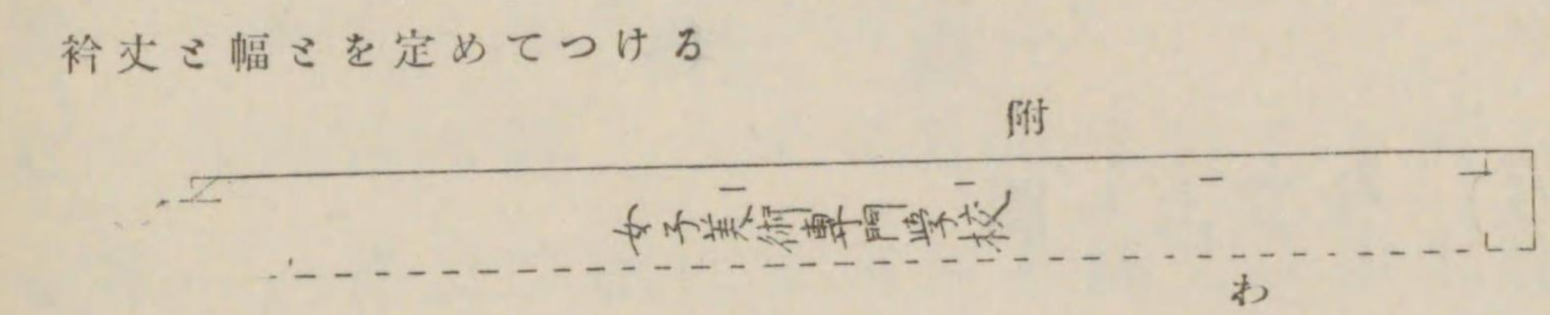
身頃

脊の紋を合せて脊縫をなし圖のやうに標を附ける。



前身頃は衿肩より裾まで眞直につける。

前



(5) 縫ひ方

1 袖

袖布及び袖口布の袖下を縫ひ、袖口を合せ毛抜き合せとして袖口布の奥を絎けつける。

2 身頃

肩當、脇縫、裾絎………木綿單衣に同じ。

3 衿附

印の位置を左右揃へて附け衿絎をなす。

4 袖附

袖丈全部を附ける。

5 仕上げ

注意

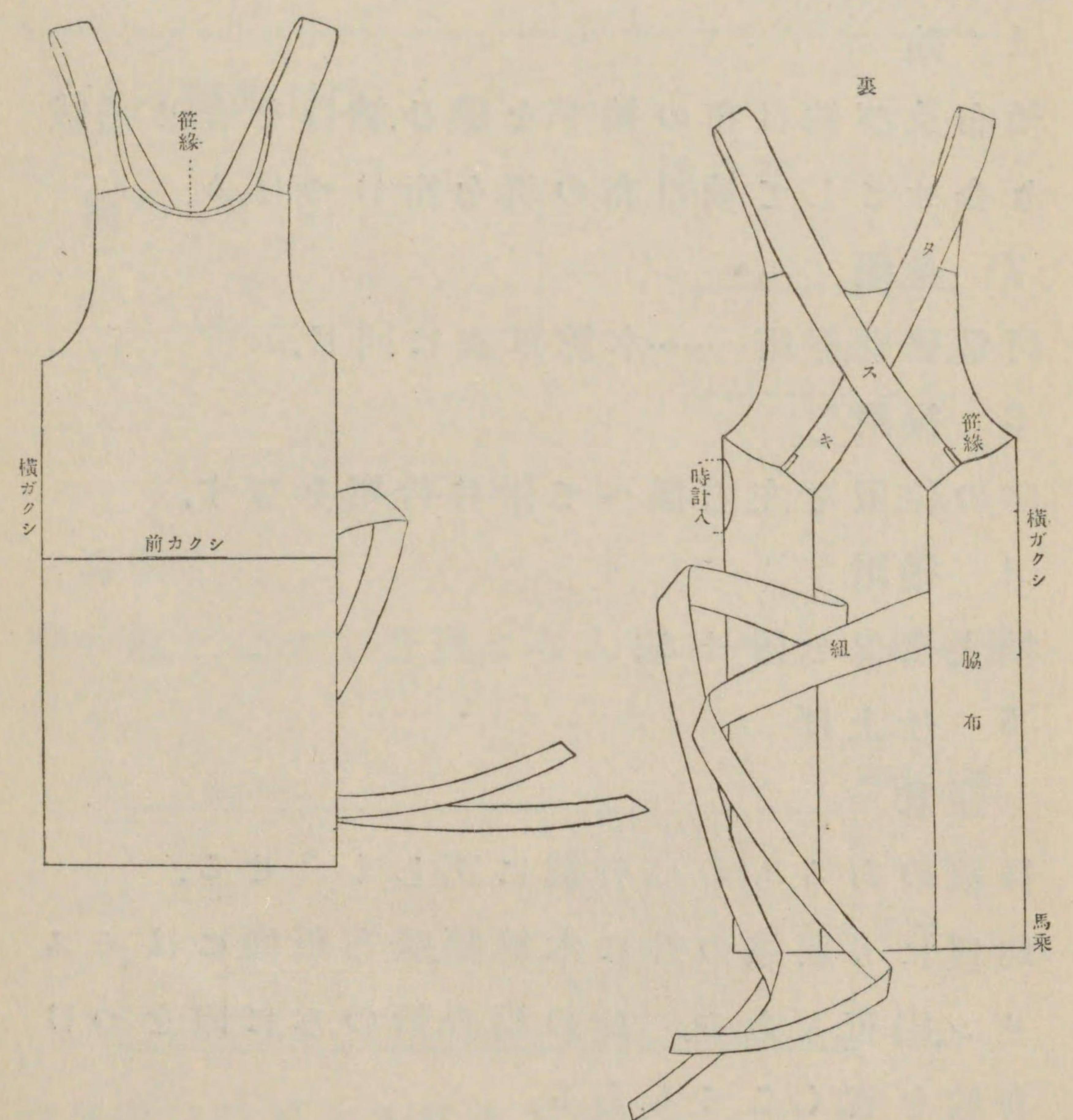
衿紋のあるものは脊縫に正しく合せる。

地質にも前述の外に木綿縞、麻布類稀にはモスリン、絹布もある。此の場合衿のみに印をつけ脊紋を省くこともある。

第二節

腹掛

(1) 仕立上り圖



(2) 地質

表………めくら縞(青縞とも云ふ)

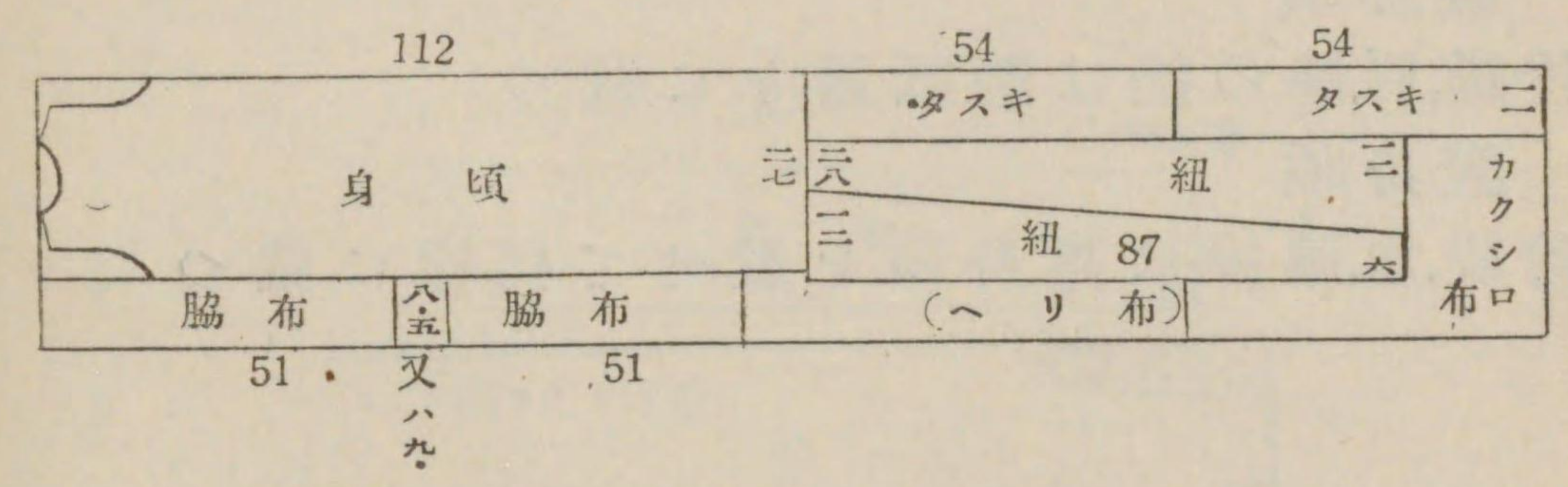
裏………淺黄木綿　うすはな(はな色とも云ふ)

心布………襷及び紐には三河木綿又は生木綿を入れる。

(3) 裁方

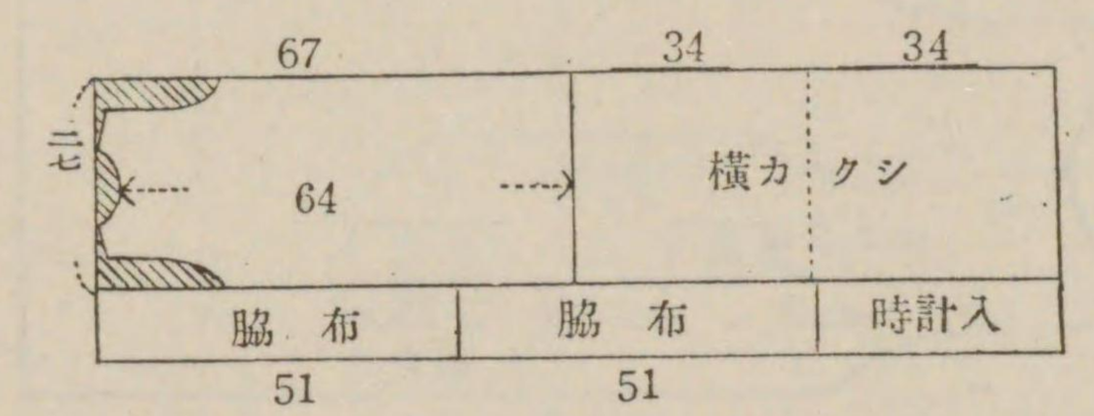
表

並幅　220cm



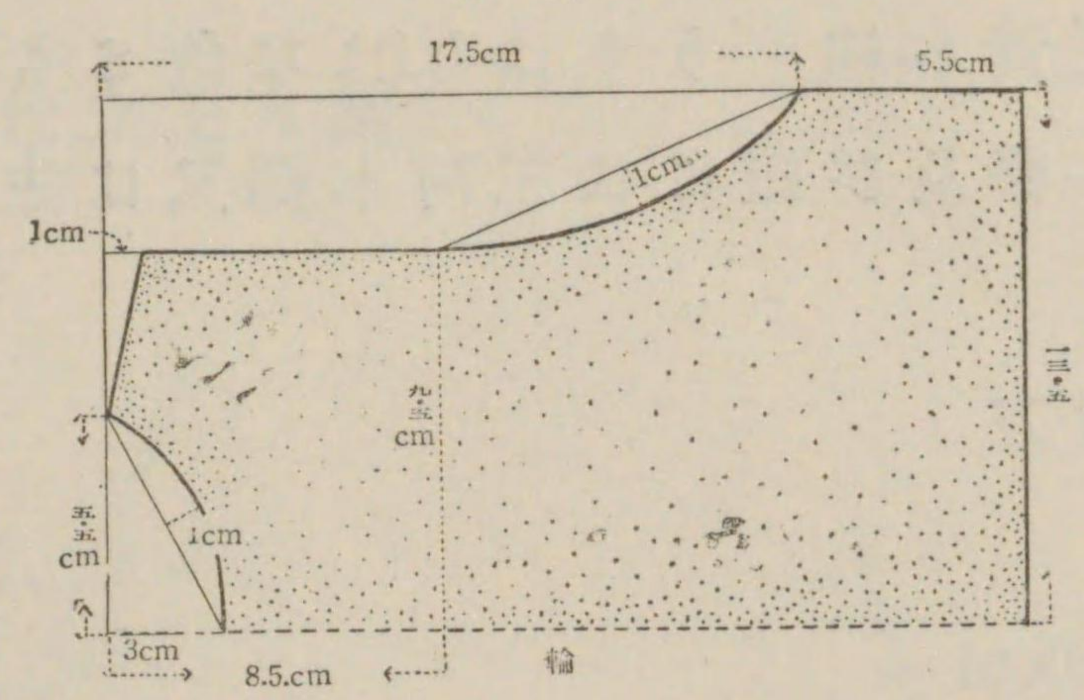
裏

並幅　135cm



部分裁方

型紙のとり方

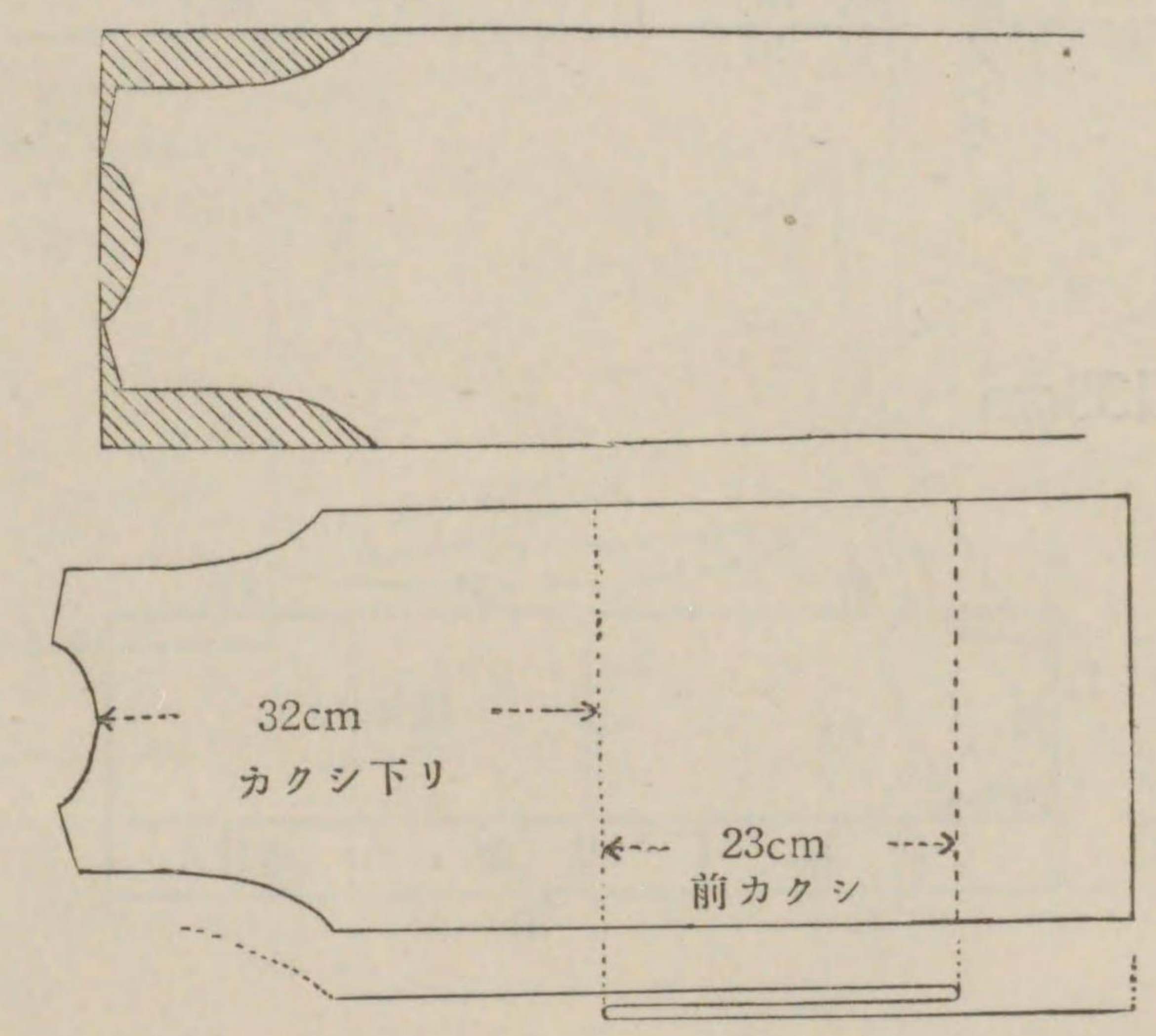


裏身頃

衿繰,肩,脇の繰は型紙通りに裁つ

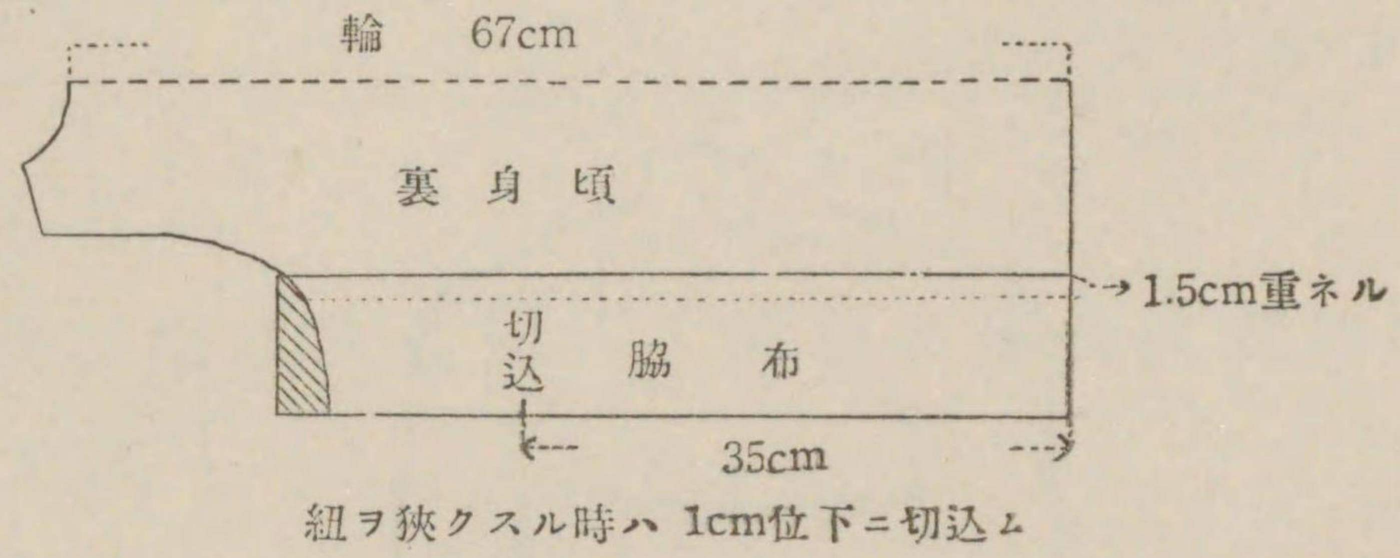
表身頃

衿繰,肩,脇繰は裏身頃を載せて同様に裁つ

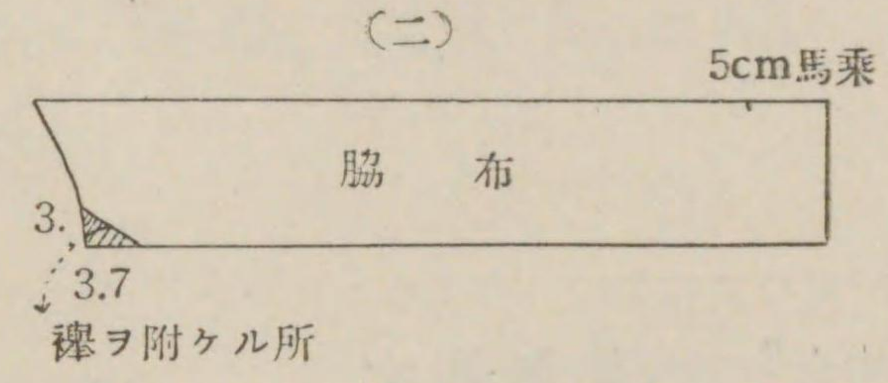


脇布（表裏）

裏身頃と脇布を1.5cm重ねて(一)圖のやうに上を繰り次に(二)圖のやうに襷附を裁つ。

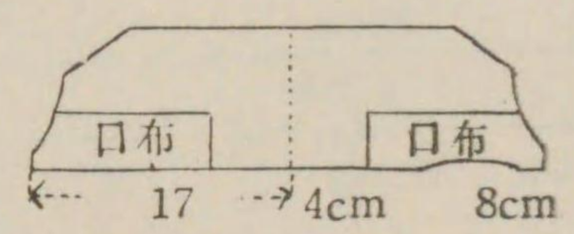


(二)



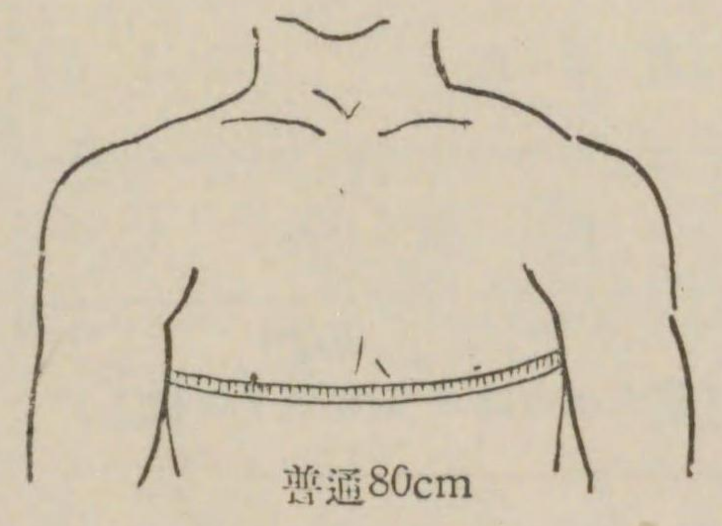
時計入れ及び口布

時計入れの幅は脇布の幅より0.3cm狭く裁ち上の繰は脇布に合せて裁つ。



襷（表布）

下圖の位置を計つて襷丈を定める

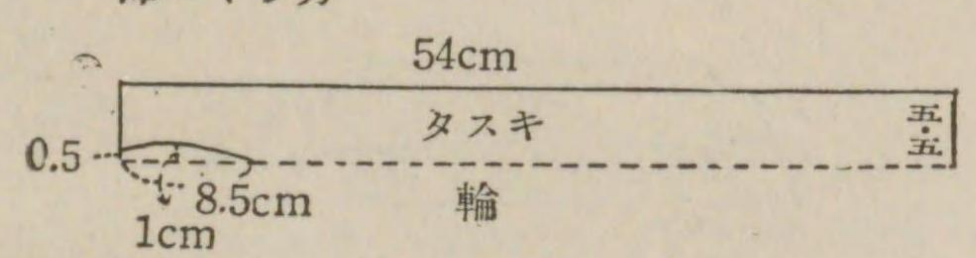


$\frac{\text{胸圍}}{2}+9\text{cm}+3\text{cm}=$裁切襷丈

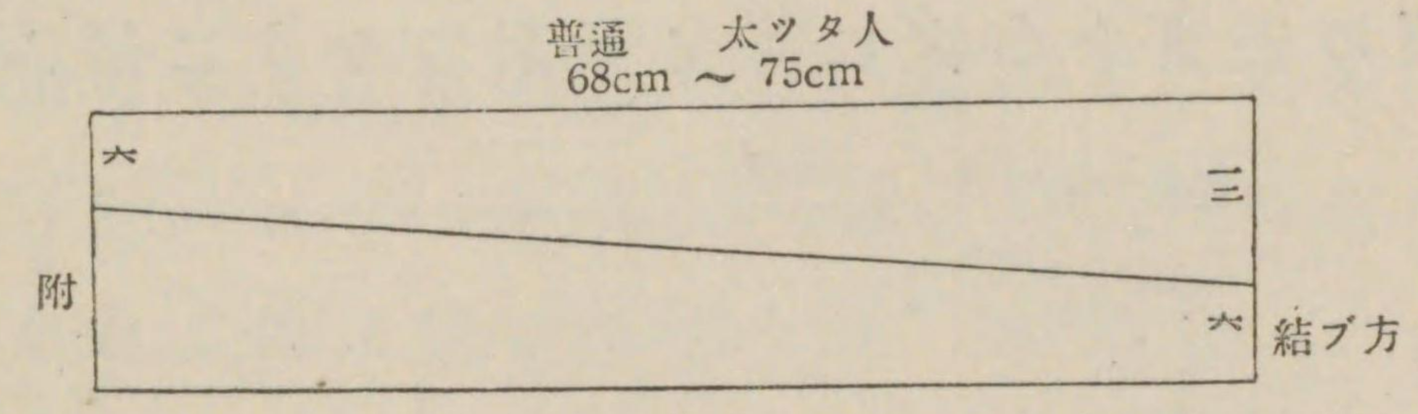
$\frac{80}{2}+9+3=52\text{cm}$

(仕上幅＋縫代)×2＝裁切襷幅

襷のくり方



紐（表布）



心布

丈及び幅は表に同じ。厚地の場合は表幅の$\frac{1}{2}$でよい。

横かくし（裏布）

幅は裏身頃に同じ。丈は34cm×2

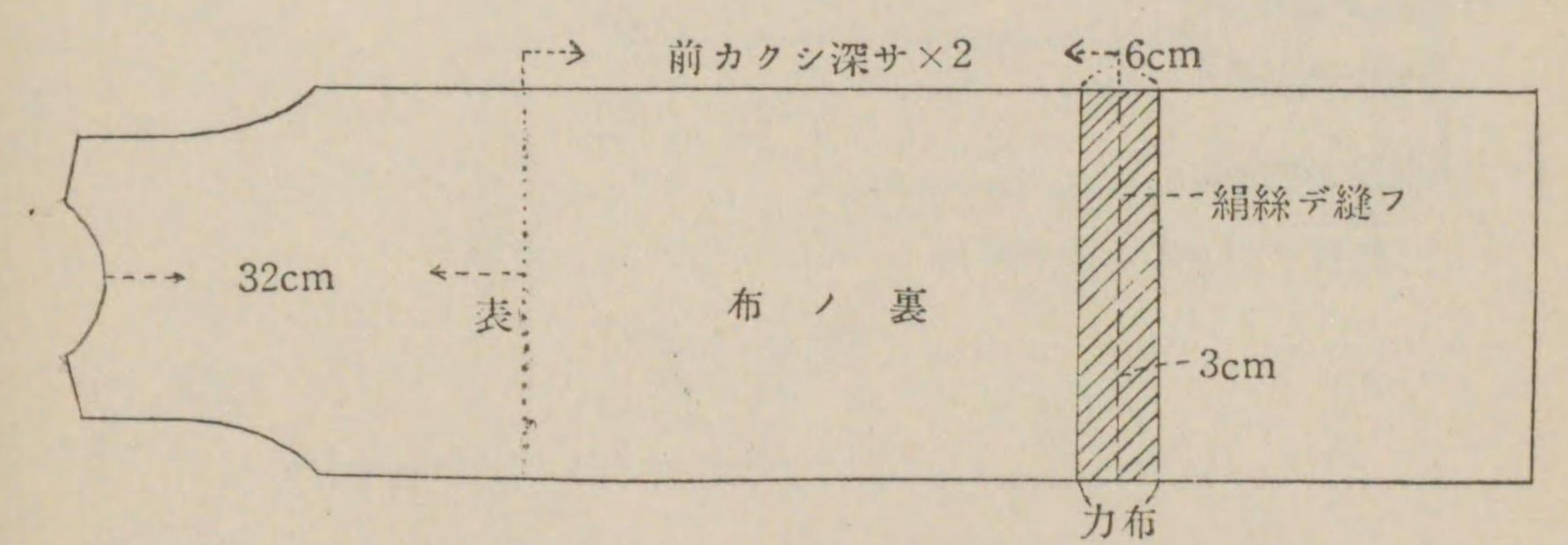
緣布（表布）

幅　1cm

（4）縫ひ方

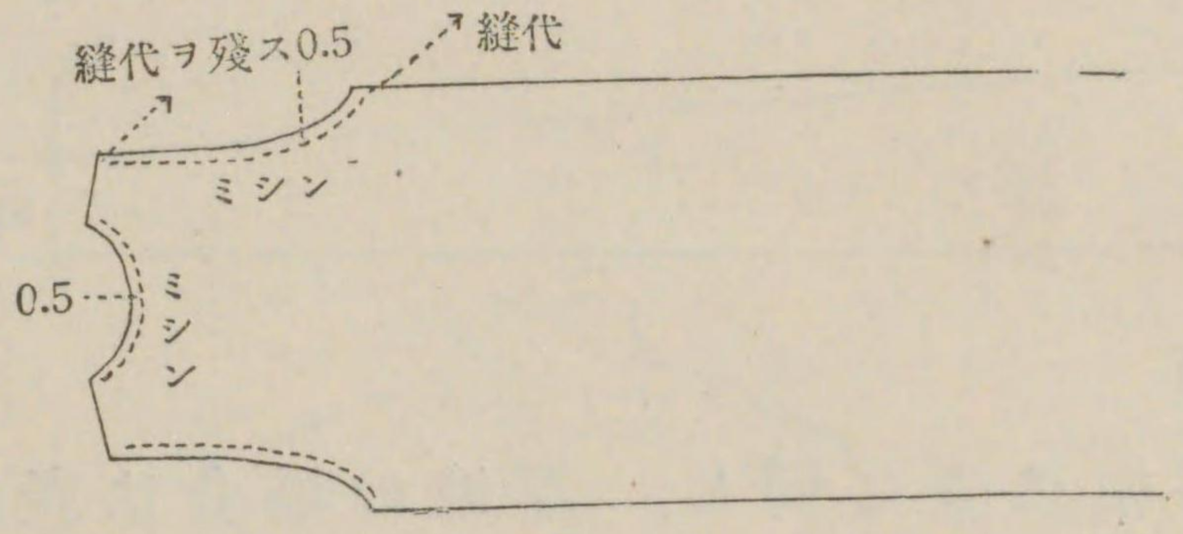
（イ）前かくしの力布

表身頃の裏に力布をあて絹糸でとぢる。（下圖）



(ロ) 衿繰　脇繰

身頃の表裏を中表にして下圖のやうに縫ふ。

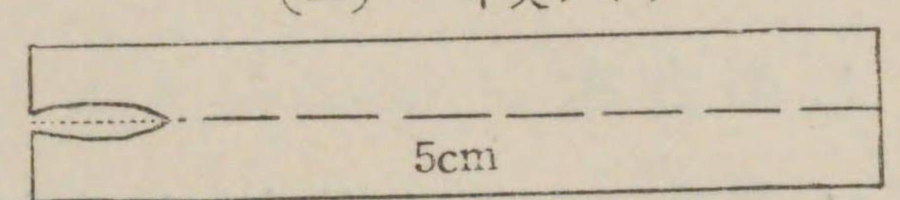


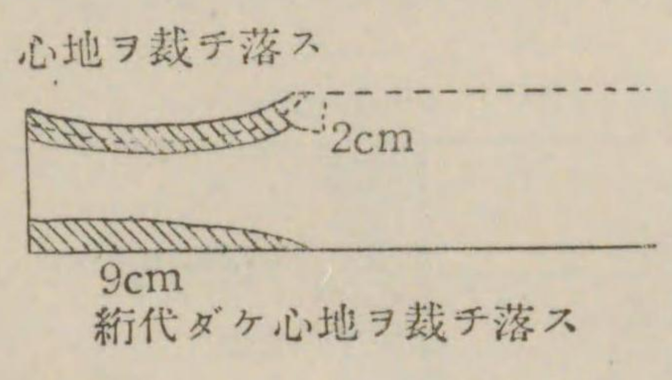
(ハ) 紐及び襷

心を入れて絎ける。二枚心の場合は紐も襷も中央を表に小さく針目を出してとぢる。

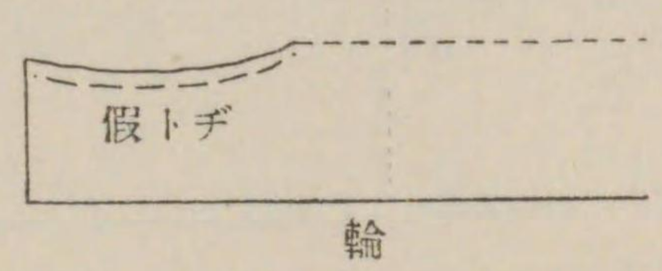
次に(二)圖のやうに0 5cmの縫代で縫ひ、表に返して三圖のやうに假とぢをなす。

(一)　中央ノトヂ





(二)

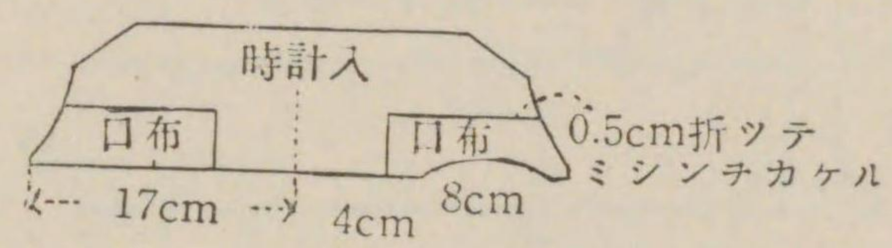


(三)

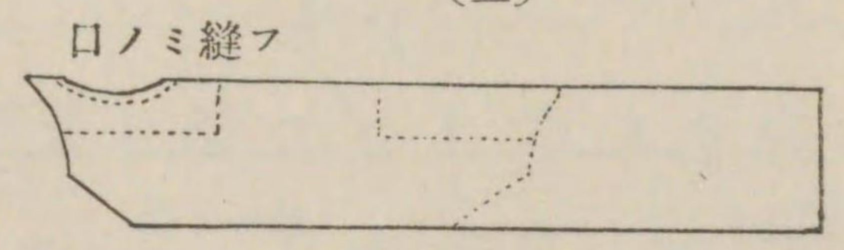
(ニ) 時計入れ

(一)圖のやうに口布をつけ(二)圖のやうに表脇布に時計入れをつけ、次に(三)圖のやうに時計入れの上を二枚で縫ひ、兩側を表にとぢる。

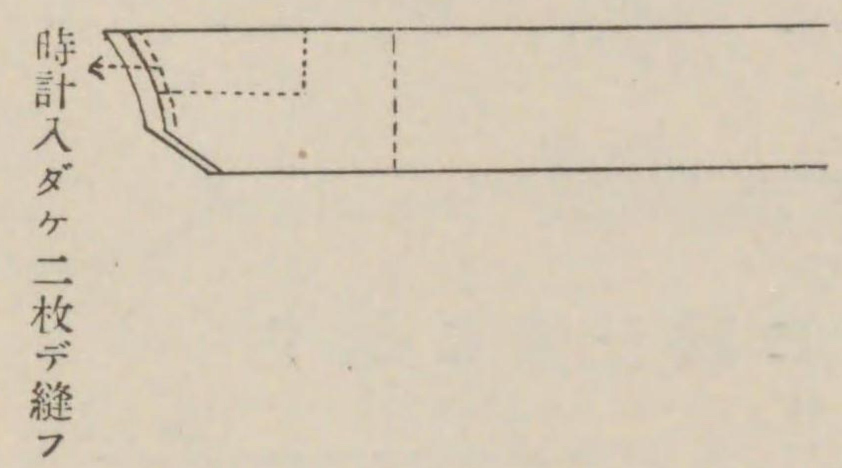
(一)



(二)



(三)

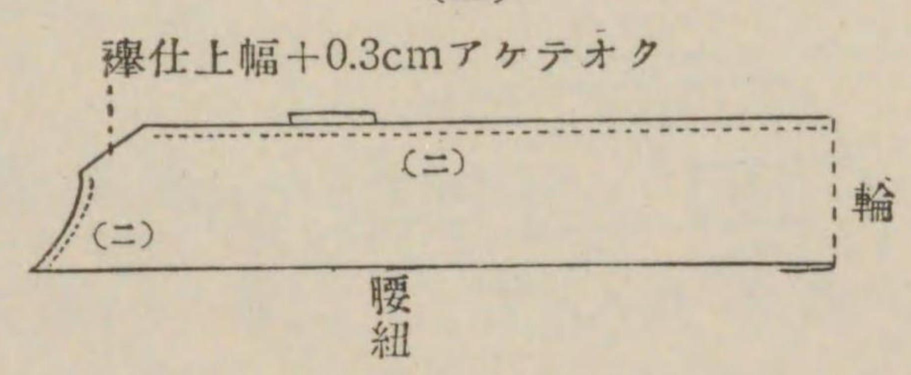


(ホ) 脇布

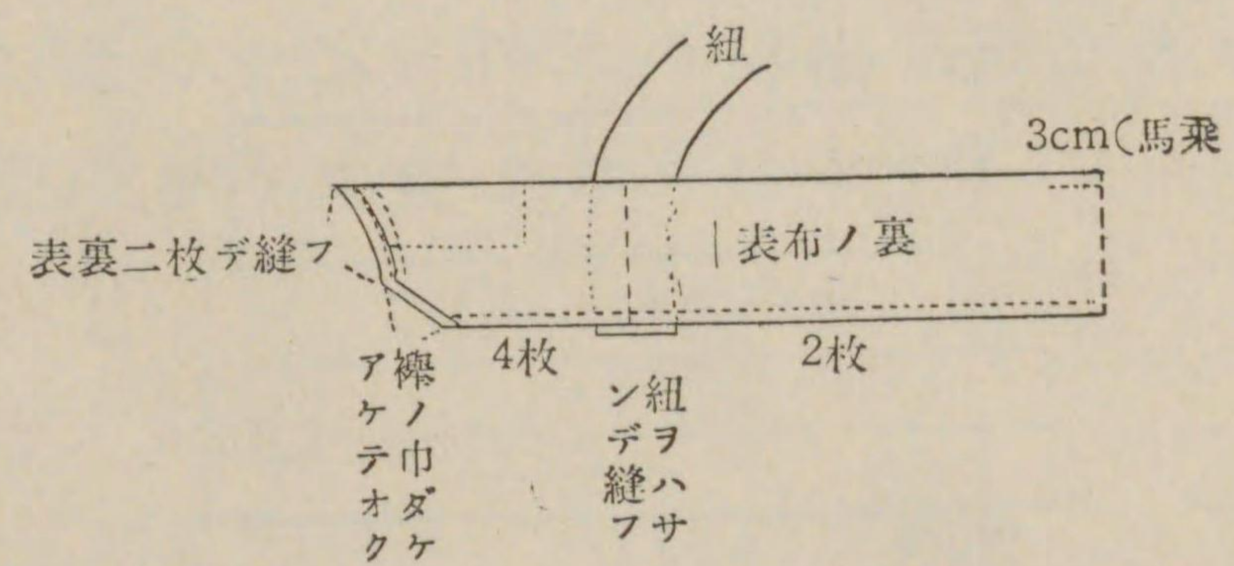
表裏の脇布を中表にして0.3cm見返るやうに裾を縫ひ､裏に折りをつけて馬乗を縫ふ。

次に上を縫ひ下圖のやうに腰紐を挾んで脇を縫ふ。

(二)

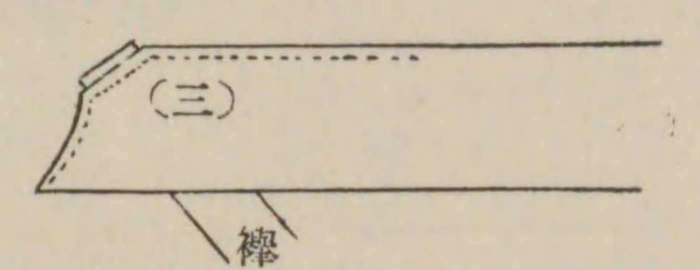


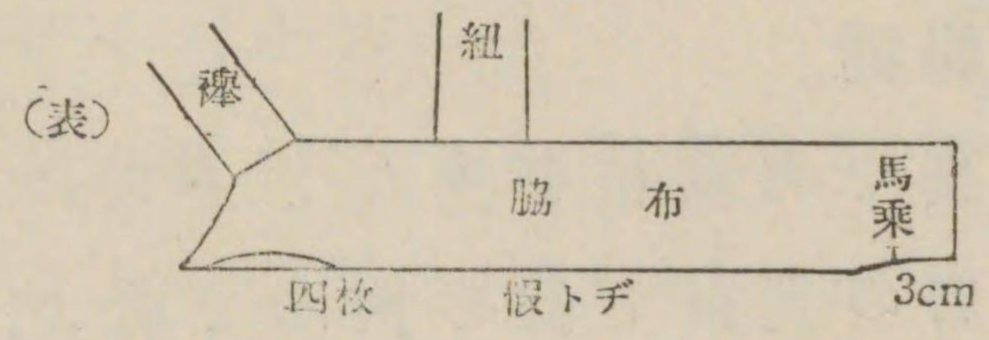
(三)



(ヘ) 襷附

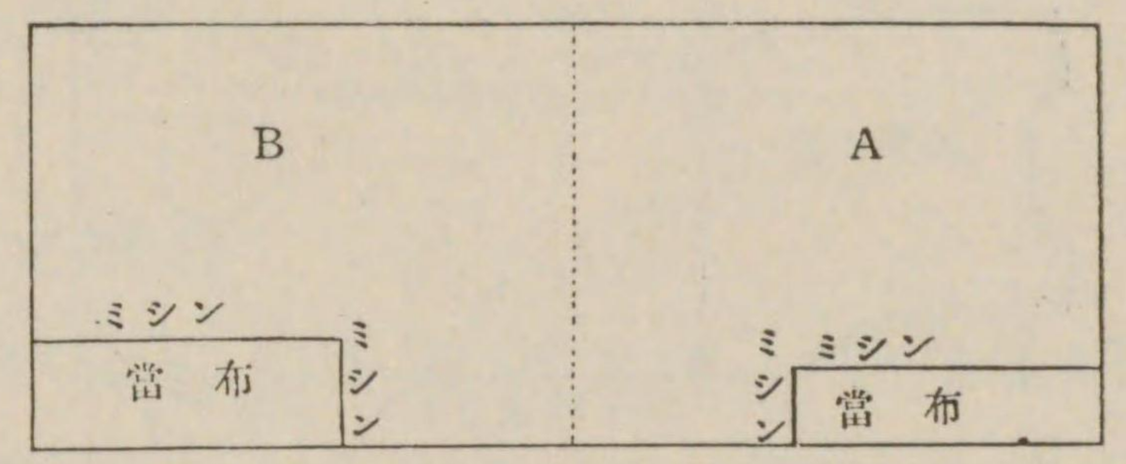
下圖のやうに縫ひ表に返す





(ト) 横がくし

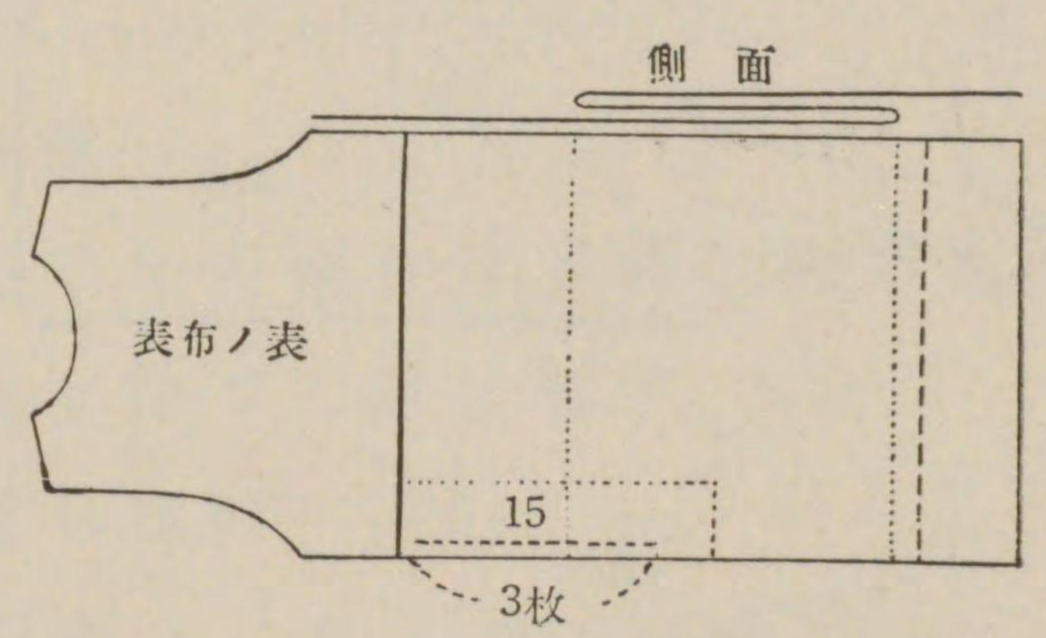
横かくしに當布をつける。耳の場合はそのまゝ裁目の場合は折つてミシンをかける。



(チ) 表身頃と横かくしの口を縫ふ。

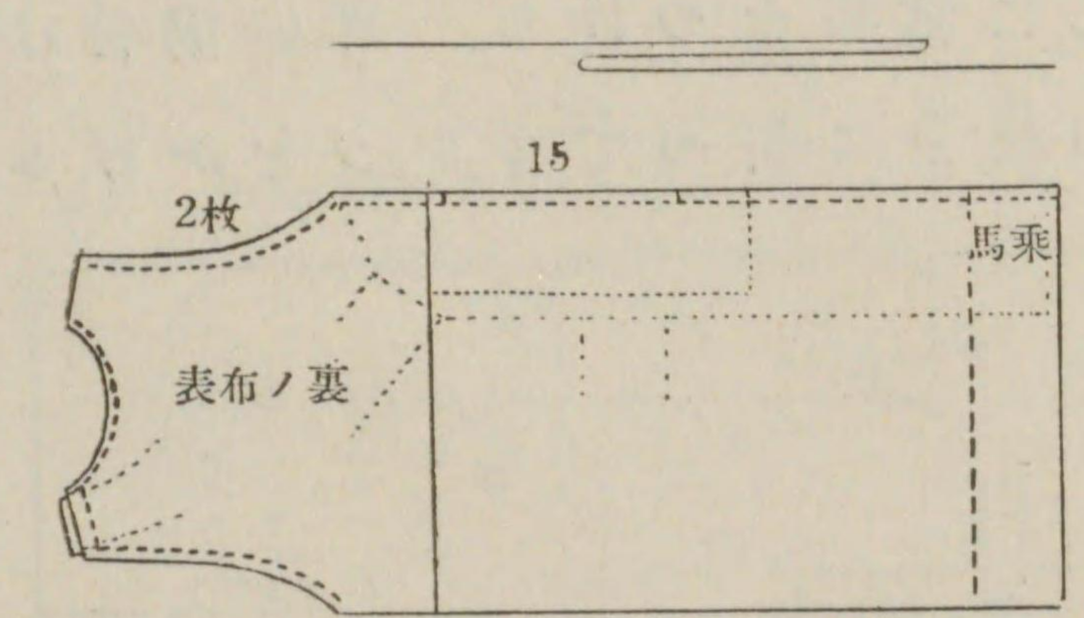
表身頃と横かくしを中表にして口の寸法だけ縫ひ､始終に0.4cm切込を入れて返す。

(一)



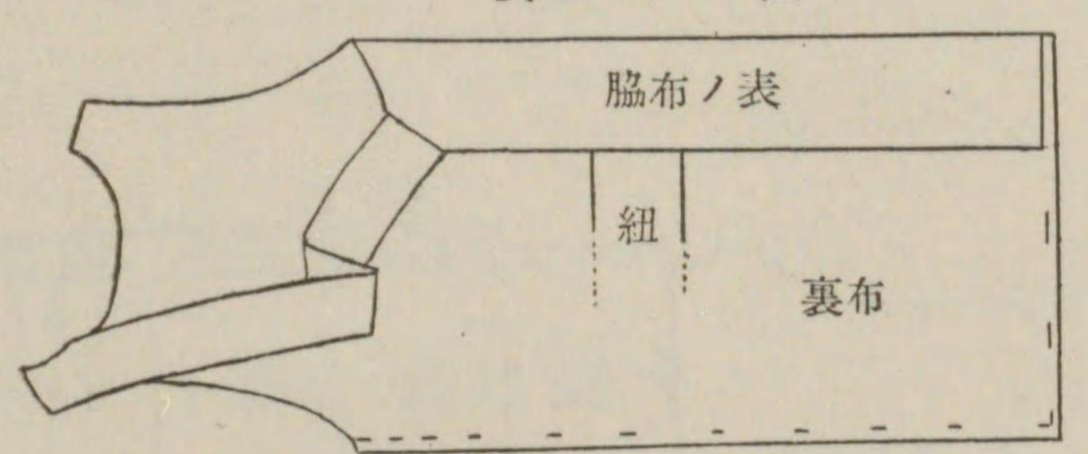
(リ) 右脇縫

身頃の表裏で右脇布を挾んで一束に馬乘まで縫ひ次に肩の表裏で襷を挾んで縫ふ。



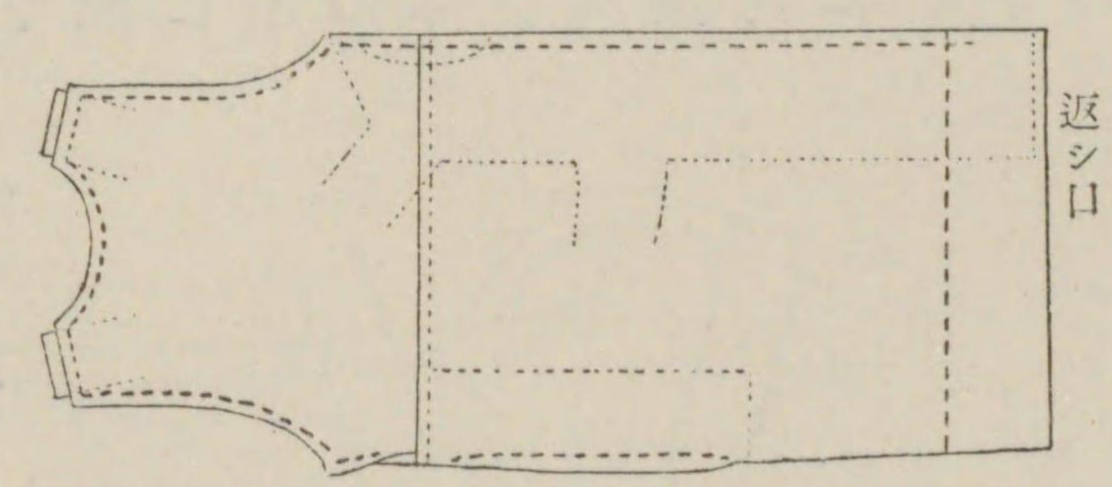
コノ時裏布ヲツケテ縫フ

表をはぐつた圖



(ヌ) 横かくしとぢ

下圖のやうに横かくしを裏身頃の方に返して横かくしの上を三枚一緒に細かにこぢる。



(ル) 左脇縫

左襷及び左脇布を身頃で挾んで右脇縫こ同じ要領で縫ふ。但し襷を肩に入れる場合裏身頃の方に入れる。

(ヲ) 裾

表裏の裾を 0.2cm の見返りになるやうに左右5cm位縫ふ。

(ワ) 馬乘

身頃の馬乘を表裏合せて縫ひ,裾の返し口より襷及び紐を持つて表に返す。

(カ) 返し口絎

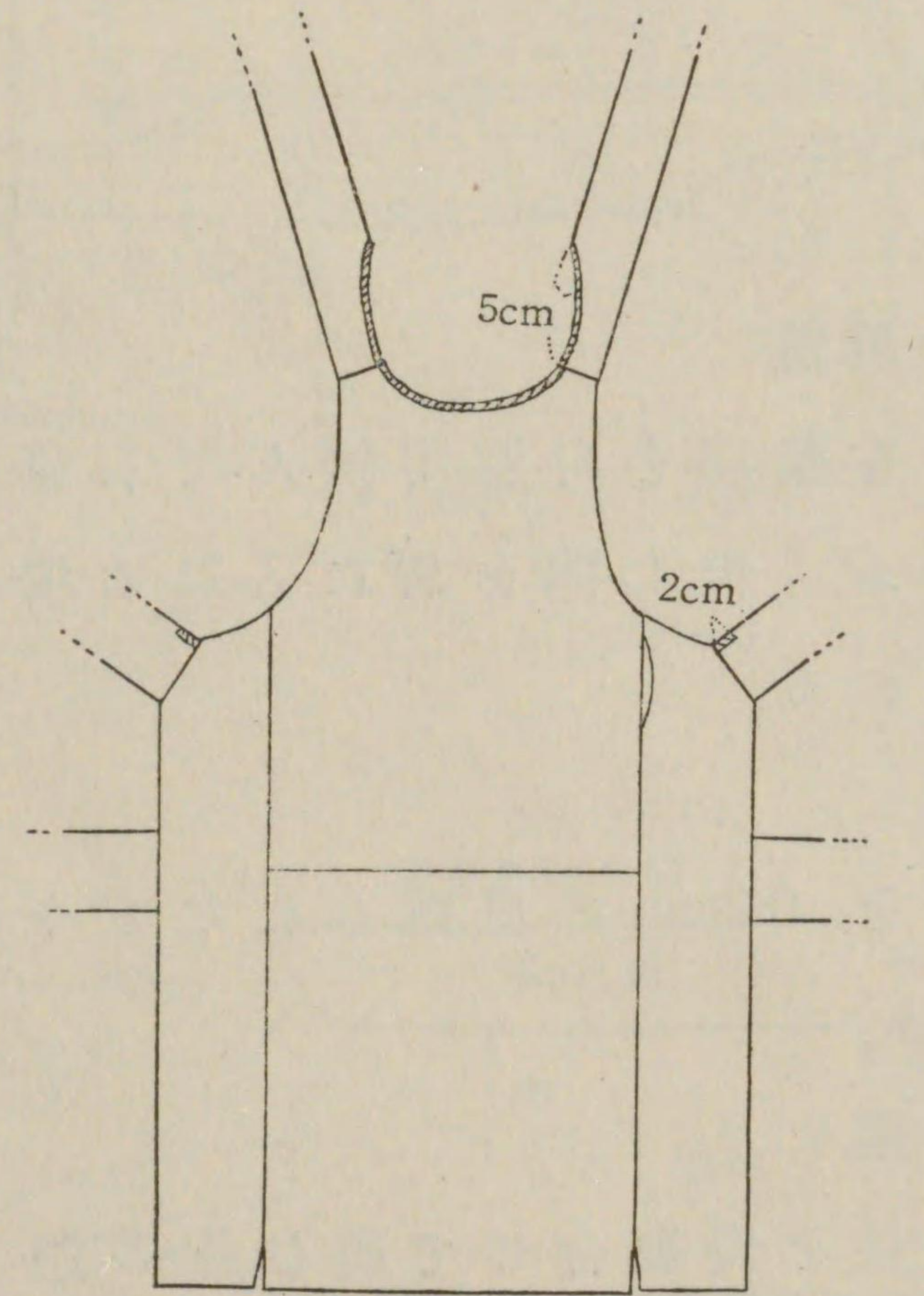
0.2cmの見返りになるやうに絎ける。

（ヨ） 閂留

脇カクシの上下及び馬乘に閂留をなす

（タ） 笹縁

次の圖のやうに衿繰及び襷の所に細く笹縁をとる



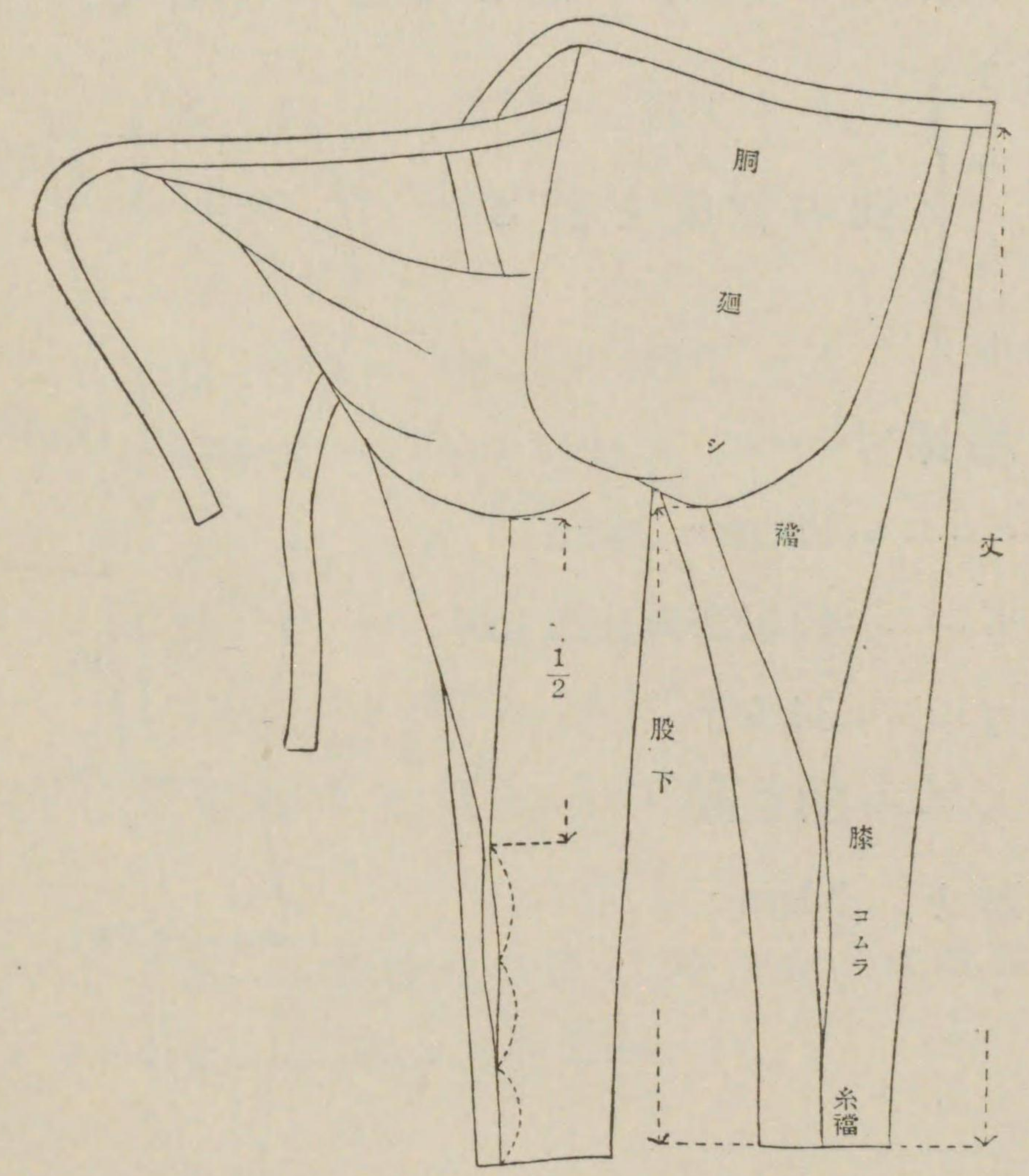
（レ） 仕上げ

霧を吹いて仕上げをなす。

第三節

股引

（1） 仕立上り圖及び各部の名稱



（2） **地質**

青縞　縹色木綿　天竺　木綿

（3） **寸法の採り方及び型紙の作り方**

丈………床より腰骨の上まで脇にて計る。

股廻り
膝廻り
脛廻り
口廻り
} 圖の位置を計る

普遍採寸

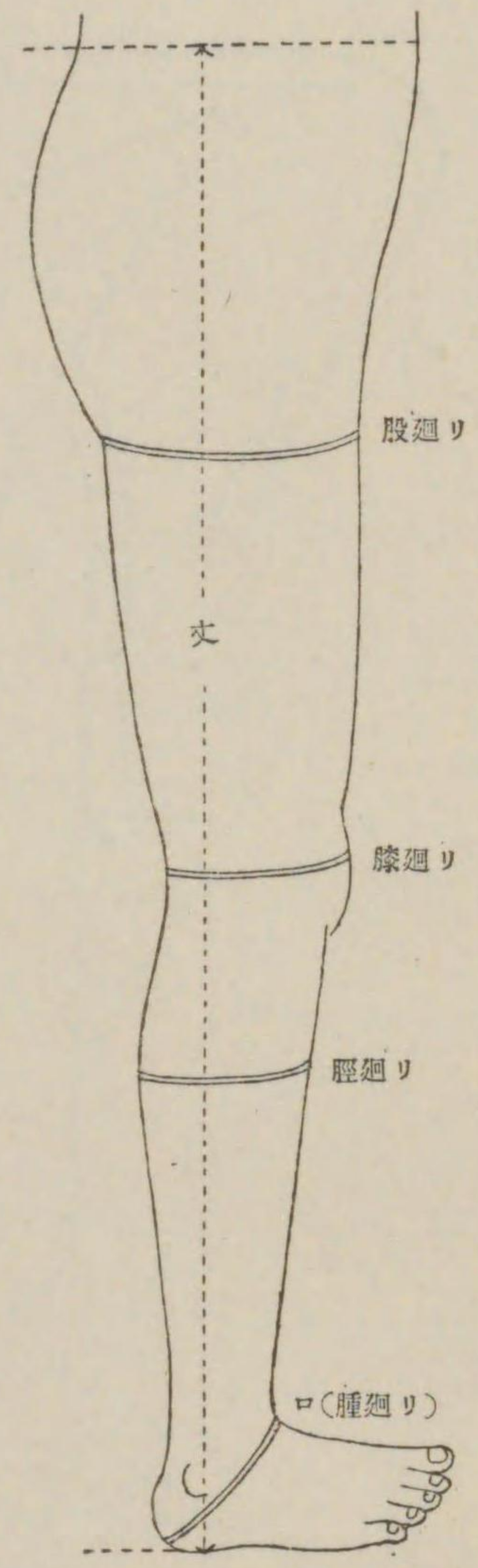
丈………………88cm ~ 94cm

股廻り………42.5cm ~ 45.5cm

膝廻り………34.5cm

脛廻り………33.5cm

口(踵廻り)‥ 33cm



（4） **裁切寸法**

丈………採寸でよい。短くする時は採寸－0.5cm

股廻り { 採寸 ＋ 弛 ＋ 縫代 × 4
42.5cm ＋ 3cm ＋ 3cm

膝廻り { 採寸 ＋ 弛 ＋ 縫代 × 4
34.5cm ＋ 2.5cm~3cm ＋ 3cm

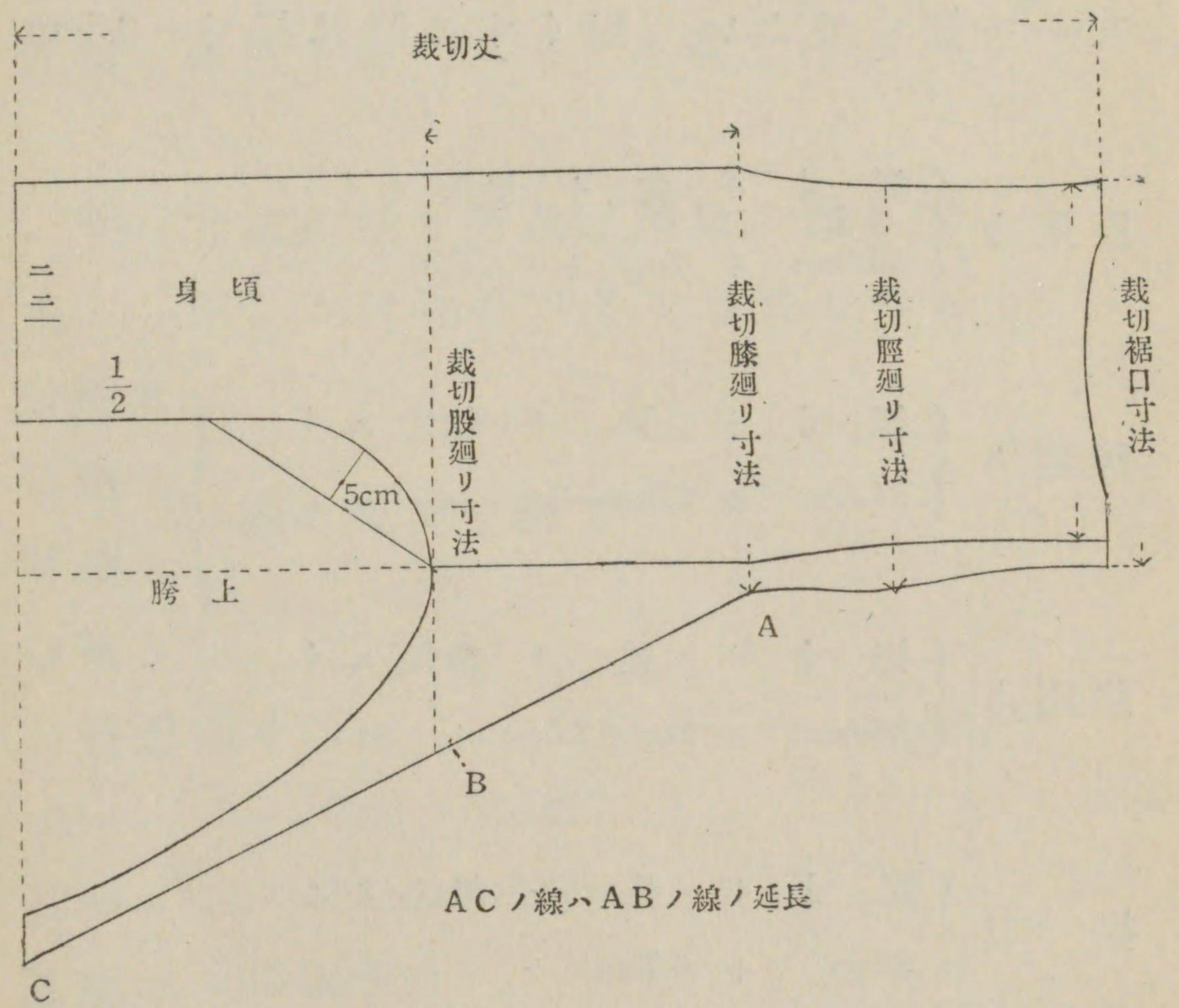
脛廻り { 採寸 ＋ 弛 ＋ 縫代 × 4
33.5cm ＋ 2cm＋2.5cm ＋ 3cm

裾口 { 採寸 ＋ 弛 ＋ 縫代 × 4
33cm ＋ 0.7cm ＋ 3cm

但し口の細きを好む人は採寸でよい、

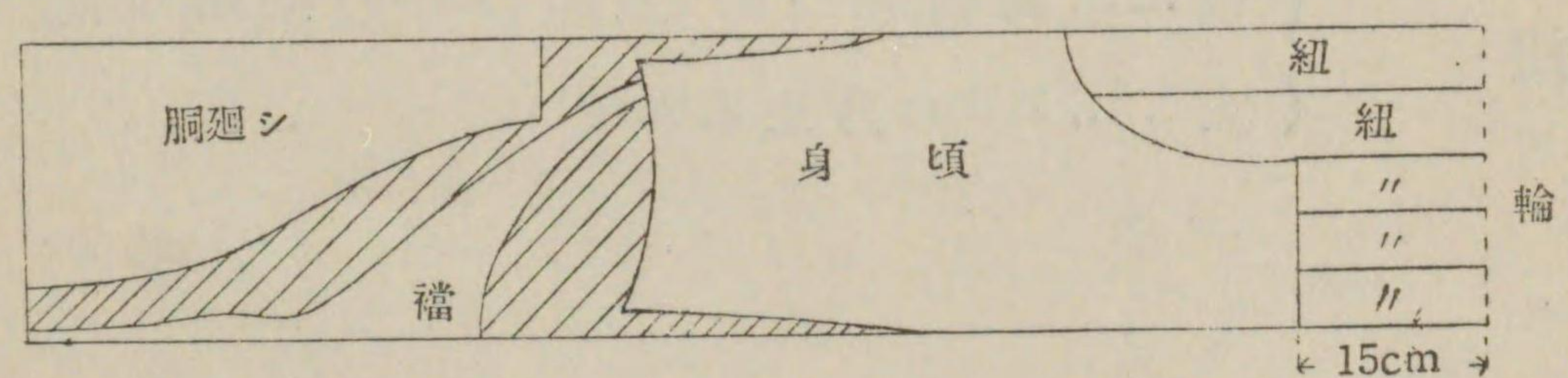
紐 { 幅……並幅五つ割(上等のものは四つ割)
丈……200cm 乃至 220cm

身頃と襠の形



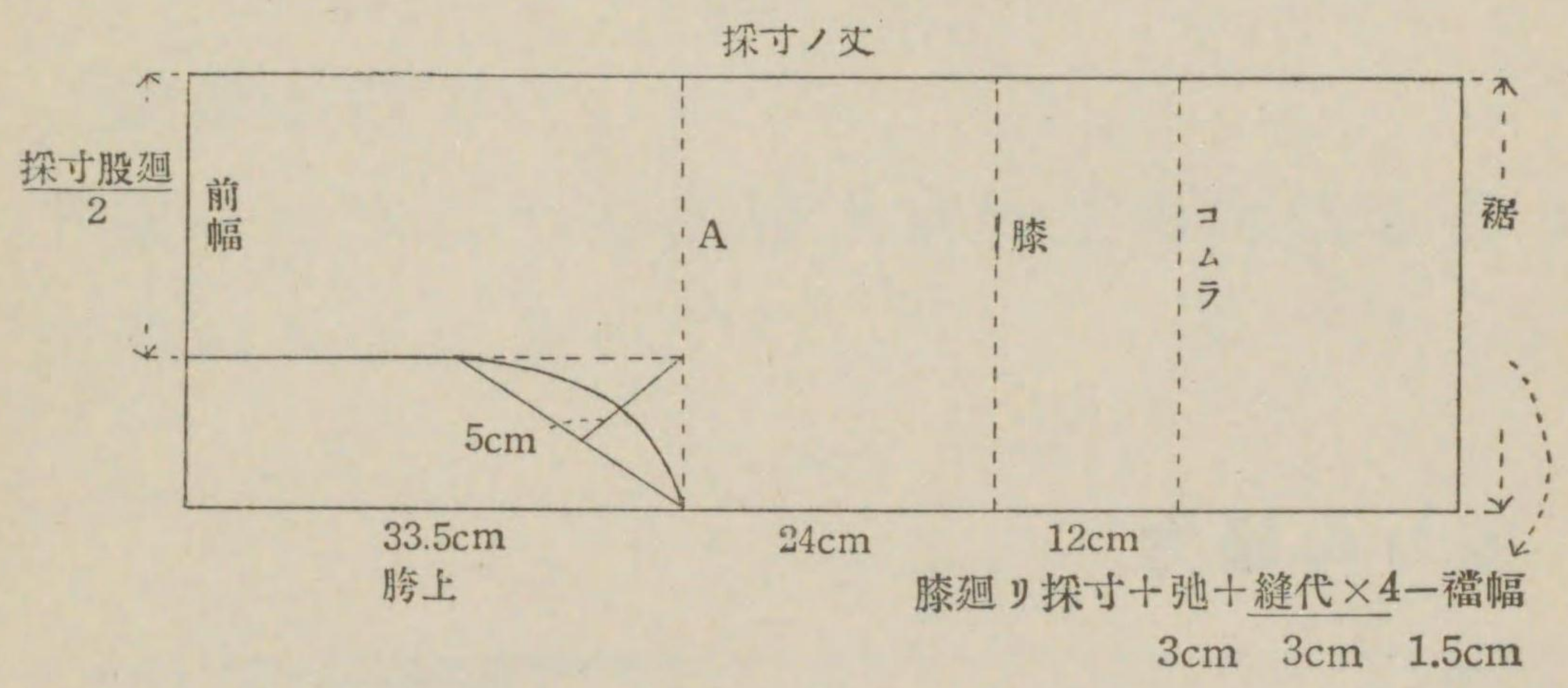
(5) 裁 方

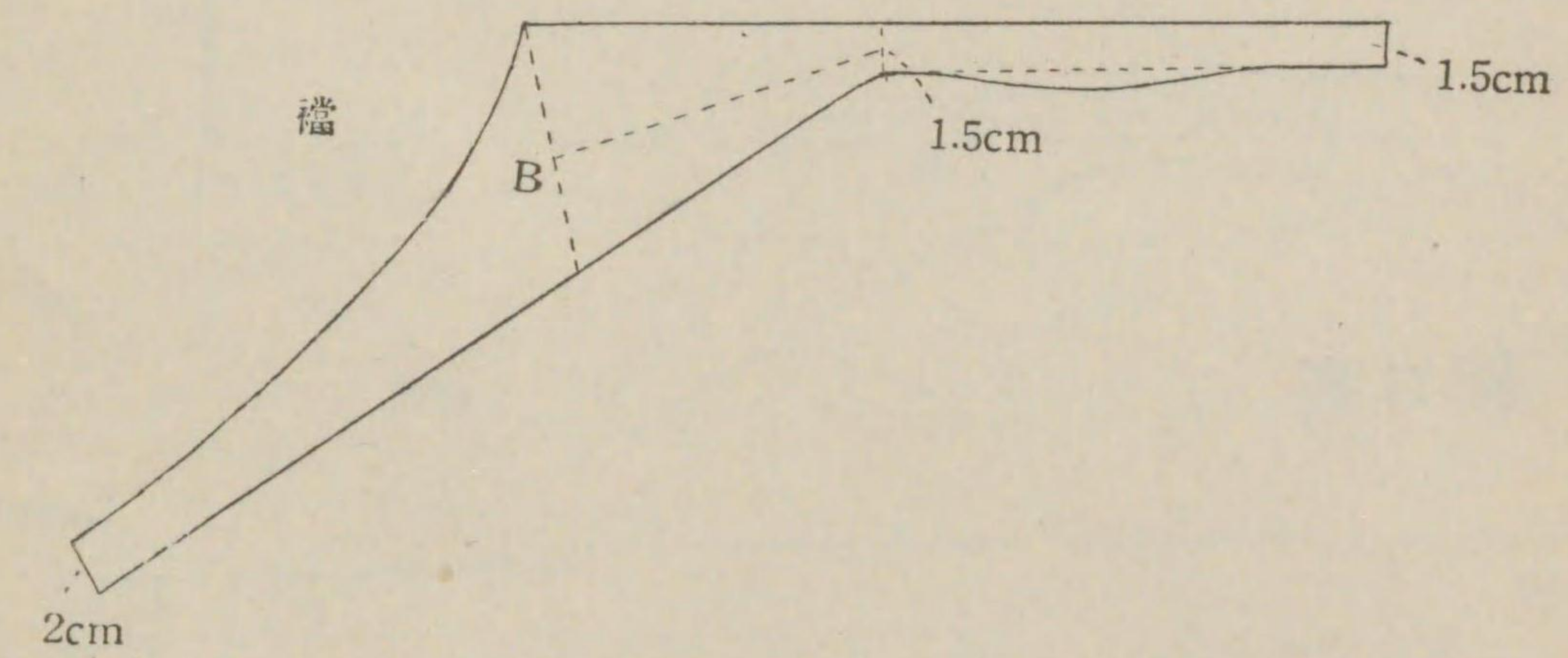
並幅



各部の裁方

身 頃



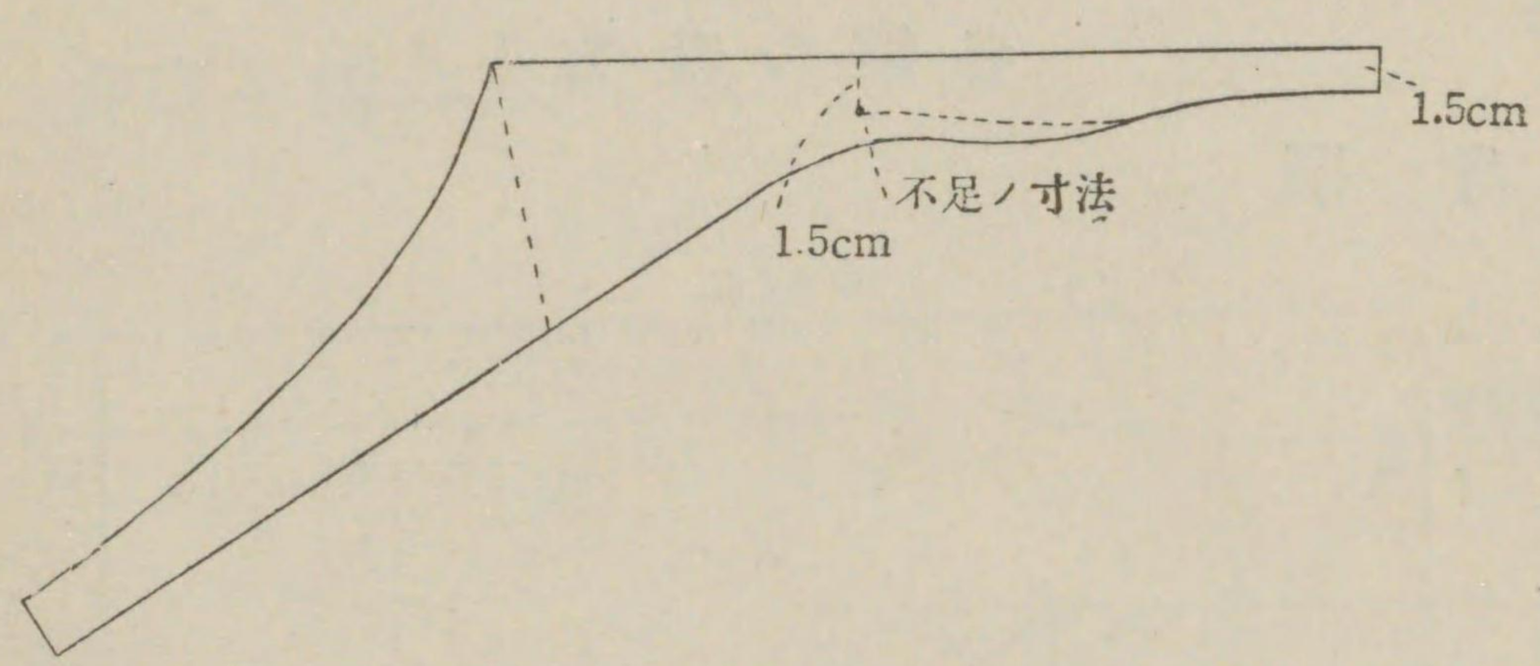


股廻り採寸 ＋ 弛 ＋ 縫代 × 4 － A ＝ B
3cm ＋ 3cm

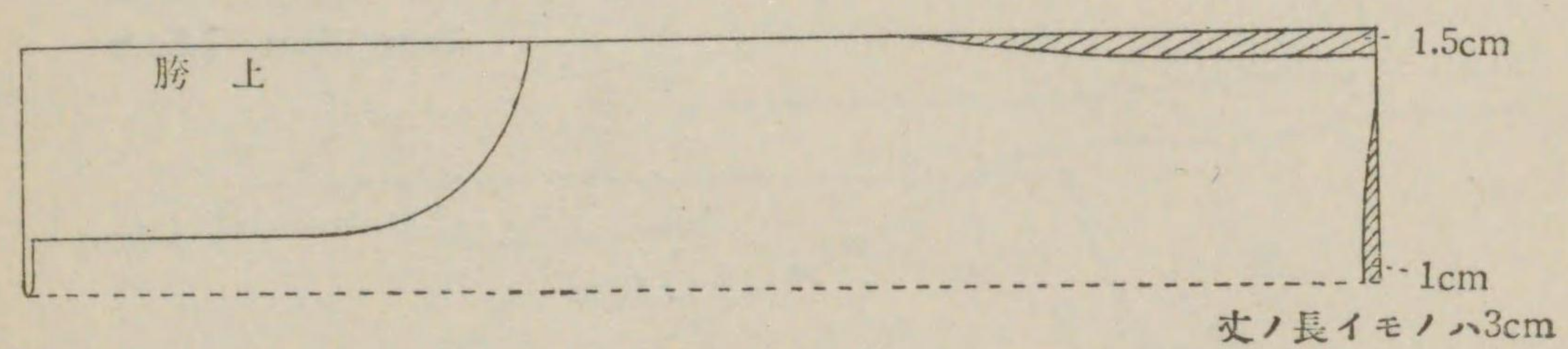
備 考

布幅が股廻り採寸＋弛＋縫代＋4－襠の膝幅
3cm＋ 3cm 1.5cm

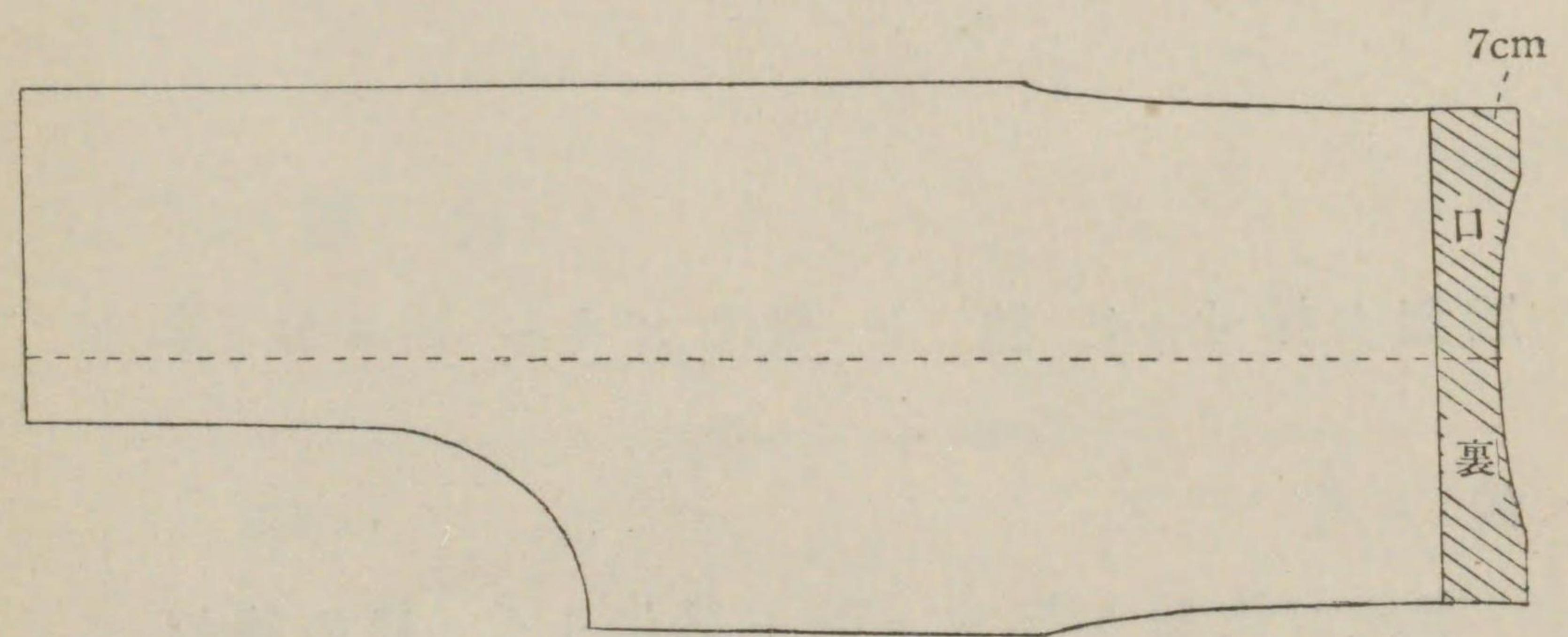
よりも短い時は襠の形は次圖のやうになる。

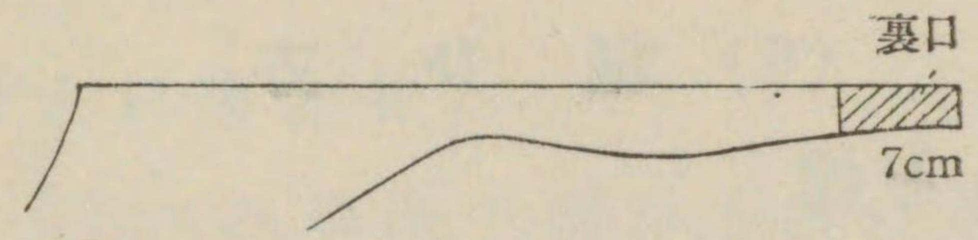


裾口の繰方



裾口裏

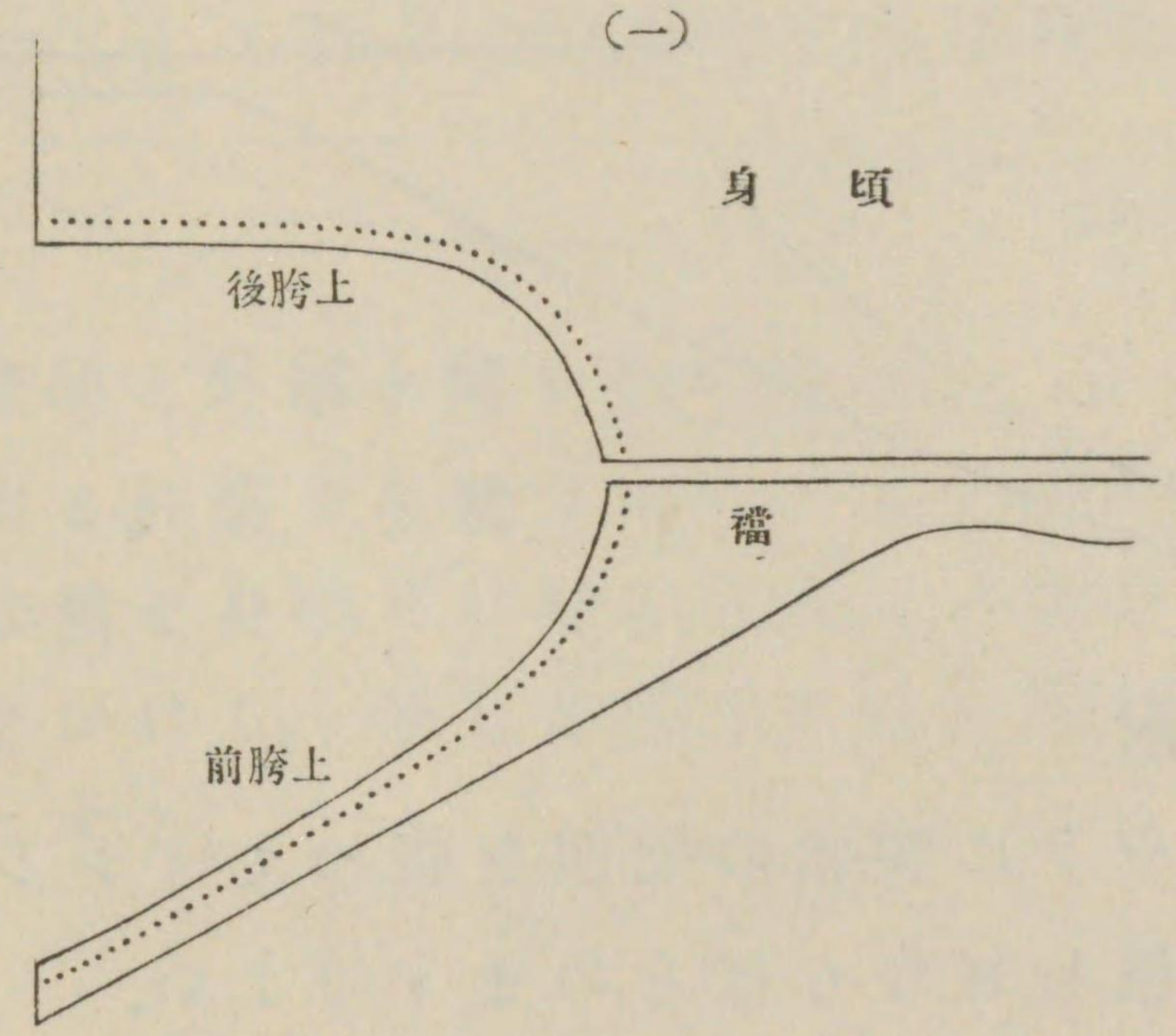




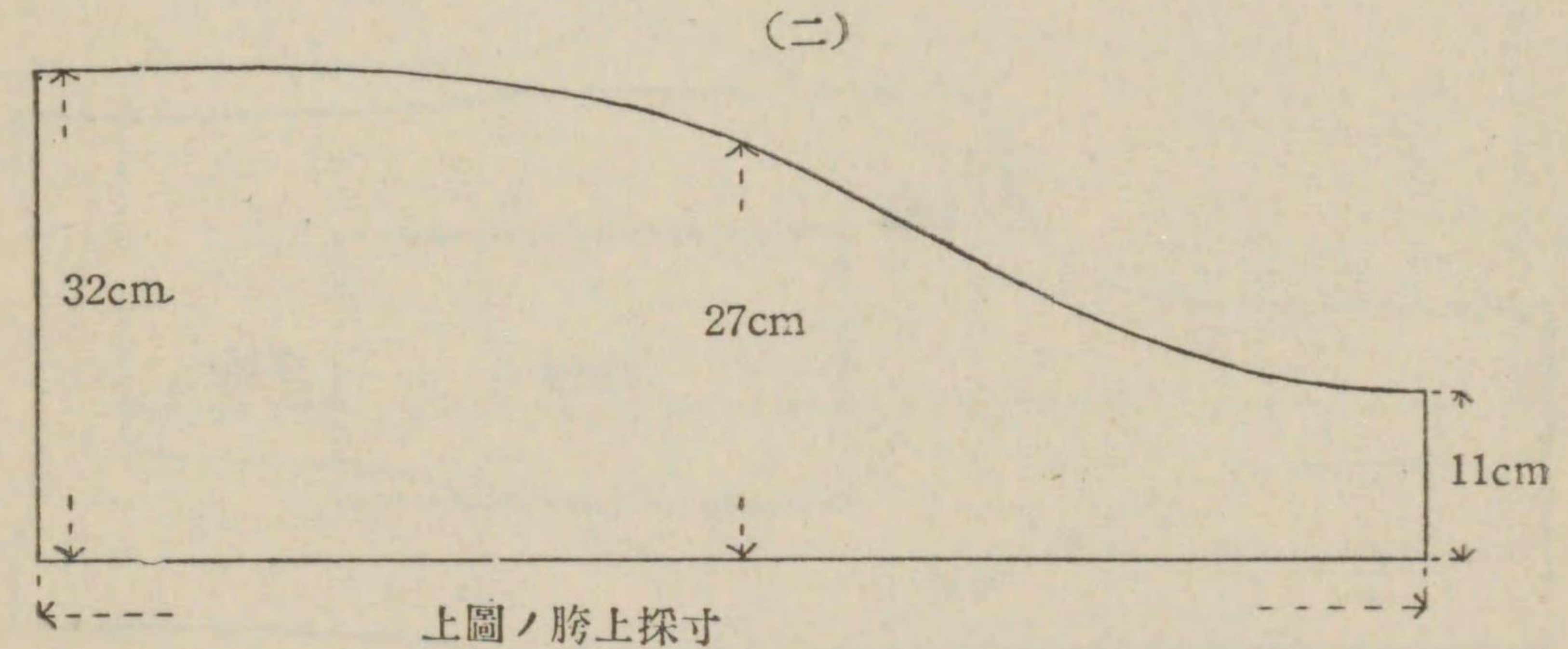
胴廻し裁方

下圖のやうにして後胯上前胯上の寸法を計り(二)圖のやうに裁つ。

(一)



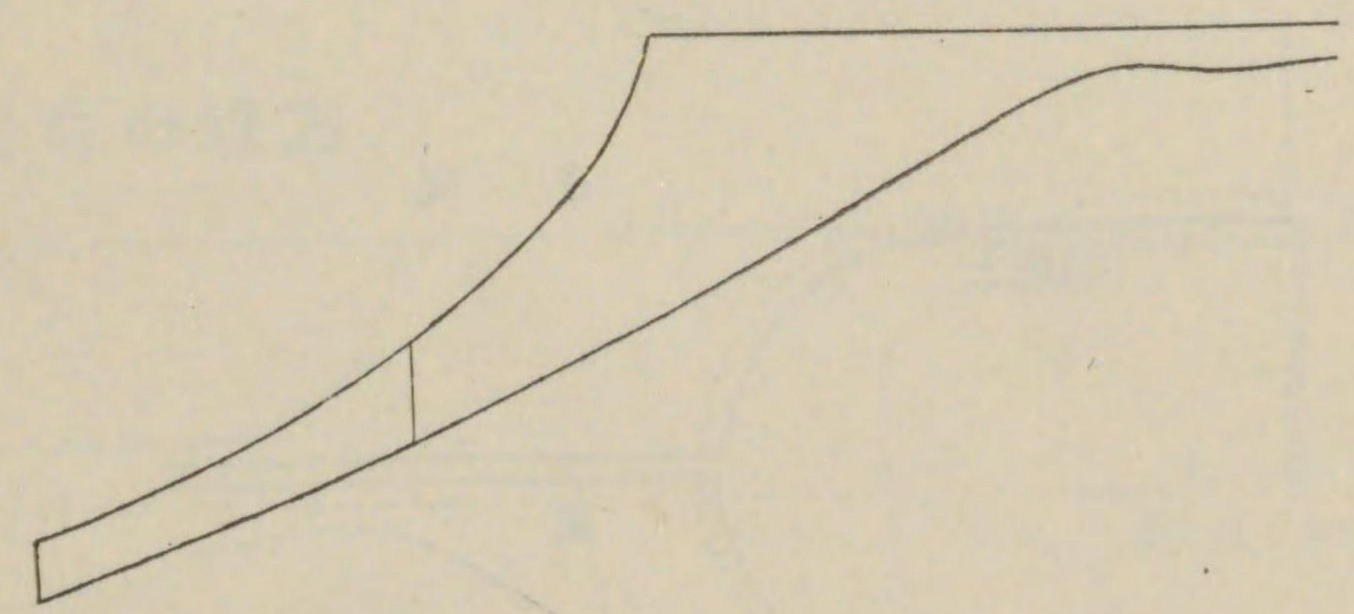
(二)



(6) 縫ひ方

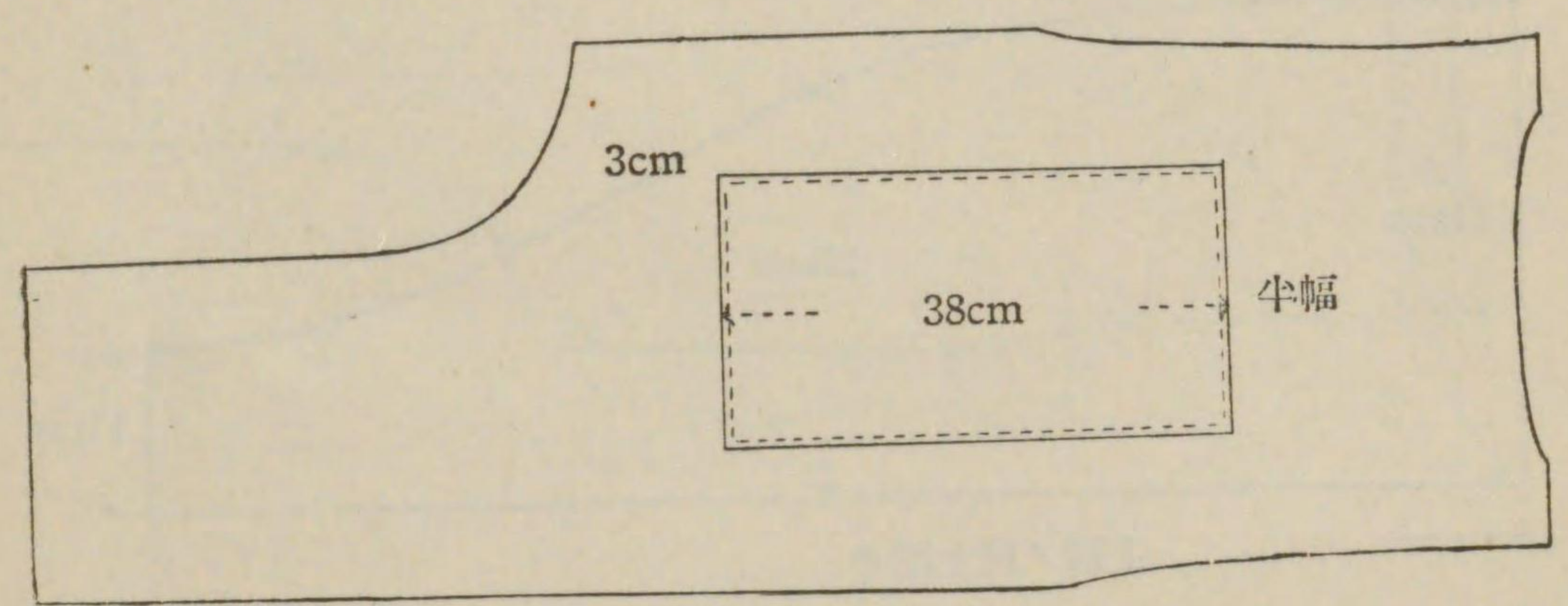
かみわりと襠

襠とかみわりを接ぎ合せ折は襠の方へ返し折伏せ抑へ縫とす。かみわりとは襠丈の不足の時に襠の方に足す布をいふ。



膝當附

下圖のやうに膝當の周圍を折つてミシンでつける。但し耳ならばそのまゝでよい。

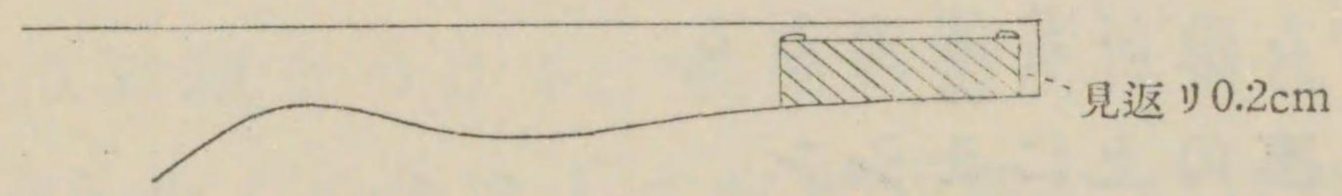


裾口と口裏合せ

中表に0.7cmの縫代で縫ひ、5cmおきくらゐに切込を入れる。

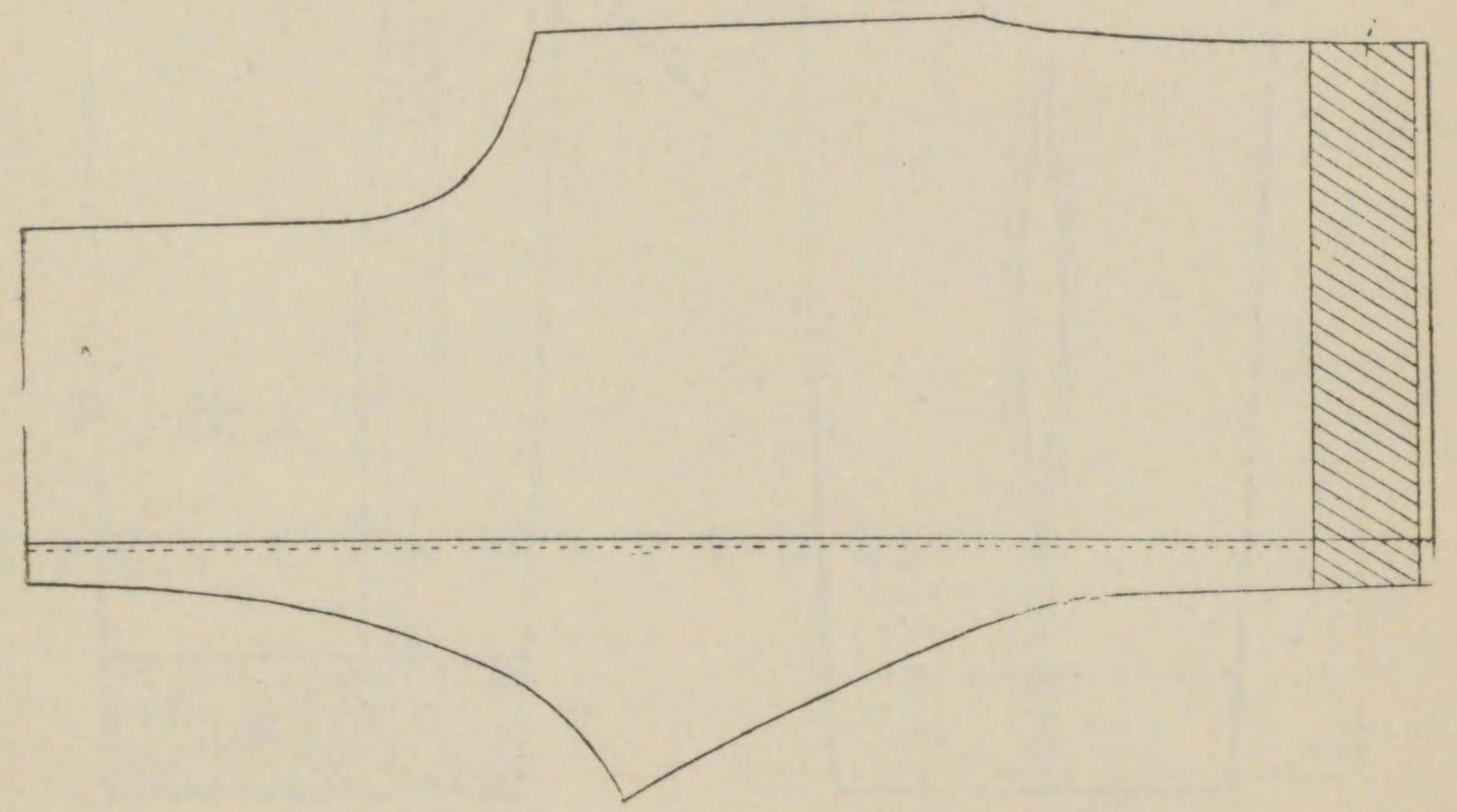
襠の裾と口裏縫ひ合せ

中表に0.7cmの縫代で縫ひ、表に返して見返り0.2cmとして折をつけ、口裏の上は躾をかける。



身頃と外襠と縫ひ合はせ

身頃と外襠とを縫ひ合はせる。此の場合裾の方は襠を身頃と口裏とで挾んで縫ひ抑へミシンをかける。而して襠の丸みの所は襠をゆるめにする。

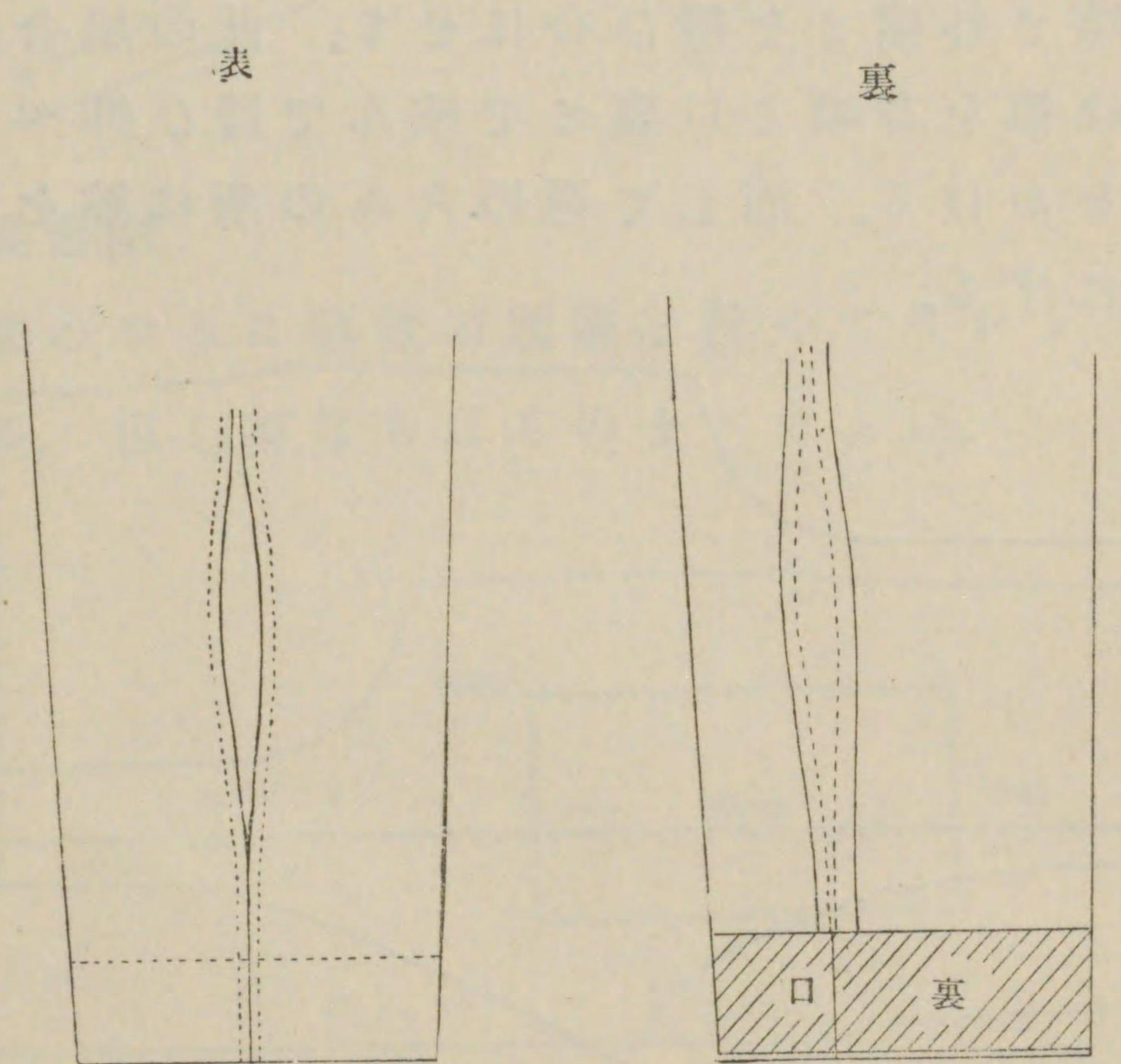


身頃と内襠と縫ひ合はせ

裾の方は外襠附と同様に襠を身頃と口裏で挾んで、口裏のある所まで縫つて糸を切り、それから上は身頃を又前に持ち替へて縫ふ。折りは身頃の方へ返し抑へミシンをかける。この時裾口より11cmくらゐの間は糸襠として極めて細くするのが普通である。

口裏の上にミシン

口裏の上を折つて表からミシンをかける。

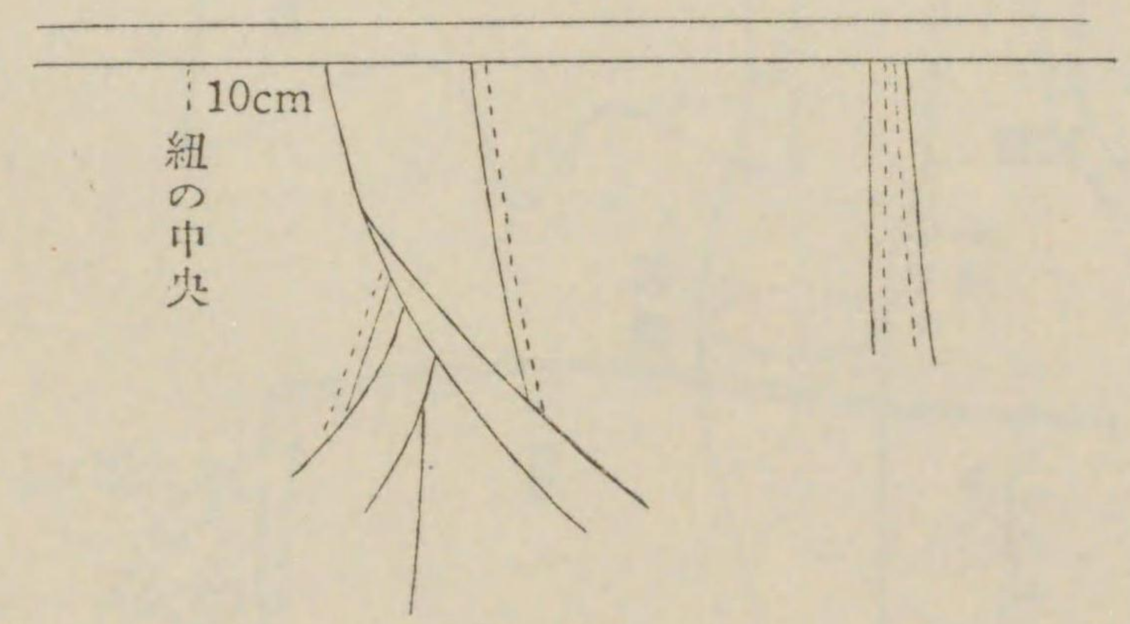


胴廻し附

胴廻しを手前にして身頃の刳りの斜になつてゐる所を伸ばさないやうに縫ふ。

紐　附

胴廻しの前の方（幅の狭い方）を左脚を上にして前胴廻し幅だけ左右重ねて假とぢをなし圖のやうに紐をつける。紐附の縫代は前は2cm後は3.5cmくらゐとして自然に斜につける。



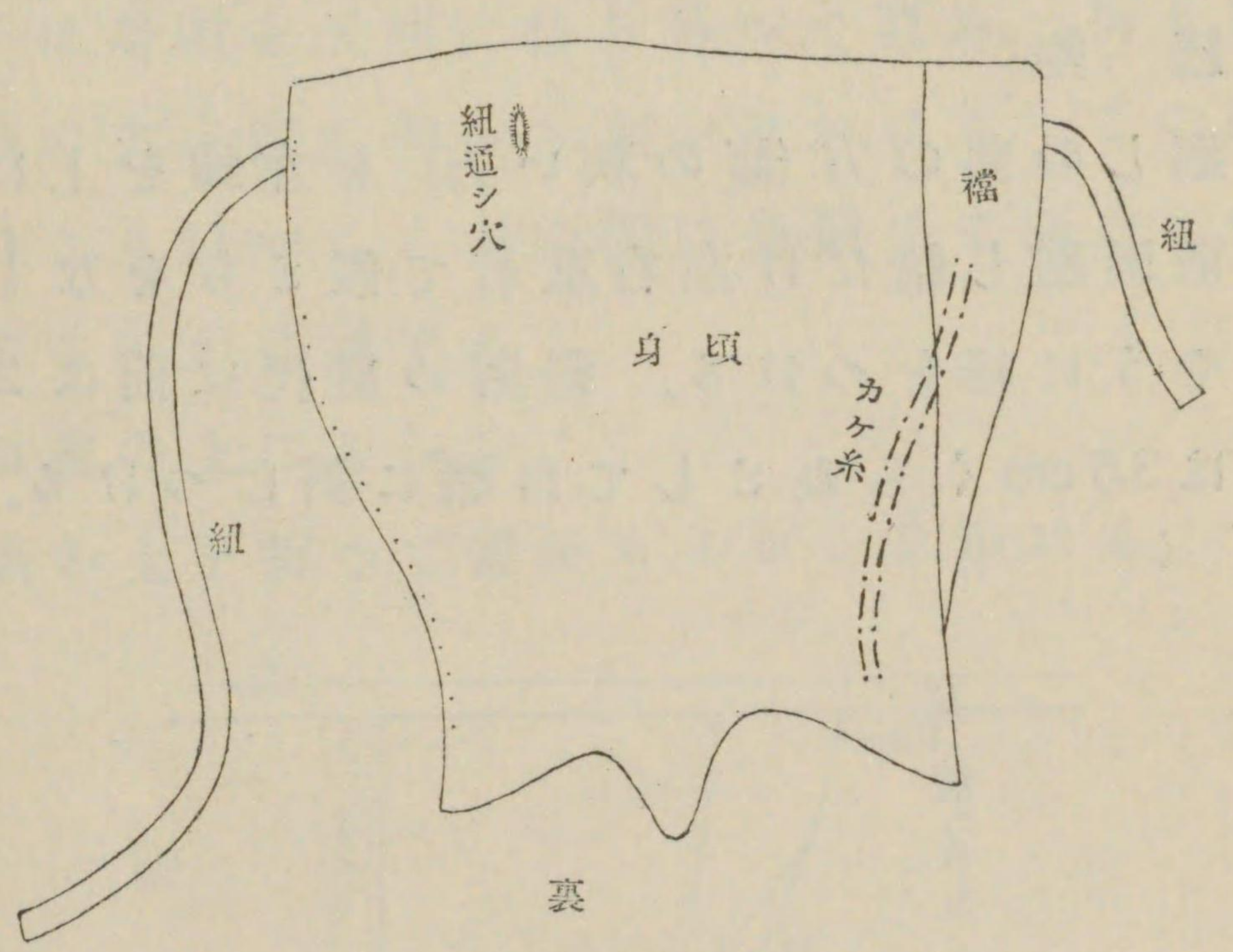
7　仕上げ

霧を吹いてアイロンをかける。

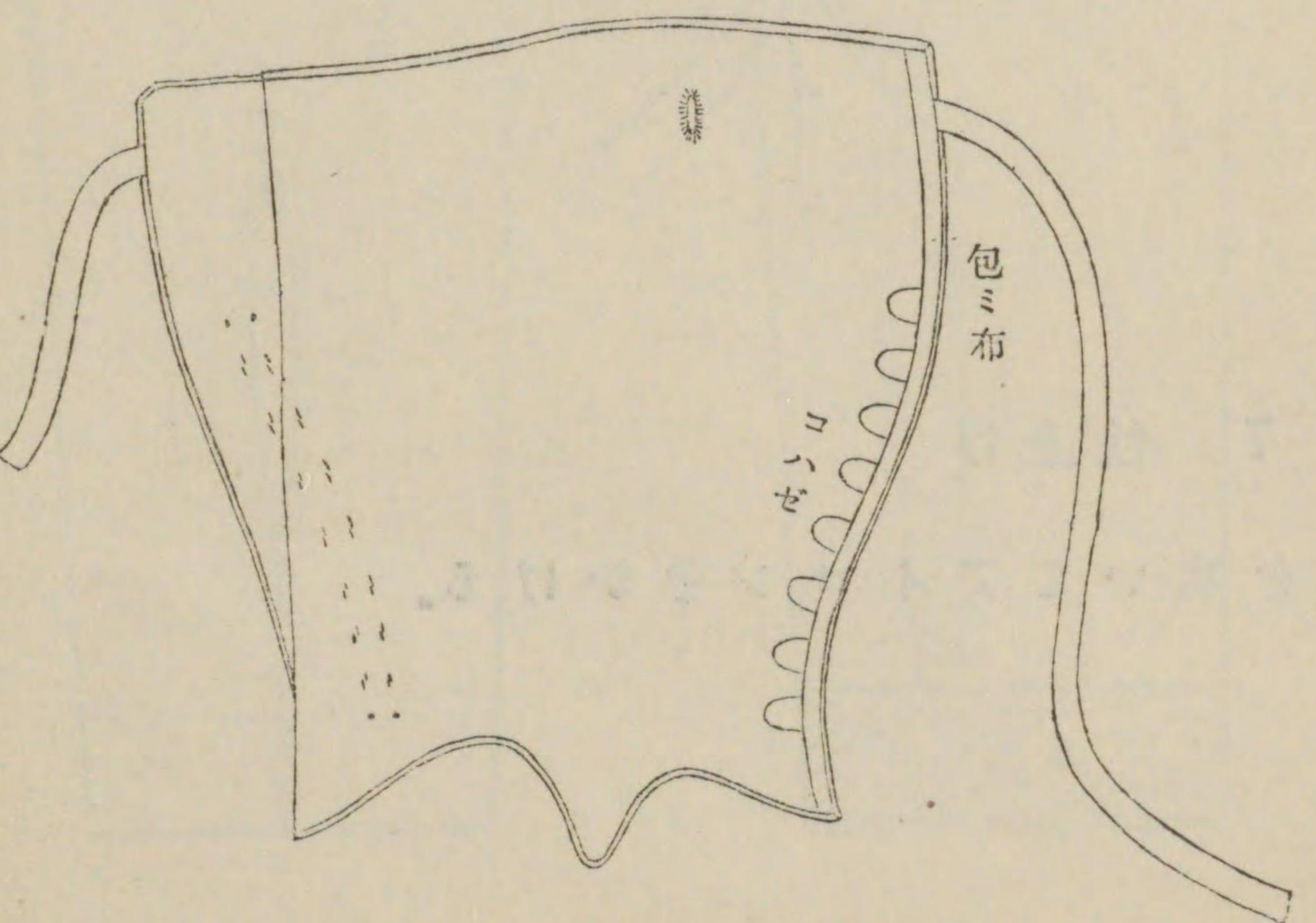
第四節
脚　絆

(1) 仕立上り圖

表



裏



(2) 地質

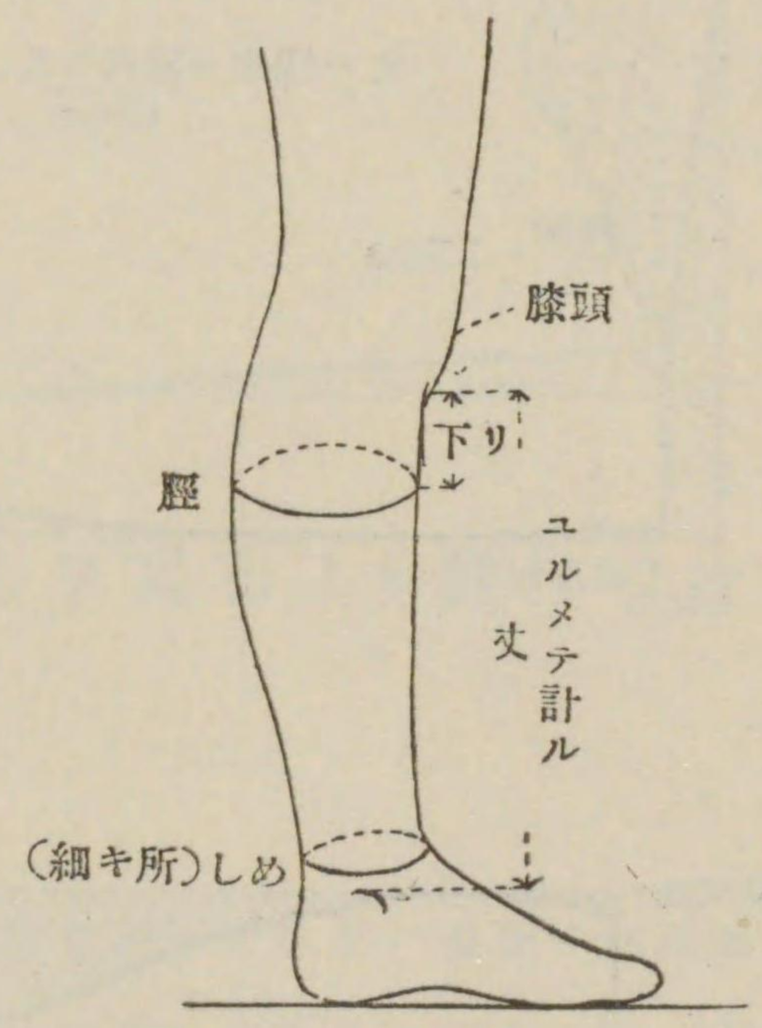
大體股引と同様

(3) 寸法の採り方及び型紙の作り方

(イ) 寸法の採り方

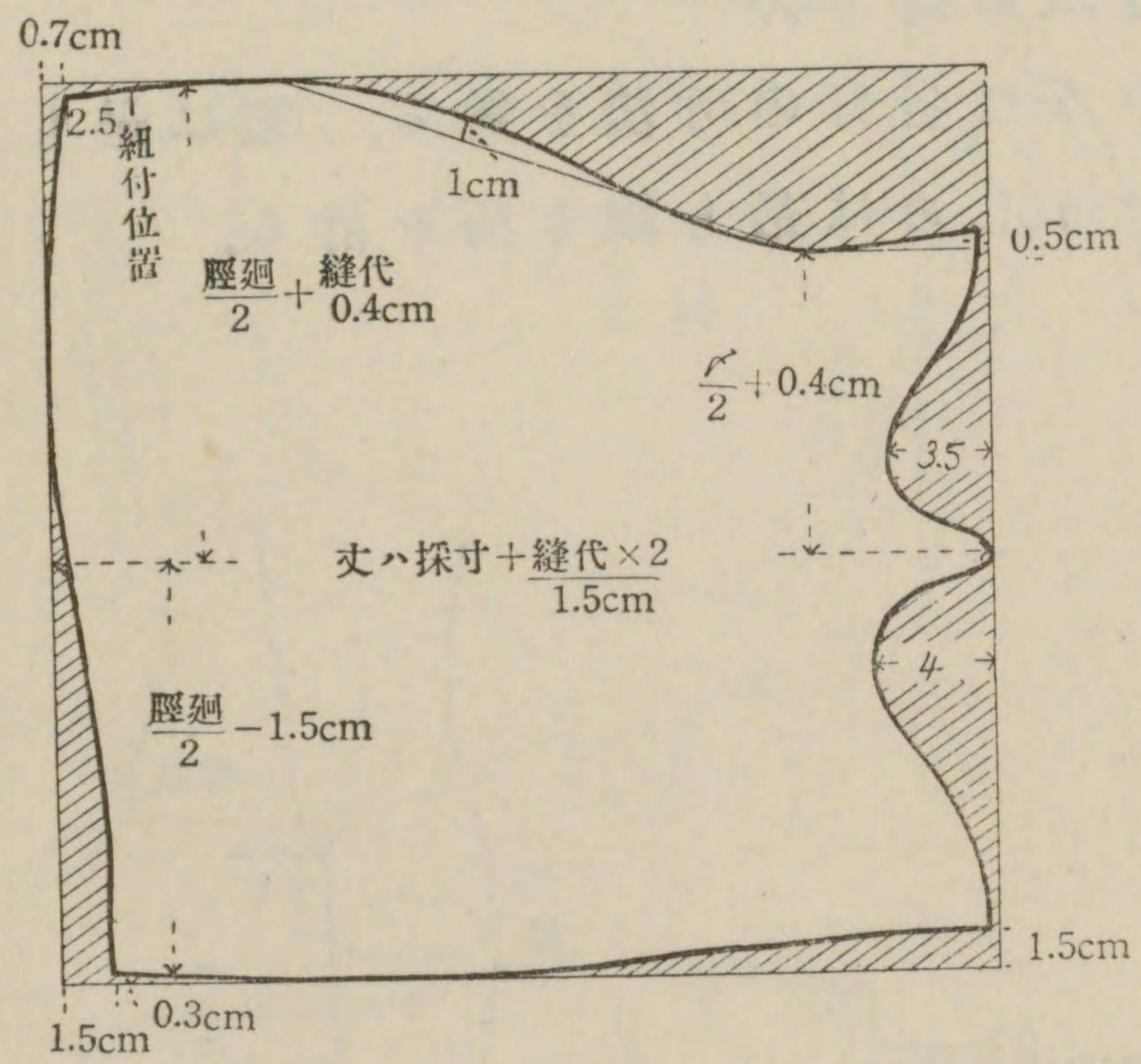
圖のやうに各部の寸法を計る。脛は最も太き所を計り、しめは最も細き所を計る。

丈…………33cm
脛廻………32cm
しめ………21cm
脛下り…10cm

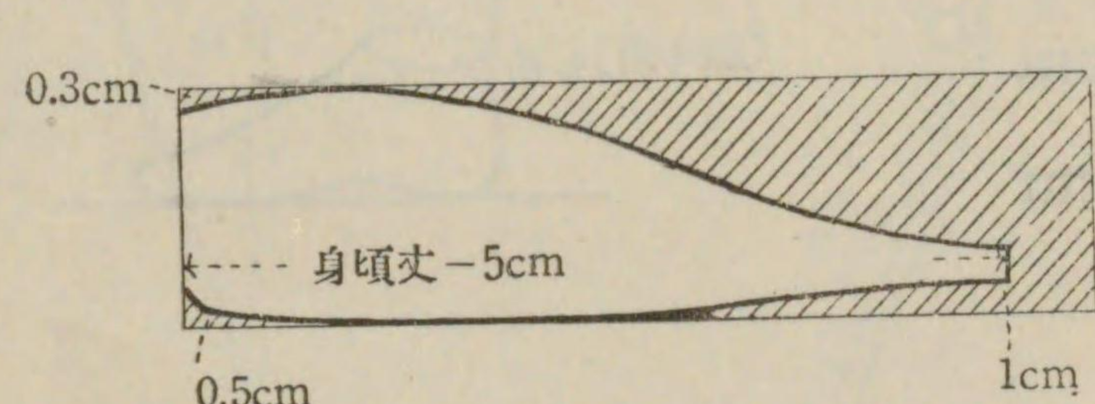


(ロ) 型紙の拵へ方

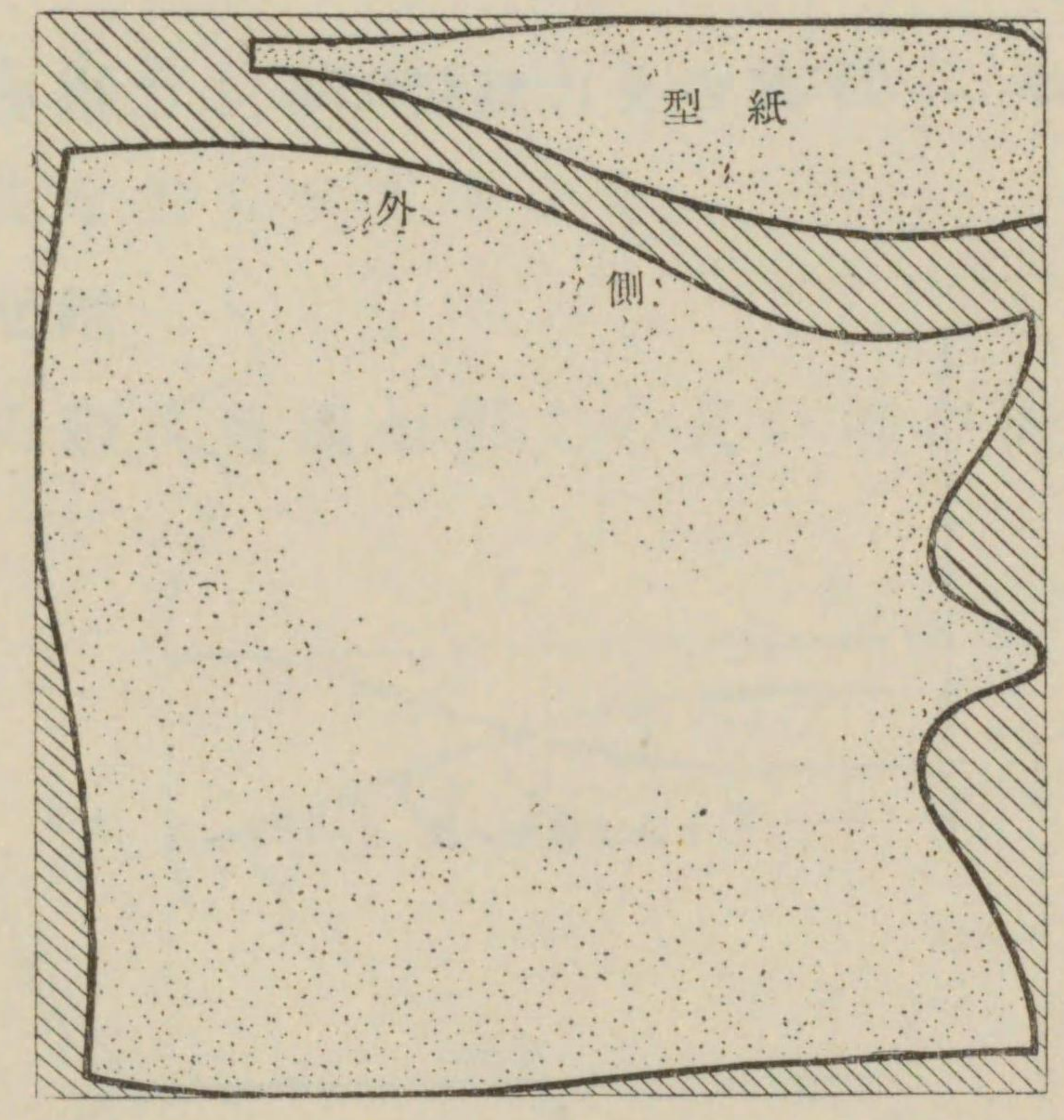
身頃



襠



裏



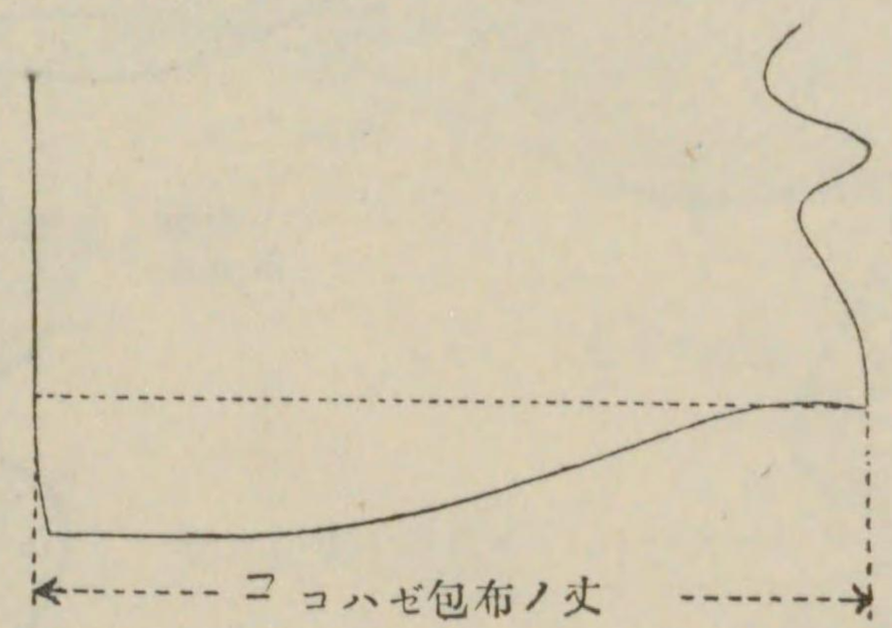
表は身頃の外側の方を裏布より縫代の分0.5cm廣く裁つ。

備　考

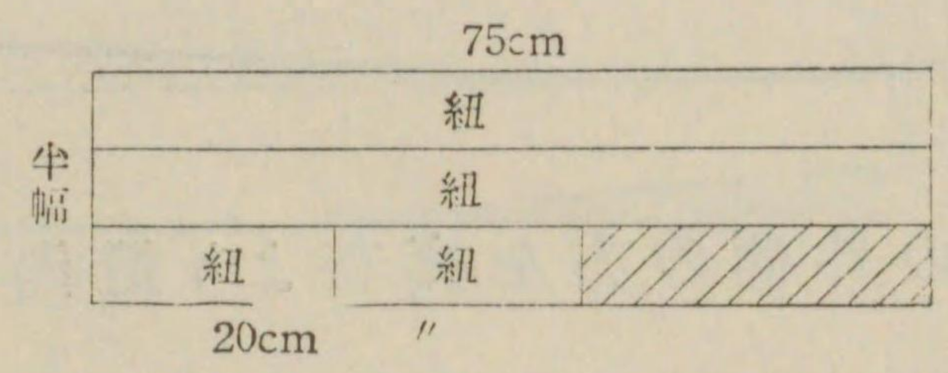
布幅が不足して襠が裁ち落しからされない場合には別布でさる。又裏布だけ不足の場合には下前の方に足し布をして、表さ同樣に裁つ。

コハゼ包布

裁切 { 幅………1.3cm
丈………下圖の丈に縫代(0.7cm)の二倍を加へる。



紐



脛廻り×2＋結び代＝外紐丈

30cm ×2＋ 15cm ＝75cm

結び代……20cm……内紐丈

但し脛廻りが36cm以上の時は紐丈80cm

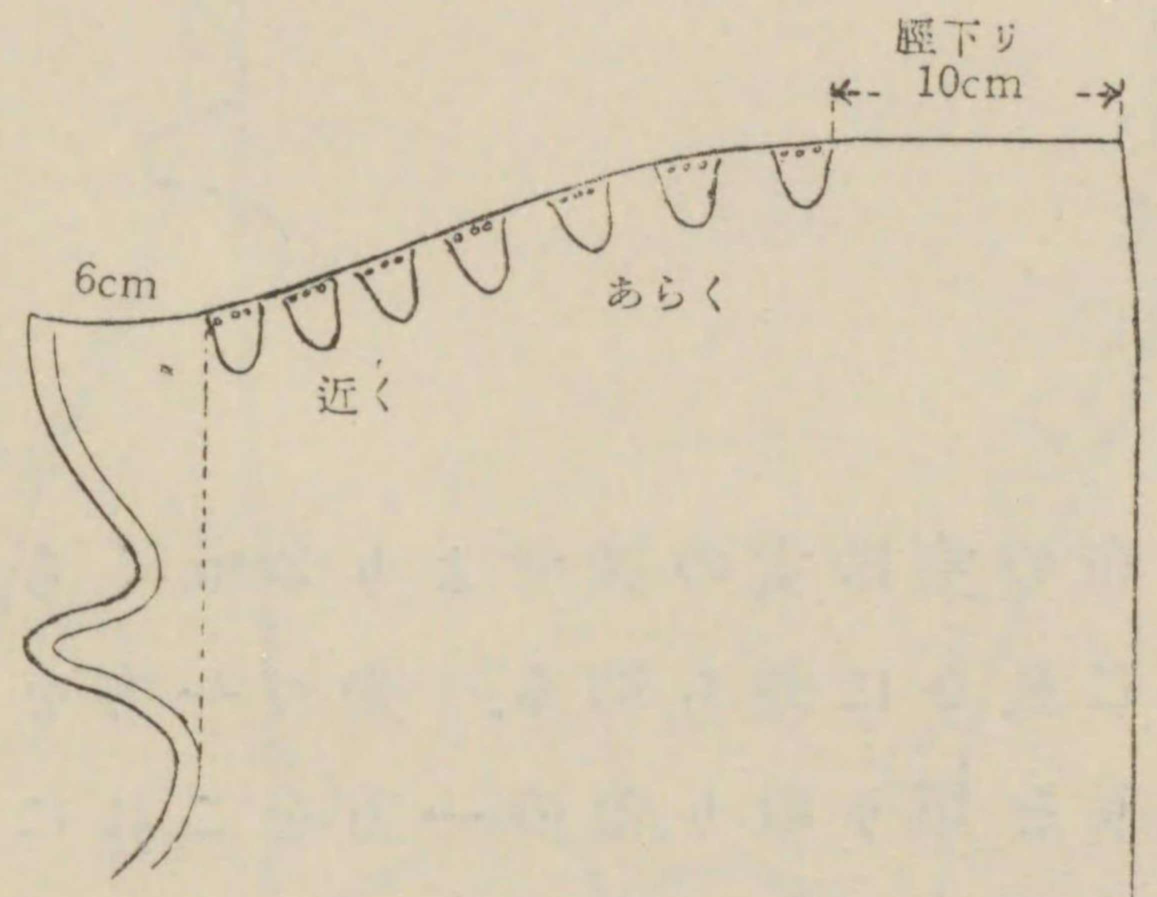
(4) 縫ひ方

紐

左右とも內外の紐を絎ける。內紐は穴に通す便宜上先を尖らせてもよい。

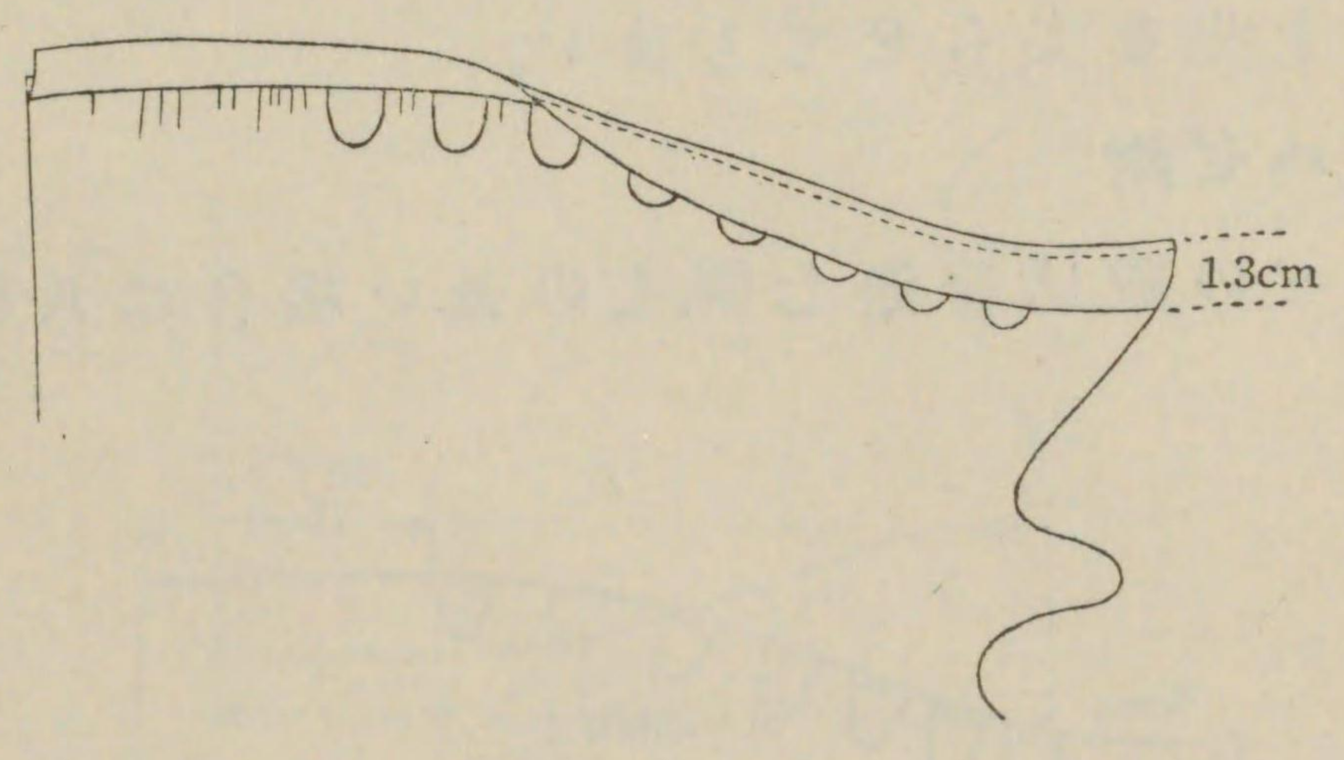
コハゼ附

コハゼの數は普通七個,丈の長い場合は八個



コハゼの位置を定め,躾糸で輕くとぢつけておく。糸は20三ツ子の二本繿,針はメリケン六番を用ひて圖のやうにコハゼを身頃と包布とで挾んで,イセをよせながら穴の所では一針返して縫ふ。イセは脛の邊に最も多く,脛下りの間

は稍々少く、脛から下は更に少くして下方 5cm 位は殆ど無くてよい。



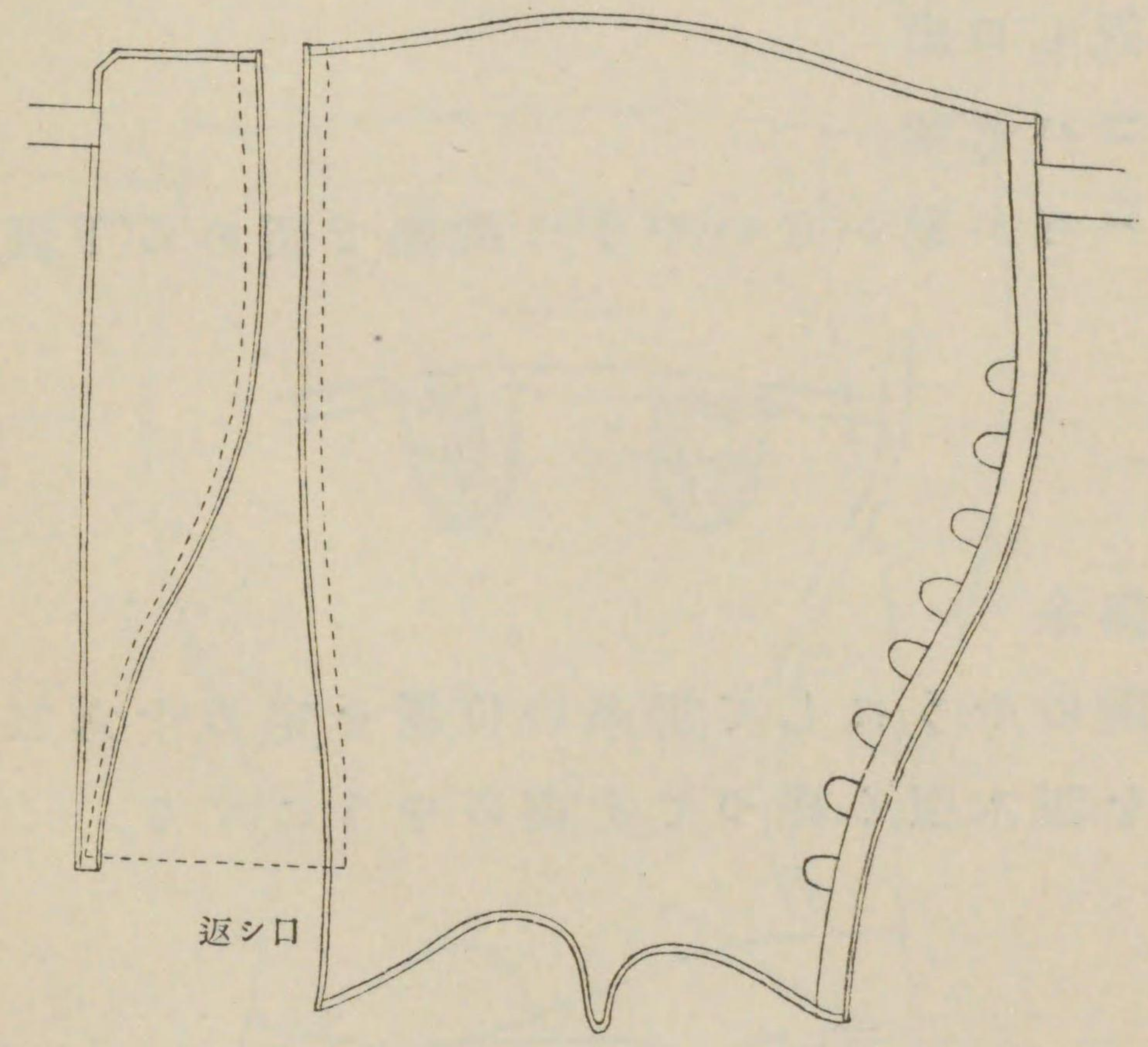
コハゼ布の丈は丈の採寸より 2cm くらゐ長く二枚同じ長さに裁ち切る。先づ一方をつけて見て殘りを切り取り、他の一方をこれに合せて裁ち切り上の方から包み布いつぱいにつける。

上前圖

先づ裏身頃の紐附の位置に外紐(長い方)をつける。次に上前のコハゼ附の所を表身頃と包布と合せて縫ふ。但し表身頃の方はコハゼ附と同じ要領で、イセをよせる。

身頃の上下縫ひ

身頃の上下を表布見返り0.2cmになるやうに表裏合せて縫ふ。



襠

內紐を裏襠の紐附の位置につけ、表裏合せて標通りに縫ひ、(紐附の所は半返し縫にする。)表に返へし、見返りを0.2cmとして整へる。

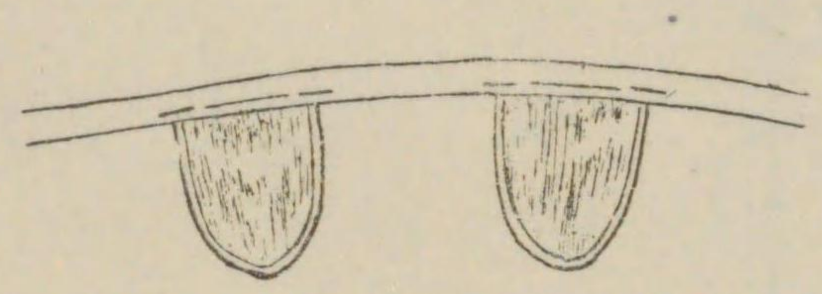
襠附け

襠を身頃で挾んで四枚一緒に縫ひ、(但し身頃のゆるむ分は脛の邊に多く入れる。) 返し口の處から表に返へす。

返し口絎

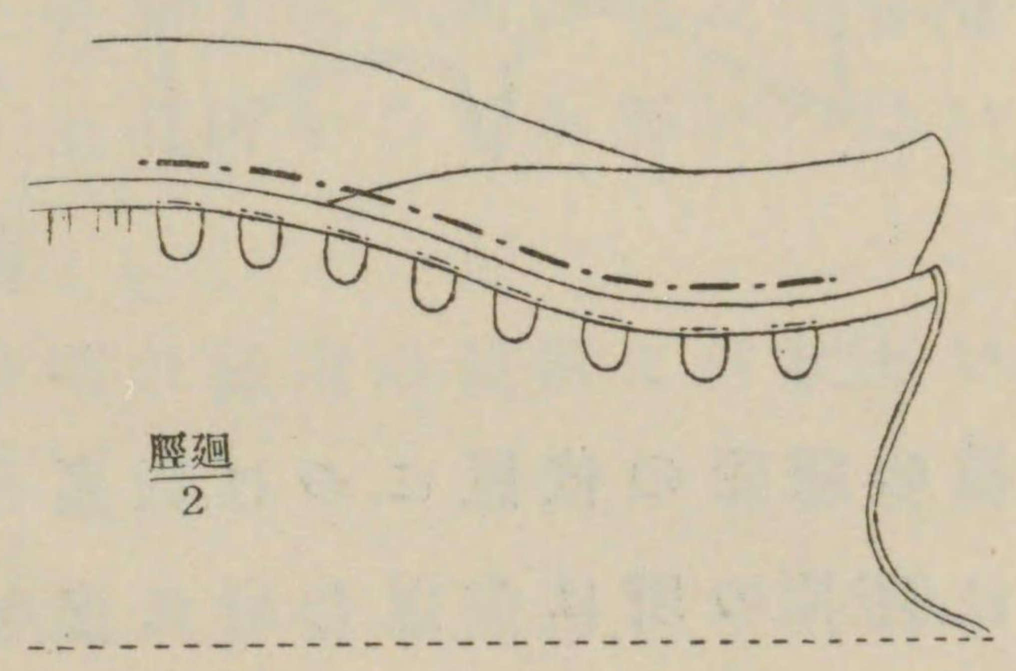
コハゼ留

コハゼが動かないやうに縫糸で留める(下圖)



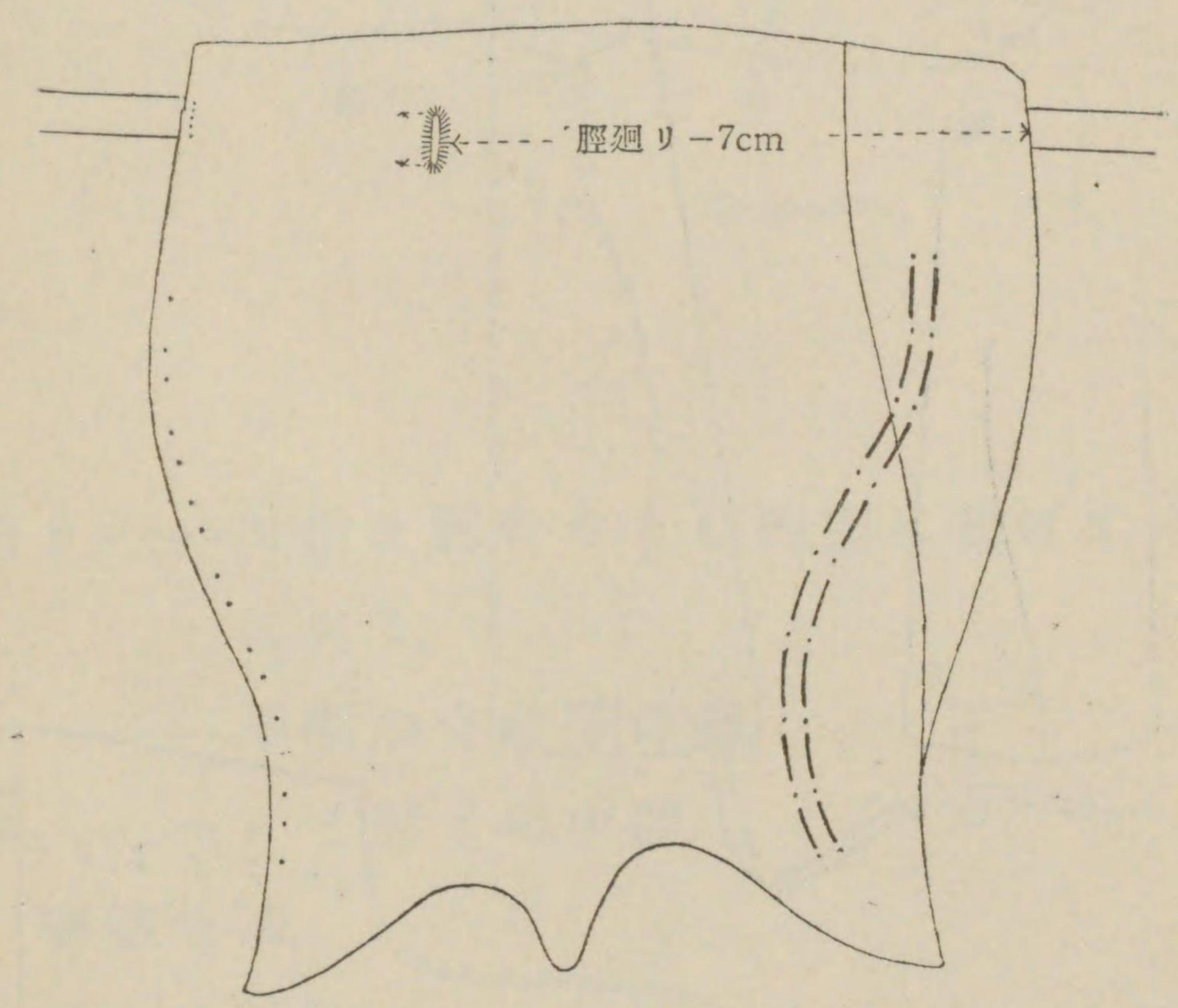
掛糸

下圖のやうにして掛糸の位置を定め十六三つこを四本強く縫つて次圖のやうにする。



紐通し穴縢り

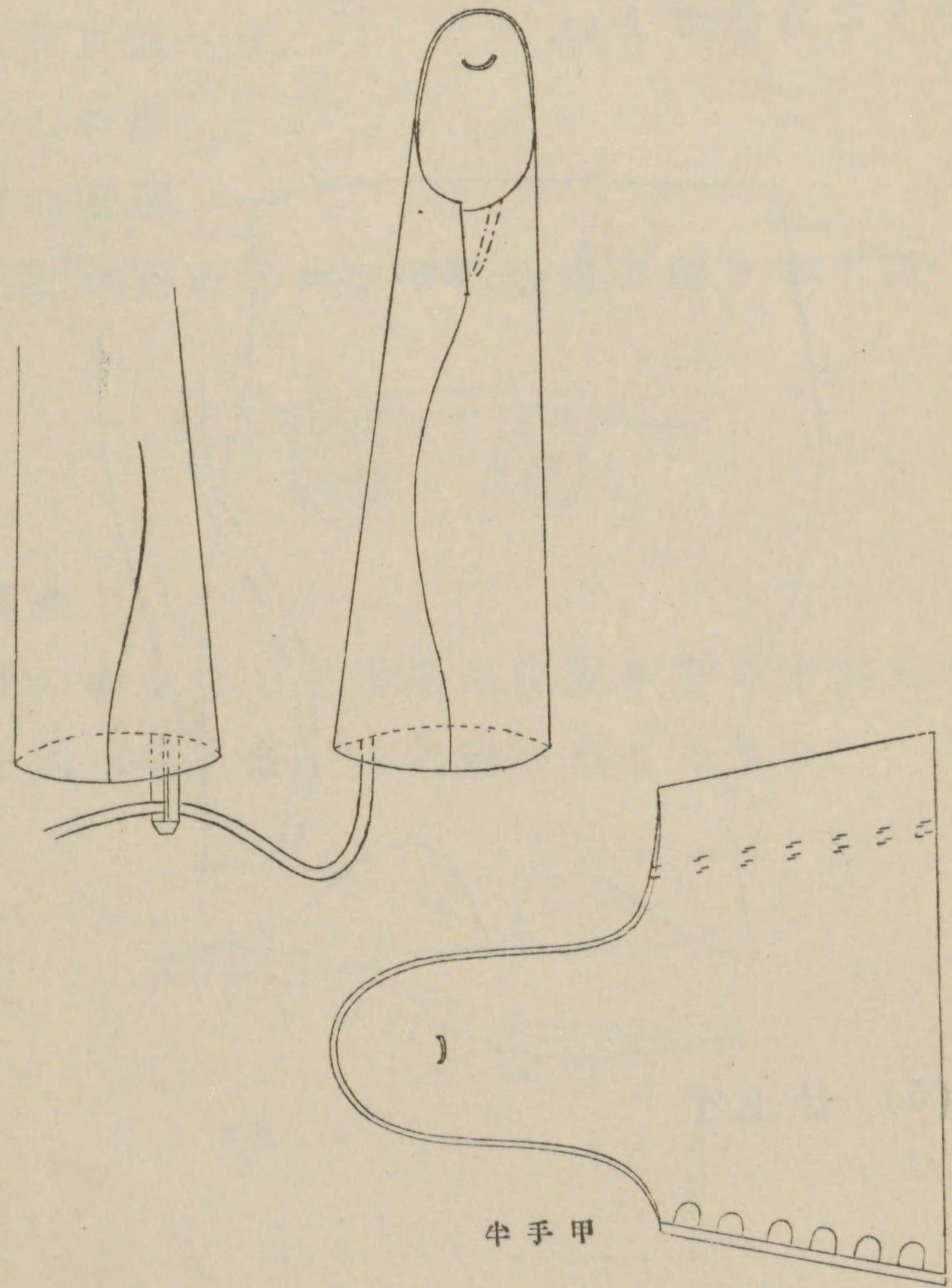
下圖の位置に紐幅より0.5cm大きく穴をあけて穴縢りをする。穴縢りの糸のかけ方は閂留のやうな方法でよい。



(5) 仕上げ

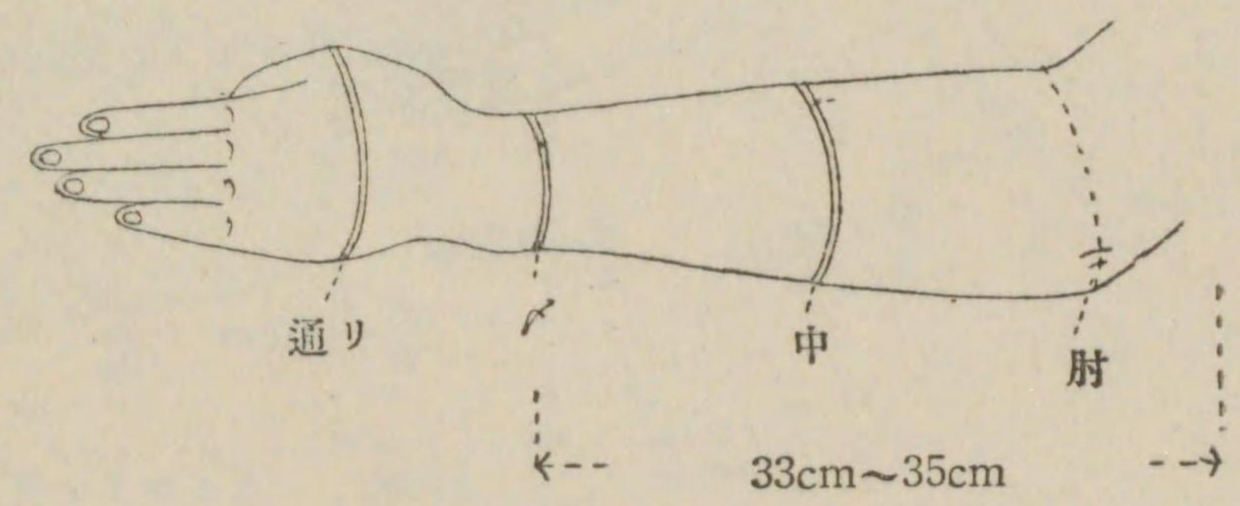
第五節
手　甲

(1) 仕立上り圖



(2) 地質……脚絆と同樣。

(3) 寸法の採り方



通り（トホ）……拇指を圖のやうに內側に曲げてはかる。

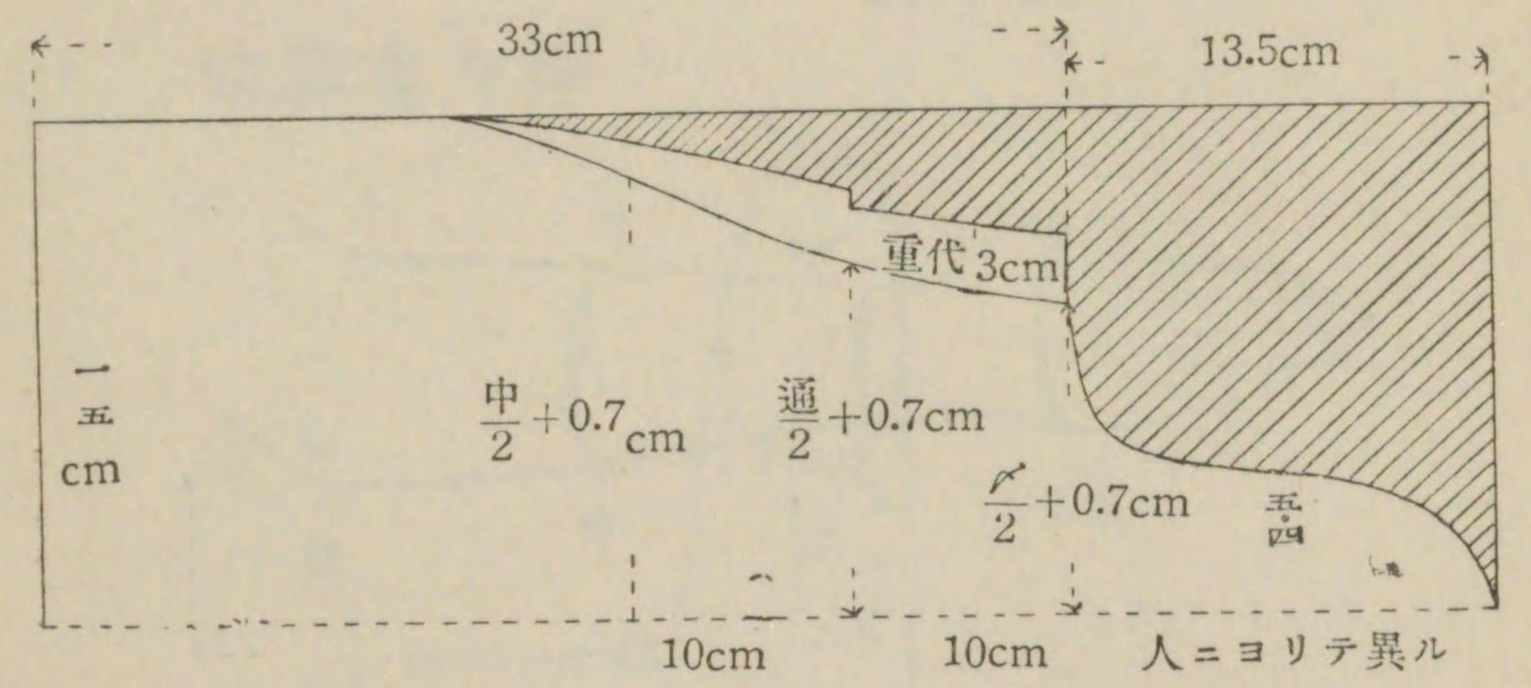
〆（シメ）…………手頸の骨の下の所。

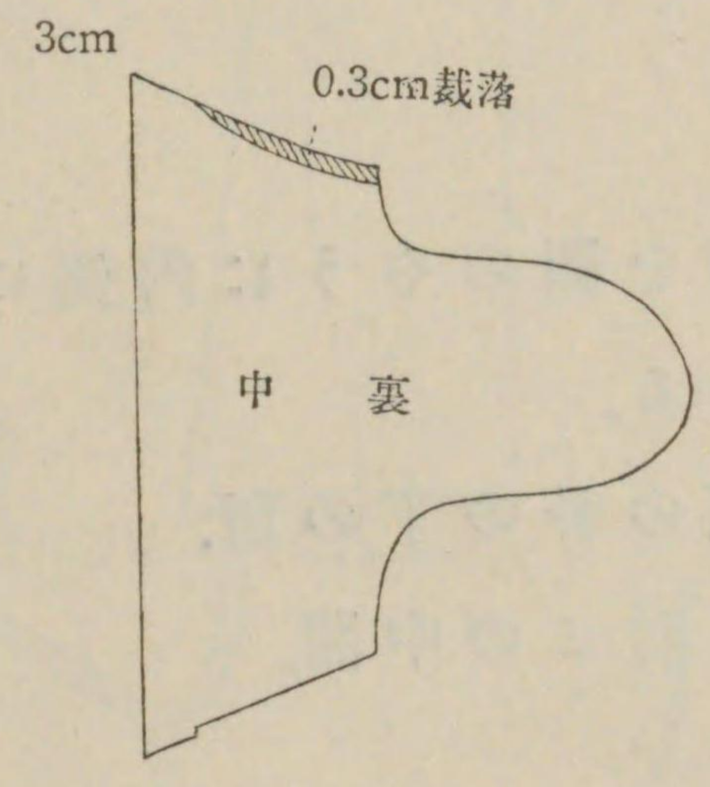
中（ナカ）…………〆と肘との中間。

普遍寸法。

通り	22.5cm
〆	15cm
中	21cm

(4) 裁ち方





裏は表に合せて甲より中の3cm下までとする。

紐………丈は83cm

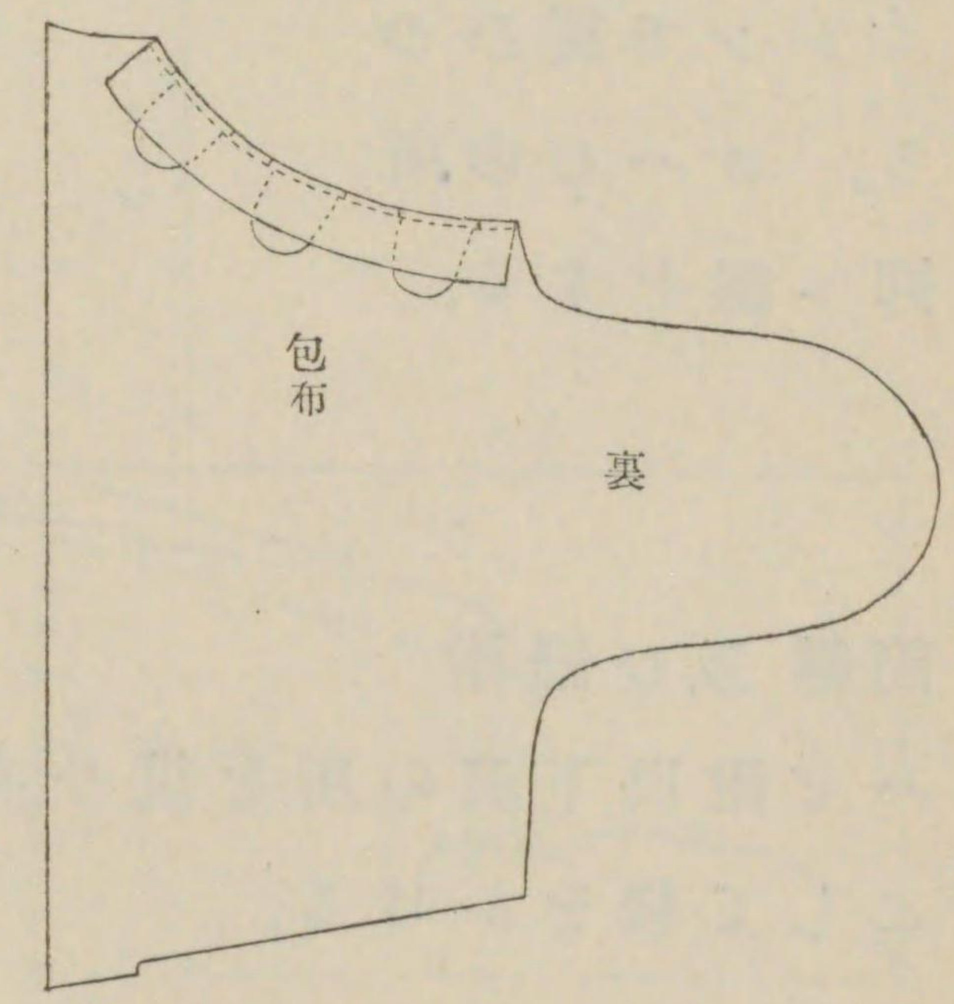
　　　　幅は5cm

乳………長さ15cm

(5) 縫ひ方

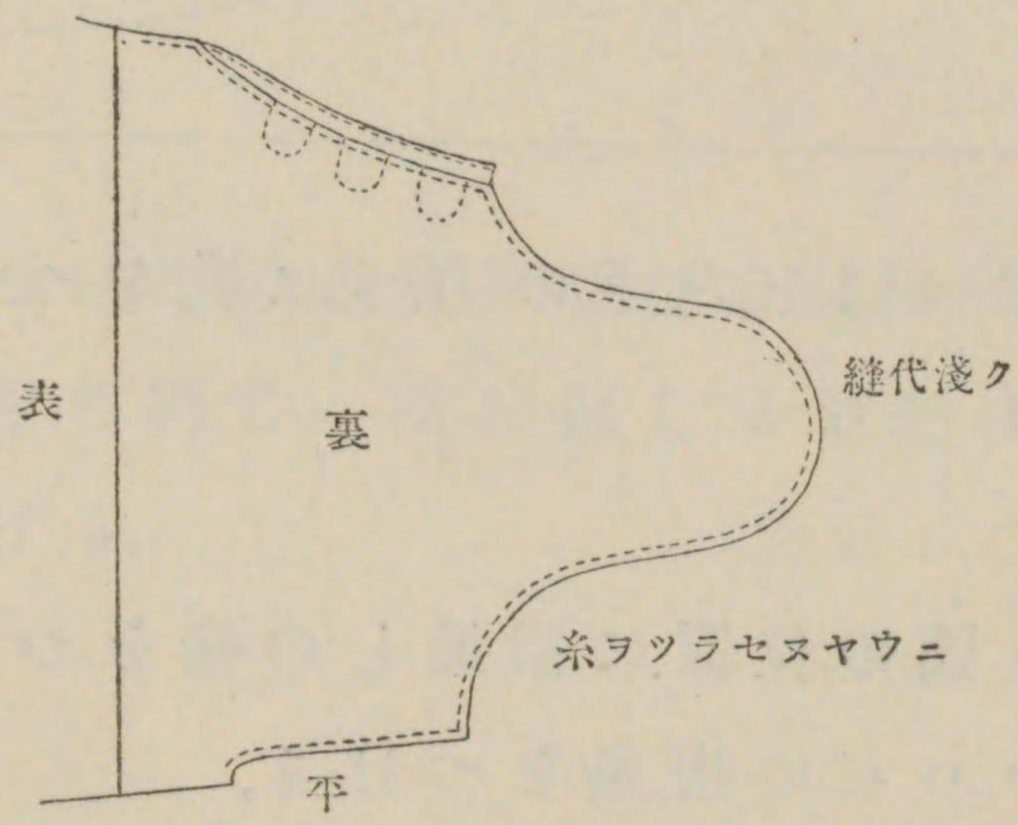
コハゼ附

裏布の幅の狹い方へ脚袢の要領でコハゼを三個つける。



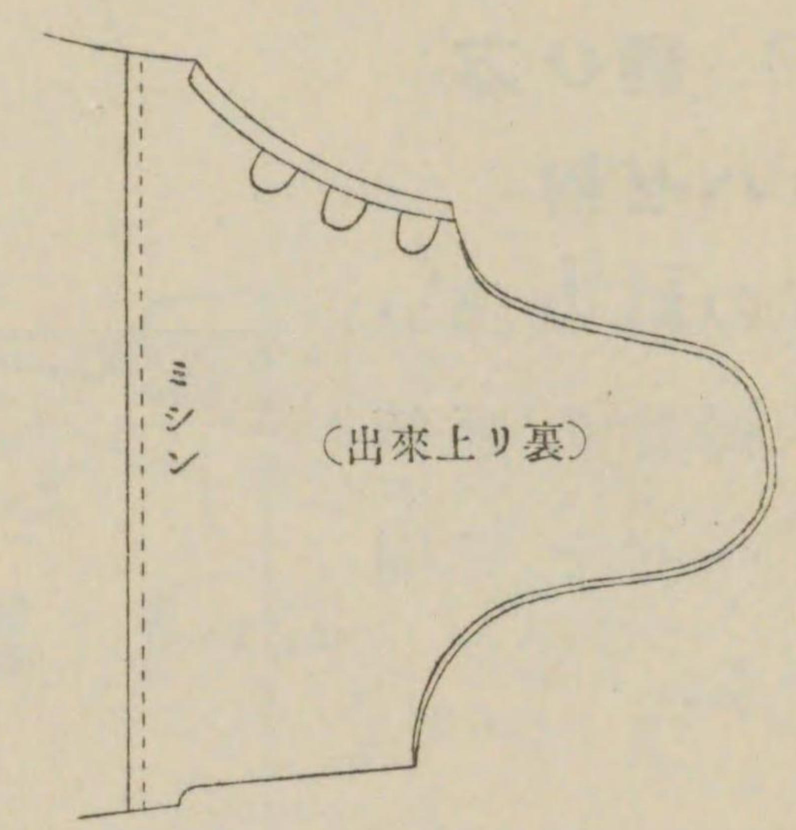
甲

コハゼの包み布と表布とを中表にして縫ひ圖のやうに甲の周りを縫ふ。この時裏布を表布より0.2cm出して糸をしめて縫ふ。



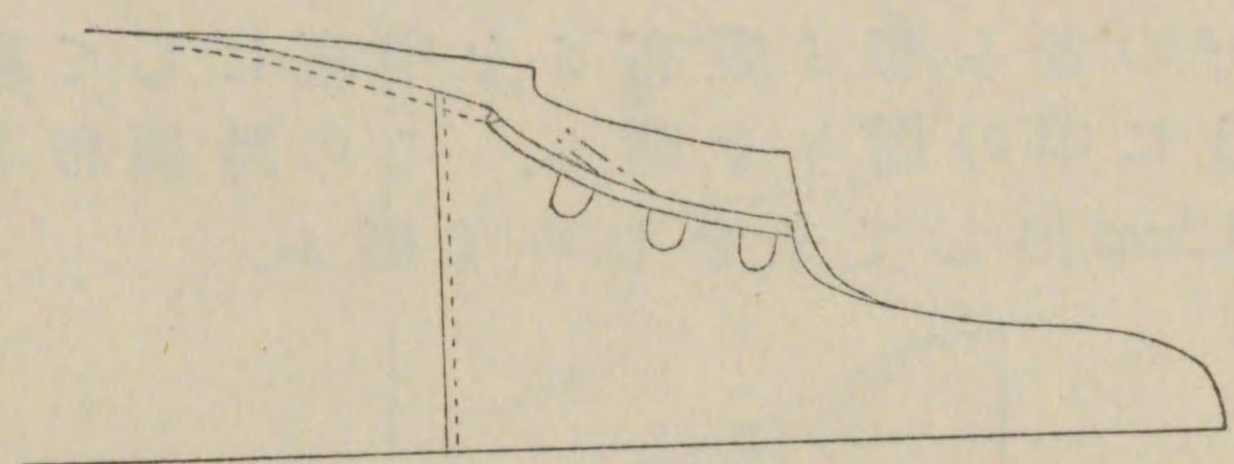
裏の奥

表に引返し裏の端をミシンで縫ひつける。コハゼの所に抑へ縫をする。



筒縫及び紐附

コハゼ附以下筒の所を縫ひ、次に筒の口を三つ折にして躾をかける。



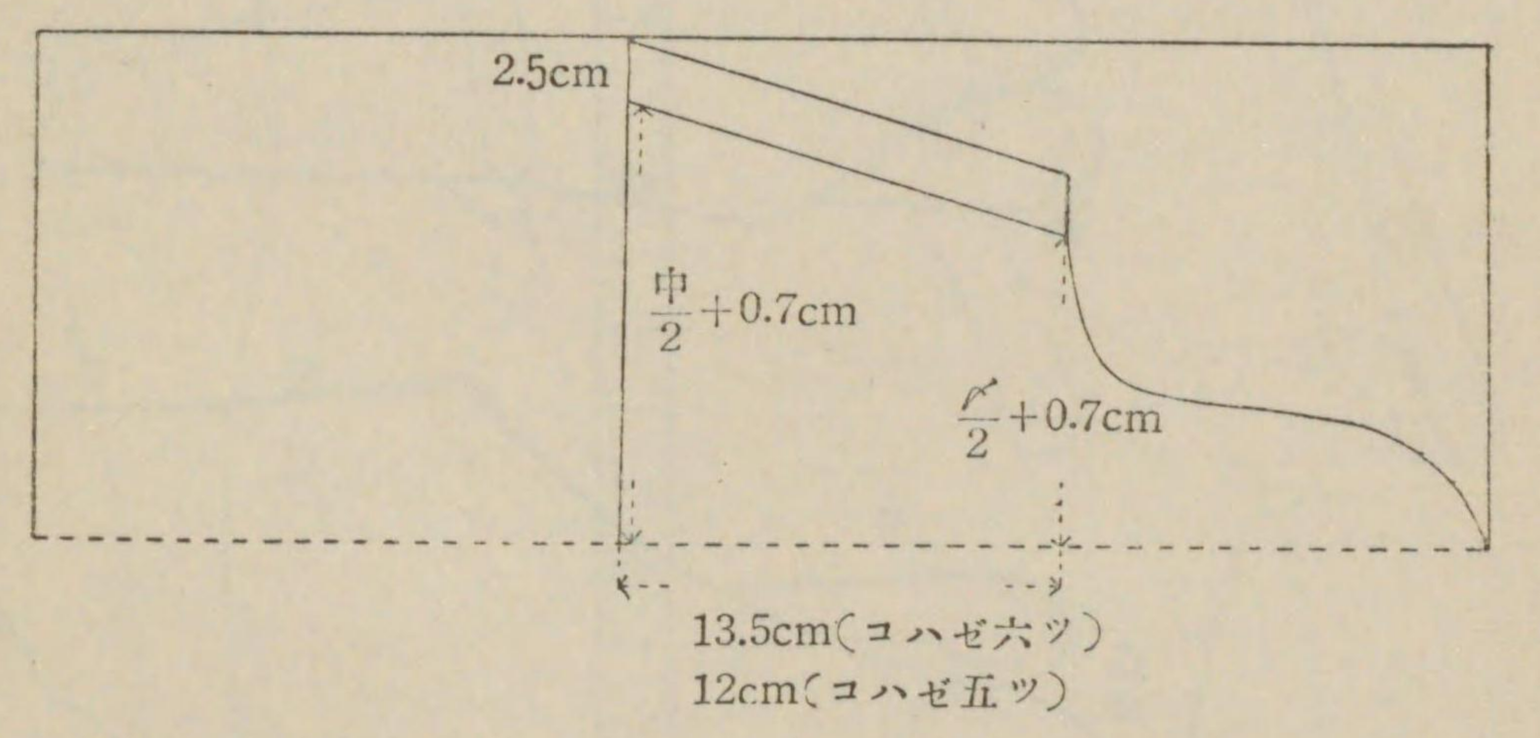
右手の方へ紐を、左手の方へは乳をつけミシンをかける。

掛糸

仕立上り圖の位置に指通しの輪をつけ、脚胖の要領でコハゼの掛糸をつける。

半手甲

短い手甲を半手甲といふ。丈は凡そ中の邊までとする。



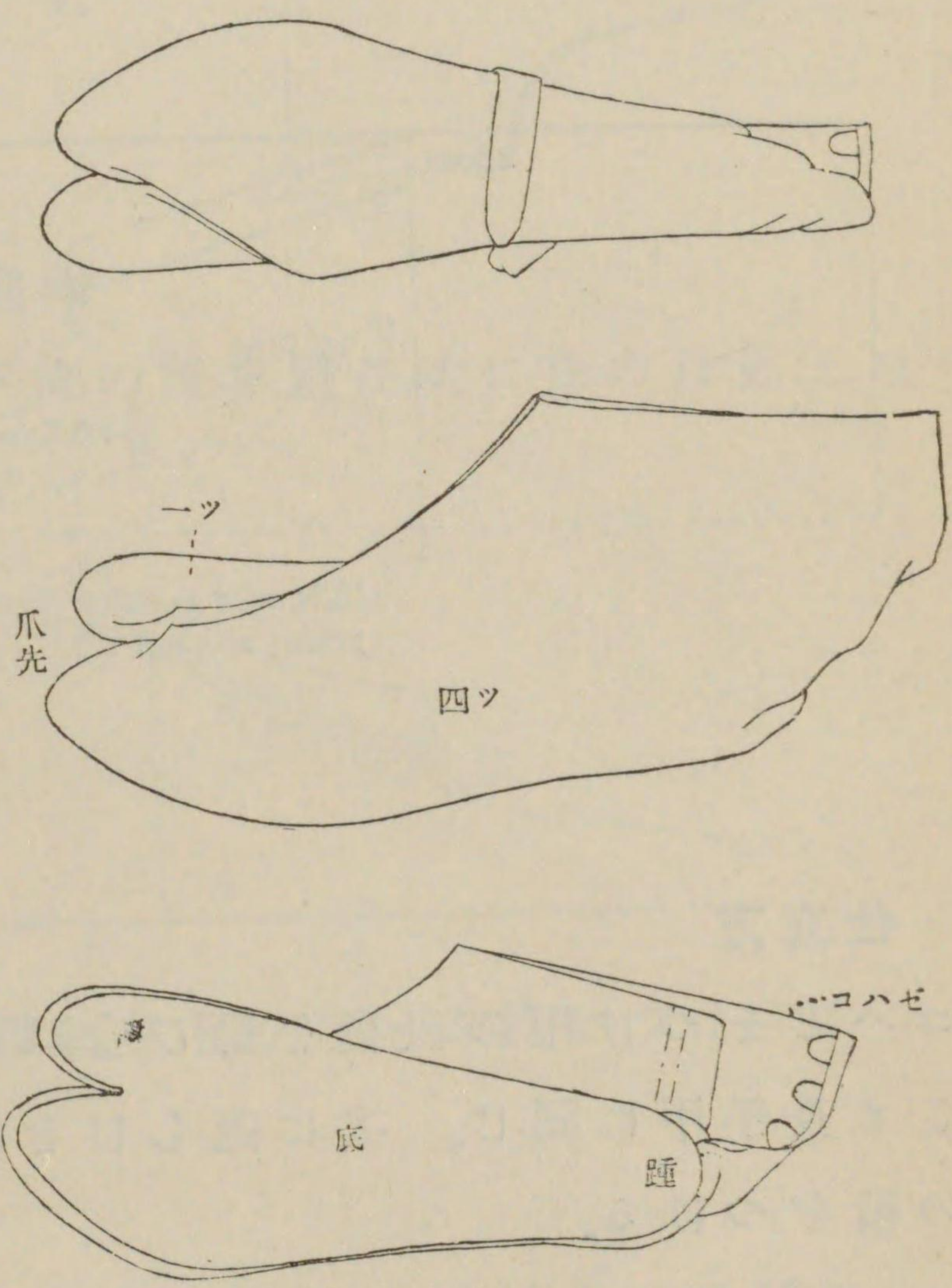
仕立方

コハゼをつけ甲の表裏を縫ひ合はせ、表に返すこと長手甲に同じ。次に返し口を絎け、指通しの輪をつける。

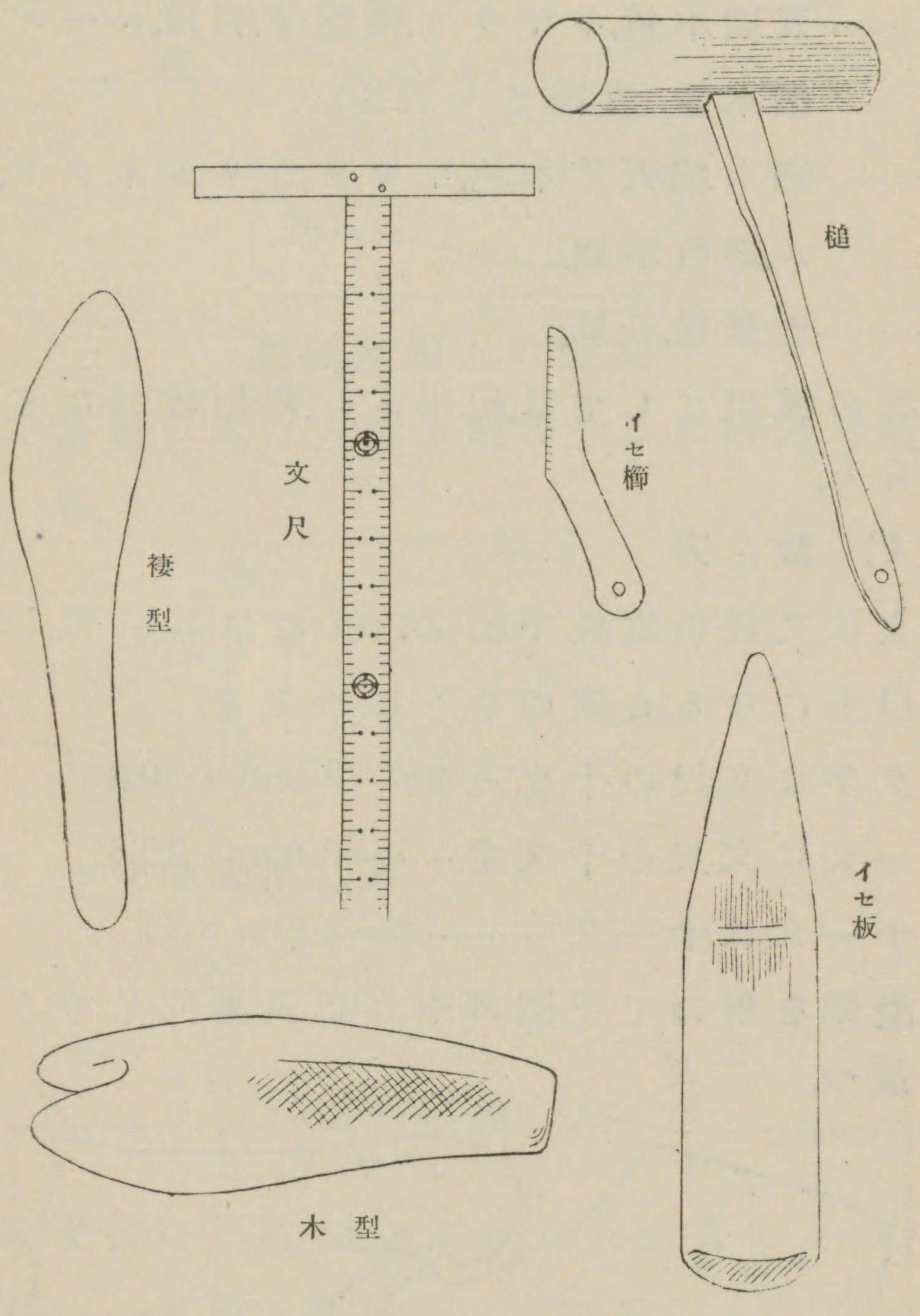
第六節

足袋

(1) 仕立上り圖



(2) 用具



（3） 地　質

表………眞岡木綿、キヤラコ、綾繻子、別珍、コール天、紺木綿（青縞とも云ふ）。

裏………晒木綿、天竺木綿、キヤラコ、リンネツト、ネル、縹色木綿。

底………雲齋織、石底。

之等の裏張としては、紀州ネル、紀州紋羽など用ひらる。

（4） 裁　方

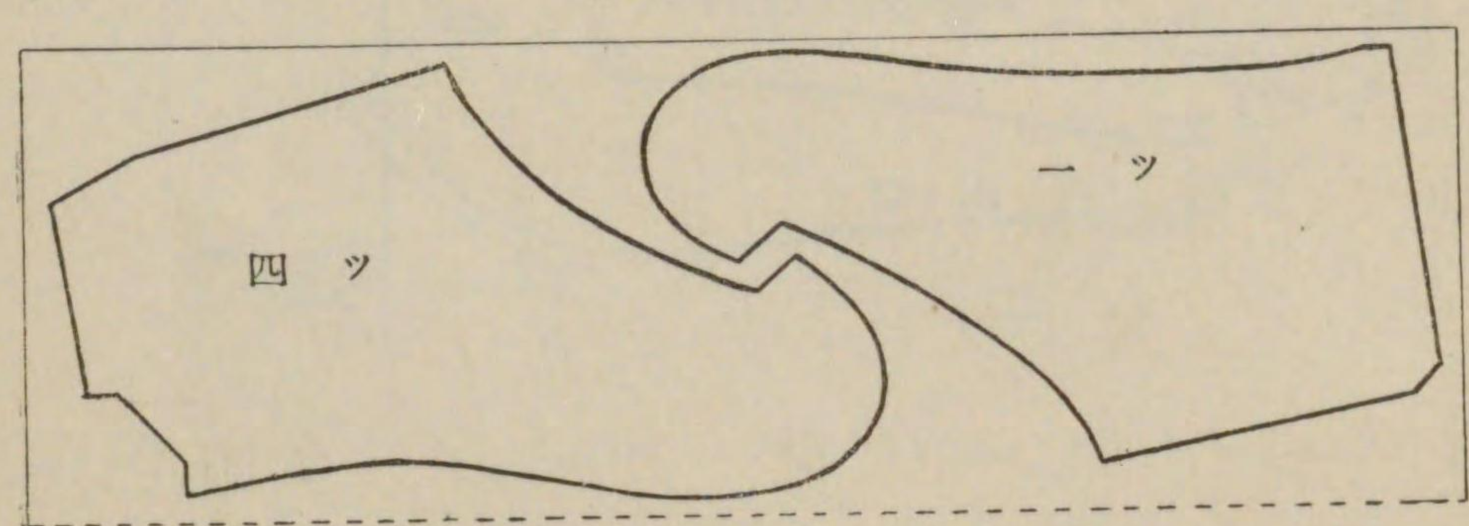
一文は文錢の直徑で約 2.4 cm になる。但し十文以上になると次のやうにつまる。

十文半は文尺の十文三分……2.4cm × 10.3

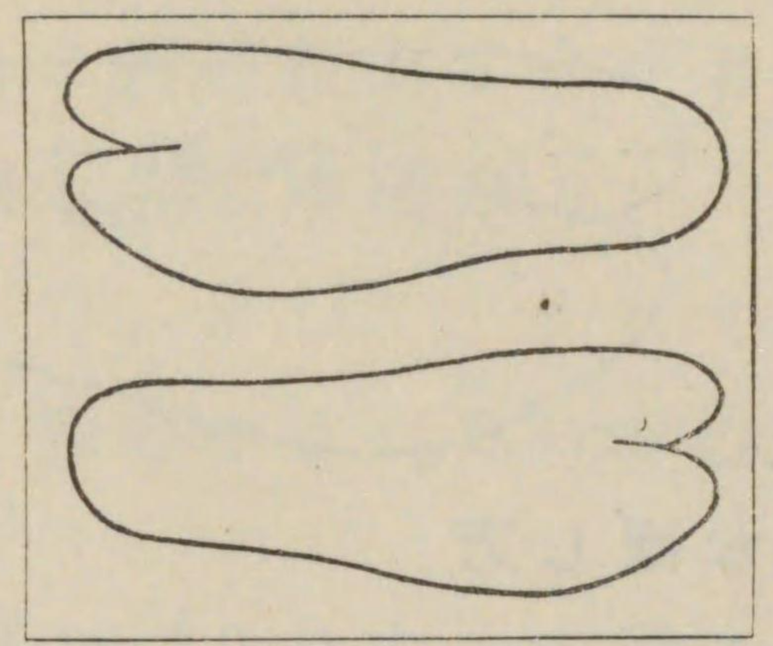
十一文は文尺の十文半………2.4cm × 10.5

本十一文は十一文………………2.4cm × 11

型紙を用ゐて下圖のやうに表裏同じやうに裁つ。

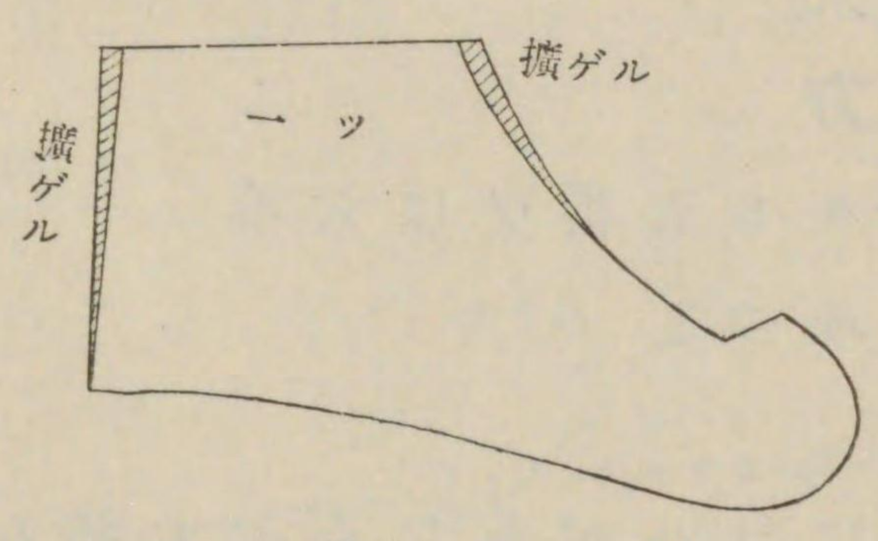


底

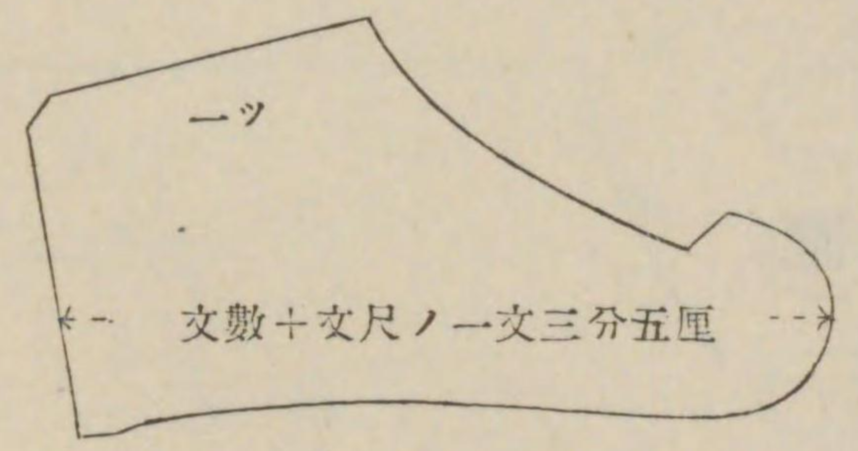


型紙使用上の注意

（イ） 足頸の太い人は下圖のやうに兩方で擴げる。



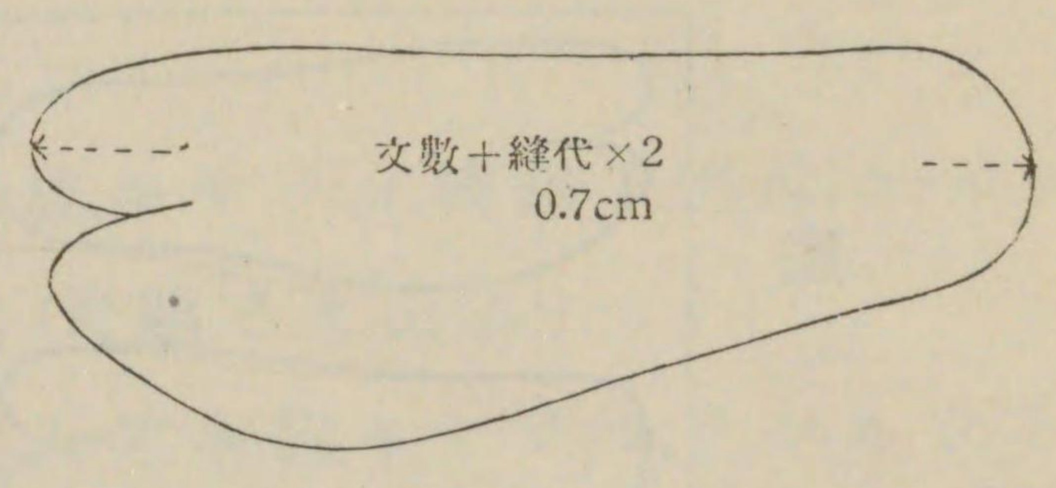
（ロ） 一つのなほし方



厚地又は裱三枚（表裏の間に一文入れる）の場合は………文數＋文尺の一文五分。

繻子の場合は………文數＋文尺の一文四分。

(ハ) 底



(ニ) 四つのなほし方

一つに合せて褄先の方を 0.2 cm 位短く裁つのが普通である。稀に四つの方が長い人があるこの場合は四つの方を少し長くする。これを四つ長と云ふ。

(5) 縫ひ方

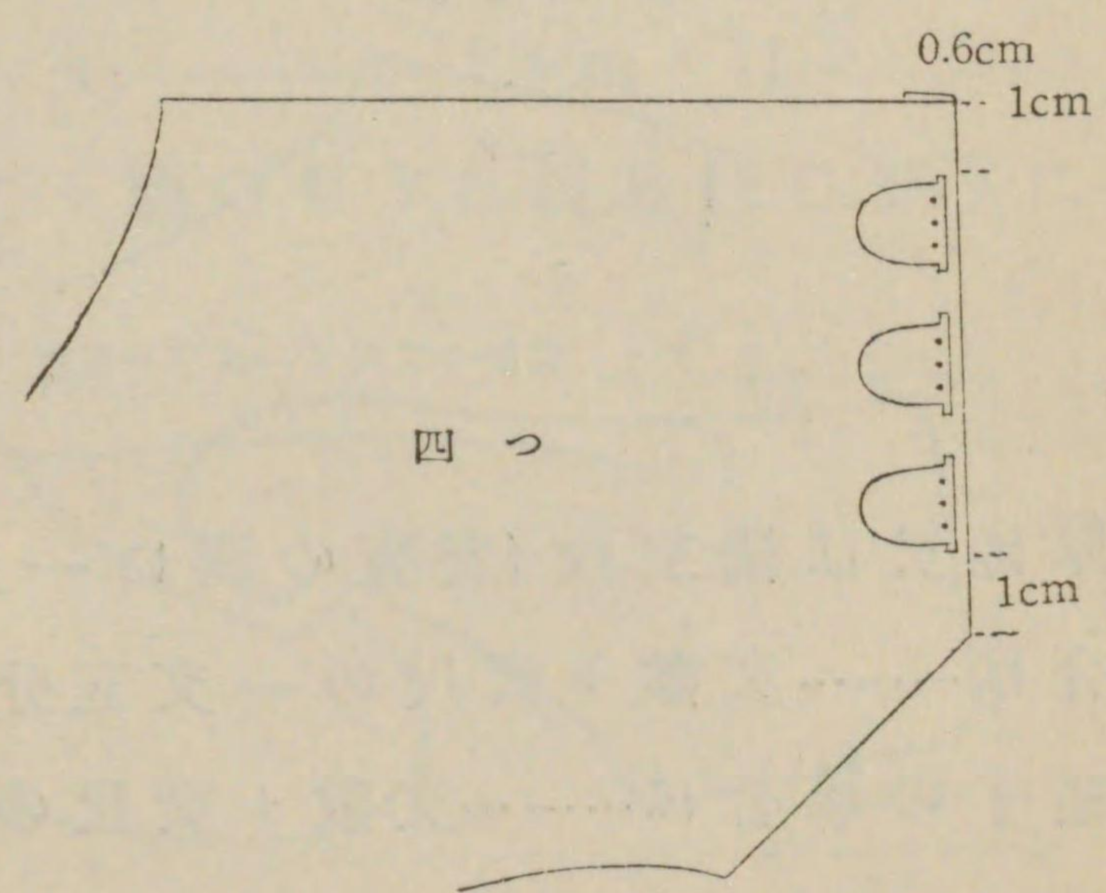
針……メリケン五番又は六番

糸……二十みつこ

コハゼ附

四つの裏布にコハゼをならべて標をつける。

コハゼの位置

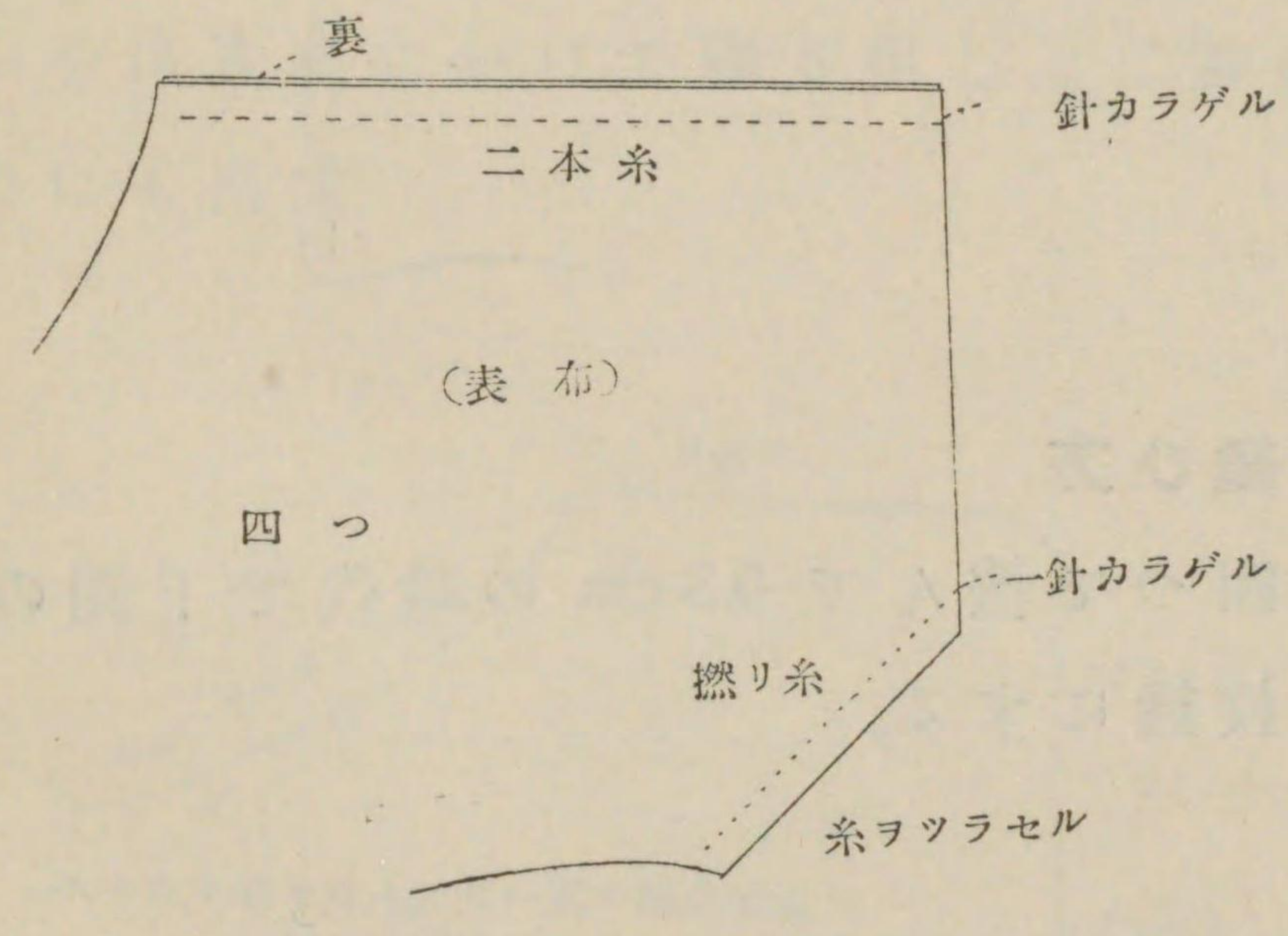


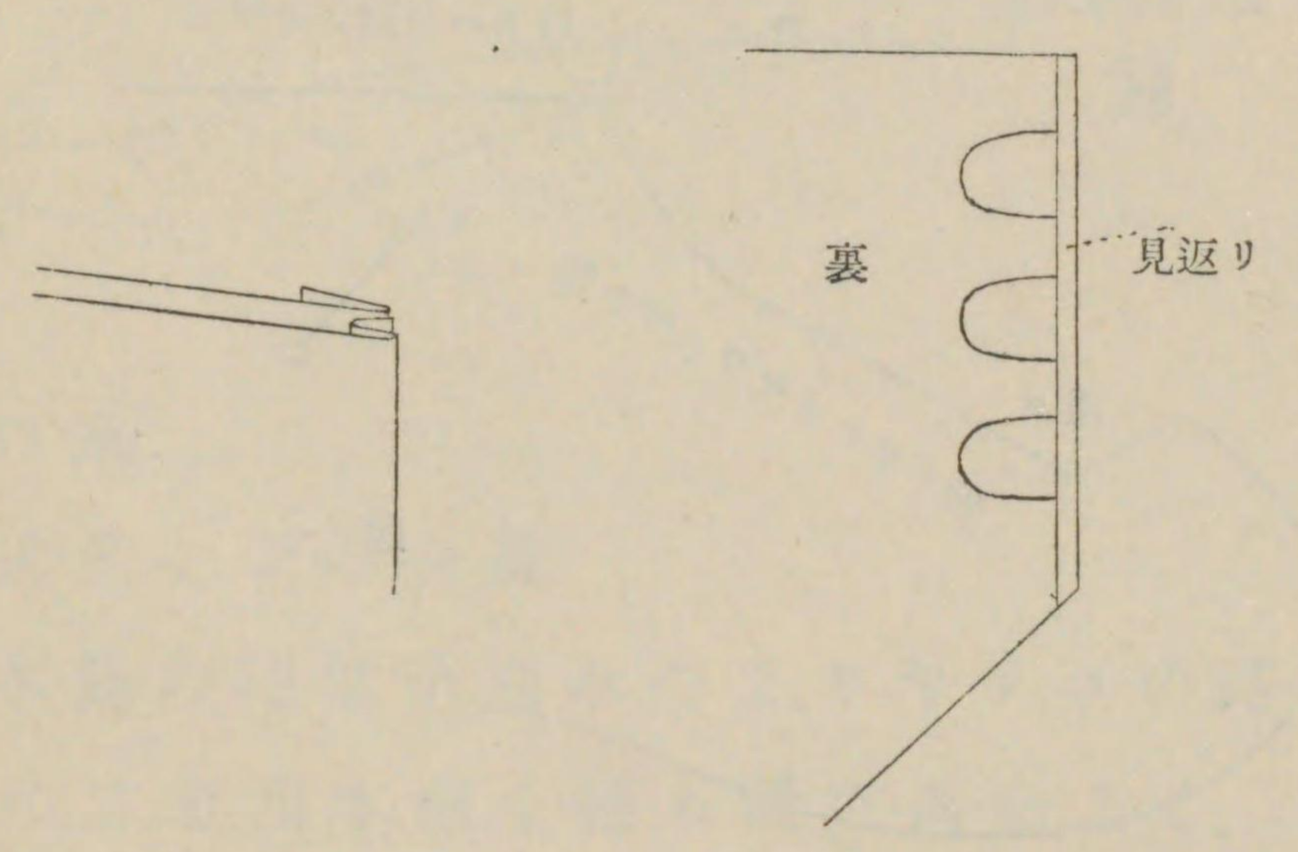
次に表の裁目と裏の折山と合せコハゼを挾んで返し針に縫ふ。(二本縒糸)

ロ縫

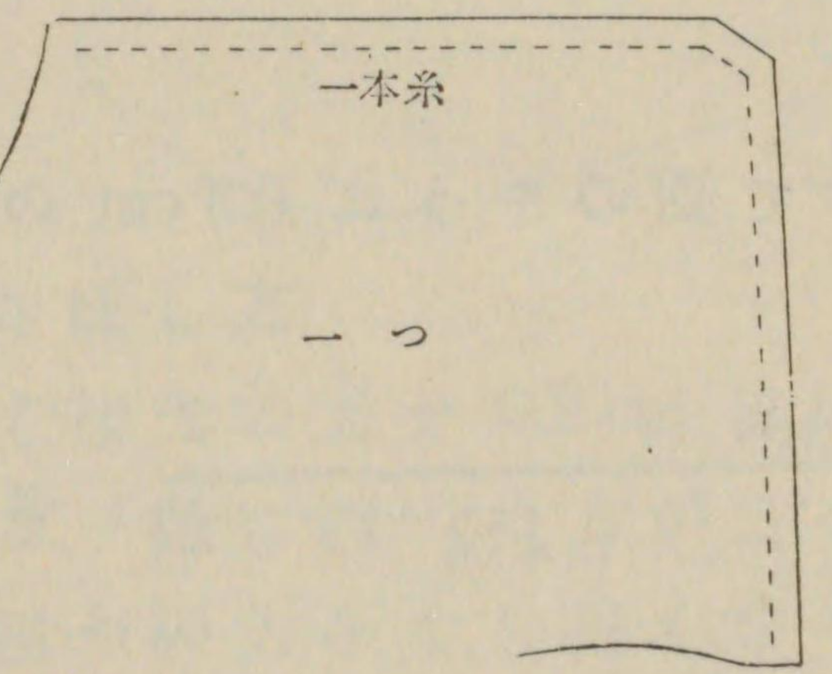
表裏を合せて圖のやうに 0.3 cm の縫代で縫ふ。

(イ) 四つ



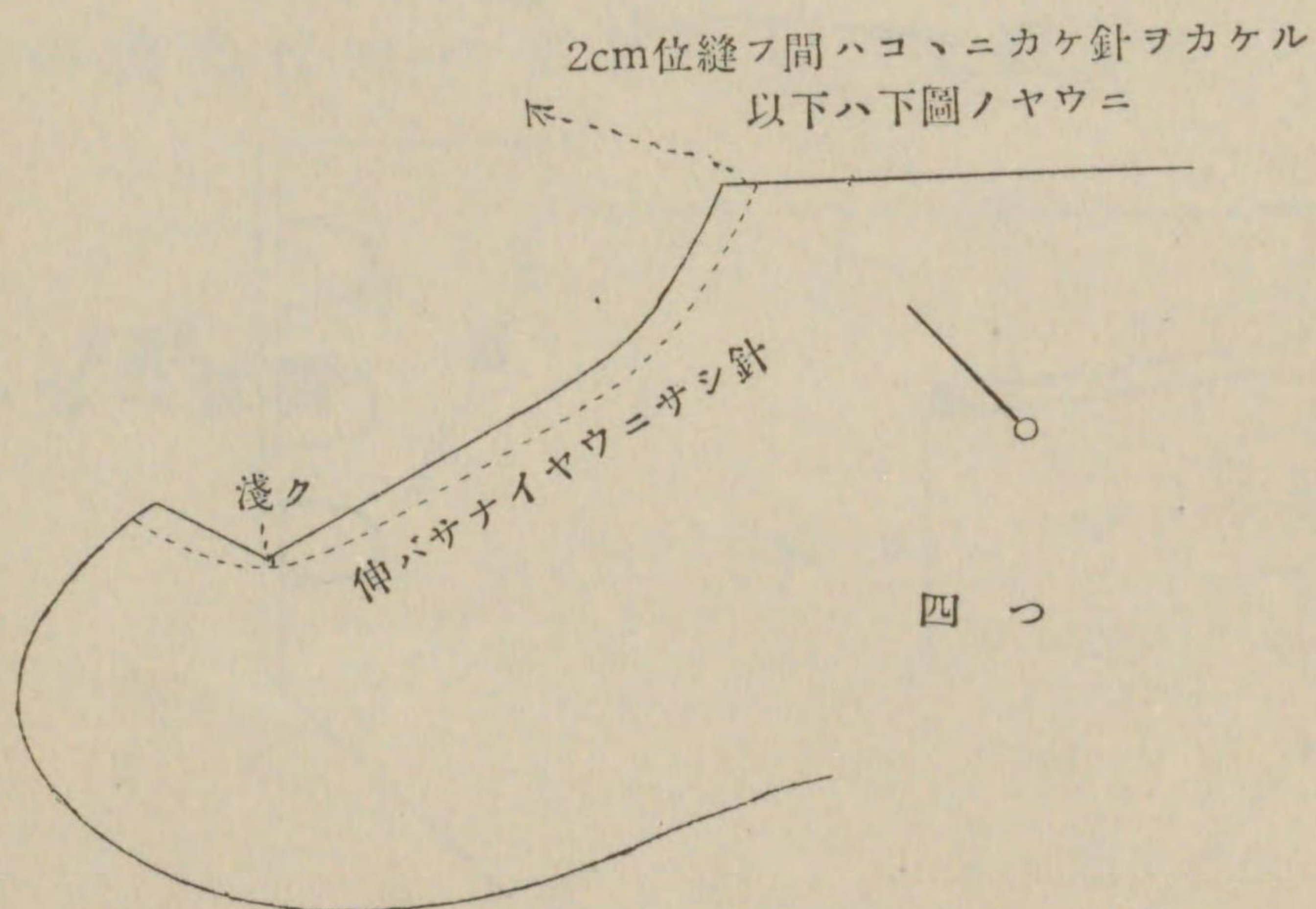


(ロ) 一つ



甲の縫ひ方

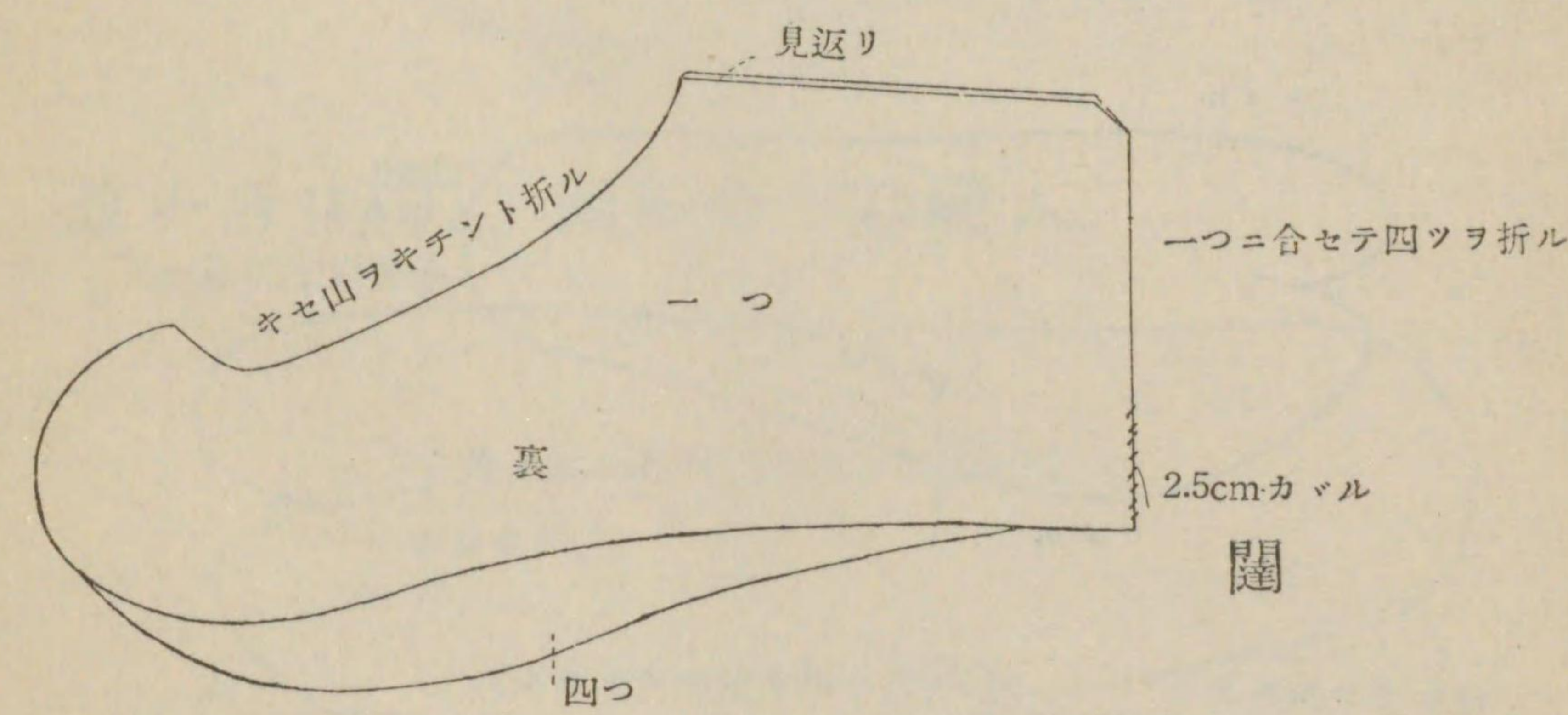
一つを四つで挾んで 0.3 cm の縫代で下圖のやうに四枚縫にする。



股の所は縫代を少し淺く縫ひ、一針からげる。若しミシンで縫ふ時は出來るだけ伸ばして二度縫ふ。次に表に返す。

縢

裏返しにして下圖の所を縢る。四つは裏一枚、一つは表裏にかけて縢る但し上二針は四つの表にも出す

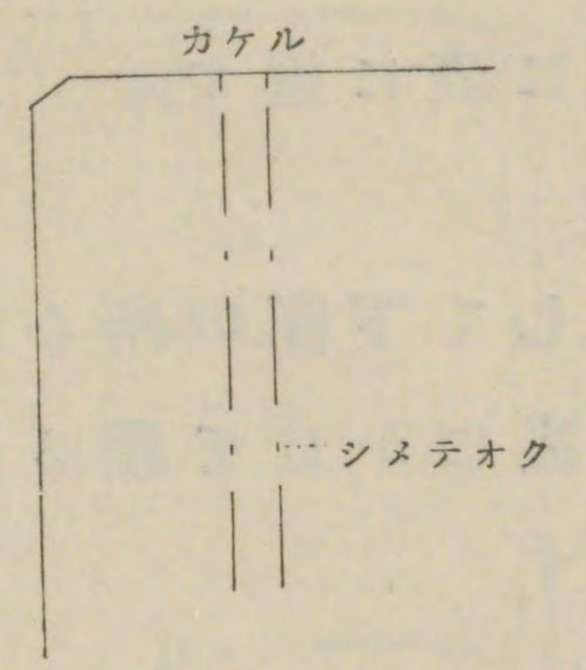


かけ糸

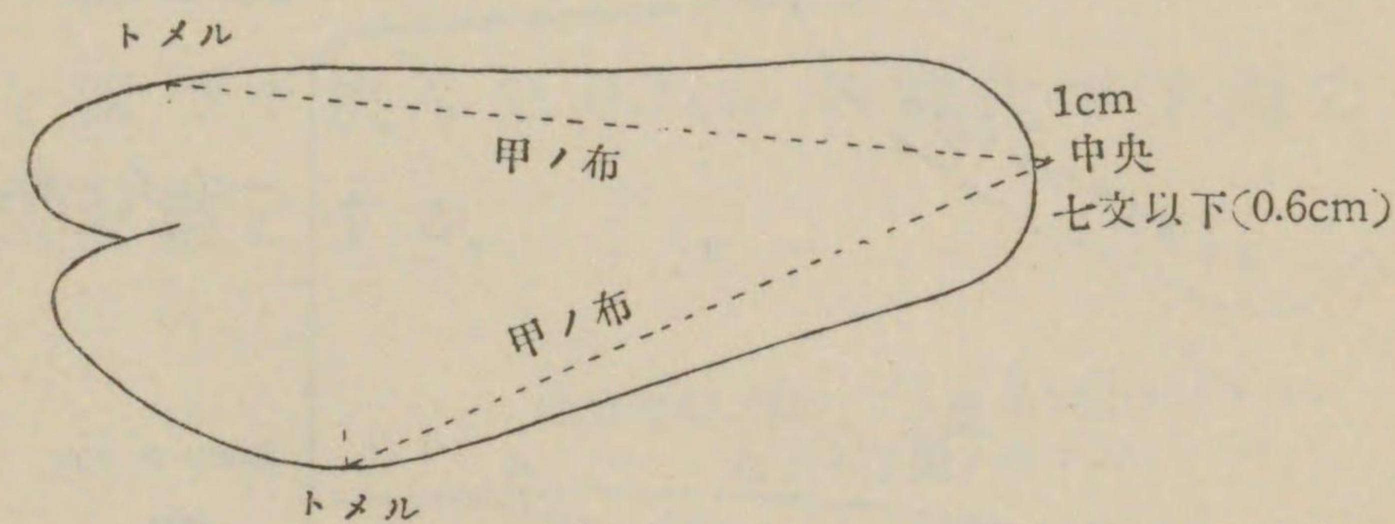
針はメリケンの一番。

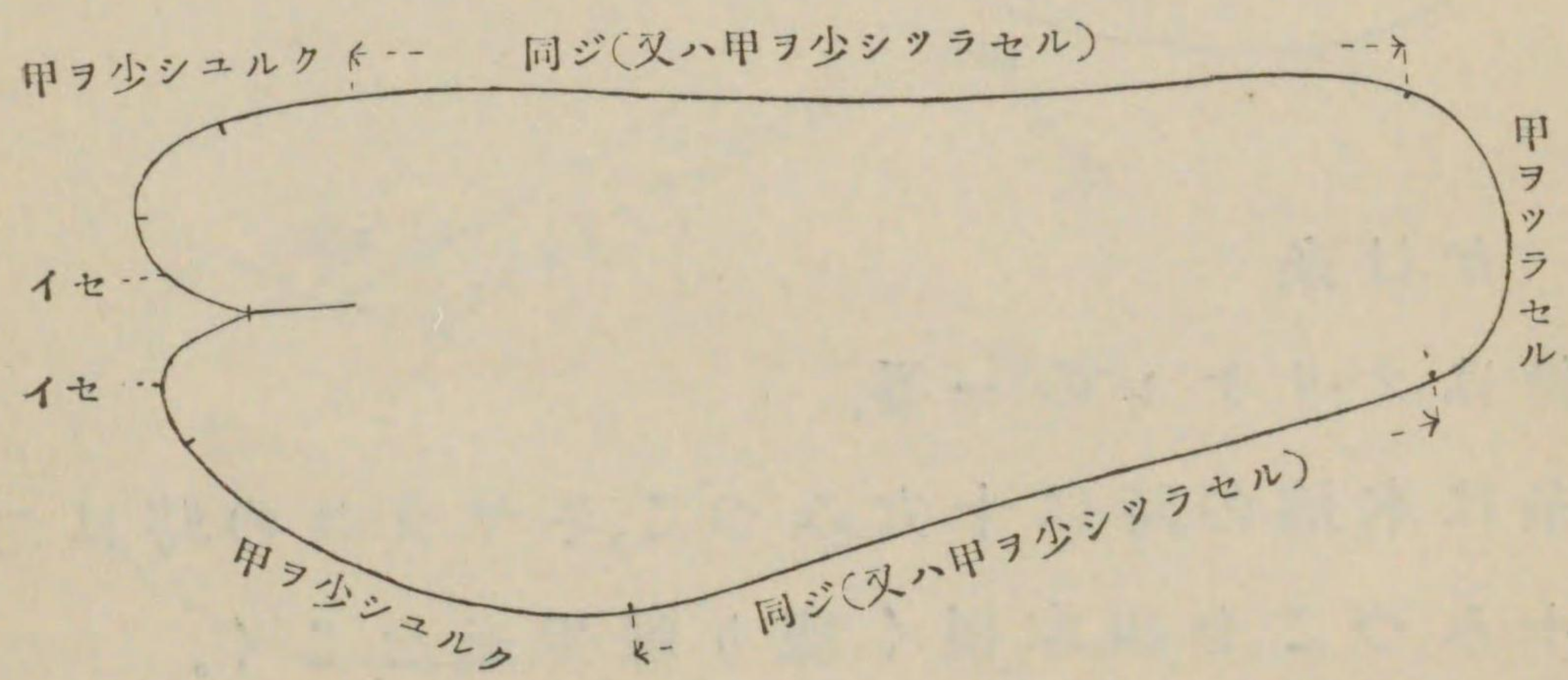
糸は木綿の時は十六みつこ、キヤラコの時は二十みつこを四本強く縒り蠟で糸をこく。

而して下圖のやうに返し針にして附け裏にて留める。



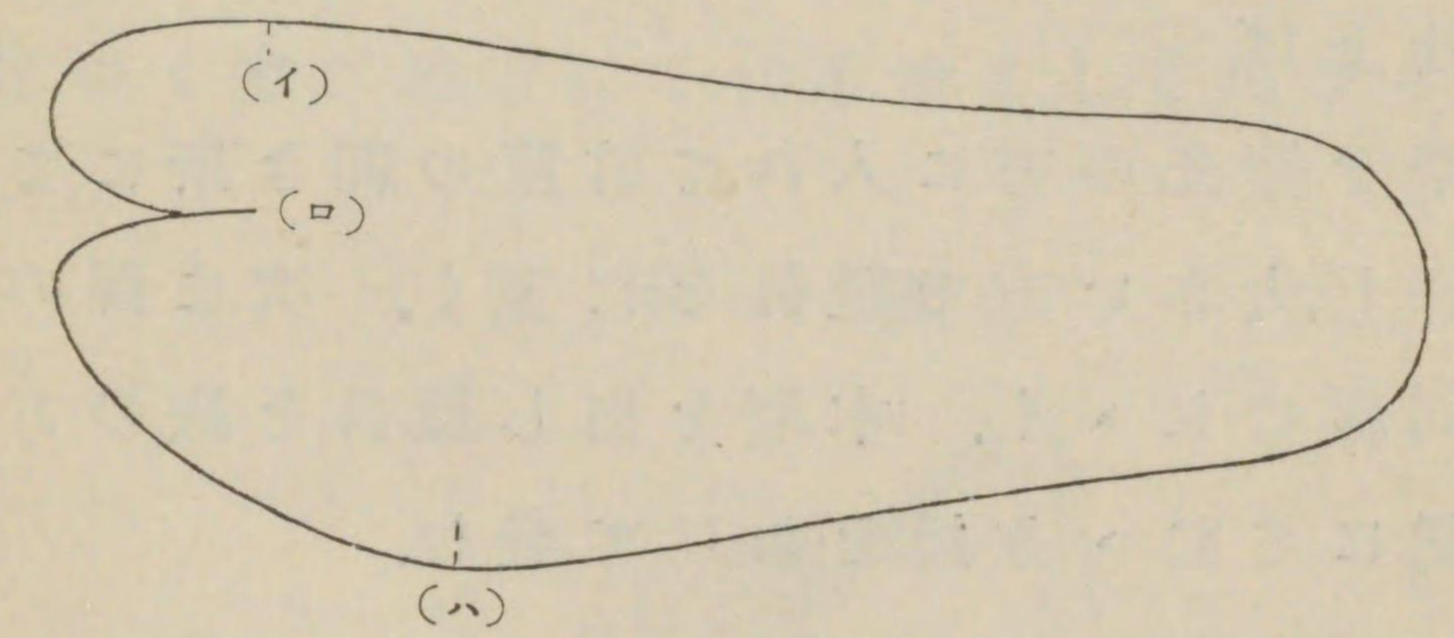
甲と底の釣合



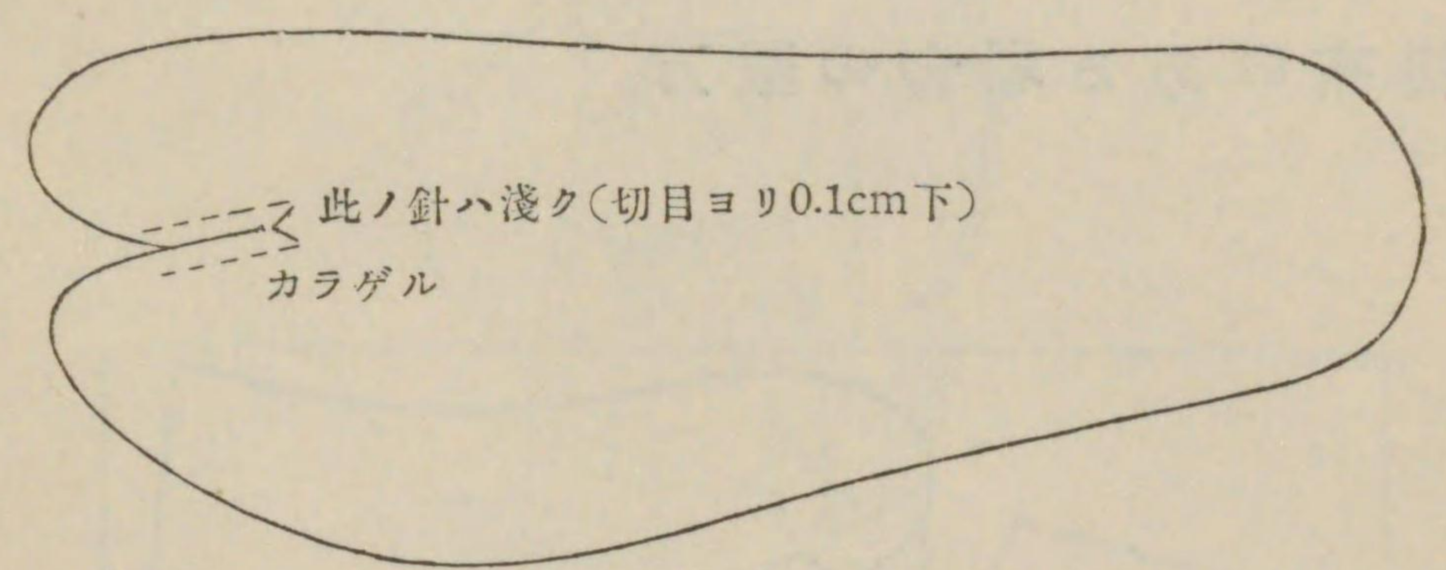


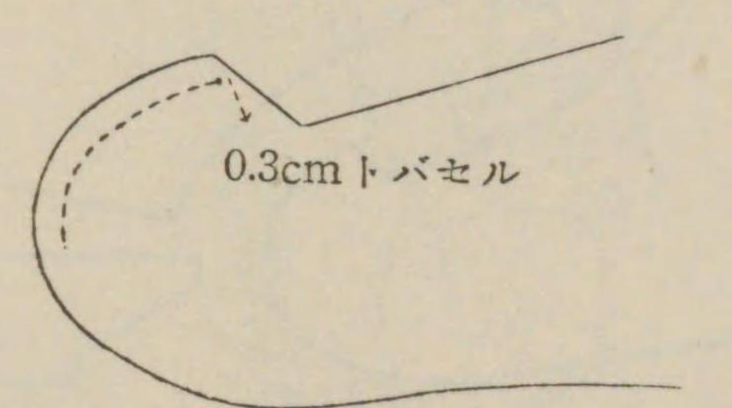
底附

左足を先に縫ふ。二本の縫糸にて底を手前にして下圖の(イ)よりさし針に縫ふ。針目は0.2cm位。



股の所は(ロ)下圖のやうに縫ふ。





注　意……糸を繼ぐ時は底と甲の間に結び目を入れる。

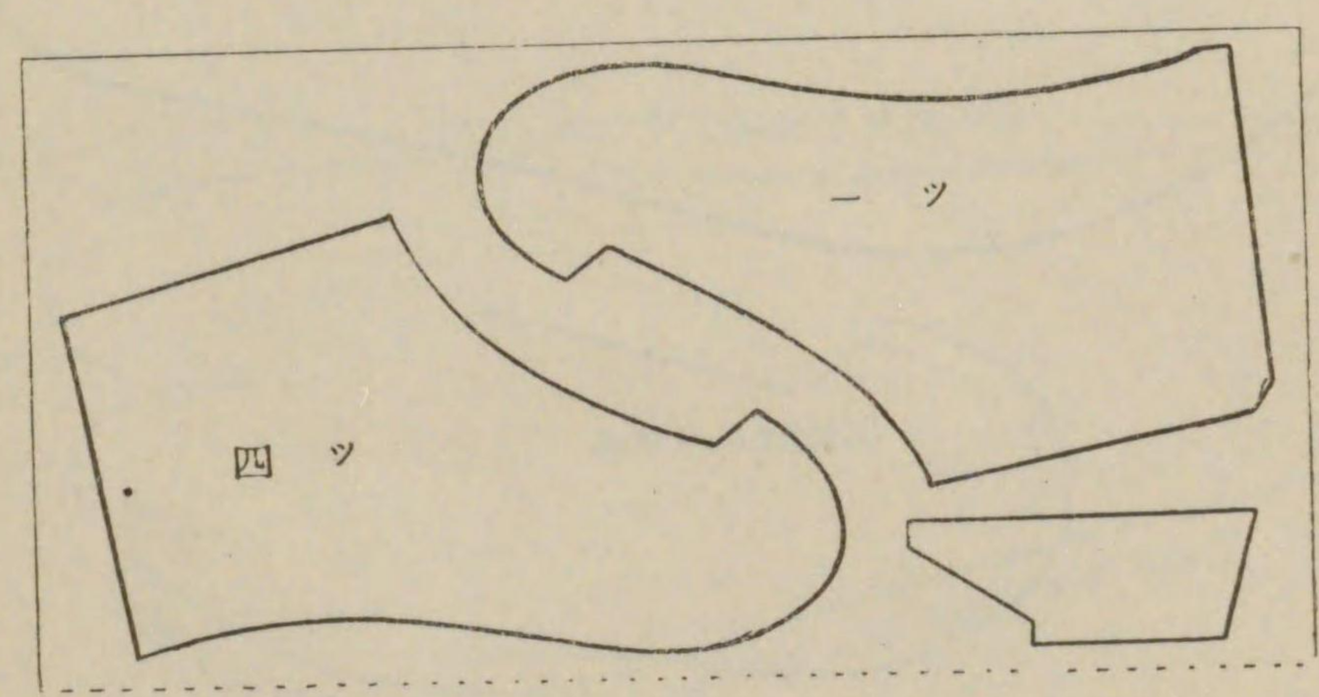
返し方

イセ板とイセ櫛とを以てイセを消し、縫目を手にてこすり柔かにして、先づ踵の方を返して、次に褄先の方を返す。

仕上げ

木型を褄先の方に入れて竹篦の細き所にて股を正し、大きい方で縫目をたゝく。次に踵の方も同様にたゝく。木型を出し縫目を底の方より槌にてたゝき鏝をかけて疊む。

掛布のある場合の裁方



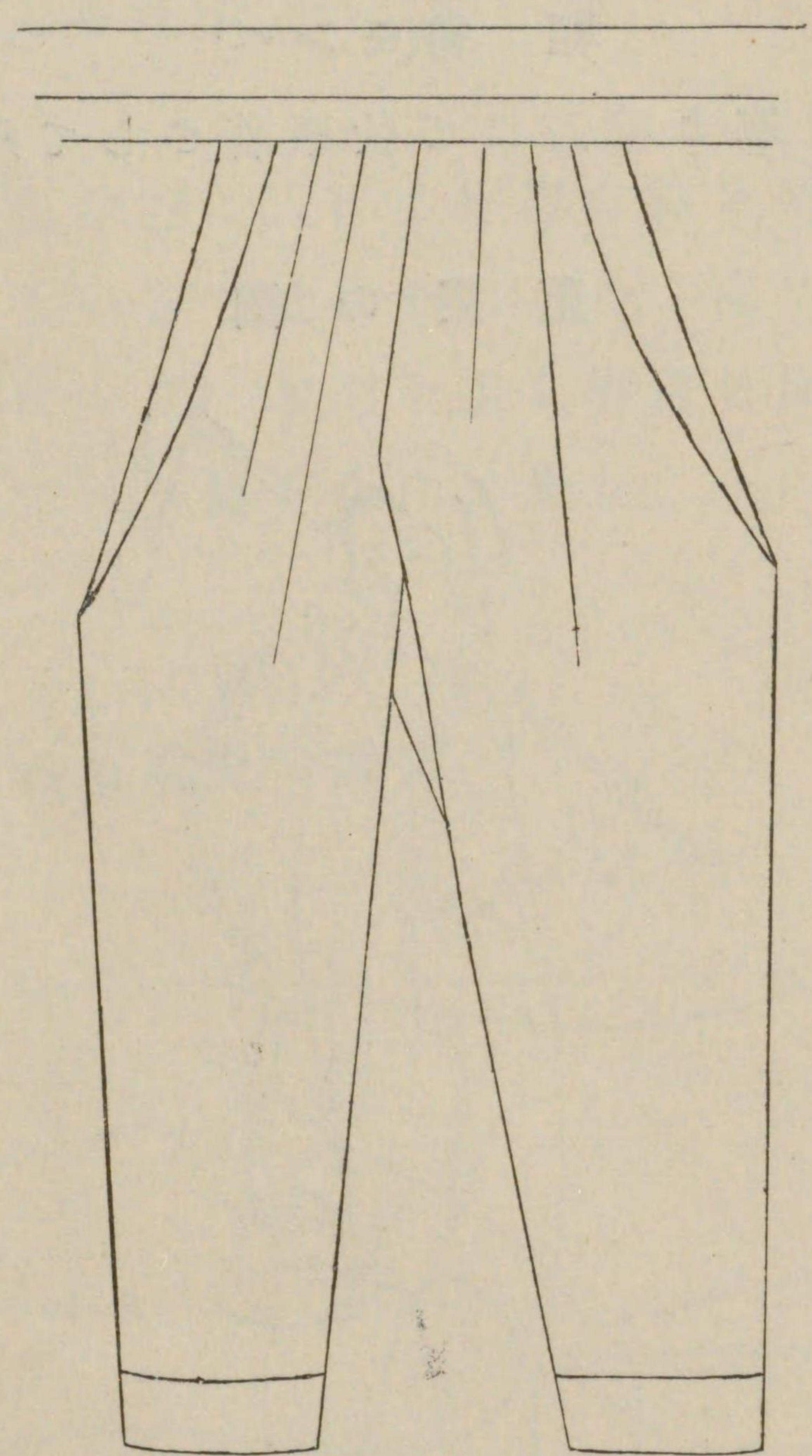
第七節
仕事着
第一項
輕(カル)袴(サン)(モンペ)

降雪多く寒き地方にて仕事着として用ひられる。

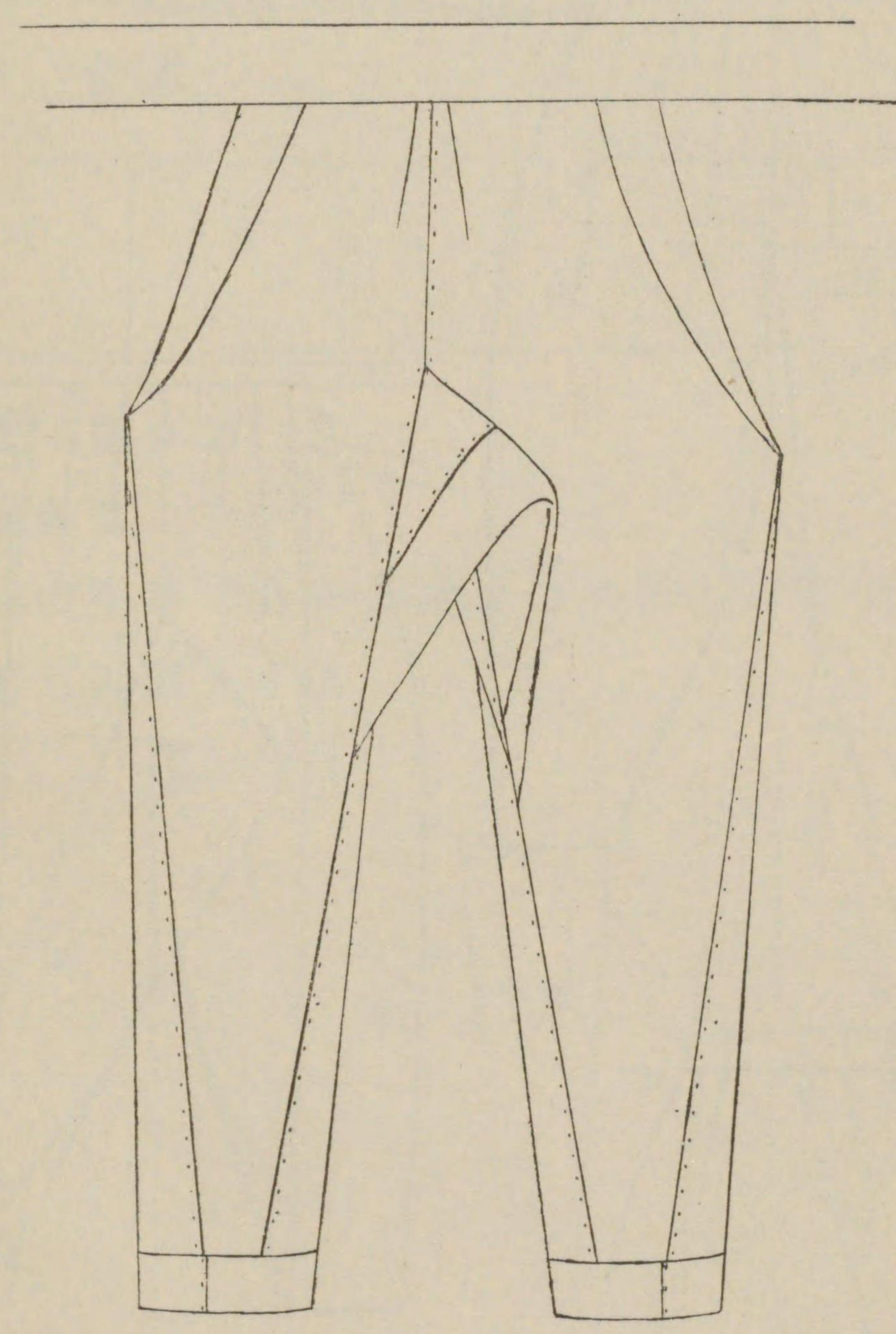
着用の圖

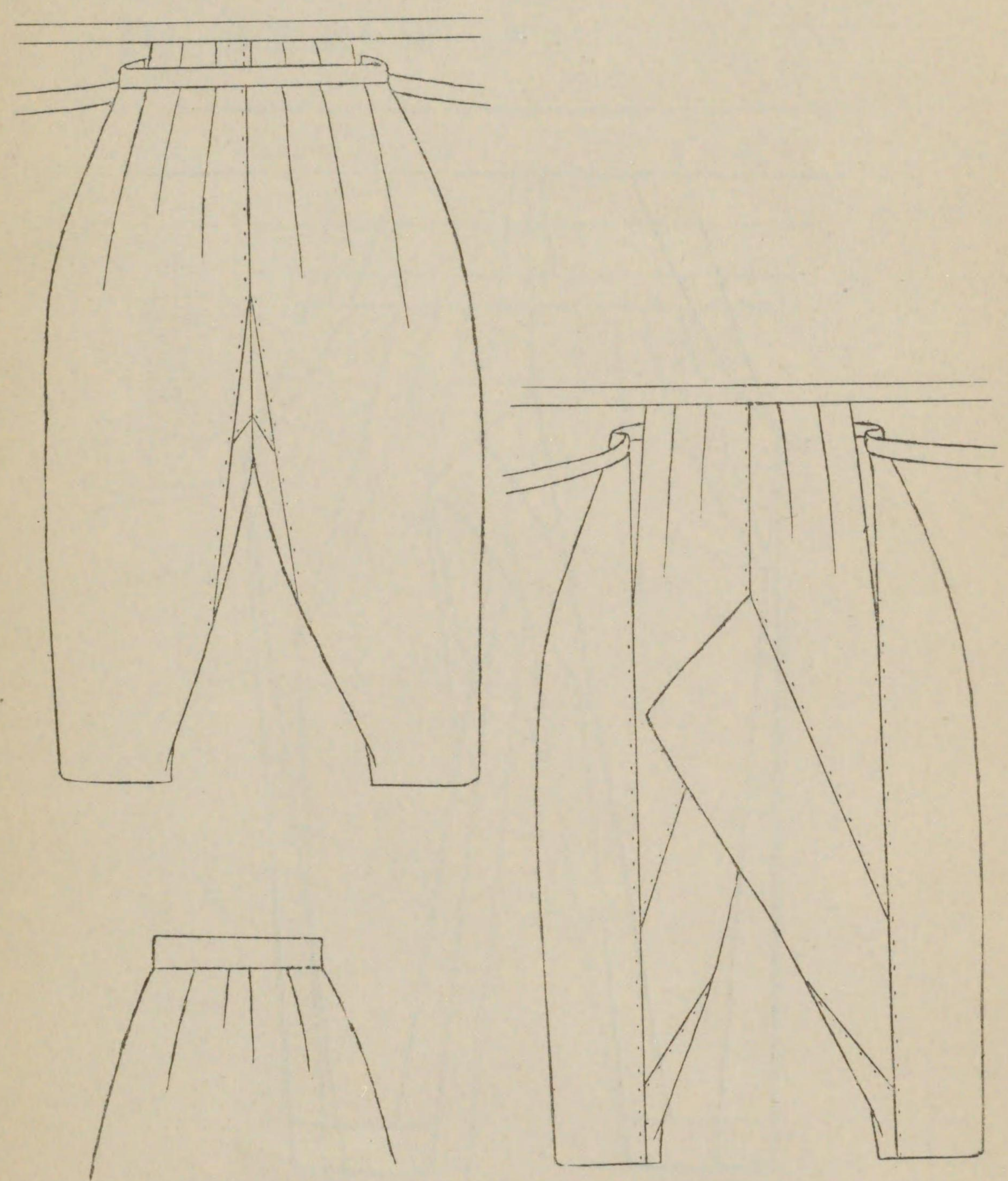


(1) 仕立上り圖



後

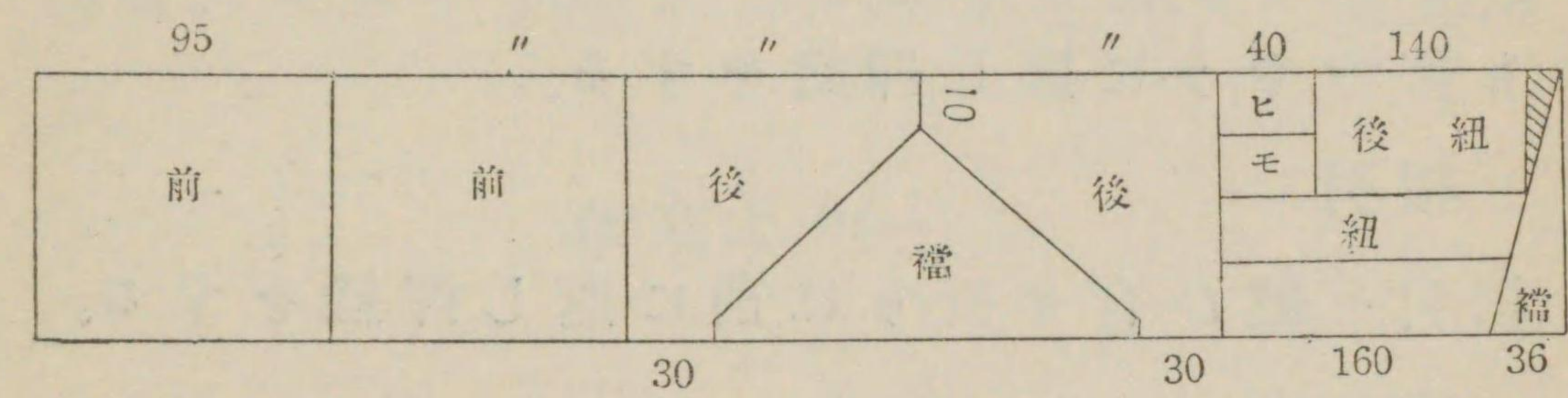




（2） 地質

木綿………縞、無地、絣、別珍。

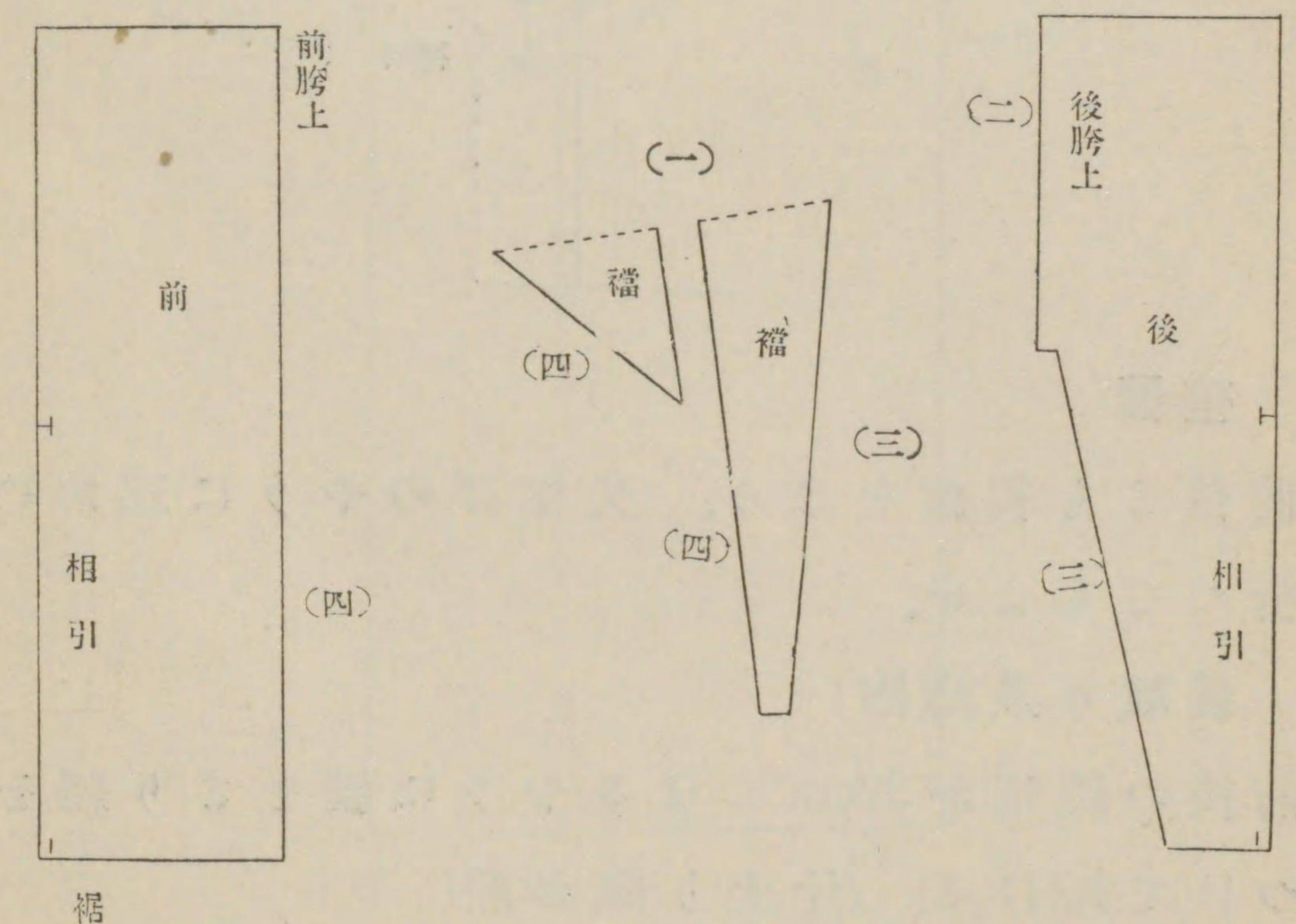
（3） 裁方



（4） 縫ひ方

布合せ

下圖の順序に各布を縫ひ合せ折りは身頃の方に返し抑縫をする



前胯上

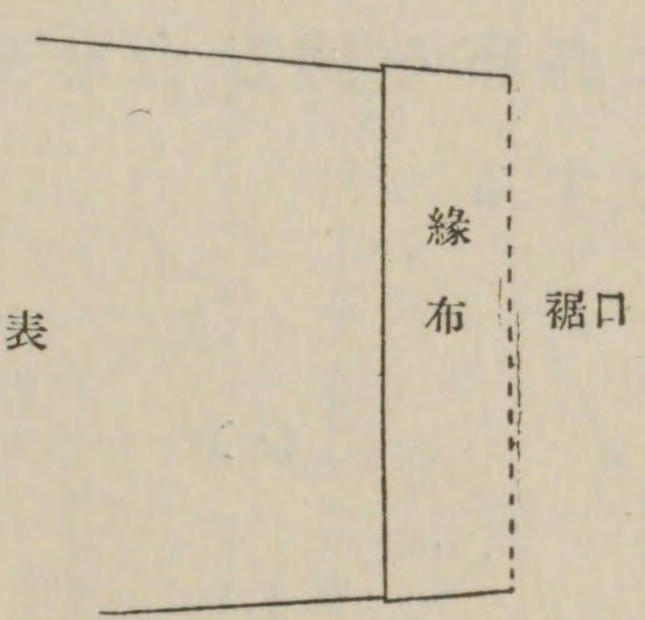
(四)の前布と襠布とを縫ひ合せた殘りは前胯上となる、次にこゝも左右縫ひ合せ折りは前後とも袴のやうに返し、抑縫をする。

相引

相引を縫ひ合せ折りは前に返し抑縫をする。

裾口

裾口に縁布をつける。



笹襞

前後とも笹襞をとる。又なげのやうに三角に折つてもよい。

襞取り及紐附

前後の腰幅が32cmになるやうに襞をとり紐をつけて絎ける。(仕上り圖參照)

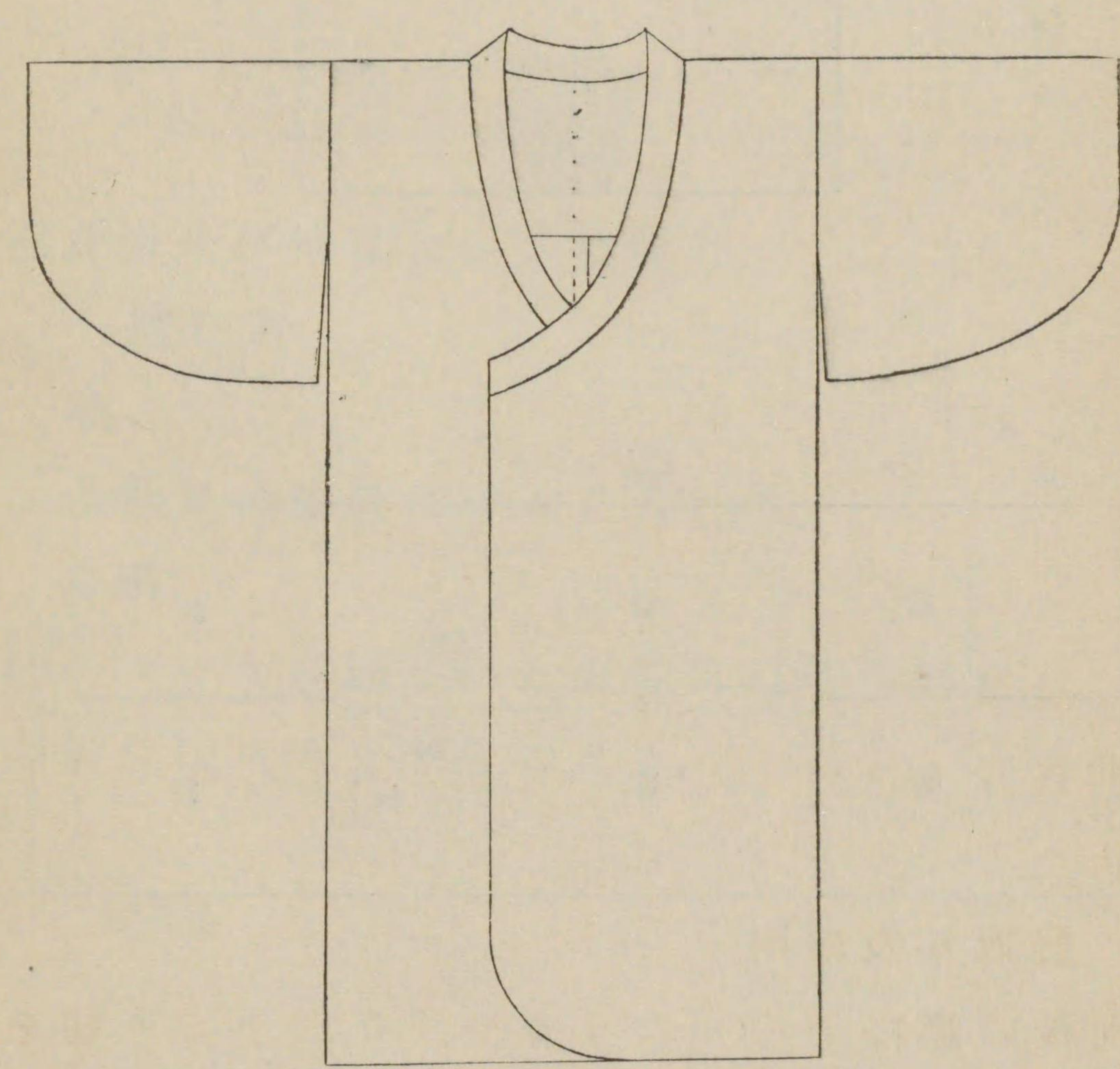
第二項

事務服

地質はモスリン、ポプリン、ギンガム、セル等を用ふ。

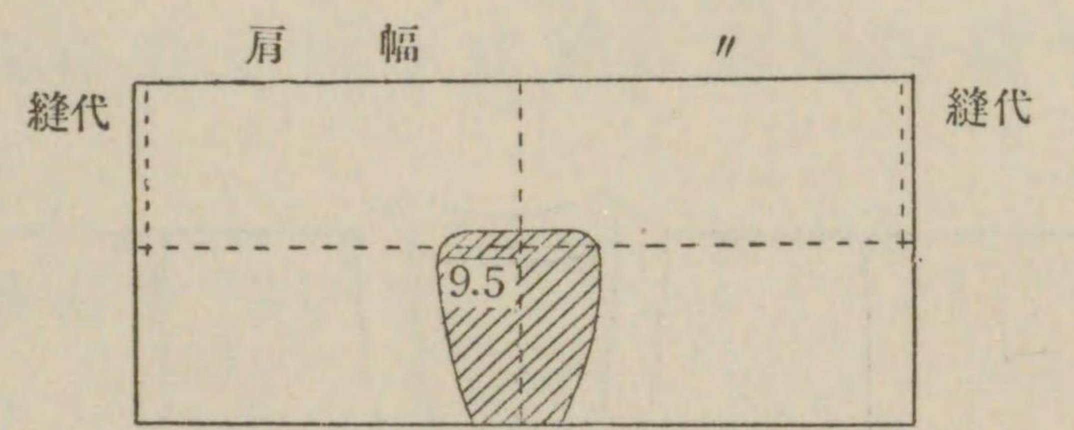
仕立上り(一)

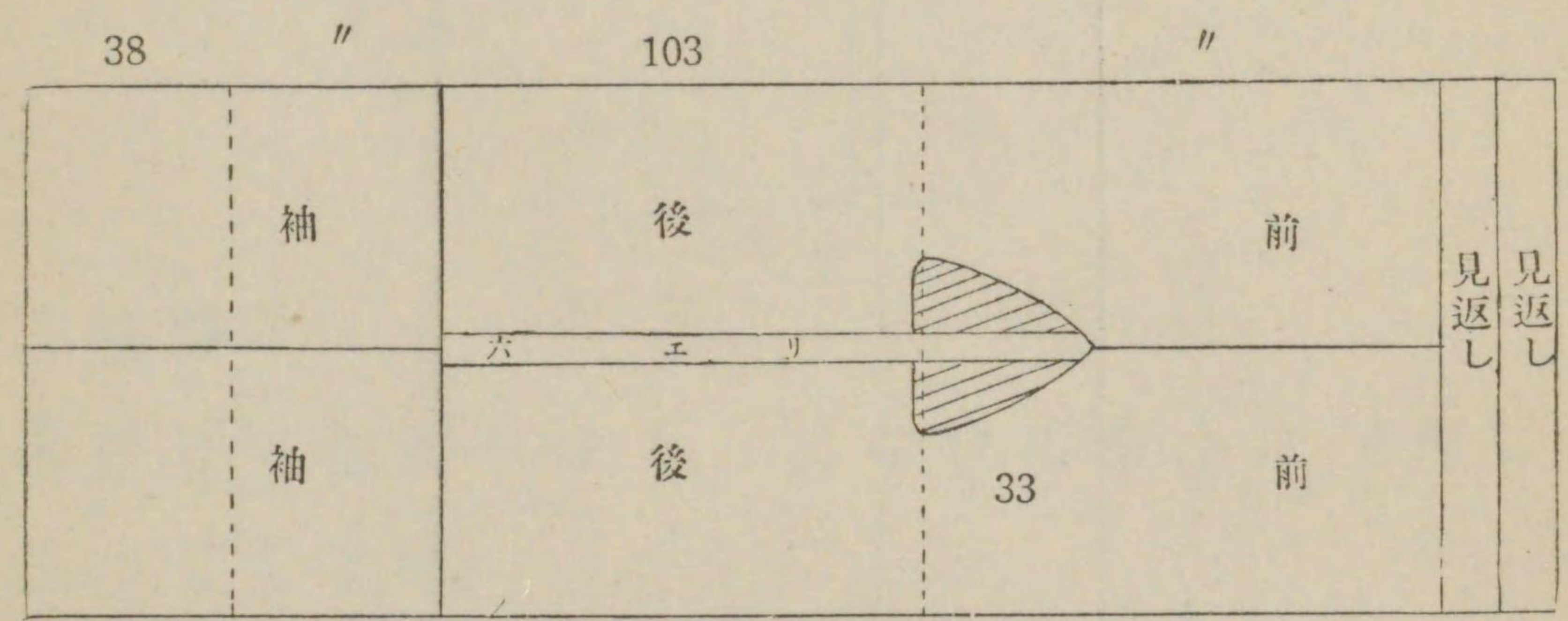
(一)



仕立上り(一)圖の裁方

幅 72cm　　302cm

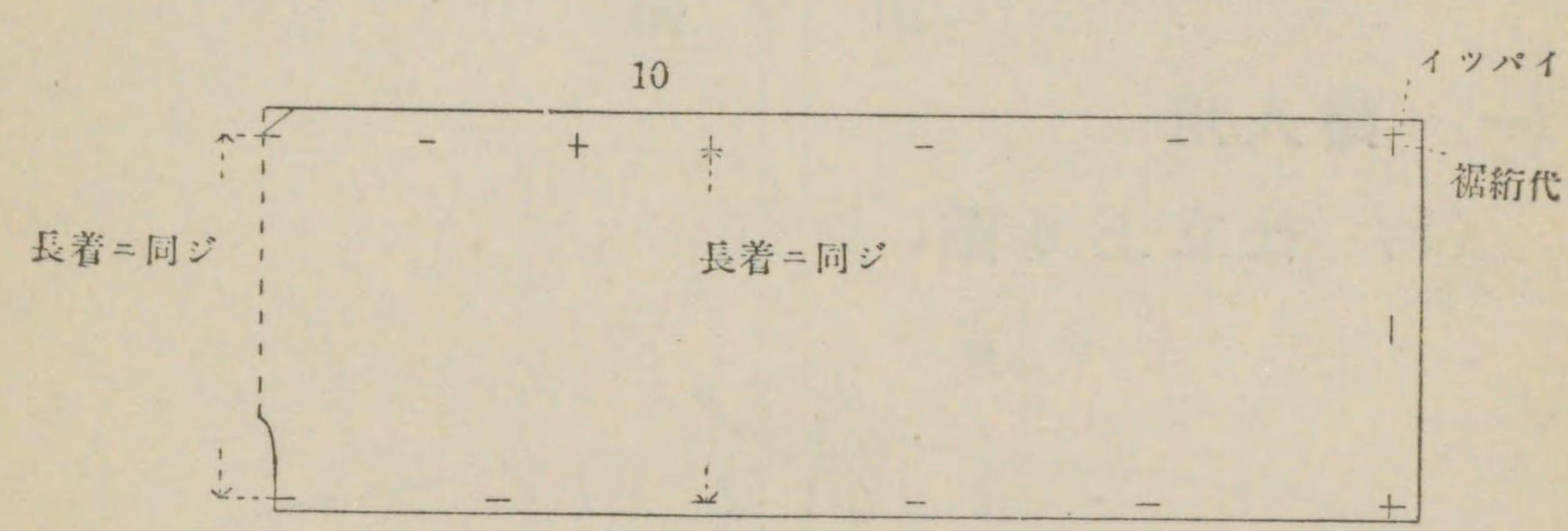




標附け方

身頃

後



前身頃及び衿はコートに同じ。

縫ひ方

袖

元祿袖又は袖口にゴムを入れる。

身頃

衿はコートに同じ。その他は長着に同じ。

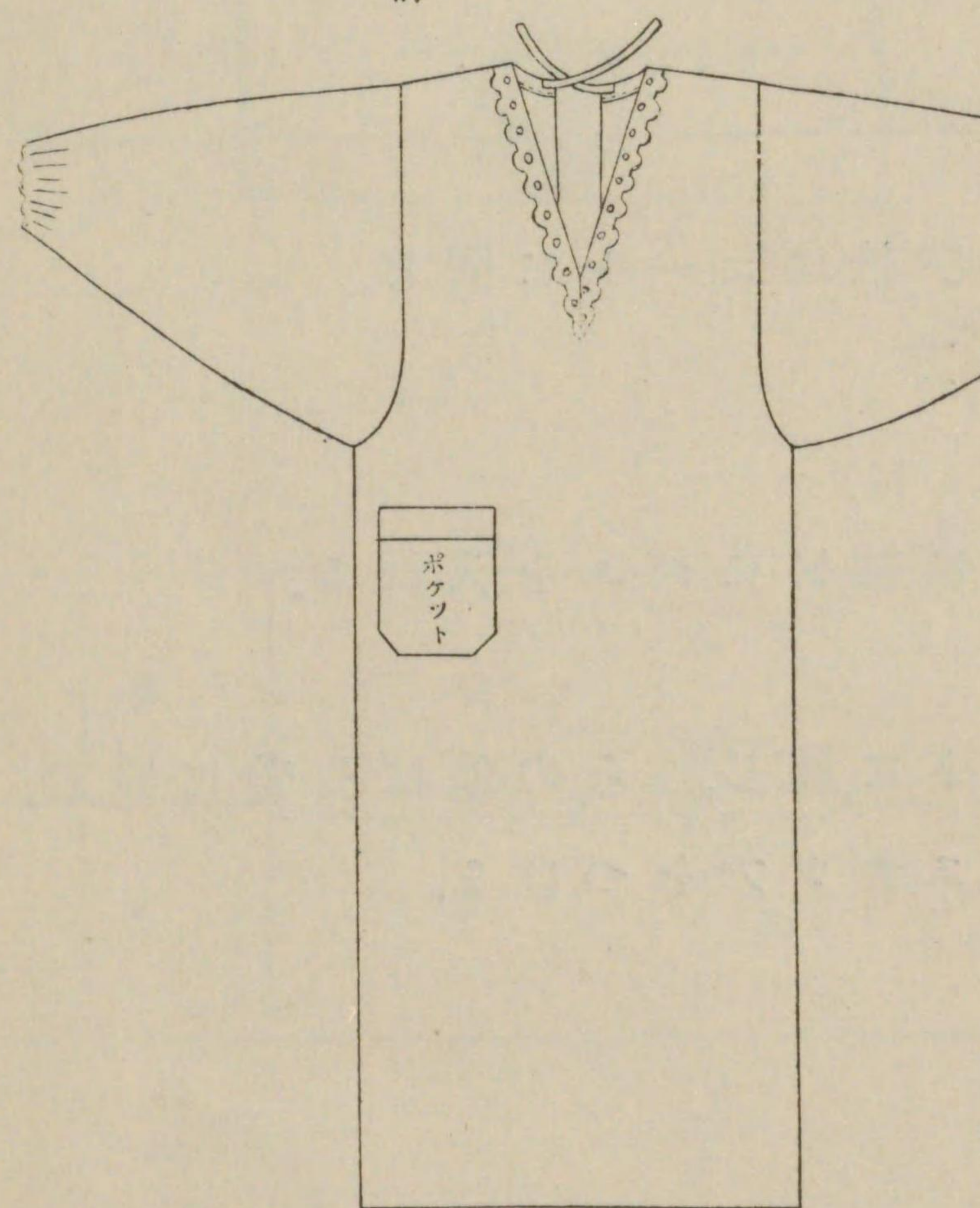
前明にはスナツプをつける。

第八節
前掛及紐類
第一項
前掛

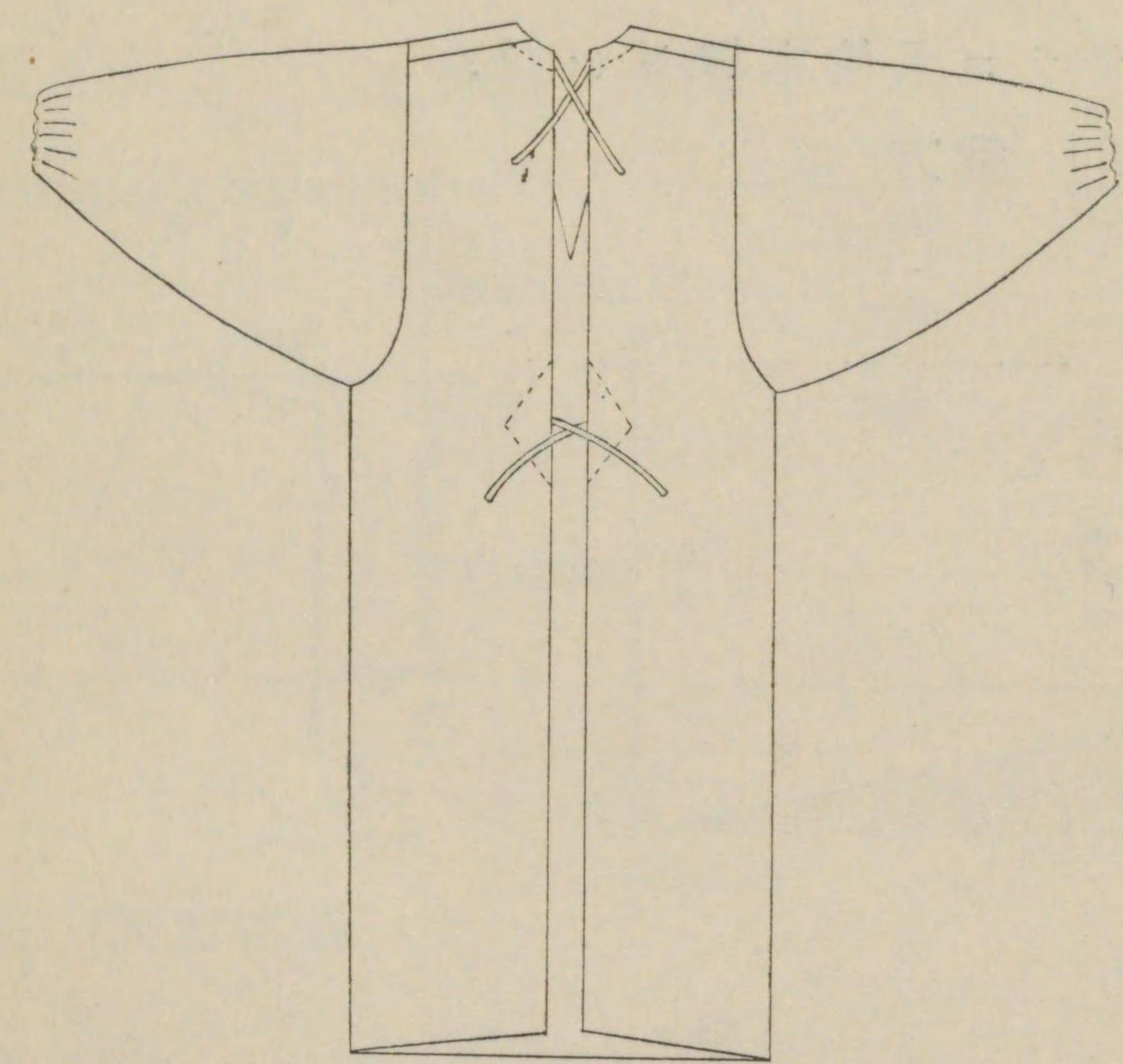
(一) 婦人用

(1) 仕立上り圖

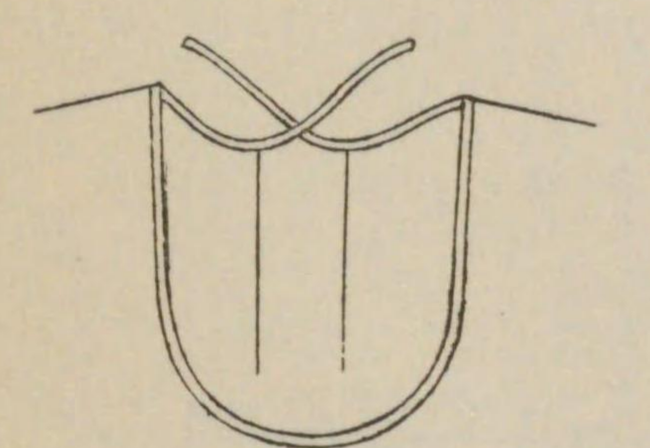
前



後

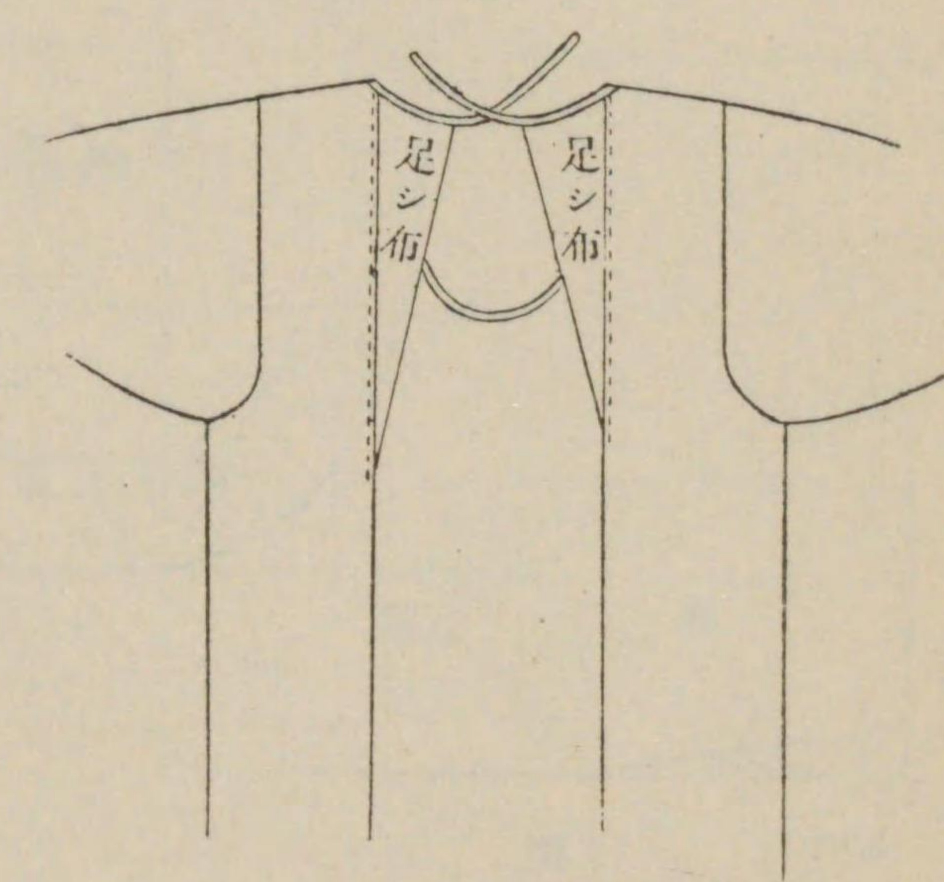


衿ぐり



前

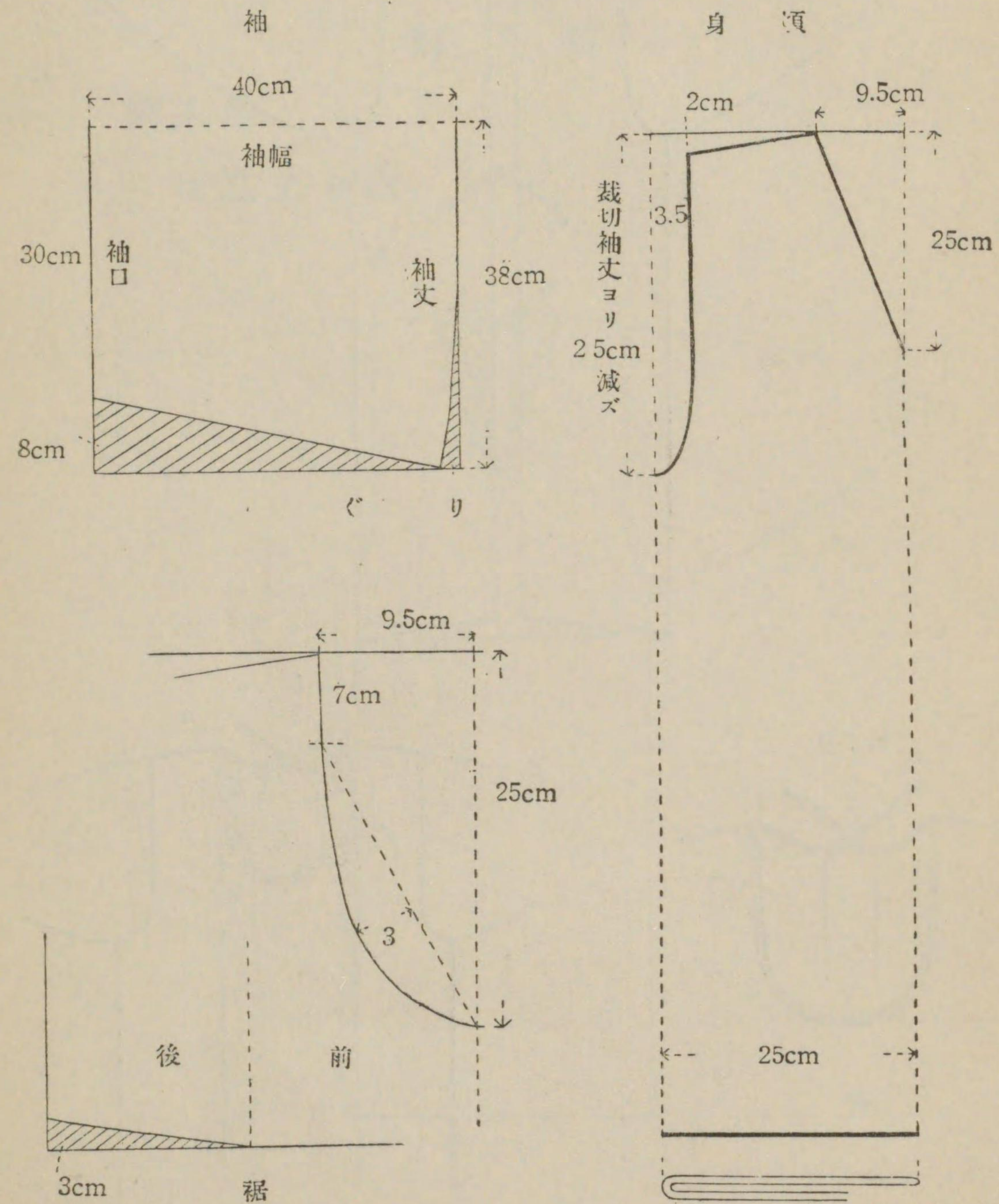
後



(2) 地質

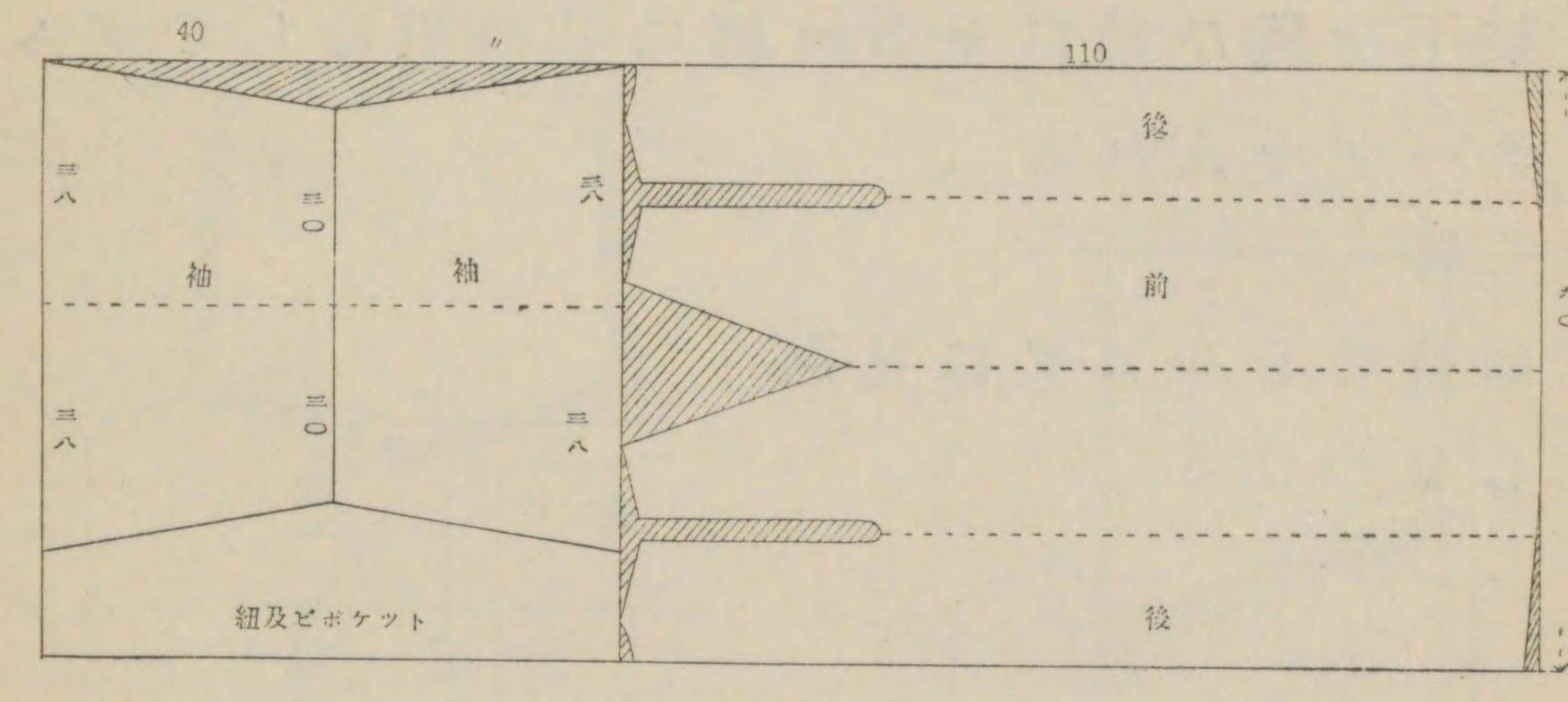
キヤラコ、天竺木綿、ギンガム

(3) 裁方



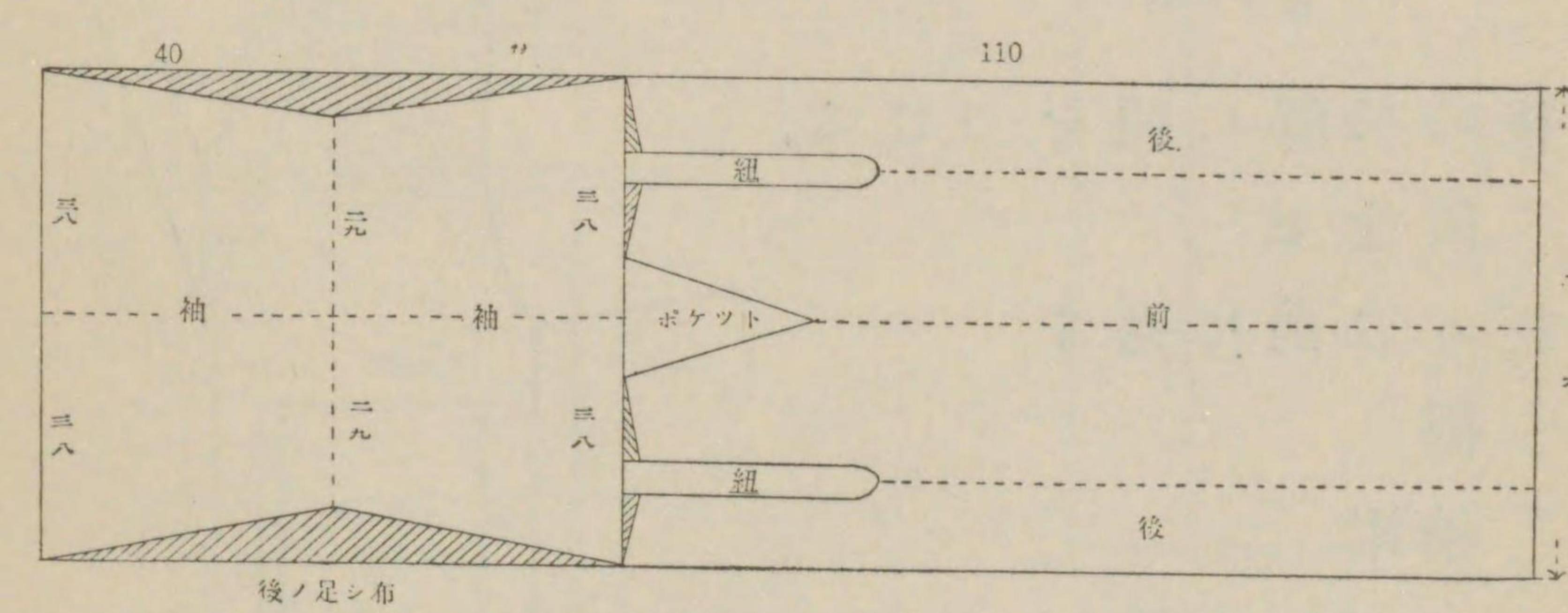
(1) キヤラコ

幅 90cm　　丈 190cm



(2) 天竺木綿

幅 72cm　　丈 190cm



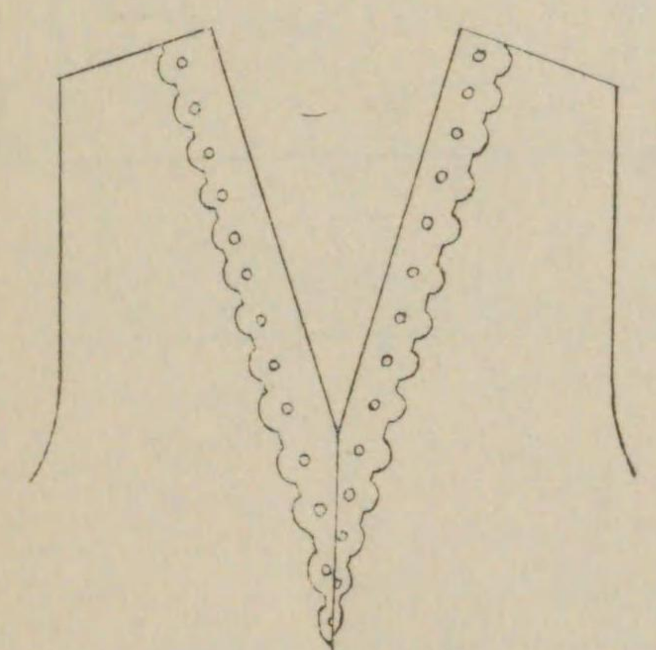
縫ひ方

袖

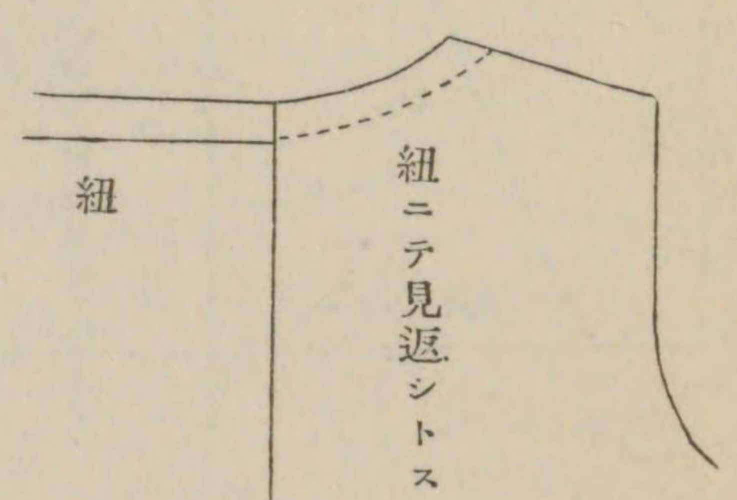
袖下を縫ひ袖口を 2cm 幅に三つ折にしてゴムテープを入れる。

衿

前衿にレース又は見返しをつける。



襞ヲトル



後の衿繰に紐をつける。

肩合せ

折りは前に返す

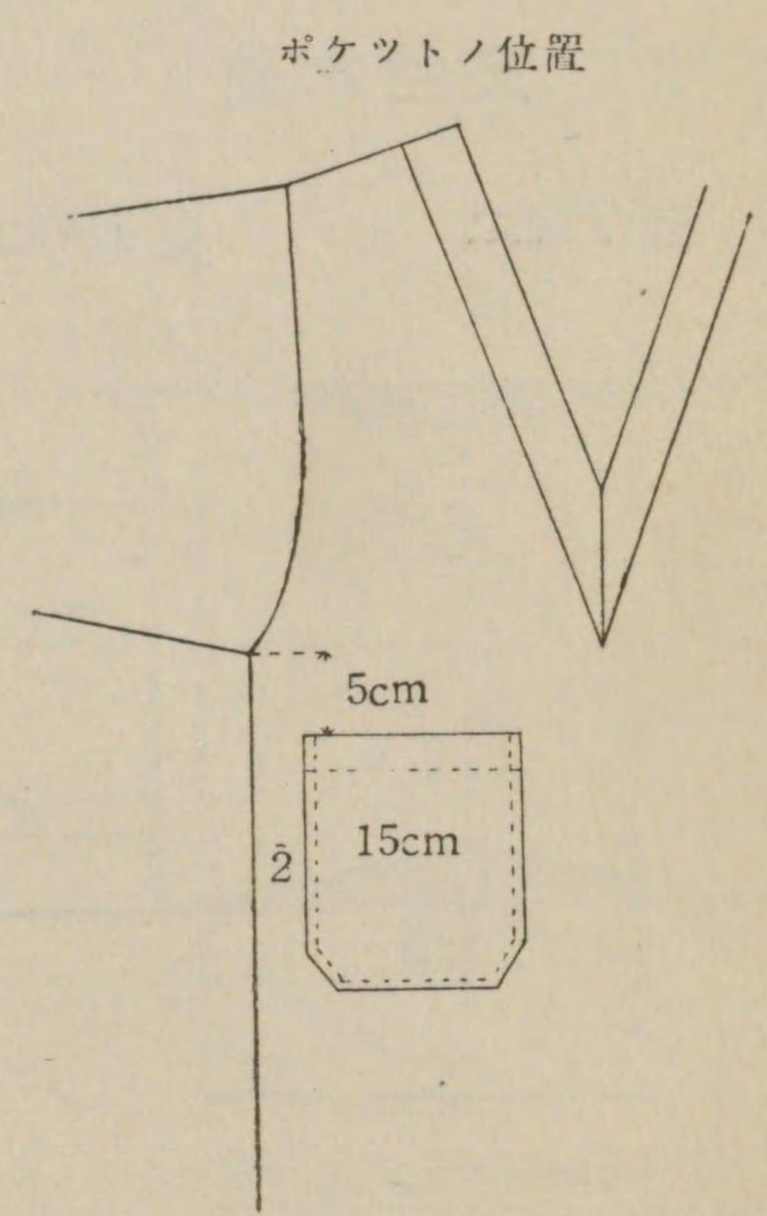
裾

袖附

ポケツト附

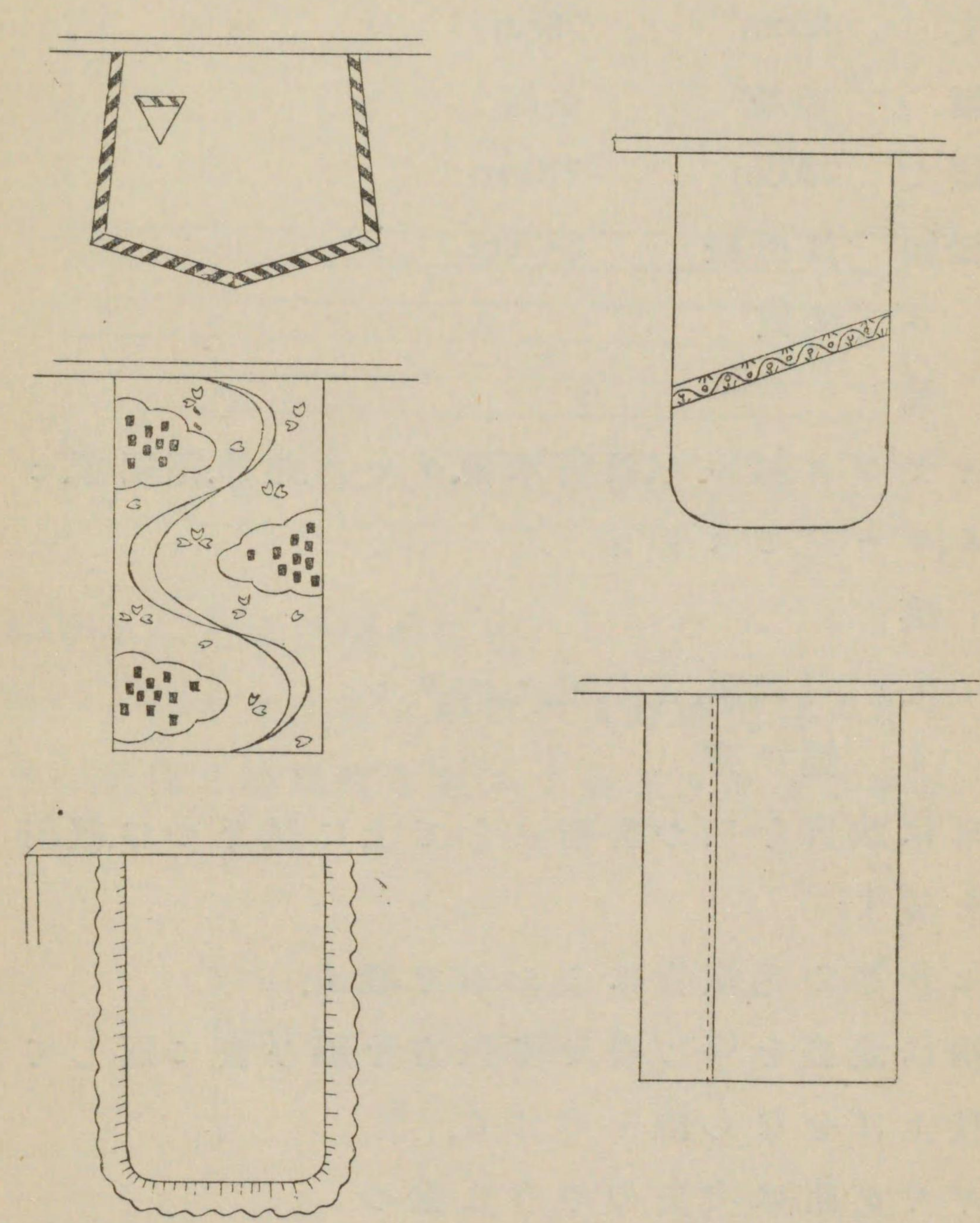
後紐附

(4) 仕上げ



前　掛

(1) 仕立上り圖



裁切寸法

	男	婦人
丈	85cm	75cm
幅	並幅	並幅
紐丈	220cm	210cm
紐幅	眞田紐	5~7cm

（3） **地質**

表

キヤラコ、綿ネル、縞絣木綿、タオル、銘仙、縮緬類、セル、サージ、モスリン

裏

甲斐絹、羽二重、富士絹、モスリン

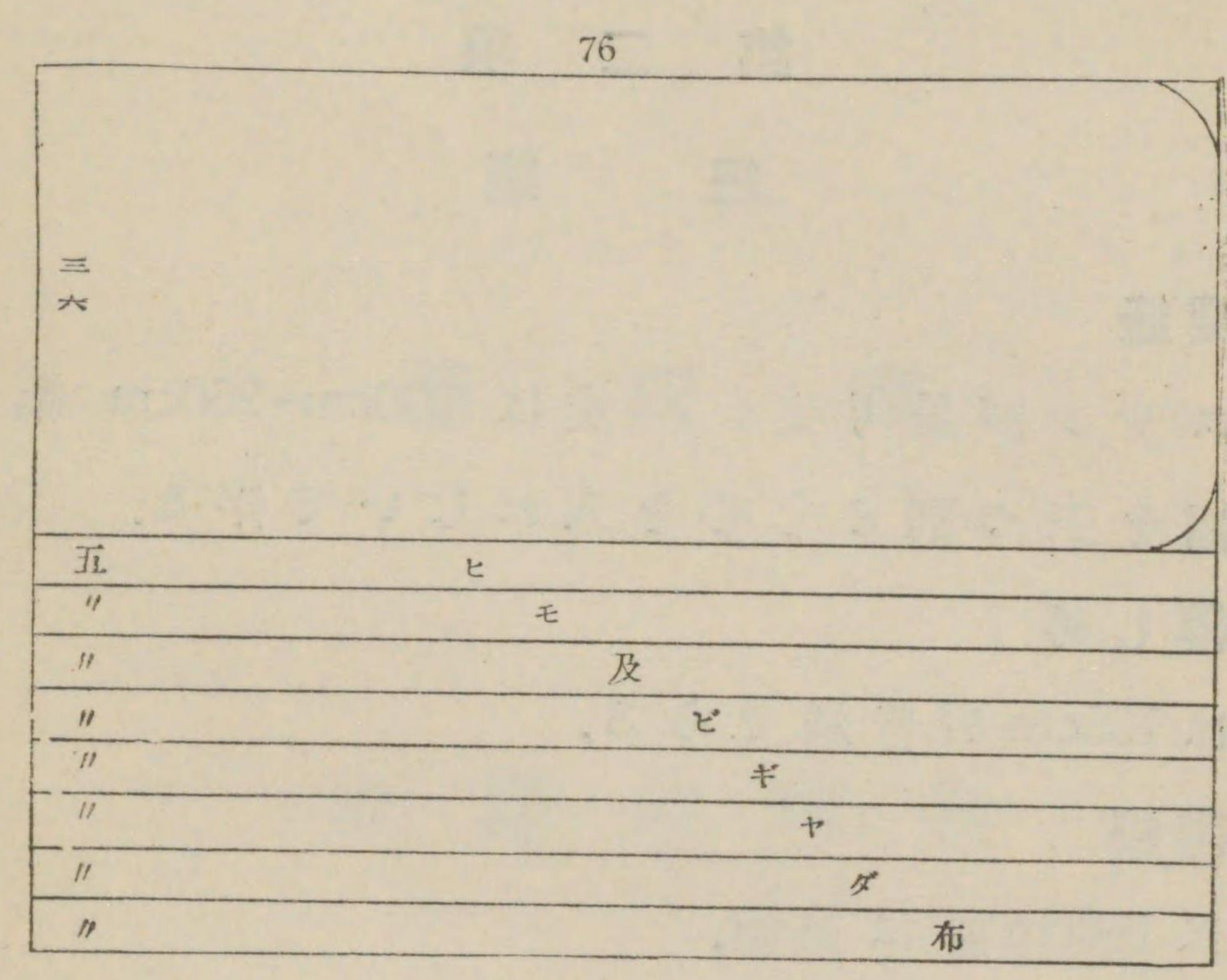
（4） **縫ひ方**

單は裁目を三つ折絎にして上に紐をつけ、紐絎をなす。

セル等の毛織物はミシンで縫ふ。

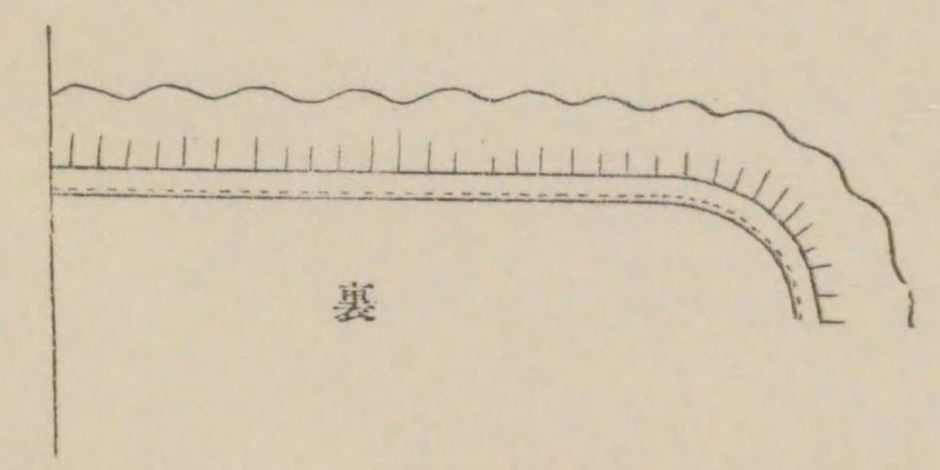
袷は表裏を平に合せて三方を縫ひ表に返して仕上げをなし紐をつける。

ギヤダ附は次頁のやうに裁つ



ギヤダ布丈は周圍の二倍

縫ひ方はギヤダ布を縫附ける時縫代包み布と共に縫合せ後縫代を包みて表よりミシンをかける。



第二項

紐　類

腰紐

モスリンが最もよい。丈は 230cm~250cm 幅は並幅を三つ割こし心を入れないで作る。

帯しめ

丈は135cmが普通である。

帯揚

丈は150cm幅は並幅。

襷

丈は200cm

第四章

衣類の調和

第四章

衣類の調和

すべて衣類は次のやうな事を考へて調製することが肝要である。

1. 着用者との關係
2. 着用の時と場合
3. 衣類相互の調和
4. 附屬品
5. 流行

1. 着用者との關係

衣類は先づ着用者の年齢を考へねばならない。併し同年齢でもその體格が違ひ肥瘠の差があり身長の高低がある。又容貌顔色も樣々であり個性趣味の相違がある。尙身分地位職業の違があり環境の相違がある。これらの事柄は皆衣類選擇の目標を限定するものである。

年齢

一般に老人小兒用は輕い軟かい地質を選び色

柄は長ずるに從つて地味なものを用ひるのが我が國の風習である。殊に既婚者は落ち着が必要であり、母としては母らしさが必要である。年齡に比して甚だしく衣類の派手なのは淺薄の感じを與へる。隨つて仕立に際して寸法も考へねばならない。即ち長ずるに從ひ漸次袖丈は短かく、袖附は多くする。

體　格

一般に肥つた人はその肉體の感じがはつきり出る地質は適しない。又淡い色、横に強い柄等は一層その缺點を強調するものである。身長の低い人は縱に強い柄を選べばその缺點を補ふものである。

容貌、顔色

例へば愛くるしい容貌の人が可愛らしい色柄を用ひれば一層愛らしくなり、その人の長所が強調される。強い顏の人がやさしい感じの色柄を用ひればその人の短所が補はれる。又顏色の黑い人は一般に淡い色、明るい色は適しない。赤黑い人は赤い色は適しない。

個性、趣味

趣味は個性の一部をなし、個性は容貌に表現される。隨つて自然各自が個性に應じた色柄を選ぶもので、それが即ち人々の好みである。例へば江戸つ子のいき好み、茶人の澁好み、上流社會の人々の古典好み等これである、こゝに趣味の向上個性の修養が必要である、

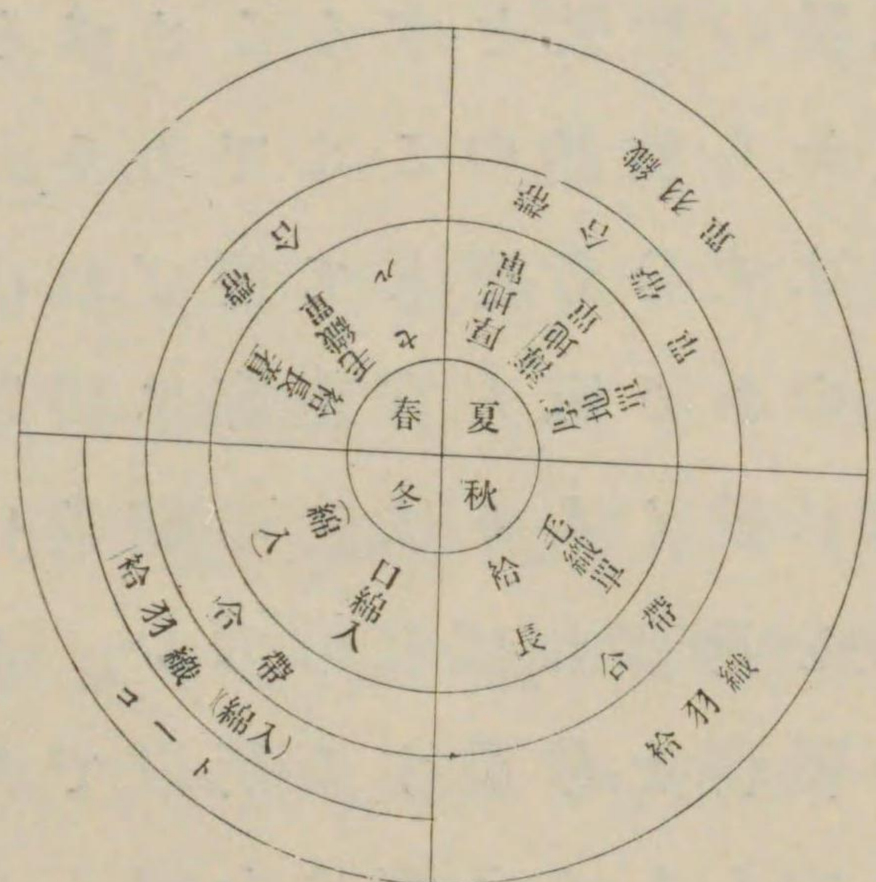
身分、地位、職業

身分、地位に相當な服裝を選び、職業に便利なものを選ばねばならない。身分不相應な服裝をすることは經濟生活の上から不合理であるばかりでなく、鵜の眞似する烏の類と見られる、併し地位相當の服裝をすることはその人の品位を保つ上から當然のことである。又職業によつて服裝は充分考慮して選ばねばならぬ。例へば服制のある軍人、官吏等は問題ないが農工商の實業に就く人々は之の職業に最もふさはしいものを選ばねばならない。これ與へられた自己の職務を尊重する所以である。隨つて學生は學生らしく、令孃は令孃らしいものを

選んでその體面と品位とを保たねばならない。

2. 着用の時と場合

衣類は又季節によつて地質、色柄を考慮せねばならない。季節と地質に就ては大體下の表に示すやうである。色は春向としては明るいやはらかみのある春らしい感じを表はすものがよい、夏向としては涼しさうなもの、秋向としては春に比べて落着きのあるもの、冬向としては濃い色で暖かみのある色がよい。柄は夏物は別として春秋冬通じて用ひられるものを選んで出來るだけ衣類の數を少くするやうに考慮することが肝要である。



衣服は言語と同様に思想の表現と見らるゝものであるから用ひる場合によつて考へる。即ち働らく場合、休養の場合、訪問の場合、集會の場合等によりその意を表するやうに心掛けるがよい、例へば働らく場合は充分働ける扮裝に、休養の場合はゆるやかに、儀式の場合は嚴肅にしかも充分吉凶の意を表すもの、訪問の場合はその訪問の要件によつて考慮し、先方に對して失禮にならぬもの、客を招待した場合には客より勝さらぬ心掛け、集會の場合には華かにならぬやう各自相互に注意せねばならぬ。隨つて働き着には活動に最もふさはしく出來るだけの能率を擧げるやうなものを選ばねばならないが、儀式の場合には禮服の所で述べたやうに我が國古來の服裝によるがよい。又休養服、訪問服、家庭着等はゆるやかな落着いた我が國家庭にふさはしい和服を用ひるがよい。

3. 衣類相互の調和

衣類には長着、襦袢、帶、羽織、袴、仕事着、其他種々あるが着衣中の主體をなすものは長着である。隨つて先づ前二項に述べたやうな意味で選び袷綿入等は表を主とし之に配する裏の調和を考へ次に帶、羽織、長襦袢、半衿等を之に配して相互の地質色柄の調和を考へることが大切である。例へば半衿一つで全體の調和を破る事もあり帶止で全體を引しめる事もある。

表裏の取り合せ

女物袷綿入長着………のやうに裾廻奥裏のつくものは一般に表と裾廻とは同程度の地質を用ひ裾廻は表より明るい派手な無地物を用ひる。奥裏は表及裾廻より劣つたものを用ひるのが普通である。

男物袷綿入長着………は一般に丈夫な裾廻を用ひ縮緬類は用ひない平常着は通し裏にする事が多い。

袷綿入羽織………も表裏同程度の地質を用ひる

が特に辷りのよいものを選ぶ。色柄は表布より派手な横柄のものが多い。又特に繻珍緞子のやうな織り出した模樣もある。羽二重等模樣を染め出したものもある

相互の調和

(イ) 地質

之まで取扱つたやうに種々な地質があり各地質は各々獨特の持味がある。その特徴を充分發揮するやうな使ひ方をすることが肝要である。例へば中形浴衣地、絞り等は他に見られぬ我が國夏季情調を現出するものである。紺絣白絣はさつぱりして何處かに堅實さを持ち我が國民性に合致したものである。隨つて男兒の衣服として今日も廣く用ひられてゐる。銘仙類は實用向の絹織で四季を通じて用ひられ久しく且つ廣く用ひられて居るものである。大島類は落ちついた澁さがその持味で男物の揃ひの長着羽織などには極めて適したものである。女物にも平常着等目立たない場合の衣類としてよい。その上等品は結城紬とともに

凝つたものである。御召類はごつしりとした重みがあつて色柄は様々なものがあり晴着によい。縮緬類にはその織り方で古濱錦紗,壁,鶉縮緬,縦しぼ,其他様々のものがあり更に各々の紋織になつたものがある。その重みとしなやかさは織物中の第一位で女性の曲線美を表現するには最も適したものである。隨つて主として女物の羽織に最も多く用ひられる。又染色によつて好みの色柄にかへることが出來ることは又その特色である。羽二重類は重みと嚴肅さを現す點では又織物中の第一位で男性美を表現するに最も適したものである。(禮服參照) この冬季用羽二重に對して夏季用には絽紗類があり嚴肅さを失はずしかも凉しさを持つものである。次に絽縮緬の類は絽紗の類と縮緬類との兩方の味を兼ねて夏季の女子用として用ひられる。明石,上布等は特に輕快で見るから凉しさうな薄地のもので盛夏用に適してゐる。帶地でも繻子と博多,或は羽二重は最も廣く用ひられるものであるがその持味は

各々異つて居る。

之等の各地質の持味を適所に按配することが大切である。例へば中型浴衣,絞りの單長着には23cm幅くらゐの單帶か半幅帶をあつさり輕くしめた方がよい銘仙,セル等の長着には富士絹,レーヨン,羽二重等の合はせ帶を用ひ,銘仙類の單長着には絽の合はせ帶,單帶を用ひることもある。大島類は羽二重及び織物類の合はせ帶を用ひ,その上等品及び結城紬,御召,縮緬類には織物類の帶及び袋帶鹽瀨丸帶等を用ひる。

男袴は使用範圍が狹く布地の種類も多様でない。平常用としては冬季にはセル,御召平,紬平等夏季には絽平を用ひる。尙儀式用參照。

次に羽織は銘仙類長着には銘仙紬類,大島には同地質又は無地御召縮緬類,大島の上等品結城紬,御召,縮緬類には,女物には縮緬,男物には無地御召綾糸織羽二重がよい。

袷長襦袢は平常着用としてはモスリン,紬類富士絹,レーヨン等,晴着用としては縮緬類,紋羽二重類を用ひ,單長襦袢は平常用としてはモスリ

ン、レース、麻、ボイル等、晴着用としては絽及び絽縮緬、ベンブルグ等を用ひる。半衿は常に長襦袢より上等品が用ひられ冬季は縮緬類夏季は絽縮緬、紗、麻が用ひられる。

(ロ) 色の調和

色の調和は衣類相互の調和の上に最も重要性を持ち萬金を投じたものでも色の不調和の爲に瀟洒な浴衣着に及ばない取り合はせが往々ある。色の調和は色の配合、色の明暗の差、色の廣狹、色の數に就て考へねばならない。

色の配合……には同色の配合と異色の配合とあり、異色の配合には類似色配合と反對色の配とある。而して同色配合及び類似色配合はおとなしい無難な配色であるが强味がない。反對色配合は明瞭であるが强過ぎることがある。

色の明暗の差……色には紫と黄のやうに暗い色と明るい色とある。同色にも濃淡の差がある。而して二色以上を配する場合明暗の度が同じ程度の場合には無難であるが、甚だしく差がある。場合には强過ぎることあがる。

色の廣狹……二色以上を配する場合には各色の面積により配合及び明暗の關係に又種々の異る感じを作り出すものである。隨つて長着と半衿、帶、羽織等その面積による色の選び方が大切である。

色の數……色の取り合はせに於いてはその種類が少い程容易で複雜な程困難である。

色の調和……色の配合、明暗、廣狹、數の關係が全體として快感を與へるものは調和がよい。以上色に就ては圖参照。

(ハ) 柄

色と柄とは我が國服裝美の生命で古來染織工藝は獨得の發達をなし來つたものである。隨つて柄にも種々の傾向がある。例へば古典的な柄、いきな柄、西洋趣味の柄等はこれで甚だしく異る傾向の柄を配すれば不調和は免かれない。又派手さ加減も全體に統一が必要である。一般に半衿、帶、帶止、帶揚等は着物より派手な明瞭な色柄を用ひてその裝飾的効果を充分ならしめやうとするものである。

4. 附屬品

衣類の調和の延長はやがて風呂敷、ハンドバツク、履物、ショール、洋傘、傘、指輪等の附屬品にも及び服飾全體から觀なければならない。

要るすに………衣類は着用者の長所を强調し短所を補ふやうなものを選び衣類相互の調和を考へて綜合美の立場から觀なければならない。隨つてその人の個性により衣類の選び方により高雅な人、すつきりした人、いきな人、澁い人、凝つた人等樣々の服裝美が現出するわけである。其所に面白い世界がある。併し服裝美は孤立するものではなく。その背景に左右される。晝間引立つたものも夜映えない場合があり。冬枯の頃さ春酣の頃とは衣類の色が違ふのが自然である。又同伴する場合には相互が映えあふものを選ぶがよい。

尙調和に就ては充分考へられてゐても衣類の着方は調和に關係するこさがある。又垢づき綻ろび、損じたまゝのものを用ひるやうなのは

如何なる調和を以てしても償い難い缺陷さいつてよい。

5. 流行に就て

流行は何さなく大衆の向ふ所で或魅力さ潜勢力さを持つてゐる。即ち人は向上心から新しい進步的なものに魅せられるこさもある。

同じやうな狀態に倦態を感じて何さなく新鮮な刺戟に惹かれるこさもある。この心理狀態に模倣性が働いて流行さいふ潜勢力さなつて行く。隨つて大衆の動きは理智ばかりではない。單なる感情的模倣の場合もある。その中文化的價値のあるものは生命が永く社會の趨勢さなつて時代相を動かす力さなる。併し一時の流行に止まつて永續しないものもある。これらの差別を熟慮して輕々しく流行に走らず健全なる文化生活を營むこさは自己の品位の上からも家庭生活、國民生活の上からも極めて大切なこさである。

附　夜具蒲團類

夜具蒲團の類は一種の衣類であるがその調和は着用者及び時と場所との關係よりも調度として部屋との調和が大切である。

現代和服裁縫書　卷五終

鯨　尺——米（一）

1 分＝0.3788 糎
1 寸＝3.788 糎
1 尺＝0.3788 米

鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法
分	糎	寸	糎	寸	糎	寸	糎
1	0.3788	3.1	11.7428	6.1	23.1068	9.1	34.4708
2	0.7576	3.2	12.1216	6.2	23.4856	9.2	34.8496
3	1.1364	3.3	12.5004	6.3	23.8644	9.3	35.2284
4	1.5152	3.4	12.8792	6.4	24.2432	9.4	35.6072
5	1.894	3.5	13.258	6.5	24.622	9.5	35.986
6	2.2728	3·6	13.6368	6.6	25.0008	9.6	36.3648
7	2.6516	3.7	14.0156	6.7	25.3796	9.7	36.7436
8	3.0304	3.8	14.3944	6.8	25.7584	9.8	37.1224
9	3.4092	3.9	14 7732	6.9	26.1372	9.9	37.5012
1.0寸	3.788	4.0	15.152	7.0	26.516	1.00尺	37.88
1.1	4.1663	4.1	15.5308	7.1	26.8948	.01	38.2588
1.2	4.5456	4.2	15.9096	7.2	27.2736	.02	38.6376
1.3	4.9244	4.3	16.2884	7.3	27.6524	.03	39.0164
1.4	5.3032	4.4	16.6672	7.4	28.0312	.04	39.3952
1.5	5.628	4.5	17.046	7.5	28.41	.05	39.7740
1.6	6.0608	4.6	17.4248	7.6	28.7888	.06	40.1528
1.7	6.4396	4.7	17.8036	7.7	29.1676	.07	40.5316
1.8	6.8184	4.8	18.1824	7.8	29.5464	.08	40.9104
1.9	7.1972	4.9	18.5612	7.9	29.9252	.09	41.2892
2.0	7.576	5.0	18.94	8.0	30.304	1.10	41.668
2.1	7.9548	5.1	19.3188	8.1	30.6828	.11	42.0468
2.2	8.3336	5.2	19.6976	8.2	31.0616	.12	42.4256
2.3	8.7124	5.3	20.0764	8.3	31.4404	.13	42.8044
2.4	9.0912	5.4	20.4552	8.4	31.8192	.14	43.1832
2.5	9.47	5 5	20.834	8.5	32.198	.15	43.5620
2.6	9.8488	5.6	21.2128	8.6	52.5768	.16	43.9408
2.7	10.2276	5.7	21.4916	8.7	32.9556	.17	44.3196
2.8	10.6064	5.8	21.9704	8.8	33.3344	.18	44.6984
2.9	10.9852	5.9	22.3429	8.9	33.7132	.19	45.0772
3 0	11.364	6.0	22.728	9.0	34.092	1.20尺	45.456

鯨　尺——米（二）

1 分=0.3788 糎
1 寸=3.7880 糎
1 尺=0.3788 米

鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法
尺	糎	尺	糎	尺	糎	尺	糎
1.21	45.8348	1.51	57.1988	1.81	68.5628	2.11	79.9268
.22	46.2136	.52	57.5776	.82	68.9416	.12	80.3056
.23	46.5924	.53	57.9564	.83	69.3204	.13	80.6844
.24	46.9712	.54	58.3352	.84	69.6992	.14	81.0632
.25	47.3500	.55	59.7140	.85	70.0780	.15	81.4420
.26	47.7288	.56	59.0928	.86	70.4568	.16	81.8208
.27	48.1076	.57	59.4716	.87	70.8356	.17	82.1996
.28	48.4864	.58	59.8504	.88	71.2144	.18	82.5784
.29	48.8652	.59	60.2292	.89	71.5932	.19	82.9572
1.30	49.244	1.60	80.603	1.90	71.972	2.20	83.336
.31	49.6228	.61	60.9863	.91	72.3508	.21	83.7148
.32	50.0016	.62	61.3656	.92	72.7296	.22	84.0936
.33	50.3804	.63	61.7444	.93	73.1084	.23	84.4724
.34	50.7592	.64	62.1232	.94	73.4872	.24	84.8512
.35	51.1830	.65	62.5020	.95	73.8660	.25	85.2300
.36	51.5168	.66	62.8808	.96	74.2448	.26	85.0088
.37	51.8956	.67	63.2596	.97	74.6236	.27	85.9876
.38	52.2744	.68	63.6384	.98	75.0024	.28	86.3664
.39	52.6532	.69	64.0172	.99	75.3812	.29	86.7452
1.40	53.032	1.70	64.396	2.00	75.76	2.30	87.124
.41	53.4108	.71	64.7748	.01	76.1388	.31	87.5028
.42	53.7896	.72	65.1536	.02	76.5176	.32	87.8816
.43	54.1684	.73	65.5324	.03	76.8964	.33	88.2604
.44	54.5472	.74	65.9112	.04	77.2752	.34	88.6392
.45	54 9260	.75	66.2900	.05	77.6540	.35	89.0180
.46	55.3048	.76	66.6688	.06	78.0328	.36	89.3968
.47	55.9836	.77	67.0476	.07	78.4116	.37	89.7756
.48	56.0624	.78	67.4264	.08	78.7904	.38	90.1544
.49	56.4412	.79	67.8052	.09	79.1692	.39	90.5332
1.50	56.82	1.80	68.184	2.10	79.548	2.40	90.912

鯨　尺——米（三）

1 分=0.3788 糎
1 寸=3.7880 糎
1 尺=0.3788 米

鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法
尺	糎	尺	米	尺	米	尺	米
2.41	91.2908	2.71	1.036548	3.01	1.140188	3.31	1.253828
.42	91.6696	.72	1.040336	.02	1.143976	.32	1.257616
.43	92.0484	.73	1.044124	.03	1.147764	.33	1.261404
.44	92.4272	.74	1.047912	.04	1.151552	.34	1.265192
.45	92.8060	.75	1.051700	.05	1.155340	.35	1.268980
.46	93.1848	.76	1.055488	.06	1.159128	.36	1.272768
.47	93.5636	.77	1.059276	.07	1.162916	.37	1.276556
.48	93.9424	.78	1.053064	.08	1.166704	.38	1.280344
.49	94.3212	.79	1.056852	.09	1.170492	.39	1.284132
2.50	94.70	2.80	1.06064	3.10	1.17428	3.40	1.28792
.51	95.0788	.81	1.063428	.11	1.178068	.41	1.991708
.52	95.4576	.82	1.067216	.12	1.181856	.42	1.295496
.53	95.8364	.83	1.071004	.13	1.185644	.43	1.299284
.54	96.2152	.84	1.074792	.14	1.189432	.44	1.303072
.55	96.5940	.85	1.078580	.15	1.193220	.45	1.301860
.56	96.9728	.86	1.082368	.16	1.197008	.46	1.310648
.57	97.3516	.87	1.086156	.17	1.200796	.47	1.314436
.58	97.7304	.88	1.089944	.18	1.204584	.48	1.318224
.59	98.0192	.89	1.093732	.19	1.208372	.49	1 322012
2.60	98.488	2.90	1.09852	3.20	1.21216	3.50	1.3258
.61	98.8668	.91	1.101308	.21	1.215948	.51	1.329588
.62	99.2456	.92	1.105096	.22	1.219736	.52	1.333376
.63	99.6244	.93	1.108884	.23	1.223524	.53	1.337164
.64	1.000032米	.94	1.112672	.24	1.227312	.54	1.340952
.65	1.003820	.95	1.116460	.25	1.231100	.55	1.344740
.66	1.007608	.96	1.120248	.26	123.4888	.56	1.348528
.67	1.011396	.97	1.124036	.27	1.238676	.57	1.352316
.68	1.015184	.98	1.127824	.28	1.242464	.58	1.356104
.69	1.018972	.99	1,131612	.29	1.246252	.59	1.359892
2.70	1.02276	3.00	1.1364	3.30	1.25001	3.60	1.36368

鯨　尺——米（四）

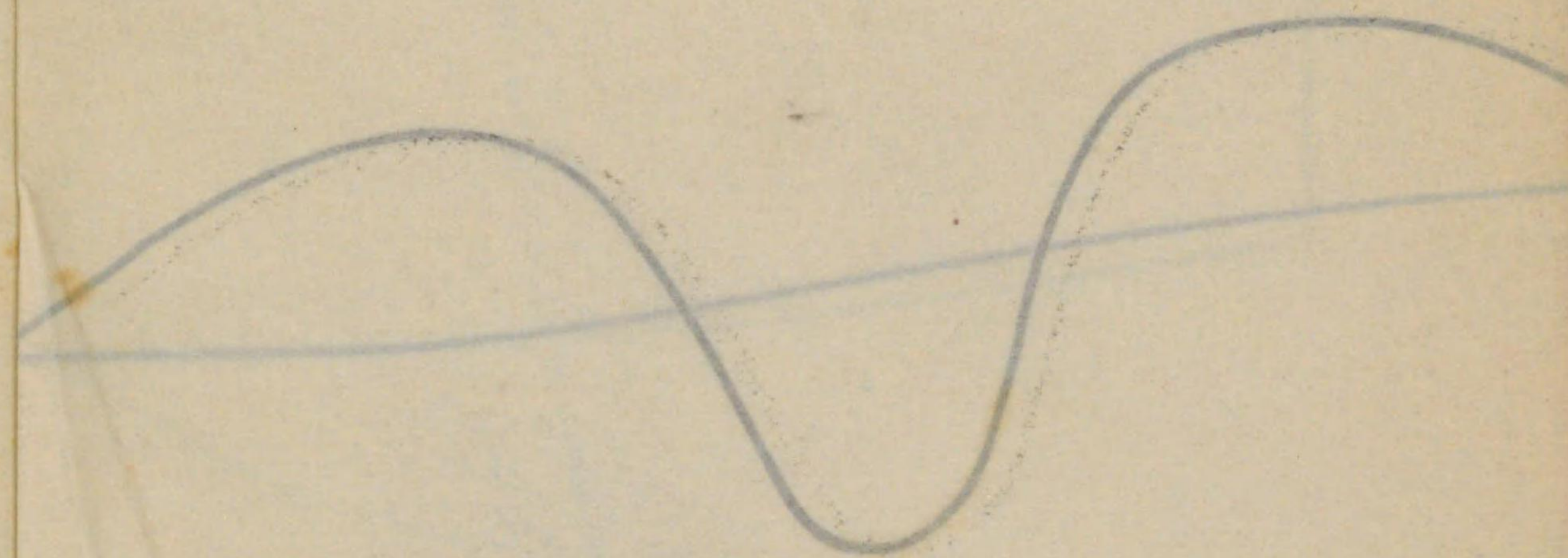
1 分=0.7388 糎
1 寸=3.7880 糎
1 尺=0.3788 米

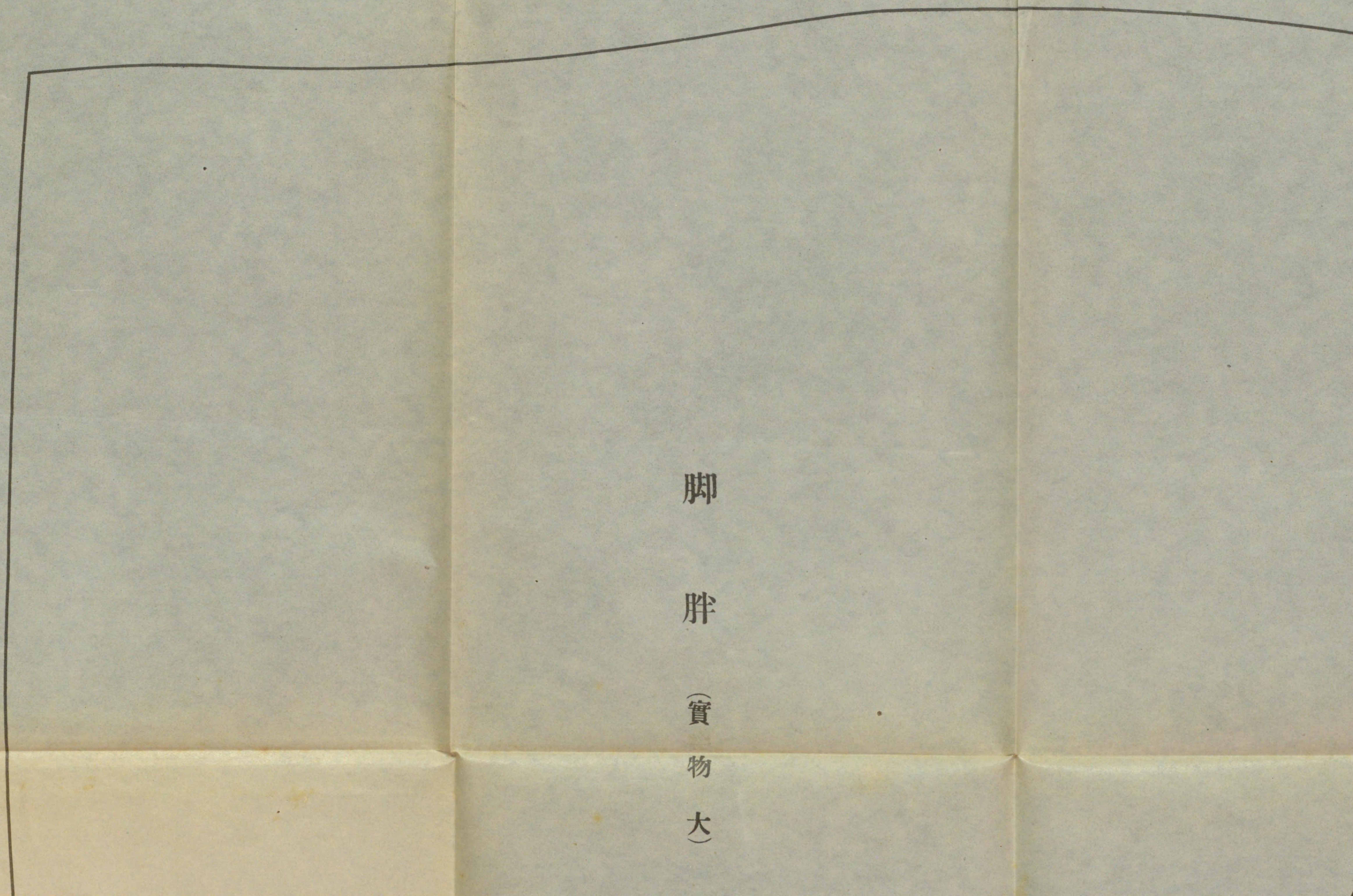
鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法
尺	米	尺	米	尺	米	尺	米
3.61	1.367468	3.91	1.481108	4.21	1.594748	4.51	1.708388
.62	1.371256	.92	1.484896	.22	1.598536	.52	1.712176
.63	1.375044	.93	1.488684	.23	1.602324	.53	1.715964
.64	1.378832	.94	1.492472	.24	1.606012	.54	1.719752
.65	1.382620	.95	1.496260	.25	1.609900	.55	1.723540
.66	1.386408	.96	1.500048	.26	1.613688	.56	1.727328
.67	1.390196	.97	1.503836	.27	1.617476	.57	1.731116
.68	1.393984	.98	1.507624	.28	1.621264	.58	1.734904
.69	1.397772	.99	1.511412	.29	1.625052	.59	1.738692
3.70	1.40156	4.00	1.5152	4.30	1.628840	4.60	1.74248
.71	1.405348	.01	1.518988	.31	1.632628	.61	1.746268
.72	1.409136	.02	1.522776	.32	1.636416	.62	1.750056
.73	1.412924	.03	1.526564	.33	1.640204	.63	1.753844
.74	1.416712	.04	1.530352	.34	1.643992	.64	1.757632
.75	1.420500	.05	1.534140	.35	1.647780	.65	1.761420
.76	1.424288	.06	1.537928	.36	1.651568	.66	1.765208
.77	1.428076	.07	1 541716	.37	1.655356	.67	1.768996
.78	1.431864	,08	1.545504	.38	1.659144	.68	1.772784
.79	1.435652	.09	1.549292	.39	1.662932	.69	1.776572
3.80	1.43944	4.10	1.553080	4.40	1.666720	4.70	1.78036
.81	1.443228	.11	1.556868	.41	1.670508	.71	1.78415
.82	1.447016	.12	1.560656	.42	1.674296	.72	1.78794
.83	1.450804	.13	1.564444	.43	1.678084	.73	1.79173
.84	1.454592	.14	1.568232	.44	1 681872	.74	1.79552
.85	1.458380	.15	1.572020	.45	1.685660	.75	1.79931
.86	1.462168	.16	1.575808	.46	1.689448	.76	1.80310
.87	1.465956	.17	1.579596	.47	1.693236	.77	1.80689
.88	1.469744	.18	1.583384	.48	1.697024	.78	1.81068
.89	1.473532	.19	1.587172	.49	1.700812	.79	1.81447
3.90	1.47732	4.20	1.590960	4.50	1.704600	4.90	1.81824

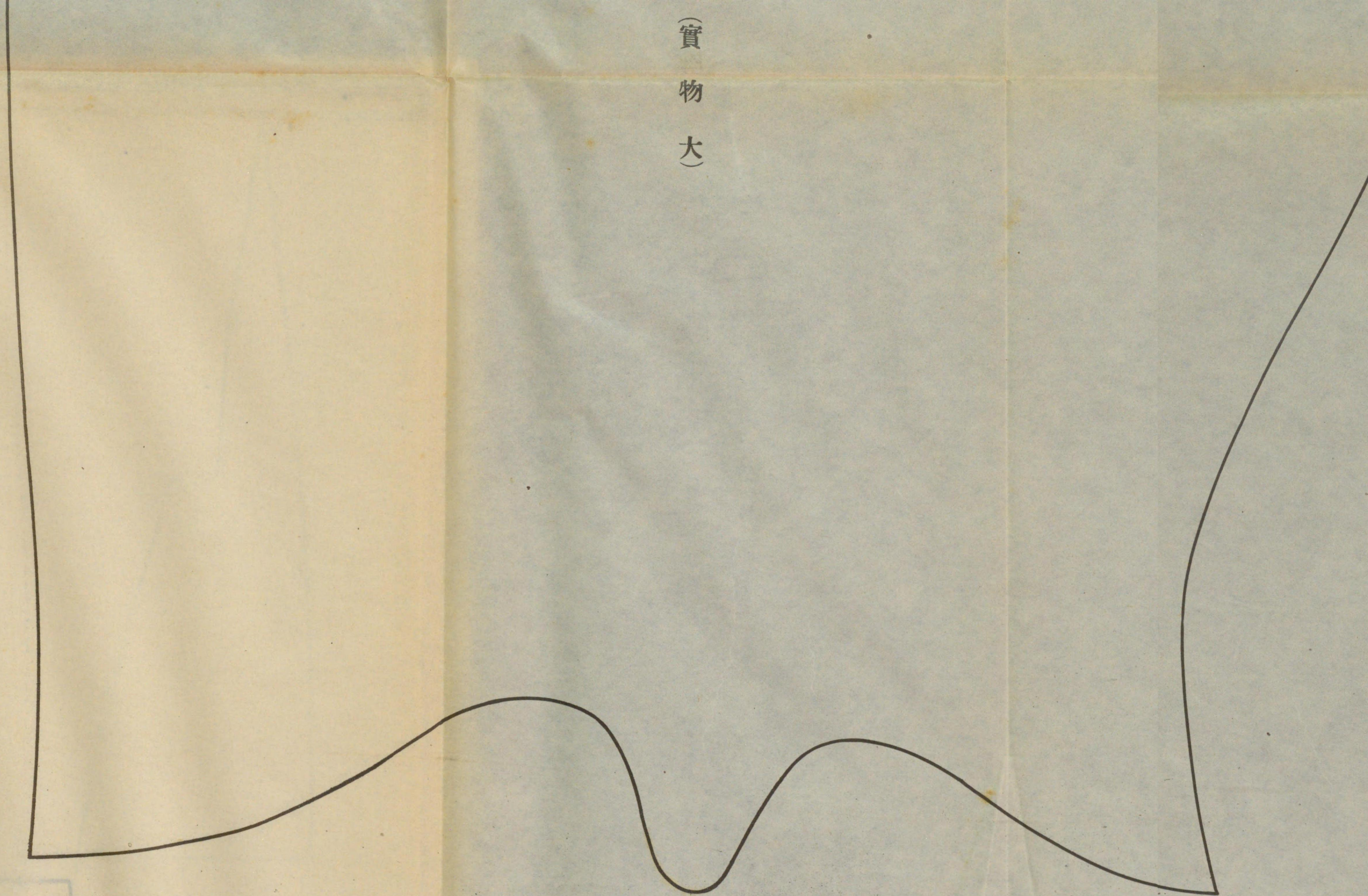
鯨　尺——鯨（五）

1 分=0.3788 糎
1 寸=3.7880 糎
1 尺=0.3788 米

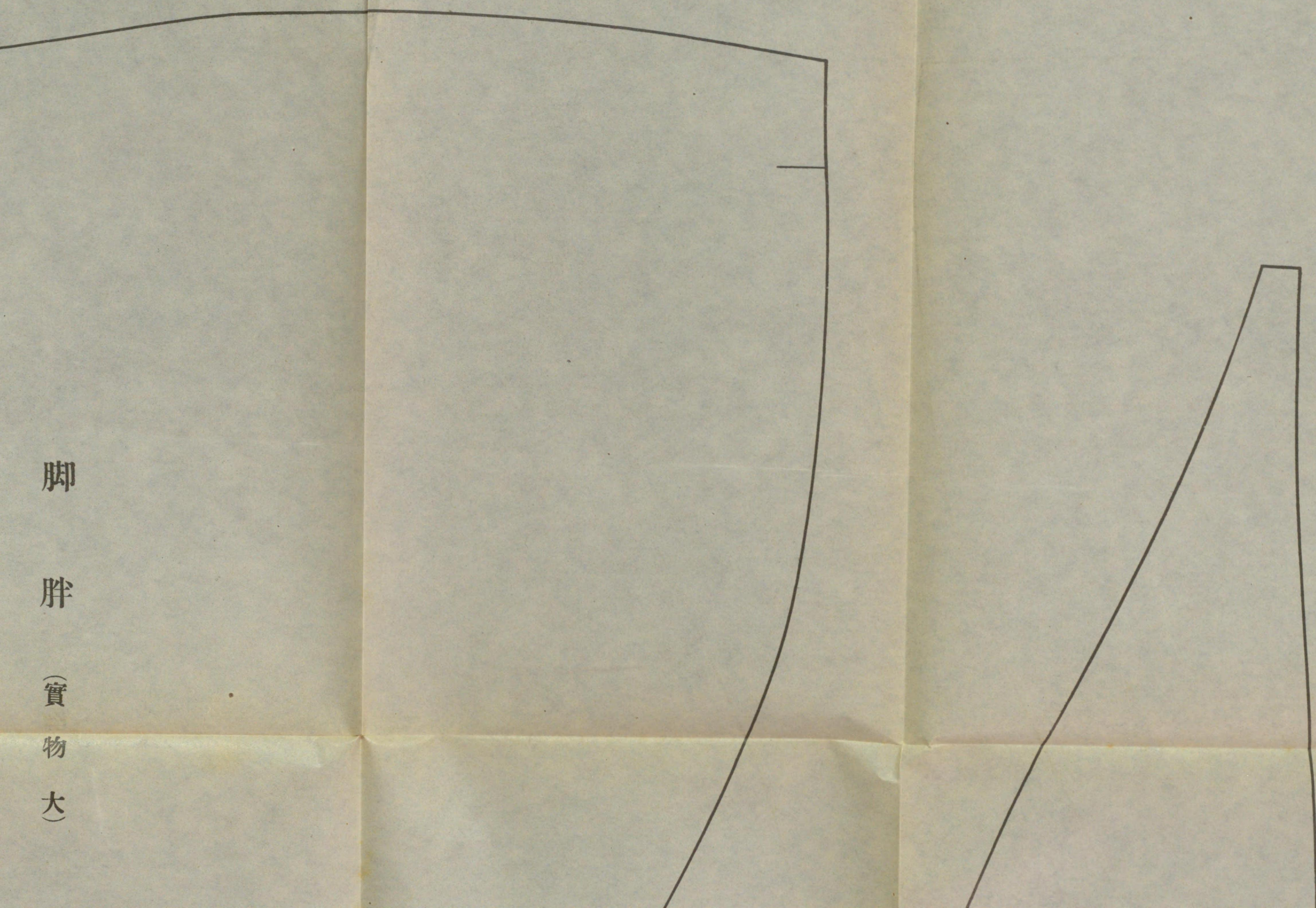
鯨尺	メートル法	鯨尺	メートル法
尺	米	尺	米
4.81	1.82203	10.5	3.9774
.82	1.82582	11.0	4.1668
.83	1.82960	11·5	4.3562
.84	1.83339	12 0	4.5456
.85	1.83718	12.5	4.7350
.86	1.84097	13.0	4.9244
.87	1.84476	13.5	5.1138
.88	1.84854	14.0	5.3032
.89	1.85233	14.5	5.4926
4.90	1.85612	15.0	5.6820
.91	1.89991	15.5	5.8714
.92	1.8634	16.0	6.0608
.93	1.86748	16.5	6.2502
.94	1.87127	17.0	6 4396
.95	1.87506	17.5	6·6290
.96	1.87885	18.0	6.8184
.97	1.88264	18.5	7.0078
.98	1.88642	19.0	7.1972
.99	1.89021	19 5	7.3866
5.00	1.8940	20.0	7.5760
5.50	2.0834	21.0	7.9548
6.00	2.2728	22 0	8.3336
6.50	2.4622	23.0	8.7124
7.00	2.6516	24 0	9.0912
7.50	2.841	25.0	9.4700
8.00	3.0304	26.0	9.8488
8.50	3.2198	27.0	10.2276
9.00	3.4092	28.0	10.6064
9.50	3.5936	29.0	10.9852
10.00	3.788	30.0	11.3640




脚胖（實物大）

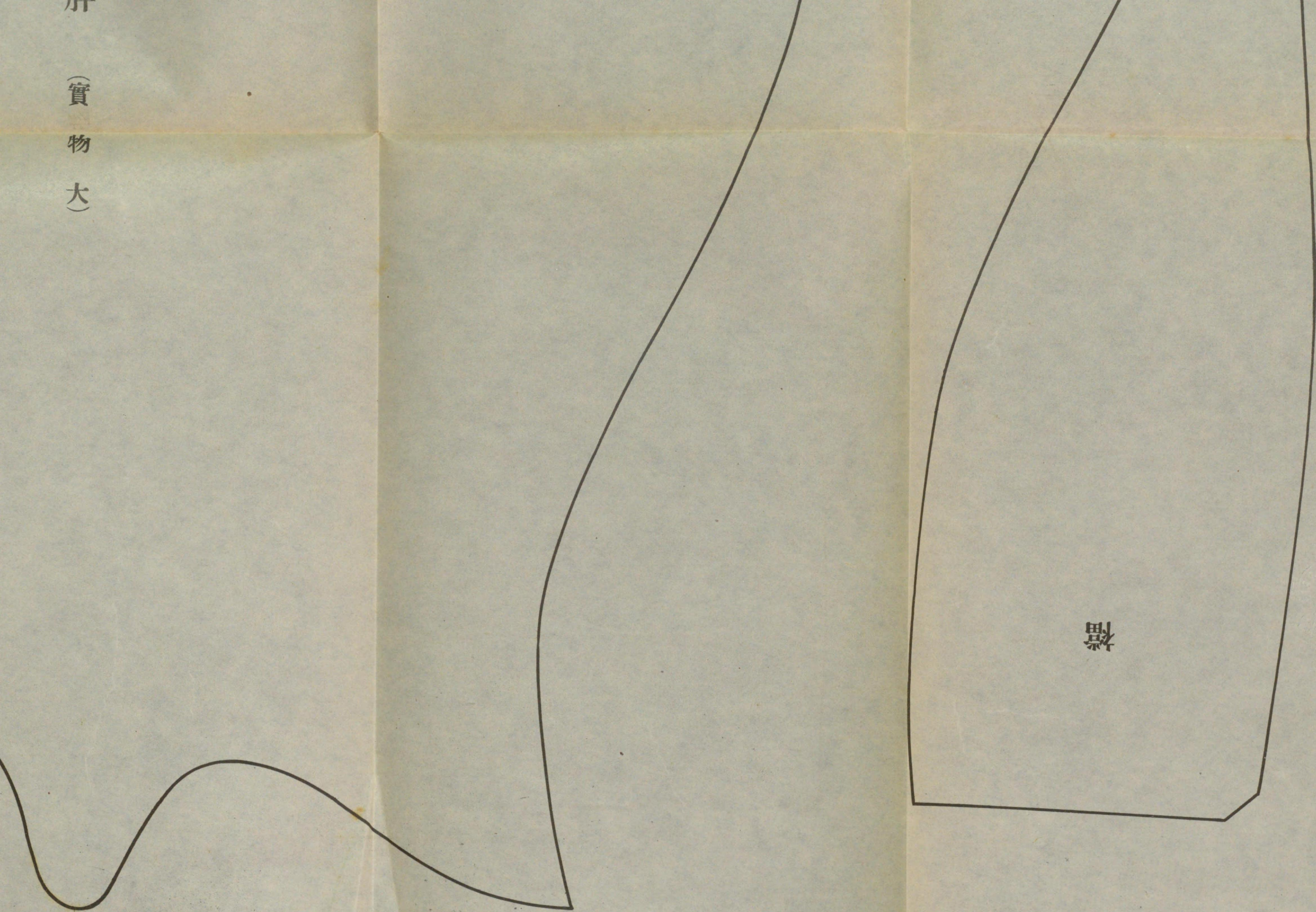


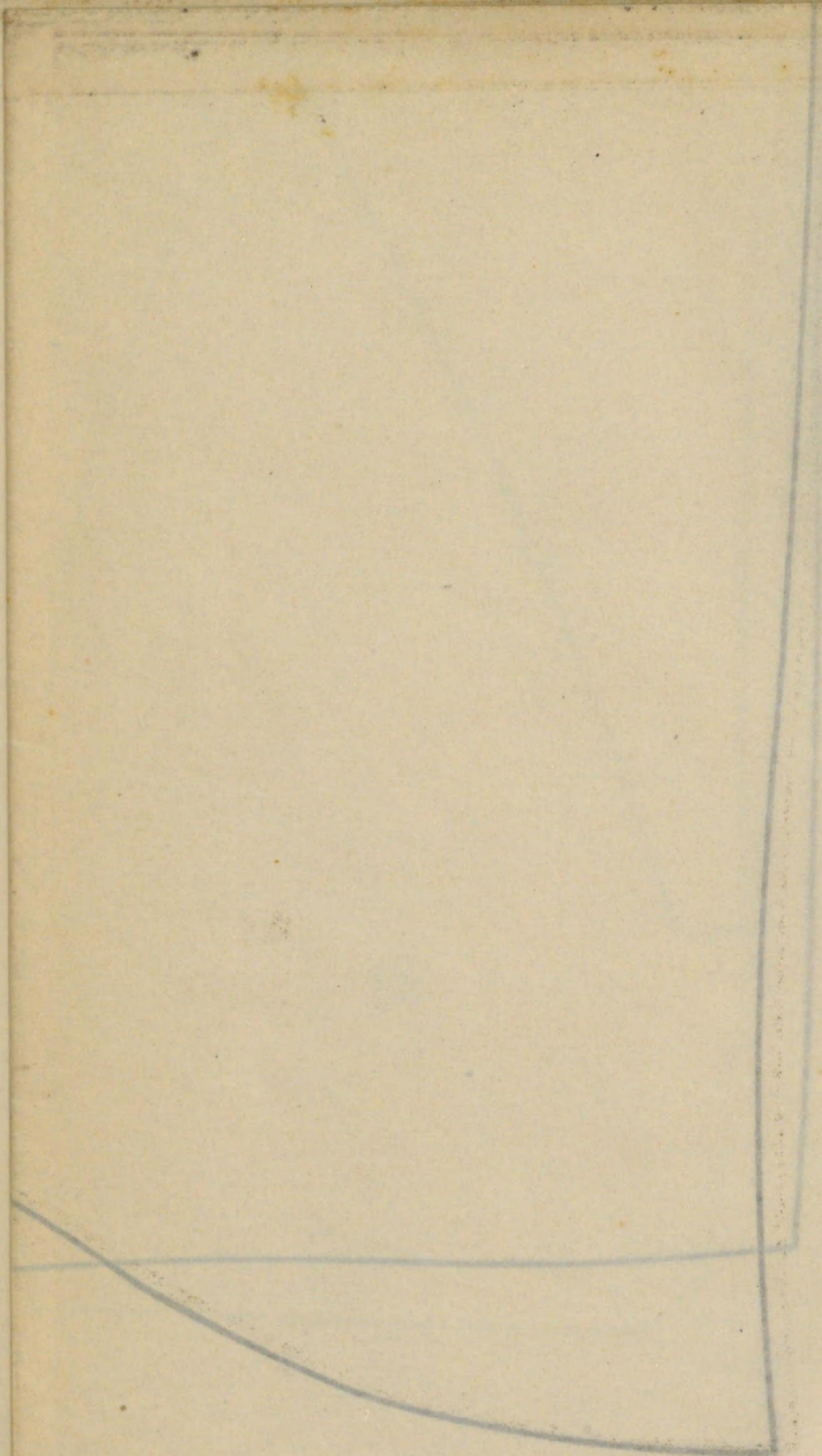
(實物大)



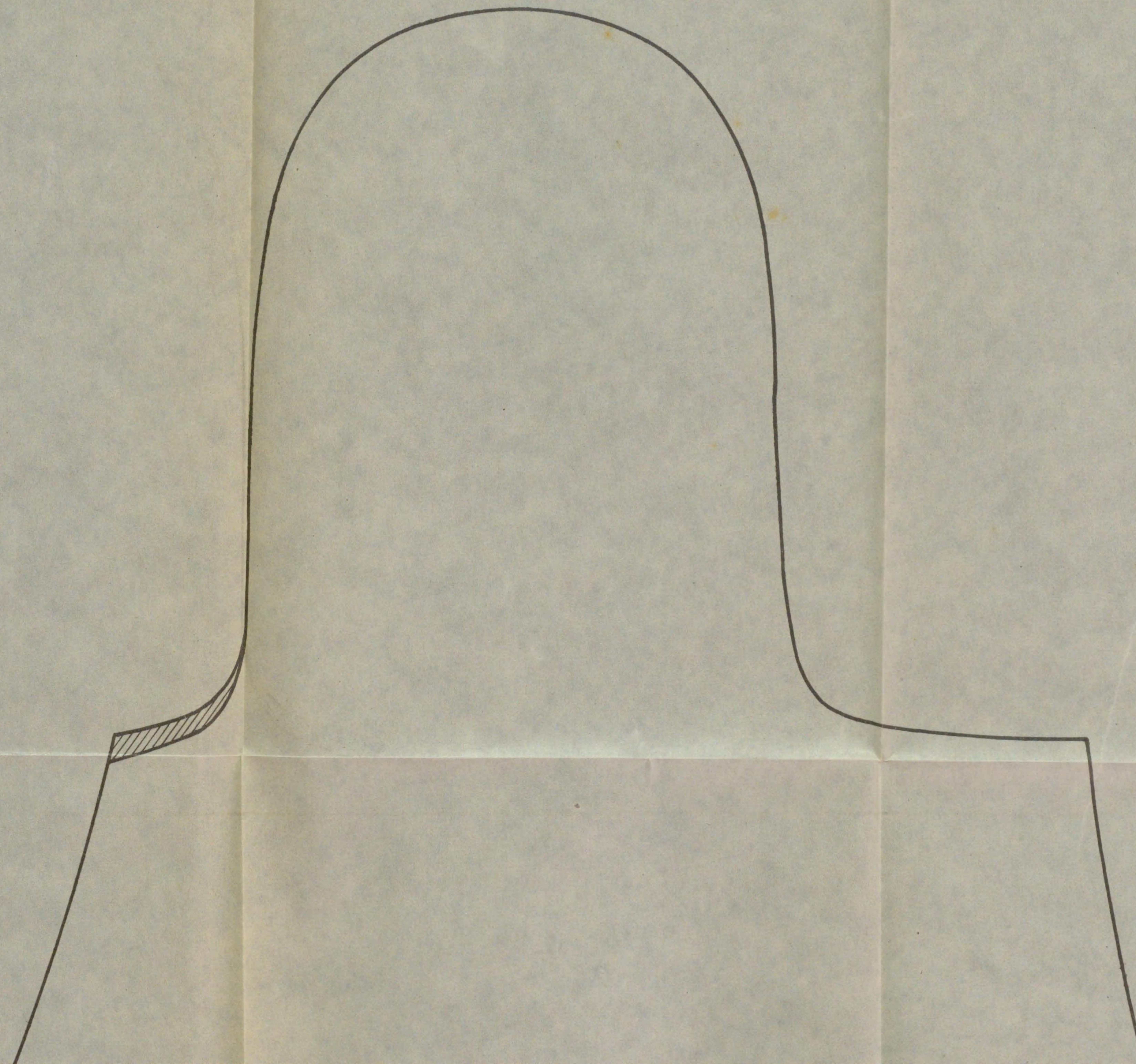
脚胖（實物大）

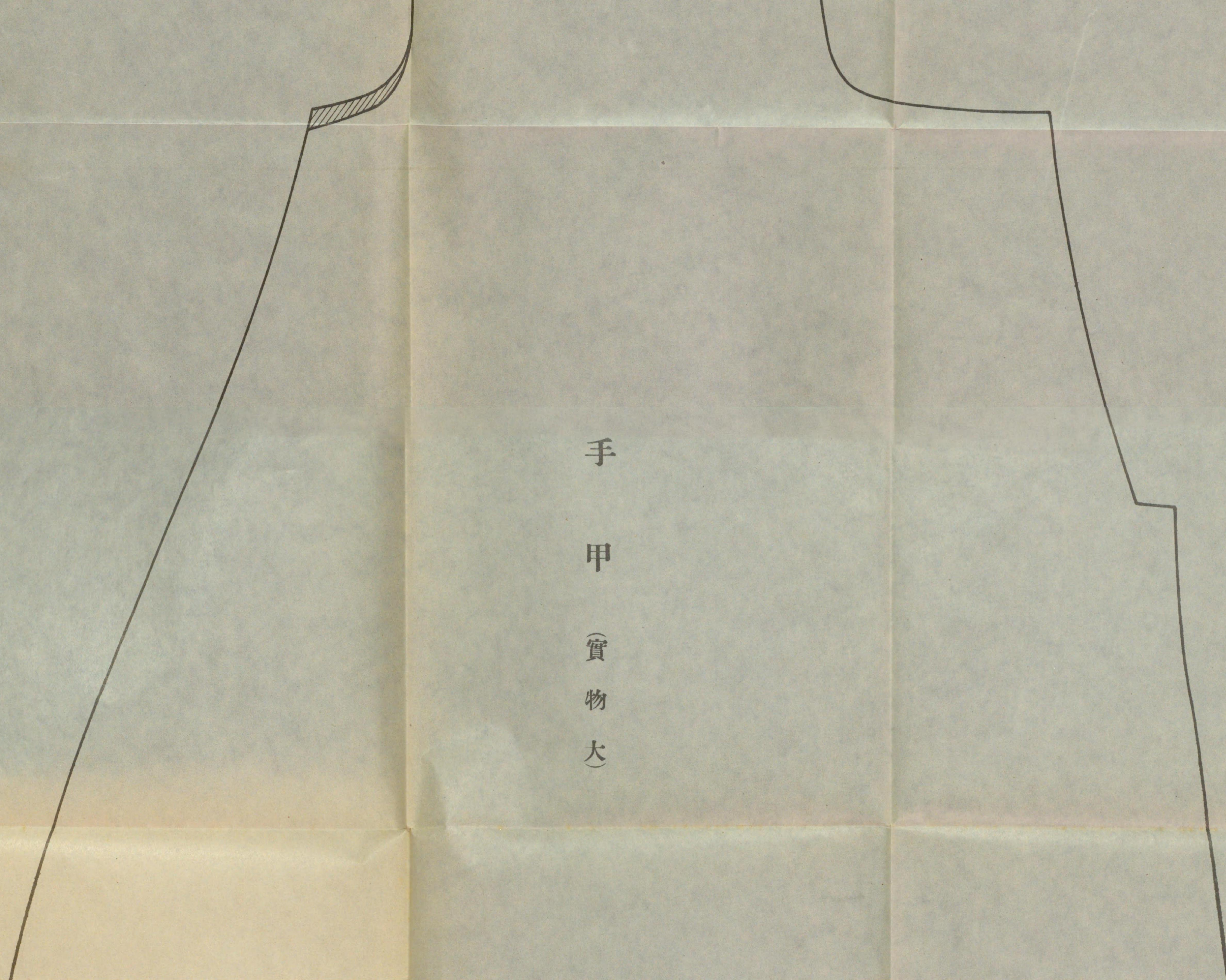
（實物大）





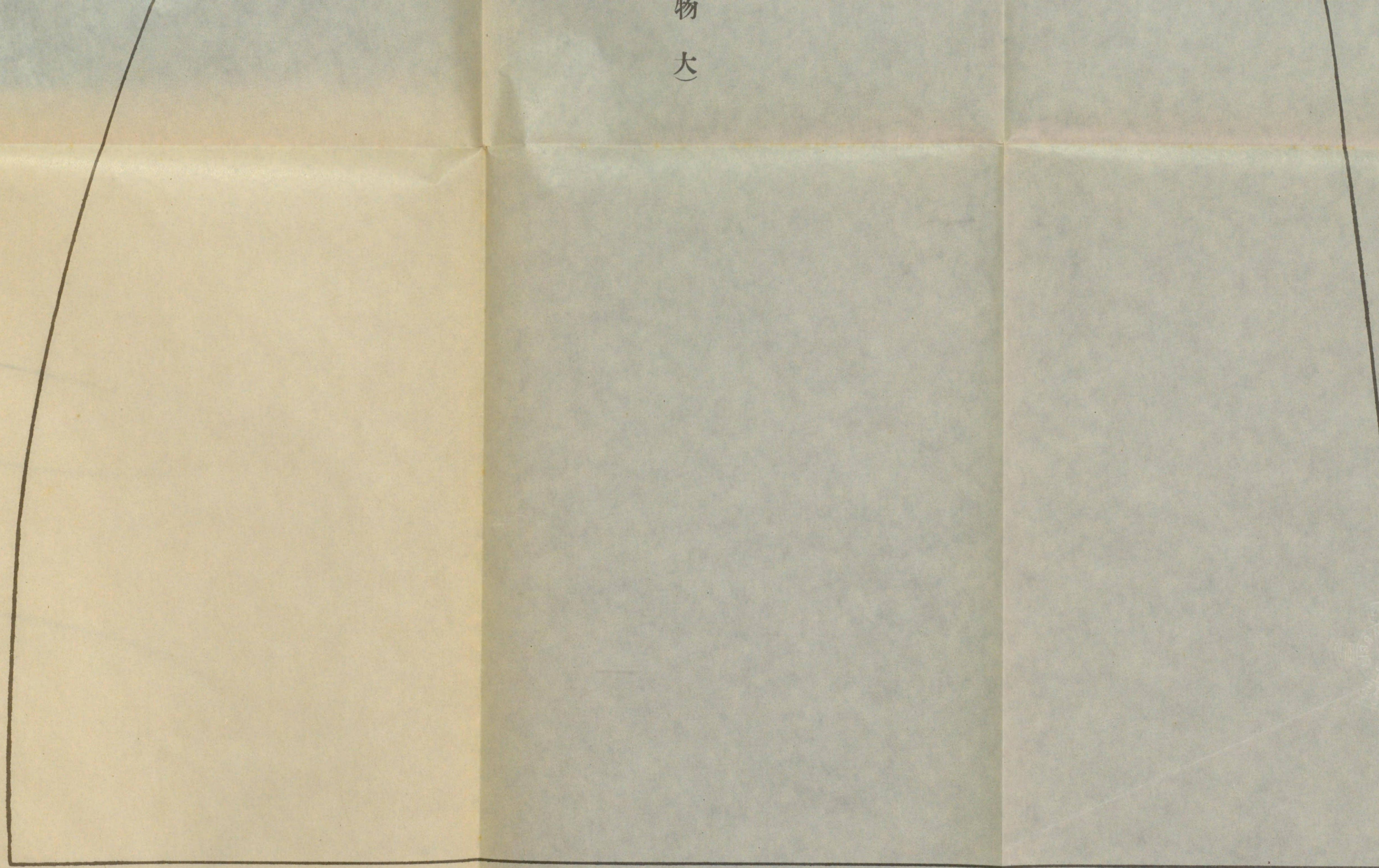


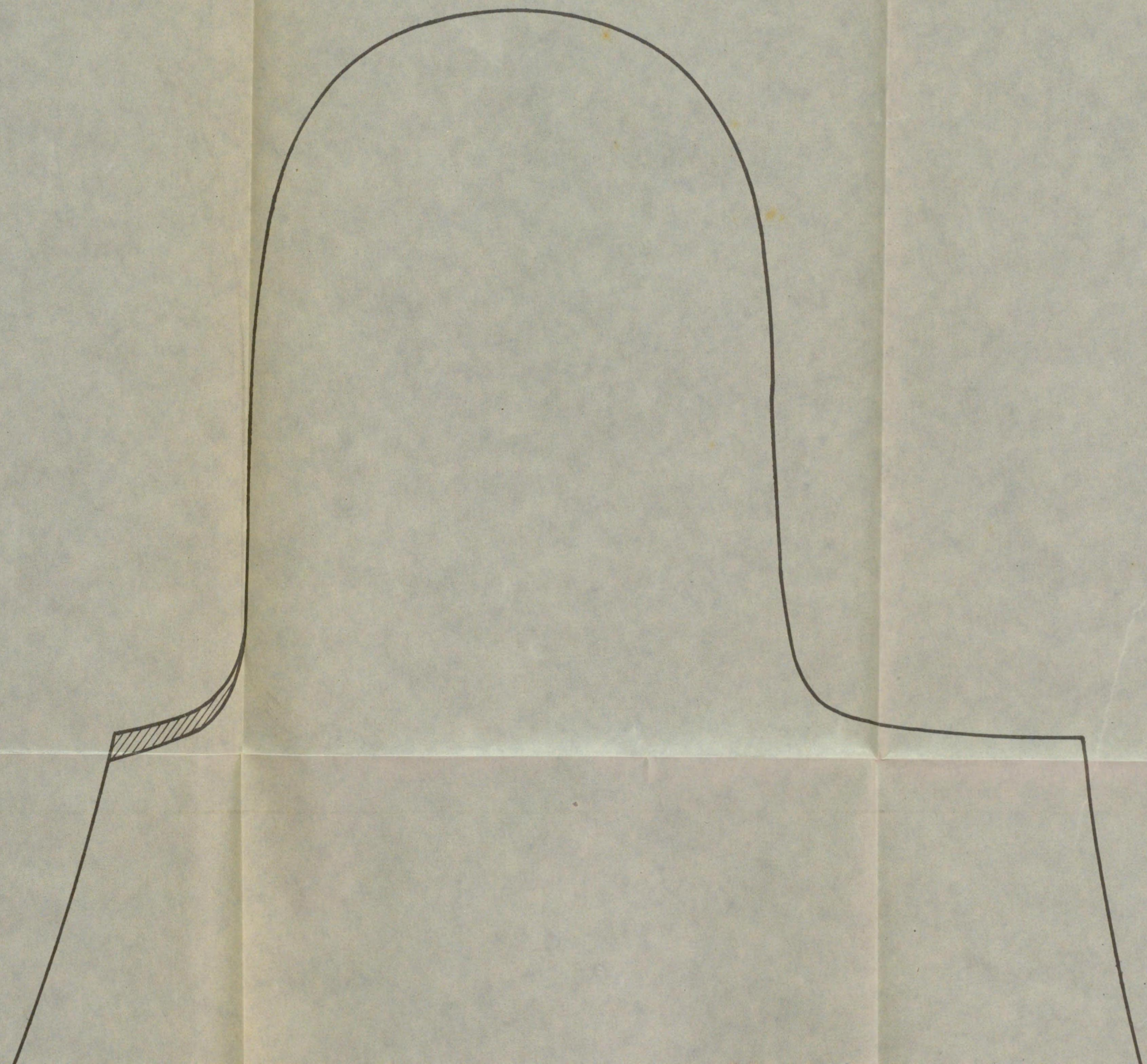


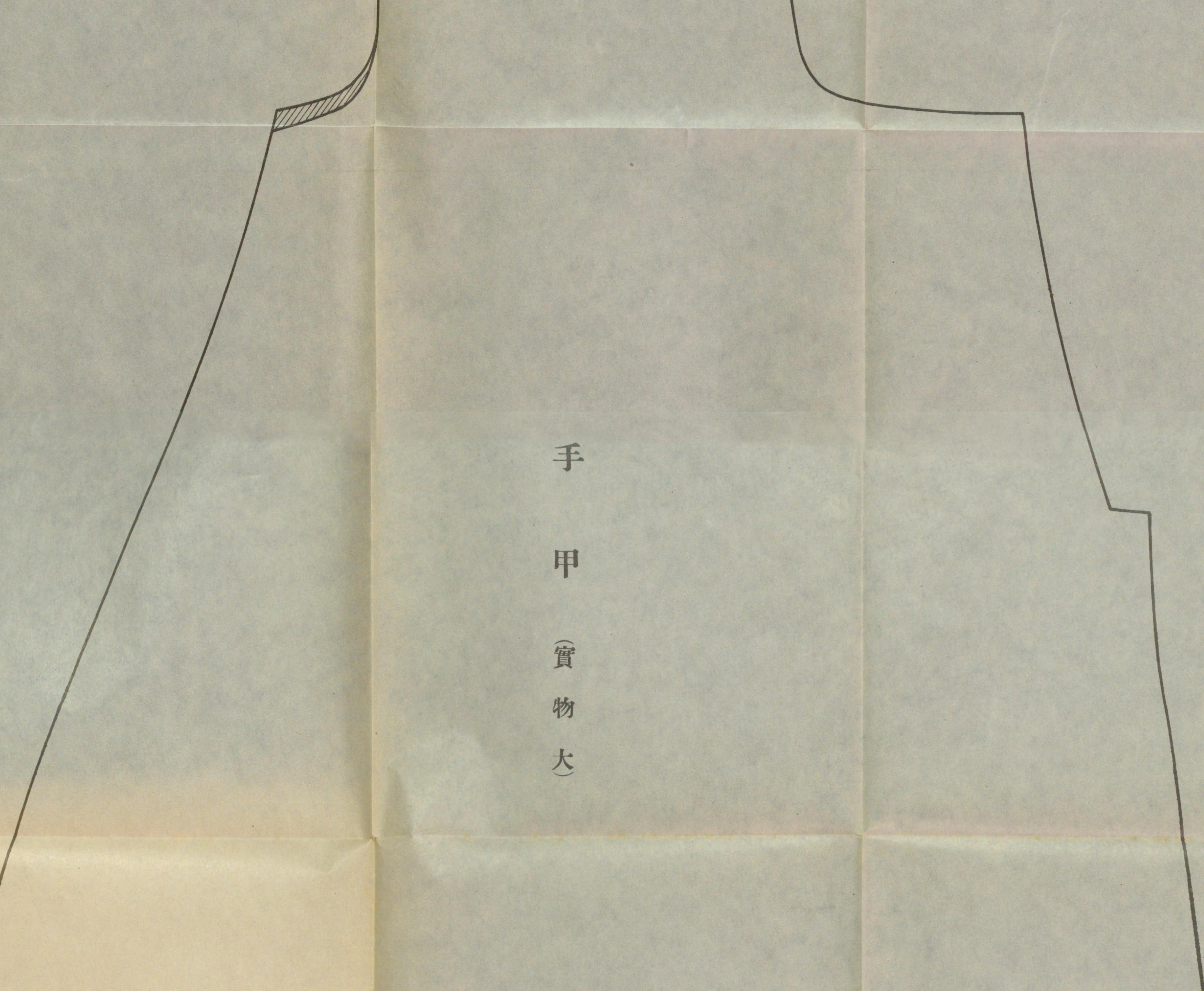


手甲（實物大）

物大)

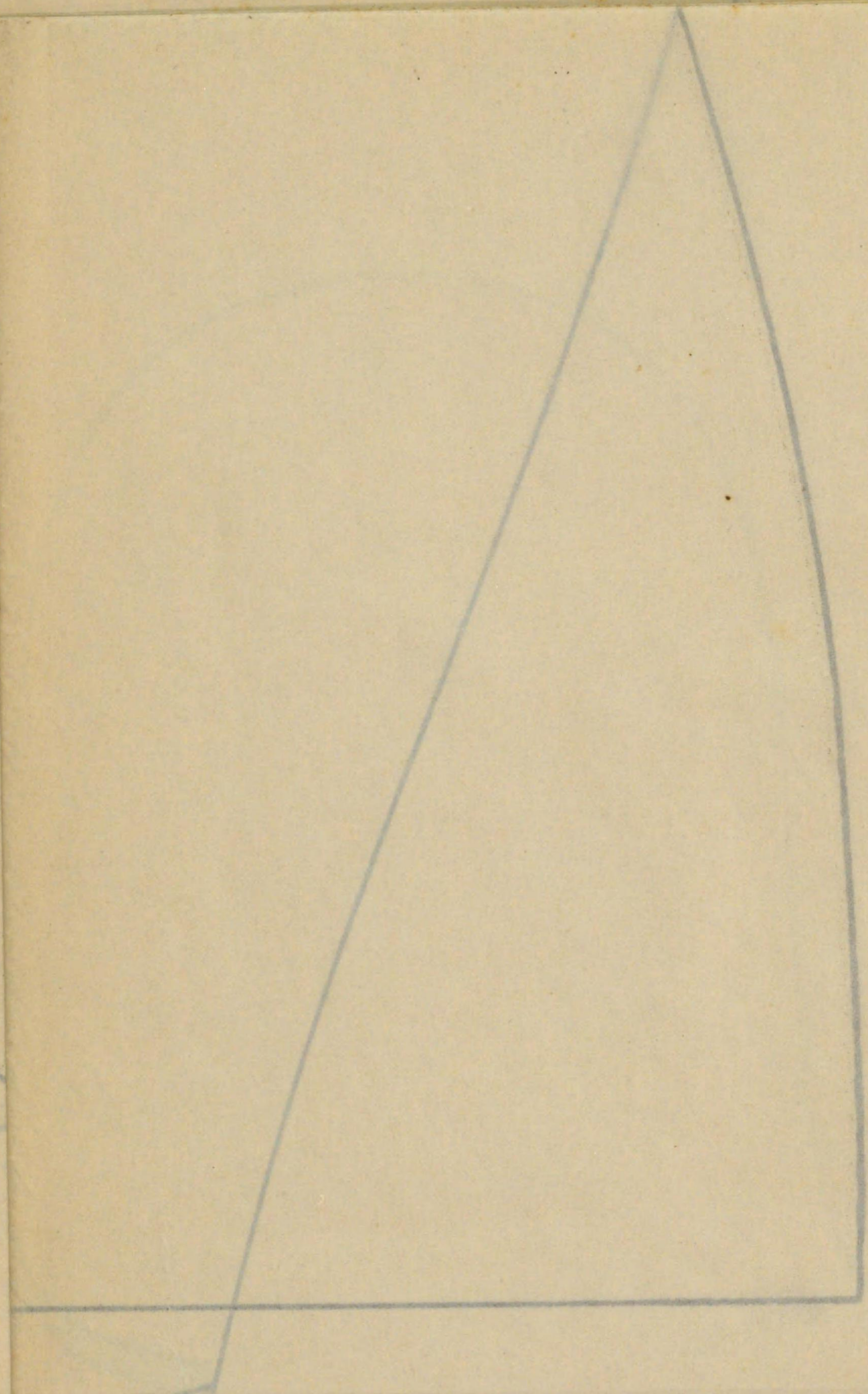


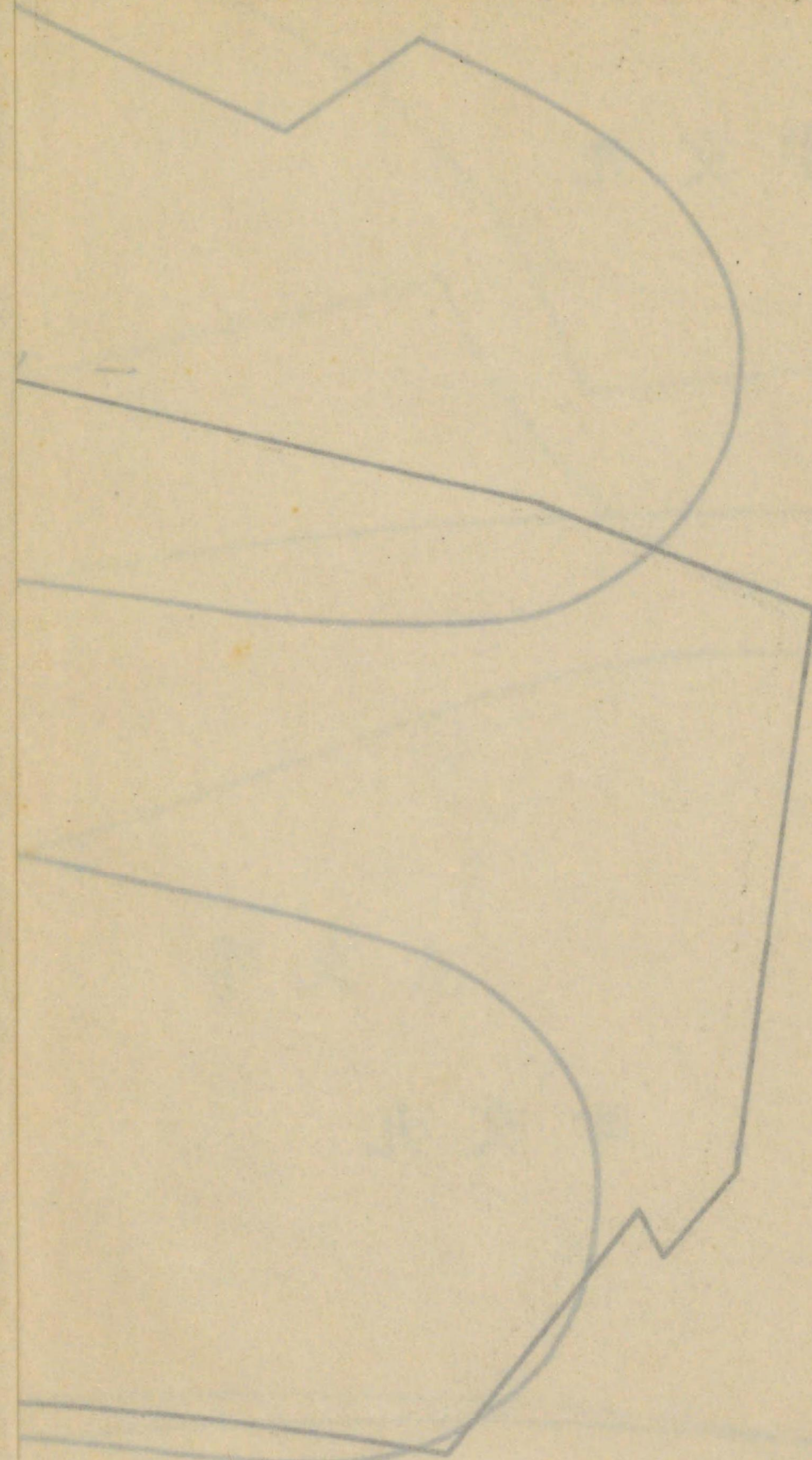


手甲(實物大)

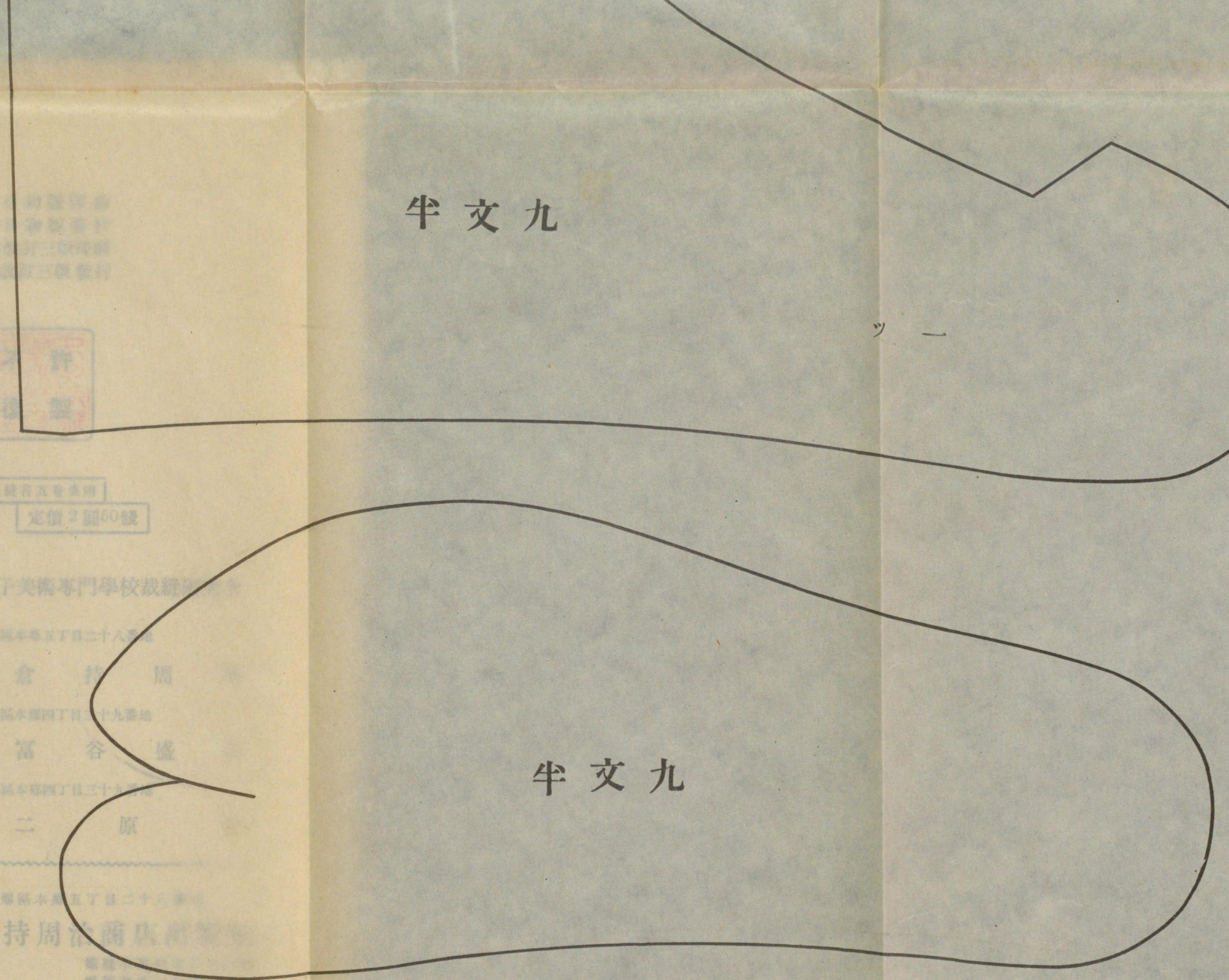
物


大)

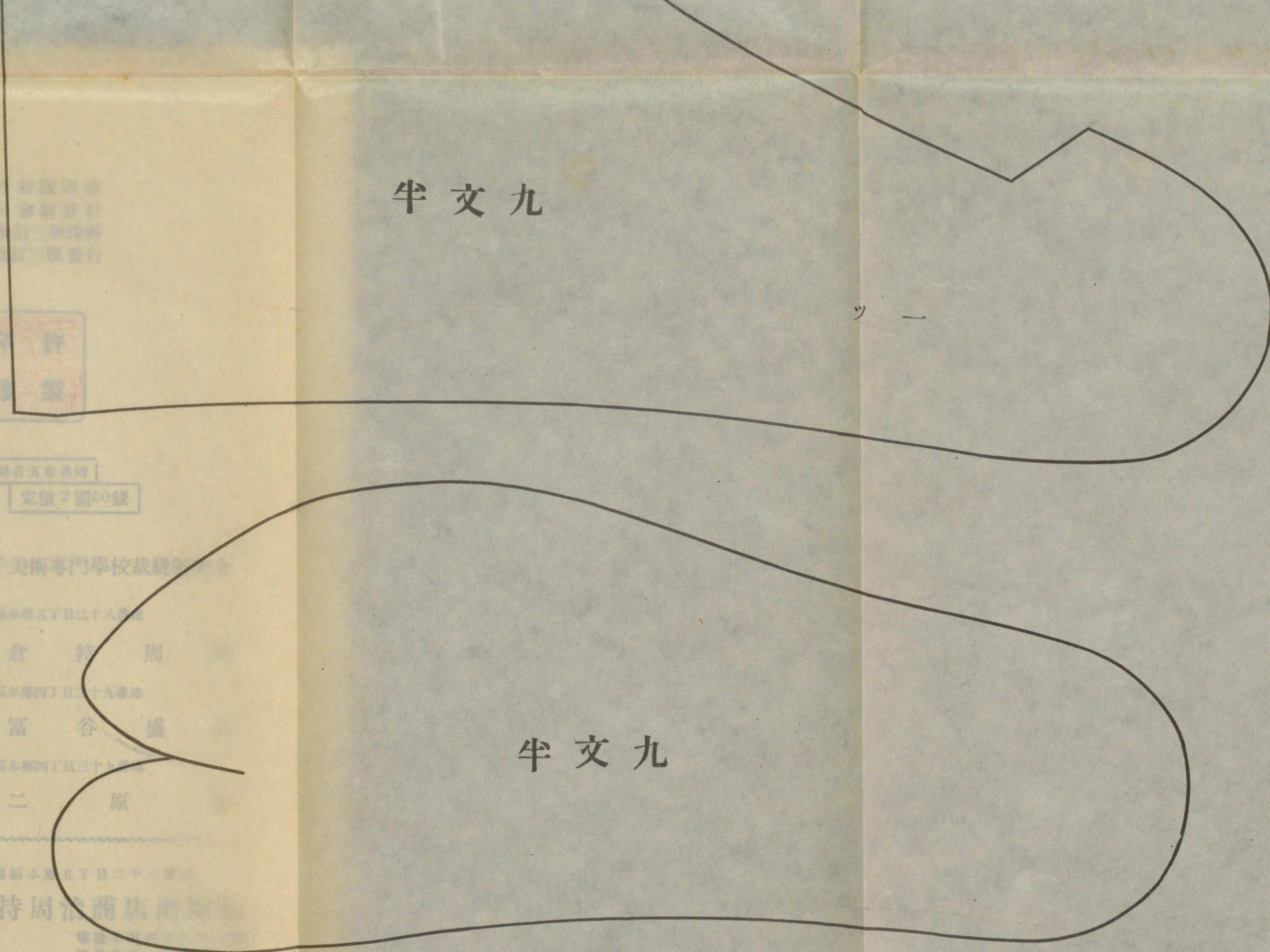





九文半
四ツ


九文半
ツー
九文半


九文半
四ツ



許不
製複

現代和服裁縫書五卷共同

定價2圓60錢

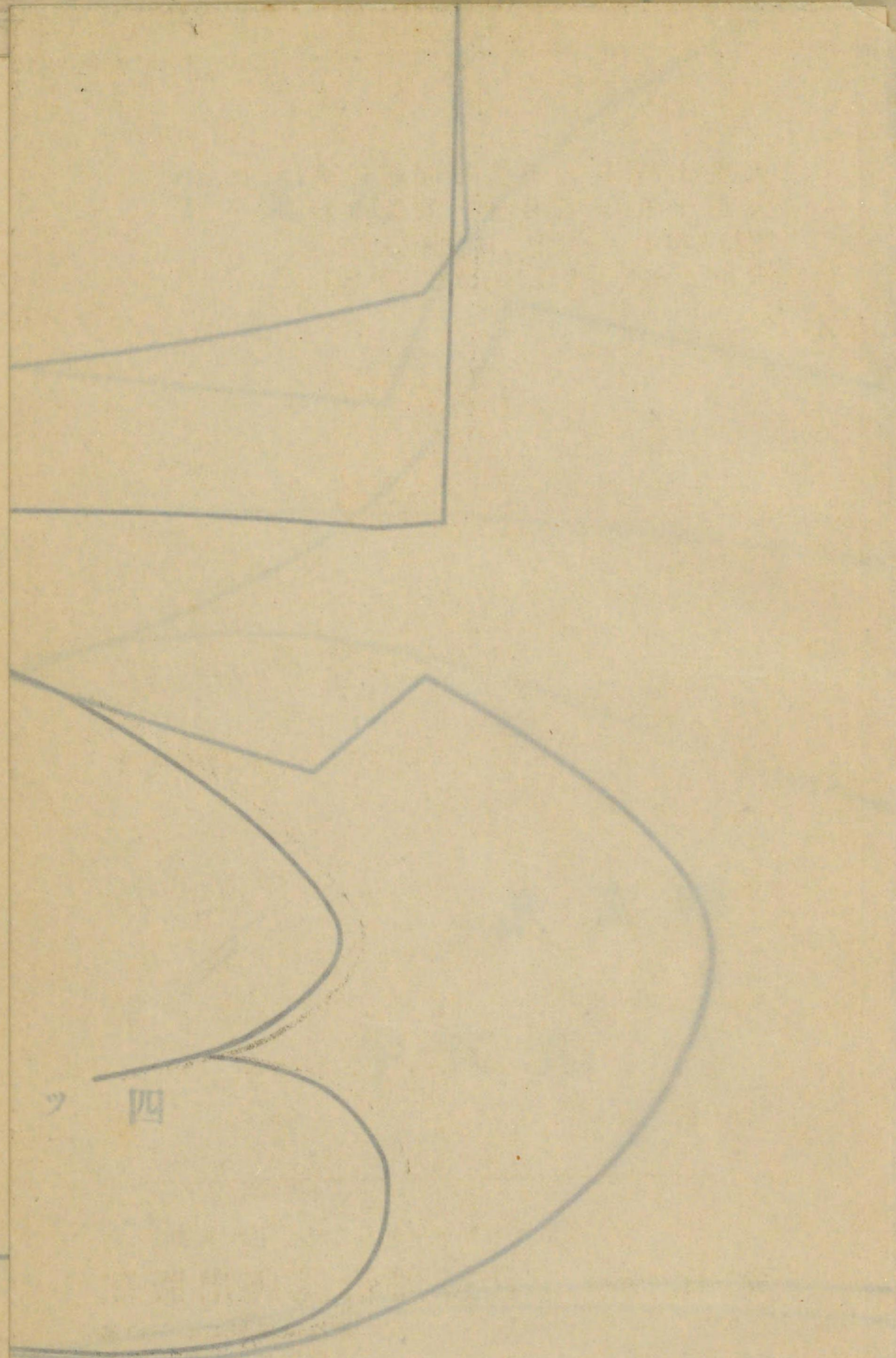
者　女子美術專門學校裁縫研究會

東京市本郷區本郷五丁目二十八番地
者　倉持周

東京市本郷區本郷四丁目三十九番地
者　富谷盛

東京市本郷區本郷四丁目三十九番地
所　二原

東京市本郷區本郷五丁目二十八番地
所　倉持周治商店出版部



大正十五年九月五日初版印刷
大正十五年九月十日初版發行
昭和九年十一月二十二日改訂三版印刷
昭和九年十一月廿六日改訂三版發行

現代和服裁縫書五卷奥附
定價2圓50錢

著　者　女子美術專門學校裁縫研究會

東京市本郷區本郷五丁目二十八番地
發行者　倉持周治

東京市本郷區本郷四丁目三十九番地
印刷者　冨谷盛吉

東京市本郷區本郷四丁目三十九番地
印刷所　二原堂

東京市本郷區本郷五丁目二十八番地
發行所　倉持周治商店出版部
電話小石川二二一〇番
振替東京一〇四七一番